令 和 ８ 年 度

授　業　概　要

（シラバス）

家政学部　家政学科

東 北 生 活 文 化 大 学

シラバス使用の手引き

シラバスは本年度開講されている科目の授業内容や年間授業計画などを，担当者ごとに説明しているものです。履修登録する科目を決める際や，受講に際しての準備や確認のために役立ててください。

【記 載 例】

① 科目名	⑦【科目ナンバリング】
② 単位（総授業時間＋自習時間）：	
③ 対象学科：	
④ 授業形態：　　学期：　　必・選：	
⑤ 履修科目：	
⑥ 担当者：	

◆ 授業の概要
◆ 授業の到達目票
◆ 学位授与の方針との関連
◆ 授業計画の内容
◆ 自習（事前・事後学習の内容）
◆ 履修上の注意
◆ 成績評価方法・基準
◆ 教科書
◆ 参考書
◆ 備考

【科目情報の見かた】

① **科目名**：授業科目名を記載しています。
② **単位（総授業時間＋自習時間）**：単位数，授業で学ぶ時間数と授業外で自習が求められる時間数を記載しています。
③ **対象学科**：対象の学科・専攻，学年を記載しています。
④ **授業形態／学期／必・選**：授業科目の形態を演習，講義，実験，実習，実技，集中で区分／授業科目の開講期間を前期，後期，通年で区分／必修科目，選択科目で区分し記載しています。
⑤ **履修科目**：大学共通教養科目，基幹科目，学科専攻科目，教職に関する科目，博物館に関する科目で区分し記載しています。
⑥ **担当者**：科目担当者の氏名を記載しています。
⑦ **科目ナンバリング**：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階，順序等をあらわします。

大分類	中分類	小分類	科目番号	レベル	学年
A	1	a	01	1	1

大分類：学科・専攻の区分
A・・服飾文化専攻
B・・健康栄養学専攻
D・・美術表現学科
K・・大学共通

中分類：科目の区分
１・・大学共通教養科目
２・・基幹科目
３・・専攻科目
４・・教職に関する科目
５・・博物館に関する科目

小分類：科目群

項　　目	内　　容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと，授業の到達目標，授業のねらいは何で，受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 **※学位授与の方針との関連：次のページを参照ください。**
授業計画	到達目標を達成するために，具体的に何を学ぶのか，受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように，毎回の授業内容を記載しています。
自習（事前・事後学習）	事前：授業時間外の予習について記載しています。 事後：授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能，履修した方がよい関係科目，或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか，加味される要素を具体的に記載しています。 **ただし，総授業回数の１／３を超えて欠席した場合は，その時点で不合格となりますので注意してください。**
教科書および参考書	授業で使用するため，受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。 参考書籍がある場合，記載しています。

学習成果（ディプロマポリシーに基づく観点目標）

家政学部家政学科　服飾文化専攻

〔知識・理解〕

１．基礎的な知識・学習能力を身につけること。

２．社会人として幅広い教養と専門的な知識を身につけること。

３．家政学の体系を理解するとともに，被服分野における高度な専門知識を身につけ，その知識体系の意義と社会生活を関連付けて服飾文化を理解できること。

〔汎用的技能〕

４．社会に貢献できる専門的技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること。

５．主に服飾産業における様々な分野で活躍するために必要となる技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること。

〔態度・主体性〕

６．社会で自律的に活動するために必要な自己教育力・倫理観・責任感・生涯学習力を身につけること。

７．演習・実習・実験等の実践的授業を通して，主体性をもって社会で自律的に活動するために必要な倫理観・責任感・生涯学習力，チームワーク力を身につけること。

〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

８．これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し，社会で自律的に活動できる能力を身につけること。

９．これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用し，自らが立てた新たな課題にそれらを適用し，その課題を解決する能力を身につけること。

家政学部家政学科　健康栄養学専攻

〔知識・理解〕

１．基礎的な知識・学習能力を身につけること。

２．社会人としての幅広い教養と専門的な知識を身につけること。

３．家政学の体系を理解するとともに，健康・栄養・食物分野における高度な専門知識を身につけ，その知識体系の意義と社会生活とを関連付けて理解できること。

〔汎用的技能〕

４．社会に貢献できる専門的技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること。

５．医療・福祉領域における管理栄養士又は食品業界における健康・栄養の専門家として

活躍するために必要な技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること。

〔態度・主体性〕

6．社会で自律的に活動するために必要な自己管理能力・倫理観・責任感・生涯学習能力を身につけること。

7．演習・実習・実験等の実践的授業を通して，主体性をもって社会で自律的に活動するために必要な倫理観・責任感・生涯学習力，チームワーク力を身につけること。

〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

8．これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し，社会で自律的に活動できる能力を身につけること。

9．これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用し，自らが立てた新たな課題にそれらを適用し，その課題を解決する能力を身につけること。

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈大学　共通教養科目〉　　16単位

科目名	単位数	担当者
歴史Ⅰ	2	栗原　伸一郎
歴史Ⅱ	2	石川　光年
美術	2	齋藤　守彦
日本語基礎	2	佐藤　恵美
国語表現法	2	
スポーツ	2	酒井　正彦
キャリア開発Ⅰ	1	水谷　浩
キャリア開発Ⅱ	1	
キャリア開発Ⅳ	1	
キャリア開発Ⅲ	1	内海　陽子

〈大学　服飾文化専攻科目〉　　52単位

科目名	単位数	担当者
地域文化論	2	石川　光年
スタートアップソーイング	1	菊地　紗代
アパレル製図法Ⅰ（平面）	1	
アパレル製図法Ⅱ（応用）	1	
被服造形実習Ⅰ	1	
被服造形実習Ⅱ	1	
被服造形実習Ⅲ	2	
アパレル生産実習	1	
ファッションデザイン演習	2	菊地　紗代・平塚　聖子
服飾生活特別演習	2	
保育学	2	高橋　恵美
基礎調理学実習Ⅰ	1	深澤　律子
基礎調理学実習Ⅱ	1	
消費生活論	1	水谷　浩
消費者調査法	1	
ファッションビジネス実務実習	1	
マーケティング論	2	
店舗運営論	2	
情報処理Ⅰ	2	
情報処理Ⅱ	1	
服飾ビジネス特別演習	2	
色彩学	2	内海　陽子
ファッションビジネス論	2	
ファッション販売論	2	
コーディネート論	2	
アパレルCADⅠ	1	佐藤　理恵
アパレルCADⅡ	1	
住居デザイン	2	山本　佳美
家政特別講義Ⅰ	2	平塚　聖子
専門研究Ⅰ	4	水谷　浩・菊地　紗代
専門研究Ⅱ	4	水谷　浩・菊地　紗代

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈大学　健康栄養学専攻科目〉

科目名	単位数	担当者
解剖生理学Ⅱ	2	中尾　真理
臨床医学概論Ⅰ	2	
栄養教育論	2	島本　和恵
栄養指導論	2	
栄養指導論実習	1	
給食管理学	2	鴫原　美智子
給食経営学	2	
給食管理実習Ⅰ	1	
給食管理実習Ⅱ	1	
学校栄養指導論	2	
学校食育概論	2	
臨床栄養学Ⅰ	2	髙橋　文
臨床栄養学Ⅱ	2	
臨床栄養指導論Ⅰ	2	
臨床栄養指導論Ⅱ	2	
臨床栄養学実習Ⅰ	1	
臨床栄養学実習Ⅱ	1	
臨床栄養学臨地実習Ⅰ	1	
臨床栄養学臨地実習Ⅱ	1	
課題研究	6	

〈教職に関する科目〉　　16単位

科目名	単位数	担当者
家庭科教育法Ⅰ	4	小野寺　泰子
家庭科教育法Ⅱ	4	石川　りか
教職概論	2	須藤　由子
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	
生徒指導の理論と方法A（進路指導の理論及び方法を含む。）	2	
生徒指導と理論と方法B	2	

〈博物館に関する科目〉　　15単位

科目名	単位数	担当者
生涯学習概論	2	又木　潤
博物館概論	2	佐藤　雅也
博物館経営論	2	笠原　信男
博物館展示論	2	
博物館資料論	2	菊地　逸夫
博物館実習Ⅰ	1	
博物館資料保存論	2	及川　規
博物館教育論	2	阿部　陽子

2026年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　大学共通教養科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
K-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	服専1	伊豆田　友　美	講義	1	2	11001
K-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	健専1	鈴　木　裕　行	講義	1	2	11002
K-1-a-02-2	化学Ⅱ	後期	服専1	鈴　木　裕　行	講義	1	2	11003
K-1-a-02-2	化学Ⅱ	前期	健専1	鈴　木　裕　行	講義	1	2	11004
k-1-a-03-1	有機化学	後期	服専1・健専1	小　川　智　久	講義	1	2	11005
K-1-a-05-1	生物学Ⅰ	前期	服専1・健専1	堀　江　佐知子	講義	1	2	11006
K-1-a-06-2	生物学Ⅱ	後期	服専4・健専1	堀　江　佐知子	講義	4･1	2	11007
K-1-a-07-1	環境学	後期	服専3・健専4	髙　瀬　清　美	講義	3･4	2	11008
K-1-a-08-1	統計学	後期	服専4・健専1	五十嵐　有　香	講義	4･1	2	11009
K-1-a-09-2	データサイエンス数学	前期	服専1・健専1	池　田　展　敏	講義	1	2	11010
K-1-b-01-1	経済学	前期	服専1・健専4	星　　雅　博	講義	1･4	2	11011
K-1-b-02-1	社会学Ⅰ	前期	服専4・健専4	庄　司　一　平	講義	4	2	11012
K-1-b-03-2	社会学Ⅱ	後期	服専4・健専4	庄　司　一　平	講義	4	2	11013
K-1-b-04-1	歴史Ⅰ	前期	服専1・健専4	栗　原　伸一郎	講義	1･4	2	11014
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	後期	服専1・健専4	石　川　光　年	講義	1･4	2	11015
K-1-b-06-1	日本国憲法	前期	服専1・健専1	横　田　尚　昌	講義	1	2	11016
K-1-b-07-2	法学概説	後期	服専1・健専4	横　田　尚　昌	講義	1･4	2	11017
K-1-c-01-1	哲学Ⅰ	前期	服専4・健専4	徳　田　幸　雄	講義	4	2	11018
K-1-c-02-2	哲学Ⅱ	後期	服専4・健専4	徳　田　幸　雄	講義	4	2	11019
K-1-c-03-2	心理学Ⅰ	前期	服専1・健専1	植　松　公　威	講義	1	2	11020
K-1-c-04-2	心理学Ⅱ	後期	服専1・健専1	植　松　公　威	講義	1	2	11021
K-1-c-05-1	美術	後期	服専4	齋　藤　守　彦	講義	4	2	11022
K-1-c-06-1	生活文化論	前期	服専1	津　上　　誠	講義	1	2	11023
k-1-c-07-1	災害と防災	後期	服専1・健専1	伊　藤　常　久	講義	1	1	11024
K-1-d-01-1	英語Ⅰ	前期	服専1・健専1	ブシャー　シルベ	演習	1	1	11025
K-1-d-02-2	英語Ⅱ	後期	服専1・健専1	ブシャー　シルベ	演習	1	1	11026
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ	前期	服専1	上之原　博　子	演習	1	1	11027
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ	前期	健専1	ブシャー　シルベ	演習	1	1	11028
K-1-d-04-2	英会話Ⅱ	後期	服専1・健専1	上之原　博　子	演習	1	1	11029
K-1-d-05-1	仏語Ⅰ	前期	服専4	ブシャー　シルベ	演習	4	1	11030
K-1-d-06-2	仏語Ⅱ	後期	服専4・健専4	ブシャー　シルベ	演習	4	1	11031
K-1-d-07-1	中国語	前期	服専4・健専1	清　水　浩一郎	演習	4･1	1	11032
K-1-d-08-1	日本語基礎	前期	服専1・健専1	佐　藤　恵　美	講義	1	2	11033
K-1-d-09-2	国語表現法	後期	服専1・健専1	佐　藤　恵　美	講義	1	2	11034
K-1-d-10-1	情報基礎学	前期	服専1・健専1	松　尾　　広	講義	1	2	11035
K-1-e-01-1	スポーツ	通年	服専1	酒　井　正　彦	実技	1	2	11036
K-1-e-01-1	スポーツ	通年	健専1	酒　井　正　彦	実技	1	2	11037
K-1-e-02-1	スポーツと食事	後期	服専1・健専1	川　俣　幸　一	講義	1	1	11038
K-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	服専1	植　松　公　威	演習	1	1	11039
				教職員				
K-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	健専1	栗　山　孝　雄	演習	1	1	11040
				教職員				
K-1-f-02-2	ライフデザイン	後期	服専1・健専1	細　萱　航　平	演習	1	1	11041
A-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	後期	服専1	水　谷　　浩	講義	1	1	11042
B-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	前期	健専1	鈴　木　裕　行	演習	1	1	11043
A-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	後期	服専2	水　谷　　浩	演習	2	1	11044
B-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	健専2	川　俣　幸　一	講義	2	1	11045
A-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	服専3	内　海　陽　子	講義	3	1	11046
B-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	健専3	栗　山　孝　雄	演習	3	1	11047
				川　俣　幸　一				

2026年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　大学共通教養科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
				健康栄養学専攻全教員				
A-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	後期	服専3	水　谷　　浩	講義	3	1	11048
B-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	前期	健専4	栗　山　孝　雄	演習	4	1	11049
				川　俣　幸　一				
				健康栄養学専攻全教員				
K-1-f-07-1	キャリアサポートⅠ	後期	服専3・健専3	就職支援センター	演習	3	1	11050
K-1-f-08-2	キャリアサポートⅡ	前期	服専4・健専4	就職支援センター	演習	4	1	11051

2026年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　基幹科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
K-2-a-01-1	家政学原論	前期	服専1・健専1	八　巻　美智子	講義	1	2	11091
K-2-a-02-1	家族関係学	後期	服専1・健専1	八　巻　美智子	講義	1	2	11092
K-2-a-03-1	家庭経営学（家庭経済学を含む。）	前期	服専1・健専1	佐　藤　康　仁	講義	1	2	11093

2026年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
A-3-a-01-1-2	消費生活論	前期	服専2	水　谷　　浩	講義	2	2	11101
A-3-a-02-1-4	社会福祉論	後期	服専4	伊　藤　常　久	講義	4	2	11102
A-3-a-03-1-1	地域文化論	後期	服専1	石　川　光　年	講義	1	2	11103
A-3-a-04-2-1	美術史Ⅰ	前期	服専1	大　嶋　貴　明	講義	1	2	11104
A-3-a-05-3-1	美術史Ⅱ	後期	服専1	大　嶋　貴　明	講義	1	2	11105
A-3-b-01-1-1	被服学	前期	服専1	菊　地　紗　代	講義	1	2	11106
A-3-b-02-1-2	色彩学	後期	服専2	内　海　陽　子	講義	2	2	11107
A-3-b-03-1-2	日本服装史	前期	服専2	川　又　勝　子	講義	2	2	11108
A-3-b-04-1-1	西洋服装史	前期	服専1	川　又　勝　子	講義	1	2	11109
A-3-b-05-2-4	染織文化史	後期	服専4	川　又　勝　子	講義	4	2	11110
A-3-b-06-2-4	染織文化演習	前期	服専4	川　又　勝　子	演習	4	1	11111
A-3-c-01-1-1	被服機構・衛生学	後期	服専1	久　慈　るみ子	講義	1	2	11112
A-3-c-02-1-1	スタートアップソーイング	前期	服専1	菊　地　紗　代	演習	1	1	11113
A-3-c-03-1-1	アパレル製図法Ⅰ（平面）	前期	服専1	菊　地　紗　代	演習	1	1	11114
A-3-c-04-2-1	アパレル製図法Ⅱ（応用）	後期	服専1	菊　地　紗　代	演習	1	1	11115
A-3-c-05-2-2	被服造形実習Ⅰ	前期	服専2	菊　地　紗　代	実習	2	1	11116
A-3-c-06-3-2	被服造形実習Ⅱ	後期	服専2	菊　地　紗　代	実習	2	1	11117
A-3-c-07-4-3	被服造形実習Ⅲ	通年	服専3	菊　地　紗　代	実習	3	2	11118
				佐　藤　理　恵				
A-3-c-08-1-3	被服平面造形学	前期	服専2	川　又　勝　子	講義	2	2	11119
A-3-c-09-2-3	被服平面造形実習Ⅰ	後期	服専3	川　又　勝　子	実習	3	1	11120
A-3-c-10-3-4	被服平面造形実習Ⅱ	前期	服専4	川　又　勝　子	実習	4	1	11121
A-3-c-11-2-2	ファッションデザイン	後期	服専2	玉　田　真　紀	講義	2	2	11122
A-3-c-12-1-1	ファッションデザイン画	後期	服専1	北　折　　整	演習	1	1	11123
A-3-c-13-4-3	ファッションデザイン演習	前期	服専3	平　塚　聖　子	演習	3	2	11124
				菊　地　紗　代				
A-3-c-14-2-2	アパレル設計論	後期	服専2	玉　田　真　紀	講義	2	2	11125
A-3-c-15-3-3	アパレル生産実習	後期	服専2	菊　地　紗　代	実習	2	1	11126
A-3-c-16-2-2	アパレルＣＡＤⅠ	後期	服専2	佐　藤　理　恵	演習	2	1	11127
A-3-c-17-3-3	アパレルＣＡＤⅡ	前期	服専3	佐　藤　理　恵	講義	3	1	11128
A-3-c-18-3-2	服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅰ	前期	服専2	横　田　美　和	実習	2	1	11129
A-3-c-19-3-2	服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅱ	後期	服専2	横　田　美　和	実習	2	1	11130
A-3-c-20-3-4	服飾工芸・造形（織物）Ⅲ	前期	服専4	横　田　美　和	実習	4	1	11131
A-3-d-01-1-1	被服繊維学	前期	服専1	伊豆田　友　美	講義	1	2	11132
A-3-d-02-1-1	被服繊維学実験	後期	服専1	伊豆田　友　美	実験	1	1	11133
A-3-d-03-2-1	被服材料学	後期	服専1	伊豆田　友　美	講義	1	2	11134
A-3-d-04-2-2	被服材料学実験	前期	服専2	伊豆田　友　美	実験	2	1	11135
A-3-d-05-2-2	被服整理学	前期	服専2	井　上　美　紀	講義	2	2	11136
A-3-d-06-3-2	被服整理学実験	後期	服専2	伊豆田　友　美	実験	2	1	11137
A-3-d-07-2-2	染色加工学	後期	服専2	伊豆田　友　美	講義	2	2	11138
A-3-d-08-3-3	染色加工学実験	前期	服専3	伊豆田　友　美	実験	3	1	11139
A-3-d-09-3-3	染色学実習	通年	服専3	川　又　勝　子	実習	3	2	11140
A-3-d-10-2-3	テキスタイルデザインⅠ	後期	服専3	川　又　勝　子	実習	3	1	11141
				横　田　美　和				
A-3-d-11-3-4	テキスタイルデザインⅡ	後期	服専4	川　又　勝　子	実習	4	1	11142
A-3-e-01-1-2	ファッションビジネス論	前期	服専2	内　海　陽　子	講義	2	2	11143
A-3-e-02-4-3	アパレル品質管理論	後期	服専3	井　上　美　紀	講義	3	1	11144
A-3-e-03-3-3	アパレル消費科学	後期	服専3	井　上　美　紀	講義	3	1	11145
A-3-e-04-3-4	消費者調査法	前期	服専4	水　谷　　浩	演習	4	1	11146
A-3-e-05-1-2	ファッション販売論	後期	服専2	内　海　陽　子	講義	2	2	11147

2026年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
A-3-e-06-2-3	コーディネート論	前期	服専3	内　海　陽　子	講義	3	2	11148
A-3-e-07-1-1	ファッションビジネス実務実習	通年	服専1	水　谷　　浩	実習	1	1	11149
A-3-e-08-2-2	マーケティング論	前期	服専2	水　谷　　浩	講義	2	2	11150
A-3-e-09-3-3	起業・会社経営論	後期	服専3	水　谷　　浩	講義	3	2	11151
A-3-e-10-3-4	店舗運営論	後期	服専4	水　谷　　浩	講義	4	2	11152
A-3-e-11-2-2	情報処理Ⅰ	後期	服専2	水　谷　　浩	講義	2	2	11153
A-3-e-12-3-3	情報処理Ⅱ	前期	服専3	水　谷　　浩	演習	3	1	11154
A-3-f-01-2-2	食品学総論	前期	服専2	八　巻　美智子	講義	2	2	11155
A-3-f-02-2-4	食品学各論	前期	服専4	佐　藤　靖　子	講義	4	2	11156
A-3-f-03-1-2	基礎栄養学	後期	服専2	鈴　木　裕　行	講義	2	2	11157
A-3-f-06-2-4	食文化論	後期	服専4	深　澤　律　子	講義	4	2	11160
A-3-f-07-1-2	食生活論	後期	服専2	島　本　和　恵	講義	2	2	11161
A-3-f-08-1-3	住居学	前期	服専2	﨑　山　俊　雄	講義	2	2	11162
A-3-f-09-1-4	住居デザイン	後期	服専4	山　本　佳　美	講義	4	2	11163
A-3-f-10-1-4	住文化論	後期	服専4	﨑　山　俊　雄	講義	4	2	11164
A-3-f-11-1-3	保育学	後期	服専3	高　橋　恵　美	講義	3	2	11165
A-3-f-13-1-4	家庭科教材研究	後期	服専4	植　松　公　威	演習	4	1	11167
A-3-g-01-1-2	家政特別講義Ⅰ	集中	服専2	平　塚　聖　子	講義	2	2	11168
				伊豆田　友　美				
A-3-g-02-2-3	家政特別講義Ⅱ	前期	服専3	川　又　勝　子	講義	3	2	11169
A-3-g-03-2-2	家政特別演習（研修旅行）	通年	服専2	伊豆田　友　美	演習	2	2	11170
A-3-g-04-3-3	服飾ビジネス特別演習	通年	服専3	水　谷　　浩	演習	3	2	11171
A-3-g-05-3-3	服飾生活特別演習	通年	服専3	平　塚　聖　子	演習	3	2	11172
				菊　地　紗　代				
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	通年	服専3	植　松　公　威	演習	3	4	11173
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	通年	服専3	川　又　勝　子	演習	3	4	11174
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	通年	服専3	水　谷　　浩	演習	3	4	11175
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	通年	服専3	菊　地　紗　代	演習	3	4	11176
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	通年	服専3	伊豆田　友　美	演習	3	4	11177
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ	通年	服専3	倉　品　有　佳	演習	3	4	11178
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	植　松　公　威	演習	4	4	11179
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	川　又　勝　子	演習	4	4	11180
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	水　谷　　浩	演習	4	4	11181
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	菊　地　紗　代	演習	4	4	11182
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	伊豆田　友　美	演習	4	4	11183

2026年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
B-3-a-01-1-1	社会福祉論	後期	健専1	伊　藤　常　久	講義	1	2	11201
B-3-a-02-2-3	公衆衛生学Ⅰ	前期	健専3	伊　藤　常　久	講義	3	2	11202
B-3-a-03-3-3	公衆衛生学Ⅱ	後期	健専3	伊　藤　常　久	講義	3	2	11203
B-3-a-04-2-1	健康管理概論	前期	健専1	伊　藤　常　久	講義	1	2	11204
B-3-b-01-3-1	解剖生理学Ⅰ	後期	健専1		講義	1	2	11205
B-3-b-02-3-2	解剖生理学Ⅱ	前期	健専2	中　尾　真　理	講義	2	2	11206
B-3-b-03-3-2	運動生理学	前期	健専2	川　俣　幸　一	講義	2	2	11207
B-3-b-04-1-2	微生物学	前期	健専2	米　山　　裕	講義	2	2	11208
B-3-b-05-1-1	生化学Ⅰ	後期	健専1	鈴　木　裕　行	講義	1	2	11209
B-3-b-06-2-2	生化学Ⅱ	前期	健専2	鈴　木　裕　行	講義	2	2	11210
B-3-b-07-3-2	病理学	後期	健専2		講義	2	2	11211
B-3-b-08-3-3	解剖生理学実験	後期	健専3	川　俣　幸　一	実験	3	1	11212
B-3-b-09-3-3	生化学実験	前期	健専3	鈴　木　裕　行	実験	3	1	11213
				八　巻　美智子				
B-3-b-10-3-3	臨床医学概論Ⅰ	前期	健専3	中　尾　真　理	講義	3	2	11214
B-3-b-11-3-3	臨床医学概論Ⅱ	後期	健専3		講義	3	2	11215
B-3-c-01-2-2	食品学総論	前期	健専2	八　巻　美智子	講義	2	2	11216
B-3-c-02-2-2	食品学各論	後期	健専2	佐　藤　靖　子	講義	2	2	11217
B-3-c-03-1-1	食品学実験Ⅰ	前期	健専1	八　巻　美智子	実験	1	1	11218
B-3-c-04-2-1	食品学実験Ⅱ	後期	健専1	八　巻　美智子	実験	1	1	11219
B-3-c-05-3-3	食品機能学	後期	健専3	永　塚　貴　弘	講義	3	2	11220
B-3-c-06-3-3	食品加工学	前期	健専3	佐　藤　靖　子	講義	3	2	11221
B-3-c-07-3-3	食品加工実習	後期	健専3	佐　藤　靖　子	実習	3	1	11222
B-3-c-08-1-3	食品衛生学	前期	健専3	米　山　　裕	講義	3	2	11223
B-3-c-09-2-3	食品衛生学実験	後期	健専3	髙　瀬　清　美	実験	3	1	11224
B-3-c-10-2-2	調理科学論	後期	健専2	佐　藤　靖　子	講義	2	2	11225
B-3-c-11-2-3	調理科学実験	前期	健専3	佐　藤　靖　子	実験	3	1	11226
B-3-c-12-1-1	基礎調理学実習Ⅰ	前期	健専1	深　澤　律　子	実習	1	1	11227
B-3-c-13-2-1	基礎調理学実習Ⅱ	後期	健専1	深　澤　律　子	実習	1	1	11228
B-3-c-14-3-2	応用調理学実習Ⅰ	前期	健専2	深　澤　律　子	実習	2	1	11229
B-3-c-15-4-2	応用調理学実習Ⅱ	後期	健専2	深　澤　律　子	実習	2	1	11230
B-3-c-16-3-2	食文化論	後期	健専2	深　澤　律　子	講義	2	2	11231
B-3-d-01-1-1	基礎栄養学	後期	健専1	鈴　木　裕　行	講義	1	2	11232
B-3-d-02-1-2	栄養生化学	後期	健専2	鈴　木　裕　行	講義	2	2	11233
B-3-d-03-1-2	栄養学実験	前期	健専2	鈴　木　裕　行	実験	2	1	11234
B-3-e-01-2-2	応用栄養学Ⅰ	前期	健専2	川　俣　幸　一	講義	2	2	11235
B-3-e-02-2-2	応用栄養学Ⅱ	後期	健専2	川　俣　幸　一	講義	2	2	11236
B-3-e-03-2-2	栄養管理論	後期	健専2	川　俣　幸　一	講義	2	2	11237
B-3-e-04-2-2	応用栄養学実習Ⅰ	前期	健専2	川　俣　幸　一	実習	2	1	11238
B-3-e-05-2-2	応用栄養学実習Ⅱ	後期	健専2	川　俣　幸　一	実習	2	1	11239
B-3-f-01-1-1	食生活論	後期	健専1	島　本　和　恵	講義	1	2	11240
B-3-f-02-2-2	栄養教育論	前期	健専2	島　本　和　恵	講義	2	2	11241
B-3-f-03-2-2	栄養指導論	後期	健専2	島　本　和　恵	講義	2	2	11242
B-3-f-04-1-3	保健栄養学	後期	健専3	栗　山　孝　雄	講義	3	2	11243
B-3-f-05-3-2	栄養情報処理演習	前期	健専2	島　本　和　恵	演習	2	1	11244
B-3-f-06-3-3	栄養指導論実習	前期	健専3	島　本　和　恵	実習	3	1	11245
B-3-g-01-3-2	臨床栄養学Ⅰ	前期	健専2	髙　橋　　文	講義	2	2	11246
B-3-g-02-3-2	臨床栄養学Ⅱ	後期	健専2	髙　橋　　文	講義	2	2	11247
B-3-g-03-3-3	臨床栄養指導論Ⅰ	前期	健専3	髙　橋　　文	講義	3	2	11248
B-3-g-04-4-3	臨床栄養指導論Ⅱ	後期	健専3	髙　橋　　文	講義	3	2	11249

2026年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
B-3-g-05-1-3	臨床栄養学実習Ⅰ	前期	健専3	髙　橋　　文	実習	3	1	11250
B-3-g-06-2-3	臨床栄養学実習Ⅱ	後期	健専3	髙　橋　　文	実習	3	1	11251
B-3-h-01-2-3	公衆栄養学	前期	健専3	栗　山　孝　雄	講義	3	2	11252
B-3-h-02-3-3	公衆栄養学実習	後期	健専3	栗　山　孝　雄	実習	3	1	11253
B-3-h-03-2-4	地域栄養活動演習Ⅰ	前期	健専4	栗　山　孝　雄	演習	4	1	11254
B-3-h-04-2-4	地域栄養活動演習Ⅱ	後期	健専4	栗　山　孝　雄	演習	4	1	11255
B-3-i-01-1-2	給食管理学	前期	健専2	鴫　原　美智子	講義	2	2	11256
B-3-i-02-1-4	給食経営学	前期	健専4	鴫　原　美智子	講義	4	2	11257
B-3-i-03-2-2	給食管理実習Ⅰ	後期	健専2	鴫　原　美智子	実習	2	1	11258
B-3-i-04-3-2	給食管理実習Ⅱ	後期	健専2	鴫　原　美智子	実習	2	1	11259
B-3-j-01-1-3	健康栄養学総合演習Ⅰ	前期	健専3	鴫　原　美智子	演習	3	1	11260
				栗　山　孝　雄				
				髙　橋　　文				
B-3-j-02-2-3	健康栄養学総合演習Ⅱ	後期	健専3	栗　山　孝　雄	演習	3	1	11261
				川　俣　幸　一				
				鴫　原　美智子				
				髙　橋　　文				
				島　本　和　恵				
B-3-j-03-2-4	健康栄養学総合演習Ⅲ	後期	健専4	栗　山　孝　雄	演習	4	1	11262
				川　俣　幸　一				
				鴫　原　美智子				
				髙　橋　　文				
				島　本　和　恵				
B-3-k-01-5-3	給食管理臨地実習Ⅰ	通年	健専3	鴫　原　美智子	実習	3	1	11263
B-3-k-02-5-3	給食管理臨地実習Ⅱ	通年	健専3	鴫　原　美智子	実習	3	1	11264
B-3-k-03-5-4	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	通年	健専4	髙　橋　　文	実習	4	1	11265
B-3-k-04-5-4	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	通年	健専4	髙　橋　　文	実習	4	1	11266
B-3-k-05-5-4	公衆栄養学臨地実習Ⅰ	通年	健専4	栗　山　孝　雄	実習	4	1	11267
B-3-k-06-5-4	公衆栄養学臨地実習Ⅱ	通年	健専4	栗　山　孝　雄	実習	4	1	11268
B-3-l-01-4-3	学校栄養指導論	前期	健専3	鴫　原　美智子	講義	3	2	11269
B-3-l-02-1-3	学校食育概論	前期	健専3	鴫　原　美智子	講義	3	2	11270
B-3-m-01-3-3	セミナーⅠ	後期	健専3	栗　山　孝　雄	演習	3	1	11271
				川　俣　幸　一				
				健康栄養学専攻教員				
B-3-m-02-4-4	セミナーⅡ	後期	健専4	栗　山　孝　雄	演習	4	1	11272
				川　俣　幸　一				
				健康栄養学専攻教員				
B-3-m-03-1-1	家政特別講義Ⅰ	通年	健専1	川　俣　幸　一	講義	1	2	11273
				鴫　原　美智子				
B-3-m-04-2-2	家政特別講義Ⅱ	後期	健専2	伊　藤　常　久	講義	2	2	11274
				佐　藤　靖　子				
B-3-m-05-3-3	家政特別講義Ⅲ	後期	健専3	鴫　原　美智子	講義	3	2	11275
				栗　山　孝　雄				
				髙　橋　　文				
B-3-m-06-4-4	家政特別講義Ⅳ	前期	健専4	栗　山　孝　雄	講義	4	2	11276
				髙　橋　　文				
B-3-m-07-5	課題研究　令和5年度入学生	通年	健専4・健専3	鈴　木　裕　行	演習	4･3	6	11277
B-3-m-07-5	課題研究　令和5年度入学生	通年	健専4・健専3	佐　藤　靖　子	演習	4･3	6	11278
B-3-m-07-5	課題研究　令和5年度入学生	通年	健専4・健専3	栗　山　孝　雄	演習	4･3	6	11279
B-3-m-07-5	課題研究　令和5年度入学生	通年	健専4・健専3	川　俣　幸　一	演習	4･3	6	11280

2026年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
B-3-m-07-5	課題研究　令和5年度入学生	通年	健専4・健専3	伊　藤　常　久	演習	4･3	6	11281
B-3-m-07-5	課題研究　令和5年度入学生	通年	健専4・健専3	鳴　原　美智子	演習	4･3	6	11283
B-3-m-07-5	課題研究　令和5年度入学生	通年	健専4・健専3	髙　橋　　文	演習	4･3	6	11284
B-3-m-07-5	課題研究　令和5年度入学生	通年	健専4・健専3	八　巻　美智子	演習	4･3	6	11285
B-3-m-07-5	課題研究　令和5年度入学生	通年	健専4・健専3	ブシャー　シルベ	演習	4･3	6	11286
B-3-m-07-5	課題研究　令和5年度入学生	通年	健専4・健専3	深　澤　律　子	演習	4･3	6	11287

2026年度　シラバス科目情報一覧

教職に関する科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
K-4-a-01-1	教育原理	前期	服専1・健専1・美表1	倉　品　有　佳	講義	1	2	19801
K-4-a-02-1	教職概論	後期	服専1・健専1・美表1	須　藤　由　子	講義	1	2	19802
K-4-a-03-3	教育制度論	前期	服専3・健専3・美表3	久保田　朋　実	講義	3	2	19803
K-4-a-04-2	教育心理学	前期	服専2・健専2・美表2	植　松　公　威	講義	2	2	19804
K-4-a-05-2	特別支援教育	前期	服専2・健専2・美表2	大瀬戸　美　紀	講義	2	1	19805
K-4-a-06-2	教育課程論	後期	服専2・健専2・美表2	倉　品　有　佳	講義	2	2	19806
K-4-b-01-2	道徳教育の指導法	前期	服専3・健専3・美表3	長　島　慧　治	講義	3	2	19807
K-4-b-02-2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	前期	服専2・健専2・美表2	須　藤　由　子	講義	2	2	19808
K-4-b-03-3	教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	後期	服専2・健専2・美表2	清　水　禎　文	講義	2	2	19809
				松　尾　　広				
K-4-b-04-3	生徒指導の理論と方法A（進路指導の理論及び方法を含む。）	後期	服専3・美表3	須　藤　由　子	講義	3	2	19810
K-4-b-05-2	教育相談	前期	服専3・健専3・美表3	熊　谷　　亮	講義	3	2	19811
K-4-c-01-5	教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む。）	通年	服専4・美表4	髙　橋　　賢	実習	4	5	19812
				植　松　公　威				
				齋　藤　守　彦				
				倉　品　有　佳				
K-4-c-02-5	教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む。）	通年	服専4・美表4	髙　橋　　賢	実習	4	3	19813
				植　松　公　威				
				齋　藤　守　彦				
				倉　品　有　佳				
K-4-c-03-5	教職実践演習（中・高）	後期	服専4・美表4	髙　橋　　賢	講義	4	2	19814
				植　松　公　威				
				齋　藤　守　彦				
				倉　品　有　佳				
B-4-b-04-3	生徒指導の理論と方法B	前期	健専3	須　藤　由　子	講義	3	2	19815
B-4-c-01-5	栄養教育実習事前事後指導	後期	健専4	髙　橋　　賢	講義	4	1	19816
				鴫　原　美智子				
				植　松　公　威				
B-4-c-02-5	栄養教育実習	後期	健専4	髙　橋　　賢	実習	4	1	19817
				鴫　原　美智子				
				植　松　公　威				
B-4-c-03-5	教職実践演習（栄養教諭）	後期	健専4	髙　橋　　賢	講義	4	2	19818
				鴫　原　美智子				
				植　松　公　威				
A-4-d-01-3	家庭科教育法Ⅰ	通年	服専3	小野寺　泰　子	講義	3	4	19819
A-4-d-02-4	家庭科教育法Ⅱ	通年	服専4	石　川　り　か	講義	4	4	19820
D-4-d-01-3	美術科教育法Ⅰ	通年	美表3	齋　藤　守　彦	講義	3	4	19821
D-4-d-02-4	美術科教育法Ⅱ	通年	美表4	齋　藤　守　彦	講義	4	4	19822
D-4-d-03-3	工芸科教育法	通年	美表3	木　村　健　一	講義	3	4	19823

2026年度　シラバス科目情報一覧

博物館に関する科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
K-5-a-01-2	生涯学習概論	後期	服専1・美表1	又　木　　潤	講義	1	2	19901
K-5-a-02-2	博物館概論	前期	服専1・美表1	佐　藤　雅　也	講義	1	2	19902
K-5-a-03-4	博物館経営論	前期	服専3・美表3	笠　原　信　男	講義	3	2	19903
K-5-a-04-3	博物館資料論	後期	服専2・美表2	菊　地　逸　夫	講義	2	2	19904
K-5-a-05-3	博物館資料保存論	前期	服専2・美表2	及　川　　規	講義	2	2	19905
K-5-a-06-4	博物館展示論	後期	服専3・美表3	笠　原　信　男	講義	3	2	19906
K-5-a-07-3	博物館情報・メディア論	後期	服専2・美表2	清　水　　有	講義	2	2	19907
K-5-a-08-2	博物館教育論	後期	服専1・美表1	阿　部　陽　子	講義	1	2	19908
K-5-a-09-5	博物館実習Ⅰ	前期	服専3・美表3	菊　地　逸　夫	演習	3	1	19909
K-5-a-09-5	博物館実習Ⅱ（見学実習を含む。）	後期	服専3・美表3	落　合　里　麻	演習	3	1	19910
k-5-a-11-6	博物館実習Ⅲ（館園実習）（事前・事後指導を含む。）	通年	服専4・美表4	落　合　里　麻	実習	4	1	19911
				水　谷　　浩				

大 学 共 通 教 養 科 目

化学Ⅰ

(11001)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
伊豆田　友　美

■ 授業の概要
化学とは，物質の性質やその変化を明らかにしていく学問である．まず，私たちの身の回りに存在する物質がどのような粒子でできているのかを教授する．また，研究や発見について歴史的な逸話を加え，化学がどのように発展してきたのかを教授する．さらに，化学反応の量的関係や化学反応の代表例である酸と塩基の反応と酸化還元反応について日常生活に応用されている例を取り上げ，日常生活と関連付けるように解説する．理解を深めるために，化学の問題を解くことを課する．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・化学の基本的知識を十分に理解する． ・身近な現象を化学的に理解する力を身につける．	0.6	0.1	0.1		0.1				0.1

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業概要，化学とは？	化学の起源について調べる．配布されたプリントを精読する．
第２回　測定の体系	7つの基本単位を理解する．配布されたプリントを精読する．教科書「第1章」14～29頁に目を通す．
第３回　原子構造	教科書「第1章」14～29頁を精読する．教科書「第1章」29～56頁に目を通す．
第４回　化学反応と物質の量	教科書「第1章」29～56頁を精読する．教科書「第2章」57～62頁に目を通す．
第５回　原子と原子の結びつき①イオンとは？	教科書「第2章」57～62頁を精読する．教科書「第2章」63～90頁に目を通す．
第６回　原子と原子の結びつき②様々な化学結合	教科書「第2章」63～90頁を精読する．教科書「第3章」91～109頁に目を通す．
第７回　物質の状態①物質の三態	教科書「第3章」91～109頁を精読する．教科書「第3章」110～122頁に目を通す．
第８回　物質の状態②気体の性質	教科書「第3章」110～122頁を精読する．教科書「第3章」123～144頁に目を通す．
第９回　物質の状態③溶液	教科書「第3章」123～144頁を精読する．教科書「第4章」145～153頁に目を通す．
第10回　化学反応と熱の出入り	教科書「第4章」145～153頁を精読する．教科書「第4章」154～167頁に目を通す．
第11回　反応速度と化学平衡	教科書「第4章」154～167頁を精読する．教科書「第4章」168～182頁に目を通す．
第12回　酸と塩基の反応	教科書「第4章」168～182頁を精読する．教科書「第4章」183～209頁に目を通す．
第13回　酸化還元反応	教科書「第4章」183～209頁を精読する．教科書「第4章」210～224頁に目を通す．
第14回　空気の酸性化	教科書「第4章」210～224頁を精読する．
第15回　総括	これまでの学習内容を振り返る．
第16回　本試験	全ての範囲の学習内容の理解度を確認する．

■ 履修上の注意
授業終了時に小テストを行うので振り返りを大切にする．事前事後には指定教科書に目を通すこと．

■ 成績評価方法・基準
期末試験(50%)と平常点・受講態度(50%)（毎回行う小テスト等総合的に判断する）で評価します．小テストについては、次回の授業内でフィードバックとします．

■ 教科書
［新しい高校化学の教科書］［左巻健男］［ブルーバックス］［定価1300円(税別)］

■ 参考書
必要に応じて紹介する．

■ 備考
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける．評価と授業の進め方は1回目の授業で説明する．5回を超えて欠席した者は評価の対象としない．

化学Ⅰ (11002)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要

健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1. 化学一般の基礎的な事項を理解できるようにする。	0.6		0.4						
・2. 関連する練習問題を解答できるようにする。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　健康・栄養・食品と化学	教科書「まえがき」、「はじめに」、「1・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　物質を構成する粒子	教科書「1・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　元素の周期律と周期表	教科書「1・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　原子の構造	教科書「1・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　イオンと分子	教科書「1・2～3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　イオン性化合物～化学式の書き方	教科書「1・4～5」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　物質量：原子量・分子量・モルとは	教科書「2.1～2」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　〔中間試験〕、物質量：原子量・分子量・モルの計算	教科書「2.2」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、原子価と電子式	教科書「3・1～3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　化学反応と反応式のつくり方	教科書「1・6」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　化学反応式を用いた計算	教科書「2.4」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　化学結合と分子構造：　共有結合・イオン結合・水素結合	教科書「3・4～5」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第13回　化学結合と電気陰性度	教科書「3・5～6」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　酸と塩基	教科書「1・7」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　〔期末試験〕、中和反応	教科書「1・7」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、中和反応と塩の生成	教科書「1・7」「2・3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%

■ 教科書

ゼロからはじめる化学、立屋敷　哲、丸善(株)出版事業部、2，200円＋税

■ 参考書

放送大学オープンコースウェア045　初歩からの化学　https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/homeより

■ 備考

「キャリア開発Ⅰ」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

化学Ⅱ

(11003)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
化学Ⅰで学んだ知識に基づき、日常生活に応用している例題を多く取り上げて，私たちの生活と化学の関わりについて教授する．まず，物質の成り立ちやそれに基づく性質について教授する．特に化学結合の仕組みについて重点的に解説する．さらに，無機化合物および有機化合物について個々にに解説し，それぞれの違いについてを教授する．最後に，科学技術の発展に伴う環境問題について取り扱い，化学が果たす役割について教授する．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・化学と生活のかかわりを十分に理解する．	0.6	0.1		0.1				0.1	0.1
・化学的な視点で物を捉える力を身につける．									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業概要，化学Ⅰの復習	教科書「第1章～第4章」13～224頁を復習する．教科書「第5章」225～262頁に目を通す．
第２回　無機化合物①金属元素と非金属元素	教科書「第5章」225～229を精読する．教科書「第5章」230～245頁に目を通す．
第３回　無機化合物②非金属元素の単体と化合物	教科書「第5章」229～245頁を精読する．教科書「第5章」246～262頁に目を通す．
第４回　無機化合物③金属元素の単体と化合物	教科書「第5章」245～262頁を精読する．教科書「第6章」243～275頁に目を通す．
第５回　有機化合物①有機化合物とは？	教科書「第6章」242～275頁を精読する．教科書「第6章」276～292頁に目を通す．
第６回　有機化合物②脂肪族炭化水素	教科書「第6章」275～292頁を精読する．教科書「第6章」293～301頁に目を通す．
第７回　有機化合物③芳香族化合物	教科書「第6章」292～301頁を精読する．教科書「第6章」302～313頁に目を通す．
第８回　有機化合物④アルコール，アルデヒド，ケトンなどの有機化合物	教科書「第6章」301～313頁を精読する．教科書「第7章」315～328頁に目を通す．
第９回　高分子化合物①天然高分子化合物	教科書「第7章」315～328頁を精読する．教科書「第7章」329～339頁に目を通す．
第10回　高分子化合物②合成高分子化合物	教科書「第7章」328～339頁を精読する．教科書「第8章」341～359頁に目を通す．
第11回　人間と化学のかかわり①生活と化学	教科書「第8章」341～359頁を精読する．教科書「第8章」360～367頁に目を通す．
第12回　人間と化学のかかわり②水環境と化学	教科書「第8章」359～367頁を精読する．教科書「第8章」368～386頁に目を通す．
第13回　人間と化学のかかわり③フロンとオゾン層	教科書「第8章」367～386頁を精読する．教科書「第8章」387～404頁に目を通す．
第14回　人間と化学のかかわり④生命と化学	教科書「第8章」386～404頁を精読する．
第15回　総括	これまでの学習内容を振り返る．
第16回　本試験	全ての範囲の学習内容の理解度を確認する．

■ 履修上の注意
化学Ⅰを履修しておくこと．事前事後には指定教科書に目を通すこと．

■ 成績評価方法・基準
期末試験(50%)と平常点・受講態度(50%)（毎回行う小テスト等総合的に判断する）で評価します．小テストについては、次回の授業内でフィードバックとします．

■ 教科書
［新しい高校化学の教科書］［左巻健男］［ブルーバックス］［定価1300円(税別)］

■ 参考書
必要に応じて紹介する．

■ 備考
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける．評価と授業の進め方は1回目の授業で説明する．5回を超えて欠席した者は評価の対象としない．

化学Ⅱ

(11004)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、化学Ⅰに引続き各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・化学一般の基礎的な事項を理解し、化学的なものの見方ができるようにする。	0.6　0.4
・関連する計算問題を解答できるようにする。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　中和反応と濃度計算	教科書「2・3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　水素イオン濃度とｐＨ	教科書「2・6」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　酸化と還元	教科書「1・8」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　酸化数と酸化還元反応	教科書「1・8」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　酸化剤・還元剤	教科書「1・8」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　金属元素のイオン化列と電池	教科書「1.8」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　物質の三態、気体の性質、気体の法則	教科書「付録1・1〜3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　〔中間試験〕気体の状態方程式	教科書「付録1・3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、気体の計算	教科書「付録1・3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　溶液の性質	教科書「付録1・4」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　浸透圧、化学反応と熱・熱化学方程式	教科書「付録1・4〜2・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　熱量変化の計算	教科書「2・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第13回　有機化合物の基礎：構造式の書き方	教科書「4・1～2」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　有機化合物の種類	教科書「4.3～5」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　〔期末試験〕、生体の有機化合物	教科書「4・5」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、有機化合物の反応	教科書「4・9」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%

■ 教科書

ゼロからはじめる化学、立屋敷　哲、丸善(株)出版事業部、2，200円＋税

■ 参考書

放送大学オープンコースウェア045　初歩からの化学　https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/homeより

■ 備考

「キャリア開発Ⅰ」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。　試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

有機化学

(11005)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
小　川　智　久

■ 授業の概要
身の回りの物質の中でも、衣食住のあらゆる場面に存在する有機化合物について、分子レベルで理解するため、また生命現象を分子レベルで理解するため、生体成分をはじめとする物質の分子構造およびその構造を組み立てている結合の特徴、性質を理解することに重点をおく。
有機化学の基礎、特に有機化合物の電子配置に基づく反応性と化学結合、官能基の性質、立体化学を中心に講義し、生体成分や食品、医薬、プラスチック・高分子繊維素材など身の回りの物質（有機化合物）の特性を理解する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・有機化合物を分子式、構造式として理解できるようになる。	0.1	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1			0.1
・有機化合物の反応性を官能基や化学結合の特性、立体化学から理解できるようになる。									
・生体成分や食品、高分子繊維などの有機化合物の構造から、その特性を理解できるようになる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　序論　身の回りの物質　有機と無機　元素周期表　電気陰性度	教科書指定ページの熟読（教科書序章：1-15ページ）
第２回　原子の構造と化学結合	教科書指定ページの熟読（教科書８章：188-214ページ）
第３回　有機化合物の特徴と分類、分子式・示性式・構造式	教科書指定ページの熟読（教科書３章：52-65、１章：16-29ページ）
第４回　飽和炭化水素（アルカン）の構造と性質	教科書指定ページの熟読（教科書　２章：30-51、4章：66-79 ページ）
第５回　不飽和炭化水素（アルケン・アルキン）の構造と性質	教科書指定ページの熟読（教科書5章：140-151ページ）
第６回　アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン	教科書指定ページの熟読（教科書4章：88-105、5章：140-151ページ）
第７回　アミン、カルボン酸、アミド、エステル、芳香族化合物	教科書指定ページの熟読（教科書４章：80-87、5章：122-139、６章：152-167ページ）
第８回　第1回-7回講義の復習・中間試験	第1回-7回講義の復習
第９回　有機化学反応の基礎　電子の移動（求核剤・求電子）、反応機構、共鳴構造	教科書指定ページの熟読（教科書８章：208-229、４章：103-105、5章：113-120ページ）
第10回　有機化学反応１　付加反応・脱離反応・置換反応・転移反応	教科書指定ページの熟読（教科書４章：103-105、5章：113-120ページ）
第11回　有機化学反応２　SN1とSN2　立体化学	教科書指定ページの熟読（教科書４章：103-105、5章：113-120ページ），補足資料の熟読
第12回　有機化合物の立体化学	教科書指定ページの熟読（教科書７章：168-170、付録1：230-246ページ）
第13回　生体分子の有機化学1　糖、糖鎖	教科書指定ページの熟読（教科書７章：168-186ページ）
第14回　生体分子の有機化学2　アミノ酸、タンパク質	教科書指定ページの熟読（教科書７章：168-186ページ）
第15回　高分子化合物　プラスチック・繊維	補足資料の熟読
第16回　期末試験	第1回-15回講義の復習

■ 履修上の注意
教科書の指定ページを熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。補足資料は講義時に配布する。

■ 成績評価方法・基準
出席・受講態度（発言・質問）４０％、試験（中間試験含む）６０％を基準として総合的に評価する。
希望する学生がいれば、本人の採点済試験答案を開示する。試験に対するフィードバックとして、全体的に理解が不十分な

項目については、Googleクラスルームを介して、補足説明をおこなう。

■ 教科書
「有機化学基礎の基礎 第３版」[立屋敷哲][丸善株式会社] ISBN 978-4-621-31082-3

■ 参考書
必要に応じて講義中に示す。

■ 備考
質問に関してはオフィスアワーのほか、授業終了後に申し出てもらいあらかじめ時間を調整して受け付ける。またメールやクラスルームを介しての質問も受け付ける。

生物学Ⅰ

(11006)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
堀　江　佐知子

■ 授業の概要
生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。そして、その不思議さが進化した背景には、何らかの合理的な理由があると考えられる。
地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義であり、今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指す講義である。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。	0.5					0.25		0.25	
・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
第２回　原始地球の誕生	地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第３回　地球と生命の誕生と進化	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第４回　魚の進化	魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第５回　植物の進化（植物の誕生）	植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第６回　植物の進化（裸子植物の進化）	裸子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第７回　植物の進化（被子植物の進化）	被子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第８回　哺乳類の誕生	哺乳類の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第９回　哺乳類の進化	哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第10回　鳥の進化	鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第11回　昆虫の進化（昆虫の誕生）	昆虫の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第12回　昆虫の進化（昆虫の情報戦略）	昆虫の情報戦略について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第13回　昆虫の進化（昆虫の共進化）	昆虫の共進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第14回　人類の進化	人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第15回　講義のまとめ	講義内容をまとめる。
第16回　試験	

■ 履修上の注意
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準
課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書
無し

■ 備考
質問等については、講義の終了時に受付ける。

生物学Ⅱ

(11007)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
堀　江　佐知子

■ 授業の概要
生物学は生物や生命現象を学ぶ自然科学である。本講義で扱う対象は細胞内の分子のようなミクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで様々な生命現象を対象とする。本講義では、生命誕生から生物の一種として、ヒトの生物学的特徴を分子遺伝学や生理学、生態学等様々な視点から学んで行くことを通して、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、生物学を多様な視点からとらえ、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指し講義を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。	0.5					0.25		0.25	
・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
第２回　生命の誕生	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第３回　ヒトの設計図、遺伝子	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第４回　骨・筋肉	骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第５回　肝臓	肝臓について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第６回　胃・腸	胃や腸について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第７回　心臓・血管	心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第８回　免疫	免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第９回　脳と心（知覚）	脳（知覚）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第10回　脳と心（記憶）	脳（記憶）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第11回　脳と心（こころの進化）	脳（こころの進化）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第12回　遺伝子（日本人のルーツ）	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第13回　遺伝子（精神の設計図）	遺伝子（精神の設計図）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第14回　生物多様性と保全	生物多様性について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第15回　講義のまとめ	講義内容をまとめる。
第16回　試験	

■ 履修上の注意
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準
課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書
無し

■ 備考
質問等については、講義の終了時に受付ける。

環境学

(11008)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
髙　瀬　清　美

■ 授業の概要

人間活動により、気候変動、大気汚染、水質汚濁、海洋汚染等の様々な環境問題が引き起こされている。これらの問題は、私たち一人一人の日常生活や経済活動にも深く根ざしており、その影響は地球規模で広がっている。本講義では、環境問題の現状とその発生原因について学び、それらを評価・改善していくための方策について理解を深めるとともに、持続可能な社会の実現に不可欠な環境学の基礎的素養を身につけ未来の環境課題に対応する力を養う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・環境保全に関する全般的な知識を習得する。 ・授業で取り上げる様々な環境問題に対して、各自の意見が述べられるようにする。	0.6　0.4

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　環境学とは？	事前：シラバスをよく読み、授業の内容を把握する。 事後：授業内容の復習をする。
第２回　人類による環境汚染・環境破壊の歴史	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第３回　農薬による環境汚染	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第４回　ネオニコチノイド系農薬について	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第５回　生物多様性とは（生態系サービスと人類の福利）	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第６回　外来生物による生物多様性の損失	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第７回　資源の過剰利用による生物多様性の損失	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第８回　再生可能エネルギーとは（太陽光発電）	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第９回　再生可能エネルギーとは（風力発電など）	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第10回　プラスチックごみによる環境汚染	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第11回　マイクロプラスチックとは	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第12回　水質汚濁	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第13回　地球温暖化と気候変動	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。

第14回　環境保全・修復技術とSDGs 地域の取り組み	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第15回　総括	事前：これまでの授業内容の復習をする。 事後：様々な問題に対して、自分の言葉で意見を述べることができるようにする。
第16回　期末試験	これまでの授業で学んだことを総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

日常生活において、環境問題や保全に係わる情報に注意、関心を向けるよう心掛けてください。

■ 成績評価方法・基準

・平常点・受講態度（授業に対する積極性、発言、質問）：40%、ミニットペーパー、レポート課題：50%、期末試験：10%として評価します。

・ミニットペーパー、レポート課題については授業中にフィードバックを行います。

■ 教科書

・特になし

・講義内で資料を配布します。

■ 参考書

授業時間内に適宜紹介します。

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。

・質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

統計学

(11009)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
五十嵐　有　香

■ 授業の概要
本講義では、集団の特性を把握するために不可欠な統計学の基礎を学びます。データの収集方法や調査票の作成から記述統計（平均・分散等）や推測統計（検定等）を扱う。あわせて、表やグラフを用いたデータの可視化についても取り上げ、情報を分かりやすく整理することについて説明をする。具体的な事例を交えながら、統計学的なものの見方や考え方を身に着けていく。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・統計学の基礎的な概念や用語について説明できるようになる。	0.5		0.5						
・基本的な統計指標（平均、割合）や表やグラフを用いて、データから情報を的確に読み取ることができるようになる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、研究プロセス	教科書第１章１～２を読む。
第２回　データ収集・分析方法の決定	教科書第１章３～４を読む。
第３回　変数とはなにか	教科書第２章１～２を読む。
第４回　変数の測定	教科書第２章３を読む。
第５回　測定値の水準と妥当性・信頼性	教科書第２章４～６を読む。
第６回　調査対象の選定	教科書第３章１を読む。
第７回　データ収集の方法と調査票の作成	教科書第３章２～３を読む。
第８回　実験計画と進め方	教科書第４章１を読む。
第９回　統制とはなにか	教科書第４章３を読む。
第10回　１変数の分析（度数分布表）	教科書第５章１～２を読む。
第11回　１変数の分析（平均、中央値、最頻値等）	教科書第５章１～２を読む。
第12回　２変数の分析（クロス集計表）	教科書第５章３を読む。
第13回　２変数の分析（相関係数、回帰直線）	教科書第５章４を読む。
第14回　推定と検定の考え方	教科書第６章１～３を読む。
第15回　平均値の差の検定（t検定）とクロス表の関連度の検定（カイ二乗検定）	教科書第６章４を読む。

■ 履修上の注意
板書を中心に講義を進めるため、ノート等を持参すること。板書を書き写すだけではなく、メモをとるなど工夫をしてノート作りをすること。

■ 成績評価方法・基準
末期試験（70%）・授業態度（30%）
試験については、試験終了後に模範解答を配布する。
授業態度については、講義中の課題への取り組み状況およびミニットペーパーの提出・内容を総合して評価する。

■ 教科書
実証研究の手引き: 調査と実験の進め方・まとめ方　ワールドプランニング　3，025円

■ 参考書
講義内で適宜紹介する。

■ 備考
都合により、授業計画の順番等は変更することがある。
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。□

データサイエンス数学 (11010)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
池　田　展　敏

■ 授業の概要
AI（人口知能）やIoT（モノのインターネット）など、ビッグデータを利活用した技術が社会生活を変革しつつある。データサイエンスは、データ分析を通じ、課題解決や意思決定につながる情報や知見などを提供する。この授業では、データサイエンスの発展により社会で起きている変化について学び、私たちがそれらをどのように活用すべきかを考える。また、データサイエンスの基礎となる数学を学び、受け身でなく、自らの意思で、データサイエンスの活用にアプローチできる素養を養う。自ら楽しく学べるようにグループワークも行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事等の場で使うための基礎的素養を身につける。 ・自らの意思でAI等の恩恵を享受し、説明し、活用できるようになる。 ・データ解析に必要な数学の概要を理解する。	0.5 0.5

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　１．なぜデータサイエンスが必要なのか① データサイエンスとは何か。どのようにビッグデータが集められているのか。集められたデータはどのように活用されているのか。IoT（モノのインターネット）とは？	配布資料の復習。インターネットによる調べ学習。
第２回　１．なぜデータサイエンスが必要なのか② データサイエンスによる社会（生活）の変化と情報化社会の死角。（グループワークも行う）	配布資料の復習。インターネットによる調べ学習。グループワークの復習。
第３回　２．データの種類とその多様性・活用	配布資料の復習。インターネットによる調べ学習。
第４回　３．量的データの調べ方の超基本① 度数分布とヒストグラム	配布資料の復習。インターネットによる調べ学習。
第５回　３．量的データの調べ方の超基本② 度数分布とヒストグラムの実践およびヒストグラムのみどころ	配布資料の復習。配布課題の提出。
第６回　３．量的データの調べ方の超基本③ ヒストグラムを特徴づける関数形（正規分布、指数分布、べき分布、その他）とその応用	配布資料の復習。配布課題の提出。
第７回　４．データからその背後にある構造を調べる① 散布図と回帰直線（最小二乗法）	配布資料の復習。配布課題の提出。
第８回　４．データからその背後にある構造を調べる② 重回帰分析	配布資料の復習。配布課題の提出。
第９回　４．データからその背後にある構造を調べる③ 確率過程と時系列解析	配布資料の復習。
第10回　４．データからその背後にある構造を調べる④ 時系列モデルとその応用	配布資料の復習。配布課題の提出。
第11回　５．非構造化データの解析例 テキストマイニング（演習）テキストマイニングから何がわかるか。グループワーク。	配布資料の復習。配布課題の提出。グループワークの復習。
第12回　６．データサイエンスとAIの普及と問題点① ・データと著作権・ライセンス ・データと倫理/個人情報とSNS	配布資料の復習。
第13回　６．データサイエンスとAIの普及と問題点② ・AIとは何か。 ・AIの普及と問題	配布資料の復習。
第14回　７．AI（人工知能）とはどのようなものか① AIの歴史からニューラルネットワークまで	配布資料の復習。
第15回　７．AI（人工知能）とはどのようなものか② 生成系AIを使ってみよう（演習）。利点と問題点の理解	配布資料の復習。

第16回　期末試験（提出課題による）	課題プリントを使って授業全体を復習する。

■ 履修上の注意
PCを使う場合があるので、必要に応じ持参してください。
クラスルームを使って諸連絡を行いますので、必ず活用してください。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（コメントシートなどの提出、提出課題、グループワークへの参加度など）：60%,
期末試験の代替提出課題：40%。
提出物はコメントをつけて返却します。

■ 教科書
授業時、またはクラスルームで、必要な資料を配布します。

■ 参考書
[データサイエンスリテラシー][髙橋弘毅・市坪誠・河合孝純・山口敦子][実況出版][2, 530円]

■ 備考
質問については、授業終了後、または、クラスルームで受け付けます。

経済学

(11011)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
星　　雅　博

■ 授業の概要
日本は、戦後奇跡的な経済成長を遂げ、経済大国となった。だが、近年、近隣諸国の経済成長に伴い相対的に日本の国際的な経済力が低下してきており、国際的、多角的な視点で経済の動きを読める能力がますます求められてきている。また、日本は世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもあり、生産人口の減少による経済成長率の鈍化が懸念されている。このような、内外の経済問題に対応するための基礎知識を修得し、一国経済の動向や国民の経済生活の問題点、改善策を考える力を修得することを目的とする。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・経済を学習する上で必要な基礎知識を身につける。 ・社会人としての経済を読む専門的な知識を身につける。	0.6 0.4

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（経済学とは何か。）	経済学の考え方をミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第２回　社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給	需要と供給の内容をミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第３回　消費者の選択と消費需要の決定	消費者選択の過程をミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第４回　企業の生産行動	生産行動の過程をミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第５回　余剰、企業の集中、市場の失敗	市場の失敗の内容をミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第６回　国民所得とは	国民所得の定義をミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第７回　景気	景気の種類をミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第８回　財政	財政のしくみをミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第９回　金融	金融のしくみをミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第10回　財政・金融政策	財政・金融政策の効果をミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第11回　国際収支統計、国際通貨制度、貿易に関する基礎理論	国際通貨制度のしくみをミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第12回　国際経済機構と地域経済連携、ＥＰＡとＯＤＡ	国際経済機構と地域経済連携の内容をミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第13回　戦後の国際経済制度	国際経済制度の変遷をミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第14回　日本経済の変遷	日本経済の変遷をミニテストで確認する。 次回の経済用語を調べる。
第15回　経済史と経済学史	歴史の変遷をミニテストで確認する。 これまでの内容の総括をする。

■ 履修上の注意
常に、新聞等（政治・経済）に目を通し、現実の経済動向が講義の内容のどこに関連するかを意識する。

■ 成績評価方法・基準
平常点８０％（平常点は、授業への参加状況、態度およびミニテスト等で総合的に判断する）。まとめテスト２０％（必ず提出すること。未提出の場合評価の対象外とする。）
ミニテスト、まとめテストは基本授業中にフィードバックする。

■ 教科書
事前にプリントを配布する。

■ 参考書
①〔入門経済学〕〔伊藤元重〕〔日本評論社〕〔3，000円＋税〕
②〔日本経済図説〕〔宮崎勇/本庄真/田谷禎三〕〔岩波新書〕〔1，000円＋税〕

■ 備考
最初の講義に受講上のルールを説明する。
質問等は授業終了時に受け付ける。

社会学Ⅰ

(11012)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
庄　司　一　平

■ 授業の概要
各回1つのテーマについて、根本から考えなおす社会学入門。社会と個人の関係に関する知識社会学の考え方を参考にしつつ、各トピックについて概説する。時代の変化という縦軸と、社会の多様性という横軸とを組み合わせながら、近現代におけるさまざまな社会現象の歴史的因果関係と構造的特性を考える。基礎知識の習得だけでなく、〈社会学的なものの見方〉を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけ行うことを目的とする。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・社会に関する幅広い教養を身につける	0.5	0.15		0.15		0.1		0.1	
・社会学的なものの見方をふまえた思考力・判断力を身につける									
・社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　イントロダクション	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 「社会」という言葉～起源と類型～
第２回　「自己と他者」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 アイデンティティと社会化、役割理論、ゲーム理論
第３回　「家族」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 ヒトとサル、結婚と性、日本のイエ制度
第４回　「共同体」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 社会集団の類型、生活空間と境界・異界
第５回　「国家」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 イデオロギーと教育、ナショナリズム
第６回　「ことば」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 記号と象徴、コミュニケーション、聖典
第７回　「あそび」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 遊びの概念、まじめ／ふまじめ、退屈と充実
第８回　「あたりまえ」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 常識の生成、制度・規範・統制・階層
第９回　「思い込み」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 知識と信念、呪術・科学・宗教
第10回　「連帯」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 ネットワーク、人間関係資本、団結と対立
第11回　「仕事」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 合理性、資本主義、交換、勤勉
第12回　「善悪」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 宗教倫理と世俗倫理、道徳と社会
第13回　「正義」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出

	人権の思想、自由・平等・政治的公正
第14回　「不安」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 恐怖と不安、不安の構造、不安への対処
第15回　まとめ	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 全体の振り返り

■ 履修上の注意
マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準
①授業の理解度（ミニットペーパー）［50%］、②期末レポート［50%］により総合的に評価する。授業中に適宜振り返りを行う。

■ 教科書
使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書
①ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1，200円＋税。
②ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成―知識社会学論考』新曜社、2，900円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考
質問等は授業終業時に受け付ける。

社会学Ⅱ

(11013)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
庄　司　一　平

■ 授業の概要

人生と生活の「時間」を社会学的に考える。どの社会においても、「人生儀礼」や「年中行事」は必ず執り行われる。「年齢」とともに変化する人生の諸段階や、「暦」にもとづいた生活のリズムについて、伝統社会（民俗社会）と現代社会（市民社会）を対比しつつ解説する。人々のさまざまな行動様式や価値観を客観的に理解し、「生きることと死ぬこと」「一年の暮らし」をめぐる諸問題について、身近な事例をもとに解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・社会に関する幅広い教養を身につける	0.5	0.15		0.15		0.1		0.1	
・社会学的想像力をふまえた思考力・判断力を身につける									
・社会学的想像力をふまえた表現力を身につける									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　イントロダクション	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 人生の時間と儀礼、生活の時間と行事
第２回　年齢と人生の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 年齢という制度・規範、年祝いと厄年
第３回　誕生の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 名づけ、初宮詣、初誕生
第４回　こどもと若者の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 七五三、成年式、通過儀礼と「一人前」
第５回　おとなの社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 縁結び、結婚と出産、家事と育児
第６回　老いの社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 老いと文化、終末期への備え、ポックリ願望
第７回　病気の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 あいまいな「病気」と「健康」、病気なおし
第８回　医療の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 医療化、代替医療、生命倫理、QOL
第９回　ケアの社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 キュアとケア、緩和ケア、心のケア
第10回　死の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 さまざまな死、死の受容、看取り
第11回　死後の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 「あの世」の比較文化
第12回　暦と行事の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 さまざまな暦法と祝日、日の吉凶
第13回　まつりの社会学（１）～春・夏～	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 正月、初午、夏まつり

第14回　まつりの社会学（２）～秋・冬～	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 七夕・お盆、年越し
第15回　まとめ	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 全体の振り返り

■ 履修上の注意
マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準
①授業の理解度（ミニットペーパー）［50%］、②期末レポート［50%］により総合的に評価する。授業中に適宜、振り返りを行う。

■ 教科書
使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書
新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）『暮らしの中の民俗学』1～3（吉川弘文館、2003年）、各2，600円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考
質問等は授業終業時に受け付ける。

歴史Ⅰ

(11014)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
栗　原　伸一郎

■ 授業の概要

史料（歴史資料）は、過去にあった出来事に迫り、考えるための材料や根拠になるものである。本講義では、伊達政宗といった仙台ゆかりの人物に関する史料をはじめ、仙台に関するさまざまな史料を取り上げて、そこから明らかになる内容について説明する。その際、史料の特徴、作成された時代的背景や作成者の意図などに注目して、史料を読解するポイントや歴史を考える方法について講義する（単純な事項の暗記ではない）。なお、教員は宮城県内の史料保存機関で勤務した経験を有する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・①歴史に親しみ、さまざまな史料があることを理解する。	0.4	0.2				0.2		0.2	
・②史料の性格を考え、そこから読み取ることができる内容を理解する。									
・③史料から過去の出来事を考えるための方法や留意点を理解する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス～講義の概要～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
第２回　史料に親しむ①手紙（1）	配布プリントを再読し、『仙台市史』（資料編）などの書籍で政宗の手紙について調べる。
第３回　史料に親しむ②編纂記録（1）	これまでの配布プリントを通読し、一次史料と編纂史料について整理する。
第４回　史料に親しむ③地図（1）	配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。
第５回　史料に親しむ④地図（2）	配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。
第６回　史料に親しむ⑤新聞	配布プリントを再読し、過去の新聞について理解を深める。
第７回　史料を読み解く①公文書・新聞	宮城県公文書館に出向き、実際に公文書について調べる。
第８回　史料を読み解く②石碑・公文書	配布プリントを再読し、身の周りに残る石碑について調べる。
第９回　史料を読み解く③日記	配布プリントを再読し、紹介した史料の時代的な特徴について理解を深める。
第10回　史料を読み解く④手紙（2）	これまでの配布プリントを通読し、読解のポイントを整理する。
第11回　史料を読み解く⑤編纂記録（2）	これまでの配布プリントを通読し、読解のポイントを整理する。
第12回　史料と人物像①伝記	これまでの配布プリントを通読し、人物の伝記に目を通す。
第13回　史料と人物像②請願書	これまでの配布プリントを通読し、紹介した史料の背景について理解を深める。
第14回　史料と人物像③現代のメディア	これまでの配布プリントを通読し、インターネットで政宗がどのように取り上げられているのか確認する。
第15回　補論と総括	これまでの配布プリントを通読し、史料を利用する際の留意点を考えてみる。

■ 履修上の注意

歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準

平常点（毎回提出するコメントの内容で受講態度や理解度を判断する）40%
レポート（講義のまとめに関するもの。文字数と理解度・考察力・文章力から評価する）60%
コメントで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

■ 教科書
毎回プリントを配布する。

■ 参考書
講義中に紹介する。

■ 備考
質問等は授業終了時に受け付ける。

歴史Ⅱ

(11015)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
石　川　光　年

■ 授業の概要
歴史学の研究は、単純な事項の暗記ではなく、さまざまな史料を駆使して歴史像を描くことが重要となる。研究の進展にともなって、それまでの歴史像（イメージ）が大きく変わることも珍しくない。本講義では、歴史上の人物や出来事などについてとりあげ、それがどのようにイメージされ語られてきたか、またそれがどのように変化したのかを説明する。授業の前半では、主にとりあげる日本中世という時代について概要を講義し、後半で人物などに焦点を当てる構成をとる。なお、教員は宮城県内の史料保存・整理にかかわる機関で勤務した経験を有する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・①歴史学の研究方法と歴史像の変化について理解する。	0.3	0.2	0.1			0.2		0.2	
・②歴史像が形成される過程や背景について理解する。									
・③歴史をさまざまな角度から考える力をつける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：講義の概要	配布プリントを読み、授業の概要について再度理解する。
第２回　歴史学の研究方法	配布プリントを読み、歴史学の研究方法について理解を深める。
第３回　日本中世とはどういう時代か	配布プリントを読み、日本中世についての理解を深める。
第４回　東北地方の古代・中世	配布プリントを読み、東北地方の古代・中世について理解を深める。
第５回　武士とはどういう人たちか	配布プリントを読み、中世の武士について理解を深める。
第６回　中世都市鎌倉	配布プリントを読み、中世の鎌倉について理解を深める。
第７回　人物と歴史①源頼朝と義経	配布プリントを読み、源頼朝・義経がどのように語られてきたかを理解する。
第８回　人物と歴史②北条時宗	配布プリントを読み、北条時宗がどのように語られてきたかを理解する。
第９回　人物と歴史③足利尊氏・直義と北条時行	配布プリントを読み、足利尊氏・直義および北条時行がどのように語られてきたかを理解する。
第10回　人物と歴史④児島高徳・青砥藤綱	配布プリントを読み、児島高徳や青砥藤綱がどのように語られてきたかを理解する。
第11回　人物と歴史⑤織田信長	配布プリントを読み、織田信長がどのように語られてきたかを理解する。
第12回　人物と歴史⑥伊達政宗	配布プリントを読み、伊達政宗がどのように語られてきたかを理解する。
第13回　人物と歴史⑦ヒトラーと日本	配布プリントを読み、ヒトラーと日本のかかわりについて理解する。
第14回　歴史はくり返すのか	配布プリントを読み、「歴史はくり返す」ことについて再度考える。
第15回　総括	授業で配布したプリントを再読し、歴史を考える際に重要な点について再度考える。

■ 履修上の注意
高校日本史・歴史総合などの教科書あるいは概説書を読んでおくと理解が深まる。また歴史Ⅰの講義を受講しておくのが望ましい。地域文化論の講義も参考になる。なお講義の進度状況によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準
平常点（毎回提出するコメントの内容で受講態度や理解度を判断する）60%
レポート（講義のまとめに関するもの。指定された形式にのっとっているか、講義の理解度・文章の書き方などによって評

価）40％
なお、コメントについては授業中にフィードバックする。

■ 教科書
毎回プリントを配布する。

■ 参考書
講義中に適宜紹介する。

■ 備考
質問等は授業終了時に受け付ける。

日本国憲法

(11016)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
横　田　尚　昌

■ 授業の概要

憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールと基本的人権を定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利及び義務（基本的人権）について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。 ・憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。 ・憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。	0.6　0.4

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）	近代立憲主義の基本原理が日本国憲法のなかにどのように生きているのかを確認する。
第２回	天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）	日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）
第３回	選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）	選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。
第４回	国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）	国家とは、「国権の最高機関」であると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。
第５回	内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）	政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。
第６回	裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）	裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。
第７回	地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）	地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。
第８回	人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）	そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のありようを理解する。
第９回	人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）	憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する
第10回	幸福追求権と法の下の平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）	幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。
第11回	内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由など

	的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）	の精神的自由権の内容について把握する
第12回	表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）	表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。
第13回	経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）	職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。
第14回	生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）	福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかように保障されているのか、またその限界について把握する。
第15回	参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）	参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。

■ 履修上の注意

身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。５回を超えて欠席（６回以上欠席）した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。

なお、法令検索は、e-GOV（イーガブ）

https://laws.e-gov.go.jp

をお勧めします。

■ 成績評価方法・基準

平常点４０％（平常点は、授業時間中の勉学姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート６０％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートの総評についてはGoogleクラスルームにてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（授業前にGoogleクラスルーム上で資料を配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーに代えて、Googleクラスルーム上で質問メッセージをお送りくだされば、これに対して随時ご返答いたします。

法学概説

(11017)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
横　田　尚　昌

■ 授業の概要

この授業では、まず、私たちの日常生活の中で、当たり前に行われている売買契約や株式会社の経営などについて、法律上の規律はどのようになっているのか、その仕組みを解き明かします。次に、社会に出ればお世話にならない人はいないであろう各種の民間保険（火災保険、自動車保険、生命保険、傷害・疾病・入院保険など）の加入時から終了時（保険金支払を含む）に至るまでのルールを概観した上で、保険契約をめぐる様々なトラブルの事例について紹介し、その対処のあり方を解説します。

保険契約をめぐっては、いったんトラブルに巻き込まれると、その解決は複雑で困難なものとなりがちですが、ほんの少しの知識があるだけで、そうしたトラブルを回避できるのも事実です。ですから、みなさんには、そうしたほんの少しの知識をできるだけ幅広く、わかりやすくお教えして、保険会社からの保険保護の提供が、みなさんにとって有意義なものとなるように願いながら、この授業を進めていきます。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・法学一般の考え方が身についている。 ・社会問題を法学という視点から考えることができる。 ・損害保険と生命保険、そして傷害疾病保険の基礎的なルールを身につけ、保険をめぐって、どのようなトラブルが起こるのかが理解出来ている。	0.6　0.4

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	
第２回　契約とは	契約とは何かを調べる。
第３回　売買契約の成立過程	意思表示の合致の意義について理解する。
第４回　売買契約をめぐるトラブル	取消と解除の違い、危険負担とは何かについて理解する。
第５回　民法における代理	代理人の職務について理解する。
第６回　株式会社のしくみ	法人、株式、機関の各概念について理解する。
第７回　株式会社をめぐるトラブル	裁判で争われた株式会社をめぐるトラブル事例について整理する。
第８回　保険とは何か	射倖契約の特徴について理解する。
第９回　損害保険における被保険利益と利得禁止原則	損害が発生した者にしか損害保険金は支払われないことと、損害額以上に保険金は支払われないことについて理解する。
第10回　火災保険	火災保険のしくみと、それをめぐるトラブルの事例について理解する。
第11回　責任保険、自賠責保険	責任保険の特質と自賠責保険制度の意義と特徴について理解する。
第12回　任意自動車保険、保険代位	任意自動車保険には様々な種目の保険があることと、それぞれの保険保護の特徴について把握する。保険代位がなされる理由を理解する。
第13回　生命保険、告知義務	生命保険の基本的なしくみと、告知義務の意義と必要性について理解する。
第14回　傷害保険	傷害保険金請求権の行使条件となる急激性・偶然性・外来性について理解する。
第15回　疾病保険（がん保険や入院保険など）について	疾病保険をめぐるトラブルの事例を理解する。

■ 履修上の注意

私たちの生活のどのようなところで、どのような法規制がどのような効果をもたらしているかを、日頃から気を付けてみておいてください。欠席数が明らかに多いと認められる者には単位を与えない。

■ 成績評価方法・基準

平常点４０％（平常点は、授業時間中の勉学姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート６０％（レポート

のテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートの総評についてはGoogleクラスルームにてフィードバックをする。

■ 教科書
特になし（授業前にGoogleクラスルーム上で資料を配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書
授業中に指示する。

■ 備考
オフィスアワーに代えて、Googleクラスルーム上で質問メッセージをお送りくだされば、これに対して随時ご返答いたします。

哲学Ⅰ

(11018)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
徳　田　幸　雄

■ 授業の概要

人間は何のために生きるのか？死んだらどうなるのか？無になってしまうのか、それともあの世で生き続けるのか？人間にとって幸福とは何なのか？愛とは何か？善とは何か悪とは何か？これからは、これまで人類が問い続け、そして今なお問い続けている諸問題でもある。本授業では、古代ギリシャを代表する哲学者たち（ソクラテス・プラトン・アリストテレス）がこれらの根本的な問いについてどのように考えたのかを、当時の時代的・社会的背景および彼らのライフヒストリーもふまえつつ概説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・死生観についての基本的な知識を身につける	0.5	0.25				0.25			
・人生観についての考察を深める									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	要しない
第２回　古代ギリシャの時代背景―アテネとスパルタ―	チェックテスト①を見直す
第３回　ソクラテス①『ソクラテスの弁明』より	チェックテスト②を見直す
第４回　ソクラテス②『クリトン』より	チェックテスト③を見直す
第５回　ソクラテス③『パイドン』より	チェックテスト④を見直す
第６回　プラトン①　プラトンの生涯	チェックテスト⑤を見直す
第７回　プラトン②　イデア論	チェックテスト⑥を見直す
第８回　プラトン③　想起説	チェックテスト⑦を見直す
第９回　プラトン④　愛と美について	チェックテスト⑧を見直す
第10回　プラトン⑤　徳と善について	チェックテスト⑨を見直す
第11回　アリストテレス①　アリストテレスの生涯	チェックテスト⑩を見直す
第12回　アリストテレス②　三原理と四原因説	チェックテスト⑪を見直す
第13回　アリストテレス③　自然観、神観	チェックテスト⑫を見直す
第14回　アリストテレス④　霊魂観、倫理観	チェックテスト⑬を見直す
第15回　試験	要しない
第16回　試験の返却、フィードバック	要しない

■ 履修上の注意

公欠を除いて、６回以上欠席した場合は受験資格を失う。

■ 成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト（５０％）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。
学期末の試験（５０％）

■ 教科書

使用しない。授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

哲学Ⅱ

(11019)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
徳　田　幸　雄

■ 授業の概要

「人間とは何か？」この問いは、近代以降の価値観の多様化・多元化に伴い、改めて問い直されるようになった根本的な問いである。本授業では、この問いについて、中世の主役とも言える世界三大宗教（キリスト教、イスラーム、仏教）を中心とする諸宗教においてどのように捉えられていたかを概説した上で、近代以降に人類が直面している生命倫理の諸問題（断種や中絶など）について、その基本的な議論を解説し、さらに深い考察を促してゆく。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・幅広い人間観を身につける。	0.5	0.2				0.2		0.1	
・諸宗教の基本的な知識を身につける。									
・生命倫理の問題に関する知識を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	要しない
第２回　ユダヤ教の人間観	チェックテスト①を見直す
第３回　キリスト教の人間観①　原罪とは？	チェックテスト②を見直す
第４回　キリスト教の人間観②　キリスト教史	チェックテスト③を見直す
第５回　イスラームの人間観①　六信より	チェックテスト④を見直す
第６回　イスラームの人間観②　五行より	チェックテスト⑤を見直す
第７回　インドの諸宗教における人間観	チェックテスト⑥を見直す
第８回　仏教の人間観①　四諦より	チェックテスト⑦を見直す
第９回　仏教の人間観②　日本仏教より	チェックテスト⑧を見直す
第10回　神道における人間観	チェックテスト⑨を見直す
第11回　スピリチュアリズムにおける人間観	チェックテスト⑩を見直す
第12回　近代人と死－エリアーデ宗教学を手がかりに―	チェックテスト⑪を見直す
第13回　優生思想について	チェックテスト⑫を見直す
第14回　人工妊娠中絶について	チェックテスト⑬を見直す
第15回　試験	要しない
第16回　試験の返却、フィードバック	要しない

■ 履修上の注意

公欠を除いて、６回以上欠席した場合は受験資格を失う。

■ 成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト（５０％）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。
学期末の試験（５０％）

■ 教科書

使用しない。授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

心理学Ⅰ

(11020)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い，心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究のプロセス，とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について，実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として，行動主義心理学や社会的学習理論，精神分析などを取り上げ，それぞれの理論を説明する。また，記憶の実験を体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1. 条件操作的な実験による仮説検証プロセスがこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。 ・2.　行動主義心理学，社会的学習理論，精神分析の各理論の人物名とキーワードを理解する。 ・3. 記憶のメカニズムについて感覚的記憶，短期記憶，長期記憶の関係を理解し，説明できるようになる。	0.8　0.2

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（教授内容と教育目標）－見る、聞くとはどういうことかー	シラバスを熟読すること。
第２回　条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話などー	資料を熟読し，要点をまとめること。
第３回　心理学の目標と研究のプロセス	資料やノートを復習し，要点をまとめること。
第４回　説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果	実験の結果を理解し，考察ついてまとめること。
第５回　「心理学を勉強すれば人の心がわかるようになる」という考え方について	「人の心などわかるはずがない」という文章を読み、心理学についてよく考えること。
第６回　現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）	レスポンダント条件づけについて調べること。
第７回　現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）	オペラント条件づけについて調べること。
第８回　現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）	「観察学習」について調べること。
第９回　現代の心理学の背景④ 精神分析（フロイトの理論）	無意識や抑圧について調べること。
第10回　精神分析における自我防衛のメカニズム	資料を熟読し，専門用語を理解すること。
第11回　自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説	資料を熟読し，練習問題に取り組むこと。
第12回　まとめの小テスト	あらかじめ復習してテストに臨むこと。
第13回　記憶の実験　－系列位置曲線と系列位置効果－	実験結果の考察を考え，レポートすること。
第14回　記憶のしくみ　－感覚的記憶・短期記憶・長期記憶－	ノートを見直し，専門用語を理解すること。
第15回　エビングハウスの忘却曲線について	資料とノートを見直し，感想をまとまること。
第16回　試験	試験対策の学習をすること。

■ 履修上の注意
毎回，ミニットペーパーに感想やわかったこと，わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準
レポート課題20%，試験80%
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。
各回の授業でのミニットペーパーについては，次回の授業内でフィードバックを行う予定である。
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。

■ 教科書
授業の中で資料（プリント）を配布する。

■ 参考書
授業の中で適宜，紹介する。

■ 備考
質問等については，ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ，説明します。また，授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

心理学Ⅱ

(11021)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
性格はどのようにして測定されるか、性格は変えることができるか、というテーマについて講義する。とりわけ、性格検査（心理テスト）の種類とそれぞれの長所、短所について講義する。また、性格検査を使わずに他者の性格を推測するときに注意すべきことや陥りやすい誤った判断について解説する。性格を変えるための認知療法や交流分析といった心理療法については実習形式で学べるようにする。講義を通して心理学には性格に関する唯一絶対の理論はなく、様々な理論や方法があることを学べるようにする。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・質問紙法、作業検査法、投影法それぞれの長所と短所を理解できるようになる。 ・認知療法の「７つのコラム法」が気分(感情）の改善に効果があるのはなぜか、説明できるようになる。 ・交流分析における「エゴグラム」を作成し、その意味について理解し、自己の性格をどのように改善していけばよいか、分析できるようになる。	0.8　0.2

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（教授内容と教育目標）	シラバスを熟読すること。
第２回　質問紙法の性格検査（YG性格検査）の測定方法	YG性格検査の測定方法を調べること。
第３回　質問紙法の性格検査（YG性格検査）の問題点	YG性格検査の問題点を理解すること。
第４回　作業検査法（内田クレペリン検査）の特色と問題点	内田クレペリン検査の測定方法を調べること。
第５回　投影法の種類	投影法の種類と特徴を調べること。
第６回　他者の性格を推論するときに注意すべきことー認知のゆがみー	資料とノートを復習し、専門用語を理解すること。
第７回　性格とは何かービッグファイブと年齢による変化ー	資料をよく読み、要点をレポートすること。
第８回　論理療法とは	思考と感情と行動の関係を理解すること。
第９回　認知療法の「７つのコラム」の作成方法について	「７つのコラム」の要点をまとめること。
第10回　「私の７つのコラム」の作成	「７つのコラム」を実際に作成し、感想をまとめること。
第11回　交流分析における基本的な考え方（人間観）－５つの自我状態についてー	５つの自我状態について調べること。
第12回　交流分析におけるエゴグラムの作成	自分のエゴグラムについて分析してみること。
第13回　自分と他者に対する構え（人生に対する構え）	自分のエゴグラムの結果について分析を深めること。
第14回　交流分析における基本的な考え方（人間観）－人間関係についてー	自分はどのようにしてストロークを得ているか分析すること。
第15回　全体のまとめ	わかったこと、わからなかったことを整理しておくこと。
第16回　試験	復習をしておくこと。

■ 履修上の注意
毎回、ミニットペーパーに感想、わかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準
レポート課題２０％、試験８０％。
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。
各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業でフィードバックを行う予定である。

■ 教科書
授業の中で資料（プリント）を配布する。

■ 参考書
授業の中で適宜、紹介する。

■ 備考
質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業で取り上げ、説明します。また、授業終了時、あるいはオフィスアワーを利用して質疑応答することも可能です。

美術

(11022)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
齋　藤　守　彦

■ 授業の概要

本講義は美術表現学科教員による授業である。美術が生活文化の重要な構成要素であることへの理解を促し、日常目にするさまざまな事象・事物に対して造形的な見方・考え方を働かせようとする意識を育む。さらに表現媒体の講義・演習を通して、美術における基礎／応用そして普遍性／多様性を横断的に理解し、次の自身の制作のモチベーションに繋げられるように指導するとともに、各人の新たな美術的な価値観の構築を支援する。これまでの中学校美術科教員としての実務経験を生かし、より具体的な美術表現及び鑑賞に関する指導を行っていきたい。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・「美術」が生活の中でどのように生きて働くのかを理解できるようになる。	0.6　0.4
・美術表現の基礎的な方法を理解できるようになる。	
・多様な美術的な価値観を受容する力を身に付ける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：年間の学修計画を知り、見通しを持った後、以下のテーマで話し合う。「美術を通して身に付く力とは」「その中で生きていく上で必要な力とは」（アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	（事後）テーマについての自分の考えをまとめ、期日まで提出。
第２回　想像クロッキー（イメージする力を育むための一案)講義及び作品制作	（事後）作品を期日まで提出。次回の準備物の用意をする。
第３回　一体的な学習・教科等横断的な学習①（立体デザイン）講義及び作品制作	（事前）作品の構想を練り、作品制作に必要な材料や用具を準備しておく。 （事後）作品を完成させ、次回に持参する。
第４回　一体的な学習・教科等横断的な学習②（空想の物語づくり）講義及び作品制作	（事前）前回の作品の動きを確認し、修正を加えて当日持参する。 （事後）物語を完成させ、次回に持参する。
第５回　一体的な学習・教科等横断的な学習③（想像画）講義及び作品制作	（事前）完成した物語を読み、一番よい場面を選んでおく。 （事後）想像画を完成させ、期日まで提出する。
第６回　一体的な学習・教科等横断的な学習④（平面デザイン）講義及び作品制作	（事前）平面デザインの構想を練っておく。 （事後）平面デザインを完成させ、期日まで提出する。
第７回　中学生向けのデッサンの指導法（透視図法の概要も含む）講義及び作品制作	（事前）空のラベル付きペットボトルを準備しておく。 （事後）デッサンを完成させ期日まで提出する。
第８回　日本絵画の表現の変化（鑑賞）講義及び感想記録作成	（事後）期日まで感想記録を提出する。
第９回　脳裏のデッサン（頭の中を見て描く）講義及び作品制作	（事前）脳裏のデッサンの構想を練っておく。 （事後）脳裏のデッサンを完成させて期日まで提出する。
第10回　中学生向けの平面構成の指導法（配色カードも使用）　脳裏の平面構成①（アクリル絵の具での作品制作）講義及び作品制作	（事後）次回の前半で完成できるように脳裏の平面構成の制作を進めておく。
第11回　脳裏の平面構成②　アクリル絵の具での作品制作及び講評	（事前）制作途中の脳裏の平面構成を当日まで持参する。 （事後）脳裏の平面構成を完成させ期日まで提出する。
第12回　色相反転での表現（ICT機器を使用した表現）講義及び作品制作	（事前）風景やものの写真を撮ってコンピュータに保存しておき、当日コンピュータを持参。 （事後）色相反転作品を完成させ、期日まで提出。

第13回	脳裏の絵画①　講義及び支持体・描画材自由の作品制作	（事前）脳裏の絵画の構想を練っておく。 （事後）脳裏の絵画の制作を進める。
第14回	脳裏の絵画②　支持体・描画材自由の作品制作	（事後）脳裏の絵画の制作を進める。
第15回	脳裏の絵画③　作品のプレゼンテーション及び講評	（事後）脳裏の絵画の制作を継続。他の学生の発表についてまとめ、参考資料として今後に生かす。脳裏の絵画は完成させて期日まで提出。

■ 履修上の注意
・各回の授業に必要な事前準備については適宜指示をする。
・各回ごとに持参物が異なるため、事前に確認・準備し、忘れないように持参のこと。

■ 成績評価方法・基準
・授業態度(受講率・課題等の提出率、自ら求めて学ぶ姿勢、課題に対して取り組む姿勢、他と協働する意識）･･･50%
・課題の内容(テーマや授業内容の理解、課題に対する発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力）･･･50%

■ 教科書
〔中学校美術資料「宮城の美」〔秀学社編〕〔820円〕

■ 参考書
適宜指示する。

■ 備考
・授業内容の理解および理解状況等により、授業計画の変更することがある。
・質問等については、授業終了時等に受け付ける。

生活文化論

(11023)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
津　上　　誠

■ 授業の概要

この授業での「生活文化」とは、各社会の人々が日々の生活の中でアタリマエのこととして繰り広げている「ものの見方・考え方」や「生活様式」のことです。そのあり方は社会によって実に多種多様です。本授業では多様な異文化（かつての日本社会で繰り広げられていた文化を含む）を理解していくことを通じ、私たちにとってのアタリマエが実は少しもアタリマエではなかったことに気づいて行きます。また、そんな中でも「どこに行っても変わらない人間らしさ」というものも探究して行きます。以上の研究スタイルは授業担当者（津上）の専門でもある「文化人類学」の研究手法なのですが、授業では抽象的な議論は最小限にし、できる限り具体的にわかりやすくお話しして行きます。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・①異文化理解を通じて自文化に気づく。 ・②異文化理解と自文化への気づきの間の往復運動を通じて「人間とは何か」を考える。 ・③文化人類学という学問の探究姿勢を身につける。	0.7　0.3

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「生活文化」について文化人類学はどのような探究の仕方をするのか？ ～南インドのナヤール人における「家族」を題材に～	私たちがアタリマエに思っている家族の構成を念頭に置いた上で今回の授業を受講してほしい。受講後には、文化人類学の探究姿勢について人にも伝えられるよう、ノートをよく見返しておくこと。
第２回　手食の人々 ～人間が食を味わうとはいかなることなのか？～	人間はただ単に口と鼻で食を味わう生き物なのかどうか、考えを巡らせた上で、今回の授業を受講してほしい。受講後は、学んだことを人にも伝えられるように復習を重ねること。
第３回　コミュニケーションの基本構造 ～以心伝心なんて存在しない～	AさんがBさんに何かを伝えているとき、そこで起こっていることは何なのかを丁寧に考えてみた上で今回の授業を受講してほしい。受講後は、授業の全体像を幾度も思い返し、人にも説明できるようにしておくこと。
第４回　コトバはものをあらしめる	コトバを持たない人が身の回りの事物を見たとき、どのように見えているかを想像した上で、今回の授業を受講してほしい。受講後は、授業の内容を振り返り、人にも説明できるようにしておくこと。
第５回　虹が３色に見える人々について	虹は３色だと言い張る民族がおり、実際にそう見えているらしい。それはなぜなのかを想像しておくこと。受講後は、授業内容を振り返り、人にもわかりやすく説明できるようにしておくこと。
第６回　現代日本人はなぜヘビやカエルが気持ち悪いのか？	現代日本人なら、ヘビやカエルは食べることなど思いもよらない生き物だと普通考えるが、実際のところ栄養面や衛生面ではどうなのだろう？その上で、なぜ気持ち悪いと思うのかを考えておいてほしい。受講後は、相手を納得させられる説明ができるよう、内容をよく復習しておくこと。
第７回　排泄物はなぜきたないのか？	人間の身体から出てくる排泄物の穢れについても、衛生面で本当に説明し切れるのか、考えておいてほしい。受講後は、やはり相手に納得してもらえるような説明ができるよう、授業内容をよく復習しておくこと。
第８回　「穢れた（けがれた）人々」への差別をめぐって	かつてのアメリカ社会で同性愛者が迫害された理由は、煎じ詰めれば、この人々が男とも女とも分

	類しきれない存在であったからだと言える。分類しきれないことを理由とした迫害は他にもいくらでもあるから探しておいてほしい。受講後は授業趣旨をよく思い返し、ひとにも説明できるようにしておくこと。
第９回　３つの交換と間柄	人間社会におけるモノや働きのやりとり（交換）には大きく言って3種類しかなく、それぞれが独自の人間関係を作る、ということを話すので、どんな話になるか想像だけでもしておいてほしい。受講後は復習を積み重ね、納得のいく説明がひとにもあできるようにしておくこと。
第10回　「身内」とは何か	第１回授業で扱ったナヤール人の家族は父と母と子を基本とはしていなかったが、立派な家族（身内）として機能していた。家族（身内）が生物学的つながりを必要条件にしないのなら、では家族は何を基本にして成り立っているのだろうか。これを考えてきてほしい。受講後は授業内容を丁寧に振り返り、人にも説明できるようにしておくこと。
第11回　贈与交換と力、および贈与物に宿る魂について	贈与は第9回で述べた３つの交換の一つだが、３つの交換それぞれのもつ重みが、伝統社会と現代社会とでどう変わってきているか、ぼんやりとでもいいから考えてきてほしい。受講後は贈与交換が持つ重要性の変化についてシャープに論じられるようにしておくこと。
第12回　和製ポップスに見るロマンティックラブの変遷	流行歌の変化に日本社会における男女関係のあり方の変化を読み取ると予告しておくので、あなたの知るラブソングのいくつかを思い起こしておいてほしい。受講後は授業を振り返りながら人に内容を説明できるようにしておくこと。
第13回　現代日本人は無宗教か	タイトルにある通りの問いをなるだけ深く検討してきてほしい。受講後は人に内容を説明できるようにしておくこと。
第14回　「私」という像の結ばれ方	かつては多くの社会において「子ども」は成人儀礼を経て「大人」へと変身した。人々の圧倒的な意味づけの力によって、子どもは否応なく大人になったのだ。この様子を現代日本社会と比較しイメージしておいてほしい。受講後はかつての社会と現代社会とにおける「私」の成立の仕方の異なりを説明できるようにしておくこと。
第15回　授業の振り返りと本試験	15回分の授業内容について、ノートを見なくても要点をわかりやすく人に伝えられるよう、準備しておくこと。

■ 履修上の注意

毎回授業の終了時に「小テスト/小レポート」を課し、「合格」か「不合格」かを判定します。合計で15回の「小テスト/小レポート」が課せられことになりますが、そのうち10回（10枚）以上が「合格」でなければ、単位授与はできなくなりますので、十分注意してください。

（この「小テスト/小レポート」は、単に難問を出して振り落とすためのものではなく、あなたがちゃんと理解しようとして聞いていたかを判別するためのものです。たとえ誤ったことが書いてあっても、あなたが授業をわかろうとして真剣に聞いていたと判断できる回答であれば、合格となりますので、とにかくわかろうとする努力を心がけて受講してください。

（わかろうとする努力を重ねて授業内容の理解が進んでいけば、たいていの人にとってはおもしろい授業となり、最後の試験勉強も苦にならなくなるはずです。）

なお、遅刻は減点扱いとなりますので、こちらもご注意を。

■ 成績評価方法・基準

授業最終回に「本試験」をノート持ち込み不可で行い、その得点があなたの成績となり、合不合格の判定材料になります。ただし上述したように、15回の「小テスト/小レポート」で10回以上合格した受講生でなければ、最終回の「本試験」は合格できません。

■ 教科書

特に指定しません。

■ 参考書
『文化人類学のコモンセンス～文化人類学入門～』浜本満ほか（編）、学術図書出版社、2200円
必ず読まなければならないわけではありませんが、私の知る限り、最良の入門書です。

■ 備考
質問等は下記のアドレスまで。
makototsugami@yahoo.co.jp
質問等は授業終了時にも受け付けます。

災害と防災

(11024)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (15 + 30)
対象学科：健専1年・服専1年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
本講義では、地震・火山列島の日本で発生している様々な自然災害について、その発生の仕組みや被害の特徴、人々の健康や生活への影響について理解する。また、今後予想される災害に対してどのように備えることができるのか、災害発生時に被害を少なくする減災の方法や行動はいかにあるべきかについて、阪神・淡路大地震や東日本大震災等の過去の大規模災害の事例から基礎となる知識や考え方について説明する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・自然災害の特徴と対策に関する基礎的な知識を身につける ・災害が人々に及ぼす影響について理解を深める ・防災対策や避難行動における基本的な知識を身につける	1

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　災害に関する基礎的知識：災害の定義、自然災害発生の現状	予習：災害、自然災害等のキーワードについて調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第2回　災害を知る①：地震・津波災害の特徴と対策	予習：地震や津波についてネットや書籍等で調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第3回　災害を知る②：雪・風水災害の特徴と対策	予習：雪害、風水害についてネットや書籍等で調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第4回　災害が及ぼす影響：心身の健康、生活、地域社会	予習：災害による健康被害や生活への影響を調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第5回　災害前の防災対策や教育	予習：防災対策についてネットや書籍等で調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第6回　災害発生時の避難方法	予習：避難方法についてネットや書籍等で調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第7回　防災と安全・安心、スフィア基準	予習：スフィア基準等のキーワードについて調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第8回　期末テスト（まとめ）	予習：これまでの授業内容を確認し、知識を整理する。 復習：出題された事柄や解答を配布資料等で確認する。

■ 履修上の注意
全8回の授業のため欠席は3回までとなりますが、やむを得ない理由の場合は考慮しますので、必ず教員に申し出て下さい。
遅刻等の取り扱いは20分以内とします。

■ 成績評価方法・基準
全体（100%）のうち、授業態度（ミニットペーパー、並びに授業での発言や質問）が40%、期末テストで60%の評価をします。

■ 教科書
なし（適宜プリントを配付）

■ 参考書
なし

■ 備考

・この授業は生文大高の高大単位認定型授業を兼ねるため、大学生と高校生が同じ教室で履修する可能性があります。
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

英語Ⅰ

(11025)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専1年・服専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
ブシャー　シルベ

■ 授業の概要

英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身に着けさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。また、日常的な練習の一環として、言語学習アプリを利用したアクティブラーニングを行います。英語ⅠではUnit 1～6を取り上げる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。 ・世界の文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。 ・ペアーワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行う。	0.4 0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 Class overview: Learning goals and strategies	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第2回 (Unit 1) Vocabulary & Listening	Unit 1 解説及び activities Wh-Questions & Yes/No Questions（疑問文）
第3回 (Unit 1) Pair Work & Language Check	Unit 1 解説及び activities Wh-Questions & Yes/No Questions（疑問文）
第4回 (Unit 2) Vocabulary & Listening	Unit 2 解説及び activities Adjectives（形容詞）
第5回 (Unit 2) Pair Work & Language Check	Unit 2 解説及び activities Adjectives（形容詞）
第6回 Review, Unit test: Units 1 & 2	復習、テスト
第7回 (Unit 3) Vocabulary & Listening	Unit 3 解説及び activities Imperatives（命令形）
第8回 (Unit 3) Pair Work & Language Check	Unit 3 解説及び activities Imperatives（命令形）
第9回 (Unit 4) Vocabulary & Listening	Unit 4 解説及び activities Giving Directions（道案内・前置詞）
第10回 (Unit 4) Pair Work & Language Check	Unit 4 解説及び activities Giving Directions（道案内・前置詞）
第11回 Review, Unit test: Units 3 & 4	復習、テスト
第12回 (Unit 5) Vocabulary & Listening	Unit 5 解説及び activities Demonstratives（指示代名詞）
第13回 (Unit 6) Vocabulary & Listening	Unit 6 解説及び activities Future Tense（未来形）
第14回 (Unit 6) Pair Work & Language Check	Unit 6 解説及び activities Future Tense（未来形）
第15回 Review, Unit test: Units 5 & 6	アンケート、復習、テスト

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テスト、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）
各Unitのまとめテスト（3回）60%（小テストおよびテストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書
〔ENGLISH FIRSTHAND (5E) SUCCESS〕〔Marc Hegelsen, John Wiltshier, Steven Brown著〕〔Pearson〕〔3, 498円（税込）〕

■ 参考書
なし

■ 備考
Duolingo、Google Classroom、My Mobile Worldなどのアプリを使用する
質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

英語Ⅱ

(11026)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (30 + 15)
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
ブシャー　シルベ

■ 授業の概要
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身に着けさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。また、日常的な練習の一環として、言語学習アプリを利用したアクティブラーニングを行います。英語II ではUnit ７～１２を取り上げる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。 ・世界の文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。 ・ペアーワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行う。	0.4 0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回 Class overview: Learning goals and strategies	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第２回 (Unit 7) Vocabulary & Listening	Unit 7 解説及び activities Wh-Questions（疑問詞）
第３回 (Unit 8) Vocabulary & Listening	Unit 8 解説及び activities Comparatives & Superlatives（比較表現）
第４回 (Unit 8) Pair Work & Language Check	Unit 8 解説及び activities Comparatives & Superlatives（比較表現）
第５回 Review, Unit test: Units 7 & 8	復習、テスト
第６回 (Unit 9) Vocabulary & Listening	Unit 9 解説及び activities Can VS Could（助動詞・現在形VS過去形）
第７回 (Unit 9) Pair Work & Language Check	Unit 9 解説及び activities Can VS Could（助動詞・現在形VS過去形）
第８回 (Unit 10) Vocabulary & Listening	Unit 10 解説及び activities Gerunds & Infinitives（動名詞・不定詞）
第９回 (Unit 10) Pair Work & Language Check	Unit 10 解説及び activities Gerunds & Infinitives（動名詞・不定詞）
第10回 Review, Unit test: Units 9 & 10	復習、テスト
第11回 (Unit 11) Vocabulary & Listening	Unit 11 解説及び activities Modals for Permission（助動詞・許可）
第12回 (Unit 11) Pair Work & Language Check	Unit 11 解説及び activities Modals for Permission（助動詞・許可）
第13回 (Unit 12) Vocabulary & Listening	Unit 12 解説及び activities Sequence Words（順序表現）
第14回 (Unit 12) Pair Work & Language Check	Unit 12 解説及び activities Sequence Words（順序表現）
第15回 Review, Unit test: Units 11 & 12	復習、テスト

■ 履修上の注意
積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準
平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テスト、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）
各Unitのまとめテスト（３回）60%（小テストおよびテストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書
〔ENGLISH FIRSTHAND (5E) SUCCESS〕〔Marc Hegelsen, John Wiltshier, Steven Brown著〕〔Pearson〕〔3, 498円 (税込) 〕

■ 参考書
なし

■ 備考
Duolingo、Google Classroom、My Mobile Worldなどのアプリを使用する
質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

英会話Ⅰ

(11027)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (30 + 15)
対象学科：服専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
上之原　博　子

■ 授業の概要
中学、高校で学んだ英語を基礎にして、簡単な挨拶、自己紹介等ができるように繰り返し指導する。テキストを用い、読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、英語で楽しくコミュニケーションがとれるようにします。グループワークとして、ロールプレイ、さらには実際に英語の会話文を作り、英語を楽しみながら学ぶことを目指します。また、授業を通して異文化を理解するよう指導します。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1．基礎的な会話で他者とのコミュニケーションがはかれる。	0.2			0.3		0.1	0.4		
・2．自分自身に関する事柄について説明できる。									
・3．グループ活動を通して、責任感、自己管理能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　ガイダンス。挨拶と自己紹介。Unit1自分の事を英語で話す。	自己紹介文を考えてくる。
第2回　自分の日常生活を友人に話す。	Unit1の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第3回　自分の好きなことを話す。	Unit2の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第4回　様々な場所について話す。	Unit3の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第5回　道案内をする。	Unit4の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第6回　買い物をする。	Unit5の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第7回　1～6の復習。	Unit6の復習プリント提出。
第8回　身の回りに起きたことを話す。	Personal presentationの原稿を提出。
第9回　家族や友人について話す。	Unit8の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第10回　好きなことについて話す。	Unit9の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第11回　バケーションの過ごし方について話す。	Unit10の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第12回　人生について話す。	Unit11の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第13回　自分の希望や目標について話す。	Unit12の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第14回　7～13の復習。	自分の希望や目標について話せるように準備する。
第15回　これまで学んだことを使い、自分の事をより詳しく表現する。	これまで習った事を踏まえ、英語で自己紹介文を書き提出する。

■ 履修上の注意
授業には積極的に参加し英語を話す事と、クラスメイトや講師とのコミュニケーションには積極的な態度で取り組むこと。
授業ごとの復習プリントは、必ず次の授業で提出する事。(添削して返却します。)課題文は暗記する事。

■ 成績評価方法・基準
授業態度(ペアワーク、グループワーク積極的に参加する)20%、毎回の課題提出30%、学期末の試験50%で評価します。

■ 教科書
[Breakthrough Plus 1(Level 1) Student Book][Miles Craven][Macmillan Language House c][3, 703円（税込）]

■ 参考書

特になし。

■ 備考
質問等は授業終了後に受け付けます。

英会話Ⅰ

(11028)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (30 + 15)
対象学科：健専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
ブシャー　シルベ

■ 授業の概要
英語でのコミュニケーションのための基本的な英語のスキルと語彙を養う。各テーマはテキストを通じて進行し、主要な言語のポイントを説明しながら、ペアやグループワークを通じて英語のリスニングとスピーキングのスキルを発展させます。シンプルな英語の表現を通じて、馴染みのあるトピックについて理解し、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。また、日常的な練習の一環として、言語学習アプリを利用したアクティブラーニングを行います。英会話ⅠではUnit 1～6を取り上げる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。 ・世界の文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。 ・ペアーワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行う。	0.2			0.3		0.1	0.4		

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 Class overview: Learning goals and strategies	学習内容について確認する。Google Classroom、My Mobile Worldなどのアカウントを作成や確認する。
第2回 (Unit 1) Vocabulary & Listening	Unit 1 解説及び activities Wh-Questions & Yes/No Questions（疑問文）
第3回 (Unit 1) Pair Work & Language Check	Unit 1 解説及び activities Wh-Questions & Yes/No Questions（疑問文）
第4回 (Unit 2) Vocabulary & Listening	Unit 2 解説及び activities Imperatives（命令形）
第5回 (Unit 2) Pair Work & Language Check	Unit 2 解説及び activities Imperatives（命令形）
第6回 Review, Unit test: Units 0, 1 & 2	復習、テスト
第7回 (Unit 3) Vocabulary & Listening	Unit 3 解説及び activities There is, there are（There + BE動詞）
第8回 (Unit 3) Pair Work & Language Check	Unit 3 解説及び activities There is, there are（There + BE動詞）
第9回 (Unit 4) Vocabulary & Listening	Unit 4 解説及び activities Yes/No Questions-Daily Routines（日常生活）
第10回 (Unit 4) Pair Work & Language Check	Unit 4 解説及び activities Yes/No Questions-Daily Routines（日常生活）
第11回 Review, Unit test: Units 3 & 4	復習、テスト
第12回 (Unit 5) Vocabulary & Listening	Unit 5 解説及び activities Wh-Questions（疑問詞）
第13回 (Unit 5) Pair Work & Language Check	Unit 5 解説及び activities Wh-Questions（疑問詞）
第14回 (Unit 6) Vocabulary & Listening	Unit 6 解説及び activities Colors, Patterns & Materials（色・柄・繊維）
第15回 Review, Unit test: Units 5 & 6	アンケート、復習、テスト

■ 履修上の注意
積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テスト、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）
各Unitのまとめテスト（３回）60%（小テストおよびテストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書
〔ENGLISH FIRSTHAND (5E) ACCESS〕〔Marc Hegelsen, John Wiltshier, Steven Brown著〕〔Pearson〕〔3, 099円（税込）〕

■ 参考書
なし

■ 備考
必修Google Classroom、My Mobile Worldなどのアプリを使用する
質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

英会話Ⅱ

(11029)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専1年・服専1年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
上之原　博　子

■ 授業の概要
前期で身につけた英語力を使って、外国人に簡単な英語で対応する基本的な表現を学び、会話できるように指導します。
また、日本文化を見直し、英語での説明の仕方を解説します。演習を通して学習した事が、実際に使えるように何度も練習します。自己紹介や身近なトピック、興味のある事、また自分のふるさと等は簡単な英語で話せるように、さらに学期末には自分の考えを英語で言えるようになるよう指導します。授業は学生の学習進捗状況により進めていきます。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1．他者とのコミュニケーション能力を身につける。	0.3	0.1		0.1	0.1	0.1		0.3	
・2．様々な分野で活躍するために自分の意見をまとめて、話せるようになる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　交通案内：様々な交通機関について外国人への説明の仕方を学ぶ。 会話での質問の仕方、答え方を学び練習する。	英語での交通案内を暗記する。
第2回　日本の旅館について説明する。（入浴の仕方等） 自分の好きな事を話す。(ペアワーク)	旅館の特徴を考える。 温泉での規則、マナーを暗記する。
第3回　観光地について学ぶ。 自分の1日の過ごし方を話す。（ペアワーク）	自分の身近な観光地を調べる。好きな場所を考えてみる。自分の好きな場所を考えてくる。
第4回　街歩きのための道案内ができるようにする。	お勧めの場所を考える。道案内を練習する。
第5回　日本の年中行事を紹介する。 自分のふるさとの行事を紹介する。 英語で日本の年中行事を説明する。	紹介したい年中行事を調べる。ふるさとの行事を調べる。故郷の行事を英語で書いてくる。
第6回　日本食の紹介①代表的な日本料理。自分の好きな日本食を紹介する。 日本食を英語で説明する。	代表的な日本料理を調べる。好きな日本食を考える。課題の和食を英語で言えるように練習してくる。
第7回　日本食の紹介②気軽に楽しめる日本料理　郷土料理を紹介する。 これまで学んだ事を復習する。	気軽に楽しめる日本食を調べる。好きな郷土料理を考える。
第8回　国内旅行をアレンジする。自分の好きな場所を話す。（ペアワーク）	国内旅行をアレンジして、旅程を提出する。
第9回　英語の絵本に親しむ。英語の絵本の読み聞かせにチャレンジする。	興味のある絵本を調べてくる。
第10回　日本の伝統文化やポップカルチャーを紹介する。 自分が好きな日本文化を説明する。	紹介したい行事やポップカルチャーを調べてくる。
第11回　自分の日本文化体験を紹介する。自分が体験した日本文化を英語で説明する。	体験した日本文化について英文で書いてくる。
第12回　日本のお土産を紹介する。日本のお土産を英語で説明する。	日本のお土産を考える。日本の良いところを考える。課題文の練習。
第13回　ケガや病気の対応について学び、使えるように練習する。 また災害時の行動を英語で学ぶ。	病名や気分を表す単語を調べる。
第14回　様々なテーマで、自分の意見を述べる練習をする。	必要な単語、フレーズなどをまとめる。
第15回　学期を振り返る。今期学んだことを網羅し、オリジナルの国内ガイドブックを作成する。	これまで学習した事を、英語で自由に話す。

■ 履修上の注意
積極的に授業に参加することを求める。ペアワーク、課題の発表は英語で行う。

■ 成績評価方法・基準
平常点30%（会話練習、ペアワークの参加態度）課題、ガイドブックの提出　50%　課題提出　20%
提出した原稿は回収し、後日添削して返却する。

■ 教科書
配布するプリントを使用する。

■ 参考書
特になし。

■ 備考
質問等は授業終了後に受け付けます。

仏語 I

(11030)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (30 + 15)
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
ブシャー　シルベ

■ 授業の概要
このクラスでは、フランス語のアルファベットの基本的な発音、新しい母音、不定冠詞と名詞の性・数、不定詞、主語人称代名詞と「～である」（・tre）動詞や基礎的な疑問文に焦点を当てます。また各テーマはテキストに沿って進み、基本的な文法事項を理解しながら、ペアワークでの会話スキルの向上を図ります。目標は、シンプルなフランス文を理解し、身近なトピックに関して意見を表現できるようにフランス語のスキルを向上させることです。また、日常的な練習の一環として、言語学習アプリを利用したアクティブラーニングを行います。このクラスで使用される教材は文法を基盤としており、ユニット1から5の内容を扱います。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・フランス語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能、発音、文法と語彙を身につける。 ・世界の文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。 ・ペアーワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行う。	0.4	0.2				0.2		0.2	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第２回　Unit 0　発音編	Unit 0 解説及び練習
第３回　Unit 1　不定冠詞と名詞の性・数	Unit 1 解説及び練習
第４回　復習、Unit 1のクイズ	復習、クイズ
第５回　Unit 2　不冠詞・C’est ～ / Ce sont ～	Unit 2 解説及び練習
第６回　復習、Unit 2のクイズ	復習、クイズ
第７回　Unit 3　主語人称代名詞と「～である」動詞	Unit 3 解説及び練習
第８回　復習、Unit 3のクイズ	復習、クイズ
第９回　Unit 4　「はい」「いいえ」で答える疑問文	Unit 4 解説及び練習
第10回　復習、Unit 4のクイズ	復習、クイズ
第11回　Unit 5　「これは何ですか？」	Unit 5 解説及び練習
第12回　復習、Unit 5のクイズ	復習、クイズ
第13回　Unit 1 ～ Unit5 総合復習	Unit 1 ～ Unit5 まとめの解説及び練習
第14回　復習テスト：Unit 1 ～ Unit 5まとめ	テストに向けてUnit 1 ～ Unit 5の復習
第15回　成績の確認・フィードバック・アンケート	成績の確認・フィードバック・アンケート

■ 履修上の注意
積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準
平常点60%（授業への参加状況および毎時のクイズ、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）
復習テスト40%（クイズおよびテストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書
[新ゼロからスタートフランス語（文法編）][島崎貴則著][Jリサーチ出版][1, 200円＋税]

■ 参考書
なし

■ 備考
Duolingo、Google Classroomなどのアプリを使用する。質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

仏語Ⅱ

(11031)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (30 + 15)
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
ブシャー　シルベ

■ 授業の概要
このクラスでは、フランス語のアルファベットの基本的な発音、新しい母音、否定文・否定疑問文、形容詞の性・位置、-er で終わる規則動詞、動詞 avoir、部分冠詞に焦点を当てます。各テーマはテキストに沿って進め、基本的な文法事項を理解しつつ、ペアワークを通じて会話スキルの向上を図ります。目標は、シンプルなフランス文を理解し、身近なトピックについて意見を表現できるようにフランス語のスキルを高めることです。さらに、日常練習の一環として言語学習アプリを活用したアクティブラーニングを行います。このクラスで使用する教材は文法を基盤としており、ユニット6から10の内容を扱います。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・フランス語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能、発音、文法と語彙を身につける。 ・世界の文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。 ・ペアーワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行う。	0.4	0.2				0.2		0.2	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第２回　Unit 0（発音編）～ Unit 5の復習	Unit 0 ～ Unit 5　解説及び練習
第３回　Unit 1 ～ Unit 5の復習テスト	復習、テスト
第４回　Unit 6　否定文・否定疑問文	Unit 6 解説及び練習
第５回　復習、Unit 6のクイズ	復習、クイズ
第６回　Unit 7　形容詞	Unit 7 解説及び練習
第７回　復習、Unit 7のクイズ	復習、クイズ
第８回　Unit 8　-er で終わる規則動詞	Unit 8 解説及び練習
第９回　復習、Unit 8のクイズ	復習、クイズ
第10回　Unit 9　動詞 avoir	Unit 9 解説及び練習
第11回　復習、Unit 9のクイズ	復習、クイズ
第12回　Unit 10　部分冠詞	Unit 10 解説及び練習
第13回　復習、Unit 10のクイズ	復習、クイズ
第14回　Unit 6 ～ Unit10 総合復習	Unit 6 ～ Unit 10 まとめの解説及び練習
第15回　復習テスト：Unit 6 ～ Unit 10まとめ	テストに向けてUnit 6 ～ Unit 10の復習

■ 履修上の注意
積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。※ ≪ 履 修 資 格 ≫「仏語I」の単位を取得していること。

■ 成績評価方法・基準
平常点60%（授業への参加状況および毎時のクイズ、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）
復習テスト40%（クイズおよびテストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書
[新ゼロからスタートフランス語（文法編）][島崎貴則著][Jリサーチ出版][1, 200円＋税]

■ 参考書
なし

■ 備考
Duolingo、Google Classroomなどのアプリを使用する。質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

中国語

(11032)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専1年・服専4年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
清　水　浩一郎

■ 授業の概要

この授業の目的は、中国語でコミュニケーションを取る際に必要とされる基礎的な事項を身につけることにあります。中国語には日本語にない発音や発声の抑揚があります。まずは発声練習をおこない、これらを正しく身につけましょう。次に、会話の練習や練習問題に取り組み、これらを通じて自己紹介や挨拶、簡単な日常会話などを習得しましょう。また、中国の文化や習慣、旅行で役立つ情報なども、随時紹介いたします。□

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・正確な中国語の発音が身につく	0.8 0.2
・中国語で簡単な会話ができるようになる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　ガイダンスおよび、中国語の発音記号・単母音の練習	教科書を購入して目を通す（12～16頁）。
第2回　複合母音の発音練習	事前：教科書（19・20・23～26頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第3回　子音の発音練習	事前：教科書（17～18・21～22頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第4回　要注意な発音と声調変化の練習	事前：教科書（27～31頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第5回　第一課：お名前は？（発声練習・練習問題） “是“の用法／人称代名詞／“なに？”と“だれ？” 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（32～35頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第6回　第二課：忙しいですか？（発声練習・練習問題） 文末の疑問詞／形容詞述語文／指示代名詞（1） 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（36～39頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第7回　第三課：誕生日はいつですか？（発声練習・練習問題） 数の数え方 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（40～43頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第8回　第四課：何を食べますか？（発声練習・練習問題） 動詞述語文／反復疑問文 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（44～49頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第9回　第五課：家はどこですか？（発声練習・練習問題） “どこ？”／“在”の用法①／“有”の用法／指示代名詞（2） 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（50～55頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第10回　第六課：どこへ行くの？①（発声練習） 連動文／“どのように？”	事前：教科書（58～61頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第11回　第六課：どこへ行くの？②（練習問題）／第七課：ご職業は何ですか？①（発声練習） 第六課の練習問題／会話練習／第七課の発音練習 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（62～65頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第12回　第七課：ご職業は何ですか？②（練習問題） “在”の用法②／動詞の重ね型／時刻や年月日の表し方 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（66～70頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第13回　第八課：自己紹介①（発声練習） 会話の練習	事前：教科書（72～75頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。

第14回	第八課：自己紹介②（練習問題） 年齢のたずね方／名詞述語文／“跟”の用法／主語述語文 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（76～79頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第15回	文法のテスト／テストの答え合わせと解説	テストの準備をする。

■ 履修上の注意

発音の練習が非常に大切です。そのため、発音練習ではしっかりと声を出してください。また、進行状況によっては、授業計画の通りに進まない場合があります。

■ 成績評価方法・基準

平常点50%（授業への参加状況や発声練習の様子などを総合的に評価します）。期末テスト50%（試験終了後にフィードバックをおこないます）。

■ 教科書

〔新・学漢語1〕〔日中学院教材研究チーム編著〕〔白帝社〕〔2，500円+税〕〔ISBN：9784863984493〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後に受け付けます。

日本語基礎

(11033)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
佐　藤　恵　美

■ 授業の概要

高校教員として教科の国語を指導してきた経験から、高等学校までに身に付けてきた日本語の能力を復習しながらも、社会に出た後も必要となる日本語の運用方法を幅広く講義する。その中で、知識を得るだけではなく誤りやすい表現にも注意しながら、体験を通して知識を発展させる。得た知識はアウトプットさせながら、伝えるためにどうすべきかを学生自身が考え、楽しみながら、そして他者と交流しながらスキルを身に付け、文章を書く上でも、簡潔且つ効果的で正しい表現を身に付ける。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・日本語の特徴を理解し実際に正しく運用するためのスキルを身に付ける。 ・社会人としての幅広い教養と役立つ知識を学び身に付ける。 ・自己の考えを構築し分かりやすく表現できる能力を身に付ける。	0.7　0.3

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　講義内容の説明 表現練習1「非言語と言語のコミュニケーションを知ろう」 日本語の知識確認テスト①	リアクションペーパーの記入。 言葉を使用しないコミュニケーションの難しさを感じ振り返りを行う。
第２回　表現練習2「人に伝える楽しさ・難しさを知ろう」 日本語の文法確認テスト②	リアクションペーパー記入 ５～６人でコミュニケーションゲームを行い振り返りをする。
第３回　表現練習3「歌詞から見る日本語」 日本語の文法　文の単位と品詞　文の構造と助詞	歌詞を品詞分解したり、言葉の意味を感じ取るワークシートに取り組む。
第４回　日本語の語彙　同音・同訓・類義語・対義語について 確認テスト③	謎かけ問題や言語変換シートを作成し、自身の語彙力をチェックする。
第５回　表現練習4「発声の仕組みを体験しよう」 日本語の発音　発声の仕組み・母音と子音の仕組み	実際に音（声）を出して感じ方の違いに触れる。 ワークシートに記入。
第６回　敬語の概説と演習	敬語についての基礎知識を確認する。
第７回　方言と共通語・標準語	歴史と関連付けて学習する。 方言の魅力を調べワークシートに記入する。
第８回　あいまいな文章表現や文の乱れをなくす	良文と悪文の違いを把握する。 リアクションペーパーに記入する。
第９回　表現の工夫　比喩表現・接続語句と指示語	文章を見て修正を行い、正しい表記に直す。
第10回　文章構成の基礎①　事実と意見の違い(２００字作文)	ある事例を提示し、意見文を書く。 意見文をグループで回し読みし、意見文添削シートに記入する。 添削について事前に調べ学習をする。
第11回　文章校正の基礎②　映像から必要な情報を読み取る①	グループ発表後にワークシートにて振り返りを行う。
第12回　文章校正の基礎③　映像から必要な情報を読み取る②	グループ発表後にワークシートにて振り返りを行う。
第13回　実力確認テスト	総復習確認テストとなるため、事前に配布プリントの予習をする。
第14回　思考と言語化	思考と言語の繋がりについて他者との意見交換後に振り返りシート記入、調べ学習を行う。
第15回　生きる言葉を考える	世の中に溢れている言葉を取り上げて学びを深めるワークシートを記入する。
第16回　期末レポート	提出後に模範解答をもとにフィードバックする。

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシートは整理して保管すること。
ノートやメモを積極的に取り、復習や定期試験に役立てること。

積極的にグループワーク等に参加すること。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（40%）、課題やレポート（30%）、リアクションペーパー（30%）を目安として総合的に判断する。
レポート提出後模範解答を配布し、フィードバックを行う。

■ 教科書
講義内でワークシート（プリント）を配布。

■ 参考書
なし。

■ 備考
受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合がある。質問や相談等は講義前や終了後、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

国語表現法

(11034)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
佐　藤　恵　美

■ 授業の概要
人にどう伝えたら言いたいことが伝わるのか。言葉を使いこなす力、正確に伝える力以外にも、表現とは多くある。高校教員として指導してきた国語の表現力を基礎として、自分自身の特性や特徴を知りながら、伸ばす部分と改善する部分を見つめスキルアップしていく。実社会を生きる上で必要とされる知識や表現力については、他者との交流を通じて他者からの視点で意見交換をしながら表現力を高める。文章を書く上では、論理的且つ簡潔な文章を書くために必要なスキルを身に付けるために、小論文や意見文を書くことでスキルアップしていく。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・実社会に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての幅広い教養と役立つ知識を学び身に付ける。 ・自己の意見を言語化し、簡潔で分かりやすい文章を作成することができる。	0.7　0.3

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　講義内容の説明 表現練習①「言葉を通して人と関わろう。」	表現とは何かを考え、ワークシートに記入する。
第２回　自分を表現する①　自分の過去を振り返る 自分史作成	家族や友人から過去の自分についてインタビューをしてくる。 自分史作成シートに記入する。
第３回　自分を表現する②　自分の取り扱い説明書・２００字自己紹介文作成	前時の課題を復習する。
第４回　身近なものを表現する ２００字紹介文作成	原稿を仕上げる。 紹介文をグループになって発表し合い振り返りシートを完成させる。
第５回　実用的な手紙の書き方 実用的な敬語表現	様々な種類の手紙を書き、完成させる。 敬語表記のワークシートを配布し、調べ学習を行う。
第６回　短い文で端的に表現する力 ～短歌甲子園～	ワークシートを仕上げる。
第７回　グループディスカッションについて ねらい・形式・準備・意見のまとめ方	グループでの自己紹介文を作成する。
第８回　グループディスカッション実践①個人 ～社長になるならどう考えるか～	ワークシートを仕上げる。 グループになって発表した後、ワークシートを記入する。
第９回　グループディスカッション実践②グループ討論	グループになって発表原稿を完成させる。
第10回　グループディスカッション実践③発表	ワークシートに記入する。
第11回　意見の伝え方「プレゼンテーションの方法」 計画書作成①	抽象的なテーマから具体的なテーマに絞って調べ学習をする。
第12回　計画書作成② グループ分け	計画書・原稿作成・提出。 プレゼンテーション資料の作成。
第13回　プレゼンテーション実践①グループ発表	グループでの発表後にワークシートの記入をする。
第14回　プレゼンテーション実践②全体発表	他者の発表から得たことをワークシートにまとめる。
第15回　プレゼンテーション実践③全体発表 表現とは何か	他者の発表から得たことをワークシートにまとめる。 表現と国語表現についてのワークシートを記入する。
第16回　期末テスト（レポート）	今まで学習したことについてまとめ、振り返りを行う。 提出後、模範解答を基にフィードバックをする。

■ 履修上の注意
授業で配布されるワークシートは整理して保管すること。
グループワークに積極的に参加すること。

■ 成績評価方法・基準
期末レポート（50%）、ワークシートなどの課題（30%）グループディスカッションでの様子やプレゼンテーションでの発表(20%)を目安として総合的に判断する。
期末レポート提出後模範解答を配布してフィードバックを行う。

■ 教科書
講義内でワークシート（プリント）を配布する。

■ 参考書
なし。

■ 備考
受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合がある。
質問や相談等は講義前や終了後、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

情報基礎学

(11035)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
松　尾　　広

■ 授業の概要
データの集計・加工、グラフ作成、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションしたりできることを目標に、文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報検索などのコンピュータリテラシーについて解説する。またデータを整理、蓄積、利用する方法として簡単なデータベースの作成やほかのアプリケーションとの連携方法、データ処理の方法を論理的に考えることを目的としたプログラミングについての演習を行うことで、情報処理技術の理解を深め、ステップアップを図る。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・ICTを利用して体裁が整った文書を作成できる。	1
・情報を処理するアルゴリズムを理解し、プログラムで表現できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	学習する内容を確認する。
第２回　Google Workspaceの使い方（1）	Gmail、Classroomの基本的な使い方を理解する。
第３回　Google Workspaceの使い方（2）	ドライブの基本的な使い方とWindowsのファイルシステムとの違いを理解する。
第４回　Wordによる文書作成（ビジネス文書作成、表の作成）	ビジネス文書の様式、表の操作を理解する。
第５回　Wordによる文書作成（図形の扱い）	図の挿入、編集方法を理解する。
第６回　Wordによる文書作成（レポート作成に向けて）	図表番号、文献の管理、ページ数挿入、目次作成について理解する。
第７回　Wordによる文書作成（練習問題）	Wordによる文書作成についての学習内容を確認し、反復する。
第８回　Excelによる表計算（計算式、関数）	計算式の表現方法を理解する。
第９回　Excelによる表計算（データの加工、グラフの作成）	グラフの特徴と作図方法を理解する。
第10回　Excelによる表計算（データベース、差し込み印刷）	データベースの操作とWordとの連携について理解する。
第11回　Excelによる表計算（練習問題）	Excelによる表計算についての学習内容を確認し、反復する。
第12回　PowerPointによるプレゼンテーション（シンプルなスライドの作成）	プレゼンテーションのデザインやレイアウトについて理解する。
第13回　PowerPointによるプレゼンテーション（アニメーションの利用）	画面切り替え効果やアニメーションについて理解する。
第14回　PowerPointによるプレゼンテーション（練習問題）	PowerPointによるプレゼンテーション作成についての学習内容を確認し、反復する。
第15回　プログラミング（アニメーション、タートルグラフィックス）	アルゴリズムとScratchでのプログラミングについて理解する。
第16回　まとめと実技試験	学習内容を振り返りと試験

■ 履修上の注意
資料、課題等はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、実技試験60%
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書
資料は配布（Google Classroomに掲示）

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

スポーツ

(11036)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（60 + 30）
対象学科：服専１年
授業形態：実技　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
酒　井　正　彦

■ 授業の概要
年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また、勝利チームや各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。高校で保健体育教諭として勤務する教員が担当する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。 ・団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。 ・今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。	0.6	0.1		0.1		0.1		0.1	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（個人票作成等）グループ分け	スポーツの説明および今後の自身の目標を設定する
第２回　ターゲットバードゴルフ１ ルール・スイングフォーム・打ち方	・競技の特性やルールの理解、技術の習得
第３回　ターゲットバードゴルフ２ 打ち方・長い距離を飛ばす	・技術の復習や技術の習得、及び技術の向上
第４回　ターゲットバードゴルフ３ 打ち方・ホールを狙う（アプローチショット）	・技術の復習や技術の習得、及び技術の向上
第５回　ターゲットバードゴルフ４ コース作り・ゲーム	・技術の復習や技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解しゲームの進め方をマスターする
第６回　ターゲットバードゴルフ５ ゲーム	・実戦形式でターゲットバードゴルフを行う ・グループで協力してゲームを行う
第７回　ソフトボール１ キャッチボール・バッティング	・技術の習得、及び技術の向上
第８回　ソフトボール２ 試合	・技術の復習、及び技術の向上
第９回　フットサル パス・シュートの練習・試合	・技術の習得、及び技術の向上
第10回　バレーボール１ 歴史・ルール・パス	・ルールや歴史を学びバレーボールについて理解を深める ・技術の習得、及び技術の向上
第11回　バレーボール２ パス・サーブ・スパイク	・技術の習得、及び技術の向上
第12回　バレーボール３ パス・サーブ・スパイク	・技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解しゲームを展開する
第13回　バレーボール４ パス・サーブのテスト	・これまでの技術の成果を発揮する。
第14回　バレーボール５ ゲーム	・技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解しチーム協力してゲームを行う
第15回　まとめ及びレポート作成（バレーボール）	・本授業に関するまとめ、レポート作成
第16回　バスケットボール１ 歴史・ルール・パス	・ルールや歴史を学びバスケットボールについて理解を深める ・技術の習得、及び技術の向上
第17回　バスケットボール２ パス・ドリブル・シュートの練習	・技術の習得、及び技術の向上
第18回　バスケットボール３ パス・ドリブル・シュート・フリースローのテスト	・これまでの技術成果を発揮する
第19回　バスケットボール４	・これまでの技術を応用しゲームに取り組む

	パス・シュート・ゲーム	
第20回	バスケットボール５ ゲーム	・これまでの技術を応用しゲームに取り組む ・チームで協力してゲームに取り組む
第21回	まとめレポート作成（バスケットボール）	・バスケットボールの授業に関するまとめ、レポート作成
第22回	バドミントン１ 歴史・ルール・シャトル・ラケットに慣れる	・バドミントンの競技の特性や歴史のどについて理解を深める ・ラケットやシャトルに慣れる
第23回	バドミントン２ サーブ・ストローク練習	・技術の習得、及び技術の向上
第24回	バドミントン３ ストローク練習・組み合わせ練習	・技術の習得、及び技術の向上 ・フットワークを利用し、２つ以上のストロークの組み合わせに慣れる
第25回	バドミントン４ 組み合わせ練習・ルール・ゲーム	・技術の習得、及び技術の向上 ・２つ以上のストロークの組み合わせに慣れる
第26回	バドミントン５ シングルスゲーム	・シングルスのゲームの進め方を学ぶ ・シャトルの特性や相手のポジションを見てゲームがおこなえるようにする
第27回	バドミントン６ ダブルスゲーム	・ダブルスのゲームの進め方を学ぶ ・パートナーと協力してゲームを行う
第28回	卓球１ 練習	・卓球の特性や技術を理解し技術を習得する ・技術の習得、及び技術の向上
第29回	卓球２ ゲーム	・技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解し、ゲームを行う
第30回	まとめ及びレポート作成 （バドミントン）	バドミントンの授業に関するまとめ、レポート作成

■ 履修上の注意
・毎回、運動のできる服装（ウエアー）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。
・正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。
・遅刻3回で欠席1回と見なすので注意すること。
・レポート・課題等については、授業内でフィードバックする。

■ 成績評価方法・基準
個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、受講態度20%、レポート20%、実技試験等60%とする。

■ 教科書
なし

■ 参考書
なし

■ 備考
・当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。
・質問等については、授業終了時に受付けます。

スポーツ

(11037)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（60 + 30）
対象学科：健専１年
授業形態：実技　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
酒　井　正　彦

■ 授業の概要
年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また、勝利チームや各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。高校で保健体育教諭として勤務する教員が担当する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。 ・団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。 ・今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。	0.6	0.1		0.1		0.1		0.1	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（個人票作成等）グループ分け	スポーツの説明および今後の自身の目標を設定する
第２回　ターゲットバードゴルフ１ ルール・スイングフォーム・打ち方	・競技の特性やルールの理解、技術の習得
第３回　ターゲットバードゴルフ２ 打ち方・長い距離を飛ばす	・技術の復習や技術の習得、及び技術の向上
第４回　ターゲットバードゴルフ３ 打ち方・ホールを狙う（アプローチショット）	・技術の復習や技術の習得、及び技術の向上
第５回　ターゲットバードゴルフ４ コース作り・ゲーム	・技術の復習や技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解しゲームの進め方をマスターする
第６回　ターゲットバードゴルフ５ ゲーム	・実戦形式でターゲットバードゴルフを行う ・グループで協力してゲームを行う
第７回　ソフトボール１ キャッチボール・バッティング	・技術の習得、及び技術の向上
第８回　ソフトボール２ 試合	・技術の復習、及び技術の向上
第９回　フットサル パス・シュートの練習・試合	・技術の習得、及び技術の向上
第10回　バレーボール１ 歴史・ルール・パス	・ルールや歴史を学びバレーボールについて理解を深める ・技術の習得、及び技術の向上
第11回　バレーボール２ パス・サーブ・スパイク	・技術の習得、及び技術の向上
第12回　バレーボール３ パス・サーブ・スパイク	・技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解しゲームを展開する
第13回　バレーボール４ パス・サーブのテスト	・これまでの技術の成果を発揮する。
第14回　バレーボール５ ゲーム	・技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解しチーム協力してゲームを行う
第15回　まとめ及びレポート作成（バレーボール）	・本授業に関するまとめ、レポート作成
第16回　バスケットボール１ 歴史・ルール・パス	・ルールや歴史を学びバスケットボールについて理解を深める ・技術の習得、及び技術の向上
第17回　バスケットボール２ パス・ドリブル・シュートの練習	・技術の習得、及び技術の向上
第18回　バスケットボール３ パス・ドリブル・シュート・フリースローのテスト	・これまでの技術成果を発揮する
第19回　バスケットボール４	・これまでの技術を応用しゲームに取り組む

	パス・シュート・ゲーム	
第20回	バスケットボール５ ゲーム	・これまでの技術を応用しゲームに取り組む ・チームで協力してゲームに取り組む
第21回	まとめレポート作成（バスケットボール）	・バスケットボールの授業に関するまとめ、レポート作成
第22回	バドミントン１ 歴史・ルール・シャトル・ラケットに慣れる	・バドミントンの競技の特性や歴史のどについて理解を深める ・ラケットやシャトルに慣れる
第23回	バドミントン２ サーブ・ストローク練習	・技術の習得、及び技術の向上
第24回	バドミントン３ ストローク練習・組み合わせ練習	・技術の習得、及び技術の向上 ・フットワークを利用し、２つ以上のストロークの組み合わせに慣れる
第25回	バドミントン４ 組み合わせ練習・ルール・ゲーム	・技術の習得、及び技術の向上 ・２つ以上のストロークの組み合わせに慣れる
第26回	バドミントン５ シングルスゲーム	・シングルスのゲームの進め方を学ぶ ・シャトルの特性や相手のポジションを見てゲームがおこなえるようにする
第27回	バドミントン６ ダブルスゲーム	・ダブルスのゲームの進め方を学ぶ ・パートナーと協力してゲームを行う
第28回	卓球１ 練習	・卓球の特性や技術を理解し技術を習得する ・技術の習得、及び技術の向上
第29回	卓球２ ゲーム	・技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解し、ゲームを行う
第30回	まとめ及びレポート作成 （バドミントン）	バドミントンの授業に関するまとめ、レポート作成

■ 履修上の注意
・毎回、運動のできる服装（ウエアー）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。
・正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。
・遅刻3回で欠席1回と見なすので注意すること。
・レポート・課題等については、授業内でフィードバックする。

■ 成績評価方法・基準
個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、受講態度20%、レポート20%、実技試験等60%とする。

■ 教科書
なし

■ 参考書
なし

■ 備考
・当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。
・質問等については、授業終了時に受付けます。

スポーツと食事

(11038)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15 + 30）
対象学科：健専1年・服専1年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
トップスポーツ選手の競技能力は超一流ですが、普段から超一流食材を食べている訳ではありません。私たちと同じくスーパーで買い物をしています。そうなると食事の中身が大切ということが分かります。スポーツの世代としては成長期、成人期、高齢期などがありますが、この授業では最初の要となる成長期のスポーツ選手の食事の大切さを教授します。具体的には食事の基本、栄養素、水分補給、補食、増量、減量などについて説明します。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・成長期のスポーツ選手の食事についての基礎的な知識を身につける ・成長期のスポーツ選手の水分補給や補食についての基礎的な知識を身につける ・成長期のスポーツ選手の増量・減量についての基礎的な知識を身につける	0.5 0.5

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　はじめに	事前学習としてスポーツと食事について興味を持ったこと、疑問に思ったことなどを各自でまとめておいてください。授業内で回答します。
第2回　成長期のスポーツ選手の食事（献立）	事前学習として一般的な献立についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをまとめるなどの復習をしてください。
第3回　成長期のスポーツ選手の食事（栄養素）	事前学習として一般的な栄養素についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをまとめるなどの復習をしてください。
第4回　成長期のスポーツ選手の水分補給について	事前学習として一般的な水分補給の方法についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをまとめるなどの復習をしてください。
第5回　成長期のスポーツ選手の補食について	事前学習として一般的な補食の方法についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをまとめるなどの復習をしてください。
第6回　成長期のスポーツ選手の増量について	事前学習として一般的な増量の方法についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをまとめるなどの復習をしてください。
第7回　成長期のスポーツ選手の減量について	事前学習として一般的な減量の方法についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをまとめるなどの復習をしてください。
第8回　期末テスト（まとめ）	これまでの授業内容をまとめておいてください。授業内で回答します。

■ 履修上の注意
全8回の授業のため欠席3回で欠席オーバーとなりますが、やむを得ない理由の場合は考慮しますので必ず教員に伝えてください。遅刻・早退の取り扱いは、それぞれ20分以内とします。

■ 成績評価方法・基準
100%の評価のうち、授業態度（提出物含む）はルーブリックにて30%分の評価を、期末テストにて70%分の評価をします。

■ 教科書
無し（適宜プリントを配付する）

■ 参考書

なし

■ 備考
この授業は生文高の高大単位認定型授業を兼ねるため、大学生と高校生が同じ教室で履修する可能性があります。質問については、授業時間内またはオフィスアワー、授業開始時に示すメールアドレスにて対応します。

スタディスキルズ

(11039)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (15 + 30)
対象学科：服専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
植　松　公　威　　教職員

■ 授業の概要
本科目では大学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。
①大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的にはプレイスメントテストによる基礎学力の把握、入学前に取り組んだe-learningの復習など、基礎学力の定着、ならびに学修した内容の理解の向上を目指した演習を行う。
②「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。
③学内の施設を活用した学習方法について教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・大学での学習方法を身につける ・自宅で学習する習慣を身につける ・大学生として必要な基礎学力を身につける	1

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　本学の歴史・教学の指針（栗山家政学部長）	オリエンテーションで実施。本学の歴史より、本学の研究教育で行ってきたことを把握する。教学の指針より、本学の教育形態を理解し、今後の学修に生かすことを意識する。
第2回　プレイスメントテスト（実力テスト）①国語、英語（植松）	国語、英語の基礎学力を確認する。試験でできなかった内容の復習を行う。
第3回　プレイスメントテスト（実力テスト）②数学（植松）	数学の基礎学力を確認する。試験でできなかった内容の復習を行う。
第4回　大学で学ぶということ（学長）	本学ホームページ、大学案内、入学式の学長挨拶を確認する。講義を通じて、大学での学びに必要な点を確認する。
第5回　短い文章を表現する（「たほいや」ということば遊びを通して仲間づくりをする）（植松）	広辞苑を開き、ことばの意味の表現方法、内容について見ておくこと
第6回　学修ポートフォリオの作成（栗山）	前回までの授業を復習し、自分の学修目標を考える。講義を通じて卒業までの学修の流れを理解し、1年次での学修計画を確認する。
第7回　「学ぶとはどういうことか」（植松）	学びとは受身的な情報の受け取りではなく、能動的、主体的に知識の構造を構成するプロセスであることを理解する。
第8回　研究倫理について（栗山）	復習し、研究や教育における倫理について理解する。今後の大学生活において、研究倫理を守ることを意識する。
第9回　図書館の活用（村山）	ガイダンスでの図書館の利用方法について確認する。講義後、図書館を利用し、授業で扱った内容の確認を行う。
第10回　学修ポートフォリオ　中間評価（植松）	これまでの学修状況を振り返り、学修目標の達成度合いを点検する。目標が達成できていない点については、改善すべき方法を考える。
第11回　基礎学力向上　e-learning①基礎学力の確認（植松）	入学前学習で行ったe-learningの進捗状況を確認する。授業を通じて、理解不十分の点を確認し、学修を進める。
第12回　基礎学力向上　e-learning②基礎学力の向上（植松）	これまでのe-learningで学修した内容を確認する。授業を通じて、学修が進んだ点、不十分な点を確認し、基礎学力の向上を目指して学修を進める。
第13回　人の話を聴くとは（傾聴のすすめ）（植松）	友人や職場でのコミュニケーションに生かすことを目的に、人の話を聴く技術、方法を理解し、実践する。

第14回　文章の作成能力を身につける（栗山）	授業を通じて、文章を作成する際のポイントを確認する。学修した内容を今後のレポート作成などで活用する。
第15回　まとめ（植松）	15回の授業を振り返り、今後の学修に必要な点を確認する。

■ 履修上の注意
●毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
●事情により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は掲示板で連絡する。

■ 成績評価方法・基準
授業の取り組みに対する意欲と姿勢（30%）、ミニットペーパーや課題などの提出物の記載内容（70%）により総合的に評価する。
提出物については後日、フィードバックを行う。

■ 教科書
担当教員がプリント等を用意し、配布する。
入学前課題学習記録ノート（e-learningの教材）：入学前に配布済み

■ 参考書
特になし。授業の中で各担当の教員が指示する。

■ 備考
質問等については各授業の担当教員において授業終了時、あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示等で確認すること）で受け付ける。

スタディスキルズ

(11040)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
栗　山　孝　雄　　教職員

■ 授業の概要
本科目では、本学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。
①大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的には、プレイスメントテストによる
基礎学力の把握、入学前に取り組んだ“e-learning”の復習など、基礎学力の定着、ならびに学修した内容の理解の向上を目指した演習を行う。
②「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。
③情報処理教育センターや図書館など、学内の施設を活用した学習方法について教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・大学での学習方法を身につける。 ・自宅で学習する習慣を身につける。 ・大学生として必要な基礎学力を身につける。	1

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　本学の歴史・教学の指針（栗山）	オリエンテーションで実施。本学の歴史より、本学の研究教育で行ってきたことを把握する。教学の指針より、本学の教育形態を理解し、今後の学習に生かすことを意識する。
第2回　プレイスメントテスト①国語、英語（栗山）	国語、英語の基礎学力を確認する。試験でできなかった内容の復習を行う。
第3回　プレイスメントテスト②数学（栗山） ミニットペーパーの記入方法	数学の基礎学力を確認する。試験でできなかった内容の復習を行う。 ミニットペーパーの記入のポイントについて、作業を通じて確認し、理解する。
第4回　大学で学ぶということ（学長）	本学ホームページ、大学案内、入学式の学長挨拶を確認する。講義を通じて、大学での学びに必要な点を確認する。
第5回　学修ポートフォリオの作成（栗山）	前回までの授業を復習し、自分の学修目標を考える。講義を通じて、卒業までの学習の流れを理解し、1年次での学習計画を確認する。
第6回　大学での授業の受け方、復習の重要性、優先順位の考え方（栗山）	授業は教室に来て受講することで出席となる。 授業の受け方、復習の重要性を確認する。また、複数の課題を取り組む際の優先順位について、考え方を理解する。
第7回　研究倫理について（栗山）	復習し、研究や教育における倫理について理解する。今後の大学生活において、研究倫理を守ることを意識する。
第8回　図書館の活用　蔵書検索（村山）	ガイダンスでの図書館の利用方法について確認する。講義後、図書館を利用し、授業で扱った内容の確認を行う。
第9回　学修ポートフォリオ　中間評価（栗山）	これまでの学修状況を振り返り、学修目標の達成度合いを点検する。目標が達成できていない点については、改善すべき方法を考える。
第10回　基礎学力向上① e-learning（1）入門基礎コースの確認（栗山）	入学前学習で行ったe-learningの進捗状況を確認する。授業を通じて、理解不十分の点を確認し、学修を進める。
第11回　基礎学力向上② 文章の作成能力を身につける（栗山）	授業を通じて、文章を作成する際のポイントを確認する。学習した内容を、今後のレポート作成などで活用する。
第12回　基礎学力向上③ 文章の読解力を身につける（栗山）	授業を通じて、文章を読解する際のポイントを確認する。学習した内容を、今後の学習の際に活用

	する。
第13回　傾聴のすすめ　人の話を聴く（植松）	これまでの受講態度や他人と会話などを振り返り、人の話を聴いているかを確認する。授業を通じて、傾聴という点から人の話を聴くことについて意識するよう心掛ける。
第14回　基礎学力向上④ e-learning（２）ステップアップコース（栗山）	e-learningのステップアップコースに取り組む。授業を通じて、理解不十分の点を確認し、学修を進める。
第15回　まとめ（栗山）	15回の授業を振り返り、今後の学習に必要な点を確認する。

■ 履修上の注意
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
・都合により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は本科目のClasseoom、掲示等で連絡する。

■ 成績評価方法・基準
提出物（ミニットペーパー、課題）の提出状況と記載内容（70%）、受講態度（発言、質問など）（30%）、を総合的に評価する。
提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
担当教員がプリント等を用意する。
〔入学前課題学習記録ノート（e-learningの教材）〕〔入学前に配布済み〕

■ 参考書
なし。授業の中で各担当の教員が指示する。

■ 備考
質問等については、各授業の担当教員の授業終了時、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

ライフデザイン

(11041)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 60）
対象学科：健専1年・服専1年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
細　萱　航　平

■ 授業の概要

社会人として生きていくための基本的な資質・能力を身に付けていくにあたって、過去・現在の自身の姿を客観的に見つめ、将来設計を描くということに取り組む。本学の開学理念である「人間生活を科学し、より良い生活へ」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生活を充実させるための手立て、見直すべき点を意識化する。それを元に、具体的なライフプランを実現させるための方法を考え、グループで議論することを通じて、より確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ライフデザインを学修する上で必要な基礎知識を身に付ける	0.2	0.15				0.5		0.15	
・学修した情報を整理・要約できる技術を身に付ける									
・学修した知識・技能・態度を社会で総合的に活用できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、ライフデザインを考える意義	将来自分がどのようになりたいのかを改めて考える
第２回　自分史作成　～自己を知る～	過去の自分を振り返り、折々に積み重ねてきた決断やその結果を捉え直す
第３回　自己分析・自己理解・自己管理	各種の指標や分析を用いて、自己の人間性を捉え直す
第４回　学生生活のデザイン	普段の自分の生活を見直し、理想と実際のギャップの原因分析から自己を乗りこなす方法を考える
第５回　時事問題理解力、思考力、表現力	情報を取捨選択して活用する能力を培う
第６回　社会人に求められるもの	社会で必要な行動・思考・協働を学ぶ
第７回　社会で働くための資質・能力	採用担当が重視する社会人基礎力を学ぶ
第８回　業界・企業研究	最新の経済動向を踏まえた学びを深める
第９回　課題発見能力・協調性・提案力	目的・手法・評価を明確化しながらチームとして仕事をすることを学ぶ
第10回　ビジョン構築力	自分や組織の本来的使命を理解する
第11回　ライフステージとライフイベント	人生の節目にどんな役割があるかを学ぶ
第12回　ライフデザインとライフプラン	両者の概念の違いを予習し把握する
第13回　ライフデザインの作成	表現内容を簡潔にまとめる工夫を行う
第14回　ライフデザインの発表	内容を平易に伝えるための工夫を行う
第15回　キャリア開発に向けて	学修全体を振り返り今後に役立てる

■ 履修上の注意

本学キャリア教育の1年次としての自覚を持ち受講すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点３０％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート７０％
（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）
・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

〔静かな人の戦略書〕〔ジル・チャン著〕〔ダイヤモンド社〕〔1，650円（税込）〕

■ 参考書

なし

■ 備考

・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時またはメールで随時受け付けます。

キャリア開発Ⅰ

(11042)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15 + 30）
対象学科：服専1年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

昨今，SNS(Social Networking Service)を活用し，情報発信力のある個人（インフルエンサー）は，消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略のなかで最も注目されている。とりわけ，ファッション業界では，情報の分かりやすさ（伝わりやすさ）に関しての知識や技能が求められる。

本授業では，消費生活協同組合や調査研究機関での研究員としての実務経験や『消費生活コンサルタント（宮城第46期）』や『UC（ユニバーサルカラー）アドバイザー』としての経歴を活かし，色彩検定協会主催『色彩検定UC級』の試験対策を教授するとともに「視覚情報のユニバーサルデザイン」に関する基礎知識の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)「視覚情報のユニバーサルデザイン」の重要性を認識できる	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1			
・2)多様な見え方に配慮した色づかいについて理解できる									
・3)見えづらい例を示し，改善点を分かりやすく説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　テーマ：オリエンテーション(多様な見え方を知る) 概　要：色のユニバーサルデザインについて学ぶ	授業計画や事前配布資料などを参考にして予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第2回　テーマ：「光と色の関係は？」 概　要：目のしくみや色の見えるしくみを学ぶ	同上
第3回　テーマ：「色を表すには？」 概　要：①色相・明度・彩度，②色相とトーンについて学ぶ	同上
第4回　テーマ：「多様な見え方と色覚特性を知る」 概　要：色覚特性と混同しやすい色，色覚検査法を学ぶ	同上
第5回　テーマ：「高齢者の見え方を知る」 概　要：加齢と見え方の変化について学ぶ	同上
第6回　テーマ：「誰もが見やすい配慮を知る」 概　要：視覚情報のユニバーサルデザインについて学ぶ	同上
第7回　テーマ：色のユニバーサルデザインを実践例(1) 概　要：視覚情報のユニバーサルデザイン(修正)に関しての出題事例を学ぶ	同上
第8回　テーマ：色のユニバーサルデザインを実践例(2) 概　要：視覚情報のユニバーサルデザイン(修正)に関しての出題事例を学ぶ	同上
第9回　テーマ：色のユニバーサルデザインを実践例(3) 概　要：視覚情報のユニバーサルデザイン(修正)に関しての出題事例を学ぶ	同上
第10回　テーマ：検定試験対策(1) 概　要：色彩検定UC級の模擬試験(過去問題)	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第11回　テーマ：検定試験対策(2) 概　要：色彩検定UC級の模擬試験(過去問題)	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第12回　テーマ：検定試験対策(3) 概　要：色彩検定UC級の模擬試験(過去問題)	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第13回　テーマ：検定試験対策(4) 概　要：色彩検定UC級の模擬試験(過去問題)	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第14回　テーマ：検定試験対策(5) 概　要：色彩検定UC級の模擬試験(過去問題)	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第15回　テーマ：まとめ 概　要：色彩検定UC級の振り返り	検定試験後，解答解説を踏まえ，自己採点を行うこと。

■ 履修上の注意

受講にあたり「色彩検定UC級」の受験申し込み（自己負担:1，500円）が必要です。
3/4以上の出席もしくは課題提出がない場合，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準
平常点・受講態度(40%)+課題の提出状況(35%)+検定試験の結果(25%)にもとづき評価します。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，課題については，次回の授業内にフィードバックします。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔色彩検定UC級公式テキスト 2022年改訂版〕〔？色彩検定協会〕〔？色彩検定協会〕〔2300円〕

■ 参考書
必要に応じて紹介します。

■ 備考
【事後もしくは同時に受講して欲しい講義】
「色彩学」
【質問・相談など】
授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
毎回，受講学生の理解度を確認し，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

キャリア開発Ⅰ

(11043)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
化学Ⅰ・Ⅱの授業で取り扱った内容に関連する基礎的な問題の演習を主とし、個々の学生の理解度に合わせて、解法を担当教員および学習支援員（学生）により個別に指導する。また授業で出題された練習問題についての解説を行う。さらに将来にむけて管理栄養士の業務の実際についての説明、および4年次に受験する予定の管理栄養士国家試験の概要と対策について、また学習している化学との関連についても解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・化学の練習問題を解けるようにする。	0.6		0.4						
・管理栄養士の業務の概要を理解する。									
・管理栄養士国家試験の概要と、化学の学習との関連を理解する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　物質の構成に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第2回　周期表に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第3回　原子・イオン・分子に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第4回　化学式に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第5回　物質量：原子量・分子量の計算に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第6回　管理栄養士の仕事について、モルの計算に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解するとともに、管理栄養士の仕事についての説明をまとめレポートを作成する。
第7回　化学反応式に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第8回　化学結合に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第9回　酸・塩基、中和に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第10回　水素イオン濃度とｐHに関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第11回　管理栄養士国家試験について、酸化と還元に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解するとともに、管理栄養士国家試験の概要を理解して今後の取り組みを考えてレポートを作成する。
第12回　酸化数と酸化還元反応に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第13回　気体の性質に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第14回　溶液の性質に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第15回　化学反応と熱に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。

■ 履修上の注意
特に教員・学習支援員（SA)に積極的に質問して不明な点を極力残さないような取り組みを求める。

■ 成績評価方法・基準
平常点（試問・課題）・・・80%、レポート提出・・・20%

■ 教科書
ゼロからはじめる化学、立屋敷　哲、丸善(株)出版事業部、2，200円＋税

■ 参考書
無し

■ 備考
選択科目であるが、化学の学力向上を目指したもので、化学Ⅰ・Ⅱの授業と特に関連が深く、かつ管理栄養士関連の情報提供も行うので履修することが望ましい。提出物へのフィードバックとして、コメントを後日提示する。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

キャリア開発Ⅱ (11044)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (15 + 30)
対象学科：服専２年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

私たちは，さまざまな商品やサービスを購入し，それらを利活用（消費）しながら，日々暮らしいる。
そうしたなか「消費者が経済的に効率良く，かつ地球環境にも配慮した消費生活を営むには，合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が不可欠となる。
本講義では，消費生活協同組合や調査研究機関での研究員としての実務経験や『消費生活コンサルタント(宮城第46期)』としての経歴を活かし「現代社会を生きていくために知っておくべきこと，日々の暮らしに役立つこと」という視点から，一般財団法人日本消費者協会主催の『消費者力検定』試験対策を教授するとともに，賢い消費者としての実践力の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)全ての人に関わる知識として消費者力を認識，理解できる	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1			
・2)消費者行政の役割や消費者トラブルについて理解できる									
・3)日常生活に役立つ消費者情報について説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：消費者力検定の概要説明，消費者の権利 概　要：誰もが「消費者」という自覚を促し，成人年齢(18歳と20歳)の違いを学ぶ	教科書（ワークブック）と講義ノートの内容を読み直し，学習内容の振り返りを行う。また，事前配布の資料は，授業前に読んでおくこと。
第２回　テーマ：消費者の権利と責任 概　要：消費者の8つの権利と5つの責任を学ぶ	同上
第３回　テーマ：消費者市民社会(1) 概　要：SDGsやエシカル消費･フェアトレードなどを学ぶ	同上
第４回　テーマ：消費者市民社会(2) 概　要：3Rの実践，食品ロス，サスティナブルなどを学ぶ	同上
第５回　テーマ：くらしの安全(1) 概　要：製品安全(事故の防止)や健康食品などを学ぶ	同上
第６回　テーマ：くらしの安全(2) 概　要：消費生活相談(消費者センター)の相談事例などを学ぶ	同上
第７回　テーマ：契約(1) 概　要：契約の基本や未成年者契約の取り消しなどを学ぶ	同上
第８回　テーマ：契約(2) 概　要：クーリングオフ制度の期間ややり方などを学ぶ	同上
第９回　テーマ：契約(3) 概　要：エステティックと美容医療のトラブル事例などを学ぶ	同上
第10回　テーマ：契約(4) 概　要：不動産契約の形態や諸費用などを学ぶ	同上
第11回　テーマ：契約(5) 概　要：原状回復と消費者トラブルの事例などを学ぶ	同上
第12回　テーマ：デジタル化社会(1) 概　要：携帯電話の端末購入と通信契約，SNS活用などを学ぶ	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第13回　テーマ：デジタル化社会(2) 概　要：インターネット通販とトラブル事例などを学ぶ	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第14回　テーマ：生活設計(1) 概　要：社会保険や金融商品などを学ぶ	模擬試験の結果(苦手な問題)を何度も解くことで，試験の直前対策を怠らないこと。
第15回　テーマ：生活設計(2) 概　要：キャッシュレスの仕組みやトラブル事例などを学ぶ	試験後，解答解説を踏まえ，自己採点を行うこと。

■ 履修上の注意

受講にあたり「消費者力検定（基礎コース）」の受験申し込み（自己負担:950円予定）や教科書の購入が必要となります。
3/4以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準
平常点・授業への参加態度(60%)+検定試験の結果(40%)にもとづき評価する。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，課題については，次回の授業内にフィードバックをします。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔消費者力検定ワークブック〕〔(財)日本消費者協会〕〔(財)日本消費者協会〕〔756円予定〕

■ 参考書
授業中にプリントを配布します。

■ 備考
【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】
「消費生活論」
【質問・相談など】
授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

キャリア開発Ⅱ (11045)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
2017年1月よりセルフメディケーション税制が開始され、今後は症状の軽い病気（生活習慣病を含む）は病院ではなく市販薬対応として世の中がシフトしていくと考えられている。また2018年11月の内閣府の経済財政諮問会議で薬剤師と管理栄養士の融合が話題となる中で、これからは薬局に勤務できるような薬に詳しい管理栄養士のニーズが高まるものと想定される（薬局管理栄養士）。
登録販売者とは薬の知識を生かし薬局などで医薬品の販売を行うことのできる国家資格である。この授業では薬に詳しい管理栄養士を目指すため、8月下旬に実施される登録販売者試験の合格を目標とした試験対策講座を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・基本的なOTC医薬品の作用機序について理解できる	0.6		0.2		0.2				
・薬局栄養士についての職務内容・将来性が理解できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　概要／人体の構造と働き・薬の働く仕組み	事前学習としてテキストの目次を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第２回　医薬品の基本的な知識・副作用	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第３回　薬の作用を知るための重要なポイント① （アドレナリン様作用、抗コリン作用など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第４回　薬の作用を知るための重要なポイント② （抗ヒスタミン作用、プロスタグランジンの作用など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第５回　OTC医薬品① （風邪薬、アレルギー薬、催眠鎮静薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第６回　OTC医薬品② （鎮暈薬、痔疾用薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第７回　OTC医薬品③ （胃腸薬・滋養強壮保健薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第８回　OTC医薬品④ （皮膚薬、毛髪薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第９回　OTC医薬品⑤ （目薬、歯痛薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第10回　OTC医薬品⑥ （一般用検査薬、公衆衛生用薬）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第11回　OTC医薬品⑦ （生薬成分と漢方処方）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第12回　薬事関係法規	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第13回　医薬品の販売制度	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作

	成を行う。
第14回　医薬品の適正使用	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。 事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。
第15回　医薬品の安全対策	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。 事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成を行う。

■ 履修上の注意
登録販売者試験の日程に合わせて日程や時間割を調整する事がある。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート・・・90％
受講態度・・・10％

■ 教科書
うかる！登録販売者テキスト＆問題集2025年度版［堀美智子著］［日本経済新聞出版社］［2420円］

■ 参考書
なし（適宜プリントを配布する）

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。

キャリア開発Ⅲ

(11046)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（15 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
内　海　陽　子

■ 授業の概要
本講義ではAFT色彩能力検定2級の試験対策を中心に色彩に関する専門知識を教示する。色彩は被服をはじめ、日常生活のあらゆる分野と密接に関わっており、理論と事例を通して知識の深化を図り色彩を実務に活かす実践力を養う。
本講義は大手アパレル企業にて16年間、年間３０億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在はファッションプロデューサーとして多岐にわたり活動している講師が担当する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・色彩についての基礎知識および応用知識を身につける。	0.4 0.6
・色彩を活用し実践するための専門知識を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　生活と色、光と色	第1回講義内容を復習し、過去問に取り組む
第２回　色の表示	第1回～2回内容を復習し、過去問に取り組む
第３回　色彩調和、配色イメージ	第1回～3回内容を復習し、過去問に取り組む
第４回　ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝと色彩、ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝと色彩	第1回～4回内容を復習し、過去問に取り組む
第５回　ファッションと配色	第1回～5回内容を復習し、過去問に取り組む
第６回　インテリアデザインと色彩	第1回～6回内容を復習し、過去問に取り組む
第７回　エクステリアデザインと色彩	第1回～7回内容を復習し、過去問に取り組む
第８回　AFT色彩検定の試験対策	第1回～8回内容を総復習し、過去問に取り組む

■ 履修上の注意
AFT色彩検定3級の内容を十分に復習して授業に臨むこと。事前に教科書を熟読し、配布する練習問題について十分に学習した上で授業に臨むこと。理論と実践を結び付けて理解するため、継続的な予習・復習を行うことが望ましい。AFT色彩検定2級を受験すること。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート（50%）、事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価。
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書
〔色彩検定 公式テキスト 2級編〕〔公益社団法人　色彩検定協会〕〔2，970円〕

■ 参考書
使用せず

■ 備考
質問等については、授業終了後受け付ける。

キャリア開発Ⅲ

(11047)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
栗　山　孝　雄　　川　俣　幸　一　　健康栄養学専攻全教員

■ 授業の概要
管理栄養士として働くためには、栄養士免許の取得と管理栄養士国家試験に合格することが必要条件である。特に、管理栄養士国家試験に合格するためには、出題内容を把握した上での継続的な学習が不可欠である。本科目は、栄養士実力認定試験・管理栄養士国家試験の受験対策として、以下の内容を扱う。
①栄養士実力認定試験・管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
②出題分野（科目）ごとに出題範囲、頻出事項について解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・国家試験受験に必要な知識を身につける。	0.2 0.3 0.5

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（栗山、川俣） 基礎栄養学（鈴木）①基礎栄養学	各自、学習目標を確認する。そのうえで科目ごとの進捗状況を把握する。基礎栄養学に関する内容；予習：基礎栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第２回　基礎栄養学（鈴木）②栄養生化学	予習：栄養生化学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第３回　基礎栄養学（鈴木）③まとめ	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　応用栄養学（川俣）①応用栄養学	予習：応用栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　応用栄養学（川俣）②栄養管理論	予習：栄養管理論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　応用栄養学（川俣）③まとめ	予習：応用栄養学①～②の授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　食べ物と健康（八巻、深澤）①食品学総論	予習：食品学総論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第８回　食べ物と健康（八巻、深澤）②食生活と健康	予習：食生活と健康に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　食べ物と健康（佐藤（靖））③食品学各論	予習：食品学各論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第10回　食べ物と健康（佐藤（靖））④食品加工学	予習：食品加工学で学修した内容を確認する。復

	習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第11回　食べ物と健康（佐藤（靖））⑤調理科学論	予習：調理科学論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第12回　食べ物と健康（佐藤（靖）、八巻、深澤）⑥まとめ	予習：食べ物と健康①～⑤の授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第13回　公衆栄養学（栗山）①栄養政策	予習：栄養政策に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回　公衆栄養学（栗山）②公衆栄養マネジメント	予習：公衆栄養マネジメントに関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第15回　公衆栄養学（栗山）③まとめ	予習：公衆栄養学①～②の授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第16回　試験	学習した内容全体を復習する。

■ 履修上の注意
・栄養士実力認定試験・管理栄養士国家試験受験を希望する者は履修すること。
・本科目とセミナーⅠ（後期開講）で、栄養士実力認定試験・管理栄養士国家試験の出題科目を扱う。
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席や遅刻がないように注意すること。
・都合により、授業科目、授業担当教員、授業の内容や順序が変更となる場合もある。
（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行う。

■ 成績評価方法・基準
・2/3以上の出席を前提に、試験100%の結果で評価する。
・提出物や試験は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
〔栄養士実力認定試験過去問題集〕
〔クエスチョンバンク〕〔メディックメディア〕（7月発売予定）

■ 参考書
授業担当の教員が担当した科目の教科書

■ 備考
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

キャリア開発Ⅳ (11048)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要
昨今，H&M，GAP，ZARA，ユニクロなどのファストファッション，WEBサイトでの販売展開するSHEINなどの新興勢力が台頭し，ファッション・ビジネスは新たな局面を迎えている。
とりわけ，SNS(Social Networking Service)の普及は，ファッション関連分野の可能性を多彩に広げ，さらにコロナ禍を経て，個々の働き方も大きく変容・拡大しつつある。
本授業では，消費生活協同組合や調査研究機関での研究員としての実務経験，さらに『消費生活コンサルタント（宮城第46期）』としての経歴を活かし「将来，服飾関連分野で働く」という視点から，将来のキャリア形成を念頭におき，昨今の時事問題を事例に取り上げ『ニュース時事能力検定3級』試験対策の教授により，社会人基礎力のひとつ「課題発見力」や「状況把握力」の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)「課題発見力」「状況把握力」の重要性を認識，実践できる	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.5			
・2)多様な人々と協力し，働くために必要な能力を理解できる									
・3)将来のキャリア形成にむけて，具体的な目標を説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：オリエンテーション（授業の進め方・評価など） 概　要：就職活動に不可欠な時事問題の傾向と対策を学ぶ	授業計画や事前配布資料などを参考にして，予習すること。 また『ニュース時事能力検定2級』対策として，毎日，新聞の記事や社説，コラムから題材を１つ選び，その題材についてコメントや見出しを書き，さらに要約すること。 これらのワークシートは，ノートにまとめ，最終授業時に提出すること。
第２回　テーマ：AIと時事問題① 概　要：フェイクニュースについて学ぶ	同　上
第３回　テーマ：AIと時事問題② 概　要：情報の印象操作とステルスマーケティングを学ぶ	同　上
第４回　テーマ：マスメディアからSNSへ情報入手の変化① 概　要：マスメディアからSNSへの歴史的変遷を学ぶ	同　上
第５回　テーマ：マスメディアからSNSへ情報入手の変化② 概　要：新聞･テレビなどの活用法を学ぶ	同　上
第６回　テーマ：マスメディアからSNSへ情報入手の変化③ 概　要：SNSの活用法を学ぶ	同　上
第７回　テーマ：経済情報① 概　要：世界経済の情報を読み解くための要点を学ぶ	同　上
第８回　テーマ：経済情報② 概　要：日本経済の情報を読み解くための要点を学ぶ	同　上
第９回　テーマ：経済情報③ 概　要：地域経済の情報を読み解くための要点を学ぶ	同　上
第10回　テーマ：政治と経済① 概　要：世界の政治と経済情報を読み解くための要点を学ぶ	同　上
第11回　テーマ：政治と経済② 概　要：日本の政治と経済情報を読み解くための要点を学ぶ	同　上
第12回　テーマ：ニュース時事能力検定対策① 概　要：小学校・中学校社会科「地理」や「歴史」の振り返り	同　上
第13回　テーマ：ニュース時事能力検定対策② 概　要：高校の「現代社会」や「政治・経済」の振り返り	同　上
第14回　テーマ：ニュース時事能力検定対策③ 概　要：世界的・歴史的な視点で現代社会を見る目を学ぶ	同　上
第15回　テーマ：まとめ	同　上

概　要：新年度の経済予測を読み解くための要点を学ぶ

■ 履修上の注意
2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準
平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，課題については，授業中にフィードバックをします。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
■ 教科書
〔2026年度版ニュース検定公式テキスト基礎編〕〔日本ニュース時事能力検定協会監修〕〔毎日新聞出版〕〔1650円予定〕

■ 参考書
授業中に適宜指示します。

■ 備考
【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】
「キャリアサポートⅠ」「キャリア開発Ⅰ」「消費生活論」「経済学」「歴史Ⅰ」
【質問・相談など】
授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

キャリア開発Ⅳ

(11049)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
栗　山　孝　雄　　川　俣　幸　一　　健康栄養学専攻全教員

■ 授業の概要
本科目は、4年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。
①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
②応用問題のように、出題分野（科目）を横断する内容の問題について、特徴や要点を説明する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・国家試験受験に必要な知識を身につける。	0.2 0.3 0.5

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（栗山、川俣）	各自、学習目標を確認する。そのうえで科目ごとの進捗授業、弱点の把握と克服を行う。
第２回　模擬試験①（栗山、川俣）	出題科目ごとの知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第３回　社会・環境と健康　問題解説（伊藤）	予習：社会・環境と健康で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　人体の構造及び疾病の成り立ち　問題解説（中尾）	予習：人体の構造及び疾病の成り立ちで学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　食べ物と健康　問題解説（佐藤・八巻・深澤）	予習：食べ物と健康に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　基礎栄養学　問題解説（鈴木）	予習：基礎栄養学に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　模擬試験②（栗山、川俣）	出題科目ごとの知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第８回　応用栄養学　問題解説（川俣）	予習：応用栄養学に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　栄養教育論　問題解説（専攻教員）	予習：栄養教育論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第10回　臨床栄養学　問題解説（髙橋）	予習：臨床栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第11回　公衆栄養学　問題解説（栗山）	予習：公衆栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「

	履修上の注意」（※）を参照のこと。
第12回　給食経営管理論　問題解説（鴫原）	予習：給食経営管理論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第13回　応用力試験（専攻教員）	予習：応用力試験の学修内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回　模擬試験③（栗山、川俣）	出題科目ごとの知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第15回　まとめ	各自、学習目標を確認する。そのうえで科目ごとの進捗授業、弱点の把握と克服を行う。

■ 履修上の注意
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
・模擬試験の開催日時、問題解説の内容については、掲示板等で連絡する。
・都合により、授業担当教員や授業の順序が変更となる場合もある。
（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行う。

■ 成績評価方法・基準
・2/3以上の出席を前提に、3回の模擬試験の結果を100%として総合的に評価する。
・提出物や模擬試験（模試直しも含む）は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
〔管理栄養士　過去問解説集〕〔中央法規〕
〔クエスチョンバンク〕〔メディックメディア〕※3年次に購入済み
〔レビューブック〕〔メディックメディア〕

■ 参考書
授業担当の教員が担当した科目の教科書

■ 備考
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワーで対応する。一部の分野は外部講師による授業に置き換えることがあるので注意する（掲示板等の確認を怠らないこと）。

キャリアサポートⅠ

(11050)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専３年・服専３年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
就職支援センター

■ 授業の概要

就職活動の早期化やインターンシップの定義変更等、採用市場や社会経済情勢が大きく変化している。この絶えず変化する就職活動を取り巻く環境に対応できるよう授業の展開を図る。従来の自己分析や企業研究の手法、エントリーシートの書き方、ＳＰＩ等に関する知識やその対応スキルの修得に加え、最新の就職活動に関する情報提供や指導により納得のいく進路選択ができるよう支援する。講師陣には各テーマに沿った就職支援に係る専門家に登壇頂き、履修する学生が各授業の内容について理解が深まるようにする。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・就職活動に関する最新の知識を修得し、幅広い視野で自らの進路を選択・決定する力を身に付ける	0.6					0.4			
・業界・企業を比較研究する知識とスキルを身に付ける									
・就職試験を突破する力を身に付ける									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業ガイダンス/ 就職ガイダンス	事前に目指す方向性を考えておくこと。その上で就職活動の流れを確認し、これからやるべき事の理解を深めること。
第２回　キャリア支援サイトガイダンス/ 秋冬インターンシップ対策セミナー	情報収集の方法について理解し、就職活動へ活かすこと。秋冬インターンシップ参加に向けて何が必要なのかを今一度整理し、準備を進めること。
第３回　業界・企業研究基礎セミナー	興味のある業界と企業について調べておくこと。更に知識を広げ、自分に合った企業の見つけ方を理解すること。
第４回　企業比較研究セミナー	様々な企業の比較と自己分析も同時にできる研究方法を理解し、今後の活動へ活かすこと。
第５回　エントリーシート対策セミナー①	自己分析の内容から、伝えたいことを事前にまとめておくこと。エントリーシートの目的や重要性を学び、作成に活かすこと。
第６回　エントリーシート対策セミナー②	エントリーシート作成のコツやポイントを理解し、就職活動本番に向けて準備を進めること。
第７回　ＳＰＩ対策セミナー	新卒採用で実施されることが多いSPIについて理解し、選考に向けて計画的に準備すること。
第８回　就活は第一印象で決まるビジネスマナーセミナー	就職活動や社会で必要なビジネスマナーの基本を学び、今後に活かすこと。
第９回　面接試験対策セミナー①	面接の目的や相手に分かり易く伝えるコツ・ポイントを学び、実践に繋げること。
第10回　面接試験対策セミナー②	学んだ内容を修得し、就職活動本番にむけて面接準備を進めること。
第11回　採用担当者の本音を知るパネルディスカッションセミナー	採用側の視点や選考のポイント、求める人材像を理解した上で自分自身が何を伝えるかについて考えること。
第12回　講師と内定学生による就活相談セミナー	内定済の先輩学生から進路選択に関する経験談を聞き、今後の就職活動に活かすこと。
第13回　就活生のための労働法セミナー	就職活動～就職後に係る労働法について学び、労働者を保護する法制度についての知見を高めること。
第14回　就活準備振り返りセミナー	就職活動の流れを再確認し、その計画や必要な準備を振り返ること。計画に沿って活動を開始・継続すること。
第15回　就活生応援セミナー	社会人から働くことの意義について学び、自身の考えをまとめること。その内容を就職活動へ繋げ

ること。

■ 履修上の注意
・インターンシップが就職活動のスタートであることを理解する。
・エントリーシートの内容が選考の結果に大きな影響を与えることを理解する。
・ミニットペーパーを活用して、文章力向上に努める。
・良好な授業環境の実現のため、全員指定された座席に着席する。
・課外のセミナーにも積極的に参加し、実力向上に努める。
・学んだ内容を繰り返し復習し、修得したことを就職活動に活かす。

■ 成績評価方法・基準
提出課題のエントリーシートに対する取り組み姿勢（40%）
ミニットペーパーによる授業の理解度（40%）
疑問や不安を積極的に解消し、真剣な姿勢で受講しているか（20%）

■ 教科書
授業毎に資料を配布する。

■ 参考書
〔業界地図〕〔東洋経済新報社〕〔1980円〕
〔会社四季報〕〔東洋経済新報社〕〔2900円〕
〔就職四季報総合版〕〔東洋経済新報社〕　〔2310円〕
〔就職四季報女子活躍版〕〔東洋経済新報社〕〔2310円〕
〔キャリアをつくる独学力〕〔髙橋俊介〕〔東洋経済新報社〕〔1870円〕

■ 備考
オフィスアワー
原則として、平日9：00～17：00の間。

キャリアサポートⅡ (11051)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (30 + 15)
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
就職支援センター

■ 授業の概要
就職活動で一人ひとりが抱える課題を解決する糸口を掴むことが出来る授業展開に努め、各自が希望する進路選択が実現できるよう指導していく。授業後に提出するミニットペーパーを用い、就職活動に関する課題や不安、悩み等の聞き取りを行う。そして、その内容をもとに一人ひとりの課題解決や有益な情報収集ができる授業展開を図り、納得のいく進路選択が実現できるよう指導並びに支援を行っていく。講師陣には各テーマに沿った就職支援に係る専門家に登壇頂き、履修する学生が各授業の内容について理解が深まるようにする。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・就職活動における目標や課題を整理し、自身に必要な情報・行動・考え方を理解する	0.4		0.2		0.2	0.2			
・自分に合う企業を見つけるために情報収集を怠らないこと									
・内定を得るために必要な知識とスキルを身に付ける									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　就職活動復習セミナー ～就職活動の振り返りと活動の見直し～	就職活動の流れをもう一度振り返り、自身の目標や計画等を改めて確認すること。
第２回　自己分析セミナー ～自己分析と企業の選択～	自己分析を改めて行い、自分に合う業種や企業について具体的に把握すること。
第３回　採用担当者の本音を知るセミナー ～採用側の視点や選考のポイント～	採用側の視点や選考のポイントを知り、求める人材像を理解した上で、自分が身に付けなければならない資質について考えること。
第４回　社会人コミュニケーションセミナー① ～自分の「らしさ、良さ、特性」の言語化と仕事理解～	自己分析を踏まえ、相手に伝えたい自分の「らしさ、良さ、特性」を仕事理解と併せて言語化に向けて整理すること。
第５回　社会人コミュニケーションセミナー② ～「らしさ」の言語化と社会人ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾎﾟｲﾝﾄ～	「らしさ」の言語化に絞って、社会人としてのコミュニケーション力との関りから、自分自身の「らしさ」の言語化をさらに深めること。
第６回　社会人コミュニケーションセミナー③ ～社名を伏せた社会人交流会 その１～	社会人としてのコミュニケーション力向上のため、実際に社会人とのコミュニケーションを実践すること。
第７回　社会人コミュニケーションセミナー④ ～社会人ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの振り返りと自己PR作成～	社会人コミュニケーションセミナー①～③を振り返りながら、自分の「らしさ、良さ、特性」の言語化を踏まえ自己PRを作成すること。
第８回　エントリーシート作成・面接対策セミナー① ～ｴﾝﾄﾘｰｼｰﾄ作成のﾎﾟｲﾝﾄと自己PR・ｶﾞｸﾁｶ作成ﾜｰｸ～	エントリーシート作成に向けて、そのポイントを確認するとともに自己PRに向けた自身の「ガクチカ」について探ること。
第９回　エントリーシート作成・面接対策セミナー② ～自己PR・ｶﾞｸﾁｶ作成ﾜｰｸと面接ﾎﾟｲﾝﾄ～	自己PR並びに自身の「ガクチカ」について理解を深めるとともに、就活における面接での具体的な対応ポイントについて確認すること。
第10回　エントリーシート作成・面接対策セミナー③ ～自己PR・ｶﾞｸﾁｶ作成ﾜｰｸ・面接練習～	自己PR並びに自身の「ガクチカ」を踏まえ、実際の場面を想定した面接への対応について実践的に学ぶこと。
第11回　ビジネスマナーセミナー ～就職活動や社会で必要なﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾅｰ～	就職活動や社会で必要なビジネスマナーについて復習し、しっかりと身に付けること。
第12回　就職活動振り返りセミナー ～現在の進捗状況を確認し、今やるべきことを理解する～	現在の課題や不安を整理し、その改題解決に向けて必要な行動や考え方を整理し、自分が置かれている現状を理解すること。
第13回　社会人コミュニケーションセミナー⑤ ～社名を伏せた社会人交流会 その２～	社会人としてのさらなるコミュニケーション力向上のため、実際の社会人との交流をつうじて具体的なコミュニケーションの在り方を考えること。
第14回　社会人コミュニケーションセミナー⑥	社会人としてのコミュニケーションについて前時

	～社会人ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの振り返り～	を振り返りながら、エントリーシート作成や面接に活かすこと。
第15回	これまでの振り返りと今後について ～ｴﾝﾄﾘｰｼｰﾄ作成と面接練習～	全体を振り返り、各自がエントリーシートを作成するとともに具体的な面接への対応について確認すること。

■ 履修上の注意
学んだことを実際の就職活動に活かし、自ら選択した進路の実現に向かって努力すること。

■ 成績評価方法・基準
ミニットペーパーによる授業の理解度（50%）
積極的・真剣な態度で受講しているか（50%）

■ 教科書
授業毎に資料を配布する。

■ 参考書
〔業界地図〕〔東洋経済新報社〕〔1980円〕
〔会社四季報〕〔東洋経済新報社〕〔2900円〕
〔就職四季報総合版〕〔東洋経済新報社〕　〔2310円〕
〔就職四季報女子活躍版〕〔東洋経済新報社〕〔2310円〕
〔キャリアをつくる独学力〕〔髙橋俊介〕〔東洋経済新報社〕〔1870円〕

■ 備考
オフィスアワー
原則として、平日9時～17時までの間。

家 政 学 部 基 幹 科 目

家政学原論

(11091)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　基幹科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
「家政学とは何か」について学ぶ。近代以降家政学がどのように扱われてきたか、また現在、私たちが抱えている生活の問題点について概説する。家政学部で各自が所属する学科で専攻科目を学びながら人間生活と生活に関わる家政学の独自性に気づきその根本について説明する。さらに、実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解するとともに、各自が自立しよりよく生きるための力を身につけることの重要性を理解できるように詳説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・家政学の独自性に気づき、その根本について理解する事。	0.5	0.2				0.1		0.2	
・実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解する。									
・自立しよりよく生きるための力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	日頃から生活の諸問題に対し自分の意見を持ち行動する事。テキスト（第1章）を読む。
第２回　家政学とは・家政学原論とは何か	家政学とは何か理解し学ぶ大切さを実感すること。テキスト（第2章）を読む。
第３回　家政学をなぜ学ぶのか	家政学をなぜ学ぶのかを理解し、重要性に気が付くこと。テキスト（第1章と第2章）を再度読む。
第４回　家政学の特質、研究対象、研究方法、研究目的	家政学の対象の広さを知り、身近な学問と理解する事。テキスト（第2章）を読む。ノート整理。
第５回　家政学史　本学の歴史について	家政学の歴史などについて自分なりに調べる。テキスト（第4章）を読む。
第６回　我が国の家政学史(1) 学制以前～	家政学の歴史などについて自分なりに調べてレポートまたは発表する。テキスト（第4章）を読む。ノート整理。
第７回　家政学史　(2) 昭和時代～	テキストなどを読みながら復習する。（第1章～第4章）ノート整理。
第８回　世界の家政学について（アメリカなど）	これまでの授業を振り返り要点をまとめる。テキスト（第3章）などを読みながら復習し憶える。
第９回　世界の家政学について　（ヨーロッパなど）	これまでの授業を振り返り要点をまとめる。テキスト（第1章～第4章）などを読みながら復習し憶える。
第10回　ここまでのまとめ　（テスト）	これまでの授業をまとめる。テストの振り返り（内容確認）。
第11回　現代社会における家政学の普及・社会貢献 家政学と教育	講義で学んだことを生かしレポートする題目を決める。テキストを読む（第5章・第6章）
第12回　現代社会の生活者と家政学 サスティナブル（持続可能）な社会の創造	SDGsについて調べる。関連する教科書のページを読む。また、レポートする題目を決め、内容について調べる。
第13回　生活上の諸問題 （衣生活、食生活、住生活環境、消費生活、家庭生活、福祉、高齢化社会）	レポートする内容について調べる。
第14回　課題発表会　プレゼンテーション	プレゼンテーションの方法について確認する。各自で発表練習をする。
第15回　まとめ　今後の家政学	プレゼンテーションの振り返り。今後の家政学について考える。

■ 履修上の注意
出席を重視。私語は厳禁。教科書は必ず購入し持参するようにして下さい。

■ 成績評価方法・基準

テスト40%、レポート・発表30%、授業態度など（提出物やその内容、教員の指示に対応しているか）30%
テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合もあります。

■ 教科書
やさしい家政学原論　（一社）日本家政学会家政学原論部会編　建帛社　2500円+税

■ 参考書
講義時に指示します

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。

家族関係学

(11092)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　基幹科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
「家族とは何か」について概説する。これまでの家族やその在り方、現在や今後の家族やその在り方について解説する。身近な存在である家族は特に成長過程において、大切な存在であることを理解させる。また、家族をめぐる諸問題やその背景にある社会の変化について、いろいろなデータも取り入れて講義する。そのデータを客観的に科学的に考察することで、さまざまな諸問題に対し自発的に解決できる能力を養うことの重要性を理解できるように詳説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・さまざまな家族について理解する事。	0.4	0.2				0.2		0.2	
・家族を取り巻く諸問題について客観的に理解を深める事。									
・変化する社会と家族について問題点を見つけ改善していく能力を身に付ける事。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	事後：家族について考える テキストの目次を読む。どのような内容が記載されているか確認する。
第２回　家族とは.家族の種類と分類	家族の存在について考える。テキストの中で関心のある所を各自読んでくくる。
第３回　家族関係学を学ぶにあたって	行事と家族について考える。これまでの内容を復習し、テキスト序章を読む。図表を見て客観的に理解し、皆の前で発表する準備をする。
第４回　生まれる・育つ	行事と家族について考える。これまでの内容を復習し、テキスト第1章を読む。
第５回　子どもが直面している問題 これまでのまとめ	さまざまな環境下で育つ子どもについて理解する。これまでの内容を復習し、ノートを整理をしながらテキスト（第序章～第2章）を読む。
第６回　パートナーの選択と結婚	家族や結婚に関するデータを調べて、発表する準備をする。テキスト第5章を読む。
第７回　現代日本の結婚状況	家族関係と法律について理解を深める。テキスト第3章～第5章を読む。
第８回　夫婦関係の諸相	家族に関するデータを調べて、発表する準備をする。テキスト第6章を読む。
第９回　役割構造からみた夫婦関係	家族に関するデータを調べて、発表する準備をする。テキスト第6章を読む。レポート課題に取り組む。
第10回　新しい生命の誕生と家族	生命の誕生と家族のかかわりについて理解を深める。テキスト第4章を読む。
第11回　ワーク・ライフ・バランス	これまでの内容を復習し、ノート整理をしながらテキスト第9章を読む。
第12回　これまでのまとめ	これまでの内容を復習し、テキスト第1章～第9章を読む。レポート課題に取り組む。
第13回　親のケアに関わるということ	レポート課題に取り組む。これまでの内容を復習し、ノート整理をしながらテキスト序章～第9章の内容を確認する。
第14回　これからの家族　社会の変化・家族の変化 図表などのプレゼンテーション	皆の前で発表する準備をする。これまでの内容を復習し、ノート整理をしながらテキスト序章～終章の内容を確認する。
第15回　まとめと小テスト	図表を見て客観的に理解する。これまでの内容を復習し、ノート整理をしながらテキスト序章～終章の内容を確認する。

■ 履修上の注意
出席を重視。私語は厳禁。指定されたテキストは講義で使用しますので必ず購入し持参してください。

■ 成績評価方法・基準
授業参加状況：提出物、授業態度（持ち物）、積極的に参加しているかなど：30%、プレゼンテーションと小テスト：40%、レポート課題：30%
テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合もあります。

■ 教科書
三訂　新しい家族関係学　　建帛社　　定価2400円+税

■ 参考書
講義時に指示する

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。

家庭経営学（家庭経済学を含む。）

(11093)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　基幹科目
佐　藤　康　仁

■ 授業の概要
本講義では、現代の家庭を取り巻く社会・経済の変化をふまえ、家計収支・ライフサイクル・世帯構造の違いなどを「生活者の視点」から学びます。さらに、社会保障制度や税、消費者問題などをとりあげ、家庭経済が社会や国民経済とどのようにつながっているかを理解し、自分自身の生活設計へと結びつけて考察します。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・現代の家庭生活と社会制度について、家計の視点から理解し、自分の生活に結びつけて説明できるようになること。	0.4 0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　家庭経営学（家庭経済学を含む。）で何を学ぶのか	（事前学習）シラバスで、授業の概要や到達目標、授業計画などを確認しておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第２回　戦後日本と生活の変化①戦後復興期～バブル経済	（事前学習）第2回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第３回　戦後日本と生活の変化②バブル経済期～コロナ禍	（事前学習）第3回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第４回　家計収支の基本構造	（事前学習）第4回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第５回　家計を読み解く法則	（事前学習）第5回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第６回　ライフサイクルと貯蓄・負債	（事前学習）第6回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第７回　単身世帯・２人以上世帯の家計	（事前学習）第7回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第８回　子どもにかかる費用と教育費	（事前学習）第8回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第９回　離婚とひとり親世帯の家計	（事前学習）第9回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく

	。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第10回　高齢者単身世帯の家計と生活	（事前学習）第10回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第11回　社会保障と生活	（事前学習）第11回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第12回　家庭経営からみた税の役割	（事前学習）第12回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第13回　カード社会の金銭管理	（事前学習）第13回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第14回　消費者問題と生活経済	（事前学習）第14回の授業資料を確認し、分からない用語や制度を2～3点挙げ、簡単に調べておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。
第15回　これまでの学習内容の確認（試験）	（事前学習）授業のノートや資料を見直し、これまでの受業内容を振り返っておく。 （事後学習）授業後は授業内容を振り返り、理解できた点・疑問点を簡潔にまとめる。

■ 履修上の注意
私語を慎み、授業への積極的な参加を望みます。

■ 成績評価方法・基準
学修内容の確認（試験）70%、小課題・ミニッツペーパー30%で評価します。
評価のフィードバック方法：講義内で全体の評価結果の公表と解説を行います。

■ 教科書
特に使用しません。
下記の参考書を中心に、複数の資料を使用します。

■ 参考書
赤星礼子（編）『生活経営学　第3版』（九州大学出版会、2022年）ISBN: 9784798503226
伊藤隆敏・星岳雄『日本経済論』（東洋経済新報社、2023年）ISBN: 9784492396742
大藪千穂『生活経済学』（放送大学教育振興会、2025年）ISBN: 9784595325083
橘木俊詔『家計からみる日本経済』（岩波新書、2004年）ISBN: 9784004308737
『もっと知りたい 税のこと』2025年（財務省）https://www.mof.go.jp/tax_policy/publication/brochure/zeisei0707_pdf/all.pdf

■ 備考
1. 第1回の授業では、授業の方針や内容、受講に際しての約束事項について説明するので、必ず出席してください。
2. 受講生の知識、理解度に応じて、必要に応じて授業スピードの変更を行います。これに伴い、授業計画が修正される可能性があります。
3. オフィスアワーについては開講時に説明します。

服 飾 文 化 専 攻 科 目

消費生活論

(11101)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

私たちは，誰もが「消費者」である。さまざまな商品やサービスを購入し，それらを利用（消費）し，暮らしている。そうしたなか「経済的に効率良く，地球環境にも配慮し，暮らしていくためには，合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が求められる。

本講義では，消費生活協同組合や調査研究機関での研究員としての実務経験や『消費生活コンサルタント(宮城第46期)』としての経歴を活かし，消費者問題の歴史的変遷を解説するとともに，消費者・行政・企業の事例研究を通じて「現代社会を生きていくために知っておくべきこと，暮らしに役立つこと（消費者力）」の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1)現代社会に欠かせない智慧として，消費者問題を理解できる	0.4　0.6
・2)全ての人に関わる問題と認識し，消費者問題を説明できる	
・3)今後の消費者・行政・企業のあるべき姿について説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：授業のすすめ方・評価，消費者力の説明 概　要：現代社会を生きていくための智慧とは？	授業計画やテキストなどを参考にして，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第２回　テーマ：消費者政策の歴史 概　要：消費者保護基本法から消費者基本法へ転換した理由は？	同　上
第３回　テーマ：消費者政策の理念と歴史 概　要：消費者の４つの権利から6つの権利へ発展した理由は？	「消費者の４つの権利」と「消費者の6つの権利」についてA4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第４回　テーマ：消費者行政と消費者関係法 概　要：消費者に役立つ様々な法律を学ぶ	同　上
第５回　テーマ：消費生活の安全の確保 概　要：消費生活相談員の役割を学ぶ	同　上
第６回　テーマ：広告・表示の適正化 概　要：景品表示法関連法令と事例について学ぶ	インターネット取引における広告・表示規制について調べ，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第７回　テーマ：消費者契約の適正化 概　要：消費者契約法と重要説明事項を学ぶ	同　上
第８回　テーマ：企業と業界団体の責務 概　要：消費者・顧客志向の経営を学ぶ	同　上
第９回　テーマ：消費者対応部門の役割と機能 概　要：企業の消費者対応を学ぶ	企業・業界団体などの消費者対応を調べ，その概要をまとめるとともに，その取り組みに対する所感についてA4用紙2枚（1，600字以上）のレポートを作成し，提出。
第10回　テーマ：業界団体の消費者対応 概　要：通販110番や訪問販売110番などの事例について学ぶ	同　上
第11回　テーマ：消費者教育 概　要：国民生活センターや日本消費者協会を事例について学ぶ	「現代社会を生きていくために知っておくべきこと，暮らしに役立つこと」の視点から，これまでの授業のなかで，最も印象に残ったことについて要約し，考察を加え，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第12回　テーマ：消費生活における情報の重要性 概　要：合理的な意思決定とは?	同　上
第13回　テーマ：消費生活情報の現況Ⅰ 概　要：暮らしに役立つ情報を見極めるには?	同　上
第14回　テーマ：消費生活情報の現況Ⅱ 概　要：賢い消費行動の実践に向けて	同　上

第15回　テーマ：まとめ　　同　上
　　概　要：消費者力検定の紹介

■ 履修上の注意
2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準
平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，課題については，授業中にフィードバックをします。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔新版 消費生活論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1600円〕

■ 参考書
授業中に適宜指示します。

■ 備考
【事前もしくは同時，あるいは事後に受講して欲しい講義】
「キャリアサポートⅠ」「キャリア開発Ⅱ」
【質問・相談など】
授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

社会福祉論

(11102)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化が一層進みつつある我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）や現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・社会福祉の理念や概念に関する知識を身につける。 ・社会福祉に関連する法・制度に関する知識を身につける。 ・社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。	0.5　0.5

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは	配布プリントをよく読み、この授業で学習内容をまとめておく（次回確認）。
第２回　日本における社会福祉の歴史と発展	配布プリントをよく読み、日本の社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　諸外国における社会福祉の歴史と主な制度	配布プリントをよく読み、諸外国における社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　諸外国における社会福祉の現状と課題	配布プリントをよく読み、諸外国における社会福祉の現状と課題について内容をまとめておく（次回提出）。
第５回　社会福祉のニーズとは	配布プリントをよく読み、ニーズについて内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　社会福祉に携わる専門職	配布プリントをよく読み、専門職について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　ボランティア	配布プリントをよく読み、ボランティアの概念や歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　社会福祉援助技術	配布プリントをよく読み、援助技術の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　障害者福祉①概念とその歴史	配布プリントをよく読み、障害者福祉の概念と歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　障害者福祉②身体障害者補助犬法	配布プリントをよく読み、身体障害者補助犬法の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　高齢者福祉	配布プリントをよく読み、介護を含む高齢者福祉の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　児童福祉	配布プリントをよく読み、児童福祉の歴史と枠組について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　子どもの権利条約	配布プリントをよく読み、子どもの権利条約について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　貧困問題と社会福祉	配布プリントをよく読み、貧困とその課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート	配布プリントをよく読み、社会福祉の展望及びこれまでの講義内容の振り返りを行う。
第16回　試験	筆記試験に向けた復習を行う。

■ 履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。

・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（60%）、平常点（40%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔新 社会福祉とは何か〕〔大久保秀子著〕〔中央法規〕〔1650円〕

■ 参考書
・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付ける。

地域文化論

(11103)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
石　川　光　年

■ 授業の概要
大学がある仙台および宮城県などの地域に注目し、その歴史や文化についてみていくことで、自分たちが住む地域の歴史とその特徴について理解する。宮城県や東北というと、どうしても仙台ばかりが注目されてしまうが、それ以外にも注目すべき歴史をもつ場所があることを再認識してもらう。基本的には宮城県地域を中心に扱うが、一部他の地域（福島県会津地方など）もとりあげる予定である。なお、教員は宮城県内の史料保存・整理にかかわる機関で勤務した経験を有する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・①仙台および宮城県の歴史・文化について理解する。	0.4	0.4							0.2
・②自分の出身地の歴史や文化に関心をもち、調べることができる。									
・③宮城県の各地域の歴史・文化の成り立ちについて考え、報告できるようになる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：講義の概要	配布プリントを読み、授業の概要について再度理解する。
第２回　仙台の歴史と文化①伊達氏と伊達政宗	配布プリントを読み、伊達氏と伊達政宗について理解する。
第３回　仙台の歴史と文化②仙台城	配布プリントを読み、仙台城について理解し、実際に仙台城を訪れてみる。
第４回　仙台の歴史と文化③城下町仙台	配布プリントを読み、城下町としての仙台について理解する。
第５回　宮城県の歴史と文化①中世の城館	配布プリントを読み、宮城県内にある中世城館について理解する。
第６回　宮城県の歴史と文化②中世の板碑	配布プリントを読み、宮城県内にある板碑について理解する。
第７回　宮城県の歴史と文化③多賀城	配布プリントを読み、多賀城とその歴史について理解し、実際に多賀城を訪れてみる。
第８回　宮城県の歴史と文化④松島	配布プリントを読み、松島とその歴史について理解し、実際に松島を訪れてみる。
第９回　宮城県の歴史と文化⑤塩釜	配布プリントを読み、塩釜とその歴史について理解し、実際に塩釜を訪れてみる。
第10回　宮城県の歴史と文化⑥石巻	配布プリントを読み、石巻とその歴史について理解し、実際に石巻を訪れてみる。
第11回　宮城県の歴史と文化⑦南三陸	配布プリントを読み、南三陸地域とその歴史について理解する。
第12回　東北の歴史と文化①平泉と奥州藤原氏	配布プリントを読み、平泉と奥州藤原氏について理解する。
第13回　東北の歴史と文化②会津地方	配布プリントを読み、会津地方とその歴史について理解する。
第14回　地域の歴史・文化を継承する	配布プリントを読み、地域の歴史資料を継承する取り組みについて理解する。
第15回　総括	授業で配布したプリントを再読し、身近な地域の歴史・文化を考える。

■ 履修上の注意
歴史Ⅰと歴史Ⅱはこの講義と関連し、理解するうえで参考になる。なお講義の進度状況によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準
平常点（毎回提出するコメントの内容で受講態度や理解度を判断する）60%
レポート（講義のまとめに関するもの。指定された形式にのっとっているか、講義の理解度・文章の書き方などによって評

価）40％

■ 教科書
毎回プリントを配布する。

■ 参考書
『仙台市史 通史編』など。その他講義中に適宜紹介する。

■ 備考
質問等は授業終了時に受け付ける。

美術史Ⅰ

(11104)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
大　嶋　貴　明

■ 授業の概要
原始、古代から近代に至る西洋美術の流れを基本として、具体的な作品における、時代的な変化とその社会的背景について教授する。西洋美術史概説で取り上げる作品や人間についての知識的情報のみならず、個々のケースの背後および前後に広がる文化史的脈絡を重点とする。また、史的展開が作品の変化に注目するのに対して、時間的、空間的な枠を超えた、作品形成の構造的相似性から得られる美術理論についても、ポイントをしぼり、検討する。
なお、以上の内容は、各自が持つ、常識としての「美術」や個別の美意識を超えている場合が多い。そのことに注目していきたい。また、服飾史は主題的に講じないが、広い文化史の一部として提示する。
「自己」や「現代」を形作る資源の一つとしての美的遺産を解きほぐし、自己形成の一助としてあることを示唆する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・原始、古代から近代までの西洋美術の流れを俯瞰的に説明できる。 ・「絵画性」の原則など、いくつかの美術理論を理解する。 ・自己および現代について、感性的、文化史的成り立ちを分析する視座を持てる。	0.6　0.4

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：美術史の普遍的意味／今日的意味 基本概念・用語の説明 美術史ゲーム体験１：作品が表象するもの	事前：中学校と高校で使用した美術の教科書や資料集の美術史を振りかえる。 事後：「表象」「世界観」などの基本用語について、メモを整理し、疑問点を挙げておく。
第２回　美術史ゲーム体験２：作品間の連続性と分断（美術史と美術理論の可能性） 「近代」への展開：メトロポリタン美術館展の展示から	事前：ウィキペディアや大型の国語辞典などで、「美術史」「西洋美術史」「近代」などのキーワードを検索し読んでおく。 事後：「美術史的展開の連続性と分断性」を中心にメモを整理し、疑問点を明確にする。
第３回　原始および古代文明の美術	事前：「先史文明」「アメリカ・アフリカ・アジアの原文明」などのキーワードを検索し調べる。 事後：西洋中心主義以外の美術についてメモを整理し、疑問点を明確にする。
第４回　エジプト美術とその展開	事前：「古代エジプト文明」などのキーワードを検索し、調べる。 事後：エジプト文化の影響力を中心に、メモを整理し、疑問点を明確にする。
第５回　エトルリア美術、古代ギリシャの展開、ヘレニズム時代まで。 ローマ時代の美術	事前：「前ギリシャ文化」「古代ギリシャ」などのキーワードを検索し、調べておく。 事後：ギリシャ中心主義以外の古代地中海文明の特色を中心に整理し、疑問点を明確にする。
第６回　初期キリスト教美術とビザンティン美術	事前：「キリスト教」の特色や流れを調べておく。 事後：初期キリスト教美術とビザンティン美術の特色を中心に整理し、疑問点を明確にする。
第７回　中世美術 ロマネスク、ゴシックの美術 古代から中世まで振り返り：疑問点の確認 中間レポートの準備	事前：西洋の「中世」などのキーワードを検索し、調べる。 事後：宗教的世界観の変化と美術の変化の関連を中心に、メモを整理し、疑問点を明確にする。
第８回　前期ルネサンス、北方ルネサンス 盛期ルネサンス	事前：１４～１６世紀にかけて西洋の権力構造の変化を調べておく。 事後：ルネサンスの各時期、地域ごとの美術の特色について、整理し疑問点を明確にする。
第９回　西洋美術の空間表現の展開	事前：「空間表現」について疑問点を整理しておく

		事後：空間表現の変化について整理する。特に、東洋美術との違いを明確化しておくこと
第10回	マニエリスム フランドル美術 ベネチア派	事前：ルネサンス以後の各派についてキーワードを検索し、見ておく。 事後：各派の特色、後世への影響を中心にメモを整理し、疑問点を明確にする。
第11回	バロック ロココ	事前：「バロック」などのキーワードを検索し、見ておく。 事後：「バロック」などの後世への影響関係を中心に、メモを整理し、疑問点を明確にする。
第12回	新古典主義・ロマン主義・写実主義 サロンの画家たち	事前：「フランス革命」ほかの西洋各国の社会変化について、キーワードを検索し見ておく。 事後：各美術家と社会変化の関係を中心に、メモを整理し、疑問点を明確にする。
第13回	産業革命と市民社会、プレ印象派 印象派 印象派の展開・ポスト印象派 デザインの新たな展開	事前：「近代」、「印象派」などのキーワードを検索し調べる。 事後：「近代美術」という新しい考え方の発生を中心にメモを整理し、疑問点を明確にする。
第14回	絵画空間の変化　　１画面１場面の法則を超えて 再現から表現へ（類似から相似へ） 絵画認識と記号認識の違い	事前：異質な絵画性を感じる絵画作品を探しておく 事後：１９世紀絵画と２０世紀絵画の違いを整理する
第15回	近代建築の空間　特に三巨匠の作品を中心に 最終レポートの準備	事前：近代建築とそれ以前の建築の違いを整理しておく。現代建築の代表として、せんだいメディアテークを観察しておく 事後：最終レポートを作成し提出

■ 履修上の注意

毎回、可能な限り当日の分のレジュメや資料を渡し、できる限り次回講義について予定を明示する。
受講者からは簡単な疑問点や内容についての小レポート提出をもとめる。小レポートは１０分程度のものとし、成績評価と出欠の確認用とし、必要に応じてフィードバックする。
中間レポートと最終レポートを課す。レポートのテーマや詳細については、中間レポートは７回目講義まで、最終レポートについては、１５回目講義までに提示する。レポートの形式、分量、制作上の注意点についてはそのつど説明する。
連絡、質疑応答、レポート出題と提出はClassroomでおこなう。確実に入室しておくこと。
事前学習については、最低限ウェブでの検索によって、キーワードや重要な作品についてあたりをつけておくこと。
事後学習については、ノートの整理、特に疑問点の抽出を大事にすること。
「美術史Ⅰ」は西洋美術史中心、「美術史Ⅱ」は日本美術史を含む東洋美術史を講ずる。したがって、世界の美術史全体を理解するために、連続的に受講することが望ましい。また、進度や事情により、シラバスの順序と前後する場合がある。
そのほかについては第１回講義時に説明する。

■ 成績評価方法・基準

小レポート（15回）：30%　中間レポート：30%　最終レポート：40%
各レポートの採点基準については、そのつど説明する。

■ 教科書

使用しない。
講義時にはレジュメおよび資料プリントを配布する。

■ 参考書

叢書ウニベルシタス69「芸術と文明」　ケネス・クラーク著　法政大学出版局　　3900円（第7版定価）
「美術の歴史」　H.W.ジャンソン著　美術出版社　（大型本で、できれば旧版　古書価格20000円）
「美術の物語」　E.H.ゴンブリッチ著　ファイドン株式会社　6980円

■ 備考

参考になるものは、参考書としてあげたものだけではなく、多くの大事な書物や画集、展覧会カタログなどがある。講義の中でも紹介する。展覧会を含め、できるだけ手に取ったり、見てみること。
質問については、講義終了時他、適宜時間をとるが、詳しくは、第1回講義中に、説明する。

美術史Ⅱ

(11105)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
大　嶋　貴　明

■ 授業の概要
東洋美術の多様さと各々の展開に触れ、具体的な作品について教授する。
日本美術史概説で基本として取り上げる作品や人間についての知識的情報のみならず、個々のケースの背後および前後に広がる文化史的脈絡や中国美術との関連性を検討する。
文化史的視点を含めて、いくつかの美術理論について講ずる。
また、服飾史を中心に講ずることはないが、文化史の一部として、可能限り取り上げる。
「自己」や「現代」を形作る資源の一つとしての美的遺産を解きほぐし検討することを示唆する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・東洋美術および日本美術を俯瞰的に説明できる。 ・いくつかの美術理論について理解できる。 ・自己および現代について、感性的、文化史的成り立ちを分析する視座を持てる。	0.6　0.4

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：東洋美術の多様性 作品観察の方法：ディスクリプション体験	事前：ウィキペディアや国語大典などで、「美術史」「東洋美術史」「日本美術史」などのキーワードを検索し読んでおく。 事後：作品観察の方法を整理する。
第２回　イスラームの美術、インドの美術1	事前：「イスラーム」「中央アジア」「インド」の歴史を検索し調べておく。 事後：各地域の宗教と美術の関係を整理し、疑問点を明確にする。
第３回　インドの美術２ 中央アジア、南アジア、東南アジアの美術	事前：「イラン」「中央アジア」「南アジア」「東南アジア」の歴史を検索し調べておく。 事後：シルクロードおよび南アジアでの仏教の展開と美術の関係を整理する。
第４回　中国の美術１：古代から北宋、南宋の美術	事前：「中国史」を検索し見ておく。 事後：中国美術史上の大きな変化のポイントを整理する。
第５回　中国の美術２：中国の絵画論 山水画の思想、山水画の展開	事前：山水画の特徴・疑問点を整理する 事後：中国の思想と山水画の関係について整理する。
第６回　中国の美術３：元から清の美術	事前：中国の中近世の展開を調べておく。 事後：地域的特色と美術の関係を整理し、疑問点を明確にする。
第７回　朝鮮・韓国の美術	事前：「朝鮮史」を調べておく。 事後：朝鮮美術の独自性を整理し、疑問点を明確にする。
第８回　東洋美術について、振り返りと疑問点の確認 岡本太郎の美意識、イグネの美意識、高村光太郎の美意識 中間レポートの準備	事前：東洋美術について疑問点を整理する 事後：日本美術史の注意点を整理する 中間レポートの作成と提出
第９回　新石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代の美術 飛鳥時代・白鳳・奈良時代・天平時代の美術	事前：日本史年表を見ておく。大和朝廷の権力構造変化などを検索し、見ておく。 事後：日本仏教美術前期について整理する
第10回　飛鳥時代・白鳳・奈良時代・天平時代の美術 平安時代の美術、浄土信仰と美術、密教の美術	事前：「仏像」や「仏教の図像」についてキーワードを検索し、見ておく。 事後：仏教美術の展開とその頂点、和風化や国内の民族宗教の影響などを整理する。
第11回　平安時代の美術、浄土信仰と美術、密教の美術 鎌倉時代・南北朝・室町時代の美術	事前：権力構造の変化と美術の関係について、確認しておく。

	事後：仏教美術の展開と第２の頂点について整理する。
第12回　室町時代、戦国時代、安土桃山時代、江戸前期の美術	事前：権力の担い手の変化、「茶」「わび」「雪月花」「水墨画」「枯山水」などのキーワードを検索し、見ておく。 事後：日本の絵画の展開を整理する。
第13回　江戸時代から近代へ	事前：都市としての「江戸」の文化を調らべておく。 事後：この時期に形成された美意識の現在への影響について、整理する。
第14回　日本の美意識の大転換と岡倉天心	事前：岡倉天心について調べ、整理しておく。 事後：日本的市民社会と明治維新で変化した世界観を中心にメモを整理する。
第15回　近現代の展開、現代美術の構造 最終レポートの準備	事前：近代からの社会変化について整理しておく 事後：最終レポートを作成し提出

■ 履修上の注意

毎回、授業レジュメと資料を配布する。また可能なかぎり次回講義の予定を提示する。受講者からは簡単な疑問点や内容についての小レポート提出をもとめる。小レポートは１０分程度のものとし、成績評価と出欠の確認用とし、必要に応じてフィードバックする。

中間レポートと最終レポートを課す。レポートのテーマや詳細については、中間レポートは８回目講義までに、最終レポートについては、１５回目講義までに提示する。なお、レポートの形式、分量、制作上の注意点についてはその都度説明する。

講義の連絡・質問応答・レポート課題の提示やレポート提出はすべて、Classroom上でおこなう。受講生は確実に入室しておくこと。

事前学習については、最低限ウェブでの検索によって、キーワードや重要な作品についてあたりをつけておくこと。

事後学習については、ノートの整理、特に疑問点の抽出を大事にすること。

講義の展開やその他の事情によっては、レジュメの講義内容や順番を変更する場合がある。

「美術史Ⅱ」は「美術史Ⅰ」とひとつながりで全美術史を講ずる。「美術史Ⅰ」からの連続しての受講が望ましい。

その他必要事項があれば初回講義時に説明する。

■ 成績評価方法・基準

小レポート（15回）：30%　中間レポート：30%　最終レポート：40%

各レポートの採点基準については、その都度説明する。

■ 教科書

使用しない。

講義時にはレジュメおよび資料プリントを配布する。

■ 参考書

「増補新装カラー版東洋美術史」　監修：前田耕作　執筆：山岸公基 他　美術出版社　2500円

「東洋美術史」　監修：朴 亨國　執筆：平岡三保子 他　武蔵野美術大学出版局　2400円

「日本美術の歴史」　辻 惟雄著　東京大学出版会　2800円

■ 備考

参考になるものは、参考書としてあげたものだけではなく、多くの大事な書物や画集、展覧会カタログなどがある。講義の中で紹介するものも含め、また、展覧会なども、できるだけ広く実際に手に取ったり見ることが望ましい。

質問や疑問点については、講義中を含め適宜時間をとるが、詳しくは第１回目講義のとき説明する。

被服学

(11106)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

被服は人間の生活に大きな役割を果たしてきた。私たちを取り巻く社会環境は変化していくため，対応できるように被服について考えていく必要がある。そこで本講義では，健康・安全・快適性をキーワードに衣生活について概説する。人間の着用を中心におきながら，社会性，素材，品質と管理について取り上げる。さらに，消費，環境についても触れ，これからの衣生活を向上させるために必要な知識を習得させ，実践能力が高められるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・衣服の機能について理解できる。	0.2	0.2	0.4					0.1	0.1
・社会と被服の関係について理解できる。									
・環境に配慮した衣生活を送るために必要な知識を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　被服学とは，人はなぜ装うのか	装いの機能についてまとめる。
第２回　気候風土と装い	民族服についてまとめる。
第３回　衣服のかたちの変遷①洋装	洋装についてまとめる。
第４回　衣服のかたちの変遷②和装	和装についてまとめる。
第５回　装いと健康	快適性についてまとめる。
第６回　装いによる気候調節	温度調節についてまとめる。
第７回　動きやすさと衣服	動きやすさについてまとめる。
第８回　衣服の素材（グループワーク）	素材についてまとめる。
第９回　衣服の加工，品質	性能・加工，表示についてまとめる。
第10回　衣服の管理	洗濯，管理についてまとめる。
第11回　人の成長とからだつき（体験学習），アパレル産業と既製服	体型，既製服についてまとめる。
第12回　装いのコミュニケーション	色，流行，個性についてまとめる。
第13回　ユニバーサルデザインと装い	ユニバーサルデザインについてまとめる。
第14回　装いと生活環境 レポートの作成	再利用についてまとめる。 ワークシートを提出する。 レポートを完成させる。
第15回　レポートの発表，まとめ	レポートを提出する。

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。日頃から被服に関することに興味関心を持つこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシート・レポート）60%，受講状況(ミニットペーパー等)40%で評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

〔ビジュアル衣生活論〕〔岡田宣子編著〕〔建帛社〕〔2，530円〕

■ 参考書

無し（適宜，プリントを配布する）

■ 備考

ルーブリック評価については，第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

色彩学

(11107)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
内　海　陽　子

■ 授業の概要

本講義では、色の基本概念や用語、色の生成と混合、色の対比と配色、色彩心理、歴史的な色の使用、色覚特性など、実践的な色彩設計に必要な基礎理論を教示する。講義・デモンストレーション・実習を組み合わせ、理論理解と応用力の向上を図るとともに「ファッションコーディネート色彩能力検定3級」に対応できる知識と技能を修得する。
本講義は、大手アパレル企業にて16年間、年間30億円以上の商品バイイングやマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在はファッションプロデューサーとして多岐にわたり活動する講師が担当する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・色の知覚、生理、心理作用など色彩の基礎を理解する。	0.2	0.2	0.4					0.1	0.1
・色の表示、伝達方法とその歴史的背景、文化を考察し、デザイン表現に活かす力を身につける。									
・カラーユニバーサルデザインの基本を学び、デザインの中でカラーに関わる新たな課題を解決する能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　光と色・色彩心理	教科書P10～30を熟読し練習問題を学習する。
第２回　色の表示① 色の分類と三属性 PCCS 言葉による色表示	教科書P33～68を熟読し練習問題を学習する。
第３回　色彩効果と生活・ファッションと色彩	教科書P104～115を熟読し練習問題を学習する。
第４回　インテリアと色彩・色の見え方と色覚の仕組み	教科書P118～125を熟読し練習問題を学習する。
第５回　色彩調和①配色の基本的な考え方 色相から配色を考える	教科書P70～83を熟読し練習問題を学習する。
第６回　色彩調和②トーンから配色を考える	教科書P84～102を熟読し練習問題を学習する。
第７回　AFTの色彩能力検定3級の試験対策	過去問題集 練習問題を学習する。
第８回　AFTの色彩能力検定3級の試験対策	過去問題集 練習問題を学習する。
第９回　さまざまな色覚タイプや高齢者の色の見え方	教科書P6～30を熟読し練習問題を学習する。
第10回　色彩調和③配色カード演習 色相から調和を考える	教科書P70～83を熟読し配色演習を実施する。
第11回　色彩調和④配色カード演習 トーンから調和を考える	教科書P84～102を熟読し配色演習を実施する。
第12回　色彩調和⑤配色カード演習 アクセントカラー	教科書P92～102を熟読し配色演習に取り組む。
第13回　色彩調和⑥配色カード演習 グラデーション	教科書P96～102を熟読し配色演習に取り組む。
第14回　色彩の効果と色彩の応用	配色演習に取り組む。
第15回　色彩能力検定3級模擬試験	過去問題集 練習問題を学習する。

■ 履修上の注意

事前に教科書を熟読し、配布する練習問題について十分に学習した上で授業に臨むこと。
理論と実践を結び付けて理解するため、継続的な予習・復習を行うことが望ましい。
AFT色彩検定3級を受験すること。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書

〔色彩検定 公式テキスト3級編〕〔公益社団法人 色彩検定協会〕〔2，420円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

日本服装史

(11108)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

縄文時代から近代までの日本人の生活と服装の変遷について概説する。その際、服飾関連資料だけでなく、絵画・彫刻・文学・法令等と関連付けて読み取ることで、それぞれの時代の日本人の装いについて理解を深められるようにする。また、美術館・博物館等でのフィールドワークや、本学資料室所蔵資料を使っての学習、図書館での調査等を随時取り入れることで、歴史資料や服飾関連資料についての見る目を養い、それらについて考察する能力を身に付けさせる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・日本人の生活と服装の変遷について理解できる。 ・図像資料や文字資料について考察できる能力を身につける。 ・日本文化について理解を深める。	0.2250.2250.55

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション、原始衣服の時代1（縄文時代）	ワークシート(縄文時代)の完成、次回キーワードの調査
第２回　原始衣服の時代2（弥生時代）、胡服の時代1（古墳時代）	ワークシート(弥生時代・古墳時代)の完成、次回キーワードの調査
第３回　胡服の時代2（飛鳥時代）	ワークシート(飛鳥時代)の完成、次回キーワードの調査
第４回　唐風服飾時代（奈良時代）	ワークシート(奈良時代)の完成、次回キーワードの調査
第５回　唐風から国風の服装へ（平安時代）	ワークシート(平安時代)の完成、次回キーワードの調査
第６回　貴族と武家の服装（中古・中世）	ワークシート(中古・中世)の完成、学外研修の事前調査
第７回　フィールドワーク：博物館・美術館等での資料調査	研修レポートの作成、次回キーワードの調査、教科書p. 8～p. 11、p. 16～p. 19を熟読
第８回　小袖の変遷（中古・中世）	ワークシート(中古・中世)の完成、次回キーワードの調査、教科書p. 12～p. 13、p. 26～p. 33を熟読
第９回　庶民の服飾（中世～近世初頭）	ワークシート(中世～近世初頭)の完成
第10回　クイズ	クイズの振り返り、次回キーワードの調査、教科書p. 34～p. 39、p. 105～p. 107を熟読
第11回　近世の服装1（安土桃山時代～江戸時代初期）	ワークシート(安土桃山時代～江戸時代初期)の完成、次回キーワードの調査、教科書p. 40～p. 53、p. 108、p. 122～p. 123を熟読
第12回　近世の服装2（小袖雛形と流行）	ワークシート(小袖雛形と流行)の完成、次回キーワードの調査、教科書p. 54～p. 75、p. 109を熟読
第13回　近世の服装3（身分と美意識）	ワークシート(身分と美意識)の完成、次回キーワードの調査、教科書p. 14～p. 15、p. 20～p. 23、p. 76～87を熟読
第14回　近代の服装1（明治時代）	ワークシート(明治時代)の完成、次回キーワードの調査、教科書p. 88～p. 103を熟読
第15回　近代の服装2（大正～昭和時代）	ワークシート(大正～昭和時代)の完成、試験の準備
第16回　試験	試験の振り返り、ワークシートまとめ

■ 履修上の注意

・遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。
・学外研修の費用は自己負担とします。
・パソコン(タブレット端末可)を持参すること。ワークシートや参考資料は電子データで配布されます。

■ 成績評価方法・基準

期末試験の評価を45%、研修レポートの評価を10%、履修状況（ミニットペーパー・参加状況等）による評価を45%として評価します。なおミニットペーパー・レポートを添削して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書
〔ようこそきものの世界へ〕〔長崎巌〕〔東京美術〕〔2，420-〕

■ 参考書
〔日本服飾史辞典〕〔増田美子 他〕〔東京堂出版〕〔25，920-〕
〔日本の装束解剖図巻〕〔八条忠基〕〔エクスナレッジ〕〔1，760-〕
〔服飾文化〕〔文部科学省〕〔実教出版〕〔513-〕

■ 備考
博物館・美術館等の展示内容・展示期間により、シラバスの順番が前後することがあります。また、質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時に受け付けます。

西洋服装史

(11109)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

衣服は長い年月をかけてその土地・人々に根付くものである。現在では多くの日本人が主たる衣服として洋服を着用しており、多数の諸外国でも同様の衣服が着用されている。洋服は西洋に起源を持つ衣服に連なるものであるため、西洋の服装史を学ぶことは、世界中で用いられている衣服がどのように変遷・発展・交流してきたのかを理解することに繋がる。この講義では、図像資料を鑑賞しながらヨーロッパで連綿と変化し発展した服装の変遷、社会・文化との関連を概説する。本学図書館等での演習を随時取り入れてさらに理解を深めさせる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・西洋の服装の起源・変遷について理解できる。 ・図像資料を鑑賞し、考察できる能力を身につける。 ・諸外国の社会・文化について広く関心を持つことができる。	0.3 0.2 0.5

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス｜授業の進め方、パソコンの準備	テキスト(古代)を熟読する。
第２回　古代｜先史時代から紀元600年	テキスト(古代)を熟読する。
第３回　中世｜ロマネスク様式、ゴシック様式を中心に	テキスト(中世)を熟読する。
第４回　映像で探る服飾｜古代～中世	ワークシート(古代～中世)を完成させる。
第５回　近世の服飾(1)｜ルネサンス期	テキスト(近世前半)を熟読する。
第６回　近世の服飾(2)｜市民革命頃まで	テキスト(近世後半)を熟読する。
第７回　映像で探る服飾｜近世	ワークシート(近世)を完成させる。
第８回　近代の服飾｜市民革命後と産業革命	テキスト(近代)を熟読する。
第９回　現代の服飾(1)｜ベルエポック、ジャズエイジ	テキスト(19世紀)を熟読する。
第10回　現代の服飾(2)｜世界恐慌から第二次世界大戦頃まで	テキスト(20世紀前半)を熟読する。
第11回　現代の服飾(3)｜第二次世界大戦後	参考資料を熟読する。
第12回　映像で探る服飾｜近代～現代	ワークシート(近代～現代前半)を完成させる。
第13回　現代の服飾(4)｜1960～70年代	テキスト(20世紀後半)を熟読する。
第14回　映像で探る服飾｜現代 全体の復習１	ワークシート(現代後半)を完成させる。
第15回　全体の復習２ 授業のまとめ	レポート課題を準備する。

■ 履修上の注意

・遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。
・パソコン(タブレット端末可)を持参すること。ワークシートや参考資料は電子データで配布されます。授業までにダウンロードまたは印刷して各自準備してきてください。

■ 成績評価方法・基準

履修状況（ミニットペーパー・参加状況等）による評価を45%、提出物(ワークシート・期末レポート)の評価を55%として評価します。なおミニットペーパー等は、添削して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

〔服飾文化〕〔文部科学省〕〔実教出版〕〔513-〕

■ 参考書

〔FASHION世界服飾大図鑑［コンパクト版］〕〔深井晃子監修〕〔河出書房新社〕〔5，280-〕

■ 備考

受講生の学習状況により、シラバスの順番が前後することがあります。
また、質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時に受け付けます。

染織文化史

(11110)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

原始から現代までの日本における染織技術について、服飾関連資料・染織関連資料・絵画・文書等と関連付けて読み取りながら、日本が世界に誇る染織技術について概説する。さらに、東北地方の伝統的な染織技術や衣服素材、その歴史について取り上げることで地域の服飾文化についても理解を促す。また、歴史資料や服飾・染織関連資料を目にするために、博物館・美術館・図書館・本学資料室におけるフィールドワークを取り入れる。調査学習（グループワーク）とそのプレゼンテーションを行うことで、染織文化についての理解を深めさせる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・染織技法や染織品の変遷について理解できる。	0.2250.55 0.225
・図像資料や染織資料から衣生活やそれを作り出した技術を考察できる。	
・日本の文化について理解を深める。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	配布資料を熟読する
第２回　青い布の歴史（1）｜青系の色を染める染料	藍染関連資料を熟読する
第３回　青い布の歴史（2）｜青色の衣服	藍染に関する情報を収集する
第４回　青い布の歴史（3）｜東北地方の藍染と衣生活	藍染に関するレポートを作成する
第５回　フィールドワーク：博物館・美術館・関連企業等での研修 （都合により行えない場合は学内での研修に変更します）	研修レポートを作成する
第６回　赤い布の歴史（1）｜赤系の色を染める染料	日本人と赤色系布帛についての配布資料を熟読する
第７回　赤い布の歴史（2）｜赤色の布と衣服	茜染・紅花染についての情報を収集する
第８回　赤い布の歴史（3）｜茜染・紅花染めと衣生活	茜染・紅花染についてのレポートを作成する
第９回　フィールドワーク｜博物館・美術館等での研修 （都合により行えない場合は学内での研修に変更します）	研修レポートを作成する
第10回　日本伝統の模様染 ―糊防染―	糊防染についてのワークシートを完成させる
第11回　東北地方で生産された繊維材料｜麻と絹	麻と絹についてのワークシートを完成させる
第12回　東北の伝統染織1（北東北の染織）	ワークシート(南東北の染織)の完成
第13回　東北の伝統染織1（南東北の染織） 期末課題（グループワークによるプレゼン資料作成）の説明	ワークシート(南東北の染織)の完成 グループでテーマに沿った調査を進める
第14回　プレゼン資料の確認・指導	各グループで調査を継続し、プレゼンテーション資料を完成させる
第15回　レポート提出と授業のまとめ	プレゼンテーション資料の修正、授業全体について振り返る

■ 履修上の注意

・遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。
・学外研修の費用は各自で負担していただきます。
・パソコン(タブレット端末可、スマホ不可)を持参すること。授業内でweb検索を行うほか、ワークシートや参考資料は電子データで配布されます。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシートやレポート等）による評価を40%、プレゼンテーションによる評価を15%、受講状況（ミニットペーパー・参加状況・グループワークでの貢献度）を45%として評価します。なお、提出物は添削して後日返却、または授業中に回答することでフィードバックとします。

■ 教科書

なし

■ 参考書

〔きものと裂のことば案内〕〔長崎巌〕〔小学館〕〔1，944-〕

〔日本服飾史辞典〕〔増田美子 他〕〔東京堂出版〕〔25，920-〕
〔手仕事の日本〕〔柳宗悦〕〔岩波文庫〕〔1，078-〕

■ 備考

博物館・美術館等の展示内容、関連企業の受け入れ状況により、シラバスの順番が前後することがあります。また、質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時に受け付けます。

染織文化演習

(11111)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 30）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

日本の染織技術は、日本各地の風土や人々からの需要により発展したものであり、その繊細で高度な技術は世界に類を見ないものである。本演習では、古くから行われた伝統染織の基本的な方法について実習を取り入れながら概説する。特に、東北地方において行われた植物染料による染色・特徴的な文様染め・刺し子について取り上げることで、厳しい生活条件にありながらもできる限り美しいものを身につけようとしていた東北地方の先人達の知恵と工夫についても理解を深めさせる。また、フィールドワークやディスカッションを通して、伝統染織を後世に伝える方策についても考察させる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・日本の伝統的染織文化（特に東北地方の伝統染織）について理解できる。			0.55				0.45		
・伝統的な染織技法の基礎を習得する。									
・伝統的な染織を現代の生活に応用できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　①オリエンテーション ②日本の赤	①板書内容を復習する ②赤色系植物染料についての文献を熟読する
第２回　①東北地方の茜染めについて ②茜染めの準備	①文献を熟読する ②制作ノートを記入し、染色方法を理解する
第３回　茜染めによる小作品制作１（媒染と浸染を繰り返す）	制作ノートを記入する
第４回　茜染めによる小作品制作２（仕上げまで）	制作ノートを記入し、レポートを作成する
第５回　刺し子について	①板書内容の復習する ②刺し子についての文献を熟読する
第６回　刺し子による小作品制作①（準備を含む）	制作ノートを記入し、制作を進める
第７回　刺し子による小作品制作②（各自で制作を進める）	①制作ノートを記入し、制作を進める ②刺し子布を「使える物」に仕立てるて、提出期限までに完成させる
第８回　繊維から布地へ①（解説・準備）	①板書内容の復習 ②青苧原麻を平面にする方法を検討する
第９回　繊維から布地へ②（グループごとに相談し、制作を進める）	青苧原麻を使って平面を作る作業を進める
第10回　繊維から布地へ③（グループごとに制作を進める）	①青苧原麻を使って平面を作る作業を進める ②提出期限までに完成させ、仕上げを行っておく
第11回　①藍と日本人 ②藍染めの方法	①板書内容について復習する ②染色方法を理解する
第12回　藍染めによる小作品制作	①制作ノートを記入する ②レポートを作成する
第13回　フィールドワーク1（染織素材の歴史）	レポートの作成を進める
第14回　フィールドワーク2（染織素材づくり）	レポートの作成を進める
第15回　フィールドワーク3（染織素材を活用した新たなモノづくりについてのディスカッション）	レポートを完成させる
第16回　授業のまとめ	レポートの不備を修正する

■ 履修上の注意

・染織文化史を履修することが望ましい。
・遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。
・時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。
・材料費として2，500円程度を徴収します。
・フィールドワークの旅費の一部は各自負担とします（3，000円程度）

■ 成績評価方法・基準

学習成果を記したレポート・制作ノートによる評価を55%、提出作品による評価を45%として評価します。なお、レポートや制作ノートにコメントを付して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書
プリントを配布します。

■ 参考書
その都度指示します。

■ 備考
　ルーブリックを授業初回に配布するので、学習目標としてください。染料の準備状況や受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

被服機構・衛生学

(11112)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
久　慈　るみ子

■ 授業の概要
衣服は常に人の皮膚表面を覆う最も身近な環境で、しかも皮膚と接触するものであることから、人体の生理・心理・健康面に大きな影響を及ぼす。そこで衣服のあり方を人体の生理衛生、運動機能の視点から理解し、健康に適した衣服とはどのような条件を備えたものであるか学修する。また機能性衣服についても、そのメカニズムを理解する。授業ではディスカッションを交え日常生活に活かせる衣服の基礎から進化する衣服までを教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・人体の生理・運動機能の基礎知識を身につけることができる。	0.15		0.4	0.15	0.15			0.15	
・衣服素材・構造・機能性を理解し、的確な選択ができる。									
・ライフステージを考慮した選択と着装ができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　環境としての被服	事前：シラバスに目を通し授業の概要を把握する。事後：ノートを整理する。
第２回　気候と体温、体熱産生と体熱放散	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。特にヒトの体温の特徴を確認しておく。
第３回　暑さ・寒さと体温調節	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。特に体温調節について確認をしておく。
第４回　被服の気候調節能力：被服材料	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し繊維・糸・布についてその特徴をまとめておく。
第５回　被服の気候調節能力：着衣の熱抵抗	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し着衣衣服の気候調節能力について要点をまとめておく。
第６回　被服の気候調節能力：着衣の蒸発抵抗	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し着衣衣服の水分に対する性能をまとめておく。
第７回　被服の気候調節能力について振り返りを行う	事前:これまでに配布された資料プリントならびにノートを再度確認し、振り返りをしておく。事後：振り返りの結果をノートにまとめておく。
第８回　運動への適応：人体構造と動作機能	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し人体の特徴をまとめる。
第９回　運動への適応：衣服圧の発生要因と人体への影響	事前:これまでのプリント資料、ノートを確認する。事後：衣服圧のプラス面・マイナス面についてポイントを整理しておく。
第10回　皮膚の生理・衛生	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：皮膚の特徴と被服との関係トを整理し要点をまとめる。
第11回　衣服の安全性（衣料障害）	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：衣服による皮膚へのダメージについて整理し、対応策についてもまとめておく。
第12回　高齢社会における衣服	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し高齢者の生理面・体型・動作機能の特徴をまとめる。
第13回　子供服	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し乳幼児の生理面・体型・動作機能について特徴をまとめる。
第14回　進化する衣服：寒冷対策・暑熱対策	事前:資料プリントを見て、わからないことを調

	べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第15回　衣生活と環境についてグループディスカッションを行う	事前:これまでのノートを確認する。事後：ディスカッションの内容をまとめる。
第16回　試験と解説	

■ 履修上の注意
配布された資料は毎回持参してください。

■ 成績評価方法・基準
健康で快適な衣服について理解し日常生活へ応用できること。それを自分の言葉で説明できることを評価の基準とします。
期末試験（70%）、授業、ディスカッションへの参加度（15%）。ミニットペーパーによる振り返り（15%）試験後、解説を行う。

■ 教科書
授業前にプリントを配布します。

■ 参考書
〔アパレル生理衛生論〕〔日本衣料管理協会刊行委員会編〕〔（一社）日本衣料管理協会〕1，600円

■ 備考
授業終了後（オフィスアワー）。質問はミニットペーパーに記入し、提出してください。次回授業の始めに解説します。
また授業の理解度を質疑応答形式で行い、その理解度によりシラバスを変更する場合は、事前に説明します。

スタートアップソーイング

(11113)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：服専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

被服造形分野に不可欠な基礎知識と，縫製技術の基礎・基本を習得させる。縫製に使われる用具，布地の扱い方，手縫いの基礎，ミシン・アイロンの使い方などについて教授する。布地と副資材の選び方では，仙台市内の店舗にて学外研修を実施する。課題制作は基礎的事項を重視した内容であり，縫製方法を正しく習得させ，応用展開につながる技術と実践力を身に付けさせる。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師が教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・服飾造形分野の基礎的知識と技術，実践力を身につける。	0.1		0.1		0.6		0.2		
・自己管理能力，論理観，課題解決能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　被服製作の基礎知識，用具確認，基礎縫い準備	教科書に目を通す。基礎縫いの準備をする。
第2回　基礎縫い：手縫い①（並縫い，しつけ）	並縫い，終わらせる。
第3回　〃　②（まつり）	まつりを終わらせる。
第4回　〃　③（留め具付け）	手縫い基礎の課題を提出する。
第5回　ミシン縫い①（直線ミシン使い方）	ミシンの使い方を復習し、課題を終わらせる。
第6回　〃　②（縫い代始末，ロックミシン使い方）	ミシン基礎縫いの課題を完成させ，提出する。
第7回　課題制作：ハーフパンツ・定規ケース製図，用布の見積もり	製図を終わらせる。制作ノートを作成する。
第8回　布地，副資材の選び方（学外研修）	研修内容を見直す。
第9回　課題制作：型紙カット，地直し	型紙・生地の準備を終わらせる。制作ノートを作成する。
第10回　裁断，印付け	裁断・印付けを終わらせる。制作ノートを作成する。
第11回　ハーフパンツ本縫い①脇，裾	脇・裾縫いまで終わらせる。制作ノートを作成する。
第12回　〃　②股ぐり	股ぐり縫いまで終わらせる。制作をノート作成する。
第13回　〃　③ウエスト	ウエストを始末し，ハーフパンツ・制作ノートを完成させ，提出する。
第14回　定規ケース本縫い，　提出	定規ケース・制作ノートを完成させ，提出する。
第15回　試着，プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする。 全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は，必ず次回までに終わらせておくこと。
授業に必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。
作品保管用にハンガーを各自準備すること。
課題制作の材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況，制作ノート）を40%として評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2，850円〕

■ 参考書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕
〔誌上・パターン塾 Vol.3パンツ編〕〔文化出版局〕〔1，700円〕

■ 備考

演習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

アパレル製図法Ⅰ（平面）

(11114)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：服専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

人体とパターンの関係を理解させ，身頃のパターンの作図と展開法の基本理論を解説する。原型の作図，シーチングモデルの製作，試着，補正を通し，各自のサイズに合った原型を製作させる。標準寸法原型を用い，ダーツの移動・操作，衿ぐり・衿，袖などパーツ別に学修させ，各種デザインにパターン展開ができることを教授する。また，男子の原型について取り上げる。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・身頃原型を作図することができる。	0.1		0.1		0.6		0.2		
・身頃原型のダーツ移動・操作により，パターン展開できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　身頃原型：作図　女子標準寸法（1/4）①基本線	身頃原型の基本線まで終わらせる。復習する。
第2回　〃　②輪郭線	身頃原型を完成させ，提出する。復習する。
第3回　〃　③袖／採寸	袖原型を完成させ，提出する。復習する。
第4回　〃　男子標準寸法（1/4）	男子身頃原型を完成させ，提出する。復習する。
第5回　〃　各自サイズ（実寸）	各自のサイズ（1/4）で予習しておく。身頃原型を完成させ，提出する。
第6回　〃　パターンカット，シーチング準備	パターン・シーチングの準備を終わらせる。
第7回　〃　シーチング裁断，印入れ	裁断・印入れまで終わらせる。
第8回　〃　仮縫い①前端・ダーツ	前端・ダーツ縫いまで終わらせる。
第9回　〃　仮縫い②背中心・脇・裾・肩	仮縫いを終わらせる。
第10回　〃　試着	試着を終わらせる。
第11回　〃　補正	補正し，パターンを提出する。
第12回　小テスト：身頃原型作図　女子標準寸法（1/4） ダーツの移動と分散①後ろ（1/4）	小テスト対策の学習をする。 ダーツ展開の復習をする。
第13回　ダーツの移動と分散②前（1/4）	ダーツ展開の課題を提出する。復習する。
第14回　ブラウス作図　（1/4）①身頃・衿	ブラウス(身頃・衿）の製図を終わらせ，提出する。復習する。
第15回　〃　②袖　／　袖展開	ブラウス（袖）の製図を完成させ，提出する。復習する。

■ 履修上の注意

授業に必要な用具一式を毎回持参すること（定規一式・裁縫用具）。
クリアファイル、シャープペンシル（0.3，0.5㎜／各HB），鉛筆（HB），電卓，ハンガーを各自準備すること。
遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は，必ず次回までに終わらせておくこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況）20%，小テスト20%として評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕

■ 参考書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 〕〔文化出版局〕〔2，805円〕
〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース〕〔文化出版局〕〔1，870円〕
〔文化ファッション大系服飾造形講座⑨メンズウエアⅠ 〕〔文化出版局〕〔2，805円〕

■ 備考

演習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。

ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

アパレル製図法Ⅱ（応用）

(11115)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：服専1年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

アパレル製図法Ⅰの原型作図・操作を踏まえ，各アイテムの作図法を総体的に学び，応用展開できる製図法の習得を目指す。スカートは，原型を基に各種デザインスカートへの展開方法を習得させる。パンツ・ワンピース・ジャケットは基本形を学修させ，それぞれのデザインに適した作図法を教授する。また，身頃原型の立体裁断を取り上げ，平面裁断との違いについて実習を通して理解を深めさせる。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・スカート原型を作図し，パターン展開することができる。	0.1		0.1		0.6		0.1		0.1
・各アイテムの基本パターンを作図することができる。									
・立体裁断と平面裁断の違いを理解することができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　スカート原型　作図　標準寸法（1/4）	スカート原型を完成させ，提出する。復習する。
第2回　〃　自分サイズ（実物大）①	各自のサイズ（1/4）で予習しておく。スカート原型を終わらせ，提出する。
第3回　〃　自分サイズ（実物大）②訂正・カット スカート展開（1/4）①フレア	実物大パターンを完成させ，提出する。 フレアスカートの作図を完成させ，提出する。復習する。
第4回　〃　②ゴアード ③ヨークスカート	ゴアード・ヨークスカートの作図を完成させ，提出する。復習する。
第5回　パンツ（1/4）	パンツの作図を完成させ，提出する。復習する。
第6回　ワンピース（1/4）①身頃・衿	ワンピース（身頃・衿）の作図を終わらせ，復習する。
第7回　〃　②袖	ワンピース（袖）の作図を完成させ，提出する。復習する。
第8回　ジャケット（1/4）①身頃	ジャケット（身頃）の作図を終わらせ，習する。
第9回　〃　②衿	ジャケット（衿）の作図を終わらせ，復習する。
第10回　〃　③袖	ジャケット（袖）の作図を完成させ，提出する。復習する。
第11回　子供服について 立体裁断（身頃原型）①準備	子供服についての内容を復習する。 立体裁断の準備を終わらせる。
第12回　〃　② ドレーピング（前）	ドレーピング（前身頃）を終わらせ，復習する。
第13回　〃　（後ろ）	ドレーピング（後ろ身頃）を終わらせ，復習する。
第14回　〃　③トレース	トレースを完成させ，提出する。
第15回　まとめ	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

授業に必要な用具一式を毎回持参すること（定規一式・裁縫用具）。
シャープペンシル（0.3，0.5㎜／各HB），鉛筆（HB），電卓も各自準備のこと。
遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は，必ず次回までに終わらせておくこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況）20%，小テスト20%として評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕

■ 参考書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②スカート・パンツ 〕〔文化出版局〕〔1，870円〕
〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース〕〔文化出版局〕〔1，870円〕

■ 備考
演習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

被服造形実習Ⅰ

(11116)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (45 + 30)
対象学科：服専２年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

服飾造形に関する基本的な縫製知識・技術の習得を目指し，製作を通して衣服の基本的構造の理解を深めさせる。課題として綿素材のシャツブラウスを製作する。製図は，身頃原型のダーツ移動・操作を復習し、衿付き，半袖とする。採寸，デザインに合った布地の選択，裁断，印つけ，仮縫い・補正，布地・副資材の取り扱い，縫製方法などについて教授する。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・シャツの製図ができる。			0.2		0.6		0.2		
・基本的な縫製知識・技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　シャツについて，採寸 製図(実寸)：①身頃	製図の復習をしておく。身頃の製図を提出する。 制作ノートを作成する。（以下第13回まで同様）
第２回　〃　②衿，袖／用布の見積	製図を完成させ，提出する。材料の準備をする。
第３回　〃　③合印付け，パターンカット 表地：地直し	仮縫い用パターンを完成させ，表地の下準備を終わらせる。
第４回　表地・芯：裁断，芯貼り，印入れ	裁断・芯貼り・印入れを終わらせる。
第５回　仮縫い	仮縫いを終わらせる。
第６回　試着	試着を終わらせる。
第７回　補正	補正を終わらせ，本縫い用パターンを完成させる。
第８回　縫い代整理，衿・ポケット裁断，縫製工程確認	本縫い準備を終わらせる。
第９回　本縫い①ダーツ，ポケット作り・ポケット付け	ダーツ・ポケットを終わらせる。
第10回　②肩，衿作り	肩・衿作りを終わらせる。
第11回　③衿付け	衿付けを終わらせる。
第12回　④袖付け	袖付けを終わらせる。
第13回　⑤脇，裾，袖口	脇・裾・袖口を終わらせる。
第14回　⑥ボタンホール，ボタン付け，仕上げ	課題作品・制作ノートを完成させ，提出する。
第15回　試着，プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする。 全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

裁縫用具一式を毎回持参すること。
第一回目の授業時に自分の原型を準備すること。
遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は，必ず次回までに終わらせておくこと。
材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況，制作ノート）を40%として評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ ブラウス・ワンピース 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔1，870円〕

■ 参考書

〔文化ファッション大系 服飾造形講座⑨ メンズウエアⅠ(体系・シャツ・パンツ) 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2，550円〕
〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕
〔誌上・パターン塾 Vol.1トップ編〕〔文化出版局〕〔1，667円〕

■ 備考
実習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

被服造形実習Ⅱ

(11117)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

衣服製作の一連の工程を通し，衣服の基本的構造，制作過程を学び，専門的な知識・技術の習得を目指す。課題として裏付きスカートを製作させる。パターンは基本のセミタイトとし，ウール素材のチェック柄を用いて柄合わせを学ばせる。採寸，裁断，仮縫い・補正，ウール生地の他，裏地などの副資材の取り扱い，ファスナー・ベルトの縫製方法などについて教授し，理解を深めさせる。また、小物制作を通してファスナー付けの技術を習得させる。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・スカートの製図ができる。			0.2		0.6		0.2		
・専門的な縫製知識・技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　スカートについて，採寸，製図，用布の見積	製図の復習をしておく。製図を完成させ，提出する。材料を準備する。 制作ノートを作成する。（以下第12回まで同様）
第２回　パターンカット，表地：地直し，裁断，印付け	仮縫い用パターンを完成させる。表地の裁断・印付けを終わらせる。
第３回　仮縫い，シーチングベルト作製	仮縫いを終わらせる。
第４回　試着	試着を終わらせる。
第５回　補正	補正を終わらせる。
第６回　縫い代整理，裏地・ベルト裁断，縫製工程確認	本縫い準備を終わらせる。
第７回　部分縫い①コンシールファスナー付け（表地）	部分縫い①を完成させる。
第８回　本縫い①表地：ロックミシン，左脇，コンシールファスナー付け	表地のコンシールファスナー付けを終わらせる。
第９回　②表地：ダーツ，右脇，裾始末 ③裏地：脇，裾	表地・裏地の裾始末まで終わらせる。
第10回　部分縫い②コンシールファスナー付け（裏地）	部分縫い②を完成させる。
第11回　本縫い④裏地：コンシールファスナー付け ⑤表地・裏地：中綴じ，ウエスト始末	裏地のコンシールファスナー付けを終わらせる。
第12回　⑥ベルト作り	ベルト作りを終わらせる。
第13回　⑦ベルト付け，前カン付け，仕上げ	スカート・制作ノートを完成させる。
第14回　小物制作（ポーチ）フラットニットファスナー付け	ポーチ・制作ノートを完成させる。
第15回　スカート試着，プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする。 全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

被服実習Ⅰを履修していること。
第一回目の授業時に自分のスカート原型（タイトスカートのパターン）を持参すること。
裁縫用具一式を毎回持参すること。遅刻・欠席をしないこと。
進度に遅れが出た場合は，必ず次回までに終わらせておくこと。
材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況，制作ノート）を40%として評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。
課題については，授業中にフィードバック，又は後日添削して返却する。

■ 教科書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座② スカート・パンツ 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔1，870円〕

■ 参考書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕

〔ファッション造形　基礎〕〔実教出版〕

■ 備考

実習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

被服造形実習Ⅲ

(11118)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（90 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊 地 紗 代　　佐 藤 理 恵

■ 授業の概要

これまで被服造形実習Ⅰ・Ⅱなどを履修して習得してきた知識や縫製技術をさらに向上させ，応用発展させることを目的とする。課題として，ウール地を用いた基本的な総裏付きジャケットを製作する。パターンはCADⅡの授業と連携して作成し，工業用（縫い代付き）とする。表地・裏地・副資材の取り扱い，アイロンによるくせとり方法，二枚袖の縫製，各種ポケットの縫製方法などを教授し，より専門的な技術の習得を目指す。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師とアパレルの生産に携わっている講師が指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・高度で専門的な縫製知識・技術を身に付ける。			0.1		0.5		0.2		0.2

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ジャケットの概要，採寸，接着芯の試し貼り，製図の確認(1/4, 衿・袖）（菊地）	製図の復習をしておく。 制作ノート作成。（以下第28回まで同様）
第２回　CAD製図（佐藤）	指定箇所まで製図を終わらせる。
第３回　部分縫い①:フラップポケット-1　パターン・裁断（菊地）	部分縫い①の裁断を終わらせる。
第４回　〃　フラップポケット-2　縫製（菊地）	部分縫い①を完成させる。
第５回　シーチング：裁断，印付け（菊地）	シーチングの裁断・印付けまで終わらせる。
第６回　〃　仮縫い①身頃（菊地）	身頃の仮縫いまで終わらせる。
第７回　〃　仮縫い②衿・袖（菊地）	仮縫いを終わらせる。
第８回　〃　試着（佐藤）	試着を終わらせる。
第９回　〃　補正（佐藤），用布の見積もり	補正を終わらせる。材料の準備をする。
第10回　CADパターン補正（佐藤）	CADのパターン補正を終わらせる。
第11回　補正後のCADパターン出力（佐藤）	CADのパターン出力を終わらせる。
第12回　表地：裁断（以下第30回まで菊地）	表地の裁断を終わらせる。
第13回　芯：裁断，接着，印つけ	表地の芯貼り・印付けを終わらせる。
第14回　裏地：裁断，印つけ，縫製工程確認	裏地の裁断・印付けを終わらせる。
第15回　部分縫い②:パッチポケット	部分縫い②を終わらせる。 ここまで制作ノートをまとめ，提出する。
第16回　本縫い①表地：テープ貼り，くせとり，ダーツ，脇	表地の脇縫いまで終わらせる。
第17回　本縫い②ポケット作り	ポケット作りを終わらせる。
第18回　③ポケット付け	ポケット付けを終わらせる。
第19回　④表地：背・後ろ脇・肩	表地の肩縫いまで終わらせる。
第20回　⑤裏地：ダーツ・脇・背・見返し・肩	裏地の肩縫いまで終わらせる。
第21回　⑥衿付け	衿付けまで終わらせる。
第22回　⑦見返し返し・衿中綴じ	衿の中綴じまで終わらせる。
第23回　⑧袖作り	袖作りまで終わらせる。
第24回　⑨袖付け（表地）	表地の袖付けまで終わらせる。
第25回　⑩袖付け（裏地）	裏地の袖付けまで終わらせる。
第26回　⑪パット付け，脇中綴じ	脇中綴じまで終わらせる。
第27回　⑫裾	裾始末まで終わらせる。
第28回　⑬ボタンホール，ボタン付け	ボタン付けまで終わらせる。
第29回　⑭仕上げ，提出	ジャケット・制作ノートを完成させ，提出する。
第30回　試着，プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする。 全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

CADⅡを受講すること。（パターンはCADⅡと連携して作成するものを使用するため。）
被服実習Ⅰ・Ⅱを履修していること。
遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、必ず次回までに終わらせておくこと。
材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準
提出物60%、受講状況（作業状況、制作ノート）を40%として評価する。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書
〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④ ジャケット・ベスト〕〔文化出版局〕〔1，870円〕

■ 参考書
〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕
〔誌上・パターン塾 Vol.1トップ編〕〔文化出版局〕〔1，667円〕

■ 備考
受講生の進度によりシラバス内容が前後することがある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
課題が未提出、実施されない場合には評価の対象としないことがある。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

被服平面造形学

(11119)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（45 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

和服は江戸時代に完成された日本固有の衣服であり、日本人ならではの文化が凝縮された平面造形による衣服である。この講義では、現代に受け継がれ着用されている和服の基本について、①和服の構成上の特徴と各部の名称、②着装時の基本的約束事、③和裁の用具と布地、④和服縫製の基本的な技術 の観点から和服の基本について概説する。さらに、小裁単衣長着（産着仕立て）の製作を通して、和服縫製の基礎技術を指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・和服の構成上の特徴、着装の約束事について理解できる。			0.1		0.55		0.35		
・和服縫製技術の初歩を習得する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の進め方について、 手縫い服の特徴と運針	ワークシートの完成、運針練習
第２回　和服の基礎知識：和服の分類	ワークシートの完成、運針・紺け練習
第３回　〃　　：伝統的な和服地とその産地、着装と季節	ワークシートの完成、運針・紺け練習
第４回　和服の構成と製作の基礎①：構成・材料・採寸、裁ち切り平面図・折り積り図、地直し	ワークシートの完成、運針・裁断練習
第５回　〃　　②：子供の和服の種類と特徴（折り積り、裁断）	ワークシートの完成、運針練習 テキストの「袖製作」を熟読
第６回　〃　　③：和服の袖各種（袖標、袖縫い）	ワークシートの完成、袖縫い テキストの「身頃製作」を熟読
第７回　〃　　⑤：身頃の特徴と肩当て・居敷当ての役割（身頃標、肩当て・居敷当て）	ワークシートの完成、運針練習 テキストの「衽付け」を熟読
第８回　〃　　⑥：衽の役割（衽標、衿下始末）	ワークシートの完成、衿下始末 テキストの「衿付け」を熟読
第９回　〃　　⑦：衽の構成（衽付け）	ワークシートの完成、衽付け テキストの「衿付け」を熟読
第10回　〃　　⑧：衿各種と共衿の役割（衿・共衿、衿先）	ワークシートの完成、衿地縫い
第11回　〃　　⑨：紺けることの利点（衿本紺け、脇縫い）	ワークシートの完成、脇縫い、衿紺け テキストの「身頃製作」を熟読
第12回　〃　　⑩：単衣物の構成と縫い代の始末1（脇始末）	ワークシートの完成、脇始末
第13回　〃　　⑪：単衣物の構成と縫い代の始末2（裾、褄角）	ワークシートの完成、裾紺け
第14回　〃　　⑫：単衣物の構成と縫い代の始末3（袖付け）	ワークシートの完成、袖付け
第15回　〃　　⑬：新生児用の産着の特徴（紐作り、紐付け）	ワークシートの完成、紐付け
第16回　授業のまとめ	ワークシートの完成

■ 履修上の注意

日本服装史を履修していることが望ましい。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。ワークシートもその都度きちんとまとめてください。実習費（道具・用布代）として4000円程度を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシートや製作品等）による評価を55%、受講状況（参加状況・ミニットペーパー）を45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーはコメントを付して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

〔和　裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚　静子〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕〔非売品〕（必要箇所を印刷して配布します）

■ 参考書

〔きものの基本 改訂版〕〔全日本きもの振興会 編〕〔ハースト婦人画報社〕〔2，200-〕

■ 備考

ルーブリックを授業初回に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

被服平面造形実習Ⅰ

(11120)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

日本固有の衣服である和服の製作方法について指導する。和服の素材や文様には日本の伝統文化が凝縮されていると言われているが、縫製方法にも伝統的技術が生かされている。この実習では、被服平面造形学で学んだ和服についての基礎知識と手縫いの基礎技術を発展させて、大裁女子単衣長着（ゆかた）の製作方法を指導する。この製作を通して、小裁単衣長着（一つ身）と女子用単衣長着の違いについて理解させるとともに、和服製作の知識・技術の向上をねらう。また、最終回には着装実習を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・和服の基本的な知識について理解できる。			0.1		0.55		0.35		
・女子用和服の構成を理解し、着装・帯結びができる。									
・和服縫製の基礎知識と基本的技術を習得する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　基礎学習（構成・材料・採寸）	ワークシート完成、運針練習
第２回　裁ち切り平面図・折り積り図の作成、丸み型紙作り	ワークシート完成、運針練習、材料準備
第３回　柄合わせ、折り積り、裁断	ワークシート完成、運針練習
第４回　袖の標付け、袖縫い、袖口留め	ワークシート完成、袖縫い
第５回　袂丸み、袖の始末と飾り躾	ワークシート完成、袖口紐け
第６回　身頃の標付け、背縫い、肩当て作り	ワークシート完成、背縫い
第７回　衽の標付け、衿下三つ折り紐け、肩当て付け、居敷当て作り	ワークシート完成、衿下三つ折り紐け
第８回　居敷当て付け、衽付け、衽縫い代の始末	ワークシート完成、衽縫い代紐け
第９回　衿・共衿付け準備、衿付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第10回　三つ衿芯、衿先、衿紐け	ワークシート完成、衿紐け
第11回　共衿掛け、脇縫い	ワークシート完成、共衿紐け、脇縫い
第12回　脇縫い代始末、褄角作り	ワークシート完成、脇縫い代紐け
第13回　裾の始末、袖付け	ワークシート完成、裾上げ
第14回　袖縫い代の始末、肩当ての始末	ワークシート完成、袖縫い代紐け
第15回　仕上げ	ワークシート完成、作品完成、着付け小物準備
第16回　授業のまとめと着装実習	着付けの復習、提出期限までに不備を修正

■ 履修上の注意

被服平面造形学の単位を取得していること。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。ワークシートもその都度きちんとまとめてください。反物・縫い糸については初回に説明するので、各自で準備してください。実習費（厚紙、晒布）として300円程度を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシートや製作品等）による評価を55%、受講状況（参加状況・ミニットペーパー）を45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーはコメントを付して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

〔和　裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚　静子〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕〔非売品〕（必要箇所を印刷して配布します）

■ 参考書

なし（必要に応じて、プリントを配布します）

■ 備考

ルーブリックを授業初回に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

被服平面造形実習Ⅱ

(11121)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (45 + 60)
対象学科：服専４年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

日本固有の衣服である和服の製作方法について指導する。和服の素材や文様には日本の伝統文化が凝集されていると言われているが、縫製方法にも伝統的技術が集約されている。この実習では、3年次後期の被服平面造形実習Ⅰで習得した和服についての基礎知識と手縫いの基礎技術を発展させて、大裁男子単衣長着製作方法を指導する。この製作を通して、男子用と女子用の長着の違いについて理解させるとともに、素材に適した仕立て方の違いについて理解させる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・和服の基本的な知識について理解できる。			0.1		0.55		0.35		
・男子用和服の構成を理解し、着装・帯結びができる。									
・和服縫製の基礎知識と基本的技術を習得する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　基礎学習(構成・材料・採寸）、裁ち切り平面図・折り積り図の作成	ワークシート完成、運針練習、材料準備
第２回　裁断	ワークシート完成、運針練習
第３回　袖の標付け、袖縫い、袖口留め	ワークシート完成、袖縫い
第４回　袂丸み、人形、袖口の始末	ワークシート完成、袖口紮け
第５回　後身頃・内揚げの標付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第６回　前身頃・衽の標付け、衿下三つ折り紮け	ワークシート完成、衿下三つ折り紮け、
第７回　背縫い、内揚げ縫い	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第８回　肩当て作り、肩当て付け、居敷当て付け	ワークシート完成、肩当て・居敷当て紮け
第９回　衽付け、衽縫い代の始末	ワークシート完成、衽縫い代紮け
第10回　共衿付け準備、衿付け、衿先布付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第11回　三つ衿芯、衿先、衿紮け	ワークシート完成、衿紮け
第12回　共衿掛け、脇縫い	ワークシート完成、共衿紮け、脇縫い
第13回　脇縫い代始末、褄角作り	ワークシート完成、脇縫い代紮け
第14回　裾の始末、袖付け留め、袖付け	ワークシート完成、裾紮け
第15回　袖縫い代の始末、仕上げ	ワークシート完成、提出期限までに不備を訂正する
第16回　着装実習、授業のまとめ	提出期限までに不備を修正し、着付けを復習する

■ 履修上の注意

被服平面造形実習Ⅰの単位を修得していること。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。ワークシートもきちんとまとめてください。反物・縫い糸については初回に説明するので、各自で準備してください。実習費（縫い針・紮け針・新モス等）として700円程度を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシートや製作品等）による評価を55%、受講状況（参加状況・ミニットペーパー）を45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーはコメントを付して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

〔和　裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚　静子〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕〔非売品〕（必要箇所を印刷して配布します）

■ 参考書

なし（必要に応じて、プリント等を配布します）

■ 備考

ルーブリックを授業初回に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

ファッションデザイン

(11122)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
玉　田　真　紀

■ 授業の概要
衣生活とその周辺にある課題を考え、未来に向けて創造的な提案をしていくことがファッションデザインの役割である。デザインの意味とアパレル商品企画の流れを理解した上で、生活や社会を観察して課題を発見し、デザインの目的と条件を考え具体的な装いの提案をする方法を学ぶ。また、具体的な提案に役立つ基礎造形の原理や、発想法、マインドマップの使い方、デザインのメッセージ性、ユニバーサルデザイン、ブランディングデザインの考え方についても学ぶ。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ファッションデザインの考え方と専門用語を学習する。	0.2		0.5		0.15			0.15	
・ファッションデザインとつながる生活や社会の課題を発見する力を身につける。									
・課題解決のための目的を持ったデザイン方法や造形的表現の基礎を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに ガイダンス １．ファッションデザインの考え方 （１）ファッションの意味 （２）デザインの意味と領域１（デザインとは何か、語義と本質、広がるデザインの領域）	事後：教科書やノートで復習
第２回　１．ファッションデザインの考え方 （２）デザインの意味と領域２（ハードとソフトのデザイン） （３）ファッションデザインの意味	事後：教科書やノートで復習、生活周辺を観察してハードとソフトのデザイン例を探す
第３回　２．基礎造形の原理とファッションへの応用 （１）構成要素の点・線・面・立体	事後：教科書やプリントで復習、生活周辺を観察して点・線素材で作られた例を探す
第４回　２．基礎造形の原理とファッションへの応用 （２）構成の基礎原理１（３つの原理：分割・位置・広がり、６つの手法：バランス・ムーブメント・リズム・グルーピング・放射・シンメトリー）	事後：教科書やプリントで復習、生活周辺を観察して基礎原理を使った例を探す
第５回　２．基礎造形の原理とファッションへの応用 （２）構成の基礎原理２（シンメトリーの面白さ：原理と応用）	事後：教科書やノートで復習、生活周辺や自然を観察してシンメトリーを使った例を探す
第６回　３.デザインにおけるメッセージ性（他者にメッセージをどう伝えるか）	事後：教科書やプリントで復習、生活周辺を観察してメッセージが伝わるデザインの例を探す
第７回　４.ユーザビリティとユニバーサルファッション （１）着る人の立場でデザインを考える （２）ユニバーサルデザインとは （３）ユニバーサルファッションの紹介 （４）ユニバーサルデザインの評価方法	事後：教科書やプリントで復習、生活周辺を観察してユニバーサルデザインの例を探す
第８回　５.ブランディングデザイン （１）ブランドとは （２）ブランド価値とライセンス契約 ６、アパレル商品企画の流れ（商品企画の基本ステップとブランドイメージの統一・発信）	事後：教科書やプリントで復習、生活周辺を観察して印象の良いブランドを探し、その理由を考えてみる
第９回　７.立体で考えるファッションデザイン（ハーフサイズボディを使ったピンワークの演習） （１）演習の目的と手順	事後：教科書やプリントで復習、演習に使いたい布や素材の準備をする
第10回　７.立体で考えるファッションデザイン（ハーフサイズボディを使ったピンワークの演習） （２）演習に取り組む１	事後：演習に使いたい布や素材の準備をする
第11回　７.立体で考えるファッションデザイン（ハーフサイズボディを使ったピンワークの演習） （２）演習に取り組む２	事後：発表内容を考える

第12回	7.立体で考えるファッションデザイン（ハーフサイズボディを使ったピンワークの演習） （３）作品の発表会（口頭発表、作品説明用紙の提出）	事後：発表会で得たことをまとめておく
第13回	8.目的と条件を満たしたファッションデザインに取り組む （１）課題提出までの日程 （２）デザインの目的を明確にする意義 （３）マインドマップを使ってテーマから連想して考える１	事後：教科書やノートで復習、テーマを見つけてマインドマップを作る
第14回	8.目的と条件を満たしたファッションデザインに取り組む （３）マインドマップを使ってテーマから連想して考える２ （４）各自テーマ・目的・条件・提案する装い・アイテムを考える	事後：課題に取り組む
第15回	8.目的と条件を満たしたファッションデザインに取り組む （５）提案する装い・アイテムのスケッチと仕上げ 第16回　作品の発表会を実施	事後：課題に取り組む、次回の発表会準備をする、第16回目に作品提出

■ 履修上の注意

１回目授業で教科書を販売します。（代金500円:本代477円＋送料）
ノートを用意。配布プリントは整理して保管。一方的な講義ではなく、皆さんの意見を聞く双方向型の授業をするので、積極的に参加して下さい。

■ 成績評価方法・基準

毎回のミニット書込み量と内容15%、授業内課題２点 合計85%（35%、50%）で評価。
2/3以上の出席がなければ不合格。授業内課題が出せなければ不合格。

■ 教科書

文部科学省、編著　玉田真紀他「高等学校ファッションデザイン」家庭701、実教出版、ISBN978-4-407-20599-2

■ 参考書

授業で紹介

■ 備考

ミニットに書かれた質問には次の授業で返答。授業計画は、授業の進度を見て、多少変更する場合もあり。10回～12回目授業のみ被服室での授業。

ファッションデザイン画

(11123)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
北　折　　整

■ 授業の概要

本授業では、ファッションデザイン画に係る確かな表現力を養い、頭に浮かんだデザインを的確に他人に伝える力を修得することを目的とする。個々の美意識の違いや異なった資質を“感性”として捉え、その“イメージ”を考察させることで、自己表現としての豊かなデザインセンスを身に付けさせる。そして、受講生は様々な服飾用語、シルエット、ディテール、テキスタイルなどの専門知識について理解できるようになる。また、授業の担当者は造形表現の作家・教育者としての経験を生かし、様々な表現材料の特長や使用方法も教授する。最後に、各自の個性を活かし、クリエイティブな作品を制作させる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・デザイン画の表現について基本的な技術を身につける。	0.2		0.4	0.2			0.2		
・ファッションデザイン画の必要事項及び作成技術を身につける。									
・イメージやインスピレーションを作品（デザイン画）にする能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　優秀作品の鑑賞・導入	導入要旨をまとめる。
第２回　表現材料の使用方法	課題1を完成する。
第３回　絵画表現の基礎	課題2を完成する。
第４回　人体の構造・プロポーションの理解と描き方	課題3を完成する。
第５回　人体のディテールの描き方	課題4を完成する。
第６回　服飾小物の描き方	課題5を完成する。
第７回　ポージングの理解と描き方（写真を使用）	課題6を完成する。
第８回　ポージングの理解と描き方（実写）	課題7を完成する。
第９回　布の材質感の描き方	課題8を完成する。
第10回　様々な種類の服の描き方	課題9を完成する。
第11回　インスピレーションボードの作成（1）	課題10を作成する。
第12回　インスピレーションボードの作成（2）	課題10を完成する。
第13回　オリジナルファッションデザイン画の作成（1）	課題11を作成する。
第14回　オリジナルファッションデザイン画の作成（2）	課題11を完成する。
第15回　作品のプレゼンテーション	課題11のプレゼンテーションをまとめる。

■ 履修上の注意

教科書、参考書は無いので、事前に調べる事柄や課題は怠ることのないようにする。
作画に必要な用具は各自持参する。

■ 成績評価方法・基準

プレゼンテーション２０％、課題８０％（バランス、ディテール描写、オリジナリティー、色彩表現、アピール力）として評価し、提出課題は後日、ポイント指導を書き入れ添削して返却することでフィードバックとする。

■ 教科書

授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

演習授業であるため、受講生の進度により授業計画を変更する場合がある。
授業で理解できないところや質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

ファッションデザイン演習

(11124)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
平 塚 聖 子　　菊 地 紗 代

■ 授業の概要

ファッションデザインにおけるプランニング、デザイン、創作の実践を通じ、他者の視点を意識した「着る人（対象者）」のためのデザイン力を養う。オリジナリティの探求に加え、ファッションが持つ社会性や文化性を考察し、生活に基づいた衣服を通じたコミュニケーションの在り方を深く探究する。立体造形の観点からは「立体構造」と「平面設計」の相互関係を体系化し、衣服としての機能的構築性と、ファッション的な感性を総合的に表現する制作技能を教授する。デザインが社会に果たす役割や文化的背景を言語化し、他者へ伝えるプレゼンテーション能力を向上させる。リサーチから最終的なプレゼンテーションに至るまで、一貫したデザインプロセスを実践的に修得することを目指す。国内外のファッションデザイン、コレクションブランドでのデザインの実務経験、ファッション、テキスタイルにおけるデザイン教育現場での実績をもとに現場に基づいた指導を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・衣服の構造的理解と身体機能を踏まえた機能性、ファッション性を客観的に分析し、多角的な視点に基づいた付加価値のあるデザイン提示ができる			0.1		0.3		0.3		0.3
・立体造形と平面設計の複合的アプローチによる試行錯誤を通じ、自身の独創的な着想をファッション性の高いデザインへと昇華できると共に表現、創作の完成度を自律的に追求し実践する									
・ディスカッション、コミュケーションを通し、客観的、多角的な視点から自己および他者のデザインを分析することができる									
・自身のクリエーションの意図を論理的に明確化し視覚資料とあわせて、説得力のあるプレゼンテーションを実践する									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：リサーチ、ファッションプランニングレクチャー ワークショップ：デザイン構想、考察、プランニング　(GW)　（担当：平塚）	事前：ファッションデザイン課題に取り組むにあたり、テーマやコンセプト、デザインについてリサーチをする イメージソースを編集しデザインの準備をする
第２回　情報を編集：リサーチ情報を編集、テーマ、コンセプト設定しムードボードを制作 （担当：平塚）	事後：リサーチ情報を編集、テーマ、コンセプトを検討、設定する
第３回　イメージプレゼンテーション１：テーマ、コンセプト、デザインをイメージ・ムードボード、視覚資料にてプレゼンテーションを行う（担当：平塚）	事前：テーマ、コンセプトを設定しムードボードを完成する テキスタイルサンプル収集、デザインスタイル画５LOOK以上描き、イメージプレゼンテーション資料の準備をする
第４回　ディスカッション：テーマ、コンセプト、デザイン検討（GW） フィードバック（担当：平塚）	事後：テーマ、コンセプト設定を検討し再設定する
第５回　イメージプレゼンテーション2：テーマ、コンセプト、デザイン修正案　テーマ、コンセプト、デザイン検討、チェック：個別指導（担当：平塚）	事前：再検討したテーマ、コンセプトに基づいたムードボードを完成する テキスタイルサンプル収集、デザインスタイル画５LOOK以上追加し、イメージプレゼンテーション資料の準備をする
第６回　ファッションモデリング〈平面設計・立体造形複合技法基礎〉（担当：平塚）	事後：デザイン、テキスタイルを想定し平面パターン制作の授業の準備をする
第７回　平面設計（担当：菊地）	事前：デザインを整理し、平面設計の復習をする 制作上の質問、確認内容の整理をする
第８回　パターン制作（担当：菊地）	事後：デザインパターン制作し完成する
第９回　ファッションモデリング〈立体造形複合技法応用〉（担当：平塚）	事前：授業で使用出来る様にパターンを完成する　制作上の質問、確認内容の整理をする
第10回　トワルワーク：デザイン（GW）（担当：平塚）	事後：パターンを進行し、トワル制作の準備をす

		る 制作上の質問、確認内容の整理をする
第11回	トワル制作：組み立て/縫製（担当：菊地）	事前：パターンを完成しトワル制作の準備をする 制作上の質問、確認内容の整理をする
第12回	トワル制作：修正/縫製（担当：菊地）	事後：トワル制作を進行し、制作上の質問、確認内容の整理をする
第13回	トワルチェック：トワル上でデザイン検討、モデル修正、変更（担当：平塚）	事前：トワル制作を完成させる 制作上の質問、確認内容の整理をする
第14回	トワルチェック：修正（担当：平塚）	事後：パターン、トワルを修正する
第15回	トワルプレゼンテーション：ファッションデザイン作品制作中間チェック（GW）（担当：平塚）	事前：再制作トワルを仕上げる トワルプレゼンテーションの準備をする
第16回	トワル・テキスタイルチェック：ファッションデザイン作品制作中間チェック トワル上でデザイン検討、モデル修正、変更（担当：平塚）	事後：トワル、パターンを修正する
第17回	トワル・パターン最終チェック：再チェック（担当：平塚）	事前：再制作トワルを仕上げる 制作上の質問、確認内容の整理をする
第18回	トワル・パターン最終チェック：修正チェック（担当：平塚）	事後：トワル、パターンを修正し、本制作パターンを仕上げる
第19回	シューティング、プレゼンテーションレクチャー・ワークショップ（担当：平塚）	事前：ファッションデザイン作品制作を進行し、テーマ、コンセプト、デザインを整理する 制作上の質問、確認内容の整理をする
第20回	ファッションデザイン作品制作①　チェック（担当：平塚）	事後：ファッションデザイン作品制作を進行し、テーマ、コンセプト、デザインを整理する
第21回	ファッションデザイン作品制作②（担当：菊地）	事前：ファッションデザイン作品制作を進行し、制作上の質問、確認内容の整理をする
第22回	ファッションデザイン作品制作③（担当：菊地）	事後：ファッションデザイン作品制作を進行
第23回	ファッションデザイン作品制作④（担当：菊地）	事前：ファッションデザイン作品制作を進行し、制作上の質問、確認内容の整理をする
第24回	ファッションデザイン作品制作⑤（担当：菊地）	事後：ファッションデザイン作品制作仕上げ プレゼンテーション展示資料の準備をする
第25回	プレゼンテーションレクチャー（担当：平塚）	事前：ファッションデザイン作品制作仕上げ プレゼンテーション展示資料を制作する
第26回	プレゼンテーション準備：視覚資料制作（担当：平塚）	事後：ファッションデザイン作品制作まとめ 展示資料、プレゼンテーション準備
第27回	プレゼンテーション準備：スペースレイアウト（担当：平塚）	事前：プレゼンテーション準備 展示資料完成
第28回	プレゼンテーション準備、チェック（担当：平塚）	事前：プレゼンテーション準備 プレゼンテーションボード、スペース調整
第29回	プレゼンテーション　（担当：平塚）	事前：ファッションデザイン作品制作仕上げ ファッションデザイン作品制作、プレゼンテーションの準備をする
第30回	プレゼンテーション　（担当：平塚）	事後：作品はじめ授業内容をポートフォリオページとして編集しデータ保存する

■ 履修上の注意

次時の授業に対する準備課題に積極的に臨み、授業に必要な道具は事前に準備して持参すること。
自主的に課題に取り組み、特に作品制作は計画通り進め精度を高めること。
課題進行に影響するため、遅刻・欠席のないよう出席すること。
講評会は補講・集中講義期間に行う。

■ 成績評価方法・基準

作品、プレゼンテーション、授業課題提出物の成果（60%）、平常点・受講態度（40%：授業での発言、質問等の参加状況、進捗状況や積極性等の総合評価）で評価する。
課題・提出物は授業中の個別指導時、講評でフィードバックする。

■ 教科書

必要に応じて紹介する。

■ 参考書

必要に応じて紹介する。

■ 備考
平面パターン作成はCAD使用を推進する。
評価や進め方は1回目の授業で説明する。
作業状況等の都合により、授業計画、内容、時間等を変更することがある。
採点の対象となる作品等の提出はプレゼンテーション、講評会時とし、課題の未提出、実施されない等の際には、評価の対象としない。
質問などは、授業中、授業終了時に受け付ける。

アパレル設計論

(11125)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
玉　田　真　紀

■ 授業の概要
アパレル産業とは、その歴史的変遷と商品分類を考えた上で、アパレル生産の２つの工程（注文服と既製服）について、商品企画・素材選定から生産段階まで、特徴と課題を解説する。さらに、アパレル設計に必要な人体形態（個体差）を把握するための計測方法と、既製服の設計に必要なJIS衣料サイズ規格について解説する。また、パターン設計を習得するための基礎である原型と様々な立体化技法への展開方法についても演習を通して解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・アパレル設計・生産の専門知識を身につける		0.2	0.2		0.4		0.2		
・アパレル業界で活躍するために必要な思考力が身につける									
・アパレル商品を客観的に見る力が身につける									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに　ガイダンス アパレル産業とは（１）日本の既製服の歴史的変遷（２）アパレル商品の分類	事後：アパレル商品について復習する
第２回　アパレル産業とは（３）アパレル産業の構造	事後：アパレル産業の構造について復習する
第３回　アパレル生産の２つの工程（１）注文服の生産工程（２）既製服の生産工程1	事後：既製服の生産工程の特徴をまとめる
第４回　アパレル生産の２つの工程（２）既製服の生産工程2 注文服と既製服生産の比較（グループワーク）	事後：注文服と既製服の利点と問題点について考える
第５回　衣服設計のための人体の採寸方法（１）人体の方位（２）採寸の準備	事後：人体各部の名称を復習する
第６回　衣服設計のための人体の採寸方法（３）成人女子の採寸方法	事後：採寸方法を復習する
第７回　衣服設計のための人体の採寸方法（４）成人男子の採寸方法	事後：採寸方法を復習する
第８回　衣料サイズの規格（１）日本の体格調査の変遷（２）衣料サイズの種類	事後：衣料サイズ表示を調べてみる
第９回　衣料サイズの規格（３）JIS成人男子と成人女子衣料サイズ	事後：JIS衣料サイズの復習をする
第10回　衣料サイズの規格（４）海外の衣料サイズ 衣服設計の基礎となる布地の立体化技法（演習）	事後：立体化技法の特徴を復習する
第11回　動作性と衣服設計	事後：動作で変わる寸法について復習する
第12回　パターン設計（１）立体裁断と平面作図（２）原型と種類の比較	事後：原型の種類と違いを復習する
第13回　パターン設計（３）身頃原型の展開（演習）	事後：身頃原型の展開を復習する
第14回　パターン設計（４）袖原型と動作性（５）衿の種類	事後：衿のパターンを復習する
第15回　パターン設計（６）衿型紙の展開 加齢に伴う体型変化とパターンの補正	事後：衿のパターン、体型変化と補正を復習する、試験の準備をする

■ 履修上の注意
遅刻3回で１回欠席扱い、1/3以上欠席者は原則として不合格にする。
講義には教科書を使用する。適宜、プリントを配布するのでファイルに整理する。
授業後に疑問点や質問事項を書くこと。できるだけ次回に解答するようにする。

■ 成績評価方法・基準
授業後の感想や質問の書き込み内容（15%）16回目に試験（85%）（試験は教科書、ノート、プリント全て持込み可）。
質問については授業中にフィードバック、試験の評価は後日フィードバックする。

■ 教科書
〔アパレル設計・生産論〕〔衣料管理協会〕〔2，300円〕

■ 参考書
授業前にプリントを配布する。参考書も回覧し紹介する。

■ 備考
質問があれば授業後に受け付けます。

アパレル生産実習

(11126)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (45 + 30)
対象学科：服専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

アパレル製品における品質の良い製品を効率的に工業生産するための工業生産方式に関連する事項について教授する。特に実習では，工場生産に関わる工程の中で，工業用パターンメーキング，縫製仕様書の作成と縫製仕様書に従った作業等を行い，全体の仕組みと流れを教授する。生産工程では，検反から縫製作業・製品評価についての事項と技術も教授する。さらに，作業効率化のための工程分析やIOTなどの活用についても触れる。なお、縫製作業にはグループワークやディスカッションを取り入れる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・工業生産に必要な知識と技能，思考力を身につける。				0.2	0.4		0.2		0.2
・課題解決能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション，縫製機器の理解と縫製見本の作成	縫製見本を完成させる。
第２回　パターンの作成	パターンを完成させる。
第３回　縫製仕様書の作成	工業用パターンを完成させる。
第４回　工業用パターンへの展開	グレーディングパターンを完成させる。
第５回　グレーディング，マーキング	縫製仕様書を完成させる。
第６回　生産工程と分析：作業工程分析とパターン分析，作業工程表作成	作業工程表を完成させる。
第７回　縫製作業工程分析表の作成①（工程分析を基に作成）	縫製作業工程分析表案を検討する。
第８回　〃　　②	縫製作業工程分析表を完成させる。
第９回　裁断・芯貼り、グループワーク	課題に取り組む。
第10回　縫製機器レイアウト	レイアウトを完成させる。
第11回　縫製作業①グループワーク	課題に取り組む。
第12回　縫製作業②グループワーク	課題に取り組む。
第13回　仕上げ、グループワーク	課題を完成させる。
第14回　製品の評価、グループワーク	プレゼンテーションの準備。
第15回　プレゼンテーション、まとめ、ディスカッション	全範囲を振り返る。

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をせず，進度に遅れが出ないようにすること。
裁縫用具一式を毎回持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出物50%、受講状況（作業状況・進度など）を50%として評価する。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

〔アパレル設計論 アパレル生産論〕〔日本衣料管理協会〕〔2，300円〕※1年次に購入済み

■ 参考書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕

■ 備考

実習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

アパレルＣＡＤⅠ

(11127)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (30 + 15)
対象学科：服専２年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
佐　藤　理　恵

■ 授業の概要

アパレルCADⅠの授業では、アパレルCADを使用してパターンを作成するスキルを学ぶ。長年アパレル業界でパタンナーとして携わってきた経験を活かし、基本的な形である文化式原型の製図方法をはじめ、ブラウス、スカートの製図を行う。また、実際に現場で使用するパターンへ展開する技術、そして裁断図であるマーキングの基本を教える。これにより、実際のアパレルの業界でアパレルCADがどのように役立っているかを理解し、パターンの製図力を習得させる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・アパレルCADの基本操作ができる。	0.5				0.5				
・アパレルCADでパターンを作成する技術を習得する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	
第２回　基本操作①（CADソフトの起動・終了、直線、曲線、図形等）	基本操作の復習
第３回　基本操作②（回転、修正、等）	基本操作の復習②、原型製図を予習
第４回　製図①（身頃の原型作成：新文化式）	製図①の復習
第５回　製図②（身頃の原型作成に縫い代等を付ける）	製図②の復習
第６回　製図③（原型を利用しての展開）	製図③の復習
第７回　製図④（ブラウス作図①）	製図④の復習、衿や袖の作図を予習
第８回　製図⑤（ブラウス作図②）	製図⑤の復習、スカート基本形作図を予習
第９回　製図⑥（スカートの基本形作成）	製図⑥の復習
第10回　製図⑦（スカートの基本形から工業用パターンへと展開）	製図⑦の復習
第11回　製図⑧（スカートの展開）	製図⑧の復習
第12回　製図⑨（スカートの作図）	製図⑨の復習
第13回　マーキングとは何かを学ぶ	マーキングについて復習
第14回　まとめ	操作全般の総復習
第15回　試験	

■ 履修上の注意

遅刻、欠席をしないこと。
初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。

■ 成績評価方法・基準

試験80%、平常点20%（平常点は授業への総合的な取り組みで判断する。）
試験は採点後、後日返却する。

■ 教科書

使用せず、必要に応じて授業前にプリントを配布

■ 参考書

〔CADパターンメーキング入門〕〔三恵社〕〔3，300円〕

■ 備考

・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付けます。

アパレルＣＡＤⅡ

(11128)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
佐　藤　理　恵

■ 授業の概要

アパレルCADⅡの授業では、アパレルCADを使用して洋服の型紙を作成する応用スキルを学びます。長年アパレル業界携わってきた経験を活かし、パンツやジャケットなどの具体的なアイテムを製図する方法を指導します。さらに、異なるサイズへの展開方法であるグレーディーング、立体的に確認できる３Dの技術を教えます。これらのスキルは、企業での効率的な生産と品質管理に不可欠であり、皆さんの専門知識を深めることで、将来の職場で即戦力となるための土台を築きます。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・アパレルCADの基本操作からの応用技術を学ぶことができる。		0.4			0.4			0.2	
・アパレルCADで多種多様なアイテムを作成し専門技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション、製図①　ジャケット①（デザイン確認、サイズ、原型、見頃）	アパレルＣＡＤⅠの復習、製図②の復習
第２回　製図②　ジャケット②（衿、袖）	製図②の復習
第３回　製図③　ジャケット③（表パターン出力①）	製図②の復習
第４回　製図④　ジャケット④（表パターン出力②）	作図③の復習、パンツの予習
第５回　製図⑤　パンツ製図①	製図⑤の復習
第６回　製図⑥　パンツ製図②	製図⑥の復習
第７回　3D操作	３D操作の復習
第８回　ジャケット３D展開、確認	ジャケット３Dの復習
第９回　製図⑦　ジャケット⑤（パターン修正①）	製図⑦の復習
第10回　製図⑧　ジャケット⑥（パターン修正②）	製図⑧の復習
第11回　製図⑨　ジャケット⑦（衿展開、見返しパターン）	製図⑨の復習
第12回　製図⑩　ジャケット⑧（裏、芯パターン）	製図⑩の復習
第13回　製図⑪　ジャケット⑨（裏、芯出力）	製図⑪の復習
第14回　ジャケットの縫製仕様書作成	ジャケットのレポート
第15回　グレーディング、まとめ	総まとめ

■ 履修上の注意

初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。
アパレルCADⅠを選択していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

遅刻、欠席しないこと。
課題80%（ジャケット作図、レポート、縫製仕様書）平常点20%

■ 教科書

使用せず、必要に応じて授業前にプリントを配布

■ 参考書

〔CADパターンメーキング入門〕〔三恵社〕〔3，300円〕

■ 備考

・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付けます。

服飾工芸・造形（服飾手芸） Ⅰ

(11129)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (45 + 30)
対象学科：服専２年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
横　田　美　和

■ 授業の概要
刺繍とは生地に針と糸で装飾を施す手芸のひとつである。その中のフランス刺繍は基本のステッチが一通りできる刺繍の種類である。
前半では生地の扱い方や針や糸の扱い方、多様なステッチの技法を教授する。後半ではオリジナル作品（バックなどの小物）を制作する。その為のデザイン、材料選び等の準備を通して作業工程の理解を深め完成度を高めるための技術を身につけられるように教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・刺繍の基本ステッチの技法を身につける。					0.1		0.5		0.4
・習得した技法を応用作品に活かせる。									
・制作、用途に合わせた素材、技法の選び方を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「授業内容と進め方」「用具と材料」の説明。 基本ステッチ①「布端裁ちかがり」「図案写し」	次回から基本ステッチができるように図案を写し終わっておく
第２回　基本ステッチ②「布の扱い方」「刺繍糸の扱い方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第３回　基本ステッチ③　№1から№6	時間内に終わらない時は終わらせておく
第４回　基本ステッチ④　№7から№11	時間内に終わらない時は終わらせておく
第５回　基本ステッチ⑤　№12から№17	時間内に終わらない時は終わらせておく
第６回　基本ステッチ⑥　№18から№22	時間内に終わらない時は終わらせておく
第７回　基本ステッチ⑦　№23から№28	時間内に終わらない時は終わらせておく
第８回　基本ステッチ⑧　№29から№31	時間内に終わらない時は終わらせておく
第９回　基本ステッチ⑨「布端の始末」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第10回　基本ステッチ⑩「仕上げの仕方」「提出」	仕上げをして提出する
第11回　オリジナル作品「デザイン」「布・糸の準備」	次回から使用する布と糸を準備する
第12回　オリジナル作品　基本ステッチから選んでステッチ	時間内に終わらない時は終わらせておく
第13回　オリジナル作品　基本ステッチから選んでステッチ	時間内に終わらない時は終わらせておく
第14回　オリジナル作品　基本ステッチから選んでステッチ	時間内に終わらない時は終わらせておく
第15回　オリジナル作品「縫製」「仕上げ」「提出」	仕上げをして提出する

■ 履修上の注意
材料費（布と糸）600円。丁寧な制作を心がけ、遅れた場合は次回までに終わらせておく。

■ 成績評価方法・基準
課題作品60%・受講態度40%
※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。
※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況をみて評価します。
※ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。

■ 教科書
授業前にプリントを配布

■ 参考書
無し

■ 備考
都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
質問等については授業終了後に受け付けます。

服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅱ

(11130)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (45 + 30)
対象学科：服専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
横　田　美　和

■ 授業の概要
編み物（手編み）の中には、複数の棒針を使って編む「棒針編み」と、鉤状のかぎ針1本を使って編む「かぎ針編み」がある。
前半では、かぎ針編みでコースターとミニドイリーを、後半では、2本の針を用いて棒針編みの基本の編み方でマフラーを制作する。制作しながら糸の種類や太さに合ったかぎ針、棒針の「道具の選び方」「編み目記号図の見方」「道具の使い方」「編み方」等の基礎を教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・編み物の「編み目記号」「記号図の見方」を身につける。					0.1		0.5		0.4
・「糸と針の使い方」「編み方」等の基礎を身につける。									
・制作に合わせた素材を選び編み物ができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「授業内容と進め方」「用具と材料」の説明。 かぎ針編み①「糸と針の持ち方」「作り目の作り方」	次回から使用するかぎ針と糸を各自準備する
第２回　かぎ針編み②コースター「記号図の見方と編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第３回　かぎ針編み③コースター「編み方」「仕上げ」「提出」	これまでの工程をまとめ、提出する
第４回　かぎ針編み④ミニドイリー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第５回　かぎ針編み⑤ミニドイリー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第６回　かぎ針編み⑥ミニドイリー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第７回　かぎ針編み⑦ミニドイリー モチーフを繋げて仕上げて提出	モチーフを繋げて提出する
第８回　棒針編み①「糸と針の持ち方」「作り目の作り方」	次回から使用する棒針と糸を各自準備する
第９回　棒針編み②マフラー「記号図の見方と編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第10回　棒針編み③マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第11回　棒針編み④マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第12回　棒針編み⑤マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第13回　棒針編み⑥マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第14回　棒針編み⑦マフラー「編み方」「目の止め方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第15回　棒針編み⑧マフラー フリンジを付けて仕上げて提出	フリンジを付けて提出する

■ 履修上の注意
材料（糸と針）は各自準備する。丁寧な制作を心がけ、遅れた場合は次回までに終わらせておく。

■ 成績評価方法・基準
課題作品60%・受講態度40%
※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。
※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況をみて評価します。
※ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。

■ 教科書
授業前にプリントを配布

■ 参考書
無し

■ 備考
都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
質問等については授業終了後に受け付けます。

服飾工芸・造形（織物）Ⅲ

(11131)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専４年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
横　田　美　和

■ 授業の概要
卓上織機を使用し織物を制作するための知識や技術を教授する。
前半はテキスタイルデザインⅠで学んだ作業工程と道具の使い方等を振り返る。また、織物の三原組織（平織、綾織、繻子織）の他にもある変化組織についても、組織図の見方・書き方を教授し制作につなげる。
後半ではオリジナル作品を制作する。そのためのデザイン・材料選び等の準備を通して、より作業工程の理解を深め更に織物製品としての完成度を高めるための技術を身につけられるように教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・織物に関する技術を身につける。					0.4		0.6		
・織物の組織についての知識を身につける。									
・織物制作を通して布製品の扱い方を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「授業内容と進め方」の説明と織物組織・道具類の確認	三原組織・変化組織を調べておく
第２回　「設計表作り」と「整経」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第３回　「経巻」と「小拵え」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第４回　「織る」作業（前半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第５回　「織る」作業（後半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第６回　仕上げと講評	これまでの工程をまとめておく
第７回　オリジナル作品のデザインと設計表作り.	オリジナル作品のデザインを考えておく
第８回　「整経」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第９回　「経巻」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第10回　「小拵え」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第11回　「織る」作業（前半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第12回　「織る」作業（中間）	時間内に終わらない時は完成させておく
第13回　「織る」作業（後半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第14回　仕上げ	時間内に終わらない時は完成させておく
第15回　講評・まとめ	これまでの工程をまとめておく

■ 履修上の注意
オリジナル作品で使用する糸は各自で購入のこと。
講義一回で一工程進むため遅れた場合は次回までに終わらせておく。

■ 成績評価方法・基準
課題作品60%・受講態度40%
※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。
※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況をみて評価します。
※ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。

■ 教科書
授業前に資料を配布する。

■ 参考書
無し

■ 備考
都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
質問等については授業終了後に受け付けます。

被服繊維学

(11132)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊豆田　友　美

■ 授業の概要
私たちの身の回りには様々な繊維が様々な用途で使用されている．はじめて被服材料である繊維を学ぶ学生に対し，繊維に関する基本的な特徴と性能，それを活かした用途について教授する．まず，繊維の基本物質である高分子の化学構造及び合成、高分子特有の性質、結晶性及び非晶性高分子の構造と物性の関係について教授する．次に，最古から利用されてきた繊維から最先端の高機能繊維までについてて解説します．主に被服素材に使用される繊維についての構造と性質を分子・微細構造的形態的に教授する．同時に，天然及び合成繊維の特性や製造方法などを教授する．最後に，高分子と環境問題や環境対応型繊維について解説します．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・繊維の基本的知識を十分に理解する．	0.6	0.1	0.1		0.1				0.1
・商品企画，製造，販売，品質管理，消費などに活用できる応用力を身につける．									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業概要，繊維とは？	暮らしの中の繊維について考察する．配布されたプリントを精読する．
第２回　高分子の構造・性質①　分子構造，凝集構造，配向，結晶と非晶	高分子ついて考察する．配布されたプリントを精読する．教科書「46～47頁に目を通す．
第３回　高分子の構造・性質②　熱的性質，力学的性質，化学的性質	配布されたプリントを精読する．教科書1～18頁に目を通す．
第４回　繊維の種類と分類	教科書1～18頁を精読する．
第５回　繊維の構造(繊維の形態)	教科書1～18頁を精読する．教科書18～35頁に目を通す．
第６回　繊維の性質(力学的性質，化学的性質)	教科書18～35頁を精読する．教科書8～10頁に目を通す．
第７回　植物繊維	教科書8～10頁を精読する．教科書10～12頁に目を通す．
第８回　動物繊維，鉱物繊維	教科書10～12頁を精読する．教科書12～14頁に目を通す．
第９回　再生繊維	教科書12～14頁を精読する．教科書15頁に目を通す．
第10回　半合成繊維	教科書15頁を精読する．教科書15～18頁に目を通す．
第11回　合成繊維	教科書15～18頁を精読する．自身が着用している衣服の繊維の種類と性質について考察する．
第12回　高機能繊維	配布されたプリントを精読する．教科書「第3部」177～188頁に目を通す.被服の消費と廃棄について考察する．
第13回　環境対応型繊維，繊維のリサイクル	教科書「第3部」177～189頁を精読する.自身が着用している衣服の繊維の種類と性質について考察し，レポートを作成する．
第14回　被服材料の性質	自身が着用している衣服の繊維の種類と性質について考察し，レポートを作成し，提出する．
第15回　総括	これまでの学習内容を振り返る．
第16回　本試験	全ての範囲の学習内容の理解度を確認する．

■ 履修上の注意
授業終了時に小テストを行うので振り返りを大切にする．事前事後には指定教科書に目を通すこと．

■ 成績評価方法・基準
期末試験(50%)と平常点・受講態度(50%)（毎回行う小テストとレポート等総合的に判断する）で評価します．小テストにつ

いては、次回の授業内でフィードバックとします.

■ 教科書
［繊維製品の基礎知識シリーズ第1部］［日本衣料管理協会］［入学時購入済］

■ 参考書
授業前にプリントを配布する.

■ 備考
必修
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける．評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する．5回を超えて欠席した者は評価の対象としない.

被服繊維学実験

(11133)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専１年
授業形態：実験　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊豆田　友　美

■ 授業の概要

被服繊維学で学んだ知識について実験を通してさらに理解を深められるように，繊維の鑑別実験，繊維の製造実験，繊維の取り出し実験を主に教授する．特に繊維の鑑別実験では，各繊維の特徴をとらえることができるように実験方法と分析方法について解説する．また，はじめて科学的な実験になるために実験の進め方や器具の使い方，溶液の調整方法，レポートのまとめ方，実験データの考察の仕方についても教授する．実験はすべてグループワークで行う．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・繊維に関する高度な知識・技術を身につける．			0.3		0.5		0.2		
・実験で得た結果を分析する技術を身につける．									
・実験を通して論理的思考や倫理観等を身につける．									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：概要，グループ構成，実験上の注意，器具の使い方，レポート作成方法	器具の名称，使い方を覚える． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当 1～3頁）
第２回　鑑別実験①-1　顕微鏡による側面の形態観察　グループワーク	レポート作成方法のプリントを熟読し，レポート作成にとりかかる． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当 1～3頁）
第３回　鑑別実験①-2　顕微鏡による断面の形態観察　グループワーク	顕微鏡による形態観察についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当 29頁）
第４回　鑑別実験②-1　各種試薬に対する溶解性　3種の溶液　グループワーク	教科書の該当頁を熟読し，レポート作成にとりかかる． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当 29頁）
第５回　鑑別実験②-2　各種試薬に対する溶解性　2種の溶液・呈色反応用試薬　グループワーク	各種試薬に対する溶解性についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当 107～113頁）
第６回　鑑別実験③　染色性・呈色反応　グループワーク	染色性・呈色反応についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当 28頁）
第７回　鑑別実験④　燃焼特性　グループワーク	燃焼性についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当 第2部111頁）
第８回　鑑別実験⑤　赤外線スペクトル　グループワーク	赤外線スペクトルについてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当 第2部112～114頁）
第９回　繊維の混用率　溶解法　グループワーク	教科書の該当頁を熟読し，レポート作成にとりかかる． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当 第2部112～114頁）
第10回　繊維の混用率　分析　グループワーク	繊維の混用率についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当13，17頁）
第11回　繊維の製造①-1　PVAの紡糸　グループワーク	教科書の該当頁を熟読し，レポート作成にとりか

	かる. 教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書該当13，17頁）
第12回　繊維の製造①-2　アセタール化　グループワーク	PVAの紡糸についてのレポートを作成し，次回提出．教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書該当5，16，34頁）
第13回　繊維の製造②　ナイロンの重合　　グループワーク	ナイロン重合についてのレポートを作成し，次回提出. 教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書該当9，13，15頁）
第14回　繊維の製造③　銅アンモニアレーヨン(キュプラ)　グループワーク	キュプラの製造についてのレポートを作成し，次回提出. 教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書該当8～11頁）
第15回　天然繊維の取り出しおよび紡績　絹・綿および総括	全ての実験のまとめとレポートの校正箇所を振り返る.

■ 履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない．白衣着用・髪を束ねておくこと.
指定の実験ノートとファイルを使用する．実験毎にレポートを求めるので，指定期日までに提出すること.

■ 成績評価方法・基準

評価は，①実験が終了する毎に提出するレポートに対して50%　②グループで協力しながら実験結果を出すことに対して50%
ルーブリック評価は第1回目の授業で説明する．レポートは後日添削して返却する.

■ 教科書

［繊維製品の基礎知識シリーズ　第１部(第2部)］［一般社団法人　日本衣料管理協会］［5610円(入学時購入済)］

■ 参考書

プリントを配布する.

■ 備考

必修
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける.
評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する．5回を超えて欠席した者は評価の対象としない.

被服材料学

(11134)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊豆田　友　美

■ 授業の概要
糸，布，その他の被服材料に関して，その種類や製造プロセス，性能，取扱い方法などの基本的知識を教授する．まず，布を構成している糸についての種類・製造・性質を教授する．次に，織物および編物の種類・製造・性質について説明を行い，不織布および皮革の種類・製造・性質についても説明を行う．最後に，被服材料の性能に関わる消費性能を教授する．さらに，衣服やインテリアファブリックなどの製品を製作する際に各用途に適した材料を選定するプロセスのディスカッションを行い，被服材料に関する理解を深める．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・糸や布の基本的知識を十分に理解する．	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1
・商品企画，製造，販売，品質管理，消費などに活用できる応用力を身につける．									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業概要，糸の分類	教科書36～44頁を精読する．教科書39頁に目を通す.身の回りにある糸について考察する．
第２回　糸の製造プロセス①綿糸，毛糸，製糸	教科書39頁を精読する．身の回りにある糸について考察する．
第３回　糸の製造プロセス②フィラメント糸，フィラメント加工糸	教科書39頁を精読する．教科書44～53頁に目を通す．
第４回　糸の構造と性質	教科書44～53頁を精読する．教科書54～62頁に目を通す.身の回りにある衣服が織物あるい編物であるのか観察する．
第５回　織物の分類，織物製造法	教科書54～62頁を精読する．教科書55～58頁に目を通す.身の回りにある織物の組織を観察する．
第６回　織物の組織と表示，織物の構造と性質	教科書55～58頁を精読する．教科書62～72頁に目を通す.身の回りにある編物を考察する．
第７回　編物の分類と表示，編物の製造	教科書62～72頁を精読する．教科書68～72頁に目を通す.身の回りにある編物の組織を観察する．
第８回　編物の組成と表示、編物の製造と性質	教科書68～72頁を精読する．教科書89～94頁に目を通す.身の回りにある不織布について考察する．
第９回　不織布の種類と製造，不織布の構造と性質	教科書89～94頁を精読する．教科書94～99頁に目を通す.身の回りにある接着布，レース，皮革について考察する．
第10回　その他の布(接着布，レース，皮革など)	教科書94～99頁を精読する．教科書72～77頁に目を通す.被服の力学的性質について考察する．
第11回　力学的性質	教科書72～77頁を精読する．教科書77～82頁に目を通す.被服の外観的性質について考察する．
第12回　外観的性質	教科書77～82頁を精読する．教科書82～89頁に目を通す.被服の快適性について考察する．
第13回　着心地・快適性に関する性質	教科書82～89頁を精読する．教科書「第3部」177～188頁に目を通す.被服の消費と廃棄について考察する．
第14回　消費と廃棄	教科書「第3部」177～188頁を精読する．ディスカッションの準備をする．
第15回　ディスカッションと総括	これまでの学習内容とディスカッションを振り返る．
第16回　本試験	全ての範囲の学習内容の理解度を確認する．

■ 履修上の注意
授業終了時に小テストを行うので振り返りを大切にする．事前事後には指定教科書に目を通すこと．

■ 成績評価方法・基準
期末試験(50%)と平常点・受講態度(50%)（毎回行う小テストとディスカッション等総合的に判断する）で評価します．小テストについては、次回の授業内でフィードバックとします．

■ 教科書
［繊維製品の基礎知識シリーズ第1部］［日本衣料管理協会］［入学時購入済］

■ 参考書
［衣の科学シリーズ　衣服材料の科学 第3版］［島崎恒藏 編著　團野哲也 林正之 森俊夫 共著］［建帛社」 ［2，860円］

■ 備考
必修
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける．評価は1回目の授業で説明する．5回を超えて欠席した者は評価の対象としない．

被服材料学実験

(11135)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専２年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊豆田　友　美

■ 授業の概要
被服材料学で学んだ知識について，実験を通してさらに理解を深められるように，織物・編物の構造分析，被服材料の性能に関わる消費性能試験を主に教授する．織物の基本構造と分析では，織布の作成方法と様々な織物への展開方法を教授する．布の消費性能試験では，各種強度，風合い，快適性に関わる実験の測定方法について教授し，さらに試験結果のまとめ方，分析方法，評価についても教授する．実験は全てグループワークとする．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・被服材料に関する高度な知識・技術を身につける．			0.3		0.5		0.2		
・実験で得た結果を分析する技術を身につける．									
・実験を通して論理的思考や倫理観等を身につける．									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：概要，グループ構成，実験上の注意，レポート作成方法，織物・編物の構造分析実験	織物・編物の組織を確認する． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当44～46頁）
第２回　糸の実験①　糸の太さ　グループワーク	糸の太さについてのレポートを作成する． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当46～47頁）
第３回　糸の実験②　糸の撚り　グループワーク	糸の撚りについてのレポートを作成し，次回提出．教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当54～72頁）
第４回　織物・編物の組織と表示　グループワーク	織物・編物の組織についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当72～74頁）
第５回　布の構造に関する試験①　太さ，重量，糸密度の測定　グループワーク	布の構造についてのレポートを作成する． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当72～74頁）
第６回　布の構造に関する試験②　見かけ比重，含気率，カバーファクターの算出　グループワーク	布の構造についてのレポートを作成し，次回提出．教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当74～76頁）
第７回　引張り強さと伸び試験　グループワーク	布の引張り強さと伸びについてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当76～77頁）
第８回　摩耗強さ試験，引裂強さ試験　グループワーク	布の摩耗強さ試験，引裂強さについてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当77～79頁）
第９回　防しわ性試験　グループワーク	布の防しわ性についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書第二部該当141頁）
第10回　剛軟性試験　グループワーク	布の剛軟性についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書第二部該当83～84，141頁）
第11回　ドレープ性試験　グループワーク	布のドレープ性についてのレポートを作成，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書第二部該当132～1133頁）

第12回　通気性試験　グループワーク	布の通気性についてのレポートを作成し，次回提出. 教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書第二部該当132頁）
第13回　保温性試験　グループワーク	布の保温性についてのレポートを作成し，次回提出. 教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書第二部該当134頁）
第14回　吸水性試験　グループワーク	布の吸水性についてのレポートを作成し，次回提出. 教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書該当54～72頁）
第15回　布の製作・総括	実験のまとめとレポートの校正箇所を振り返る.

■ 履修上の注意
安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない．白衣着用・髪を束ねておくこと.
指定の実験ノートとファイルを使用する.
実験毎にレポートを求めるので，指定期日までに提出すること.

■ 成績評価方法・基準
評価は，①実験が終了する毎に提出するレポートに対して50%　②グループで協力しながら実験結果を出すことに対して50%
ルーブリック評価は第1回目の授業で説明する．レポートは後日添削して返却する.

■ 教科書
［繊維製品の基礎知識シリーズ 第1部］［日本衣料管理協会］［5610円（入学時購入済)］

■ 参考書
プリントを配布する.

■ 備考
必修
第7回目から第14回目までは，機器台数の関係により班ごとに授業順番が変わるため，進捗を各グループで確認して実験に臨むこと.
履修者の実験進捗状況等の都合により，授業計画の順番等を変更することがある.
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける.
評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する．5回を超えて欠席した者は評価の対象としない.

被服整理学

(11136)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

衣生活の消費段階に行われる被服整理について教授する。特に洗濯用洗剤の主成分である界面活性剤の作用、ビルダーと添加剤の作用、洗浄理論、各種繊維製品に適した洗濯方法、仕上げ方法、保管方法ついて主に教授する。表示では、取扱い表示の基本を教授するとともに、近年の表示や試験方法の改正点、各製品に対する最適な表示選択について解説する。洗濯では、家庭洗濯と商業洗濯の実際について教授する。さらに被服整理の環境との関連性、安全性についても触れる。一部グループワーク（ＧＷ　簡易実験やディスカッション）を実施する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・被服整理に関する基礎的な知識を身につける。			0.7		0.3				

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：被服の汚れ、汚れの付着機構、被服整理の意義	テキスト1章に目を通す。 市販の洗濯用洗剤の動向を調べる。 ミニットペーパーを振り返る。
第２回　洗浄の型、洗剤の種類と成分・用途	テキスト2章に目を通す。 各自が所有する洗剤成分と用途を調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第３回　界面活性剤の分類、製法と作用①陰イオン	テキスト3章p13～p18に目を通す。 市販洗剤に主に含まれる界面活性剤を調べる。 ミニットペーパーを振り返る。
第４回　界面活性剤の分類、製法と作用②非イオン・その他	テキスト3章p13～p18に目を通す。 市販洗剤に含まれる界面活性剤のイオン性と特徴を調べる。 ミニットペーパーを振り返る。
第５回　中間テスト①、洗浄理論①洗浄作用　GW（簡易実験）	テキスト1章～3章に目を通し、これまでの学習範囲を振り返る。 中間テストとGW内容を見直す。
第６回　洗浄理論②油汚れ・固体汚れの除去、洗濯用水と影響	テキスト3章p22～24に目を通す。 界面活性剤による洗浄作用をまとめる。水の硬度を調べる。 ミニットペーパーを振り返る。
第７回　ビルダー・添加剤の機能	テキスト3章p18～p21に目を通す。 各自が所有する洗剤に含まれるビルダーと添加剤と作用を調べる。 ミニットペーパーを振り返る。
第８回　洗浄方式、洗濯機	テキスト4.6.7章に目を通す。 各自が所有する洗濯機の種類と特徴を調べる。 ミニットペーパーを振り返る。
第９回　漂白・増白	テキスト8章に目を通す。 市販漂白剤の成分と特徴を調べる。 ミニットペーパーを振り返る。
第10回　柔軟加工・糊加工・仕上げ加工、中間テスト②	テキスト10章に目を通す。 これまでの学習範囲を振り返る。中間テストを見直す。 柔軟剤の成分と特徴を調べる。
第11回　家庭洗濯の実際	テキスト5章に目を通す。 取り扱いに配慮が必要な素材の特徴をまとめる。 ミニットペーパーを振り返る。
第12回　商業洗濯の分類と方法	テキスト12章に目を通す。 クリーニングの種類を調べる。 ミニットペーパーを振り返る。

第13回　表示、適切な取り扱い　ＧＷ（ディスカッション）	テキスト13章に目を通す。 JIS表示の付与ルールを調べる。 ミニットペーパーを振り返る。
第14回　事例研究　GW（ディスカッション） 保存と管理、中間テスト③	テキスト11章に目外通す。 これまでの学習範囲を振り返る。中間テストを見直す。 市販の防虫剤・防湿剤の動向を調べる。
第15回　被服整理の課題、おわりに：本講義のまとめ	全範囲を振り返る。 被服整理の課題を考察する。
第16回　本試験	全範囲を振り返る。

■ 履修上の注意

毎時間ミニットペーパーを、単元毎に中間テストを行うので振返りを大切にする。

被服整理に関わる市販製品（洗剤、洗濯機、クリーニング等）に目を向け、事前事後には指定のテキスト範囲に目を通すこと。

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパーと中間テスト、試験は後日添削してフィードバッグする。

評価：①ミニットペーパーと中間テスト等の受講態度に対し50%、②本試験50%とする。（本試験は持込不可とする）

5回を超えて欠席した者は評価対象としない。

■ 教科書

〔被服整理学〕〔日本衣料管理協会〕〔1200円〕

■ 参考書

〔繊維製品の基礎知識ｼﾘｰｽﾞ〕〔日本衣料管理協会〕〔5100円〕　入学時購入済

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

参考となるURL　消費者庁ホームページ（https://www.caa.go.jp/）

■ 備考

質問などは、授業中・終了時等に受け付ける。

評価、授業の進め方等は1回目の授業で説明する。

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

被服整理学実験

(11137)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専２年
授業形態：実験　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊豆田　友　美

■ 授業の概要

被服整理学で学んだ基本的な理論について実験を通してさらに理解を深められるように，洗濯用洗剤の主成分である界面活性剤製造に関する実験，表面張力と臨界ミセル濃度の関係性に関する実験，洗濯用洗剤に含まれるビルダーや添加物に関する実験，洗濯用水に関する実験，様々な条件での洗浄試験，洗浄漂白・増白実験を行う．これらの実験を通して目的に応じた洗濯について教授する．また，洗濯によって損なわれた風合いを回復するための柔軟加工・糊付加工・仕上げ加工についても教授する．実験はすべてクループワークで行う．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・被服整理に関する高度な知識・技術を身につける．			0.3		0.5		0.2		
・実験で得た結果を分析する技術を身につける									
・実験を通して論理的思考や倫理観等を身につける．									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：概要，グループ構成，実験上の注意，器具の使い方，レポート作成方法	器具の名称，使い方を覚える． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当16～18頁）
第２回　石けんの製造　けん化塩析法・中和法　グループワーク	レポート作成方法のプリントを熟読し，レポート作成にとりかかる．石けんの製造についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当21～24頁）
第３回　洗剤溶液の乳化・分散・起泡性試験　グループワーク	洗剤溶液の乳化・分散・気泡性についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当13～16頁）
第４回　表面張力の測定と臨界ミセル濃度の推定　グループワーク	界面張力と臨界ミセル濃度ついてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当7，8頁）
第５回　洗濯用水の硬度　グループワーク	洗濯用水の影響についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当25～30頁）
第６回　洗浄試験①　機械による洗浄力の違い　グループワーク	機械による洗浄力についてのレポートを作成． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当31～37頁）
第７回　洗浄試験②　濃度や温度による洗浄力の違い　グループワーク	洗剤濃度や温度による洗浄力の違いについてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当18～21頁）
第８回　洗浄試験③　ビルダーと添加物の作用　グループワーク	ビルダーと添加剤の作用についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当53～56頁）
第９回　漂白試験　グループワーク	漂白についてのレポートを作成する．教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当56，57頁）
第10回　蛍光増白　グループワーク	蛍光増白についてのレポートを作成し，次回提出．教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当65～69頁）
第11回　糊付け加工と柔軟加工　グループワーク	糊抜き加工および柔軟加工についてのレポートを

	作成.
第12回　糊付け加工と柔軟加工の評価　グループワーク	糊抜き加工および柔軟加工についてのレポートを作成し，次回提出. はっ水加工について調べる.
第13回　はっ水加工と評価　グループワーク	はっ水加工についてのレポートを作成し，次回提出. 教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書該当59～63頁）
第14回　しみ抜き　グループワーク	しみ抜きについてのレポートを作成し，次回提出．教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書該当68～69頁）
第15回　アイロン仕上げ・総括	実験のまとめとレポートの校正箇所を振り返る.

■ 履修上の注意
安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない．白衣着用・髪を束ねておくこと.
指定の実験ノートとファイルを使用する.
実験毎にレポートを求めるので，指定期日までに提出すること.

■ 成績評価方法・基準
評価は，①実験が終了する毎に提出するレポートに対して50%　②グループで協力しながら実験結果を出すことに対して50%
ルーブリック評価は第1回目の授業で説明する．レポートは後日添削して返却する.

■ 教科書
［被服整理学］［一般社団法人　日本衣料管理協会］［1200円（2年前期購入済)］

■ 参考書
プリントを配布する.

■ 備考
必修
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける.
評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する．5回を超えて欠席した者は評価の対象としない.

染色加工学

(11138)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊豆田　友　美

■ 授業の概要
繊維製品に施されている染色加工について教授する．まず，染色における基本要素である「水」「染料」「繊維」それぞれの役割について詳しく解説し，染料の特性や染色現象理論の知識を深める．また，染色堅牢度，染色物の変退色や色に関わるトラブル事例についての理解を深めるために問題解決型学習を行う．さらに，染色後になされる様々な加工および加工法を解説する．最後に，染色加工に関連する安全性や環境への影響についても教授する．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・染色・加工に関する基本的な知識を身につける．			0.7		0.3				
・染色加工における問題解決能力を養う．									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　染色とは？”色”とその見え方（教科書該当 第1章）	教科書「第1章」3～8頁を精読する． 教科書「第3章」13～17頁，「第6章」47～53頁に目を通す．
第２回　実用染色工程（教科書該当 第3章・第6章）	教科書「第3章」13～17頁，「第6章」47～53頁を精読する． 教科書「第2章」9～12頁に目を通す．
第３回　染色理論－染色は日常の身近な現象の1つ－(教科書該当 第2章)	教科書「第2章」9～12頁を精読する． 教科書「第4章」18～40頁に目を通す．
第４回　各種合成染料とその染着機構（教科書該当 第4章）	教科書「第4章」18～40頁を精読する． 教科書「第5章」41～46頁に目を通す．
第５回　染色という現象 水分子の働き(教科書該当　第5章)	配布するプリントを精読する． 教科書「第4章」18～40頁を精読する
第６回　染色という現象 繊維分子の状態(教科書該当　第5章)	配布するプリントを精読する． 教科書「第5章」41～46頁を精読する．
第７回　染色という現象 染料の吸着座席(教科書該当　第5章)	配布するプリントを精読する． 教科書「第7章」54～66に目を通す．
第８回　伝統染織－伝統的な染法・染料・文様－(教科書該当　第7章)	教科書「第7章」54～66頁を精読する． これまでの内容を振り返る．
第９回　染色についてのまとめ	これまでの内容を理解する． 教科書「第8章」67～68頁，「第9章」69～77に目を通す．
第10回　変退色の起こる要因と染色堅牢度(教科書該当　第9章)	教科書「第8章」67～68頁，「第9章」69～77を精読する． 教科書「第10章」78～93頁に目を通す．
第11回　色に関わるトラブル事例(教科書該当　第10章)　問題解決学習	教科書「第10章」78～93頁を精読する． 教科書「第12章」97～102頁に目を通す．
第12回　外観，風合いを整える・変える加工(教科書該当　第12章)	教科書「第12章」97～102頁を精読する． 教科書「第12章」102～109頁に目を通す．
第13回　機能を付与する加工(教科書該当　第12章)	教科書「第12章」102～109頁を精読する． 教科書「第11章」94～96，「第12章」109～111頁に目を通す．
第14回　染色加工と安全性(教科書該当　第11章・第12章)　問題解決学習	教科書「第11章」94～96，「第12章」109～111頁を精読する． これまでの内容を振り返る．
第15回　総括	これまでの学習内容を振り返る．
第16回　本試験	全ての範囲の学習内容の理解度を確認する．

■ 履修上の注意
授業終了時に小テストを行うので振り返りを大切にする．事前事後には指定教科書に目を通すこと．
選択科目であるが，TA取得希望者は必ず履修すること．

■ 成績評価方法・基準
期末試験(50%)と平常点・受講態度(50%)（毎回行う小テスト等総合的に判断する）で評価します.
小テストについては、次回の授業内でフィードバックします.

■ 教科書
［染色加工学］［一般社団法人　日本衣料管理協会］［2200円］

■ 参考書
［染色って何？ーやさしい染色の化学ー］［上甲恭平著］［株式会社ファイバージャパン］［2200円］
［繊維製品の品質問題究明ガイドー消費者苦情の原因究明・再発防止策ー］［一般社団法人　日本衣料管理協会］[4180円］

■ 備考
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける．評価は第1回目授業で説明する.

染色加工学実験

(11139)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊豆田　友　美

■ 授業の概要
染色加工で学んだ知識をさらに深めるために，工業的な視点で，前処理工程，染色実験，染色堅牢度試験，加工実験について教授する．染色実験では，天然染料による染色方法，合成染料による染色方法，測色，染着率の測定方法について教授する．また，染色堅牢度試験では，染色堅牢度の測定方法とその評価方法について，加工実験では風合い改善，性能向上等，繊維の特性に応じた加工方法について教授する．実験は全てグループワークとする．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・染色に関する基本的な理論を理解する．			0.3		0.5		0.2		
・実験で得た結果を分析し，応用する技術を身につける．									
・実験を通して論理的思考や倫理観等を身につける．									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：実験の進め方，グループ構成，色相実験	教科書「第1章」3～8頁を精読する．レポート作成方法のプリントを熟読し，レポート作成にとりかかり，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当「第3章」13～17頁）
第２回　前処理工程実験　グループワーク	前処理工程実験についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当「第1章」3～8頁）
第３回　染色溶液に関する実験　グループワーク	染色溶液に関する実験についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当「第5章」41～46頁）
第４回　染色条件に関する実験　グループワーク	染色条件に関する実験についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当「第4章」18～40頁）
第５回　合成染料による染色①　直接染料，酸性染料，分散染料　グループワーク	合成染料による染色実験についてのレポートを作成する． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当「第4章」18～40頁）
第６回　合成染料による染色②　反応染料　グループワーク	合成染料による染色実験についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当「第1章」3～8頁）
第７回　染色布の測定に関する実験　グループワーク	染色布の測定に関する実験についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当「第9章」69～77頁）
第８回　染色堅牢度試験①　試料準備　グループワーク	染色堅牢度についてのレポートを作成する． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当「第9章」69～78頁）
第９回　染色堅牢度試験②　各種試験　グループワーク	染色堅牢度についてのレポートを作成する． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当「第9章」69～78頁）
第10回　染色堅牢度試験③　測定と評価　グループワーク	染色堅牢度についてのレポートを作成し，次回提出． 教科書で次項実験項目について目を通す．（教科書該当「第7章」54～66頁）

第11回　天然染料による染色①　染料の抽出と染色	天然染料による染色についてのレポートを作成する. 教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書該当「第7章」54～66頁）
第12回　天然染料による染色②　媒染を用いた染色	天然染料による染色についてのレポートを作成し，次回提出. 教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書該当「第12章」97～101頁）
第13回　加工実験①　風合いを整える・変える加工	加工実験についてのレポートを作成する. 教科書で次項実験項目について目を通す.（教科書該当「第12章」102～109頁）
第14回　加工実験②　機能を付与する加工	加工実験についてのレポートを作成し，次回提出.
第15回　総括	実験のまとめとレポートの校正箇所を振り返る.

■ 履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない．白衣着用・髪を束ねておくこと.
指定の実験ノートとファイルを使用する.
実験毎にレポートを求めるので，指定期日までに提出すること．事前事後には指定教科書に目を通すこと.
選択科目であるが，TA取得希望者は必ず履修すること.

■ 成績評価方法・基準

評価は，①実験が終了する毎に提出するレポートに対して50%　②グループで協力しながら実験結果を出すことに対して50%
ルーブリック評価は第1回目の授業で説明する．レポートは後日添削して返却する.

■ 教科書

［染色加工学］［一般社団法人　日本衣料管理協会］［2200円（2年次に購入済）］

■ 参考書

必要に応じて紹介する.

■ 備考

質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける.
評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する．5回を超えて欠席した者は評価の対象としない.

染色学実習

(11140)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（90 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

日本の伝統的染色技法は、世界的にみても類のない繊細で巧みな技術が駆使されているものである。本実習では、各種の伝統的染色技法の中から、絞り染め・ろうけつ染め・友禅染・型染め・描き更紗・藍染めを取り上げ、染色作品制作の基礎を指導する。これまでに習得した繊維や染料についての知識を生かしながら、前期は主に浸染の技法、後期は捺染の技法を行うことで、それぞれの染色技法の特徴を理解させ、伝統工芸への理解を深めさせる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・日本の伝統的染色技法の基本的技法を習得する。					0.55		0.3		0.15
・伝統工芸への理解を深める。									
・これまでに習得した繊維や染料に関する知識を応用できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　①ガイダンス、②伝統的染色技法、③染色用具・染料・助剤、④図案	板書内容を復習する、絞り染め基礎作品の下絵作成
第２回　工芸染色① 浸染―絞り染めの基礎（縫い絞り）	制作ノート記入、絞りまで終わらせる
第３回　〃　〃　（直接染料による浸染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第４回　〃　〃　（仕上げ）・有松絞りDVD鑑賞	ファイルまとめ、絞り染め応用作品の下絵作成
第５回　工芸染色② 絞り染め応用作品制作（縫う）	制作ノート記入、下縫いを進める
第６回　〃　〃　（絞る）	制作ノート記入、布を締める
第７回　〃　〃　（反応染料による浸染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第８回　〃　〃　（仕上げ）	ファイルまとめ、ろうけつ染め基礎作品の下絵作成
第９回　工芸染色③ 浸染―ろうけつ染めの基礎（防染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第10回　〃　〃　（建染染料による浸染）	ファイルまとめ、ろうけつ染め応用作品の下絵作成
第11回　工芸染色④ ろうけつ染め応用作品制作（ろう描き）	制作ノート記入、ろう描きを終わらせる
第12回　〃　〃　（反応染料による彩色）	制作ノート記入、彩色を終わらせる
第13回　〃　〃　（ろう伏せ）	制作ノート記入、ろう伏せを終わらせる
第14回　〃　〃　（建染染料による浸染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第15回　〃　〃　（脱ろう・仕上げ）	ファイルまとめ
第16回　作品展準備・搬入出・作品解説	絞り染め・ろうけつ染めの制作方法について復習する
第17回　工芸染色⑤ 捺染―友禅染の基礎・京友禅DVD鑑賞・下絵	レポート作成、友禅染作品の下絵作成を完成させる
第18回　〃　手描き友禅作品制作　（青花・糸目糊）	制作ノート記入、彩色計画をたてる
第19回　〃　〃　（彩色）	制作ノート記入、彩色を作業を終わらせる
第20回　〃　〃　（糊伏せ）	制作ノート記入、糊伏せを終わらせる
第21回　〃　〃　（地染め）・型染めDVD鑑賞	ファイルまとめ、DVDで視聴した型染め制作方法をノートにまとめる
第22回　〃　（蒸し・水元・仕上げ）	制作ノート記入、型染めの下絵作成
第23回　工芸染色⑥ 捺染―型染の基礎・下絵、作品制作（型彫り）	制作ノート記入、遅れている人は型彫りを進める
第24回　〃　型染作品制作　（型彫りの続き）	制作ノート記入、型彫りを終わらせる
第25回　〃　〃　（紗張り・型置き）	制作ノート記入、型置きまで終わらせる 彩色計画を立てる
第26回　〃　〃　（彩色・糊伏せ）	制作ノート記入、糊伏せまで終わらせる
第27回　〃　〃　（引き染め）	制作ノート記入、引き染めを終わらせる
第28回　〃　（蒸し・水元・仕上げ）・更紗の作品鑑賞	ファイルまとめ、描き更紗作品の下絵作成

第29回	工芸染色⑦ 捺染―描き更紗作品制作 （彩色・墨線）	制作ノート記入、墨線まで終わらせる
第30回	〃 〃 （蒸し・水元・仕上げ）	制作ノート記入、ファイルまとめ
第31回	各種染色技法と繊維製品の取り扱い・授業のまとめ	友禅染、型染め、描き更紗の製作方法について復習する（次年度の作品展で作品解説できるようにする）

■ 履修上の注意

染色加工学の単位を修得していることが望ましい。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。制作ノートはその都度きちんとまとめてください。材料費として2，500円程度を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出物（制作品・ファイル）による評価を55%、受講状況（制作ノート・参加状況）を45%として評価します。なお、提出物やノートはコメントを付して後日返却することで、フィードバックとします。

■ 教科書

なし

■ 参考書

〔きもののたのしみ〕〔全日本きもの振興会 編〕〔世界文化社〕〔2，200-〕
〔ようこそきものの世界へ〕〔長崎　巌〕〔東京美術〕〔2，420-〕

■ 備考

ルーブリックを授業初回に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

テキスタイルデザインⅠ (11141)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (45 + 15)
対象学科：服専３年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子　　横　田　美　和

■ 授業の概要
衣服の企画・設計にあたっては、使用目的や用途にあった物性・風合い･色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択できる能力が不可欠である。そこで本実習では、被服繊維学・被服材料学・色彩学・染色加工学等で習得したテキスタイルに関する基礎知識をもとに、パソコン・布帛用インクジェットプリンタを用いたテキスタイルデザイン実習と、卓上手織り機による織布実習を通して、目的・用途に応じた織物および色柄の形成方法について指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・用途や目的に合った物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択するための知識と技術を身に付ける。					0.35		0.45		0.2
・これまでに習得した基礎知識をテキスタイルに応用できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テキスタイルデザインの概要　(川又)	配布プリントを熟読する
第２回　繊維素材とテキスタイルデザイン、ドローソフトの基本操作（川又）	制作ノート記入、繊維素材とテキスタイルについてのプレゼン資料を完成させる
第３回　織編と編物、ドローソフトによる基本的なリピート柄作成（川又）	制作ノート記入、織物と編物についてのプレゼン資料を完成させる
第４回　布地の風合い、フォトレタッチソフトによる織柄表現(川又)	制作ノート記入、布地の風合いについてのプレゼン資料を完成させる
第５回　代表的な織物の名称と組織(専用ソフト使用)（川又）	制作ノート記入、代表的な織物の名称についてのプレゼン資料を完成させる
第６回　テキスタイルデザイン専用ソフトによる布帛の企画（川又）	制作ノート記入、布帛デザインを終わらせる
第７回　布帛用インクジェットプリンタによる布帛の捺染（川又）	制作ノート、プレス処理を行っておく
第８回　縫製・仕上げ（川又）	制作ノート完成、作品完成
第９回　テーブルセンター制作：デザイン・織物計画（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第10回　テーブルセンター制作：糸密度・糸の太さと織物の関係、糸巻き（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第11回　〃　：糸の種類・組織と風合いの関係、整経（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第12回　〃　：筬通し（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第13回　〃　：綜絖通し・張力調整（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第14回　〃　：織り(平織り)（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第15回　〃　：織り(綾織)（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第16回　〃　：仕上げ（横田）	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる

■ 履修上の注意
遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。実習費として実費(1，000円程度)を徴収します。宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。

■ 成績評価方法・基準
提出物（制作品等）による評価を55%、受講状況（制作ノート・プリント）を45%として評価します。なお、提出物や制作ノートは添削して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書
授業時にプリントを配布する

■ 参考書
〔ﾃｷｽﾀｲﾙ用語辞典〕〔成田典子〕〔ﾃｷｽﾀｲﾙﾂﾘｰ〕〔3，600円〕
〔Digital Textile Design 2nd Edition〕〔M.Bowles & C.Isaac〕〔Laurence King Publishing〕〔5，638円〕

■ 備考
ルーブリックを配布するので、学習目標としてください。受講生の習熟度によりシラバス内容を変更する事があります。

なお、質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

テキスタイルデザインⅡ (11142)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専４年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

衣服の企画・設計にあたっては、使用目的や用途にあった物性・風合い･色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択できる能力が不可欠である。そこで本実習では、テキスタイルデザインⅠで習得したテキスタイルデザインに関する基礎知識と基本的な技術を発展させるために、主にコンピュータグラフィックスによる手法を取り上げ、使用目的に応じたテキスタイルを企画・製作する方法、デジタルデータを活かした布地のデザイン方法について指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
					0.35		0.45		0.2
・用途や目的に合った物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択するための知識と技術を身に付ける。 ・これまでに習得した基礎知識をテキスタイルに応用できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の進め方、テキスタイルの製作方法	配布プリントを熟読する。ワークシートをまとめる。
第２回　リピート柄の基本	制作ノートを記入し、代表的なリピート柄についてのレポートを完成させる
第３回　課題製作①（汎用ソフトによるリピート柄作成）	制作ノートを記入し、リピート柄の特徴について復習する。
第４回　課題製作②（テキスタイル専用ソフトによるリピート柄作成）	制作ノートを記入し、テキスタイル専用ソフトの使い方を復習する。
第５回　課題製作③（用布の出力：インクジェット昇華転写捺染）	制作ノートを記入し、昇華転写捺染の特徴についてもまとめておく。
第６回　課題製作④（ファブリックパネルまたはタオルハンカチ製作）	制作ノートを記入し、期日までに作品を完成させる。
第７回　課題製作⑤（シャツ型紙の準備）	事前に、ｱﾊﾟﾚﾙCADで作成したシャツ型紙をEPS形式で保存するか、被服造形実習Ⅰのシャツの型紙を準備しておく。制作ノート記入。
第８回　課題製作⑥（オリジナルパターンのデザイン）	制作ノートを記入し、オリジナルパターンのデザインをブラッシュアップしておく。
第９回　課題製作⑦（オリジナルパターンの送り付け）	制作ノートを記入し、シャツ型紙・オリジナルパターンに不備がないか確認する。
第10回　課題製作⑧（マッピング）	制作ノートを記入し、マッピング作業を終わらせる。
第11回　課題製作⑨（用布の出力：ダイレクトインクジェット捺染）	制作ノート記入。副資材準備。
第12回　課題製作⑩（熱処理、裁断）	制作ノートを記入し、裁断まで終わらせる。
第13回　課題製作⑩（縫製：前立て、ヨーク）	制作ノート記入し、ヨーク付けまで終わらせる。
第14回　課題製作⑩（縫製：衿、袖）	制作ノート記入し、袖付けまで終わらせる。
第15回　課題製作⑩（縫製：脇、裾、留め具）	制作ノート記入し、期日までに作品を完成させる。

■ 履修上の注意

テキスタイルデザインⅠの単位を取得していること。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。実習費として実費（2，500円程度）を徴収します。宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。

■ 成績評価方法・基準

提出物（作品等）による評価を55%、受講状況（ミニットペーパー・制作ノート等）を45%として評価します。なお、提出物や制作ノートはコメントを付して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

プリントを配布する。

■ 参考書

〔ﾃｷｽﾀｲﾙ用語辞典〕〔成田典子〕〔ﾃｷｽﾀｲﾙﾂﾘｰ〕〔3，600円〕

〔Digital Textile Design 2nd Edition〕〔M.Bowles & C.Isaac〕〔Laurence King Publishing〕〔5，638円〕

■ 備考

初回にルーブリックに配布するので、学習目標としてください。受講生の習熟度によりシラバス内容を変更する事があります。なお、質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

ファッションビジネス論

(11143)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
内　海　陽　子

■ 授業の概要
本講義では、アパレルを中心としたファッションビジネスで活動するための基礎知識を教示する。ファッションビジネスの特性や歴史、構成産業の構造を体系的に理解し、アパレルメーカーおよび小売業の現状と課題を国内外の事例から分析する。さらに、業界の今後の展望について考察する。本講義は、大手アパレル企業にて16年間、年間30億円以上の商品バイイングやマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在はファッションプロデューサーとして多岐にわたり活動する講師が担当する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ファッションビジネスの特性や構造について理解し考察することが出来る。			0.2		0.4		0.2		0.2
・アパレルメーカー・アパレル小売業の現状について理解し考察することが出来る。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ファッションビジネスの特性（企業戦略）	指定された店舗に行き観察する
第２回　ファッションビジネスの特性①（消費行動） ・プレゼンテーション前半	指定された店舗に行き観察する
第３回　ファッションビジネスの特性②（消費行動） ・プレゼンテーション後半	指定された店舗に行き観察する
第４回　ファッション史　①（日本ブランド） ・1980年代まで	国内ブランドについて調べる
第５回　ファッション史　②（日本ブランド） ・1990年代以降	国内ブランドについて調べる
第６回　ファッションビジネスの職種　①（マーケティング）	講義内容を復習する
第７回　ファッションビジネスの職種　②（マーチャンダイジング）	講義内容を復習する
第８回　ファッションビジネスの職種　③（営業・ロジスティック）	講義内容を復習する
第９回　ファッション素材産業の概要	講義内容を復習する
第10回　アパレル産業の概要　①（海外ブランド）	指定された店舗に行き観察する
第11回　アパレル産業の概要　②（国内大手ブランド）	指定された店舗に行き観察する
第12回　アパレル産業の概要　③（SPA）	指定された店舗に行き観察する
第13回　アパレル産業流通の仕組み　①（ＳＰＡ）	講義内容を復習する
第14回　アパレル産業流通の仕組み　②（インターネット通販）	講義内容を復習する
第15回　日本のファッションビジネス環境の課題と展望 ・プレゼンテーション	講義内容を復習する

■ 履修上の注意
ファッションは日々変化を続けている。本講義では、実生活および将来の実務において即座に活用可能な内容を扱う。ファッションへの理解と意識を高め、継続的に感性を磨くことに留意する。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書
〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔日本衣料管理協会〕〔2，200円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了後受け付ける。

アパレル品質管理論

(11144)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (15 + 30)
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

繊維製品に関する品質管理について主に教授する。特に、繊維製品に関連する法令、近年の改正動向、品質管理の基本、品質管理に使う様々な道具と使い方について取り上げ解説する。また、繊維製品についての品質管理は、企画設計から流通に至る各工程で行われるため、工程管理の手法や、製品検査についても解説する。さらに授業では、事例を通して原因究明、解決のための手順、問題や苦情発生の未然防止策などについても教授する。一部グループワーク（以下GWと記載。作図、ディスカッション、検査作業等）を含む。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・品質管理に関する高度な専門知識を身につける。			0.5		0.3		0.2		
・論理的思考力やコミュニケーション能力、倫理観、責任感等を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：品質とは　GW（ディスカッション） 繊維製品に関連する法令・近年の改正 品質管理の基本	テキスト（主に第2部）6章p143～p152に目を通す。 被服に関連する法令を調べる。
第２回　品質管理の進め方・品質保証 品質管理の実際①　統計的品質管理の基礎	ミニットペーパーを振り返る。6章p153～p156、p161～p164に目を通す。
第３回　品質管理の実際②　QCの7つ道具（ヒストグラム・CP、チェックシート、パレート図）	ミニットペーパーを振り返る。6章p167～p172に目を通す。
第４回　品質管理の実際③　QCの7つ道具（特性要因図、管理図、散布図、グラフ）	ミニットペーパーを振り返る。6章p173～p179に目を通す。QCの7つ道具を練習する。
第５回　品質管理の実際④　新QCの7つ道具（親和図、連関図、系統図、）　GW（ディスカッション）	ミニットペーパーを振り返る。6章p179～p181に目を通す。
第６回　品質管理の実際⑤　新QCの7つ道具（マトリックス図、アローダイアグラム、PDPC） 最終縫製品の検査（上衣・下衣）　GW（検査の共同作業）	ミニットペーパーを振り返る。新QCの7つ道具を練習する。 検査手法を練習する。6章p153～p155に目を通す。
第７回　最終縫製品の検査（その他の製品）　GW（検査の共同作業） 品質管理の規格、デジタル化と品質管理	ミニットペーパーを振り返る。6章p155～p161に目を通す。とこれまでの学習内容を振り返る。
第８回　おわりに：本講義のまとめ、最終試験（プレゼンテーションとディスカッション）	これまでの学習内容と試験内容を振り返る。

■ 履修上の注意

事前事後、テキストの指定範囲に目を通して授業に臨むこと。ミニットペーパーを毎時間行う。
√機能付電卓、定規、色ペン、メジャー、衣服（上衣・下衣）を用意する。持参回は掲示にて指示する。

■ 成績評価方法・基準

評価：①ミニットペーパー・課題取組状況等の受講態度に対し50%
②最終試験に対し50%
（最終試験は√付電卓（携帯利用は認めない）、テキスト、プリントとノート（自筆記入のもの）を持込可）
評価や課題内容は1回目の授業で説明する。ミニットペーパーと課題、試験は添削し後日フィードバッグする。

■ 教科書

〔新訂4版 繊維製品の基礎知識シリーズ　3冊セット〕〔日本衣料管理協会〕〔5100円〕　入学時購入済

■ 参考書

補足資料としてプリントを配布する。
参考となるURL　経産省ホームページ（https://www.meti.go.jp/）

■ 備考

質問などは、授業中・終了時に受け付ける。
受講者の授業中の課題進捗等の都合により、授業計画の順番を変更することがある。
2回を超えて欠席した者、指定期限内での課題が未提出の者等は、評価の対象としない。

アパレル消費科学

(11145)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (15 + 30)
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

アパレル消費科学では、衣生活の課題と対策、今後の衣生活のあり方について主に教授する。特に、衣生活を通して循環型社会の構築や持続可能な社会の構築を目指し、現在私たちが直面している衣生活の課題を把握し、これからの衣生活での生産と消費のあり方を考察できるようにする。衣生活の課題は、地球環境と被服整理、環境配慮型の繊維製品、製品エコロジーと消費、スマートテキスタイル、災害時の消費行動・防災等、多角的に取り上げて解説する。さらに各自が衣生活の課題を設定し解決や対策方法を立案するまでの手段についても教授する。一部グループワーク（以下GW、簡易実験、ディスカッション、プレゼン）を含む。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・アパレル消費科学に関する知識を身につける。				0.3	0.5		0.2		
・コミュニケーション能力、論理的思考力、倫理観、責任感を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに、消費と消費科学 循環型社会・持続可能な衣生活　GW（ディスカッション）	循環型社会・持続可能な衣生活、SDGsについて調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第２回　最終課題の提示 衣生活の課題と消費のあり方①　地球環境と被服整理	被服整理の課題を調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第３回　衣生活の課題と消費のあり方②　地球環境配慮型の繊維製品 衣生活の課題と消費のあり方③　製品エコロジーと消費	環境配慮型の繊維製品、5Rを調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第４回　衣生活の課題と消費のあり方③の続き　5R 衣生活の課題と消費のあり方④　スマートテキスタイル、デジタル製品パスポート等	リサイクル手段、スマートテキスタイルを調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第５回　衣生活の課題と消費のあり方⑤　災害時の消費行動・防災　GW（簡易実験、教室を移動して実施、使用教室は前週に連絡）	災害時の衣生活における課題を調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第６回　国内・国外の動向・サステナビリティ対応	アパレル企業で取り組み状況を調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第７回　衣生活の課題と消費のあり方⑥　その他の課題 衣生活の課題解決までのプロセス	最終課題の項目とプレゼン内容を検討する。 ミニットペーパーを振り返る。
第８回　衣生活における課題の解決策＝最終試験（プレゼンテーションとディスカッション） おわりに：授業の振り返りとまとめ	これまでの学習内容を振り返る。 衣生活の課題解決策を提案し検討する。 授業日前の指定日時までにプレゼン資料、最終試験後の指定時間までにディスカッションシートをアップロードする。

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をせず、課題は計画通りに進めて次時の授業に臨むこと。
授業時に情報収集のため各自所有のスマートフォンを使用する場合がある。（学内Wi-Fiの設定は各自授業前に済ませておくこと。）

■ 成績評価方法・基準

評価：①ミニットペーパー、課題の進行状況等の受講態度に対し50%、
②最終課題（プレゼンテーションとディスカッション）に対し50%
ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。ミニットペーパーや課題は後日添削して返却しフィードバッグする。

■ 教科書

〔繊維製品の基礎知識シリーズ〕〔日本衣料管理協会〕〔5100円〕　入学時購入済

■ 参考書

取り組む課題に応じて紹介する。

補足資料としてプリントを授業時に配布する。
参考となるURL
環境省ホームページ（https://www.env.go.jp/index.html）　経産省ホームページ（https://www.meti.go.jp/）

■ 備考
質問などは、授業中・終了時に受け付ける。
評価や提出物等は1回目の授業で説明する。
都合により、授業計画の順番、取り上げる衣生活の課題項目等を変更することがある。
2回を超えて欠席した者、指定期限内に課題が未提出の者等は、評価の対象としない。

消費者調査法

(11146)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

消費者調査法では，消費者の購買行動やファッション・トレンドなどの市場調査を実施し，その結果を正しく理解するための手法について学びます。

本講義では，消費生活協同組合や調査研究機関での研究員としての実務経験や『消費生活コンサルタント(宮城第46期)』としての経歴を活かし「地域の産業として，ファッション関連分野で働くヒト，消費（購入）するヒトの幸せな暮らしを実現していくための消費者調査」という視点から，基礎的な知識を教授し，Z世代をはじめ，消費者の行動変容を読み解くための統計分析力の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)消費者調査の手法を理解し，統計処理ができる			0.5	0.3			0.1		0.1
・2)消費者調査の結果を正しく理解・考察することができる									
・3)プライバシー保護の重要性を理解し，説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：消費者調査とは？ 概　要：授業のすすめ方・評価など	授業内容に応じた事前配布資料にもとづき，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第２回　テーマ：消費者調査の種類と方法Ⅰ 概　要：各種分類体系（利用目的・情報の種類・量と質）を学ぶ	同　上
第３回　テーマ：消費者調査の種類と方法Ⅱ 概　要：質問紙調査・観察法，動機調査を学ぶ	同　上
第４回　テーマ：質問票の作成Ⅰ 概　要：質問紙調査法の手順について学ぶ	各自課題に取り組む
第５回　テーマ：質問票の作成Ⅱ 概　要：質問票作成の手順と作成方法について学ぶ	同　上
第６回　テーマ：調査対象者の選び方Ⅰ 概　要：全数調査・標本調査，母集団と標本の違いを学ぶ	同　上
第７回　テーマ：調査対象者の選び方Ⅱ 概　要：標本抽出法を学ぶ	授業内容に応じた事前配布資料にもとづき，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第８回　テーマ：調査対象者の選び方Ⅲ 概　要：標本誤差と標本数を学ぶ	同　上
第９回　テーマ：集計と分析Ⅰ 概　要：調査データの集計を学ぶ	同　上
第10回　テーマ：集計と分析Ⅱ 概　要：集計結果の分析手法を学ぶ	同　上
第11回　テーマ：衣料の消費実態調査Ⅰ 概　要：調査概要を説明するときの基本を学ぶ	同　上
第12回　テーマ：衣料の消費実態調査Ⅱ 概　要：消費実態調査・トピックス調査の事例を学ぶ	同　上
第13回　テーマ：総合演習（質問紙調査法）Ⅰ 概　要：調査企画，調査票の作成を実践する	各自課題に取り組む
第14回　テーマ：総合演習（質問紙調査法）Ⅱ 概　要：調査の実施，データ集計・分析を実践する	同　上
第15回　テーマ：総合演習（質問紙調査法）Ⅲ 概　要：各自の調査結果を発表し，他者の発表を講評する	所定時間内に調査結果を簡潔に発表する。 また，他の発表者の調査結果について講評する。

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。

■ 成績評価方法・基準
平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，課題については，授業中にフィードバックをします。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔2200円〕

■ 参考書
授業中に適宜指示する。

■ 備考
【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】
「マーケティング論」
【質問・相談など】
授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することが ありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

ファッション販売論

(11147)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
内　海　陽　子

■ 授業の概要
本講義では、アパレルを中心としたファッションビジネスに必要な基礎的な販売知識を教示する。前期に学んだ「ファッションビジネス論」を基盤とし、商品の仕入れから販売に至る一連の流れを理解することで、ファッション小売業の現状と課題を読み解く力を養う。さらに、業界動向を踏まえ、今後の展望について考察する。本講義は、大手アパレル企業にて16年間、年間30億円以上の商品バイイングやマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在はファッションプロデューサーとして多岐に渡り活動する講師が担当する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・商品の仕入れから販売までの基礎知識を身につける。			0.2		0.4		0.2		0.2
・ファッション小売業の現状と課題を読み取り、今後の展望について考察する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ファッション小売業の役割と歴史 プレゼンテーション	講義内容を復習する
第２回　ファッション小売業の構造①（百貨店と量販店）	指定された店舗に行き観察する
第３回　ファッション小売業の構造②（ショッピングセンター）	指定された店舗に行き観察する
第４回　ファッション小売業の構造③（SPA，セレクトショップ）	指定された店舗に行き観察する
第５回　ファッション小売業の構造④（無店舗販売）	講義内容を復習する
第６回　ファッション小売業の職種	講義内容を復習する
第７回　ファッション小売業の経営戦略①（事業計画と出店戦略）	講義内容を復習する
第８回　ファッション小売業の経営戦略②（マーケティング）	講義内容を復習する
第９回　ファッション小売業の販売①（販売の基礎）	指定された店舗に行き観察する
第10回　ファッション小売業の販売②（販売の技術）	指定された店舗に行き観察する
第11回　ファッション小売業の売り場演出①（VMDの基礎）	指定された店舗に行き観察する
第12回　ファッション小売業の売り場演出②（VMDの基礎）	指定された店舗に行き観察する
第13回　ファッション小売業の売り場演出③（VMDの応用）	指定された店舗に行き観察する
第14回　ファッション小売業の仕入れと計数	講義内容を復習する
第15回　ファッション小売業の商品開発とプロモーション戦略 プレゼンテーション	講義内容を復習する

■ 履修上の注意
ファッションは日々変化を続けている。本講義では、実生活および将来の実務において即座に活用可能な内容を扱う。ファッションへの理解と意識を高め、感性を継続的に磨くことに留意する。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書
〔ファッション販売3　ファッション販売能力検定試験3級公式テキスト〕〔日本ファッション教育振興協会〕〔2，310円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了後受け付ける。

コーディネート論

(11148)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
内　海　陽　子

■ 授業の概要
本講義では、ファッションビジネスで活躍するために必要なコーディネートに関する基礎知識と技術を教示する。ファッションコーディネートを色・素材・形・分量など組み合わせに伴い調整しグループワークを通じて実践する。また目的やターゲットに応じたコーディネートプランの作成を行う。本講義は、大手アパレル企業で16年間、年間30億円以上の商品バイイングやマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在はファッションプロデューサーとして多岐にわたり活動する講師が担当する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ファッションコーディネートの基礎知識を学ぶ			0.2				0.6		0.2
・ファッションコーディネートの基礎的な技術を学び、実際にコーディネートプランを作成する									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ファッションコーディネートとは	講義内容を復習する
第２回　ファッションコーディネート　スペシャリストの特性	講義内容を復習する
第３回　ファッションと流行 プレゼンテーション	トレンドについてリサーチする
第４回　ファッショントレンドサイクル	トレンドについてリサーチする
第５回　ファッション情報①　ファッション情報の種類	講義内容を復習する
第６回　ファッション情報②　時系列フロー	講義内容を復習する
第７回　ファッション情報③　発信機関　イベント	講義内容を復習する
第８回　ファッション情報④　20世紀のファッション史	講義内容を復習する
第９回　コーディネートの基本的な知識と技術	講義内容を復習する
第10回　イメージに視点を置いたコーディネート グループ・ワーク	講義内容を復習する
第11回　素材に視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第12回　ライフスタイルに視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第13回　色彩に視点を置いたコーディネート グループ・ワーク	講義内容を復習する
第14回　アクセサリー・体型カバーに視点を置いたコーディネート グループ・ワーク	講義内容を復習する
第15回　ファッションコーディネートのまとめ プレゼンテーション	講義内容を復習する

■ 履修上の注意
ファッションは日々変化を続けている。本講義では、実生活および将来の実務において即座に活用可能な内容を扱う。ファッションへの理解と意識を高め、感性を継続的に磨くことに留意する。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書
〔コーディネートテクニック　演出篇〕〔文化服装学院編〕〔学校法人文化学園文化出版局〕〔2，805円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了後受け付ける。

ファッションビジネス実務実習

(11149)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (15 + 30)
対象学科：服専１年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

ファッションビジネスは，私たちの暮らしや社会と深く関わりながら存在する。今後，この業界で働くためには，現場（仕事）で必要な能力を理解していくことが求められる。

本授業では，消費生活協同組合や調査研究機関の研究員としての実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし，①事前指導・②5日間程度の学外研修（講義＋職場見学，就業体験）・③事後指導を通じて，職場や地域社会で多様な人々と働くために必要な基礎的な力（社会人基礎力）」のなかでも，1)前に踏み出す力，2)考え抜く力，3)チームで働く力という3つの実践力を身につけさせる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)前に踏み出す力を理解，実践できる			0.25		0.5		0.125		0.125
・2)考え抜く力の必要性を認識，実践できる									
・3)チームで働くことの重要性を認識，実践できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：インターンシップとは？ 概　要：実習の概要・評価などの説明	事前に，業界や研修先事業所の情報を収集しておく。 なお，研修後には，講義や事業所見学の内容について，A4用紙2枚（1，600字）程度のレポートにまとめ，提出。
第２回　テーマ：事業所研修Ⅰ 概　要：講義を通じて「ファッションビジネスの実際」を学ぶ	同　上
第３回　テーマ：事業所研修Ⅱ 概　要：オンラインでの職場見学を通じて「現場のナマの声」を学ぶ	同　上
第４回　テーマ：履歴書作成Ⅰ 概　要：作成上の留意点を学ぶ	自己分析や企業研究を踏まえ，履歴書に必要事項を記入し，提出。
第５回　テーマ：履歴書作成Ⅱ 概　要：自己分析，企業研究（情報収集分析・店舗調査）を学ぶ	同　上
第６回　テーマ：事前指導 概　要：実習ノートの書き方・心構え・マナーを学ぶ	講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第７回　テーマ：就業体験Ⅰ 概　要：3つの実践力を学ぶ	就業体験を通じて「学んだこと・気づいたこと」について実習ノートに毎日記入して，事業所(担当者の方)に提出。
第８回　テーマ：就業体験Ⅱ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第９回　テーマ：就業体験Ⅲ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第10回　テーマ：就業体験Ⅳ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第11回　テーマ：就業体験Ⅴ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第12回　テーマ：就業体験Ⅵ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第13回　テーマ：就業体験Ⅶ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第14回　テーマ：就業体験の振り返り・礼状作成 概　要：実践の振り返りと課題の整理	受入先企業への礼状および報告会の発表用資料を作成し，提出。
第15回　テーマ：まとめ 概　要：報告会の実施	発表を通じて，全体の振り返りを行う。

■ 履修上の注意

原則的に全出席（ただし，課題の未提出，実習中の態度不良や遅刻・欠席した場合，単位を取得できない）
なお，事業所までの移動手段は，公共交通機関を利用し，交通費をはじめ諸経費は自己負担となります。

■ 成績評価方法・基準
事業所研修・課題(50%) + 就業体験・実習ノート(50%)にもとづき評価します。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔2200円〕

■ 参考書
必要に応じて紹介します。

■ 備考
【集中講義】
開講日時は，掲示にて指示します。課題や実習ノートは，授業中あるいは後日添削し，返却します。
【質問・相談など】
授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
インターンシップは，授業の一環として実施され，労働の対価として，給料や交通費などは支給されません。
したがって，事業所までの交通費をはじめ，実習に必要な諸費用は全て自己負担となりますことをご承知おき下さい。
なお，インターンシップの実施時期や授業の順番や内容，日程変更もありますので，Google_Classroomを定期的に確認して下さい。 また，各自で探したインターンシップ先での就業体験も可能です。

マーケティング論

(11150)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

マーケティング論では，社会・経済の変化，消費者の購買行動やファッション・トレンドなどの調査・分析を通じて，それらをビジネスに活かすための考え方や手法などについて学びます。

本講義では，消費生活協同組合や調査研究機関での研究員としての実務経験や『消費生活コンサルタント(宮城第46期)』としての経歴を活かし「顧客との関係において価値を創造するとともに〈コミュニケーションにより〉価値を伝え，価値を届ける」という観点から，アパレル・ビジネス分野のマーケティング活動に求められる基礎的な知識の教授し，ポスト・コロナ時代にふさわしいビジネス感覚の修得をめざします。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)マーケティングの仕組みを理解し，説明できる			0.5		0.3		0.2		
・2)新たな時代の価値創造の担い手としての役割を理解できる									
・3)今後のアパレル・ビジネスのあるべき姿を説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：マーケティングとは？ 概　要：授業のすすめ方・評価など	授業内容に応じた事前配布資料にもとづき，予習すること。 また，講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り(復習)を行うこと。
第２回　テーマ：アパレル・ビジネスの仕組み 概　要：アパレル・ビジネスの特徴（業種・業態）を学ぶ	同　上
第３回　テーマ：アパレルとマーケティング 概　要：マーケティングの歴史的変遷を学ぶ	同　上
第４回　テーマ：マーケティング戦略 概　要：なぜ，市場創造から顧客価値の重視に転換した理由は？	同　上
第５回　テーマ：市場変化とその予測 概　要：日本のアパレル・ビジネスの盛衰に学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの出店戦略についてA4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第６回　テーマ：小売店出店戦略 概　要：他店舗戦略と限定出店戦略の違いを学ぶ	同　上
第７回　テーマ：価値の創造 概　要：対象顧客の重要性について学ぶ	インターネットを利用し，今年の秋・冬ファッション・トレンドについて調べ，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第８回　テーマ：商品企画 概　要：新商品の企画について，その必要性を学ぶ	同　上
第９回　テーマ：店舗の品揃え 概　要：商品構成とコーディネートの汎用性を学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの実店舗の品揃え・プライスゾーンを調べ，これらの取り組みに対する所感についてA4用紙2枚（1，600字）のレポートを作成し，提出。
第10回　テーマ：顧客満足と品揃え 概　要：プライスゾーンとプライスラインを学ぶ	同　上
第11回　テーマ：情報収集・分析と品揃え 概　要：情報収集・分析に基づく品揃えの重要性について学ぶ	同　上
第12回　テーマ：価値のコミュニケーション 概　要：企業のコミュニケーションについて学ぶ	「新たな時代の価値創造の担い手」の視点から，これまでの授業のなかで，最も印象に残ったことについて要約し，自らの考察を加えた上で，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめて提出。
第13回　テーマ：価値のデリバリー 概　要：イメージ価値の創造と伝達とは?	同　上
第14回　テーマ：ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）戦略 概　要：売り場づくりの工夫について学ぶ	同　上

第15回　テーマ：まとめ　　同　上
　　概　要：顧客満足とクレーム対応

■ 履修上の注意
2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準
平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，課題については，授業中にフィードバックをします。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔2200円〕

■ 参考書
授業中に適宜指示します。

■ 備考
【質問・相談など】
授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

起業・会社経営論 (11151)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

起業・会社経営論では，地域再生をはじめとする社会的課題を解決する手段のひとつとして，ソーシャルビジネスの考え方や手法について学びます。

本講義では、消費生活協同組合や調査研究機関での研究員としての実務経験や『消費生活コンサルタント(第46期)』の経歴を活かし「より良い社会づくりのためのマネジメント」という視点から、様々な事例研究を通じて起業や会社経営に必要な基礎知識を教授し，ポスト･コロナ時代の時代感覚や経営センスを身につけることをめざしています。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・会社経営の仕組みを理解し，説明できる			0.5		0.3		0.2		
・新たな時代の価値創造の担い手としての起業を理解できる									
・今後の起業や会社経営のあるべき姿を説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　社会的起業とは？ 概　要：授業のすすめ方・評価などの説明	授業内容に応じた事前配布資料にもとづき，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第２回　テーマ：ソーシャルビジネスとは？ 概　要：ソーシャルビジネスの活動領域や歴史・社会的背景を学ぶ	同上
第３回　テーマ：ソーシャルビジネスの担い手Ⅰ 概　要：NPOの概要や意義について学ぶ	同上
第４回　テーマ：ソーシャルビジネスの担い手Ⅱ 概　要：NPOの歴史や特徴について学ぶ	同上
第５回　テーマ：ソーシャルビジネスの担い手Ⅲ 概　要：社会的企業や社会起業家について学ぶ	同上
第６回　ソーシャルビジネスのマネジメントⅠ 概　要：仕事の達成感(やりがい)重視の人的資源について学ぶ	自分自身にとって，身近な社会的課題を１つ選び，それを解決するためのNPO活動やソーシャルビジネスを構想し， A4用紙2枚（1，600字以内）のレポートにまとめて提出。
第７回　テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅡ 概　要：財源（資金のやりくり）について学ぶ	同上
第８回　テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅢ 概　要：資金調達（クラウドファンディング）について学ぶ	同上
第９回　テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅣ 概　要：NPO・企業・行政・大学との協働について学ぶ	同上
第10回　ソーシャルビジネスのマネジメントⅤ 概　要：プライスゾーンとプライスラインを学ぶ	同上
第11回　ソーシャルビジネスを支える社会の仕組み 概　要：特定非営利活動促進法(NPO法)や諸制度について学ぶ	同上
第12回　ソーシャルビジネスを創るⅠ 概　要：環境分野での先進事例ついて学ぶ	「これからの時代の地域創造の担い手」という視点から，この授業で，最も印象に残ったことについて要約し，自らの考察を加えた上で，A4用紙2枚（1，600字以内）のレポートにまとめて提出。
第13回　テーマ：ソーシャルビジネスを創るⅡ 概　要：医療・福祉分野での先進事例について学ぶ	同上
第14回　テーマ：ソーシャルビジネスを創るⅢ 概　要：地域再生分野での先進事例について学ぶ	同上
第15回　テーマ：まとめ 概　要：ソーシャルビジネスのあるべき姿	同上

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価します。

なお，課題については，授業中にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門〕〔駒崎弘樹著〕〔PHP出版〕〔902円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

【質問・相談など】

授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

店舗運営論

(11152)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

店舗運営論では，ファッション関連産業・小売業の現状と問題点などを踏まえ，ポスト・コロナ時代のアパレル小売業（実店舗・オンライン店舗）の運営について学びます。

本講義では，消費生活協同組合や調査研究機関の研究心としての実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』の経歴を活かして「東北（地元）に根差したお店が拠点となり，地域の人々にファッションの魅力を知ってもらい，消費してもらう」という視点から，ファッション関連小売業の基礎的な知識の教授を通じて，新たな時代のビジネス（時代）感覚の修得をめざしています。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)ファッション関連小売業の仕組みを理解し，説明できる			0.5		0.3		0.1		0.1
・2)新たな時代のファッション価値創造の担い手としての役割を理解できる									
・3)今後のファッション関連小売業のあるべき姿を説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：ファッション関連小売業（店舗運営）とは？ 概　要：授業のすすめ方・評価など	授業計画やテキストなどを参考にして，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第２回　テーマ：ファッション関連産業・小売業の仕組み 概　要：アパレル業界全体の特徴（業種・業態）を学ぶ	同　上
第３回　テーマ：ファッション関連小売業のマネジメントⅠ 概　要：業態別の組織体制を学ぶ	同　上
第４回　テーマ：ファッション関連小売業のマネジメントⅡ 概　要：実店舗の職務体系を学ぶ	同　上
第５回　テーマ：ファッション関連小売業のマネジメントⅢ 概　要：オンライン店舗の職務体系を学ぶ	同　上
第６回　テーマ：店舗運営の仕組みⅠ 概　要：業態別に異なるマーケティング戦略を学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの小売店について，お店の商品構成や特徴など，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第７回　テーマ：店舗運営の仕組みⅡ 概　要：ラグジュアリーブランドのショップコンセプトを学ぶ	インターネットを利用し，最新のファッション・トレンドと店づくりについて調べ，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第８回　テーマ：店舗運営の仕組みⅢ 概　要：SPAブランドとショップコンセプトを学ぶ	同　上
第９回　テーマ：店舗運営の仕組みⅣ 概　要：対象顧客層と専門店における販売を学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの実店舗の立地や客層を調べ，その所感について，A4用紙2枚（1，600字）のレポートを作成し，提出。
第10回　テーマ：店舗運営の仕組みⅤ 概　要：対象顧客層と量販店における販売を学ぶ	同　上
第11回　テーマ：店舗運営の仕組みⅥ 概　要：対象顧客層とオンライン店舗の販売を学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドのオンライン店舗について，実店舗との比較から，その違いを調べ，A4用紙2枚（1，600字）のレポートを作成し，提出。
第12回　テーマ：店舗運営の仕組みⅦ 概　要：循環型経済におけるファッションの二次流通を学ぶ	自分が最も興味・関心のある古着店を調べ，その特徴を調べ，A4用紙2枚（1，600字）のレポートを作成し，提出。
第13回　テーマ：店舗運営の仕組みⅧ 概　要：店舗における販売スタッフとバイヤーの役割を学ぶ	アパレル小売業の求人・採用情報について調べ，求められる人材の特徴について，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第14回　テーマ：AI時代の新たな小売戦略Ⅰ	「AI時代のアパレル小売業」という視点から，こ

概　要：売り場づくりの工夫について学ぶ	れまでの授業のなかで，最も印象に残ったことについて要約し，自らの考察を加えた上で，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめて提出。
第15回　テーマ：AI時代の新たな小売戦略Ⅱ 概　要：ファッション関連小売業の課題と展望	同　上

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価します。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

なお，課題については，授業中にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔2200円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】

「マーケティング論」

【質問・相談など】

授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

情報処理Ⅰ

(11153)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

近年，情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）の進展にともなって，ファッション・ビジネスに求められる知識や技能は大きく変わりつつある。とりわけ，SNS(Social Networking Service)で発信力のある個人(influencer)のファッション情報は，消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略で最も注目されている。

本授業では，消費生活協同組合や調査研究機関の研究員や情報システム担当者としての実務経験を活かし，Microsoftの各種サービスの活用を通じてビジネス文書作成や統計処理・プログラミング言語(VBA)を教授することにより，最先端のファッション・ビジネスに欠かせない情報リテラシーの修得をめざしています。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)ソフトウェアを利・活用し，文章表現や統計計算ができる				0.5	0.25	0.25			
・2)情報倫理に配慮し，情報の収集・加工・表現・発信ができる									
・3)ICTの仕組みと原理を理解し，説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：情報倫理とは？ 概　要：授業のすすめ方・評価の説明，情報倫理について学ぶ	授業内容に応じた事前配布資料にもとづき，情報倫理について予習しておくこと。
第２回　テーマ：日本語文書処理Ⅰ 概　要：Wordの便利な機能（同期・編集・共有）を学ぶ	同　上
第３回　テーマ：日本語文書処理Ⅱ 概　要：Word応用①（各種デバイスとの連携）を学ぶ	授業内容に応じた事前配布資料を参考にしてWordの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや動画，講義ノートを読み直し，諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
第４回　テーマ：日本語文書処理Ⅲ 概　要：Word応用②（画像・グラフ挿入）を学ぶ	同　上
第５回　テーマ：日本語文書処理Ⅳ 概　要：Word応用③（描画機能）を学ぶ	同　上
第６回　テーマ：日本語文書処理Ⅴ 概　要：これまでの授業の振り返り（課題作成）	同　上
第７回　テーマ：表計算Ⅰ 概　要：Excelの便利な機能（同期・編集・共有）を学ぶ	授業内容に応じた事前配布資料を参考にしてOfficeの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや動画，講義ノートを読み直し，諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
第８回　テーマ：表計算Ⅱ 概　要：Excel応用①（表・グラフの加工）を学ぶ	同　上
第９回　テーマ：表計算Ⅲ 概　要：Excel応用②（データベース機能）を学ぶ	同　上
第10回　テーマ：表計算Ⅳ 概　要：Excel応用③（関数）を学ぶ	同　上
第11回　テーマ：表計算Ⅴ 概　要：これまでの授業の振り返り（課題作成）	同　上
第12回　テーマ：プログラミング基礎① 概　要：VBAの基本(マクロの作り方と実行)を学ぶ	授業内容に応じた事前配布資料を参考にして，VBAの各種機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，VBAの機能について，各自で振り返り（復習）を行うこと。
第13回　テーマ：プログラミング基礎② 概　要：VBAの基本(基本ルールとセルの指定法)を学ぶ	同　上
第14回　テーマ：プログラミング基礎③ 概　要：VBAの基本(変数の使い方とルール)を学ぶ	同　上
第15回　テーマ：プログラム基礎(まとめ) 概　要：VBAマクロ作成に取り組む	同　上

■ 履修上の注意
2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。
この授業は，Windows11のOS搭載のパソコンを用い，Microsoft Officeの各種アプリケーションソフトの活用法を学びます。
履修にあたり，Windows11のOS搭載ノートパソコンを各自持参して下さい。

■ 成績評価方法・基準
平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題発表(35%)にもとづき評価します。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，課題については，授業中にフィードバックをします。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
授業中に適宜指示します。

■ 参考書
授業中に適宜指示します。

■ 備考
【質問・相談など】
授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

情報処理Ⅱ (11154)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (15 + 30)
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要
本授業では，消費生活協同組合での実務経験や情報システム担当者としての実務経験を活かし「ビジュアル・マーチャンダイジング（Visual Merchandising）戦略に不可欠な企画・演出などのための資料作成」の視点から，グラフィック設定や操作方法などを教授し，ファッション関連の出版・広告，売場づくりや商品ディスプレイの効果的なレイアウトや配色など，各種ソフトツールを使いこなすことにより，学問の場だけではなく，実際の職場での業務においても必要なスキルの習得をめざしています。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)ソフトウェアを利活用し，グラフィック画像を制作できる				0.5	0.25	0.25			
・2)情報倫理に配慮し，情報の収集・加工・表現・発信ができる									
・3)視覚伝達の基本を理解し，説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：情報を分かりやすく伝えるとは？ 概　要：授業のすすめ方・評価，視覚伝達の基本）	授業内容に応じた事前配布資料にもとづき，視覚伝達の基本について予習しておくこと。
第２回　テーマ：ベクトル系ソフトⅠ 概　要：illustratorの基本①（図形や線を描く方法）を学ぶ	授業内容に応じた事前配布資料を参考にして，illustratorの操作や設定，諸機能などについて確認（予習）すること。また，テキストや講義ノートを読み直し，illustratorの諸機能の振り返り(復習)を行うこと。
第３回　テーマ：ベクトル系ソフトⅡ 概　要：illustratorの基本②（オブジェクト選択と変形）を学ぶ	同　上
第４回　テーマ：ベクトル系ソフトⅢ 概　要：illustratorの基本③（色と透明度の設定）を学ぶ	同　上
第５回　テーマ：ベクトル系ソフトⅣ 概　要：illustratorの基本④（オブジェクトの編集と合成）を学ぶ	同　上
第６回　テーマ：ベクトル系ソフトⅤ 概　要：illustratorの基本⑤（線と文字の設定）を学ぶ	同　上
第７回　テーマ：ベクトル系ソフトⅥ 概　要：illustratorの振り返り（課題作成）	提出期限内に課題を完成させること。
第８回　テーマ：ラスター系ソフトⅠ 概　要：Photoshopの基本①（レイヤー操作と色調補正）を学ぶ	授業内容に応じた事前配布資料を参考にして，Photoshopの操作や設定，諸機能について確認(予習)すること。また，テキストや講義ノートを読み直し，Photoshopの諸機能の振り返り(復習)を行うこと。
第９回　テーマ：ラスター系ソフトⅡ 概　要：Photoshopの基本②（選択範囲と色の設定）を学ぶ	同　上
第10回　テーマ：ラスター系ソフトⅢ 概　要：Photoshopの基本③（レイヤーマスクを使う）を学ぶ	同　上
第11回　テーマ：ラスター系ソフトⅣ 概　要：Photoshopの基本④（文字・パス・シェイプ）を学ぶ	同　上
第12回　テーマ：ラスター系ソフトⅤ 概　要：Photoshopの基本⑤（画像の修正・加工）を学ぶ	同　上
第13回　テーマ：ラスター系ソフトⅥ 概　要：Photoshopの基本⑥（フィルターとレイヤースタイル）を学ぶ	同　上
第14回　テーマ：ラスター系ソフトⅦ 概　要：Photoshopの振り返り（課題作成）	提出期限内に課題を完成させること。
第15回　テーマ：まとめ	授業で分からなかったことを確認する

概　要：授業全体の振り返り

■ 履修上の注意
2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。
この授業は，テキスタイルデザイン演習室の実習機ならびに学生一人ひとりのWindows11のOS搭載のパソコンを用いて，各種アプリケーションソフトの活用法について学びます。
履修にあたり，Windows11のOS搭載ノートパソコンを各自持参して下さい。

■ 成績評価方法・基準
平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題作品(35%)にもとづき評価します。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，課題については，授業中にフィードバックをします。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔これからはじめる Illustrator&Photoshopの本〕〔黒野明子〕〔技術評論社〕〔2280円〕

■ 参考書
授業中に適宜指示します。

■ 備考
【質問・相談など】
授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

食品学総論

(11155)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
食品はヒトの生活にとって必須のものであり、食品について正しい情報を持つことは食品を利用するうえで重要である。そこで、化学などの知識を基礎として、食品を構成する各成分（タンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルなど）の化学的特性と食品における役割、栄養と健康とのかかわりついて講義する。また、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのか解説する。食品学を学ぶことで関連する他分野への興味関心も高められる重要性を詳説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食品を構成する各種成分について理解する	0.6	0.2				0.2			
・食品の各成分の栄養特性と物理特性についての知識を習得する									
・美味しく栄養バランスのとれた食事について科学的に考える力を身に付ける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境	事前：教科書にて授業計画内容に記された内容を概覧しておく。（以下の回も同様）
第２回　水分　水の構造と性質、食品中での役割、食品成分表について	事後：教科書、ノートを見直して講義内容を理解し、理解が不十分な点については教員に質問するなどして問題点を解決する。（以下の回も同様）
第３回　タンパク質　タンパク質の構造と構成アミノ酸	1回目、2回目の内容と同様。主にタンパク質について
第４回　タンパク質　タンパク質の性質と栄養価	1回目、2回目の内容と同様。主にタンパク質について
第５回　炭水化物 糖の構造と種類	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第６回　炭水化物　糖の性質、糖の反応と炭水化物としての糖	1回目、2回目の内容と同様。主に炭水化物について
第７回　脂質　脂肪酸の構造と性質	1回目、2回目の内容と同様。主に脂質について
第８回　脂質　油脂の酸化、油脂の栄養	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第９回　ミネラル	1回目、2回目の内容と同様。主にミネラルについて
第10回　脂溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様。主にビタミンについて
第11回　水溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様。主にビタミンについて
第12回　食品の呈味成分、色素、香気成分	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第13回　食品の官能評価	1回目、2回目の内容と同様。主に食品の呈味成分、色素、香気成分について
第14回　食品の機能性成分、食品の物性と美味しさ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様。1回目～14回目の授業内容について
第15回　これまでのまとめ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様。1回目～15回目の授業内容について
第16回　試験	試験に向けて学修する

■ 履修上の注意
遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、ノートを作製する。予習で生じた疑問点について解決できるようにする。テキストは購入してください。詳細は初回に説明します。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（ミニットペーパーの内容・提出など）、小テストの成績等（20%）、試験（80%）の割合で評価する。
小テスト、試験については解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔食品学総論〕〔著者名：森田潤司、成田宏史　編〕〔化学同人〕〔価格：2800円+税〕

■ 参考書
講義時に指示する

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。

食品学各論

(11156)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
食品材料である植物性食品、動物性食品その他食品について、食品材料の生産上および生物学上の特徴による分類、食材に含まれる成分および旬による成分変化等についての基礎知識を学修する。さらに、図鑑活用による食品の詳細な分類また、写真等の資料は、実物投影機やパワーポイントを用いることにより、食品の外観および内部構造の特徴を視覚的に理解しやすいようにする。食品に対する選択能力を高めるとともに、食生活と健康との関連を習得できるようにする。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1.食品材料の特徴を知る	0.2	0.2	0.4			0.2			
・2.食品材料の分類ができる									
・3.食品の選択能力を身につける									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　食品の分類・スローフードについて	授業の進め方、ノートのまとめ方を知る
第２回　植物性食品の特徴	説明をよく聞き授業に臨む
第３回　穀類：コメ、コムギの特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第４回　穀類：トウモロコシ、ソバの特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第５回　イモ類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第６回　マメ類：乾燥豆および野菜としての種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第７回　野菜類：葉菜類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第８回　野菜類：茎菜類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第９回　野菜類：根菜類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第10回　野菜類：果菜類・花菜類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第11回　果実類：種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第12回　動物性食品の特徴	教科書をよく読み授業に臨む
第13回　魚介類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第14回　畜肉類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第15回　その他の食品について	説明を理解して分類・特徴を把握する
第16回　試験	

■ 履修上の注意
出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で１回の欠席とする。
ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後返却して加点対象とする。
資料は、授業前に配布する。

■ 成績評価方法・基準
期末試験70%、受講態度(質問等授業の理解に向けた姿勢など)・提出物30%
提出物への評価は次回授業時に行う。
試験問題は、教科書およびノートからの出題となる。解答は掲示にて行う。

■ 教科書
なし

■ 参考書
なし

■ 備考
配布プリントは、ノートに貼り付けるか転載しておくこと。
都合（出張等）により授業計画が変更されることがある。
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

基礎栄養学

(11157)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要

ヒトをはじめ生物が外界の物質を体内に取り入れ、それをエネルギー源や体構成の材料として利用する「栄養」という現象は生命維持に不可欠である。ヒトの食欲を調節するしくみ、摂取した食物の消化と栄養素の吸収に携わる消化器官系の各臓器の構造と機能、消化（食品成分の分解反応）・吸収の機構、また、栄養素の種類と各栄養素の化学構造・性質、体内での代謝・機能と欠乏症・過剰症、および栄養素同士の関わりについて説明する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる	0.1　0.3　0.6
・消化・吸収における各消化器官の役割を説明できる	
・各栄養素の代謝とその生理的意義を説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　栄養とは、遺伝形質と栄養	教科書の「1章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　食欲の調節、食事のタイミング	教科書の「2章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　消化器の構造	教科書の「3章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　消化器の機能	教科書の「3章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　消化吸収率、たんぱく質の消化吸収	教科書の「3章」および「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　たんぱく質・アミノ酸の体内代謝	教科書の「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　たんぱく質の量と質の評価	教科書の「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　［中間試験］、糖質の消化吸収、糖質代謝の概要	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、食後・食間の糖質代謝	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　血糖の調節、エネルギー源としての作用	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　脂質の消化吸収、脂質代謝の概要	教科書の「6章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　脂質のエネルギー代謝、コレステロール代謝	教科書の「6章」該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第13回　脂質の量と質の評価	教科書の「6章」該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　ビタミンの分類・構造と機能	教科書の「7章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　［期末試験］、ミネラルの種類と体内分布	教科書の「8章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、ミネラルの機能	教科書の「8章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意
他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書
基礎栄養学、駒井三千夫　他、アイ・ケイコーポレーション、2，400円＋税

■ 参考書
なし

■ 備考
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

食文化論

(11160)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（16 + 30）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
深　澤　律　子

■ 授業の概要

2013年12月、ユネスコ無形文化遺産に「和食；日本人の伝統的な食文化―正月を例として―」が登録された。提案書では、和食文化の実践者はすべての日本人であるとされ、日本の食文化を学び、実践する意義は大きい。本講義では、日本の自然環境と社会環境の中で形作られてきた食文化について、古代から現代までどのように変遷して来たのかを解説する。また各時代の食文化の特徴と中国、南蛮（オランダやポルトガル及びスペイン）、欧米などの異文化と関わり日本独自の食文化を発展させてきたかを説明する。さらに年中行事や郷土料理について、食文化の伝承のために家庭・保育所や学校等における食育の大切さを説明する。給食の現場で献立を作成した経験を活かしてこの講義を教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・①食べ物と人との関わりを歴史的変遷、食の嗜好性、食文化の観点から説明できる。	0.2	0.2		0.2		0.2			0.2
・②現在の食生活と健康の問題点を提起し、解決方法を見出し考察できる。									
・③日本の食文化を理解し、年中行事と行事食、郷土料理、食事の作法の基礎知識を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス「和食」：日本人の伝統的な食文化	p1～p9を読んでおくこと/和食文化の特徴について レポート提出
第２回　食文化の定義、食に関する思想	p11～p19を読んでおくこと/食文化の定義について 提出
第３回　世界の食文化形成 ①世界の食文化類型とその特徴	p21～p25を読んでおくこと/世界の食文化類型の特徴についてレポート提出
第４回　世界の食文化形成 ②粉食文化と粒食文化	p26～p28を読んでおくこと/粉食と粒食文化の特徴についてレポート提出
第５回　日本の食文化形成と展開米（稲作の伝播と調理）	p32～p39を読んでおくこと/日本食文化の特徴のレポート提出
第６回　異文化接触と受容（古代～近世、南蛮文化、欧米文化）	p42～p49をよんでおくこと/多国籍の食の特徴のレポート提出
第７回　主食の文化①木の実といも類、米	p51～p55を読んでおくこと/興味のある木の実、または芋類のレポート提出
第８回　主食の文化②大麦と小麦、雑穀、豆類	p56～p59を読んでおくこと/興味のある雑穀、または豆類のレポート提出
第９回　副食の文化（魚介類）（豆類・大豆）（肉、乳、卵）	p61～p67を読んでおくこと/興味のある魚介類のレポート提出
第10回　副食の文化（野菜、山菜、野草、果物、きのこ、海藻） 調味料（塩と砂糖）発酵調味料（酒と酢）（みそと醤油）	P68～p75を読んでおくこと/自分の地域の山菜、きのこ、または海藻のレポート提出
第11回　行事と地域の食文化　課題「正月料理、五節句と食事」の説明 油脂、だし、香辛料、菓子（和菓子、洋菓子）、茶、酒	p141～145、p76～p89を読んでおくこと/ 地域の発酵調味料についてレポート提出
第12回　日本料理の形成と発展①日本料理の系譜と本膳料理 和食のマナー	p91～p99を読んでおくこと/箸使いのマナーのレポート提出
第13回　日本料理の形成と発展②懐石料理、会席料理、精進料理	p101～p109を読んでおくこと/それぞれの料理の違いをレポート提出
第14回　台所、食器、食卓の文化、日常の食　洋食のマナー	p111～p123を読んでおくこと/健康な日常の食事のレポート提出
第15回　家庭、地域、学校、社会における食育、 まとめ	p152～p159を読んでおくこと/課題の提出
第16回　筆記試験	

■ 履修上の注意

1.事前に講義予定の教科書内容を熟読して受講してください。
2.教科書及び資料で提示された専門用語のうち、わからないものについては調べておいてください。
3.第15回目提出の課題については提出期限を守ってください。

■ 成績評価方法・基準
筆記試験50%、毎時間のレポート提出40%、課題5%、受講態度5%（感想・レポート内容・熱心さ等）
レポート・課題は後日確認して返却します。筆記試験は問題と解答例をフィードバックします。

■ 教科書
〔新版　日本の食文化「和食」の継承と食育〕〔江原絢子・石川尚子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2，500円+税別〕

■ 参考書
〔日本の食文化史〕〔石毛直道〕〔岩波書店〕〔3，200円+税別〕
講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示します。

■ 備考
都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。

食生活論

(11161)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
島　本　和　恵

■ 授業の概要
行政機関における様々な地域住民への食支援をふまえ、『豊かな食生活』をキーワードに、食生活を多角的にとらえていく。食と環境、食文化、食と健康などについて、エビデンスや社会における現状を踏まえて理解を深めてゆく。併せて、食事はただ空腹を満たすためのものではなく、コミュニケーションの場であり、食文化の継承の場でもある。次世代に豊かな食生活を継承してゆくために今何をすべきか、また、グローバルな社会の中で私たちが果たす役割は何か、今できることを考えていく。そして、和食に込められた日本の食文化もふまえ、現代の生活の中ではどう食事に向き合うか、考え行動できる力を身につける。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食生活と健康の関連について理解できる。	0.2	0.4		0.2		0.2			
・自身の食生活を見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身につける									
・食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション 食生活論の概念と食事の機能	事前学習は特になし。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第２回　食生活と健康１ 健康維持に必要な栄養素	事前学習は、栄養素について調べてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第３回　食生活と健康２ 健康維持に必要な食品	事前学習は、栄養素と食品について調べてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第４回　食生活と健康３ 「日本人の食事摂取基準」「食生活指針」「食事バランスガイド」について	事前学習は、「日本人の食事摂取基準」「食生活指針」「食事バランスガイド」を読んでくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第５回　食生活と健康４ 自身の食事内容を振り返る	事前学習は、自分の食事内容を記録してくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第６回　食文化１ 日本の食文化と食の多様性	事前学習は、食の多様性について調べてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第７回　食文化２ 海外の食文化について考える①	事前学習は、海外の食文化について調べてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第８回　食文化３ 海外の食文化について考える②グループワーク	事前学習は、前回の食文化に関する知識を振文献などで深めてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第９回　食文化４ 海外の食文化について考える③発表	事前学習は、前回の食文化に関する内容をまとめてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第10回　食の環境問題１ 現代社会の様々な食環境の課題を抽出する①視聴覚教材等使用	事前学習は、身の回りの食に関する課題を挙げてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第11回　食の環境問題２ 現代社会の様々な食環境の課題を抽出する②課題を整理する	事前学習は、前回の授業で関心を持った食環境について確認してくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第12回　食の環境問題３ 抽出した課題の改善点を探る	事前学習は興味をもった内容についてまとめてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。

第13回　食の安全性 食中毒、食品添加物について知る	事前学習は、授業終了時に出されたテーマについて調べてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第14回　食育とは何か 食育の本質を考える	事前学習は、これまで受けた食育についてまとめてくること。事後学習はこれまでの授業を確認し、質問事項をまとめてること。
第15回　これからの食生活を考える	事前学習は、これまでの授業内容を振り返り、質問や確認事項をまとめておくこと。事後学習は、これまでの内容を理解すること。

■ 履修上の注意

日頃から健康・栄養情報をテレビ・新聞などで収集し、積極的に知識を深めること。
遅刻・早退は慎しむこと。遅刻30分以上は欠席とみなす。毎回、点呼により出席確認を行う。
印刷等に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること

■ 成績評価方法・基準

レポート（40%）、課題(40%）、受講態度（授業への参加状況、課題提出状況など20%）で評価する。
授業内での課題などは、当日もしくは後日の授業内でフィードバックする。

■ 教科書

〔ちゃんと食べとる？〕〔食べて語ろう会、中本忠子〕〔小鳥書房〕〔1，540円〕
・その他、適宜資料を配布する

■ 参考書

■ 備考

質問等は授業終了時、オフィスアワーで受け付ける。

住居学

(11162)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
崎　山　俊　雄

■ 授業の概要
住居は、人間生活の基本的な容器であると同時に、社会環境や生活様式、それが建つ地域の風土や文化とも密接に関係している。本講義では、住居や住生活に関する基礎知識を修得し、文化的・社会的観点から住生活を捉える視点を涵養する。前半は、住まいについて生活・機能・空間などの観点を設定して論じ、後半は、前半で身につけた考え方を活用して、独立住宅を設計する。後半の設計演習は、受講者の考えや理解度を確認しながら対話型の形式で進めていく。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・住居や住生活を考える上で必要な基礎知識を修得する。 ・よりよい住空間について考え、表現し、自分の考えを他者に説明できるようになる。	0.15 0.15 0.1 0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業内容・進め方・評価方法の説明、住まいが担う機能	事前学習：住居や建築の役割について考える 事後学習：配布された用紙に自宅の間取り（各階平面図）を描き、次回提出する
第２回　くらしと住まい	事前学習：自宅の間取りと住み方の関係を確認する 事後学習：配布された用紙に、自室のレイアウトを描き、次回提出する
第３回　空間と寸法	事前学習：自室の主要家具の寸法を測る 事後学習：自宅の台所・浴室・トイレ・階段の寸法を測り、次回提出する
第４回　住空間の計画（１）配置計画・平面計画・断面計画	事前学習：自宅の建物配置と外部空間の関係を確認する 事後学習：独立住宅の事例を収集し、自分の理想像を構想する
第５回　住空間の計画（２）個性化する住まいと住要求	事前学習：自分の住要求をリスト化する 事後学習：独立住宅の事例を収集し、自分の理想像を具体化する
第６回　図面表現・設計課題の説明	事前学習：これまでの配布資料を見直し、学修内容を復習する 事後学習：配置計画を練る
第７回　住宅の計画（１）必要な室と広さ	事前学習：配布された用紙に設計案（間取り）を描く 事後学習：授業を踏まえて、設計案を改良する
第８回　住宅の計画（２）室の配置と動線計画	事前学習：配布された用紙に改良設計案を描く 事後学習：授業を踏まえて、設計案を改良する
第９回　住宅の計画（３）寸法計画	同上
第10回　住宅の計画（４）空間構成	同上
第11回　製図（１）配置図・１階平面図	事前学習：図面表現を再確認する 事後学習：配置図・１階平面図を完成させる
第12回　製図（２）２階平面図	事前学習：図面表現を再確認する 事後学習：２階平面図を完成させる
第13回　製図（３）立面図	事前学習：図面表現を再確認する 事後学習：立面図を完成させる
第14回　課題の提出、プレゼンテーションと講評	事前学習：発表内容をまとめる 事後学習：発表内容と講評を振り返る
第15回　まとめ（これからの住まい）	事前学習：これまでの学修内容を総復習する 事後学習：授業を通して得た成果をまとめる

■ 履修上の注意

・講義中の指示にしたがい、必要な予習・復習を確実に行なって、知識の定着に努めること。
・後半の設計演習では、毎回、設計案を持参すること。

■ 成績評価方法・基準
・制作物（60%）、プレゼンテーション（20%）、および受講態度（ミニットペーパーの内容、授業への参加態度、事後課題の提出状況：20%）により評価する。
・持参した設計案や提出物、プレゼンテーション、ミニットペーパーに対しては授業中にフィードバックする。
・設計演習の評価基準（ルーブリック評価）は課題説明の際に説明する。

■ 教科書
・必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書
・授業の中で紹介する。

■ 備考
・オフィスアワー：授業終了後

住居デザイン

(11163)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
山　本　佳　美

■ 授業の概要
私たちがあたりまえに住まう住居。衣食住の住を構成する環境や材料についての基礎を理解し学んでほしい。講義内容については住居を構成する内装材、窓、建具、設備、インテリアを構成する照明、窓装飾、家具等の日常生活に必要な構成材の基本的な特徴を学び、空間に対する寸法感覚を養い、インテリアデザインの独創性を身につける。インテリアデザイナーを仕事とする教員よりリアルなインテリアトレンドなどの情報なども学びつつ、インテリアプレゼンテーションの方法についてパース、作図方法、平面プランニング等の技法等解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・住居を構成するインテリアの基礎知識を身につける。	0.15	0.55			0.15				0.15
・住居・インテリア空間の寸法について寸法感覚を養う。									
・インテリアデザインについての技法を身に着ける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　インテリアデザインの種類、インテリアスタイルの種類を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第２回　建築家のデザインを紹介し世の中にあふれるデザインを学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第３回　インテリアの歴史①西洋インテリアと家具を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第４回　インテリアの歴史②日本のインテリアと家具を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第５回　インテリアの構成①内装	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第６回　インテリアの構成②窓装飾	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第７回　インテリアの構成③照明	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第８回　インテリアの構成④家具	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第９回　インテリアの構成⑤設備・その他	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第10回　部屋別インテリアのスタイルとポイント	第10回授業より始まる、ショッププランニングの方向性についてショップリサーチの課題。
第11回　インテリアレイアウト	オリジナルショップのプランニング：平面ﾚｲｱｳﾄ作成課題。
第12回　インテリアカラー	オリジナルショップのプランニング：インテリアイメージ確定の課題。
第13回　課題：私の好きなインテリア　コラージュ	オリジナルショップのプランニング：店舗カウン

	ターのデザイン&プランボードの作成
第14回　インテリアコーディネート演習	オリジナルショップのプランニング：内装仕上げ材のセレクト&プランボードの作成
第15回　プレゼンテーション	オリジナルショップのプランニング：プレゼンテーションボードの作成と発表内容のレポート。

■ 履修上の注意
インテリアに興味を持とう！

■ 成績評価方法・基準
課題提出。提出された課題に対し、授業で学んだポイントに沿った内容となっているか確認し、内容によっては再提出といたします。
評価の割合：課題のクオリティ50%・受講態度50%

■ 教科書
プリント使用。カタログ配布。

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については授業中、または授業終了時に受付いたします。

住文化論

(11164)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
崎　山　俊　雄

■ 授業の概要

しばしば「社会を映す鏡」と形容される建築は、それが建つ地域の文化的基層を成している。例えば我が国には和服・和食・和風建築といった独特の文化があるが、これらは先人の歴史的営為の上に成立し、現代のツーリズムの重要な資源として位置付けられつつ、いまも変化し続けている。グローバルな社会が拡大するほどローカルな価値も重視される傾向にあり、文化に対する眼差しは未来に必須の視点となる。本講義では、日本の建築や住文化の歴史を講述する。我が国の生活文化を捉える視点を養い、もって住文化・造形文化について考える力を涵養する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・我が国の代表的な歴史的建築とその特徴を説明できるようになる。 ・日本の住文化や造形文化について思考し、表現できるようになる。	0.3 0.7

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の内容・進め方・評価方法の説明、住文化に関する概説	事前学習：日本にある世界文化遺産を把握する 事後学習：日本史の時代区分を再確認する
第２回　文化の誕生：日本文化の始原（環境・住まい・信仰）	事前学習：三内丸山遺跡について調べる 事後学習：先史時代の建築の特徴をまとめる
第３回　信仰と造形①：仏教の伝来と初期の寺院建築	事前学習：寺院と神社の違いを理解する 事後学習：初期の寺院建築の特徴をまとめる
第４回　信仰と造形②：神社の形式	事前学習：伊勢神宮と出雲大社について調べる 事後学習：神社建築の形式についてまとめる
第５回　仙台・宮城の建築：フィールドワーク	事前学習：宮城県内の著名な建築について調べる 事後学習：見学の結果をレポートにまとめる
第６回　古代の都市と住宅（平城京・平安京・多賀城・寝殿造）	事前学習：多賀城の歴史について調べる 事後学習：古代の都市と住宅の特徴をまとめる
第７回　信仰と造形③：修験道・浄土教の造形	事前学習：平等院鳳凰堂について調べる 事後学習：日本の山岳信仰についてまとめる
第８回　権力と文化①：禅宗と金閣・銀閣	事前学習：慈照寺東求堂同仁斎について調べる 事後学習：金閣と銀閣の特徴をまとめる
第９回　権力と文化②：城郭と城下町	事前学習：姫路城について調べる 事後学習：城郭と城下町の建築的特徴をまとめる
第10回　権力と文化③：御殿・霊廟・書院造	事前学習：日光東照宮について調べる 事後学習：霊廟・御殿・書院造の建築的特徴をまとめる
第11回　生活と造形①：茶室と数寄屋	事前学習：千利休について調べる 事後学習：国宝茶室３席と桂離宮の建築的特徴をまとめる
第12回　生活と造形②：近世の民家と社寺	事前学習：東北地方の古民家について調べる 事後学習：近世の民家と社寺の特徴をまとめる
第13回　生活と造形③：モダン・デザイン 演習課題①：素材の収集	事前学習：モダン・デザインについて調べる 事後学習：演習課題のデザイン案を検討する
第14回　演習課題②：構成の検討・作品の制作	事前学習：演習課題のデザイン案を制作する 事後学習：授業を踏まえて作品を改善する
第15回　演習課題③：プレゼンテーション・講評・まとめ	事前学習：課題を完成させる 事後学習：授業を通して得た成果をまとめる

■ 履修上の注意

・毎回、歴史用語や建築の専門用語が多数出てくるので、その都度覚えること。

■ 成績評価方法・基準

①中間で実施するレポート：30%
②演習課題50%（制作物30%、プレゼンテーション20%）

③受講態度（ミニットペーパーの内容、授業への参加態度、課題の提出状況：20%）により評価する。
・持参したデザイン案や提出物、プレゼンテーション、ミニットペーパーに対しては授業中にフィードバックする。
・レポートや演習課題の評価基準（ルーブリック評価）は課題説明の際に説明する。

■ 教科書
・必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書
・授業の中で紹介する。

■ 備考
・オフィスアワー：授業終了後

保育学

(11165)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
高　橋　恵　美

■ 授業の概要
家庭科の教員になるために必要な保育学について概観する。乳幼児の様々な面での発達過程とその特徴、それらを支える生活と遊び、家庭において留意すべきことなどについて理解できるようにする。家庭科教育の観点から家族の役割、地域社会の役割、園での保育について資料を活用しながら概説する。また、実習を通して、子どもの遊びや表現活動に関する実際の活動や子育て支援についての学びを深められるようにし、幼稚園教諭・保育士としての経験を生かして具体的な実践方法を伝えながらグループでの事例検討や意見の発表行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・「保育基礎」科目指導に必要とされる基本的な知識や技能を習得する。	0.4	0.2		0.2		0.1		0.1	
・家庭科教育の観点から家族の役割、園での保育、地域の役割について学ぶ。									
・子どもの発達や、子育て支援に寄与する能力と態度を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　・　子どもをとりまく現状	子どもに関する身近なニュースを調べる。 配布プリントを読み自分の考えをまとめる。
第２回　保育の環境	SDG s について調べる。 配布プリントを読み自分の考えをまとめる。
第３回　保育の意義と方法	保育の意義と方法について配布プリントを読み概要を把握する。
第４回　保育内容の歴史的変遷	保育内容の歴史的変遷について配布プリントを読み概要を把握する。
第５回　児童福祉の理念と制度	保育所・幼稚園・認定こども園の違いを調べる。 児童福祉の理念と福祉について配布プリントを読み概要を把握する。
第６回　愛着と自立	児童虐待に関するニュースを調べる。 演習課題について取り組む。
第７回　子どもの生活	子どもの衣食住について調べる。 配布プリントを読み自分の考えをまとめる。
第８回　健康と安全	感染症について調べる。演習課題に取り組む。応急手当法を確認する。
第９回　子どもと文化	自分が子どもの頃の遊びを調べる。 社会の変化と子どもの文化についてまとめる。
第10回　保育の活動計画	活動案を考える。 課題の見直しと振り返りを行う。
第11回　子どもの表現活動①造形表現	造形活動に活用できる素材を調べる。
第12回　子どもの表現活動②言語表現・グループワーク	自分が子どもの頃に好きだった絵本を読む。 言葉遊びの応用を考える。
第13回　子どもの表現活動③音楽表現	童謡について情報機器を用いて調べる。 子どもの表現活動についてまとめる。
第14回　体験学習（フィールドワーク）	実習で使用する視覚教材を準備する。 実習の振り返りをシートにまとめる。
第15回　情報機器を活用した保育・まとめ	授業の中で特に関心を持った内容について調べる。 これまでの学習をまとめる。

■ 履修上の注意
家庭科教諭免許取得のための必修科目であるため、積極的に授業に取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準
・平常点60%（レポート、リアクションペーパー、参加態度・グループワークでのリーダーシップ等）、期末試験40%　に

より総合的に評価する。
・ルーブリック評価については、第 1 回目の授業で説明します。
・提出課題・期末試験（レポート）は添削し、後日返却する。

■ 教科書
授業内でプリントを配布する。

■ 参考書
授業内で適宜紹介する。

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。

家庭科教材研究

(11167)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15 + 30）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
実際に家庭科の教材づくりを通して，学習者にわかりやすく，学習者の理解を促進できる教材の内容と授業の方法について検討する。まず，この授業を履修する学生は学習者として家庭科の単元を学ぶ必要がある。「学ぶ」とは受身的に情報を受け取ることではなく，学習者が主体的に，自らがもっている知識，経験を新しい情報と統合させながら知識を構成し直すことである。こうしたアクティブな「学び」をベースにして，納得するまで知識を探究できるように教材研究を指導する。そして実際に教授者の立場から教材や評価問題を作成し，その効果を検証し，考察し，教授者としての資質向上を図る。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・アクティブな「学び」について理解する			0.2	0.1			0.3	0.2	0.2
・学習者の理解を促進できるような教材づくりを目指すことができる									
・自らの教育活動について分析や評価ができるようになる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「学ぶ」とは何かー構成主義によるアクティブラーニングの考え方ー	従来の暗記中心の見方と新しい考え方，見方を比べて理解すること。
第２回　「評価」とは何か	「評価」の意味について理解すること。
第３回　家庭科の教科書を開くー指定した単元について理解するー	どんな小さな疑問点でも指摘すること。
第４回　わからない点，疑問点について情報を集める	図書館などを利用して資料を集める。
第５回　わからない点，疑問点について問題解決を図る	納得できるまで調べ，問題や疑問を解決できるように努力する。
第６回　実際に家庭科の教材を作る（教育目標、テーマを決める）	教育目標を立て，テーマについて考える。
第７回　実際に家庭科の教材を作る（評価問題を考える）	教科書を参考にしながら評価問題について考える。
第８回　実際に家庭科の教材を作る（教材の作成）	学習者の視点に立って，教科書や先行研究の教材を参考しながら、学習者にとってわかりやすい教材の作成を目指す。
第９回　実際に家庭科の教材を作る（印刷、データを集める）	評価問題、教材を印刷し、実際にデータを集める。
第10回　作成した教材を発表し，議論する	作成した教材について評価、考察をすること。
第11回　作成した教材を批判的に検討し，問題点を出す	わかりにくい表現，構成になっているところを指摘し，改善する。
第12回　教材が適切であったか、今後、どのような改善が必要か考える	謙虚な気持ちで問題点を見つけ、今後に生かすこと。
第13回　「誤った知識」のリバウンドとは何か	リバウンドの意味について理解し，どのように防ぐことができるか，考える。
第14回　リバウンドが起きないような教材構成になっているか検討する	提示ルールがわかりやすく問題解決型の内容になっているか，点検する。
第15回　まとめ	感想，意見，今後の課題などを出して，話し合う。

■ 履修上の注意
テーマを決め、評価問題、教材を自分で作成し、その有効性を確かめ、自分で評価するアクティブラーニングの形式を採用する。無断で休まないこと。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組み40%，まとめとしてのレポート課題60%（レポートの内容についてはフィードバックする）。

■ 教科書
中学校，高校の家庭科教科書を使う。「家庭基礎」（東京書籍）

■ 参考書

授業の中で紹介する。

■ 備考
相談や質問等については各回の授業中，終了後，あるいはオフィスアワーで受け付ける。

家政特別講義Ⅰ

(11168)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：集中　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
平　塚　聖　子　　伊豆田　友　美

■ 授業の概要
ファッションデザインにおけるリサーチ、プランニング、デザイン、創作作の基礎実践を通し、「他者を意識したデザイン」を探求する。デザインの意義や目的、背景を的確に伝えるプレゼンテーションまで、一貫したデザインプロセスを修得する。ファッションデザイン表現プロセスである立体造形技法の解説を交え創作技術を教授する。国内外のファッションデザイン、コレクションブランドでのデザインの実務経験、ファッション、テキスタイルにおけるデザイン教育現場での実績をもとに現場に基づいた指導を行う。また、外部講師による講義で企業や社会の仕組み・現状・課題について理解を深め、3・4年次の学習の方向性を探り専門研究Ⅰの研究分野の選定に生かす。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・立体造形技法を用いたファッションデザインの構想プロセスを理解し独自のアイデアを具現化し、独創性の高いデザイン案の提示ができる						0.2	0.2		0.6
・ディスカッションを通じて、自らのデザインを客観的な視点で分析し、デザイン意図を一貫性ある論理で言語化できる									
・他者のプレゼンテーションの観察を通し、デザインプロセスや多様な提案を多角的に捉え、自己のコンセプト、デザインを的確に伝えるプレゼンテーションができる									
・将来のキャリアデザインについて主体的に考えることができる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（担当：2年次担任）	授業内容・流れについて確認する
第２回　事前準備（担当：2年次担任）	材料を準備する
第３回　講義：ファッションデザインの知見を深める（担当：平塚） リサーチ：デザインリサーチ、テーマ、コンセプトにもとづく情報収集（担当：平塚）	事前：ファッションデザインにおける衣服デザインや社会におけるファッションデザインの価値についてリサーチする テキスタイルサンプルを収集する（実物）
第４回　ワークショップ：デザインアイデア、テキスタイル提案、イメージボード編集、制作（GW）（担当：平塚）	デザインアイデア、イメージ、テーマを考察する テキスタルリサーチ、イメージサンプルを収集する（画像）
第５回　プレゼンテーションリサーチ：ファッションデザインにおけるプレゼンテーションの観察と考察（担当：平塚）	デザインアイデア、イメージ、テーマを考察する
第６回　プレゼンテーションリサーチ：ファッションデザインにおけるプレゼンテーションの考察およびディスカッション（担当：平塚）	デザインアイデア、イメージ、テーマを考察する 事後：テキスタルリサーチ、サンプルスワッチを収集する（実物）
第７回　ワークショップ：立体造形技法と平面設計の関係 デモンストレーション：ファッションモデリング（担当：平塚）	事後：デザインアイデア、テーマ、コンセプトの構築、ブラッシュアップする
第８回　実習：ファッションモデリング①（担当：平塚）	デザインイメージを決定する
第９回　実習：ファッションモデリング②（担当：平塚）	デザイン決定、制作をまとめる シューティング、プレゼンテーションの準備をする
第10回　シューティング：伝えるイメージビジュアルを編集する プレゼンテーション：伝えるプレゼンテーション（担当：平塚）	事後：プレゼンテーション内容をデジタルデータとして編集する
第11回　服飾文化専攻での学びとキャリア①：アパレル・一般企業（担当：外部講師）	メモをまとめておく
第12回　服飾文化専攻での学びとキャリア②：家庭科教員・学芸員等（担当：外部講師）	メモをまとめておく
第13回　専門研究での研究分野決定のために①：専門研究発表会Ⅰ（担当：2年次担任）	メモをまとめておく
第14回　専門研究での研究分野決定のために②：専門研究発表会Ⅱ（担当：2年次担任）	メモをまとめておく
第15回　授業のまとめ	授業全体について振り返り、まとめ

■ 履修上の注意
履修した平面パターンについて復習をしておくこと。
次時の授業に対する準備課題に積極的に臨み、授業に必要な道具は事前に準備して持参すること。
自主的に課題に取り組み、特に作品制作は計画通り進め精度を高めること。
課題進行に影響するため、遅刻・欠席のないよう出席すること。
講評会は補講・集中講義期間に行う。

■ 成績評価方法・基準
作品、プレゼンテーション、授業課題提出物の成果（60%）、平常点・受講態度（40%：授業での発言、質問等の参加状況、進捗状況や積極性等の総合評価）で評価する。
課題・提出物は授業中の個別指導時、講評でフィードバックする。

■ 教科書
必要に応じて紹介する。

■ 参考書
必要に応じて紹介する。

■ 備考
採点の対象となる作品等の提出はプレゼンテーション、講評会時とし、課題の未提出、実施されない等の際には、評価の対象としない。
作業状況等の都合により、授業計画、内容、時間等を変更することがある。
質問などは、授業中、授業終了時に受け付ける。

家政特別講義Ⅱ

(11169)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要
この授業には二つのテーマがある。一つは「ファッションブランド」である。様々な形態のファッションブランドについて多角的な視点から調査⇒プレゼンテーション⇒ディスカッションを行うことで、ブランドが創出する価値について理解を深めさせ、進路選択や就職後の業務に活かせるようにする。二つ目のテーマは「災害と衣服」である。災害が多い日本では、過去の経験から様々な備えが進んできたが、自治体等での衣類備蓄は十分に行われていないというデータもある。そのため、この社会的課題を解決するために、これまでに服飾文化専攻で学んだ知識・技能を応用し、命を衣服で守るための情報を調査・整理し、自分たちで課題解決への道筋をつけ、解決に近づけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・より高度な専門知識を身に付け、社会的課題と結び付けられる。			0.4				0.3		0.3
・自主的に学習活動に参加し、グループワークにも積極的に取り組むことができる。									
・これまでに学んだ知識・技能を応用し、課題を解決への道筋をたてることができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　・オリエンテーション：授業の概要、授業の進め方、評価方法の説明 ・ファッションブランドに関するDVD鑑賞	事後：配布資料を熟読する。様々なファッションブランドについて情報を収集する。
第２回　・ファッションブランド①　ブランドに関するweb調査	事後：自分が担当するブランドの情報を十分に収集する。
第３回　・ファッションブランド②　調査のまとめ（レジュメ作成）	事前：収集した情報を精査し、レジュメの下準備をしておく。 事後：レジュメ作成を進める。
第４回　・ファッションブランド③　レジュメ・プレゼン資料作成	事前：プレゼンテーションのアウトラインを考えておく。 事後：レジュメ・プレゼン資料を完成させる。
第５回　・ファッションブランド④　プレゼンテーション	事前：プレゼンの自主トレをする。 事後：プレゼンを振り返り、質問・回答をまとめておく。
第６回　・ファッションブランド⑤　ディスカッション	事前：ブランドの存在価値や今後の在り方・求められ方など、ディスカッションに向けてまとめる。 事後：ディスカッション内容までをレポート形式でまとめる。
第７回　・テキスタイルブランド　テキスタイルのブランディングと製造	事前：日本および世界的に有名なテキスタイルブランドについて情報収集する。
第８回　・災害と衣服①　1月24日家政特別セミナーの振り返りと課題解決のための情報収集	事前：家政特別セミナーで配布されたレジュメを準備する。 事後：情報収集を十分に収集する。
第９回　・災害と衣服②　収集した情報をディスカッションし、課題解決のための方策を検討する	事前：収集情報を精査し、レジュメを作成。 事後：レジュメにディスカッションの内容を加え、課題解決実現にむけての方策をまとめる。
第10回　・災害と衣服③　プレゼンテーション資料作成	事前：プレゼンのアウトラインを考えておく。 事後：レジュメ・プレゼン資料を完成させる。
第11回　・災害と衣服④　プレゼンテーション	事前：プレゼンの自主トレをする。 事後：プレゼンを振り返り、質問・回答をまとめておく。
第12回　・災害と衣服⑤　プレゼンテーションの振り返りと実践に向けての計画	事前：課題解決法をより具体的に考えておく。
第13回　・災害と衣服⑥　課題解決のための実践①（具体的な計画立案）	事前：課題解決のためのtoDoリストを作成する。

		事後：計画通りに進められるよう協力しながら実践する。
第14回	・災害と衣服⑦　課題解決のための実践②（学生の計画で進めるため、内容未定）	事前・事後：計画通りに進められるよう協力しながら実践する。
第15回	・災害と衣服⑧　（学生の計画で進めるため、内容未定） ・プレゼンフリップについての説明（服飾文化専攻作品展に向けて）	事前・事後：計画通りに進められるよう協力しながら実践する。
第16回	・服飾文化専攻作品展で取り組みの成果をプレゼンする（会場での解説）	事前：解説内容をまとめ自主トレしをする。 事後：取り組み全体について振り返る。

■ 履修上の注意

・遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。

・パソコン(タブレット端末可)を持参すること（スマートフォンの利用は減点対象とする）。パソコンにMicrosoftOfficeとAdobeAcrobatReaderが使えるか確認し、ない場合はインストールしておくこと。なお、ワークシートや参考資料は電子データで配布されますので、授業までにダウンロードしておいてください。

・授業時間外の学習活動が多くなると予想されます。前向きに、辛抱強く取り組んでください。

■ 成績評価方法・基準

・毎回の学習内容を記録したミニットペーパー(GoogleForms)の内容による評価を45%、レジュメ・プレゼンテーション・レポートによる評価を55%として評価します。

・ミニットペーパーに記された内容は授業でフィードバックします。レポート・レジュメはにコメントを付して後日返却します。

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜紹介します。

■ 備考

・受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。

・質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

家政特別演習（研修旅行）

(11170)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊豆田　友　美

■ 授業の概要
服飾をはじめ家政学，美術・工芸に関わる博物館，企業，工場などの施設を見学し，授業で学んだ知識や技能を基にして，服飾や家政学に関する実際的な知識を体験的に習得できるように指導する．事前学習では，現在直面している社会問題について，自らテーマを選び，研修を通してどのように解決策を見出すことができるのかを具体例を挙げて教授する．また，研修後には，研修で得た知識や技能をその後の学習や実生活に活かせるように振り返りを行い，各自プレゼンテーションを行う．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・知識や技能を体験的に習得する．	0.4 0.6
・新たな発想や新たな視点を見つける．	
・実生活における問題発見・解決能力を身につける	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（研修の目的・意義について）	研修先とスケジュールを確認する．研修の目的を明確にする．
第２回　事前学習（研修先である博物館、資料館、企業、工場などに関する説明と各自の事前での調査）	訪問する施設についての情報を詳しく調べる．
第３回　事前学習（直面している社会問題に対して，自らテーマを選び，研修を通してどのように解決策を見出せるかを考察する）	自らのテーマを考える．解決策の仮説から、研修先でどのように行動するかを考える．
第４回　事前学習（上記2回と3回で学んだことの整理、発表、共有）	研修でどのようなことを探求するのかを明確化する．
第５回　研修旅行（3泊4日）	事故や怪我がないように慎重に行動する． 体調管理を徹底する．
第６回　レポートの作成	施設の資料や写真やメモ（記録）を参考に，研修旅行を振り返り，整理し，レポートを完成させる．
第７回　研修発表会	研修先で得られたことおよびその後の学習や実生活で活かせることを各自まとめる．

■ 履修上の注意
研修先では社会人としてふさわしい言動，規律ある行動をするように留意すること．
研修先では体調管理を徹底すること．
目的意識を明確にし，能動的に参加すること．
事前学習と事後学修をしっかりと行うこと．

■ 成績評価方法・基準
事前学習での調査状況20%，研修中の活動状況50%，研修後のレポート・プレゼンテーションの内容30%で評価する．

■ 教科書
必要に応じてプリント教材を配布する．

■ 参考書
研修施設に応じて指示する．

■ 備考
必修
質問，相談は各授業の中，または授業終了時，オフィスアワーで受け付ける．
社会状況等により研修計画，研修形式を変更する場合がある．

服飾ビジネス特別演習

(11171)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（15 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

服飾ビジネスは，私たちの暮らしや社会の情報化と深く関わりながら存在する。本授業では，主に流通の視点から，服飾関連分野で働くヒト，消費するヒトの双方にとって幸せな暮らしを支える「服飾ビジネス」について学びます。

とりわけ，消費生活協同組合や調査研究機関の研究員や情報システム担当者としての実務経験を活かし，服飾ビジネスの事例研究やWixを用いたWEB制作をはじめ，学生自らが社会的課題を見出し『学生がつなぎ，発信する東北の魅力づくり』に必要な基礎的な知識や技能を教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)服飾ビジネスで求められる知識や技能を理解，実践できる			0.1		0.1	0.05	0.6	0.05	0.1
・2)新たな時代の価値創造の担い手としての服飾ビジネスを理解できる									
・3)今後の服飾ビジネスのあるべき姿を説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：服飾関連のビジネスとは？ 概　要：授業の進め方・評価など	授業内容に応じた事前配布資料にもとづき，ビジネスの基本について予習しておくこと。
第２回　テーマ：服飾関連分野の流通革新Ⅰ 概　要：小売業の近代化と百貨店の栄枯盛衰	各自課題について，インターネットや文献などの情報収集を行う。
第３回　テーマ：服飾関連分野の流通革新Ⅱ 概　要：総合スーパーの台頭とコンビニエンスストア誕生	同　上
第４回　テーマ：服飾関連分野の流通革新Ⅲ 概　要：SPAブランドとショッピングセンターの成立過程	同　上
第５回　テーマ：服飾関連分野の流通革新Ⅳ 概　要：無店舗販売とECビジネスの発展	同　上
第６回　テーマ：服飾関連分野の流通革新Ⅴ 概　要：セレクトショップの発展と未来	同　上
第７回　テーマ：服飾関連分野の流通革新Ⅵ 概　要：オムニチャンネルの最新動向	同　上
第８回　テーマ：服飾関連分野の流通革新Ⅶ 概　要：サプライチェーンマネジメントDX	同　上
第９回　テーマ：D2Cビジネスを調べる① 概　要：YUTORIのビジネスモデルの特徴	同　上
第10回　テーマ：D2Cビジネスを調べる② 概　要：FABRICのビジネスモデルの特徴	同　上
第11回　テーマ：体験型店舗を調べる 概　要：ECと実店舗の融合，その可能性は？	同　上
第12回　テーマ：無店舗販売（ライブコマース）を調べる 概　要：インフルエンサーを活用したマーケティング戦略	同　上
第13回　テーマ：シェアリングエコノミーを調べる 概　要：エアークローゼットの取り組み	同　上
第14回　テーマ：循環経済の仕組みを調べる 概　要：メルカリのビジネスモデルの特徴	同　上
第15回　テーマ：前期の振り返り 概　要：後期に向けての課題の進捗状況を確認する	前期を振り返り。
第16回　テーマ：リテールメディアの基礎1 概　要：ファッションデザインについての知見を広げる。	各自課題について，インターネットや文献などの情報収集を行う。
第17回　テーマ：リテールメディアの基礎Ⅱ 概　要：顧客購買データの活用	同　上
第18回　テーマ：リテールメディアのまとめ 概　要：消費者行動を活用した広告のあり方	授業内容の振り返りを行う。
第19回　テーマ：地域ビジネスの基礎(1) 概　要：地域に根差したビジネスについて学ぶ	地域特性を理解する。

第20回	テーマ：地域ビジネスの基礎(2) 概　要：復興支援とビジネスの関係について学ぶ	東日本大震災の復興支援について理解する。
第21回	テーマ：クラウドファンディングの事例研究(1) 概　要：成功事例から，地域ビジネスに必要な条件を学ぶ。	クラウドファンディングを理解する。
第22回	テーマ：クラウドファンディングの事例研究(2) 概　要：失敗事例から，地域ビジネスに必要な条件を学ぶ。	同　上
第23回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(1) 概　要：商品の選定／企画・開発について学ぶ	各自計画に沿って課題に取り組む。また，各授業中に学んだことの要点は，必ず講義ノートに記録すること。
第24回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(2) 概　要：WEB作成ツール「Wix」について学ぶ	同　上
第25回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(3) 概　要：DtoCを実現するための仕組みを学ぶ	同　上
第26回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(4) 概　要：WEBとSNSの連携について学ぶ	同　上
第27回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(5) 概　要：支援者の購入動機を分析する手法を学ぶ	同　上
第28回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(5) 概　要：支援者の購入動機から社会的意義を学ぶ	同　上
第29回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(6) 概　要：マーケティングの必要性を学ぶ	同　上
第30回	テーマ：まとめ 概　要：商品購入(支援)が社会的価値の実現につながったか？ 各自の考察をまとめる。	各自の研究成果を発表する

■ 履修上の注意

原則的に全出席（また，課題の未提出，実習中の態度不良や遅刻・欠席した場合，単位を取得できない）

毎日最低1時間以上，文献・資料調査，もしくは課題制作など，予習・復習をすること。

なお，WEB作成ツール「Wix」は設定や操作が複雑です。システムの不具合が発生したとき，それを解決するまで，あきらめず何度も挑戦する学習姿勢が求められます。

この授業は，Windows11のOS搭載のパソコンを用いて，ファッションビジネス分野のICT活用について学びます。

履修にあたり，Windows11のOS搭載ノートパソコンを各自持参して下さい。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+レポート(30%)+課題作品(35%)にもとづき評価します。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

なお，課題のフィードバックについては，授業中に適宜行います。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

授業中に適宜指示します。

■ 参考書

〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔2200円〕

■ 備考

【通常授業＋集中講義】

外部講師による授業の場合は、集中講義期間に実施する。

フィールド調査は，授業の空き時間や休日に実施することがあります。また，課題制作費は自己負担となります。

【質問・相談など】

授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

服飾生活特別演習

(11172)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
平 塚 聖 子　　菊 地 紗 代

■ 授業の概要
衣生活における諸課題の発見から解決に至る「情報収集」「分析」「解決策の構築」の一連の手法を修得することを目的とする。特定の企業をクライアントに見立て、企業への理解やスケジュールの管理、クライアントへ向けた付加価値のある提案プロセスを実践的に学ぶ。アイデアの創出から、プロトタイプの制作、最終プレゼンテーションまでの一連の工程を経験し、ユーザーのニーズを捉え、社会的意義のあるデザイン提案を行う能力の修得を目指す。
課題の性質に応じた調査資料の作成、情報機器の活用、および情報発信などの具体的なアプローチに取り組み、それらに必要な専門知識と技術を教授する。
授業はPBL型方式を主に取り入れ、グループワーク（以下ＧＷ）やディスカッションを交えて進める。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
			0.15		0.1	0.1	0.2	0.15	0.3
・課題解決のために必要な知識や手法を身につける 適切な情報収集と分析を通じて、本質的な課題解決策を論理的に構築できる ・実践力、社会人として必要な基礎力・倫理観を身につける スケジュール管理やディスカッションを通じた合意形成を行い、チームの一員として責任を持ってプロジェクトを完遂できる ・社会やユーザーのニーズを反映した説得力のあるプレゼンテーションができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：授業概要、授業の進め方、課題の提示と背景説明（担当：平塚）	課題について情報収集する
第２回　情報収集の手法①：フィールドワークや文献調査、マーケットリサーチ方法、ターゲットユーザー設定（担当：平塚）	マーケットリサーチをおこなう 文献資料を収集する
第３回　課題の抽出： 現代の衣生活（環境、福祉、技術等）における多様性について考察、分析（ＧＷ）（担当：平塚）	情報を整理し、課題に取り組む
第４回　情報収集の手法②：グループ編成、スケジュール管理方法、ツールの検討（ＧＷ）（担当：平塚）	課題に取り組む
第５回　事業計画の策定①：役割分担決定　スケジュール素案の立案　（ＧＷ）（担当：菊池）	課題に取り組む。
第６回　事業計画の策定②：　本案資料・試料の入手（担当：菊池）	試料を検討する。課題に取り組む。
第７回　中間リサーチ報告：収集した情報の共有と、現状分析（ＧＷ）（担当：平塚）	視覚資料を制作し報告の準備をする
第８回　ユーザーニーズの分析：ターゲットユーザー・ペルソナ設定（ＧＷ）（担当：平塚）	設定内容を整理し、まとめる
第９回　アイデアの発想：ユーザーのニーズ、デザインを多角的に検討（ＧＷ）（担当：平塚）	マーケット、ユーザーリサーチに取り組む
第10回　アイデアの抽出・選定：　ユーザーのニーズとの整合性の確認、デザイン決定（ＧＷ）（担当：平塚）	決定内容を整理し、まとめ、制作をスタートする
第11回　課題内容に応じた取り組み①：制作や資料作成等（ＧＷ）（担当：菊池）	計画に沿って課題に取り組む
第12回　課題内容に応じた取り組み②：制作や資料作成等　（ＧＷ）（担当：菊池）	計画に沿って課題に取り組む
第13回　1次プレゼンテーション（企画提案）：ディスカッション（ＧＷ）（担当：平塚）	1次プレゼンテーションの準備をする
第14回　コンセプト・プランニング　：コンセプトの検討、定義づけ（ＧＷ）（担当：平塚）	コンセプトをまとめ、制作をスタートする
第15回　課題内容に応じた取り組み③（制作）：課題制作や資料作成等（ＧＷ）（担当：菊池）	計画に沿って課題に取り組む
第16回　課題内容に応じた取り組み④（制作）：課題制作や資料作成等（ＧＷ）（（担当：菊池）	計画に沿って課題に取り組む

第17回	課題内容に応じた取り組み⑤：（制作）：課題制作や資料作成等（ＧＷ）（（担当：菊池）	計画に沿って課題に取り組む
第18回	課題内容に応じた取り組み⑥：（制作）：課題制作や資料作成等（ＧＷ）（（担当：菊池）	計画に沿って課題に取り組む
第19回	制作レビュー（試作発表）： 制作物第1弾の提示、ユーザー視点で検討、フィードバック収集（ＧＷ）（担当：平塚）	制作物を提示できる様仕上げる
第20回	メンタリング（グループ・個別）：グループごと、個別の進捗確認（担当：平塚）	メンタリングの内容を踏まえ、課題制作に取り組む
第21回	課題制作チェック（ＧＷ）（担当：平塚）	チェック内容に沿って、課題制作に取り組む
第22回	課題制作検証 （ＧＷ）担当：平塚）	検証内容を踏まえ、課題制作に取り組む
第23回	情報機器を活用した可視化：デザイン、ワーク手法やソフトを用いた企画書のグラフィック化、データ整理の検討（ＧＷ）（担当：平塚）	情報、資料をブラッシュアップし整理し、まとめておく
第24回	プレゼンテーションのシミュレーション：情報発信の戦略立案 プレゼンテーション、PR・展示手法の検討 クオリティアップと完成度の追求（ＧＷ）（担当：平塚）	シューティング含め、最終プレゼンテーションの準備をする
第25回	最終プレゼンテーション：企業クライアント（想定）への提案、提示（ＧＷ）（担当：平塚）	シューティング含め、最終プレゼンテーションの準備をする
第26回	最終プレゼンテーション：相互評価とディスカッション 他グループの提案との分析（ＧＷ）（担当：平塚）	ディスカッション内容を整理し、まとめる
第27回	総括：社会におけるデザインの役割や今後の展望について、全体で討議する（担当：平塚）	プレゼンテーション資料、課題作品のブラッシュアップ
第28回	リフレクション（グループ・個別）： 個人としての到達点や相互評価の確認 プロジェクト全体を通じたチーム貢献度や学びの共有（ＧＷ）（担当：平塚）	リフレクション内容を整理し、まとめる
第29回	成果報告書作成（ＧＷ）（担当：菊池）	成果物のアーカイブ化、視覚資料をブラッシュアップし提出準備をする
第30回	成果報告書作成（ＧＷ）（担当：菊池）	成果物のアーカイブ化、 視覚資料を提出

■ 履修上の注意
服飾生活コースの選択学生は必ず履修すること。
授業では、履修者同士で協力して取り組むことが多いので、社会人としてのマナーを心掛け協調して積極的に取り組むこと。
遅刻・欠席をせず、課題を計画通り進めて次時の授業に臨むこと。
授業に必要な道具は事前に準備して持参すること。

■ 成績評価方法・基準
事前準備をし、協力して積極的に課題に取組んでいるかに対し50%、課題の内容・成果50%
ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。課題は授業内でフィードバッグする。

■ 教科書
課題内容に応じて紹介する

■ 参考書
課題内容に応じて紹介する

■ 備考
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価や演習の進め方は1回目の授業で説明する。
作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間等を変更することがある。
課題の未提出、実施されない等の際には、評価の対象をしないことがある。
試料入手や情報発信等、課題内容に応じて外部で授業を行う場合もある。（交通費は各自負担）

専門研究 I

(11173)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（120 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
この授業では「教授学習心理学」の分野の研究活動に取り組む。目標としては，「教授学習心理学」に関する研究テーマを先行研究から選び，追試研究を行うことを目指す。選んだ先行研究をよく理解した上で，先行研究の実験方法などを模倣する形で新たな実験を準備，実施し，データを集計し，論文を作成する。特に，複数の要因に関して表や図を作成したり，結果を読み取ったりする訓練を行う。一連の活動を通して研究に必要なリテラシーやプレゼンテーション力を習得できるように教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1　ワードやエクセルを用いてデータの集計と図表の作成，読み取りが行えるようになる	0.1250.5　0.1250.25
・2　教授学習心理学の研究に必要な基礎的なリテラシー（読み書き能力）を身につける	
・3　教授学習心理学の研究に興味をもち，今後の課題を見つけ，新たな仮説を立てられるようになる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究の進め方（３年担任：菊地先生） 過去の専門研究の内容を振り返る	シラバスを熟読すること。
第２回　研究室の割り振り・研究倫理（３年担任：菊地先生）	あらかじめ質問内容を考えておくこと。
第３回　過去の研究テーマの調査（以下、全コマ植松担当）	教授学習心理学の研究テーマを自主的に調べる。
第４回　研究テーマの選定	興味のある研究テーマをいくつかに絞る。
第５回　研究論文の構成について学ぶ	論文の構成とそれぞれの意味について理解する。
第６回　先行研究の内容についてまとめる	興味のある先行研究を選び，レポートする。
第７回　先行研究の内容について報告し，討論する	選んだ先行研究についてレジュメを作成する。
第８回　実験の準備（質問紙，教材，課題などの作成）	選んだ先行研究に基づいて実験計画を立てる。
第９回　実験の準備（実験で使う冊子の内容について構想を立てる）	実験で使う冊子を作成する。
第10回　実験の準備（実験で使う冊子の作成）	実験で使う冊子を作成し，点検する。
第11回　実験の準備（実験で使う冊子のチェックと印刷）	実験で使う冊子を作成し，必要な部数印刷する。
第12回　実験の実施	いつ，どこで，誰に実験を行うのか計画する。
第13回　実験の実施	実施の同意書を作成する。
第14回　実験の実施	必要な部数を配布し，回収する。
第15回　分析対象者を決める	記入済みの冊子を回収し，群ごとに分ける。
第16回　エクセルにデータを入力する	記入済みの冊子を回収し，データを入力する。
第17回　エクセルを使ってデータを集計する	平均値や正答者数（率）を算出する。
第18回　エクセルを使ってデータを分析する	平均値や正答者数（率）の比較を行う。
第19回　エクセルを使って表や図を作成する	平均値や正答者数（率）の図表を作る。
第20回　エクセルを使って表や図を作成する	平均値や正答者数（率）の図表を作る。
第21回　ワードによる研究論文の作成（問題と目的）	仮説について書く。
第22回　ワードによる研究論文の作成（方法）	方法について書く。
第23回　ワードによる研究論文の作成（結果）	結果について書く。
第24回　ワードによる研究論文の作成（考察）	考察について書く。
第25回　ワードによる研究論文の作成（まとめ）	今後の課題について書く。
第26回　発表の準備（パワーポイントの画像の作成）	パワーポイントの画像を作成する。
第27回　発表の準備（発表原稿の作成）	口頭発表の原稿を作成する。
第28回　発表の準備（パワーポイントの画像，発表原稿の作成）	口頭発表の原稿とパソコンの画像を照合する。
第29回　発表の準備（リハーサル）	事前に発表のリハーサルを行う。
第30回　研究発表	大きな声で自信をもって発表する。

■ 履修上の注意
毎回，休まず出席すること。欠席する場合は必ず連絡を入れること。先行研究を熟読し，積極的に学び，作業を自主的に進めること。わからない点は相談すること。報告・連絡・相談を忘れずに。必修であるための義務感から取り組むのではなく

，指導教官との共同研究として，お互いに議論や意見交換しながら，熱心に取り組むこと。とりわけ日本における学校教育のあり方を少しでも良いものに改善するための実証的研究を目指して取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準
研究に対する取り組み30%，論文の内容30%，研究発表の準備と当日のパフォーマンス40%。取り組みや論文については，その都度フィードバックしながら指導します。

■ 教科書
必要に応じて授業前に資料（プリント）を配布する。

■ 参考書
研究課題に応じて指示する。

■ 備考
質問等については，いつでもお答えします。各セッションの中で，または終了時に，あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

専門研究 Ⅰ

(11174)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4 (120 + 60)
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

これまでに習得した服飾文化に関する知識や技術の中から、特に、日本服装史、染織文化史、染色学実習に関する知識・技術をもとに、各種資料についての調査研究を行う。研究対象は、本学をはじめとする東北地方に残されている染色関連資料とする。各自が設定したテーマに合わせて、研究計画を立て、調査・分析方法について指導する。さらに、研究の成果をまとめるレポート作成と専門研究発表会に向けてのプレゼンテーション法についても指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・文献調査や資料調査など研究の進め方の基本を身につける						0.125	0.5	0.125	0.25
・これまでに習得した知識・技術を応用できるようになる									
・計画的に研究を進める能力を身につける									
・レポートやプレゼンテーション資料作成の基本を身につける									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究の進め方　（3年担任：菊地先生）	過去の専門研究の内容を振り返る
第２回　研究室の割り振り・研究倫理　（3年担任：菊地先生）	過去の専門研究の内容を振り返る
第３回　専門研究の設定（以下全コマ、川又）	専門研究の課題について考える
第４回　テーマの決定	配布資料を熟読し、研究テーマについて検討
第５回　文献の調べ方	図書館等で文献検索を行う
第６回　文献調査：各自で文献の収集と調査 ①	図書館等で文献検索を行う
第７回　〃　：各自で文献の収集と調査 ②	図書館等で文献検索を行い、文献を読み進める
第８回　〃　：文献調査のまとめ ①	文献を読み進める
第９回　〃　：文献調査のまとめ ②	文献を読み進める
第10回　〃　：文献調査のまとめ ③	収集した文献をまとめ、報告資料を作成する
第11回　〃　：文献調査の報告	報告資料の修正、研究計画について検討する
第12回　今後の計画策定	研究計画を修正し、研究計画書を完成させる
第13回　研究指導：個別に調査等の指導 ①	時間内に終わらなかった調査等を進める
第14回　〃　：個別に調査等の指導 ②	時間内に終わらなかった調査等を進める
第15回　〃　：個別に調査等の指導 ③	時間内に終わらなかった調査等を進める
第16回　〃　：個別に調査等の指導 ④	時間内に終わらなかった調査等を進める
第17回　〃　：個別に調査等の指導 ⑤	時間内に終わらなかった調査等を進める
第18回　レポート指導：レポートの書き方	これまでの成果をまとめたレポート作成する
第19回　〃　：個別にレポート作成の指導 ①	レポート作成を進める
第20回　〃　：個別にレポート作成の指導 ②	レポート作成を進める
第21回　〃　：個別にレポート作成の指導 ③	レポート作成を進める
第22回　〃　：個別にレポート作成の指導 ④	レポート作成を進める
第23回　抄録作成指導：抄録の書き方	抄録を書く
第24回　〃　：個別に抄録原稿の修正	抄録を完成させ、プレゼンテーション資料の素案を作る
第25回　発表資料作成指導：プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション資料を作成する
第26回　〃　：個別にプレゼン資料の作成指導	プレゼンテーション資料を作成する
第27回　〃　：個別にプレゼン資料の作成指導と発表練習	プレゼンテーション資料を完成させる
第28回　研究室内での発表練習会	プレゼンテーション資料の修正と自主練習
第29回　専門研究発表会	発表内容について省みる
第30回　専門研究発表会の反省、レポート完成	発表会での指摘内容をレポートに反映させる

■ 履修上の注意

・日頃から伝統染織に関しての情報を収集するように心掛けてください。文献や資料の調査、レポート作成などについては、各自で積極的に進め、意欲的に取り組んでください。
・A4判ノートを1冊購入してください（リサーチラボノートが望ましい）。

■ 成績評価方法・基準

平常の取り組みによる評価（研究ノート等）を50％とし、調査の成果・レポート・発表会でのプレゼンテーションを50％として評価します。研究ノートや作成資料については個別指導時に添削・指導します。

■ 教科書
各自のテーマに沿って指示する。

■ 参考書
各自のテーマに沿って指示する。

■ 備考
質問等は、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時にも受け付けます。

専門研究Ⅰ

(11175)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（120 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

本演習は，消費生活協同組合や調査研究機関の研究員としての実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』の経歴を踏まえ「身体の不自由なヒトの暮らし」という視点から，フィールド調査および商品特性に関する研究を指導する。
また，専門的な学びを深めるため『色彩検定UC級』の資格取得を推奨します。

具体的には，①身体の不自由なヒトの身体的・感覚的・認知的特性を学び②彼らの衣生活に関してのフィールド調査，③アクセシブルデザイン（Accessible Design:身体の不自由なヒトの更衣動作への工夫や配慮）について研究を通じて，人間中心設計（Human Centered Design:HCD）の考え方に基づく，モノづくりの知識や技能の修得をめざします。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)商品学的視点で，各種の商品特性を理解できる						0.125	0.5	0.125	0.25
・2)身体の不自由なヒトの困難さについて共感的に理解できる									
・3)アクセシブルデザインの意義を理解し，説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究の進め方（3年担任：菊池）	過去の専門研究の内容を振り返る。
第２回　研究室の割り振り・研究倫理　（3年担任：菊池）	同　上
第３回　テーマ：研究課題の設定にむけて 概　要：研究の社会的意義を踏まえ，問題意識を明らかにする （以下　全コマの水谷担当）	研究の社会的意義（問題意識）を明確にした上で，自らの仮説にもとづき，それらを解決するための先行研究や統計調査をすすめる。
第４回　テーマ：身体の不自由なヒトたちの暮らしⅠ 概　要：色覚特性の理解を通じて，色づかいの学びを深める	同　上
第５回　テーマ：身体の不自由なヒトたちの暮らしⅡ 概　要：高齢者の見え方を理解し，色づかいの学びを深める	同　上
第６回　テーマ：視覚情報のユニバーサルデザインⅠ 概　要：「誰もが見やすい配慮」について学ぶ	同　上
第７回　テーマ：視覚情報のユニバーサルデザインⅡ 概　要：「誰もが見やすい工夫」について学ぶ	同　上
第８回　テーマ：研究の企画・立案 概　要：先行研究を調査し，新たな課題（テーマ）を見つける	同　上
第９回　テーマ：研究Ⅰ(個別テーマ) 概　要：研究目的を明確化し，基礎統計資料を収集・分析する	同　上
第10回　テーマ：研究Ⅱ(個別テーマ) 概　要：仮説(調査内容)を検討する	同　上
第11回　テーマ：研究Ⅲ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査(アンケート・インタビュー)を実施する	フィールド調査を実施し，そこから得られたデータを整理・図表化することにより，これらデータの意味について考察する。
第12回　テーマ：研究Ⅳ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査の集計を実施する	同　上
第13回　テーマ：研究Ⅴ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査の集計結果を分析する	同　上
第14回　テーマ：課題制作の計画策定 概　要：課題制作に向けて，準備に着手する	同　上
第15回　テーマ：前期のまとめ 概　要：課題制作のコンセプトを決定する	フィールド調査の結果から，コンセプトを設定し，課題制作の準備をすすめる。
第16回　テーマ：課題制作Ⅰ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	計画に沿って，課題制作に取り組む。
第17回　テーマ：課題制作Ⅱ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第18回　テーマ：課題制作Ⅲ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第19回　テーマ：課題制作Ⅳ（試作）	同　上

	概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	
第20回	テーマ：課題制作Ⅴ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第21回	テーマ：課題制作Ⅵ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第22回	テーマ：課題制作Ⅶ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第23回	テーマ：課題制作Ⅷ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第24回	テーマ：課題制作Ⅸ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第25回	テーマ：課題制作Ⅹ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第26回	テーマ：実証実験 概　要：実証実験を通じて，課題発見力を学ぶ	実証実験や改善・改良などを経て，商品特性への知見を深める。
第27回	テーマ：課題制作Ⅱ（改良・改善） 概　要：改善改良を通じて，問題解決力を学ぶ	同　上
第28回	テーマ：論文執筆 概　要：研究成果を論文にまとめる	フィールド調査および課題制作の結果を論文にまとめ，それらを簡潔に説明するための発表資料を作成する。
第29回	テーマ：報告会準備 概　要：報告会のための発表資料をまとめる	同　上
第30回	テーマ：報告会 概　要：これまでの研究成果を発表する	所定時間内に研究成果を簡潔に発表する。

■ 履修上の注意

自主的な調査・研究には，知識と経験の積み重ねが不可欠となります。
毎日最低1時間以上，文献・資料調査，もしくは課題の制作など，予習・復習を継続すること。
なお，2/3以上の出席がない場合には，単位取得できません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(10%)+制作物・論文(50%)+報告会での研究発表(40%)にもとづき評価します。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，制作物・論文・発表資料のフィードバックについては，適宜行います。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

各自の研究テーマや専門分野に応じて指示します。

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

【望ましい学生】
「消費生活研究室（水谷ゼミ）」希望者は，以下の条件を満たすことが求められます。
①「消費者力検定」や「色彩検定UC級」の有資格者もしくは資格取得に意欲的な学生を望みます。
②フィールド調査は，授業の空き時間や休日に実施します。また，課題制作費は自己負担となります。
【質問・相談など】
授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

専門研究Ⅰ

(11176)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（120 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

「被服造形」いわゆる「洋裁」に関する分野を研究課題として主体的に取り組ませ、このための研究手法を教授する。研究テーマの決定から文献調査・縫製方法立案・制作・論文まとめ・発表までの一連のプロセスに沿って個別に指導する。1・2年次に習得した基礎・基本的な縫製知識と技術を応用・発展させていく。進める際には研究室内でグループワークやディスカッションを取り入れる。課題に対する成果は論文にまとめ、専門研究Ⅰの発表会でプレゼンテーションするとともに、専門研究Ⅱへの土台作りを行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・主体的に課題を進め、解決する能力を身につけることができる。						0.125	0.5	0.125	0.25
・縫製に関する知識・技術を向上することができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究の進め方　（3年担任：菊地）	過去の専門研究の内容を振り返る。
第２回　研究室の割り振り・研究倫理　（3年担任：菊地）	過去の専門研究の内容を振り返る。
第３回　課題研究の設定（以下全コマ、菊地）	課題研究案を検討する。以下制作ノートの作成。
第４回　研究計画立案	研究の計画案を検討する。
第５回　文献調査①収集	課題を進める。
第６回　文献調査②熟読	課題を進める。
第７回　文献調査③まとめ、グループワーク	課題をまとめる。
第８回　研究方法計画案	研究方法を検討する。
第９回　材料検討①調査	課題を進める。
第10回　材料検討②準備	材料を揃える。
第11回　縫製方法①調査	課題を進める。
第12回　縫製方法②検討、グループワーク	課題を進める。
第13回　縫製方法③決定、グループワーク	課題をまとめる。
第14回　パターン制作①	課題を進める。
第15回　パターン制作②	課題を完成させる。
第16回　部分縫い・試作①	課題を進める。
第17回　部分縫い・試作②	課題を進める。
第18回　部分縫い・試作③まとめ、グループワーク	課題を進める。
第19回　部分縫い・試作④整理・分析、グループワーク	課題を完成させる。
第20回　論文作成①	課題を進める。
第21回　論文作成②	課題を進める。
第22回　論文作成③	課題を進める。
第23回　論文作成④	論文を完成させる。
第24回　抄録作成	抄録を完成させる。
第25回　専門研究Ⅱ発表会の聴講	レポートを提出する。
第26回　発表準備①資料作成	課題を進める。
第27回　発表準備②資料作成・まとめ、グループワーク	資料を完成させる。
第28回　発表準備③練習	資料を修正する。
第29回　専門研究発表会	発表内容を振り返る。
第30回　専門研究発表反省・まとめ	全体を振り返り、まとめる。

■ 履修上の注意

被服造形実習Ⅰ～Ⅲ、CADⅠ・Ⅱを履修していることが望ましい。
専門研究Ⅱも継続して履修することが望ましい。
作品制作をする場合は各自材料費負担。

■ 成績評価方法・基準

日頃の取り組み・制作ノートを50%、作品（部分縫い・試作）・論文・発表を50%として評価する。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書
研究テーマに沿って指示する。

■ 参考書
研究テーマに沿って指示する。

■ 備考
受講生の研究課題内容・作業状況により、シラバスの内容が変更することがある。また、時間変更や延長をする場合がある。
課題が未提出、実施されない場合には評価の対象としないことがある。
質問等は時間終了時またはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）で受け付ける。

専門研究 I

(11177)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4 (120 + 60)
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊豆田　友　美

■ 授業の概要
被服整理・染色加工・被服材料に関連する分野の研究課題を設定して取り組む．授業では，個々の研究課題に応じて文献調査と実験を行う．さらに研究課題に対する成果は論文にまとめ，発表（課題研究発表会でのプレゼンテーション）をする．このための研究課題の設定，文献調査の手法，実験方法，論文のまとめ方，発表方法等，研究の手法を教授する．研究を進める中で，教員と同研究室学生でのディスカッションやプレゼンテーションを取り入れる．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・研究手法，課題解決能力，応用力，自己管理能力，倫理観等を身につける．	0.1250.5 0.1250.25

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究の進め方　(3年担任:菊池)	過去の専門研究の内容を振り返る．
第２回　研究室の割り振り・研究倫理　(3年担任：菊池)	過去の専門研究の内容を振り返る．
第３回　研究課題の方向性の設定(以下全コマ：伊豆田)	専門研究の課題についてのテーマを考える．
第４回　文献調査①　文献検索および収集	文献調査にとりかかる．
第５回　文献調査②　文献整理	文献調査にとりかかる．
第６回　文献調査③　文献のまとめ	調査した文献を集約する．
第７回　実験計画および実験試料の準備①	研究課題に沿った計画の作成，実験準備を検討する．
第８回　実験①　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第９回　実験②　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第10回　実験③　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第11回　実験④　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第12回　実験⑤　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第13回　実験⑥　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第14回　実験データの整理と考察①	得られたデータの考察を深め，さらなる課題を見出す．
第15回　研究成果の報告①　今度の課題と実験計画立案	前期の実験内容を振り返り，今度の計画を検討する．
第16回　これまでの成果を考慮した上での実験計画および実験試料の準備②	後期の実験計画の作成，実験準備を検討する．
第17回　実験⑧　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第18回　実験⑨　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第19回　実験⑩　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第20回　実験⑪　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第21回　実験⑫　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第22回　実験データの整理と考察②	全体の実験データを整理し，考察する．
第23回　研究成果の報告②	考察の振り返りを行う．
第24回　論文作成①　論文構成，論文作成	課題研究の論文を進める．
第25回　論文作成②　最終校正	課題研究の論文を進める．
第26回　抄録作成	抄録を完成させる．
第27回　課題研究発表資料の作り方	プレゼンテーションの内容を検討する．
第28回　課題研究発表資料の作成指導と発表練習	発表資料を完成させる．
第29回　専門研究発表会	発表内容についての振り返りを行う．
第30回　専門研究発表会の反省，論文の完成	発表会での指摘内容を論文に反映させる．

■ 履修上の注意
安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない．白衣着用・髪を束ねておくこと．
実験計画に沿って積極的に進めること．指定の実験ノートを使用する．

■ 成績評価方法・基準

評価は，①事前準備，実験やディスカッションへの取り組み，各回の実験データ整理等，受講態度に対し50％
②論文・発表に対し50％

■ 教科書
研究課題に応じて指示する．

■ 参考書
研究課題に応じて紹介する．

■ 備考
必修
実験内容や実験状況等の都合により，授業計画の順番や内容，時間の変更と延長等を行う場合がある．
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける．
評価と実験の進め方は授業内で説明する．欠席が1/3を超える，計画した実験を実施し指定期日まで終了しない等の際は，評価の対象としない．

専門研究Ⅰ

(11178)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（120 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
倉　品　有　佳

■ 授業の概要
この授業では現象学分野（より具体的には、ファッション・スタディーズや身体論）の研究指導をします。これまでの学びのなかで培ってきた知識や経験にもとづいて、「ひとはなぜ服を着るのか」や「服とからだの関係」、「ブランドはどんな意味をもつか」等について自らの問いを立て、それに対する答えを関係する文献から探究します。そして、これまで「当たり前」であると考えられていたことを問い直すような、オリジナリティーある知の獲得を目指します。具体的には、まず、指定文献（教科書）を読み合うことをとおして、現象学についての基礎知識を学びます。次に、それぞれの受講生の個別の問題関心にしたがった研究活動を行います（具体的には、図書館で文献を集めることを予定しています）。そして、その成果を論文やプレゼンテーションによって発表します。将来、服飾に携わることを考えており、大学という場所で「服」がもつ意味をじっくり考えてみたいという学生に受講をお勧めします。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1　先行研究の調査に基づき、自らの問いを立てることができる。	0.1250.5 0.1250.25
・2　文献研究の手法によって、研究課題を探究することができる。	
・3　学術的な論文を書くことやプレゼンテーションをすることができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　専門研究のすすめ方（３年担任：菊地先生）	過去の専門研究を振り返る。
第２回　研究室の割り振り・研究倫理（３年担任：菊地先生）	過去の専門研究を振り返る。
第３回　ガイダンス（以下全て、倉品が担当）	自分が考えてみたい、「服」にまつわるテーマを言えるようにする（漠然としたもので構わない）。
第４回　指定文献の輪読	指定文献の第１章第１節から第７節までを読み、疑問点をまとめる。要約担当者は、報告の準備をする。
第５回　指定文献の輪読	指定文献の第１章第８節から第１４節を読み、疑問点をまとめる。要約担当者は、報告の準備をする。
第６回　指定文献の輪読	指定文献の第２章を読み、疑問点をまとめる。要約担当者は、報告の準備をする。
第７回　指定文献の輪読	指定文献の第３章を読み、疑問点をまとめる。要約の担当者は、報告の準備をする。
第８回　指定文献の輪読	指定文献の第４章を読み、疑問点をまとめる。要約の担当者は、報告の準備をする。
第９回　個別研究テーマの決定	指定文献の輪読をふりかえり、自分が研究してみたいテーマを具体的に考える。
第10回　先行研究の調査	自分の研究テーマにかかわる先行研究を調べる。
第11回　先行研究の調査	自分の研究テーマにかかわる先行研究を調べる。
第12回　先行研究の調査	自分の研究テーマにかかわる先行研究を調べる。
第13回　研究課題の設定	先行研究の調査をふりかえり、さらに追及すべき研究課題を考える。
第14回　調査・研究	自分の研究課題にしたがって調査・研究を進める。
第15回　調査・研究	自分の研究課題にしたがって調査・研究を進める。
第16回　調査・研究	自分の研究課題にしたがって調査・研究を進める。
第17回　調査・研究	自分の研究課題にしたがって調査・研究を進める。
第18回　調査・研究	自分の研究課題にしたがって調査・研究を進める。

第19回　調査・研究	自分の研究課題にしたがって調査・研究を進める。
第20回　調査・研究	自分の研究課題にしたがって調査・研究を進める。
第21回　論文作成	論文執筆を進める。
第22回　論文作成	論文執筆を進める。
第23回　論文作成	論文執筆を進める。
第24回　論文作成	論文執筆を進める。
第25回　発表準備	プレゼンテーション資料を作成する。発表の練習をする。
第26回　発表準備	プレゼンテーション資料を作成する。発表の練習をする。
第27回　発表準備	プレゼンテーション資料を作成する。発表の練習をする。
第28回　発表準備	プレゼンテーション資料を作成する。発表の練習をする。
第29回　専門研究発表会	発表会に向けて最終調整をする。
第30回　ふりかえり	専門研究発表会のふりかえりをレポートにまとめる。

■ 履修上の注意
教科書の購入、また、教科書や事前配布資料の予習が必須です。

■ 成績評価方法・基準
・授業内の報告や発言など、平常の取り組み（５０％）
・論文及び研究発表（５０％）

■ 教科書
〔ちぐはぐな身体ーーファッションって何？〕〔鷲田清一〕〔筑摩書房〕〔７０４円〕

■ 参考書
・受講生の問題関心に応じて適宜紹介します。

■ 備考
必修
・質問は、授業時やオフィスアワー、Googleクラスルーム等で応じます。

専門研究Ⅱ

(11179)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（120 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
「教授学習心理学」に関する研究に取り組む。「教える」、「学ぶ」に関する心理学的な問題に取り組む。学習者の理解や認識や課題解決が改善されるように、援助や促進の方法について考えをめぐらし、実験を通して、実証的な考察を行う。前年度の「専門研究Ⅰ」の発展、改善につながるよう、自分で計画を立て、先行研究を踏まえて、新しい知見の発見を目指して研究を行う。成果は、論文にまとめ、学会で発表したり、学術誌に投稿したりできるよう、時間をかけて、熱心に取り組めるように指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・ワードやエクセルを用いてデータの集計と図表の作成，読み取りが独力で行えるようになる ・教授学習心理学の研究に必要な高いレベルのリテラシー（読み書き能力）を身につける ・教授学習心理学の研究に興味をもち、今後の課題を見つけ、新たな仮説を立てられるようになる	0.1250.5　0.1250.25

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（専門研究Ⅱの進め方）	シラバスを読んでおくこと。
第２回　昨年度の振り返り	反省、改善点を話し合う。
第３回　研究テーマについて	興味のあるテーマを出し合う。
第４回　先行研究を入手する	図書館、インターネットを利用する。
第５回　先行研究を要約する	論文の一部にする。
第６回　先行研究について、意見や疑問を出し合う	先行研究を深く理解する。
第７回　実験の準備（仮説を立てる）	実験の構想を立てる。
第８回　実験の準備（教材、評価課題について考える）	自由に意見を述べる。
第９回　実験の準備（冊子をワードで作成する）	分担して取り組む。
第10回　必要な関連する文献を探す	文献を手に入れる。
第11回　実験の準備（冊子の確認と印刷）	実験で使う冊子を作成し、確認する。
第12回　印刷	皆で協力する。
第13回　実験の実施	いつ、どこで、誰に実験をするのか計画する。
第14回　実験の実施	必要な部数を配布し回収する。
第15回　エクセルにデータを入力する	トピック（項目）ごとに入力する。
第16回　エクセルにデータを入力する	群ごとにデータを入力する。
第17回　エクセルを使ってデータを分析する	エクセルを操作し、計算値を求める。
第18回　エクセルを使って表、図を作成する	エクセルを操作し、図表を作る。
第19回　ワードによる論文の作成（目的）	内容について意見を出し合う。
第20回　ワードによる論文の作成（方法）	わかりやすく作成する。
第21回　ワードによる論文の作成（結果）	図表と文章を対応させる。
第22回　ワードによる論文の作成（考察）	全体を振り返り、結果をまとめ、仮説が支持されたかどうか検討し、今後の課題を提示する。
第23回　引用文献、参考文献の記入、確認	本文と対応させて文献リストにまとめる。
第24回　学内での発表の準備（目的、方法）	パワーポイントを使って準備する。
第25回　学内での発表の準備（結果、考察）	パワーポイントを使って準備する。
第26回　学内での発表の準備（発表原稿の作成）	学術的意義の高い内容になるよう心がける。
第27回　学内での発表の準備（予行練習）	時間内に収まるか調べる。
第28回　ワードによる提出論文の作成（表紙、抄録など）	抜け落ちている箇所がないか点検する。
第29回　学内での発表に向けて	分担を決める。
第30回　学内での発表と振り返り	自由に感想を述べ合う。

■ 履修上の注意
毎回，休まず出席すること。欠席する場合は必ず連絡を入れること。先行研究を熟読し，積極的に学び，作業を自主的に進めること。わからない点は相談すること。報告・連絡・相談を忘れずに。単位取得のための義務感から取り組むのではなく

，指導教官との共同研究として，お互いに議論や意見交換しながら，熱心に取り組むこと。とりわけ日本における学校教育のあり方を少しでも良いものに改善するための実証的研究を目指して取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準
研究に対する取り組み30%，論文の内容30%，研究発表の準備と当日のパフォーマンス40%。取り組みや論文については、その都度フィードバックしながら指導します。

■ 教科書
必要に応じて資料（プリント）や文献，論文のコピーを配布する。

■ 参考書
研究課題に応じて指示する。

■ 備考
質問等については，いつでもお答えします。各セッションの中で，または終了時に，あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

専門研究Ⅱ

(11180)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4 (120 + 60)
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

専門研究Ⅰでまとめたレポートを基に、より詳細な文献調査や染色資料調査、作品の制作等を行うことで染色学に関する知見を深めさせる。研究対象は、本学をはじめとする東北地方に残されている染色関連資料とし、各自が設定したテーマに合わせて研究計画を立て、調査・分析方法について指導するが、進捗状況をみて個別指導を行う。さらに、研究の成果をまとめる論文作成と専門研究発表会に向けての効果的なプレゼンテーション資料作成についても指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・文献調査や資料調査など研究の進め方の基本を身につける。						0.125	0.5	0.125	0.25
・これまでに習得した知識・技術を応用できるようになる。									
・計画的に研究を進める能力を身につける。									
・レポートやプレゼンテーション資料作成の基本を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：専門研究Ⅱの説明	専門研究Ⅰの復習
第２回　テーマの確認と今後の進め方	専門研究Ⅰの復習
第３回　文献・資料等の収集 ①	図書館等での文献収集
第４回　文献・資料等の収集 ②	図書館等での文献調査
第５回　文献・資料等の調査 ①	文献を読み進める
第６回　文献・資料等の調査 ②	文献を読み進める
第７回　個別に制作・調査等の指導 ①	時間内に終わらなかった調査等を進める
第８回　個別に制作・調査等の指導 ②	時間内に終わらなかった調査等を進める
第９回　個別に制作・調査等の指導 ③	時間内に終わらなかった調査等を進める
第10回　個別に制作・調査等の指導 ④	時間内に終わらなかった調査等を進める
第11回　個別に制作・調査等の指導 ⑤	時間内に終わらなかった調査等を進める
第12回　個別に制作・調査等の指導 ⑥	時間内に終わらなかった調査等を進める
第13回　個別に制作・調査等の指導 ⑦	時間内に終わらなかった調査等を進める
第14回　個別に制作・調査等の指導 ⑧	制作・調査についての簡単なプレゼン資料を作成する
第15回　制作・調査の結果まとめ（研究室内発表会）	レポートの修正
第16回　個別に制作・調査等の指導 ⑨	時間内に終わらなかった調査等を進める
第17回　個別に制作・調査等の指導 ⑩	時間内に終わらなかった調査等を進める
第18回　個別に制作・調査等の指導 ⑪	時間内に終わらなかった調査等を進める
第19回　論文作成の指導 ①	論文作成を進める
第20回　論文作成の指導 ②	論文作成を進める
第21回　論文作成の指導 ③	論文作成を進める
第22回　論文作成の指導 ④	論文作成を進める
第23回　論文作成の指導 ⑤	論文作成を進め、抄録の原案を書く
第24回　抄録原稿作成指導	抄録を修正し、プレゼンテーション資料を作成する
第25回　プレゼンテーション資料作成指導	プレゼンテーション資料を修正する
第26回　発表練習	指摘箇所に注意して発表の練習をする
第27回　専門研究Ⅱ発表会	発表会での指摘内容を論文に反映させる
第28回　ポスター作成 ①	ポスター原稿作成
第29回　ポスター作成 ②	ポスター作りを完成させる
第30回　専門研究展でのポスターセッション	ポスターセッションの内容を振り返る

■ 履修上の注意

日頃から伝統染織に関しての情報を収集するように心掛けてください。就職活動等で忙しいこともあると思いますが、シラバスの進度を守るよう努力してください。

■ 成績評価方法・基準

平常の取り組みによる評価（研究ノート等）を50%とし、調査の成果・制作品・論文・発表会でのプレゼンテーションを50%として評価します。研究ノートや資料については個別指導時に添削・指導します。

■ 教科書

各自のテーマに沿って指示する。

■ 参考書

各自のテーマに沿って指示する。

■ 備考

文献や資料の調査、作品制作、論文作成などについては、各自で積極的に進め、意欲的に取り組んでください。研究指導の曜日時間は各人と相談し決定します。あわせて、オフィスアワーも活用してください。

専門研究Ⅱ

(11181)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4 (120 + 60)
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

本演習は，消費生活協同組合や調査研究機関の研究員としての実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』の経歴を踏まえ「身体の不自由なヒトの生活の質と衣生活」という視点から，フィールド調査および商品特性に関する研究を指導する。

また，専門的な学びを深めるため『色彩検定UC級』の資格取得を推奨します。

具体的には「専門研究Ⅰ」での調査研究を深化させることにより①身体の不自由なヒトの身体的・感覚的・認知的特性を学び②彼らの衣生活に関してのフィールド調査，③アクセシブルデザイン（Accessible Design:身体の不自由なヒトへの工夫や配慮）について研究を通じて，人間中心設計（Human Centered Design:HCD）の考え方に基づく，モノづくりの知識や技能修得をめざします。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)商品学的視点で，各種商品の特性を理解できる						0.125	0.5	0.125	0.25
・2)身体の不自由なヒトの困難さについて共感的に理解できる									
・3)アクセシブルデザインの意義を理解し，説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　専門研究Ⅰの振り返り(1) 概要：専門研究Ⅰの研究内容から今後の課題を確認	専門研究Ⅰの内容を振り返る。
第２回　専門研究Ⅰの振り返り(2) 概要：専門研究Ⅰの検討課題を分類・整理	同　上
第３回　テーマ：研究課題の設定にむけて 概　要：研究の社会的意義を踏まえ，問題意識を明らかにする	研究の社会的意義（問題意識）を明確にした上で，自らの仮説にもとづき，それらを解決するための先行研究や統計調査をすすめる。
第４回　テーマ：身体の不自由なヒトたちの暮らしⅠ 概　要：色覚特性の理解を通じて，色づかいの学びを深める	同　上
第５回　テーマ：身体の不自由なヒトたちの暮らしⅡ 概　要：高齢者の見え方を理解し，色づかいの学びを深める	同　上
第６回　テーマ：視覚情報のユニバーサルデザインⅠ 概　要：「誰もが見やすい配慮」について学ぶ	同　上
第７回　テーマ：視覚情報のユニバーサルデザインⅡ 概　要：「誰もが見やすい工夫」について学ぶ	同　上
第８回　テーマ：研究の企画・立案 概　要：先行研究を調査し，新たな課題（テーマ）を見つける	同　上
第９回　テーマ：研究Ⅰ(個別テーマ) 概　要：研究目的を明確化し，基礎統計資料を収集・分析する	同　上
第10回　テーマ：研究Ⅱ(個別テーマ) 概　要：仮説(調査内容)を検討する	同　上
第11回　テーマ：研究Ⅲ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査(アンケート・インタビュー)を実施する	フィールド調査を実施し，そこから得られたデータを整理・図表化することにより，これらデータの意味について考察する。
第12回　テーマ：研究Ⅳ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査の集計を実施する	同　上
第13回　テーマ：研究Ⅴ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査の集計結果を分析する	同　上
第14回　テーマ：課題制作の計画策定 概　要：課題制作に向けて，準備に着手する	同　上
第15回　テーマ：前期のまとめ 概　要：課題制作のコンセプトを決定する	フィールド調査の結果から，コンセプトを設定し，課題制作の準備をすすめる。
第16回　テーマ：課題制作Ⅰ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	計画に沿って，課題制作に取り組む。
第17回　テーマ：課題制作Ⅱ（試作）	同　上

	概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	
第18回	テーマ：課題制作Ⅲ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第19回	テーマ：課題制作Ⅳ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第20回	テーマ：課題制作Ⅴ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第21回	テーマ：課題制作Ⅵ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第22回	テーマ：課題制作Ⅶ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第23回	テーマ：課題制作Ⅷ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第24回	テーマ：課題制作Ⅸ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第25回	テーマ：課題制作Ⅹ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第26回	テーマ：実証実験 概　要：実証実験を通じて，課題発見力を学ぶ	実証実験や改善・改良などを経て，商品特性への知見を深める。
第27回	テーマ：課題制作Ⅱ（改良・改善） 概　要：改善改良を通じて，問題解決力を学ぶ	同　上
第28回	テーマ：論文執筆 概　要：研究成果を論文にまとめる	フィールド調査および課題制作の結果を論文にまとめ，それらを簡潔に説明するための発表資料を作成する。
第29回	テーマ：報告会準備 概　要：報告会のための発表資料をまとめる	同　上
第30回	テーマ：報告会 概　要：これまでの研究成果を発表する	所定時間内に研究成果を簡潔に発表する。

■ 履修上の注意

自主的な調査・研究には，知識と経験の積み重ねが不可欠となります。
毎日最低1時間以上，文献・資料調査，もしくは課題の制作など，予習・復習を継続すること。
なお，2/3以上の出席がない場合には，単位取得できません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(10%)+制作物・論文(50%)+報告会での研究発表(40%)にもとづき評価します。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問など]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，制作物・論文・発表資料のフィードバックについては，適宜行います。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

各自の研究テーマや専門分野に応じて指示します。

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

【望ましい学生】
「消費生活研究室（水谷ゼミ）」希望者は，以下の条件を満たすことが求められます。
①「消費者力検定」や「色彩検定UC級」の有資格者もしくは資格取得に意欲的な学生を望みます。
②フィールド調査は，授業の空き時間や休日に実施します。また，課題制作費は自己負担となります。
【質問・相談など】
授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要説明事項】
毎回，受講学生の理解度を確認するとともに，教え方に対しての意見・要望などを踏まえ，授業の順番や内容変更することがありますので，Google_Classroomを毎週確認して下さい。

専門研究Ⅱ

(11182)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（120 + 60）
対象学科：服専4年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

専門研究Ⅰから引き続き、「被服造形」に関する分野の研究課題を設定して取り組ませ、このための研究手法を教授する。研究課題に応じた文献調査・縫製方法立案・制作・論文まとめ・発表までの一連のプロセスに沿って個別に指導する。1・2年次に習得した基礎・基本的な縫製知識と技術を応用・発展させていく。進める際には研究室内でグループワークやディスカッションを取り入れる。課題に対する成果は論文にまとめ、専門研究Ⅱの発表会でプレゼンテーションを行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・主体的に課題を進め、解決する能力を身につけることができる。						0.125	0.5	0.125	0.25
・縫製に関する知識・技術を向上することができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究Ⅱの進め方、研究倫理、専門研究Ⅰの成果と課題	取り組み内容、研究倫理事項を確認する。専門研究Ⅰの内容を振り返る。
第２回　課題研究の設定	課題研究案を検討する。以下制作ノートの作成。
第３回　研究計画立案	研究の計画案を検討する。
第４回　文献調査①収集	課題をまとめる。
第５回　文献調査②熟読	課題を進める。
第６回　文献調査③まとめ、グループワーク	課題を進める。
第７回　研究方法計画案	研究方法を検討する。
第８回　材料検討①調査	課題を進める。
第９回　材料検討②準備	課題を進める。
第10回　縫製方法①調査、検討	材料を揃える。
第11回　縫製方法③決定、グループワーク	課題をまとめる。
第12回　パターン制作①	課題を進める。
第13回　パターン制作②	課題を完成させる。
第14回　部分縫い・試作①	課題を進める。
第15回　部分縫い・試作②	課題を進める。
第16回　作品制作①	課題を進める。
第17回　作品制作②	課題を進める。
第18回　作品制作③	課題を進める。
第19回　作品制作④	課題を進める。
第20回　作品制作⑤まとめ、グループワーク	作品を完成させる。
第21回　論文作成①	課題を進める。
第22回　論文作成②	課題を進める。
第23回　論文作成③	論文を完成させる。
第24回　抄録作成	抄録を完成させる。
第25回　発表準備①資料作成	課題を進める。
第26回　発表準備②資料作成・まとめ	資料を完成させる。
第27回　発表準備③練習	発表の練習をする。
第28回　専門研究発表会	発表内容を振り返る。
第29回　ポスター制作	ポスターを完成させる。
第30回　おわりに：課題研究のまとめ	全体を振り返り、まとめる。

■ 履修上の注意

被服造形実習Ⅰ～Ⅲ、CADⅠ・Ⅱ、専門研究Ⅰを履修していることが望ましい。
作品制作をする場合は各自材料費負担。

■ 成績評価方法・基準

日頃の取り組み・制作ノートを50%、作品（部分縫い・試作）・論文・発表を50%として評価する。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書
研究テーマに沿って指示する。

■ 参考書
研究テーマに沿って指示する。

■ 備考
受講生の研究課題内容・作業状況により、シラバスの内容が変更することがある。また、時間変更や延長をする場合がある。
課題が未提出、実施されない場合には評価の対象としないことがある。
質問等は時間終了時またはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）で受け付ける。

専門研究Ⅱ

(11183)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（120 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊豆田　友　美

■ 授業の概要
被服整理・染色加工・被服材料に関連する分野の研究課題を設定して取り組む．授業では，個々の研究課題に応じて文献調査と実験を行う．さらに研究課題に対する成果は論文にまとめ，発表（課題研究発表会でのプレゼンテーション）をする．このための研究課題の設定，文献調査の手法，実験方法，論文のまとめ方，発表方法等，研究の手法を教授する．研究を進める中で，教員と同研究室学生でのディスカッションやプレゼンテーションを取り入れる．

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・研究手法，課題解決能力，応用力，自己管理能力，倫理観等を身につける．						0.125	0.5	0.125	0.25

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究Ⅱの進め方・研究倫理	専門研究Ⅰの振り返りを行う．
第２回　研究課題の方向性の設定	専門研究Ⅱの課題についてのテーマを考える．
第３回　実験計画の作成	研究課題に沿った計画を検討する．
第４回　文献調査①　文献検索および収集	文献調査にとりかかる．
第５回　文献調査②　文献整理	文献調査にとりかかる．
第６回　文献調査③　文献のまとめ	調査した文献を集約する．
第７回　実験試料の準備	実験に必要な試料について検討する．
第８回　実験①　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第９回　実験②　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第10回　実験③　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第11回　実験④　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第12回　実験⑤　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第13回　実験⑥　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第14回　実験データの整理と考察①	得られたデータの考察を深め，さらなる課題を見出す．
第15回　研究成果の報告①　今度の課題と実験計画立案	前期の実験内容を振り返り，今度の計画を検討する．
第16回　これまでの成果を考慮した上での実験計画および実験試料の準備	後期の実験計画の作成，実験準備を検討する．
第17回　実験⑧　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第18回　実験⑨　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第19回　実験⑩　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第20回　実験⑪　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第21回　実験⑫　研究課題に応じた内容	計画に沿って進め，実験毎にデータを整理する．
第22回　実験データの整理と考察②	全体の実験データを整理し，考察する．
第23回　研究成果の報告②	考察の振り返りを行う．
第24回　論文作成①　論文構成，論文作成	課題研究の論文を進める．
第25回　論文作成②　最終校正	課題研究の論文を進める．
第26回　抄録作成	抄録を完成させる．
第27回　課題研究発表資料の作り方	プレゼンテーションの内容を検討する．
第28回　課題研究発表資料の作成指導と発表練習	発表資料を完成させる．
第29回　専門研究発表会	発表内容についての振り返りを行う．
第30回　専門研究発表会の反省，論文の完成	発表会での指摘内容を論文に反映させる．

■ 履修上の注意
安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない．白衣着用・髪を束ねておくこと．
実験計画に沿って積極的に進めること．指定の実験ノートを使用する．

■ 成績評価方法・基準
評価は，①事前準備，実験やディスカッションへの取り組み，各回の実験データ整理等，受講態度に対し50％
②論文・発表に対し50％

■ 教科書
研究課題に応じて指示する.

■ 参考書
研究課題に応じて紹介する.

■ 備考
必修
実験内容や実験状況等の都合により，授業計画の順番や内容，時間の変更と延長等を行う場合がある.
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける.
評価と実験の進め方は授業内で説明する．欠席が1/3を超える，計画した実験を実施し指定期日まで終了しない等の際は，評価の対象としない.

健 康 栄 養 学 専 攻 科 目

社会福祉論

(11201)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化が一層進みつつある我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）や現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・社会福祉の理念や概念に関する知識を身につける。		0.3	0.4		0.3				
・社会福祉に関連する法・制度に関する知識を身につける。									
・社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは	配布プリントをよく読み、この授業で学習内容をまとめておく（次回確認）。
第２回　日本における社会福祉の歴史と発展	配布プリントをよく読み、日本の社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　諸外国における社会福祉の歴史と主な制度	配布プリントをよく読み、諸外国における社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　諸外国における社会福祉の現状と課題	配布プリントをよく読み、諸外国における社会福祉の現状と課題について内容をまとめておく（次回提出）。
第５回　社会福祉のニーズとは	配布プリントをよく読み、ニーズについて内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　社会福祉に携わる専門職	配布プリントをよく読み、専門職について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　ボランティア	配布プリントをよく読み、ボランティアの概念や歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　社会福祉援助技術	配布プリントをよく読み、援助技術の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　障害者福祉①概念とその歴史	配布プリントをよく読み、障害者福祉の概念と歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　障害者福祉②身体障害者補助犬法	配布プリントをよく読み、身体障害者補助犬法の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　高齢者福祉	配布プリントをよく読み、介護を含む高齢者福祉の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　児童福祉	配布プリントをよく読み、児童福祉の歴史と枠組について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　子どもの権利条約	配布プリントをよく読み、子どもの権利条約について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　貧困問題と社会福祉	配布プリントをよく読み、貧困とその課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート	配布プリントをよく読み、社会福祉の展望及びこれまでの講義内容の振り返りを行う。
第16回　試験	筆記試験に向けた復習を行う。

■ 履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。

・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（60%）、平常点（40%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔新 社会福祉とは何か〕〔大久保秀子著〕〔中央法規〕〔1650円〕

■ 参考書
・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付ける。

公衆衛生学Ⅰ

(11202)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学Ⅰでは、主に公衆衛生の概念や歴史といった概要の他、疾病と予防対策、保健衛生統計等の意義と役割、及び社会と健康について概説する。また、医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生との関係、そして各ライフステージにおける公衆衛生活動とその現状ついても合わせて説明する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・公衆衛生の概念や歴史に関する知識を身につける。		0.3	0.4		0.3				
・ライフステージ・分野毎の公衆衛生活動に関する知識を身につける。									
・公衆衛生の状況や課題を把握する力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、公衆衛生概要：健康の概念	教科書をよく読み、この授業で扱う内容についてまとめておく（次回確認）。
第２回　公衆衛生概要：公衆衛生の概念と歴史	教科書をよく読み、公衆衛生の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　主要疾患の疫学と予防対策：生活習慣病の概念	教科書をよく読み、生活習慣病の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　主要疾患の疫学と予防対策：主要部位のがん、その他	教科書をよく読み、悪性腫瘍や循環器系疾患等について内容をまとめておく（次回確認）。
第５回　公衆衛生に関する統計資料：保健統計	教科書をよく読み、保健統計の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　公衆衛生に関する統計資料：人口動態統計、その他	教科書をよく読み、人口動態統計等について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　健康・疾病の測定と評価：疫学の概念	教科書をよく読み、疫学の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　健康・疾病の測定と評価：疫学の応用	教科書をよく読み、疫学の応用について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　環境と健康：生態系と人間生活	教科書をよく読み、人間の生活と生態学の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　環境と健康：環境汚染と健康	教科書をよく読み、環境汚染や公害について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　国民健康づくり対策	教科書をよく読み、健康づくり運動について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　学校保健	教科書をよく読み、学校保健行政の概要について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　母子保健	教科書をよく読み、母子保健行政の概要について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　産業保健	教科書をよく読み、産業保健の概要について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　高齢者保健、まとめ	教科書をよく読み、高齢者保健及びこれまでに取り上げた講義内容の振り返りを行う。
第16回　試験	筆記試験に向けた復習を行う。

■ 履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（60%）、平常点（40%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。

・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔衛生・公衆衛生学 2026年版〕〔熊谷優子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3000円:税別〕

■ 参考書
・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付ける。

公衆衛生学Ⅱ

(11203)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学Ⅱでは、健康状態・疾病の測定の評価をはじめ、生活習慣の現状とその対策、保健・医療・福祉・介護等の制度、日本や海外の公衆衛生の取り組み、そして、国際的な健康戦略であるヘルスプロモーションの概念等について説明を行う。また、生命と安全に関わる防災対策と公衆衛生との関連についても概説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・公衆衛生に関する法・制度に関する知識を身につける。		0.3	0.4		0.3				
・公衆衛生行政・事業と人々の健康状態に関する知識を身につける。									
・公衆衛生の状況や課題を把握し、考える力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　健康・疾病の測定と評価：疫学調査・デザインの解釈	教科書をよく読み、疫学調査とデザインについて内容をまとめておく（次回確認）。
第２回　健康・疾病の測定と評価：リスクアナリシス	教科書をよく読み、リスクアナリシスについて内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　健康・疾病の測定と評価：疫学研究と倫理	教科書をよく読み、疫学の倫理綱領について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　生活習慣の現状と対策：保健行動の概念とモデル	教科書をよく読み、保健行動の種類について内容をまとめておく（次回確認）。
第５回　生活習慣の現状と対策：保健行動のグループワーク	教科書をよく読み、グループワークの結果について内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　公衆衛生の法規・制度（衛生行政）	教科書をよく読み、衛生行政について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　保健と医療：社会保障の概念	教科書をよく読み、現在までの社会保障について内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　保健と医療：医療制度と保健	教科書をよく読み、現在までの医療制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　福祉と介護：介護保険制度	教科書をよく読み、介護保険制度の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　福祉と介護：保健・医療・福祉・介護の連携	教科書をよく読み、保健医療福祉の連携について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　環境保健、国際保健	教科書をよく読み、環境保健と国際保健のそれぞれの概念とシステムについて内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　精神保健	教科書をよく読み、精神保健の歴史と現在の制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　災害と公衆衛生	教科書をよく読み、災害と公衆衛生活動について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　ヘルスプロモーション	教科書をよく読み、ヘルスプロモーションの概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　まとめ	教科書をよく読み、公衆衛生活動と制度について、これまで学んだ内容をまとめておく。
第16回　試験	重要箇所を中心に筆記試験に向けて復習する。

■ 履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（60%）、平常点（40%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。

・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔衛生・公衆衛生学　2026年度〕〔熊谷優子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3000円:税別〕

■ 参考書
・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付ける。

健康管理概論

(11204)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要

現在の日本が世界的にもトップクラスの長寿国となった実情を踏まえ、今後の健康管理のあり方について教授する。具体的には、これまでの日本における疾病構造の変遷について学習すると共に、特に近年における悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、肥満といったいわゆる非感染性疾患（生活習慣病）が増加している現実及びその主な要因等について解説する。また、各種疾病を含む健康現象についても概説し、私たちの健康度を維持増進させるための学習と実践の意義について述べる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・「健康とは何か」を説明できる基礎的知識を身につける。 ・平均寿命より健康寿命こそが重要であることを認識する。 ・健康寿命の延伸には自助努力が重要であることを認識する。 ・健康情報の利用・管理法等についても学び、専門的職業人になるための実力を身につける。	0.25 0.25 0.4　　0.1

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「健康管理概論」概説（ガイダンス）	資料をよく読み、この授業の学習内容についてまとめておく（次回確認）。
第２回　「健康的痩身方法についての実証的研究」について	資料をよく読み、ダイエットについて内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　「日本人の平均寿命延長の主な要因」について	資料をよく読み、平均寿命の変遷について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　「少子高齢化の日本の姿」について	資料をよく読み、少子高齢社会の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第５回　「現代の日本における健康の姿」について	資料をよく読み、健康の概念と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　「日本人に多い疾病及び死因の今昔」について	資料をよく読み、日本の死因と罹患の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　「ライフスタイルの現状と課題」について	資料をよく読み、ライフスタイルについて内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　「メタボリックシンドロームとその予防」について	資料をよく読み、メタボリックシンドロームの概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　「ロコモティブシンドロームとその予防」について	資料をよく読み、ロコモティブシンドロームの概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　「転ばぬ先の杖（骨）づくり」について	資料をよく読み、骨粗鬆症について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　「総合保健活動としての第一次～第三次予防」について	資料をよく読み、公衆衛生や保健における予防の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　「性と健康」（STD及びHIV／AIDS等を含む）について	資料をよく読み、感染症全般について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　「冬場に多いヒートショックとその予防」について	資料をよく読み、ヒートショックの仕組みについて内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　「今後の栄養・運動・休養」について	資料をよく読み、栄養・運動・休養について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　まとめ	資料をよく読み、これまで学んだ内容についてまとめておく（次回試験）。
第16回　試験、試験問題の解説	重要箇所を中心に筆記試験に向けて復習を行い、受験後は解説を踏まえて自己評価を行う。

■ 履修上の注意

・遅刻・欠席はしないこと。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（60%）、平常点（40%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔社会・環境と健康　健康管理概論　第4版〕〔東あかね他編〕〔講談社〕〔2800円:税別〕
・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 参考書
〔衛生・公衆衛生学　2024年版〕〔熊谷優子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3000円:税別〕

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付ける。

解剖生理学Ⅰ

(11205)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

■ 授業の概要
生命現象をなすヒトの体の構造（解剖学）と機能（生理学）とは表裏一体である。つまり生命現象を理解するには、解剖学と生理学を統合的に関連付けて学習する事が望ましい。この授業では臨床医としての経験から、実践的な医療現場での事例や最新医学の話題なども紹介して、健康と栄養に関連する基礎的な知識の修得を目指す。管理栄養士が必ず遭遇する嚥下（飲み込み）の仕組みについても講義する。解剖生理学は領域が広範であるため、１年後期の解剖生理学Ⅰと２年前期の解剖生理学Ⅱに分けてある。解剖生理学Ⅰでは総論、嚥下の仕組み、感覚器系、運動器系、神経系、尿路・生殖器系について解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。	0.2		0.4	0.2		0.2			
・人体の構造と機能が破綻した病気との関連を理解できる。									
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション 嚥下（飲み込み）の仕組み	参考書第1章を読み不明点を質問
第２回　人体の基本構造（細胞・組織など）	教科書第１章 1-4を読み、不明点は質問
第３回　人体の基本構造（細胞・組織など）	教科書第１章 5-6を読み、不明点は質問
第４回　感覚器系（総論・各論：味覚・嗅覚）	教科書第１２章 1-3を読み、不明点は質問
第５回　感覚器系（各論：視覚・聴覚・平衡覚）	教科書第１２章 4-5を読み、不明点は質問
第６回　感覚器系（各論:皮膚感覚・摂食の調節）、皮膚組織	教科書第１２章 6-7、第１４章を読み、不明点は質問
第７回　骨格系（総論、骨の構造と機能、骨の成長と骨吸収など）	教科書第８章 1-4を読み、不明点は質問
第８回　筋肉系（骨格筋の構造と機能、赤筋と白筋）	教科書第９章 2-3を読み不明点は質問
第９回　運動器系（筋肉系の構造と機能）	教科書第９章 1を読み、不明点は質問
第10回　神経系（総論、中枢神経）	教科書第１１章 1-2を読み、不明点は質問
第11回　神経系（末梢神経　脳の血管支配、ニューロン）	教科書第１１章 3-5を読み、不明点は質問
第12回　神経系（感覚神経・運動神経・自律神経）	教科書第１１章 6-8を読み、不明点は質問
第13回　免疫系	教科書第１３章を読み、不明点は質問
第14回　生殖器系（各生殖器など）	教科書第７章 1-3を読み不明点は質問
第15回　生殖器系（女性の性周期、妊娠と分娩）	教科書第７章 4-5を読み、不明点は質問

■ 履修上の注意
解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である。
事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。
小テストや課題にgoogle classroomを利用する。PCもしくはスマートフォンをネットに接続できる環境を準備しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準
授業中に行う授業内容理解度確認のための小テスト（80%程度）とレポート提出等の受講状況（20%程度）で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書
〔栄養科学イラストレイテッド　解剖生理学　第３版　人体の構造と機能〕〔志村二三夫、岡純、山田和彦編〕〔羊土社〕〔3，190円〕

■ 参考書
〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて　改訂第２版〕〔上羽瑠美著〕〔学研プラス〕〔3，960円〕

■ 備考
必修

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時・オフィスアワーもしくは電子メールで受け付ける。

解剖生理学Ⅱ

(11206)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
中　尾　真　理

■ 授業の概要

生命現象をなすヒトの体の構造（解剖学）と機能（生理学）とは表裏一体である。つまり生命現象を理解するには、解剖学と生理学を統合的に関連付けて学習する事が望ましい。この授業では臨床医師としての経験から医療現場での事例なども紹介し、健康と栄養に関連する基礎的な知識の修得を目指す。授業では過去の国試の出題例にも言及する。解剖生理学は領域が広範であり解剖生理学Ⅰと解剖生理学Ⅱに分けてある。管理栄養士が臨床で必要とする嚥下についての知識と共に、解剖生理学Ⅱは循環器系、呼吸器系、消化器系、腎・尿路系、血液・免疫系、内分泌系などを解説する。本授業は完全双方向オンラインとする。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。	0.15 0.15 0.7
・人体の構造と機能が破綻した「病気」との関連を理解できる。	
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　嚥下とそれに必要な器官	参考書第１章を読み、不明点は質問
第２回　循環器系（循環器構成、心臓、心電図、心臓周期）	教科書第４章 1-4を読み不明点は質問
第３回　循環器系（血管の構成、血圧、リンパ管系、循環系）	教科書第４章 5-8を読み不明点は質問
第４回　呼吸器系（総論・呼吸器系の構造）	教科書第５章 1-4を読み不明点は質問
第５回　呼吸器系（呼吸器系の機能など）	教科書第５章 5-8を読み不明点は質問
第６回　消化器系（総論、口、咽頭、食道）	教科書第２章 1-4を読み不明点は質問
第７回　消化器系（胃、小腸、大腸）	教科書第２章 4-5を読み不明点は質問
第８回　消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓、消化の仕組み）	教科書第２章 6を読み不明点は質問
第９回　嚥下障害と嚥下調整食	参考書第３章と第６章を読み不明点は質問
第10回　腎・尿路系（総論、腎臓の構造）	教科書第６章 1-2を読み不明点は質問
第11回　腎・尿路系（腎臓の機能）	教科書第６章 3-5を読み不明点は質問
第12回　血液（血液総論、骨髄、血球分化、赤血球など）	教科書第３章 1-6を読み不明点は質問
第13回　血液(血漿蛋白　凝固)	教科書第３章 4-7を読み不明点は質問
第14回　内分泌系（総論）	教科書第１０章 1-4を読み不明点は質問
第15回　内分泌系（各論）	教科書第１０章 5-9を読み不明点は質問

■ 履修上の注意

解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である。
事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。
小テストや課題にgoogle classroomを利用する。PCもしくはスマートフォンをネットに接続できる環境を準備しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

授業中に行う授業内容理解度確認のための小テスト（80%程度）とレポート提出等の受講状況（20%程度）で評価する。
また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

〔解剖生理学－人体の構造と機能　栄養科学イラストレイテッド第３版〕〔志村不二夫、岡純、山田和彦　編〕〔羊土社〕〔3，190円＋税〕

■ 参考書

〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて　改訂第２版〕〔上羽瑠美著〕〔学研プラス〕〔3，960円〕
オープンな教育リソース
嚥下スクリーニングテスト（東北大学病院嚥下治療センター）　ICU用　https://www.youtube.com/watch?v=p0kML5py56s
一般病棟用　https://www.youtube.com/watch?v=Eyd8MJqRPbw
心臓の３Dアニメーション_heartbeat3D https://www.youtube.com/watch?v=0qzy_kvxrDo
呼吸時の胸郭の動き　https://studio-exflow.com/pilates/pilates32/

■ 備考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。本授業は完全双方向オンラインとする。

質問等は授業中（オンライン）または電子メールで受け付ける。欠課届けは担当助手に提出することとする。その際の欠課理由は学生要覧で認められたもののみとする。病欠の場合には医療機関受診の上診断書持参を原則とする。

運動生理学

(11207)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
本授業では、運動に伴う生理的な諸現象について学習すると共に、現代人の多くが罹患する可能性がある各種生活習慣病の予防及び要介護予防等に必要な運動処方を作成するための基礎的知識について教授する。そして、対象者（運動実施者）の身体的特性等に応じた適切な運動処方を作成できるまでの能力を身につけさせる。加えて受講者個々人に対しても、自分に合った運動やスポーツを積極的・継続的に実践していく人材に成長していけるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・「運動生理学」についての基礎的知識を理解する	0.2	0.2	0.5		0.1				
・今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　概論／暑熱環境①（気温・汗）	熱中症について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。ルーブリックを配付する。
第２回　暑熱環境②（水分補給）	スポーツ飲料について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第３回　運動とエネルギー代謝	ATPについて予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第４回　呼吸循環器系と持久力①（理論）	心臓や肺について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第５回　呼吸循環器系と持久力②（実際）	同上
第６回　骨格筋の種類と筋力①（理論）	筋肉や骨について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第７回　骨格筋の種類と筋力②（実際）	同上
第８回　前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第９回　健康づくりのための身体活動基準2013	身体活動基準は厚生労働省のHPで生の資料がみられるので予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第10回　スポーツと栄養学①（理論）	五大栄養素について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第11回　スポーツと栄養学②（実際）	同上
第12回　糖尿病の運動療法	GLUT4について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第13回　ライフステージ別の運動①（幼児期～成人期）	世代別の栄養問題について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第14回　ライフステージ別の運動②（高齢期）	同上
第15回　後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意
応用栄養学、基礎栄養学、生化学、解剖生理学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ルーブリック）を一律0%としますので、単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準
ミニテストやレポート等・・・70%
受講態度（ルーブリック）・・・30%（例外を除き六割を原点とした加点法とする）
成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
無し

■ 参考書
［スポーツ栄養学］［岩田純編著］［アイ・ケイ　コーポレーション］［2530円］

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

微生物学

(11208)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
米　山　　裕

■ 授業の概要

我々ヒト（人）は様々な微生物（細菌、真菌、ウイルスなど）との相互作用を通して健康な生活を営んでいる。身の周りの微生物は、発酵食品・醸造製品・医薬品などの製造や排水処理に利用されており、様々な面で人々の生活に深く関わっている。一方、微生物のなかには病気の原因となる病原微生物も存在する。本講義では、このように人の生活と密接に関連している目に見えない微生物とはどんな生物なのか、微生物の分類、細菌の基本的な取り扱い法、細菌の構造と機能および増殖様式を学び、生物としての微生物を理解する。さらに、病原体に対する宿主である人の防御機構（免疫）について学ぶ。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・微生物とは何か、その基本的な特徴を学ぶ。	0.1	0.2	0.6		0.1				
・微生物と人間との関わり方について学ぶ。									
・病原微生物に対する人の防御機構（免疫）について理解する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　微生物学の歴史（生物の誕生と生命進化）	教科書の関連事項を事前学習し、講義内容を復習して微生物の発見から微生物学の誕生とその発展を理解する。
第２回　微生物の基礎①（微生物の構造、細菌の構造による分類）	教科書の関連事項を事前学習し、微生物の構造についてその特徴を復習しヒト（動物）の細胞との違いを理解する。
第３回　微生物の基礎②（微生物の観察、染色）	教科書の関連事項を事前学習し、微生物の観察法および染色法を理解する。
第４回　微生物の基礎③（細菌の増殖、培養）	教科書の関連事項を事前学習し、細菌の増殖の様式と培養方法について復習し理解する。
第５回　微生物の基礎④（滅菌、殺菌）	教科書の関連事項を事前学習し、微生物の取り扱い法として滅菌、殺菌について復習して理解する。
第６回　微生物の基礎⑤（発酵と呼吸）	教科書の関連事項を事前学習し、微生物の発酵と呼吸について復習しその特徴を理解する。
第７回　微生物の基礎⑥（遺伝情報発現）	教科書の関連事項を事前学習し、生物の生存に必須である遺伝情報について復習し理解する。
第８回　ウイルス（ウイルスの構造と種類、生活環）	教科書の関連事項を事前学習し、ウイルスの構造と種類、生活環について復習し、その特徴とライフサイクルシステムを理解する。
第９回　微生物の利用（発酵食品、調味料などの製造）	教科書の関連事項を事前学習し、微生物の代謝能力を利用した食品製造について復習し、微生物の有用性を理解する。
第10回　病原微生物と感染症①（人類の歩みと感染症）	教科書の関連事項を事前学習し、病原微生物と感染症について復習しその特徴を理解する。
第11回　病原微生物と感染症②（食中毒）	教科書の関連事項を事前学習し、病原微生物と食中毒について復習し、食中毒の種類と特徴を理解する。
第12回　感染症に対する生体防御機構①（免疫学の歴史と概要）	教科書の関連事項を事前学習し、免疫学の誕生と発展について復習し免疫の基礎を理解する。
第13回　感染症に対する生体防御機構②（自然免疫と獲得免疫、ワクチン）	教科書の関連事項を事前学習し、自然免疫と獲得免疫について復習し、ワクチンが有効である原理を理解する。
第14回　感染症に対する生体防御機構③（アレルギー）	教科書の関連事項を事前学習し、アレルギーの種類について復習し、生体防御機構としてのアレルギーとそれによる病態を理解する。
第15回　正常細菌叢と健康（プロバイオティクス、プレバイオティクス）	教科書の関連事項を事前学習し、ヒトと共生している正常細菌叢について復習し宿主との相互作用

	を理解する。
第16回　試験	授業で学んだことを総復習して試験に臨む。

■ 履修上の注意
微生物学の講義は生物学の基礎知識が必要なので、本科目と関連性がある生物学に関する科目を復習するようにしてください。

■ 成績評価方法・基準
平常点（授業への出席と取り組み等）50点、期末試験50点とし総合評価します。

■ 教科書
栄養科学イラストレイテッド　「微生物学」　改訂第2版
大橋典男　編、羊土社（2023年）
3，190円（税込み）
必要に応じて資料を配付します。

■ 参考書
関連する参考書について授業のなかで紹介する予定です。

■ 備考
授業の進捗状況により、授業計画（順番）を変更することがあります。
質問は授業終了後およびメールアドレス（h.yoneyama@tsb.mishima.ac.jp）にて受け付けます。

生化学Ⅰ

(11209)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
ヒトの生体を構成する、細胞の構造と細胞内に存在する細胞内小器官の種類と機能について説明する。また、生体構成分子であるとともに食品の主たる構成成分で主要栄養素でもあるタンパク質・糖質・脂質の構造と化学的性質について詳説する。さらに、生体内の物質変化であり、栄養素の体内での機能発現の機構である代謝を理解する最初の段階として、代謝反応を司る酵素とはどのようなものであるか、また、酵素の種類・性質と機能について説明する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・細胞の構成の概要を説明できるようにする ・タンパク質・脂質・糖質等の種類、構造と化学的性質を説明できるようにする ・酵素とは何か、およびその性質を説明できるようにする	0.2　0.2　0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　生化学とは、細胞の構造	教科書の第１章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　細胞内小器官の機能、生体構成成分	教科書の第１章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　アミノ酸とは、アミノ酸の種類	教科書の第２章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　アミノ酸の性質、タンパク質とは	教科書の第２章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　タンパク質の高次構造、タンパク質の種類	教科書の第２章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　糖質とは	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　単糖類・オリゴ糖類の種類と性質	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　〔中間試験〕、多糖類の種類・構造と性質	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、脂質とは、脂質の種類	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　脂肪酸の特徴と種類、単純脂質の種類・構造と性質	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　複合脂質の種類・構造と性質	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　誘導脂質の種類・構造と性質	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解

	法をよく理解する。
第13回　酵素とは	教科書の第３章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　酵素の補因子	教科書の第３章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　〔期末試験〕、酵素の分類と性質	教科書の第３章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、酵素活性の調節	教科書の第３章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意
基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。

■ 教科書
わかりやすい生化学、林寛　他、三共出版、2，400円＋税

■ 参考書
なし

■ 備考
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

生化学Ⅱ

(11210)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要

生化学Ⅰでの学習内容を基礎として、糖質・脂質・アミノ酸のヒト体内での様々な代謝を、エネルギー代謝を中心に詳説する。さらに、これらの物質から生体で利用できるエネルギーを取り出す機構について説明する。また、様々な生命現象の基本となる遺伝情報を担う情報高分子の構造と機能および遺伝情報の発現の仕組みについて説明する。加えて、ヒトの身体の生理機能の維持の基本となる生体内の情報伝達と恒常性維持の機構について説明する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・糖質･脂質･タンパク質の代謝および生体エネルギーの利用の仕組みを説明できる。 ・情報高分子の構造と機能を説明できる。 ・生体内の情報伝達と生体の恒常性を説明できる。	0.2　0.2　0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　解糖系	教科書の第６章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　クエン酸回路	教科書の第６章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　グリコーゲン合成経路、ペントースリン酸経路	教科書の第６章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　生体内の酸化還元反応とエネルギー	教科書の第５章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　電子伝達系	教科書の第５章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　脂肪酸のβ酸化、ケトン体の生成	教科書の第７章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　脂肪酸生合成、TG・リン脂質の合成	教科書の第７章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　〔中間試験〕、コレステロール代謝	教科書の第７章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、血漿リポタンパク質	教科書の第７章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　アミノ酸代謝の概要、尿素サイクル	教科書の第８章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　アミノ酸代謝各論	教科書の第８章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　エネルギー分子の代謝の相互関係	教科書の第８章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解

	法をよく理解する。
第13回　核酸と遺伝子	教科書の第９章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　タンパク質の生合成	教科書の第９章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　〔期末試験〕、細胞間・細胞内の情報伝達	教科書の第10章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、生体内の恒常性の維持	教科書の第10章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意
基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。

■ 教科書
わかりやすい生化学、林寛　他、三共出版、2，400円＋税

■ 参考書
なし

■ 備考
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

病理学

(11211)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

■ 授業の概要
病理学は医学を正しく理解するために、基本となる重要な学問である。現代医療が専門化・細分化する中、次年度に履修する臨床医学概論をより深く理解するために、病理学を学習して大局的に疾病の全体像を把握する事が求められる。主に病理学の総論としての病因、細胞の異常、嚥下障害、循環障害、代謝異常、感染症、免疫、炎症、腫瘍について、ヒトの病気の成り立ちに興味を持ちながら、体系立てて理解できることを目指す。管理栄養士が必ず遭遇する嚥下障害についての基礎知識とともに、臨床医師の経験から実際の臨床現場での事例も交え、幅広く学習し、健康と栄養に関連する専門的な基礎知識を修得できるように講義を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・病理学の基本的知識を学び身につける。		0.2	0.5				0.3		
・ヒトの病気の成り立ちを体系的に理解できるようになる。									
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション、病気と病理学（内因、外因）	教科書第１章を読み、不明点は質問
第２回　嚥下障害について	参考書第1章第3章を読んで、不明点は質問
第３回　細胞の異常（細胞構造と細胞傷害、新陳代謝）	教科書第２章ABを読み、不明点は質問
第４回　細胞の異常（正常細胞の新陳代謝、再生・修復など）	教科書第２章CDを読み、不明点は質問
第５回　老化	教科書第６章を読み、不明点は質問
第６回　循環器系の働き	教科書第４章Aを読み、不明点は質問
第７回　循環障害と主な疾患	教科書第４章BCを読み、不明点は質問
第８回　代謝異常（総論、糖尿病）	教科書第５章A～Cを読み、不明点は質問
第９回　代謝異常（脂質・核酸・蛋白など）	教科書第５章D～Hを読み、不明点は質問
第10回　感染	教科書第７章A～Dを読み、不明点は質問
第11回　免疫（免疫機構、免疫監視機構、免疫のしくみと働き）	教科書第８章Aを読み、不明点は質問
第12回　免疫異常（アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全など） エピペンの模型を用いた実習	教科書第８章B～Fを読み、不明点は質問
第13回　炎症（炎症の正体、原因、基本病変、分類など）	教科書第９章A～Dを読み、不明点は質問
第14回　腫瘍（癌の正体、分類、癌の特性）	教科書第１０章A-Cを読み、不明点は質問
第15回　腫瘍（癌の診断、治療）	教科書第１０章DEを読み不明点は質問

■ 履修上の注意
以前に学習した生物学、解剖生理学に関連する分野を復習しておくことが望ましい。
授業は教科書に沿って講義を進める。小テストや課題にgoogle classroom を利用する。PCもしくはスマートフォンに接続できる環境を準備しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準
授業中に行う授業内容理解度確認のための小テスト（80%程度）とレポート提出等の受講状況（20%程度）で評価する。試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書
［なるほどなっとく！病理学 改訂２版］〔小林正伸　著〕〔南山堂〕〔2，200円＋税〕

■ 参考書
〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて　改訂第２版〕〔上羽瑠美著〕〔学研プラス〕〔3，960円〕
オープンな教育リソース：
嚥下スクリーニングテスト　東北大学病院嚥下治療センター　一般病棟用　https://www.youtube.com/watch?v=Eyd8MJqRPbw

■ 備考
都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。

質問等は授業終了時・オフィスアワーもしくは電子メールで受け付ける。
本科目では、学修内容に合わせ、エピペンの模型を用いた実習を行う(active learning)。

解剖生理学実験

(11212)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：健専３年
授業形態：実験　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
解剖生理学や栄養学で学んだ知識を基に、確認・体験する事を目的とする。具体的には、身体計測、尿・血液に関する実験、味覚に関する実験について説明し、基本的な実験手技を取得できるように指導する。尿・血液の健康に関する指標や、栄養素の代謝に関する指標を測定する事により、病態時と健康時の指標を理解させる。また、人体の解剖生理に関して、循環器系や消化器系をはじめとして、身体を構成する組織の構造・機能を説明し、理解させる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・身体のしくみについての理解を深める	0.1　0.2　0.2　0.2　0.3
・実験の基本的な手技を習得する	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに／人体スケッチの実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの概論回の予習。事後学習としてレポート作成。ルーブリックを配付し、成績評価について説明する。
第２回　脳・神経・感覚に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの脳・神経回の予習。事後学習としてレポート作成。
第３回　味覚に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの味覚回の予習。事後学習としてレポート作成。
第４回　体表面積・基礎代謝に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの体表面積回の予習。事後学習としてレポート作成。
第５回　呼吸・循環器に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの呼吸循環器回の予習。事後学習としてレポート作成。
第６回　運動器に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの運動器回の予習。事後学習としてレポート作成。
第７回　体温・疲労に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの体温回の予習。事後学習としてレポート作成。
第８回　血液に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの血液回の予習。事後学習としてレポート作成。
第９回　尿に関する実験①（定性試験）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
第10回　尿に関する実験②（クレアチニンの定量）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
第11回　尿に関する実験③（尿酸の定量）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
第12回　組織（筋肉など）に関する実験①（生体内ビタミンの局在）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの組織回の予習。事後学習としてレポート作成。
第13回　組織（筋肉など）に関する実験②（生体内グリコーゲンの局在）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの組織回の予習。事後学習としてレポート作成。
第14回　人体の解剖生理1　消化器系：DVD等を供覧し、レポートを作成	解剖生理学ⅠⅡを復習し、授業時の記録ノートから詳細なレポートを作成する
第15回　人体の解剖生理2　免疫系：DVD等を供覧し、レポートを作成	解剖生理学ⅠⅡを復習し、授業時の記録ノートから詳細なレポートを作成する

■ 履修上の注意
実験のため、出席して体験し、実験記録（ノート）を取ること。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート・・・90％
受講態度・・・10％（班活動の積極性）
成績はレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
適宜プリントを配布する

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

生化学実験

(11213)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行　　八　巻　美智子

■ 授業の概要
生体情報高分子であるタンパク質と核酸の性質・機能を理解させるため、牛乳に含まれる各種タンパク質の分離・分析実験を通して、タンパク質の精製法・分析法の基礎を指導する。また、酵素アミラーゼの諸性質の解析および酵素の反応速度解析の基礎的な手法を指導する。さらに生体試料からのゲノムDNAの抽出法とPCRによる遺伝子増幅を用いた遺伝子多型の解析法や、大腸菌を用いた基礎的な遺伝子組換え（形質転換）実験の手法を指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・タンパク質の精製・分離の基本的方法を習得する	0.1　0.15　0.15　0.15　0.3　　0.15
・酵素活性の測定と反応速度の解析法を習得する	
・生体試料からのDNA抽出と遺伝子解析の基礎を習得する	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　実験の概要説明（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。
第２回　牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離　①等電点沈殿（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第３回　牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離　②硫安分画（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第４回　SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動：ゲル作製・泳動（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第５回　電気泳動パターンの解析（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第６回　アミラーゼ活性の測定（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第７回　酵素反応の最適pHの決定（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第８回　基質濃度と反応速度の解析（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第９回　遺伝子実験の概要説明・DNAの基本的性質（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」として

	レポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第10回　植物試料からのゲノムDNAの抽出（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第11回　制限酵素によるDNAの切断（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第12回　電気泳動によるDNAの解析（鈴木）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第13回　遺伝子多型の解析　①ヒトゲノムDNAの抽出（八巻）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第14回　遺伝子多型の解析　②PCRでの遺伝子増幅（八巻）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第15回　遺伝子多型の解析　③増幅産物の電気泳動と解析（八巻）	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。

■ 履修上の注意
グループワークで授業を実施するので、班員とよく連携して作業に当たること。実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取り、班員間のデータ共有を徹底すること。

■ 成績評価方法・基準
実験レポート（80%）および平常点（受講状況・実施状況；20%）・・・詳細はルーブリック参照
成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。

■ 教科書
無し（資料プリントを配布）

■ 参考書
生化学、食品学総論・各論の教科書

■ 備考
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

臨床医学概論Ⅰ

(11214)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
中　尾　真　理

■ 授業の概要

栄養学の専門家として求められるのは種々の患者の栄養治療だけでなく、健康増進・疾病予防まで多岐にわたる。そのため、臨床医学概論の授業では疾患診断・治療などの基礎知識を学び主要疾患の知識を身につける必要がある。臨床医学の領域は広範であり、前期の臨床医学概論Ⅰと後期の臨床医学概論Ⅱに分ける。臨床医学概論Ⅰでは、疾患診断・検査・治療及び栄養・代謝障害、消化器疾患、循環器疾患系などの基礎知識を修得し、臨床現場で健康管理における栄養学的な指導が可能となる事を目指す。関連する国試の過去の出題内容も言及する。管理栄養士が臨床で必要とする嚥下・嚥下障害についての知識と共に、臨床医としての経験から医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題を解説しながら講義を行なう。本授業は完全双方向オンラインとする。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・主要疾患それぞれの基礎知識を学び身につける。		0.3	0.7						
・疾患の成因、病態から診断、治療まで体系的に理解できる。									
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション、嚥下と嚥下障害　病態と治療	参考書第1章第3章を読み不明点は質問
第２回　疾患診断の概要（問診・診察）	教科書第１章 1-2を読み、不明点は質問
第３回　疾患診断の概要（主な症状）	教科書第１章 3-4を読み、不明点は質問
第４回　疾患診断の概要（臨床検査）	教科書第１章 5-14を読み不明点は質問
第５回　疾患治療の概要（総論+治療方法）	教科書第３章 1-3を読み、不明点は質問
第６回　栄養障害と代謝疾患（栄養障害・糖尿病）	教科書第４章 1-2を読み、不明点は質問
第７回　栄養障害と代謝疾患（脂質異常・肥満）	教科書第４章 3-4を読み不明点は質問
第８回　栄養障害と代謝疾患（痛風～アシドーシス）	教科書第４章 5-9を読み不明点は質問
第９回　嚥下障害と嚥下調整食	参考書第３章第６章を読み不明点は質問
第10回　消化器系-消化管疾患（口腔・上部）	教科書第６章1-2参考書p49-63を読み、不明点は質問
第11回　消化器系-消化管疾患（下部）	教科書第６章3を読み、不明点は質問
第12回　消化器系-肝胆膵疾患	教科書第７章を読み、不明点は質問
第13回　循環器系（心不全、動脈硬化）	教科書第８章 1-2を読み、不明点は質問
第14回　循環器系（虚血性心疾患・高血圧）	教科書第８章 3-4を読み、不明点は質問
第15回　循環器系（不整脈・静脈血栓塞栓症・脳血管障害）	教科書第８章 5-7を読み、不明点は質問

■ 履修上の注意

臨床医学の学習のためには解剖生理学、病理学の知識が重要である。
事前にこれらの知識を十分に整理しておくことが望ましい。本授業は血圧測定などの実習を含む（active learning）
小テストや課題にgoogle classroomを利用する。PCもしくはスマートフォンをネットに接続できる環境を準備しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

授業中に行う授業内容理解度確認のための小テスト（80%程度）と、レポート提出等の受講状況（20%程度）で評価する。
また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。本授業は完全双方向オンラインとする。
質問等は授業中（オンライン）または電子メールで受け付ける。欠課届けは担当助手に提出することとする。その際の欠課理由は学生要覧で認められたもののみとする。病欠の場合には医療機関受診の上診断書持参を原則とする。

■ 教科書

〔臨床医学-疾病の成り立ち　栄養科学イラストレイテッド　第３版〕〔田中明・藤岡由夫　編〕〔羊土社〕〔3，190円＋税〕

■ 参考書

〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて　改訂第２版〕〔上羽瑠美著〕〔学研プラス〕〔3，960円〕

■ 備考

本科目では、学修内容に合わせ、血圧・脈などを測定する実習を行う（active learning)。都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。質問等は授業終了時・オフィスアワーもしくは電子メールで受け付ける。

臨床医学概論Ⅱ

(11215)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

■ 授業の概要

医学の進歩が著しい現代において、栄養学の専門家として求められるのは種々の患者の栄養管理だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたってきている。臨床医学概論の授業では、疾患の診断・治療の基礎知識を学び、主要疾患の知識の修得が求められる。後期の臨床医学概論Ⅱでは前期に引き続いて、腎・尿路系、内分泌系、神経精神系、呼吸器系、運動器系、血液系、免疫・アレルギー、感染症などの基礎知識を修得し、臨床現場で栄養学的な指導が可能となる事を目指す。国試の過去の出題内容にも言及する。管理栄養士が臨床で必要とする知識と共に、臨床医師としての経験から実践的な健康管理や医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題などを解説しながら講義を行なう。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・主要疾患それぞれの基礎知識を学び身につける。		0.3	0.7						
・疾患の成因、病態から診断、治療まで体系的に理解できる。									
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	授業中の配布物や授業中に指定された教科書・参考書箇所を事後によく読んでください。
第２回　内分泌系疾患（特徴・調整システム、脳下垂体異常）	教科書第５章 1-2を読み、不明点は質問
第３回　内分泌系疾患（甲状腺・副甲状腺・副腎）	教科書第５章 3-5を読み不明点は質問
第４回　腎・尿路系（腎・尿路の構造～ネフローゼなど）	教科書第９章 1-6を読み不明点は質問
第５回　腎・尿路系（急性腎障害、慢性腎臓病CKD、糖尿病性腎症）	教科書第９章 7-8、第４章 2を読み不明点は質問
第６回　腎・尿路系（透析、尿路系疾患、腎・尿路系の腫瘍）	教科書第９章 9-11を読み不明点は質問
第７回　神経・精神系疾患	教科書第１０章を読み不明点は質問
第８回　呼吸器系疾患	教科書第１１章を読み不明点は質問
第９回　加齢・疾患に伴う変化	教科書第２章を読み不明点は質問
第10回　血液系疾患	教科書第１２章を読み、不明点は質問
第11回　運動器（骨格系）疾患：カルシウム代謝・骨関節疾患	教科書第１３章 1-3を読み不明点は質問
第12回　運動器（骨格系）疾患：フレイルサルコペニアロコモ	教科書第１３章 4-6を読み不明点は質問
第13回　免疫・アレルギー系疾患（食物アレルギーを含む）	教科書第１５章 1-3、第１４章　2を読み不明点は質問
第14回　免疫・アレルギー系疾患	教科書第１４章 4以降を読み不明点は質問
第15回　感染症	教科書第１７章を読み、不明点は質問

■ 履修上の注意

臨床医学の学習のためには解剖生理学、病理学の知識が重要である。
事前にこれらの知識を十分に整理しておくことが望ましい。小テストや課題にgoogle classroomを利用する。PC，タブレットもしくはスマートフォンをネットに接続できる環境を準備しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

授業中に行う授業内容理解度確認のための小テスト（80%程度）とレポート提出等の受講状況（20%程度）で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

〔臨床医学-疾病の成り立ち　栄養科学イラストレイテッド　第３版〕〔田中明・藤岡由夫　編〕〔羊土社〕〔3，190円＋税〕

■ 参考書

〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて　改訂第２版〕〔上羽瑠美著〕〔学研プラス〕〔3，960円〕授業中に参照箇所を指定することがある。

■ 備考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。

質問等は授業終了時・オフィスアワーもしくは電子メールで受け付ける。

食品学総論

(11216)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
食品はヒトの生活にとって必須のものであり、食品について正しい情報を持つことは食品を利用するうえで重要である。そこで、化学などの知識を基礎として、食品を構成する各成分（タンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルなど）の化学的特性と食品における役割、栄養と健康とのかかわりついて講義する。また、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのか解説する。食品学を学ぶことで関連する他分野への興味関心も高められる重要性を詳説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食品を構成する各種成分について理解する	0.1	0.1	0.7			0.1			
・食品の各成分の栄養特性と物理特性についての知識を習得する									
・美味しく栄養バランスのとれた食事について科学的に考える力を身に付ける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境	事前：教科書にて授業計画内容に記された内容を概覧しておく。（以下の回も同様）
第２回　水分　水の構造と性質、食品中での役割、食品成分表について	事後：教科書、ノートを見直して講義内容を理解し、理解が不十分な点については教員に質問するなどして問題点を解決する。（以下の回も同様）
第３回　タンパク質　タンパク質の構造と構成アミノ酸	1回目、2回目の内容と同様。主にタンパク質について
第４回　タンパク質　タンパク質の性質と栄養価	1回目、2回目の内容と同様。主にタンパク質について
第５回　炭水化物 糖の構造と種類	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第６回　炭水化物　糖の性質、糖の反応と炭水化物としての糖	1回目、2回目の内容と同様。主に炭水化物について
第７回　脂質　脂肪酸の構造と性質	1回目、2回目の内容と同様。主に脂質について
第８回　脂質　油脂の酸化、油脂の栄養	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第９回　ミネラル	1回目、2回目の内容と同様。主にミネラルについて
第10回　脂溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様。主にビタミンについて
第11回　水溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様。主にビタミンについて
第12回　食品の呈味成分、色素、香気成分	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第13回　食品の官能評価	1回目、2回目の内容と同様。主に食品の呈味成分、色素、香気成分について
第14回　食品の機能性成分、食品の物性と美味しさ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様。1回目～14回目の授業内容について
第15回　これまでのまとめ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様。1回目～15回目の授業内容について
第16回　試験	試験に向けて学修する

■ 履修上の注意
遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、ノートを作製する。予習で生じた疑問点について解決できるようにする。テキストは購入してください。詳細は初回に説明します。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（ミニットペーパーの内容・提出など）、小テストの成績等（20%）、試験（80%）の割合で評価する。
小テスト、試験については解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔食品学総論〕〔著者名：森田潤司、成田宏史　編〕〔化学同人〕〔価格：2800円+税〕

■ 参考書
講義時に指示する

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。

食品学各論

(11217)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
食品材料である植物性食品、動物性食品その他食品について、食品材料の生産上および生物学上の特徴による分類、食材に含まれる成分および旬による成分変化等についての基礎知識を学修する。さらに、図鑑活用による食品の詳細な分類また、写真等の資料は、実物投影機やパワーポイントを用いることにより、食品の外観および内部構造の特徴を視覚的に理解しやすいよう教授する。食品に対する選択能力を高めるとともに、食生活と健康との関連を習得できるよう教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1.食品材料の特徴を知る	0.2	0.2	0.4			0.2			
・2.食品材料の分類ができる									
・3.食品の選択能力を身につける									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　食品の分類・スローフードについて	授業の進め方、ノートのまとめ方を知る
第２回　植物性食品の特徴	教科書p9～38をよく読み授業に臨む
第３回　穀類：コメ、コムギの特徴・成分	授業内容を教科書p9～・配布資料で確認する
第４回　穀類：トウモロコシ、ソバの特徴・成分	授業内容を教科書p14～・配布資料で確認する
第５回　イモ類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書p16~・配布資料で確認する
第６回　マメ類：乾燥豆および野菜としての種類と特徴・成分	授業内容を教科書p19～・配布資料で確認する
第７回　野菜類：葉菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書p22～・配布資料で確認する
第８回　野菜類：茎菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第９回　野菜類：根菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第10回　野菜類：果菜類・花菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第11回　果実類：種類と特徴・成分	授業内容を教科書p29～・配布資料で確認する
第12回　動物性食品の特徴	教科書p39～90をよく読み授業に臨む
第13回　魚介類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書p69～・配布資料で確認する
第14回　畜肉類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書p39～・配布資料で確認する
第15回　その他の食品について	教科書p91～をよく読み分類・特徴を把握する
第16回　試験	

■ 履修上の注意
出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で１回の欠席とする。
ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後返却して加点対象とする。
資料は、授業前に配布する。

■ 成績評価方法・基準
期末試験70%、受講態度(質問等授業の理解に向けた姿勢など)・提出物30%
提出物への評価は次回授業時に行う。
試験問題は、教科書およびノートからの出題とする。解答は掲示にて行う。

■ 教科書
書名：食品学各論　著者名：瀬口正晴・八田　一　出版社：化学同人　価格2，400円

■ 参考書
書名：原色食品図鑑　著者名：井上四郎・菅原龍吉　出版社名：建帛社　価格：2，900円

■ 備考
配布プリントは、ノートに貼り付けるか転載しておくこと。
都合（出張等）により授業計画が変更されることがある。
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

食品学実験Ⅰ

(11218)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：健専1年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
食品学実験では、さまざまな食品からそれぞれの栄養素を分離しその特性を理解するとともに、化学実験を行うにあたっての基本的な認識や態度、基礎的な知識や技術を教授する。すなわち、器具の取り扱い方、測定器具の使用方法、データのまとめ方、レポートの書き方について指導する。管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを説明する。また、実験を通して食品を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できるように詳説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・化学実験を行うにあたっての基本的な態度や基礎的な技術を習得する	0.15		0.15		0.5		0.15	0.05	
・データのまとめ方、レポートの書き方について科学的視点から考察する力を習得する									
・食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　授業の概要、実験実施上の注意	事前：実験書を読んでくる．事後：実験書を読む
第2回　じゃがいもからデンプンの分離	事前：実験書などを読んでくる．　事後：ノート整理
第3回　光学顕微鏡によるデンプン粒の観察	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第4回　糖質の定性反応1：原理、呈色反応	事前：糖の定性実験についてテキストを読んでくる．　事後：ノート整理
第5回　糖質の定性反応2：呈色反応、還元反応	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第6回　小麦粉からグルテンの分離	小麦粉からグルテンの分離について実験書を読む
第7回　グルテンからグリアジンの分離など	グルテンとグリアジンについて理解を深める、実験書などを読む
第8回　蛋白質の定性反応	タンパク質の定性実験について実験書などを読んでくる
第9回　蛋白質の加水分解	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第10回　アミノ酸の定性反応	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第11回　油脂のケン化と脂肪酸とグリセリンの分離	事前に実験書を読む、事後にノート整理、レポート作成
第12回　脂肪酸のエステル化（ｶﾞｽｸﾛﾏﾄの前処理）	事前に実験書を読む、事後にノート整理、レポート作成
第13回　ガスクロマトグラフによる脂肪酸の測定	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第14回　中和滴定1：食酢中の酢酸の定量（原理、ビュレットの使い方等）	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第15回　中和滴定2：食酢中の酢酸の定量（試料の測定、計算等）	実験の総括とレポート作成

■ 履修上の注意
白衣を着用し踵の低いスニーカー系を着用。グループで協力し、安全に注意して行うこと（特に薬品や火気の使用）。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の人は髪を束ねること（詳細はプリント配布）。

■ 成績評価方法・基準
授業参加状況（50%、積極性、協力性、ミニットペーパー等）とレポート・小試験（50%）で総合的に評価する。1回目時にルーブリックの説明をする。レポート等については授業中にフィードバックを実施。履修上の注意が守れない場合は減点（詳細はプリント配布）。

■ 教科書
〔新しい食品学実験〕〔吉田 勉［監修］〕〔三共出版〕〔2，300円〕

■ 参考書
必要に応じて随時プリント配布

■ 備考
講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食品学実験Ⅱ

(11219)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (45 + 30)
対象学科：健専1年
授業形態：実験　学期：後期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
食品学実験Ⅰで修得した化学実験における基本的手法をもとに様々な食品からそれぞれの栄養素を分離しその特性を説明する。日本食品成分表に記載されている食品中の栄養素の数値の算出方法を理解する為、水分、灰分、脂質、タンパク質等の各成分を抽出して定量分析する方法を教授する。この中で測定器具の使用方法、化学実験における実験の原理、データのまとめ方、レポートの書き方について指導する。管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを身につけ、食生活のさまざまな場面において定量的な考えが応用できるように詳説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・化学実験を行うにあたっての基本的な態度や基礎的な技術を習得する。特に定量分析の基本操作と理論を理解する。 ・データのまとめ方、レポートの書き方について科学的視点から考察する力を習得する ・食品成分表に記載されているデータについて測定方法や原理について理解し食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面で、定量的な考えが応用できることを目標とする	0.15 0.15 0.5 0.15 0.05

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　食品中の一般栄養成分分析の説明、濃度計算などの小テスト	事前：一般成分分析について実験書などを読む. 小テストに向けて学修。事後：ノート整理、テキストを読む
第2回　恒量測定、ケルダール法　（タンパク質の酸分解）	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる.　事後：ノート整理
第3回　水分の定量、灰分の定量	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる.　事後：ノート整理
第4回　脂質の定量：ソックスレー法による脂質の抽出	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる。　事後：ノート整理
第5回　脂質の定量：ソックスレー法による脂質の抽出後、乾燥、重量測定）	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第6回　水蒸気蒸留の説明とブランク値の測定	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第7回　水蒸気蒸留（試料中の窒素分析）	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第8回　これまでのまとめ計算方法など	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる。　事後：ノート整理、実験書を読む。
第9回　原子吸光分析1：無機質の測定　方法、原理について	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第10回　原子吸光分析2：　無機質の測定	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる。　事後：ノート整理、実験書等を読む。
第11回　炭水化物の定量 食物繊維算出方法	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第12回　食品による味覚の変化（官能評価）	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる。　事後：ノート整理、実験書を読む。
第13回　嗜好成分の定量　（原理、試料調製など）	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第14回　嗜好成分の定量　（測定、結果まとめ等）	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノ

	ートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第15回　GC-MSによる食品中の臭気物質の検出	実験の総括とレポート作成

■ 履修上の注意
白衣を着用し踵の低いスニーカー系を着用。グループで協力し、安全に注意して行うこと（特に薬品や火気の使用）。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の人は髪を束ねること（詳細はプリント配布）。

■ 成績評価方法・基準
授業参加状況（50%、積極性、協力性、ミニットペーパー等）とレポート・小試験（50%）で総合的に評価する。1回目時にルーブリックの説明をする。レポート等については授業中にフィードバックを実施。履修上の注意が守れない場合は減点（詳細はプリント配布）。

■ 教科書
〔新しい食品学実験〕〔吉田 勉［監修］〕〔三共出版〕〔2，300円〕

■ 参考書
必要に応じて随時プリント配布

■ 備考
講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。実験の内容により並行して行う場合もあります。質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食品機能学

(11220)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
永　塚　貴　弘

■ 授業の概要
日本は世界でも類を見ない超高齢社会に突入しているため、健康寿命の延伸と医療費削減が喫緊の課題となっている。
このような背景から、健康維持・疾病予防を目的とした食品の機能性研究が活発に展開され、社会的ニーズに応えるために数多くの機能性食品（保健機能食品、特別用途食品）が開発されてきた。
本講義では、食品成分の化学構造と健康機能の基礎知識を教授し、保健機能食品制度について詳説するとともに、食品機能成分を活用した産業展開について説明する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・健康維持・疾病予防に関わる食品成分の基礎知識を身につける。 ・食品機能に関する情報を科学的に評価する能力を習得する。 ・学習した知識を食環境の向上に応用する力を身につける。	0.3 0.2 0.5

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品機能学の概要紹介	配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第２回　保健機能食品１：特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第３回　保健機能食品２：ヒト試験とデータの解釈	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第４回　脂質の化学と健康機能	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第５回　脂質の酸化反応と疾病との関わりについて	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第６回　米由来ビタミンEによるがん抑制効果	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第７回　食品脂質の特徴と機能：こめ油について	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第８回　カロテノイドによる生体膜脂質の抗酸化作用	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第９回　プラズマローゲンによる認知機能改善効果	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第10回　食品機能に関するトピックス１：時間栄養学について	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第11回　食品機能に関するトピックス２：中鎖脂肪酸について	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第12回　フラボノイドの消化吸収と機能性	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第13回　保健機能食品３：トクホの関与成分・有効性・作用機構	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。プレゼンテーションを準備する。講義内容を復習する。
第14回　保健機能食品４：トクホの効能に関するプレゼンテーション	プレゼンテーションを準備する。講義内容を復習する。
第15回　食品機能学のまとめ	配布プリントを見直して講義内容を復習する。試験に向けて学修する。
第16回　試験	試験に向けて学修する。

■ 履修上の注意
講義内容の理解には栄養学・食品学・生化学で学習した内容が基盤となるため、それらの科目を事前に復習すること。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（70%）、プレゼンテーション（30%）の割合で評価する。
試験については解答例を配布してフィードバックする。

■ 教科書
講義前にプリントをGoogle Classroom経由で配布。

■ 参考書
〔食品の機能化学〕〔著者：宮澤陽夫・五十嵐脩〕〔出版社：アイ・ケイコーポレーション〕〔価格：2, 500円＋税〕

■ 備考
質問等は講義終了時、もしくは下記のメールアドレスで受付ける。
東北大学大学院農学研究科　永塚貴弘
E-mail: takahiro.eitsuka.a1@tohoku.ac.jp

食品加工学

(11221)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
加工食品は、安全性、貯蔵性、嗜好性、嗜好性等の付与により、生活の利便性や経済性の向上に関与するものであり、食品の加工方法、保存方法の学修により、加工原理に対する理解を深めるよう詳説する。食品が製品化されるまでの食品成分の変化（物性的、化学的、栄養学的）に対する基礎知識を身につけるよう説明する。加工された食品の規格、表示および包装に関する学修を通して商品化される要因を理解する。食品の加工について総合的な理解力が深まるように教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1.食品の物理的、化学的、生物的加工方法が理解できる	0.3	0.3	0.4						
・2.食品加工の規格、表示が理解できる									
・3.食品の製品化に伴う加工工程が理解できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品加工の目的	目的を教科書・配布資料で確認する
第２回　食品加工方法：物理的加工：粉砕、濃縮、ろ過等	物理的方法を確認する
第３回　食品加工方法：物理的加工：乾燥、冷凍等	教科書・配布資料を読み返す
第４回　食品加工方法：化学的加工	化学的方法を確認する
第５回　食品加工方法：生物的加工	生物的方法を確認する
第６回　食品保存方法：水分活性等	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第７回　食品保存方法：CA貯蔵等	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第８回　食品保存方法：浸透圧利用等	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第９回　食品保存方法：加熱、冷蔵等	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第10回　食品の包装：材料	包装の素材について確認する
第11回　食品の包装：特徴	教科書・配布資料を読み返す
第12回　食品の規格	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第13回　食品の表示	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第14回　農産食品の加工	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第15回　畜産・水産食品の加工	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第16回　試験	

■ 履修上の注意
出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で１回の欠席とする。
ミニットペーパーやレポートを課した場合は、加点対象とする。

■ 成績評価方法・基準
期末試験70%、受講態度30%
ミニットペーパーおよびレポートを課した場合は、授業態度の範囲で加点する。
試験問題は、教科書およびノートからの出題となり、試験後に解答例を掲示する。

■ 教科書
〔書名：食品加工学〕〔著者名：西村公雄、松井徳光〕〔出版社名：化学同人〕〔価格：2，100円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
食品学各論の内容を復習しておく。
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

食品加工実習

(11222)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (45 + 90)
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
食品材料を物理的、化学的、生物的方法により変化させて、加工工程を経て製品を製造し、素材から製品までの過程について説明る。加工工程による食品の様々な変化を良く観察させるとともに、それらの現象を文献の活用により科学的に考察できる能力の向上を図る。製品の貯蔵中の変化を経時的に観察させ貯蔵・保蔵の理解を深める。加工した製品については、保存に適した容器を選択、安全に留意した保存、消費期限・賞味期限について修得できるよう教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1.食品の加工目的を原理が理解できる			0.2	0.2	0.4		0.2		
・2.食品の加工方法を身につける									
・3.食品の加工工程と貯蔵・保蔵が理解できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　前半ガイダンス　安全・衛生、レポート作成など	実習の事前準備や容器等を確認する
第２回　ショートパスタ	レポート作成・提出
第３回　ヨーグルト、バター	レポート作成・提出
第４回　きな粉飴	レポート作成・提出
第５回　トリミソ	レポート作成・提出
第６回　ラーメン	レポート作成・提出
第７回　コンニャク	レポート作成・提出
第８回　後半ガイダンス	実習準備や容器等を確認する
第９回　佃煮	レポート作成・提出
第10回　液体調味料	レポート作成・提出
第11回　甘酒	レポート作成・提出
第12回　豆腐	レポート作成・提出
第13回　グミ	レポート作成・提出
第14回　ジャム	レポート作成・提出
第15回　ラムネ	レポート作成・提出
第16回　まとめ	

■ 履修上の注意
レポートは次回の授業開始前までに指定の場所へ提出すること。遅れた場合は遅刻提出となり1/2評価とする。
身支度が整わない学生は、衛生上入室できない（欠席扱い）。実習中の安全・衛生に十分注意すること。
資料は、1回目の授業もしくは前週の授業終了後に配布する。

■ 成績評価方法・基準
レポート提出85%（実習回数で割った積み重ね点とする）、授業態度（身支度を含む）15%。
身支度に不備があった場合は、2点減点とする。
提出されたレポートは確認後返却する。未提出のレポートがある場合は、評価なしとする。
他者と同内容のレポートが提出された場合は、評価なしとする。提出されたレポートは後日返却する。
ルーブリック評価については、1回目の授業で説明する。

■ 教科書
配布プリント

■ 参考書
食品学各論、食品加工学、調理科学、イラスト調理Book等

■ 備考
学生の校外実習または材料の入手状況により授業計画の順番・内容が変更することがある。その場合、事前予告する。
学外実習で欠席する場合のレポート提出は、ガイダンスにて説明する。
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

食品衛生学

(11223)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
米　山　　裕

■ 授業の概要
地球温暖化の影響による食の安定供給という世界に共通する課題が注目される現代社会において、食品加工の技術革新やグローバルな食品流通など、食品をめぐる著しい環境変化が起こっている。このような背景にあって、消費者の健康指向が増大し、「食の安全・安心」に対する関心も高まっている。本講義では、消費者の健康を害する様々な環境要因（微生物、化学物質など）について学び、食品の安全性確保に関する法律と安全確保のための方法を学ぶ。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食品の安全性を脅かす要因について学ぶ。	0.1	0.2	0.6		0.1				
・食品の安全性確保に関する基礎知識を身につける。									
・食の安全・安心に関する事象について理解を深める。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品衛生について 食品衛生に関する法規	教科書の関連事項を事前学習し、講義内容を復習するとともに関連する情報の取得に努める。
第２回　食品と微生物①（微生物の基礎）	教科書の関連事項を事前学習し、微生物の分類、構造などの特性を復習し、ヒト（動物）の細胞との違いを理解する。
第３回　食品と微生物②（微生物の増殖様式　他）	教科書の関連事項を事前学習し、微生物の増殖様式を理解する。
第４回　食品の変質	教科書の関連事項を事前学習し、食品衛生と食品の品質に関わる物理的・化学的変化について復習し理解する。
第５回　食中毒①（食中毒の定義、発生状況）	教科書の関連事項を事前学習し、食中毒の種類と発生状況（国内と国外）について復習し理解する。
第６回　食中毒②（細菌性感染型食中毒）	教科書の関連事項を事前学習し、細菌性感染型食中毒について復習しその特徴を理解する。
第７回　食中毒③（細菌性毒素型食中毒）	教科書の関連事項を事前学習し、細菌性毒素型食中毒について復習しその特徴を理解する。
第８回　食中毒④（ウイルス性食中毒）	教科書の関連事項を事前学習し、ウイルス性食中毒について復習しその特徴を理解する。
第９回　食中毒⑤（寄生虫性食中毒）	教科書の関連事項を事前学習し、寄生虫性食中毒について復習しその特徴を理解する。
第10回　食中毒⑥（化学物質による食中毒）	教科書の関連事項を事前学習し、化学物質による食中毒について復習しその特徴を理解する。
第11回　食品中の汚染物質（カビ毒、化学物質　他）	教科書の関連事項を事前学習し、環境要因（カビ毒、化学物質等）による食品の汚染について復習しその特性を理解する。
第12回　食品添加物（概念と定義、安全性評価、分類）	教科書の関連事項を事前学習し、食品添加物について復習し、その分類と安全性評価について理解する。
第13回　遺伝子組換え食品（遺伝子組換えとゲノム編集）	教科書の関連事項を事前学習し、遺伝子組換え食品について復習し、その安全性を判断できる力をつける。
第14回　食品衛生管理（HACCPシステム　他）	教科書の関連事項を事前学習し、食品衛生管理について復習し、食品衛生管理に関連するHACCP等のシステムを理解する。
第15回　食品表示制度	教科書の関連事項を事前学習し、食品表示制度について復習しその制度を理解する。
第16回　試験	授業で学んだことを総復習して試験に臨む。

■ 履修上の注意
本科目と関連性がある食品に関する科目、加えて食中毒の主要な要因である微生物に関連する項目を理解して授業に臨むことによって講義内容の理解が深まります。

■ 成績評価方法・基準
平常点（授業への出席と取り組み等）50点、期末試験50点とし総合評価します。

■ 教科書
栄養科学イラストレイテッド　「食品衛生学」　第3版
田崎達明　編、羊土社（2024年）
3，190円（税込み）
必要に応じて資料を配付します。

■ 参考書
新スタンダード栄養・食物シリーズ8　「食品衛生学」　第3版
宮本敬久　編、東京化学同人（2024年）
2，860円（税込み）

■ 備考
授業の進捗状況により、授業計画（順番）を変更することがあります。
質問は授業終了後およびメールアドレス（h.yoneyama@tsb.mishima.ac.jp）にて受け付けます。

食品衛生学実験

(11224)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：健専３年
授業形態：実験　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　瀬　清　美

■ 授業の概要

管理栄養士の業務において重要な食品安全性の重要性の認識と衛生管理方法の理解のために、代表的な微生物の性質を説明するとともに、微生物の基本的な培養・観察の方法を指導する。それを基にして食品の細菌汚染検査や微生物制御に関わる知識と手技の習得を目指した指導を行う。また、生鮮食品や市販の加工食品を試料とし、衛生管理指標の評価法や食品添加物の検出法などについても指導する。本授業は学生の主体的な学びを重視し、実験を通して能動的に知識と技術を身につけられるようアクティブラーニング型で展開する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食中毒原因菌の性質を理解しその検査方法を習得する	0.1	0.15	0.15	0.15	0.3		0.15		
・食品中の食品添加物の役割を理解し分析方法を習得する									
・食品の安全性確保の重要性を理解する									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　実験の概要説明・微生物実験の基礎知識と基本操作の説明 手洗い効果の確認	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。
第２回　前週の結果の確認 混釈法を用いた培養	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第３回　前週の結果の確認 平板塗抹法を用いた培養	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第４回　前週の結果の確認 選択培地を用いた簡易同定	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第５回　前週の結果の確認 コロニーの性状検査とグラム染色	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第６回　前週の結果の確認 細菌の運動性と耐熱性試験	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第７回　前週の結果の確認 身近な食品の抗菌作用の確認	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第８回　前週の結果の確認 食肉の加熱処理による微生物制御	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第９回　前週の結果の確認 食品有用微生物の観察 水分活性の測定準備	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第10回　水分活性の測定 食の安全・安心のための分析・評価機器についての解説 （ガスクロマトグラフ質量分析計、液体クロマトグラフ質量分析	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。

計等）	実験データを整理しレポートを作成する。
第11回　魚の鮮度判定と解剖、寄生虫の観察	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第12回　ヒスタミン試験	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第13回　着色料の定性試験	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第14回　発色剤の定量試験（準備）	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第15回　発色剤の定量試験（測定）	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。 授業内容をノートにまとめ、よく復習する。 実験データを整理しレポートを作成する。
第16回　期末試験	これまでの実験内容をよく復習して臨むこと。

■ 履修上の注意
・白衣を着用すること。
・実験機器および薬品の取り扱いには十分に注意すること。
・実験後には手洗いを充分に行うこと。
・実験結果、注意事項および実験中に気が付いたこと等を詳細に記録すること。
・実験前に実験の意義と操作を十分に理解してから実験に臨むこと。
・グループワークでの授業となるので、班員同士が協力しながら実験操作を行うこと。

■ 成績評価方法・基準
・平常点・受講態度（授業における積極性、予習・復習の状況、実験ノート内容等から総合的に判断する）：50%、レポート：40%、試験の成績：10%として評価します。評価の詳細については、初回の授業に配布するルーブリックに記載します。
・提出されたレポートについては、後日、添削して返却します。

■ 教科書
・〔食品衛生学実験　安全をささえる衛生検査のポイント〕〔杉山 章 他編〕〔株式会社みらい〕(2，500円＋税)
・授業開始時にプリントを配布します。

■ 参考書
必要に応じて資料を配布します。

■ 備考
・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。
・質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

調理科学論

(11225)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
食品材料は、生食および加熱など様々な調理操作を経て食される。調理操作の種類や方法の確認を行いながら、食品素材の色調の変化、食品組織の軟化・硬化、香りの発現などについて基礎的な知識を学修出来るよう説明する。また、基本的な調理方法の役割および食品の物理的・化学的変化について科学的視点を身につけるよう教授する。さらに、主菜・副菜の調理で使用される香辛料や香草については、可能な限り実物を用意して風味を学修する機会を与え、その利用性について理解できるように詳説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1基本的は調理操作を理解できる ・2調味料の種類と特徴を理解できる ・3食品の調理特性を科学的に理解する能力を身につける	0.3 0.3 0.4

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：調理科学の定義	教科書をよく読み授業に臨む
第２回　調理と嗜好性	教科書をよく読み授業に臨む
第３回　調理操作：非加熱調理	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第４回　調理操作：加熱調理　煮る・蒸す	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第５回　調理操作：揚げる・焼く	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第６回　調味料の種類と特徴	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第７回　炭水化物性食品の調理特性	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第８回　たんぱく質性食品の調理特性：食肉・魚介	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第９回　たんぱく質性食品の調理特性：卵・牛乳など	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第10回　油脂性食品の調理特性	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第11回　香辛料の種類と調理特性	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第12回　ハーブ、食塩などの風味を体験する	第15回の授業までにハーブ・スパイスの献立を提出する
第13回　スパイスの風味を体験する	第15回の授業までにハーブ・スパイスの献立を提出する
第14回　成分抽出性食品の調理特性：デンプン	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第15回　成分抽出性食品の調理特性：ゼラチン、寒天など	授業内容を教科書・配布資料で確認する レポート提出
第16回　まとめ	

■ 履修上の注意
出席確認開始後の入室は遅刻扱いとなる。遅刻は30分までは入室可とし、3回の遅刻で1回の欠席扱いとなる。
ミニットペーパーなどを課した場合には採点後に返却し加点対象とする。

■ 成績評価方法・基準
期末試験65%、ハーブ・スパイスに関する献立の提出20%、授業態度15%とする
ハーブ・スパイスのレポート返却は行わない。

■ 教科書
調理科学　著者：高森初恵、佐藤恵美子　　出版社：建帛社　　価格：2200円

■ 参考書
成分表、調理のためのベーシックデーター

■ 備考
学生の校外実習などの都合により授業計画の順番・内容が変更することがある
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

調理科学実験

(11226)

単位：１
対象学科：健専３年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
食品素材は、切る・潰すなどの調理操作により形態が変化して、調味料等の浸透性が異なり風味に影響することを説明する。また、様々な焼く、炒める、蒸すなどの加熱方法により、食品は色調の変化、組織の軟化、香りの発現などその状態が変化して嗜好性や消化性に影響することを教授する。さらに調理操作による食品材料の物理的・化学的変化については、十分な観察を通して、目的、方法、結果および考察をまとめ、レポート作成の能力を身につけさせるよう詳説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1実験方法に従って進めることができる	0.3			0.5					0.2
・2食品の調理による変化を観察する									
・3調理による食品の変化を科学的に理解することができる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：安全・衛生・レポート作成など	レポート作成方法を図書館で確認する
第２回　講義：食品の重量・容量、炊飯	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第３回　食品の重量と容量に関する実験	レポート作成・提出
第４回　炊飯に関する実験	レポート作成・提出
第５回　講義：出汁の材料、卵	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第６回　出汁に関する実験	レポート作成・提出
第７回　卵に関する実験	レポート作成・提出
第８回　講義：砂糖、飲み物	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第９回　砂糖に関する実験	レポート作成・提出
第10回　飲み物に関する実験	レポート作成・提出
第11回　講義：小麦、野菜	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第12回　小麦に関する実験	レポート作成・提出
第13回　野菜に関する実験	レポート作成・提出
第14回　講義：動物性食品	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第15回　ハンバーグに関する実験	レポート作成・提出
第16回　まとめ	

■ 履修上の注意
レポートは次回の授業開始前までに指定の場所へ提出すること。遅れた場合は遅刻提出となり評価が1段階下がる。
身支度が整わない学生は、衛生上入室できない（欠席扱い）。実験中の安全・衛生に十分注意すること。

■ 成績評価方法・基準
レポート提出85%、授業態度（身支度を含む）15%
身支度に不備（爪が不衛生、帽子やシューズの忘れなど）があった場合は、不備ごとに2点減点とする。
提出されたレポートは後日返却する。やむを得ない欠席によるレポート作成については、ガイダンスで説明する。
ルーブリック評価については、1回目のガイダンスにて説明する。

■ 教科書
〔書名：イラスト調理Book〕〔著者名：安部サト他〕〔出版社名：実教出版〕〔価格：770円〕

■ 参考書
成分表など

■ 備考
学生の校外実習、出張等の都合により授業計画の順番・内容が変更することがある
郊外実習で欠席する場合のレポート提出は、ガイダンスにて説明する
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

基礎調理学実習Ⅰ

(11227)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：健専1年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
深　澤　律　子

■ 授業の概要

1．基礎調理技術（食材や調理法についての知識を整理し、調理操作のポイントを科学的に理解する能力とそれらの知識を活用して実際に調理ができる技術を教授する。
2．栄養、試行、食文化、食環境などの多様な側面から、食べる人にとって望ましい食事を計画し、実際に食事として作りあげる技術を教授する。
3．授業で習得した調理の知識や技術を自分の生活の中で実践するための力を養った上で、実際に行い、振り返り、自己評価と課題を整理し、考察する方法を指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食材や調理法についての基礎的な知識を修得する。	0.7			0.3					
・修得した知識をもとに、実際の調理技術を習得する。									
・食事構成の要点を理解し、献立を立てることができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　講義　オリエンテーション　計量、調味パーセントの基礎 調理の意義、食料経済・自給率	教科書P2～7を読む。配布プリントをよく読み、実際に計量してみる。
第2回　講義　食の嗜好性、調味パーセントの基礎	教科書P18～34を読む。配布プリントをよく読み、実際に塩分%を計算してみる。
第3回　基礎調理技術（1）　だしをとる、汁を仕立てる	教科書P18～34を読む。配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第4回　基礎調理技術（2）　切る	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第5回　基礎調理技術（3）　煮る	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第6回　講義 食事計画の基礎1 献立の作成	教科書P36～50を読む。実際に献立を作成し、栄養価計算を行う。 作成した献立を調理し、味のバランス、彩り、盛り付けなどを検討する。
第7回　講義 食事計画の基礎2　献立の作成	教科書P51～67を読む。実際に献立を作成する。 作成した献立を調理し、味のバランス、彩り、盛り付けなどを検討する。
第8回　献立調理（食事単位での調理技術）（1）卵を主菜に	教科書P72～76、93～96を読む。配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第9回　献立調理（食事単位での調理技術）（2）魚を主菜に	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。 教科書P８８～９３、９９～103を読む。
第10回　献立調理（食事単位での調理技術）（3）豆腐を主菜に	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。 教科書P97～98、104～111を読む。
第11回　献立調理（食事単位での調理技術）（4）麺を主食に	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。 教科書P76～88、134～137を読む。
第12回　献立調理 実技試験（献立作成から調理まで）	作成した献立を調理し、味のバランス、彩り、盛り付けなどを検討する。
第13回　献立調理　実技試験（献立作成から調理まで）	作成した献立を調理し、味のバランス、彩り、盛り付けなどを検討する。
第14回　講義 前期のまとめ	前期まとめ練習問題を教科書を見ながら解答し、解説をレポートに書く。
第15回　調理技術に関する知識の確認（筆記試験）	前期まとめ練習問題を教科書を見ながら解答し、解説をレポートに書き、提出する。
第16回　フィードバック（実技試験・筆記試験を振り返り）	ポートフォリオ評価表を記入する。

■ 履修上の注意

実習なので出席することが重要である。また、調理技術の習得のためには授業時間だけでなく、自宅などでの実践が必要である。

■ 成績評価方法・基準
基礎点（授業に取り組む態度と実際の行動）60点（具体的には、15分前に集合する。配布されたプリントはよく読み予習して実習に臨む。調理室の使い方の約束を守り、自分で考えて積極的に動き、わからないことは質問する。班員と協力し声を掛け合って実習を行う、掃除や後片付けなど責任をもって行う等）、実技試験25点、筆記試験15点を基準として評価する。試験のフィードバックについては、実技試験では結果の講評と今後の課題について説明する。また、筆記試験では解答例を提示するとともに、口頭でも説明する。

■ 教科書
〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3000円〕

■ 参考書
〔8訂食品成分表2025〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1700円〕＊最新版を購入してください。
〔調理のためのベーシックデータ第6版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1800円〕＊最新版を購入してください。

■ 備考
都合により、授業計画の順番などが変更する時がある。ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。質問等は授業終了時またはオフィスアワーに受け付ける。

基礎調理学実習Ⅱ

(11228)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (45 + 30)
対象学科：健専1年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
深　澤　律　子

■ 授業の概要

1．基礎調理技術（食材や調理法についての知識を整理し、調理操作のポイントを科学的に理解する能力とそれらの知識を活用して実際に調理ができ、食事として作りあげる技術）を教授する。
2．調理器具や加工食品などの調理の簡便化、食事の食塩量・エネルギー量を調理方法により調節するなど、現代の食生活における課題解決に向けての知識と技術を教授する。
3．食事を用いた栄養教育についての知識と技術を教授する。
4．食文化の観点から、和洋華の食事様式、行事食、郷土食などについての知識や技術を教授する。
5．授業で習得した調理の知識や技術を自分の生活の中で実践するための力を養った上で、実際に行い、振り返り、自己評価と課題を整理し、考察する方法を指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・調理の簡便化、調理による栄養量についての知識を修得する。			0.2	0.2	0.4	0.1	0.1		
・食事を用いた栄養教育についての知識と技術を習得する。									
・栄養面、食文化面も含めて、献立を立てることができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　講義　食事文化、実技試験についての説明、3・1・2弁当箱法についての講義	教科書P51～67、Ｐ８～１７を読む。実際に献立を作成し、栄養価計算をする。作成した献立を調理し、味のバランス、彩り、盛り付けなどを検討する。
第２回　調理の簡便化２（調理器具） 郷土料理 はらこめし、おくずかけ、ゆずなます	教科書Ｐ８～１７を読む。配布プリントをよく読む。レポート提出。
第３回　様式別料理（中華料理） 棒棒鶏、鶏粥、芙蓉蟹、中国茶	教科書Ｐ８～１７を読む。配布プリントをよく読む。レポート提出。
第４回　調理の簡便化１（調理器具） 郷土料理 はっと汁、くるみ白玉	教科書Ｐ８～１７を読む。配布プリントをよく読む。レポート提出。
第５回　様式別料理（日本料理） さつまいもおこわ、さばの幽庵焼、茶碗蒸し	配布プリントをよく読む。レポート提出。
第６回　様式別料理（西洋料理） パン、ホワイトシチュー、スポンジケーキ、紅茶	教科書P8～17、78～81，93～103、139～141を読む。配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第７回　講義　食事計画の基礎４　実技試験に向けて献立作成の確認	教科書P51～67を読む。実際に献立を作成し、栄養価計算をする。作成した献立を調理し、味のバランス、彩り、盛り付けなどを検討する。
第８回　実技試験（前半）	作成した献立を調理し、味のバランス、彩り、盛り付けなどを検討する。
第９回　実技試験（後半）	作成した献立を調理し、味のバランス、彩り、盛り付けなどを検討する。
第10回　様式別料理（中華料理） せいろ蒸し焼きそば、焼売、粟米湯	教科書P8～17を読む。配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第11回　行事食（クリスマス） クリスマス料理	教科書P8～17を読む。配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第12回　行事食（正月） 正月料理	教科書P8～17を読む。実際に作ってみる。
第13回　後期のまとめ１	後期まとめ練習問題を教科書を見ながら解答し、解説をレポートに書く。
第14回　後期のまとめ２	後期まとめ練習問題を教科書を見ながら解答し、解説をレポートに書く。
第15回　筆記試験、大掃除	後期まとめ練習問題を教科書を見ながら解答し、

	解説をレポートに書き、提出する。
第16回　フィードバック（実技試験・筆記試験の振返り）	ポートフォリオ評価表を記入してくる。

■ 履修上の注意
実習なので出席することが重要である。また、調理技術の習得のためには授業時間だけでなく、自宅などでの実践が必要である。

■ 成績評価方法・基準
基礎点（授業に取り組む態度と実際の行動）60点（具体的には、5分前に集合する。配布されたプリントはよく読み予習して実習に臨む。調理室の使い方の約束を守り、自分で考えて積極的に動き、わからないことは質問する。班員と協力し声を掛け合って実習を行う、掃除や後片付けなど責任をもって行う等）、実技試験25点、筆記試験15点を基準として評価する。試験のフィードバックについては、実技試験では結果の講評と今後の課題について説明する。また、筆記試験では回答例を提示するとともに、口頭でも説明する。

■ 教科書
※調理学実習Ⅰで使用したもの
〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700円〕
〔8訂食品成分表2025〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1700円〕
〔調理のためのベーシックデータ第6版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔2000円〕

■ 参考書
＊必要な人は参考にしてください。
〔主食・主菜・副菜料理成分表〕〔針谷順子・足立巳幸〕〔群羊社〕〔2，200円〕
〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子〕〔化学同人〕〔1650円〕

■ 備考
都合により、授業計画の順番などが変更する時がある。ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。質問等は授業終了時またはオフィスアワーに受け付ける。

応用調理学実習Ⅰ

(11229)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
深　澤　律　子

■ 授業の概要
基礎調理学の知識と技術をもとに、18～29歳の食事摂取基準を食品構成に展開できるよう、食事摂取基準を活用し、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるように、春・夏の出盛りの食材を理解し、季節感のある行事食や郷土料理も取り入れた具体的な実習献立を通して教授する。献立一食あたりの食品の使用量を学び、おいしいと感じる塩分量や彩り、盛り付け、食器の選び方、配膳など一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・修得した知識をもとに、一日の摂取カロリーから食品構成を展開することが理解できる。 ・グループで話し合い、献立一食あたりの食品の使用量が理解でき、献立を立てる技術を習得する。 ・グループで話し合い、一日（朝・昼・夕）の献立を立てる技術を習得する。 ・修得した調理技術をもとに、さまざまな野菜の切り方を習得する。	0.15	0.15	0.15		0.4		0.15		

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　食事摂取基準、食品構成から献立作成について	教科書（p47～p67）を読んで予習しておくこと。
第２回　春の献立　日本料理	実習のまとめレポートを3回目に提出。
第３回　春の献立　中国料理	実習のまとめレポートを4回目に提出。
第４回　春の献立　西洋料理	実習のまとめレポートを5回目に提出。
第５回　春の献立　中国料理②	実習のまとめレポートを6回目に提出。
第６回　夏の献立　西洋料理	実習のまとめレポートを7回目に提出。
第７回　行事食・七夕献立	実習のまとめレポートを8回目に提出。
第８回　演習・食品構成を考えた夏の献立（1）日本料理の献立作成	作成した献立を10回目までに提出。
第９回　演習・食品構成を考えた夏の献立（2）日本料理の栄養価計算	作成した献立の栄養価計算、食材の購入表の提出。
第10回　食品構成を考えた夏の献立（3）日本料理の実習	実習のまとめレポートを12回目に提出。
第11回　演習・食品構成を考えた夏の献立（1）西洋料理の献立作成 実技試験について説明する	作成した献立を13回目までに提出。
第12回　演習・食品構成を考えた夏の献立（2）西洋料理の栄養価計算	作成した献立の栄養価計算、食材の購入表の提出。
第13回　食品構成を考えた夏の献立（3）西洋料理の実習	実習のまとめレポートを15回目に提出。
第14回　実技試験、前期まとめ	野菜の切り方の配布プリントを勉強し、野菜の切り方を復習する。教科書を読み、前期練習問題を解答し、解説をレポートに書く。
第15回　筆記試験	教科書を読み、前期練習問題を解答し、解説をレポートに書き、提出する。
第16回　試験内容の解答解説	前期に学んだ内容を復習する。

■ 履修上の注意
前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、マスクを身に着ける。調理室内ではボールペン使用。
調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、配布資料をファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。

■ 成績評価方法・基準
筆記試験40点、実習レポート提出30点、実技試験20点、授業態度10点（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。提出されたレポートは後日返却する。試験後に解答と解説をし、フィードバックとする。

■ 教科書
〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2，700円〕
〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，800円〕
〔8訂食品成分表2024〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，760円〕

■ 参考書
＊必要だと思う人は参考にしてください。
〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子、森美奈子〕〔化学同人〕〔1，650円〕
〔主食・主菜・副菜料理成分表〕〔針谷順子、足立巳幸〕〔群羊社〕〔2，200円〕

■ 備考
講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。
・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。
・質問等については授業終了時に受付ける。
・オフィスアワーに質問等を受け付ける。

応用調理学実習Ⅱ

(11230)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
深　澤　律　子

■ 授業の概要
基礎調理学の知識をもとに、18～29歳の食事摂取基準を食品構成に展開できるよう、食事摂取基準を活用し、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるように、秋・冬の出盛りの食材を理解し、季節感のある行事食や郷土料理も取り入れた具体的な実習献立を通して教授する。グループ活動を通して、献立一食あたりの食品の使用量を学び、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるよう指導する。さらに、和食のテーブルマナーを通して、和食の供応食献立や食事作法を学修する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	0.15	0.15	0.15		0.4		0.15		
・修得した知識をもとに、一日の摂取カロリーから食品構成を展開することが理解できる。									
・グループで話し合い、献立一食あたりの食品の使用量が理解でき、献立を立てる技術を習得する。									
・グループで話し合い、一日（朝・昼・夕）の献立を立てる技術を習得する。									
・修得した調理技術をもとに、さまざまな野菜の切り方を習得する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　演習・食品構成を考えた秋のもてなしの献立①郷土料理の献立作成	調理・献立作成の基礎（教科書ｐ49～ｐ58）を読んで予習しておく。献立を3回目までに提出。
第２回　演習・食品構成を考えた秋のもてなしの献立①郷土料理の献立の栄養価計算	栄養価計算、食材の購入表の提出。
第３回　食品構成を考えた秋のもてなしの献立①郷土料理の献立実習	実習の感想と考察を４回目に提出。
第４回　演習・食品構成を考えた行事食②クリスマス料理の献立	献立を3回目までに提出。
第５回　演習・食品構成を考えた行事食②クリスマス料理の献立の栄養価計算	栄養価計算、食材の購入表の提出。献立を６回目までに提出。
第６回　食品構成を考えた行事食の献立③クリスマス料理の献立実習	栄養価計算、食材の購入表の提出。実習の感想と考察を７回目に提出。
第７回　演習・食品構成を考えた行事食の献立④お正月料理の献立作成	献立を９回目までに提出。
第８回　演習・食品構成を考えた行事食の献立④お正月料理の栄養価計算	栄養価計算、食材の購入表の提出。
第９回　実習・食品構成を考えた行事食の献立④お正月料理の献立実習	実習の感想と考察を10回目に提出。
第10回　演習・食品構成を考えた災害食の献立④乾物を使った献立作成	献立を13回目までに提出。
第11回　演習・食品構成を考えた災害食の献立④乾物を使った献立の栄養価計算	栄養価計算、食材の購入表の提出。
第12回　演習・食品構成を考えた災害食の献立④乾物を使った献立実習	実習の感想と考察を13回目に提出。
第13回　後期まとめ１	後期に学んだ内容を復習する。 後期まとめ練習問題を教科書を読みながら解答し解説をレポートに書く。
第14回　後期まとめ２	後期に学んだ内容を復習する。 後期まとめ練習問題を教科書を読みながら解答し解説をレポートに書く。
第15回　筆記試験、大掃除	後期に学んだ内容を復習する。 後期まとめ練習問題を教科書を読みながら解答し解説をレポートに書き、提出する。
第16回　試験の解答と解説	後期に学んだ内容を復習する。

■ 履修上の注意
前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子を準備する。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、配布資料をファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。

■ 成績評価方法・基準
筆記試験40点、実習レポート提出30点、実技試験20点、授業態度10点（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性

、熱心さ等）で評価する。提出されたレポートは後日返却する。・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。試験後は解答、解説を行いフィードバックとする。

■ 教科書
調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2，700円〕
〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，800円〕
〔8訂食品成分表2025〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，760円〕

■ 参考書
＊必要だと思う人は参考にしてください。
〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子、森美奈子〕〔化学同人〕〔1，650円〕
〔主食・主菜・副菜料理成分表〕〔針谷順子、足立巳幸〕〔群羊社〕〔2，200円〕

■ 備考
・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。
・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。
・質問等については授業終了時に受付ける。
・オフィスアワーに質問等について受け付ける。

食文化論

(11231)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（16 + 30）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
深　澤　律　子

■ 授業の概要

2013年12月、ユネスコ無形文化遺産に「和食；日本人の伝統的な食文化―正月を例として―」が登録された。提案書では、和食文化の実践者はすべての日本人であるとされ、管理栄養士として日本の食文化を学び、実践する意義は大きい。本講義では、日本の自然環境と社会環境の中で形作られてきた食文化について、古代から現代までどのように変遷して来たのかを解説する。また各時代の食文化の特徴と中国、南蛮（オランダやポルトガル及びスペイン）、欧米などの異文化と関わり日本独自の食文化を発展させてきたかを説明する。さらに年中行事や郷土料理について、食文化の伝承のために家庭・保育所や学校等における食育の大切さを説明する。給食の現場で献立を作成した経験を活かしてこの講義を教授する。

■ 授業の到達目標

・①食べ物と人との関わりを歴史的変遷、食の嗜好性、食文化の観点から説明できる。
・②現在の食生活と健康の問題点を提起し、解決方法を見出し考察できる。
・③日本の食文化を理解し、年中行事と行事食、郷土料理、食事の作法の基礎知識を身につける。

学習成果との関連

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
0.2	0.1	0.1	0.1		0.1		0.2	0.2

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス「和食」：日本人の伝統的な食文化	p1～p9を読んでおくこと/和食文化の特徴について レポート提出
第２回　食文化の定義、食に関する思想	p11～p19を読んでおくこと/食文化の定義について 提出
第３回　世界の食文化形成 ①世界の食文化類型とその特徴	p21～p25を読んでおくこと/世界の食文化類型の特徴についてレポート提出
第４回　世界の食文化形成 ②粉食文化と粒食文化	p26～p28を読んでおくこと/粉食と粒食文化の特徴についてレポート提出
第５回　日本の食文化形成と展開米（稲作の伝播と調理）	p32～p39を読んでおくこと/日本食文化の特徴のレポート提出
第６回　異文化接触と受容（古代～近世、南蛮文化、欧米文化）	p42～p49をよんでおくこと/多国籍の食の特徴のレポート提出
第７回　主食の文化①木の実といも類、米	p51～p55を読んでおくこと/興味のある木の実、または芋類のレポート提出
第８回　主食の文化②大麦と小麦、雑穀、豆類	p56～p59を読んでおくこと/興味のある雑穀、または豆類のレポート提出
第９回　副食の文化（魚介類）（豆類・大豆）（肉、乳、卵）	p61～p67を読んでおくこと/興味のある魚介類のレポート提出
第10回　副食の文化（野菜、山菜、野草、果物、きのこ、海藻） 調味料（塩と砂糖）発酵調味料（酒と酢）（みそと醤油）	P68～p75を読んでおくこと/自分の地域の山菜、きのこ、または海藻のレポート提出
第11回　行事と地域の食文化　課題「正月料理、五節句と食事」の説明 油脂、だし、香辛料、菓子（和菓子、洋菓子）、茶、酒	p141～145、p76～p89を読んでおくこと/ 地域の発酵調味料についてレポート提出
第12回　日本料理の形成と発展①日本料理の系譜と本膳料理 和食のマナー	p91～p99を読んでおくこと/箸使いのマナーのレポート提出
第13回　日本料理の形成と発展②懐石料理、会席料理、精進料理	p101～p109を読んでおくこと/それぞれの料理の違いをレポート提出
第14回　台所、食器、食卓の文化、日常の食　洋食のマナー	p111～p123を読んでおくこと/健康な日常の食事のレポート提出
第15回　家庭、地域、学校、社会における食育、 まとめ	p152～p159を読んでおくこと/課題の提出
第16回　筆記試験	

■ 履修上の注意

1.事前に講義予定の教科書内容を熟読して受講してください。
2.教科書及び資料で提示された専門用語のうち、わからないものについては調べておいてください。
3.第15回目提出の課題については提出期限を守ってください。

■ 成績評価方法・基準
筆記試験50%、毎時間のレポート提出40%、課題5%、受講態度5%（感想・レポート内容・熱心さ等）
レポート・課題は後日確認して返却します。筆記試験は問題と解答例をフィードバックします。

■ 教科書
〔新版　日本の食文化「和食」の継承と食育〕〔江原絢子・石川尚子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2，500円+税別〕

■ 参考書
〔日本の食文化史〕〔石毛直道〕〔岩波書店〕〔3，200円+税別〕
講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示します。

■ 備考
都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付けます。

基礎栄養学

(11232)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
ヒトをはじめ生物が外界の物質を体内に取り入れ、それをエネルギー源や体構成の材料として利用する「栄養」という現象は生命維持に不可欠である。ヒトの食欲を調節するしくみ、摂取した食物の消化と栄養素の吸収に携わる消化器官系の各臓器の構造と機能、消化（食品成分の分解反応）・吸収の機構、また、栄養素の種類と各栄養素の化学構造・性質、体内での代謝・機能と欠乏症・過剰症、および栄養素同士の関わりについて説明する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる	0.1　0.3　0.6
・消化・吸収における各消化器官の役割を説明できる	
・各栄養素の代謝とその生理的意義を説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　栄養とは、遺伝形質と栄養	教科書の「1章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　食欲の調節、食事のタイミング	教科書の「2章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　消化器の構造	教科書の「3章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　消化器の機能	教科書の「3章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　消化吸収率、たんぱく質の消化吸収	教科書の「3章」および「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　たんぱく質・アミノ酸の体内代謝	教科書の「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　たんぱく質の量と質の評価	教科書の「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　［中間試験］、糖質の消化吸収、糖質代謝の概要	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、食後・食間の糖質代謝	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　血糖の調節、エネルギー源としての作用	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　脂質の消化吸収、脂質代謝の概要	教科書の「6章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　脂質のエネルギー代謝、コレステロール代謝	教科書の「6章」該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第13回　脂質の量と質の評価	教科書の「6章」該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　ビタミンの分類・構造と機能	教科書の「7章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　［期末試験］、ミネラルの種類と体内分布	教科書の「8章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、ミネラルの機能	教科書の「8章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意
他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書
基礎栄養学、駒井三千夫　他、アイ・ケイコーポレーション、2，400円＋税

■ 参考書
なし

■ 備考
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

栄養生化学

(11233)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
メタボリック・シンドロームはその患者数の多さから現代の社会問題とも言えるが、いずれもその発症と進行に食生活が大きく関与する疾患群である。それに含まれる肥満症・糖尿病・脂質異常症・高血圧症・骨粗鬆症・および癌といった各疾患について、発症や病態の背景となる各種栄養素（特にエネルギー分子）の代謝とその調節機構、および発症と症状の進行の分子生物学的・細胞生物学的機構について講義する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・メタボリック・シンドロームの病態を生化学的に説明できる	0.2　0.2　0.6
・メタボリック・シンドロームの予防・治療への栄養に役割を説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　メタボリック・シンドロームとは、疾患とビタミン	資料・教科書（７章）を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、る。
第２回　疾患とビタミン・ミネラル	資料・教科書(7・8章）を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、復習問題に取り組む。
第３回　疾患とミネラル	資料・教科書（8章）を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、復習問題に取り組む。
第４回　肥満症、脂肪細胞の機能	資料・教科書（6章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　肥満遺伝子	資料・教科書（1・2章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、復習問題に取り組む。
第６回　血糖調節機構と糖尿病の分類	資料・教科書（5章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　糖尿病の発症機序と代謝	資料・教科書（5章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第８回　糖尿病関連遺伝子、糖尿病の治療・食事療法	資料・教科書（5章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、これまでの授業内容（復習問題）を全て復習する。
第９回　［中間試験］、リポタンパク質とその受容体	資料・教科書（6章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　試験の解説、動脈硬化症の発症機序と代謝	資料・教科書（6章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第11回　動脈硬化症の治療・食事療法と関連遺伝子	資料・教科書（6章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、復習問題に取り組む。
第12回　血圧調節機構	資料・教科書（8章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第13回　高血圧症の発症機序、治療・食事療法	資料・教科書（8章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、復習問題に取り組む。
第14回　骨粗鬆症の発症機序、治療・食事療法とカルシウム代謝	資料・教科書（8章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習するのに加え

	、これまでの授業内容（復習問題）を全て復習する。
第15回 ［期末試験］、発癌の分子機構	資料を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、発癌と食事	資料を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意
他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書
基礎栄養学、駒井三千夫　他、アイ・ケイコーポレーション、2，400円＋税　および配布資料

■ 参考書
脂質と血栓の医学　http://hobab.fc2web.com/index.html

■ 備考
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

栄養学実験

(11234)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専２年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
糖質・脂肪・たんぱく質のそれぞれの消化酵素による消化実験を行い、それぞれの消化酵素の性質や酵素活性の測定法、脂肪の消化における胆汁酸の機能等を説明する。また、食品に含まれるビタミンB１およびビタミンCの定量法を指導する。さらに、ダグラスバッグを用いて収集した呼気のガス分析を行い、間接法によるエネルギー消費量の測定を指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・各栄養素の消化の仕組みを説明できる	0.1	0.15	0.15	0.15	0.3		0.15		
・食品中のビタミンが定量できる									
・呼気分析によりエネルギー消費量が測定できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の概要説明・実験実施上の注意	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。
第２回　糖質の消化実験①吸光度分析法	配布資料を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第３回　糖質の消化実験②マルトースの定量	配布資料を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第４回　糖質の消化実験③唾液アミラーゼによるデンプンの消化	配布資料、参考書（3章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第５回　糖質の消化実験④酵素活性の求め方（タンパク質定量）	配布資料、参考書（3章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第６回　たんぱく質の消化実験①プロテアーゼによるたんぱく質の消化	配布資料、参考書（3章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「たんぱく質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第７回　たんぱく質の消化実験②アミノ酸の検出	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「たんぱく質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第８回　脂肪の消化実験①リパーゼによる脂肪の消化	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「脂肪の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第９回　脂肪の消化実験②酸度の滴定	配布資料、参考書（3章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「脂肪の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第10回　ビタミンB1の定量①：試料調製	配布資料、参考書（7章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第11回　ビタミンB1の定量②：測定	配布資料、参考書（7章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」とし

	てレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第12回　ビタミンCの定量①：試料調製	配布資料、参考書（7章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第13回　ビタミンCの定量②：測定	配布資料、参考書（7章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第14回　エネルギー消費量の測定①：測定の原理	配布資料、参考書（10章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「エネルギー消費量の測定実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第15回　エネルギー消費量の測定②：測定・計算	配布資料、参考書（10章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「エネルギー消費量の測定実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。

■ 履修上の注意
グループワークで授業を行うので、班員同士の連携を図ること。実験データは綿密に記録し、班員同士で確実に共有し、レポート作成に反映させること。

■ 成績評価方法・基準
実験レポート（80%）および平常点（20%；受講状況・実施状況）・・・詳細はルーブリック参照
成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。

■ 教科書
無し（資料を配布）

■ 参考書
基礎栄養学（駒井三千夫　編著：アイ・ケイコーポレーション；1年次の授業の教科書）

■ 備考
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

応用栄養学Ⅰ

(11235)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、栄養マネジメントの方法について理解する。
　具体的な内容としては、栄養マネジメントではスクリーニング・アセスメント・栄養ケアプラン・実行・モニタリング・評価からなる6項目を、基本的な概念理解を中心に学習する。ライフステージ別の栄養管理の分野では、妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、幼児期の5分野を取り扱う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
・各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。 ・栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨ 0.4　0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　概要／栄養マネジメント	予習として教科書の栄養マネジメントの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。ルーブリックを配付する。
第２回　食事摂取基準	予習として教科書の食事摂取基準の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第３回　妊娠期①：生理的特徴	予習として教科書の妊娠期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第４回　妊娠期②：栄養アセスメント	同上
第５回　妊娠期③：栄養ケア	同上
第６回　授乳期①：生理的特徴	予習として教科書の授乳期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第７回　授乳期②：栄養アセスメント	同上
第８回　授乳期③：栄養ケア	同上
第９回　前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第10回　新生児期・乳児期①：生理的特徴	予習として教科書の新生児期・乳児期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第11回　新生児期・乳児期②：栄養アセスメント	同上
第12回　新生児期・乳児期③：栄養ケア	同上
第13回　幼児期①：生理的特徴	予習として教科書の幼児期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第14回　幼児期②：栄養アセスメント・栄養ケア	同上
第15回　後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意
応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ルーブリック）を一律0%としますので、単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準

ミニテストやレポート等・・・70％
受講態度（ルーブリック）・・・30％（例外を除き六割を原点とした加点法とする）
成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
〔Nブックス　六訂　応用栄養学〕〔麻見直美・他〕〔建帛社〕〔3，630円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

応用栄養学Ⅱ

(11236)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
応用栄養学Ⅰに引き続き、各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、それぞれ特徴的な栄養マネジメントの方法（スクリーニング・アセスメント・栄養ケアプラン・実行・モニタリング・評価）について理解する。具体的な内容としては、ライフステージ別の栄養管理の分野では、学童期、思春期、成人期、高齢期、運動・スポーツ期と栄養、ストレス・特殊環境と栄養の6分野を取り扱う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
・各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。 ・栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨ 0.4　0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　学童期・思春期①：生理的特徴	予習として教科書の学童期・思春期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。ルーブリックを配付する。
第２回　学童期・思春期②：栄養アセスメント	同上
第３回　学童期・思春期③：栄養ケア	同上
第４回　成人期①：生理的特徴	予習として教科書の成人期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第５回　成人期②：栄養アセスメント	同上
第６回　成人期③：栄養ケア	同上
第７回　前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第８回　高齢期①：生理的特徴	予習として教科書の高齢期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第９回　高齢期②：栄養アセスメント	同上
第10回　高齢期③：栄養ケア	同上
第11回　運動・スポーツと栄養	予習として教科書の運動・スポーツと栄養の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第12回　ストレスと栄養	予習として教科書のストレスと栄養の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第13回　特殊環境と栄養	予習として教科書の特殊環境と栄養の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第14回　災害時の栄養	予習として教科書の災害時の栄養の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第15回　後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意
応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ルーブリック）を一律0%としますので、単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準
ミニテストやレポート等・・・70%
受講態度（ルーブリック）・・・30%（例外を除き六割を原点とした加点法とする）
成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
〔Nブックス　六訂　応用栄養学〕〔麻見直美・他〕〔建帛社〕〔3，630円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

栄養管理論

(11237)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
主として健康な人間を対象とした栄養管理業務において基本となる日本人の食事摂取基準について、その基本的な考え方、科学的根拠ならびに活用の方法を教授する。食事摂取基準を用いた栄養管理を理解できるようになるため、具体的には成人期を基準としたそれぞれの栄養素（34種類）についての考え方を学び、それをライフステージ別（妊婦、授乳婦、乳児、小児、高齢者、軽度生活習慣病患者など）に当てはめて考えていく作法を学ぶ。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・日本人の食事摂取基準（2025年版）の数値や科学的根拠を理解できるようになる。	0.4 0.6
・食事摂取基準を用いた栄養管理の考え方と方法を理解できるようになる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　概論 ／ 食事摂取基準について	予習として食事摂取基準の総論（策定）の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。ルーブリックを配付する。
第２回　食事摂取基準の各指標について	予習として食事摂取基準の総論（活用）の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第３回　エネルギー（算定の科学的根拠・BMIとの関係）	予習として食事摂取基準のエネルギーの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第４回　たんぱく質（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準のたんぱく質の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第５回　脂質（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準の脂質の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第６回　水溶性ビタミン（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準の水溶性ビタミンの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第７回　脂溶性ビタミン（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準の脂溶性ビタミンの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第８回　前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第９回　多量ミネラル（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準の多量ミネラルの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第10回　微量ミネラル（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準の微量ミネラルの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第11回　ライフステージ別の栄養管理①（妊婦・授乳婦）	予習として食事摂取基準の妊婦・授乳婦の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第12回　ライフステージ別の栄養管理②（乳児・小児）	予習として食事摂取基準の乳児・小児の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第13回　ライフステージ別の栄養管理③（高齢者）	予習として食事摂取基準の高齢者の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第14回　生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連	予習として食事摂取基準の生活習慣病の回を一読

	しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第15回　後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意
応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ルーブリック）を一律0%としますので、単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準
ミニテストやレポート等・・・70%
受講態度（ルーブリック）・・・30%（例外を除き六割を原点とした加点法とする）
成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
〔日本人の食事摂取基準2025年版〕〔菱田明・他〕〔第一出版〕〔2，916円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

応用栄養学実習Ⅰ

(11238)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
身体状況や食物摂取状況の調査などを通じて、対象者の食生活状況をアセスメントする。対象者に適した推定エネルギー必要量の算出や食事摂取基準の設定を行い、それらの結果を基に栄養診断を行う。最終的に栄養ケアプランやモニタリングシートを作成する。更には食品構成から献立作成までの実践的な栄養管理能力の取得を目指す。本実習での対象は若い世代（18-29歳女性or男性）が中心となるが、基本を学びそれ以外の世代においても対応できるように教授する。なおこの実習は後期の応用栄養学実習Ⅱとリンクしているので、そのつもりで履修すること。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・人々の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける		0.2			0.4		0.2	0.2	
・人々の身体に合う食事についての栄養管理法を総合的に理解できるようになる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス／スクリーニング	事前学習は配布プリントのスクリーニング回の予習。事後学習としてレポート作成。ルーブリックを配付し、成績評価について説明する。
第２回　食事調査・栄養価計算①（通常）	事前学習は配布プリントの食事調査回の予習。事後学習としてレポート作成。
第３回　食事調査・栄養価計算②（重量変化率）	事前学習は配布プリントの食事調査回の予習。事後学習としてレポート作成。
第４回　食事調査・栄養価計算③（グリセミックインデックス）	事前学習は教科書のグリセミックインデックスの予習。事後学習としてレポート作成。
第５回　食事調査・栄養価計算④（アミノ酸スコア）	事前学習は教科書のアミノ酸スコアの予習。事後学習としてレポート作成。
第６回　食事調査・栄養価計算⑤（脂肪酸組成）	事前学習は教科書の脂肪酸組成の予習。事後学習としてレポート作成。
第７回　身体活動レベルの算出①（1日目）	事前学習は教科書のタイムスタディ法の記録。事後学習としてレポート作成。
第８回　身体活動レベルの算出②（2-3日目）	事前学習としてタイムスタディ法の記録。事後学習としてレポート作成。
第９回　栄養アセスメント①（食品比率）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
第10回　栄養アセスメント②（栄養比率）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
第11回　栄養アセスメント③（食事摂取基準、三大栄養素）	事前学習として食事摂取基準の予習。事後学習としてレポート作成。
第12回　栄養アセスメント④（食事摂取基準、ビタミン・ミネラル）	事前学習として食事摂取基準の予習。事後学習としてレポート作成。
第13回　栄養ケア計画①（栄養診断、主観的指標）	事前学習として栄養診断の予習。事後学習としてレポート作成。
第14回　栄養ケア計画②（栄養診断、客観的指標）	事前学習として栄養診断の予習。事後学習としてレポート作成。
第15回　栄養ケア計画③（栄養教育の計画）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。

■ 履修上の注意
応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学などの科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート・・・70%、受講態度・・・30%（ルーブリック）

成績はレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。
ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔Nブックス　六訂　応用栄養学〕〔麻見直美・他〕〔建帛社〕〔3，630円〕
その他、適宜プリントを配布する

■ 参考書
〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，512円〕
〔日本人の食事摂取基準［2025年版］〕〔第一出版〕〔2，916円〕

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

応用栄養学実習Ⅱ

(11239)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
応用栄養学実習Ⅰでは身体状況や食物摂取状況の調査などを通じてそれらの結果を基に栄養診断を行ったが、応用栄養学実習Ⅱでは栄養教育、栄養補給、多職種連携などに基づいた栄養ケアプランを作成する。加えて食品構成から献立作成までの実践的な栄養管理能力の向上を目指す。実習の後半にはライフステージごとでテーマは異なるが、幼児期、思春期、妊娠期、高齢期などを題材として、実際に栄養アセスメントをもとにした調理実習を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・人々の身体に合う食事についての栄養管理法を総合的に理解できるようになる。		0.2			0.4		0.2	0.2	
・各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようになる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス ／ 栄養補給・多職種連携などの説明	ルーブリックを配付し成績評価について説明するので、復習をしておくこと。
第２回　加重平均食品群別栄養成分表の作成①（主食）	事前学習として加重平均食品群別栄養成分表の予習。事後学習としてレポート作成。
第３回　加重平均食品群別栄養成分表の作成②（主菜）	事前学習として加重平均食品群別栄養成分表の予習。事後学習としてレポート作成。
第４回　加重平均食品群別栄養成分表の作成③（副菜）	事前学習として加重平均食品群別栄養成分表の予習。事後学習としてレポート作成。
第５回　加重平均食品群別栄養成分表の作成④（計算の比較）	事前学習として加重平均食品群別栄養成分表の予習。事後学習としてレポート作成。
第６回　ライフステージ別、食品構成表の作成①（主食）	事前学習として食品構成表の予習。事後学習としてレポート作成。
第７回　ライフステージ別、食品構成表の作成②（主菜）	事前学習として食品構成表の予習。事後学習としてレポート作成。
第８回　ライフステージ別、食品構成表の作成③（副菜）	事前学習として食品構成表の予習。事後学習としてレポート作成。
第９回　ライフステージ別、献立の作成①（主食・主菜）	事前学習としてライフステージ別の献立の予習。事後学習としてレポート作成。
第10回　ライフステージ別、献立の作成②（副菜・間食）	事前学習としてライフステージ別の献立の予習。事後学習としてレポート作成。
第11回　ライフステージ別、献立の作成③（栄養価計算）	事前学習としてライフステージ別の献立の予習。事後学習としてレポート作成。
第12回　ライフステージ別、献立の作成④（モニタリング・まとめ）	事前学習として栄養マネジメントの予習。事後学習としてレポート作成。
第13回　調理実習①（粉ミルク実習、離乳食前期）	事前学習として乳幼児食の予習。事後学習としてレポート作成。
第14回　調理実習②（離乳食中期・後期・完了期）	事事前学習として乳幼児食の予習。事後学習としてレポート作成。
第15回　ライフステージ別、調理実習（アセスメントに基づく調理実習）	事前学習としてライフステージ別の献立の予習。事後学習としてレポート作成。

■ 履修上の注意
応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学などの科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート・・・70%、受講態度・・・30%（ルーブリック）
成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔Nブックス　六訂　応用栄養学〕〔麻見直美・他〕〔建帛社〕〔3，630円〕
その他、適宜プリントを配布する

■ 参考書
〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，512円〕
〔日本人の食事摂取基準［2025年版］〕〔第一出版〕〔2，916円〕

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

食生活論

(11240)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
島　本　和　恵

■ 授業の概要
行政機関における様々な地域住民への食支援をふまえ、『豊かな食生活』をキーワードに、食生活を多角的にとらえていく。食と環境、食文化、食と健康などについて、エビデンスや社会における現状を踏まえて理解を深めてゆく。併せて、食事はただ空腹を満たすためのものではなく、コミュニケーションの場であり、食文化の継承の場でもある。次世代に豊かな食生活を継承してゆくために今何をすべきか、また、グローバルな社会の中で私たちが果たす役割は何か、今できることを考えていく。そして、和食に込められた日本の食文化もふまえ、現代の生活の中ではどう食事に向き合うか、考え行動できる力を身につける。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食生活と健康の関連について理解できる。	0.25	0.1	0.4			0.25			
・自身の食生活を見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身につける									
・食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション 食生活論の概念と食事の機能	事前学習は特になし。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第２回　食生活と健康１ 健康維持に必要な栄養素・食品	事前学習は、栄養素や食品について調べてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第３回　食生活と健康２ 「日本人の食事摂取基準」「食生活指針」「食事バランスガイド」について	事前学習は、「日本人の食事摂取基準」「食生活指針」「食事バランスガイド」を確認してくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第４回　食生活と健康３ 自身の食事内容を振り返る	事前学習は、自身の食事内容を記録してくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第５回　食文化１ 日本の食文化と食の多様性	事前学習は、宗教と食事などのについて調べてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第６回　食文化２ 海外の食文化について考える①	事前学習は、海外の食文化について調べてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第７回　食文化３ 海外の食文化について考える②グループワーク	事前学習は、、前回の食文化に関する知識を文献などで深めてくること。。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第８回　食文化４ 海外の食文化について考える③発表	事前学習は、これまでまとめてきた食文化に関する内容の発表資料を作成すること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第９回　食の環境問題１ 現代社会の様々な食環境の課題を検討する①視聴覚教材等使用	事前学習は、食環境に関する課題を挙げてくること。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第10回　食の環境問題２ 現代社会の様々な食環境の課題を抽出する②課題を整理する	事前学習は、関心のある食環境の問題点を調べる。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第11回　食の環境問題３ 抽出した課題の改善点を探る	事前学習は、食環境の改善点について考えてくる。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第12回　食の安全性 食中毒、食品添加物について知る	事前学習は、授業終了時に出されたテーマについて調べてくること。事後学習は、教科書、配布資

	料、ノートにより内容を整理すること。
第13回　現在の「食」をとりまく諸問題 食育との繋がりを考える	事前学習は、これまで受けてきた「食育」について例を挙げてくる。事後学習は、教科書、配布資料、ノートにより内容を整理すること。
第14回　食育とは何か 食育の本質を考える	事前学習は、これまで受けてきた「食育」について例を挙げてくること。事後学習はこれまでの授業を確認し、質問事項をまとめてること。
第15回　これからの食生活を考える	事前学習は、これまでの授業内容を振り返り、質問や確認事項をまとめておくこと。事後学習は、これまでの内容を理解すること。

■ 履修上の注意

日頃から健康・栄養情報をテレビ・新聞などで収集し、積極的に知識を深めること。
遅刻・早退は慎しむこと。遅刻30分以上は欠席とみなす。毎回、点呼により出席確認を行う。
印刷等に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート（40%）、課題(40%）、受講態度（授業への参加状況、課題提出状況など20%）で評価する。
授業内での課題などは、当日もしくは後日の授業内でフィードバックする。

■ 教科書

〔ちゃんと食べとる？〕〔食べて語ろう会、中本忠子〕〔小鳥書房〕〔1，540円〕
・その他、適宜資料を配布す

■ 参考書

■ 備考

必修
質問等は授業終了時、オフィスアワーで受け付ける。

栄養教育論

(11241)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
島　本　和　恵

■ 授業の概要
学習者の特性に合わせた栄養教マネジメントの方法を解説するとともに、行動科学の理論に基づく効果的な栄養教育について講義する。具体的には食行動を変容させるために必要な行動科学の理論と栄養教育実施のために必要な技術について身につけることを目的とする。なお、授業では教員が管理栄養士として実際に経験した栄養教育のケースを紹介しながら、対象者の行動変容を促すためには、何を優先し、どのような支援が必要なのか、指導場面を想定しながら進める。（実務経験有）

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・栄養教育の概念や理論的基礎について理解できる。	0.25 0.1 0.4 0.25
・栄養教育マネジメントの方法や理論について理解できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　栄養教育の概念 栄養教育のための理論的基礎①　刺激反応理論／生態学的モデル	事前：教科書p12～32を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第２回　栄養教育のための理論的基礎②　ヘルスビリーフモデル／計画的行動理論／ソーシャルサポート	事前：教科書p35～38を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第３回　栄養教育のための理論的基礎③　社会的学習理論・社会的認知理論	事前：教科書p39～43を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第４回　栄養教育のための理論的基礎④　コミュニティ・オーガニゼーション／イノベーション普及理論／ヘルスリテラシー	事前：教科書p43～46を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第５回　栄養教育のための理論的基礎⑤　行動技法と概念	事前：教科書p46～55を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第６回　栄養教育のための理論的基礎⑥　ストレスマネジメント／ナッジ	事前：教科書p55～62を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第７回　栄養教育のための理論的基礎⑦　トランスセオレティカルモデル	事前：教科書p66～73を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第８回　栄養教育のための理論的基礎⑧　組織づくり・地域づくり	事前：教科書p76～81を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第９回　栄養教育マネジメント①　栄養アセスメントの種類と方法	事前：教科書p81～87を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第10回　栄養教育マネジメント②　食事調査法（グループワーク）	事前：教科書p87～90を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第11回　栄養教育マネジメント③　目標設定　（グループワーク）	事前：教科書p93～97を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第12回　栄養教育マネジメント④　学習形態の選択	事前：教科書p98～103を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第13回　栄養教育マネジメント⑤　栄養教育に用いる基本的な教材	事前：教科書p106～109を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する

第14回　栄養教育マネジメント⑥　栄養教育の評価	事前：教科書p110～117を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第15回　栄養教育マネジメント⑦　プリシード・プロシードモデル／ソーシャルマーケティング	事前：教科書p121～136を読む 事後：ノートやプリントを確認して学習内容を整理する
第16回　期末試験	事前：教科書やこれまでの資料を確認し、小テストを解きながら理解を深める

■ 履修上の注意
・1/3以上欠席した場合は単位を修得することが出来ないので留意のこと。
・授業は教科書に沿って行うので、各自教科書を準備すること。
・私語は他者の迷惑になるので授業中は控えること。
・授業は教科書に掲載されていない内容も説明するので、話をよく聞き、必要なことはメモをとる習慣をつけること。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（70%）と、毎回授業中に実施する小テスト（30%）で評価する。
なお、小テストは管理栄養士国家試験問題に基づき出題し、採点後翌週授業時に返却、解説する。

■ 教科書
〔栄養学科イラストレイテッド〕〔辻雅子、岡崎光子/編〕〔羊土社〕〔税込3300円〕
その他適宜資料を配布、紹介する。

■ 参考書
なし

■ 備考
必修
授業計画の順番等は変更する場合があります。
質問等は講義終了時に受け付けます。

栄養指導論

(11242)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
島　本　和　恵

■ 授業の概要
ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じた栄養教育の要点を理解し、対象者の健康やQOLの向上につながる、主体的な実践力形成の支援に必要な栄養教育の理論と方法、およびそれらの活用について学ぶ。本講義では、栄養教育を行なう際に必要となる指針や基準について理解するとともに、対象者自身による栄養・食生活上の課題解決、食行動の変容への支援の基礎となる栄養カウンセリングシステムについて習得する。併せて、具体的な事例を通して、個人・集団への栄養教育マネジメントシステムの活用に対する理解を深める。（実務経験有）

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・各指針や基準、栄養カウンセリングの基礎的技法について理解できる ・ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じた栄養教育の要点を理解できる ・各事例における栄養教育マネジメントシステムの具体的活用について理解できる	0.2　0.15　0.3　　0.2　0.15

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス/栄養カウンセリング ①基本的姿勢と主な技法	事前：前期「栄養栄養教育論」の復習をする 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第２回　栄養カウンセリング ②動機づけ面接	事前：教科書の動機づけ面接の該当箇所を読む 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第３回　妊娠期の栄養教育 ①若年女性の栄養・食の問題	事前：国民栄養調査の結果から若年女性の栄養摂取状況を調べる 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第４回　妊娠期の栄養教育 ②妊娠前から始める妊産婦のための食生活指針	事前：「妊娠前から始める妊産婦のための食生活指針」について調べる 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第５回　乳・幼児期の栄養教育 ①乳・幼児期の発育の特徴	事前：教科書のp118-121を読む 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第６回　乳・幼児期の栄養教育 ②授乳・離乳の支援ガイド	事前：「授乳・離乳の支援ガイド」について調べる 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第７回　乳・幼児期の栄養教育 ③保育所における食育に関する指針	事前：「保育所保育指針」について調べる 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第８回　乳・幼児期の栄養教育 ④幼児期の食行動	事前：教科書のp121-125 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第９回　学童期・思春期の栄養教育 ①食育基本法と食育推進基本計画	事前：「食育基本法」について調べる 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第10回　学童期・思春期の栄養教育 ②食に関する指導の手引き	事前：「食に関する指導の手引き」について調べる 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第11回　学童期・思春期の栄養教育 ③思春期やせ症	事前：思春期やせ症について調べる 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整

	理する
第12回　健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023	事前：「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」について調べる 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第13回　成人期の栄養教育 ①生活習慣病と健康日本21	事前：「健康日本21（第三次）」について調べる 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第14回　成人期の栄養教育 ②特定健診・保健指導	事前：「特定保健指導」について調べる 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する
第15回　高齢期の栄養教育 フレイル予防	事前：「フレイル」について調べる 事後：ノートや配布資料を確認して学習内容を整理する

■ 履修上の注意
1/3以上欠席した場合は単位を修得することができないので、留意すること。
授業は教科書に掲載されていない内容も説明するので、話をよく聞き、必要なことはメモを取ること。

■ 成績評価方法・基準
授業中に実施する小テスト30%：不定期に実施（翌週に解説）
期末試験70%：第16回目に実施

■ 教科書
前期に使用した「栄養教育論」の教科書を使用する。
その他、資料を適宜配布する。

■ 参考書
適宜、授業内で紹介する

■ 備考
必修
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。
都合により授業計画の順番を変更することがある。

保健栄養学

(11243)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要

本科目では、人間の健康面や栄養面に関する現状や問題点について、事例を交えて紹介する。具体的には、わが国の食環境やライフステージごとの特徴や問題点などを取り上げる。その上で健康・栄養教育を交えた対策について、食生活や栄養摂取の視点を交えて解説する。内容によっては、授業テーマに関する提出課題を出題し、履修者自身の立場で健康面や栄養面に関する現状や問題を把握し、それらについての対策や教育手法などを考えさせる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・①授業のテーマに関する現状や問題点を把握することができる。	0.2 0.4 0.1 0.2 0.1
・②の対策について、様々な視点で考える習慣を身につける。	
・①、②に関して、健康面や栄養面に関する教育方法を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　健康・予防・QOLに関する栄養教育と健康教育	予習：教科書ｐ.10～11を読んでおく。復習：一次・二次・三次予防の特徴を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第２回　わが国の食環境と栄養教育①：食生活の変化と問題点	予習：教科書ｐ.16～23を読んでおく。復習：日本人の栄養摂取状況の特徴を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第３回　わが国の食環境と栄養教育②：食生活の改善と行動変容	予習：教科書ｐ.23～27を読んでおく。復習：日本人の食に関する課題について考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第４回　わが国の食環境と栄養教育③：食に関する情報へのアクセス	予習：教科書ｐ.27～32を読んでおく。復習：健康に関する情報の発信方法について考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第５回　わが国の食環境と栄養教育④：食品ロスを減らすための栄養教育	予習：教科書ｐ.42、60　食品ロスの関係個所を読んでおく。復習：食品ロスの原因と対策を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第６回　食環境に関する課題について	予習：第1回～第5回授業のポイントを確認する。復習：授業で扱った課題の対策を考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第７回　健康・栄養面に関する指針の活用①：食生活指針	予習：教科書ｐ.58～61を読んでおく。復習：食生活指針の特徴を復習する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第８回　健康・栄養面に関する指針の活用②：身体活動・休養・睡眠指針	予習：教科書ｐ.63～66を読んでおく。復習：各種指針の特徴を把握する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第９回　諸外国の健康・栄養問題①：現状と課題	予習：教科書ｐ.32～37を読んでおく。復習：諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第10回　諸外国の健康・栄養問題②：対策と栄養教育	予習：教科書ｐ.81～90を読んでおく。復習：諸外国の健康・栄養問題の対策と栄養教育について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第11回　成人期の健康・栄養面の問題と行動変容①：ストレスとその対処方法	予習：「参考資料」①第11回予習教材（オープンな教育リソース）を視聴する。復習：食生活を交えてストレス対処方法を考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第12回　乳幼児健診での栄養教育	予習：教科書ｐ.151～153を読んでおく。復習：乳幼児健診での栄養教育などについて、母子保健事業も交えて理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。

第13回	成人期の健康・栄養面の問題と行動変容②：特定保健指導による行動変容	予習：教科書ｐ.48、特定健康診査・特定保健指導、156　生活習慣病ハイリスク集団を読んでおく。復習：特定保健指導の初回面接の内容とポイントを確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第14回	健康面に関する課題について	予習：第7回～第11回授業のポイントを確認する。復習：授業で扱った課題の対策を考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第15回	健やかな人生を歩むには？：健康面、衣食住、生活環境、断捨離、終活	予習：第7回～第14回までの授業のポイントを確認する。復習：授業で扱った内容について、自身の今後についてを考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第16回	期末試験	学習した内容全体を復習する。

■ 履修上の注意

①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②都合により、授業の順序を変更する場合もある。
③自習（事前・事後学修の内容）の具体的な内容（教科書、プリントなどの資料の該当箇所など）については、授業の際に詳しく説明する。
④本科目は卒業必修科目である。

■ 成績評価方法・基準

・期末試験（60%）、提出課題（30%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中の私語や、授業と関係ない行為を行うなど、受講態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。
・提出物、試験については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒巻礼子ほか〕〔化学同人〕〔2，600円〕

■ 参考書

①第11回予習教材（オープンな教育リソース）
　東京家政大学　三浦　正江「ストレスの基本理解とストレスへの対処法」https://www.tokyo-kasei.ac.jp/research/open_resources.html

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

栄養情報処理演習

(11244)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15 + 30）
対象学科：健専２年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
島　本　和　恵

■ 授業の概要
本演習では、履修者が将来、管理栄養士や栄養士、栄養教諭などの専門職として活動する際、健康の保持・増進や栄養改善に関する教育、情報発信、栄養評価を行うために必要な情報の収集、処理、まとめ方について教授する。具体的には、研究倫理、情報取集、栄養価計算などの情報処理に関する学習や作業を通じて、状況に応じた情報発信や表現方法を修得することをねらいとする。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・栄養評価に必要な情報を収集・整理できる。			0.15		0.2		0.3	0.15	0.2
・資料の作成、発表方法を習得できる。									
・栄養価計算を実践できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	授業で扱う内容、栄養情報に関する内容の復習。
第２回　研究倫理	研究、教育における倫理について復習する。
第３回　プレゼンテーションソフトの基本	分かりやすいプレゼンテーション資料のつくり方を考える。
第４回　プレゼンテーションソフトの活用	基本をもとに、資料のつくり方、情報の発信について復習する。
第５回　健康・栄養に関する情報の収集① 国民健康・栄養調査の活用	栄養、健康に関する内容、調査結果を理解する。
第６回　健康・栄養に関する情報の収集② 各種統計資料が扱う調査内容の検索	必要な統計データの情報源、扱う内容について理解を深める。
第７回　健康・栄養に関する情報の収集③ 文献検索（１）キーワード設定・情報収集	キーワードと得られる情報の関係を確認する。
第８回　健康・栄養に関する情報の収集④ 文献検索（２）文献の選別・入手、記載内容の確認	必要な文献が入手できたかを確認する。
第９回　栄養価計算について	これまでに学習した内容を復習する。
第10回　ソフトを使った栄養価計算①（五大栄養素）	五大栄養素について理解を深めてから臨むこと。学んだ内容を自宅で復習すること。
第11回　ソフトを使った栄養価計算②（脂肪酸組成）	脂肪酸組成について理解を深めてから臨むこと。学んだ内容を自宅で復習すること。
第12回　ソフトを使った栄養価計算③（アミノ酸スコア）	アミノ酸スコアについて理解を深めてから臨むこと。学んだ内容を自宅で復習すること。
第13回　ソフトを使った栄養価計算④（食物摂取頻度調査法）	MetsやPALについて理解を深めてから臨むこと。学んだ内容を自宅で復習すること。
第14回　ソフトを使った栄養価計算⑤（料理写真法）	食事調査法について理解を深めてから臨むこと。学んだ内容を自宅で復習すること。
第15回　栄養価計算のまとめ	内容の確認、不明な点の対応。

■ 履修上の注意
・遅刻，早退は慎むこと。15分以上の遅刻で欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。
・「統計学」、「情報基礎学」を復習のうえ，臨むこと。
・基本的なパソコンの操作に慣れておくこと。
・OA機器（ノートパソコン、タブレット、スマートフォン）、印刷に使用する用紙やUSBメモリー などは各自用意すること。
・提出物（ミニットペーパー、課題）は指定された期限（授業内含む）、提出方法を厳守すること。
・授業中は集中して臨むこと。

■ 成績評価方法・基準
提出物（ミニットペーパー、課題）の提出状況と記載内容（80%）、受講態度（授業への参加状況，課題提出状況など：20％ ）を総合的に評価する。 捏出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
なし。担当教員が各種資料（デジタル資料、配布物など）を準備する。

■ 参考書
なし。授業の中で担当教員が指示する。

■ 備考
必修
質問等については、担当教員の授業終了時、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

栄養指導論実習

(11245)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
島　本　和　恵

■ 授業の概要
栄養教育を効果的に実施するためには、栄養に関する知識の習得と、それらを対象者に理解させ、実践させる技術を習得することが必要である。この実習では、栄養教育の実践技術を習得することを目的として授業を行う。
栄養教育を計画、実施する前には、まず対象の栄養状態の把握をすることが必要となる。実際に、栄養アセスメント（食事調査等）を実施し、評価、教育の方法について実習する。また、栄養教育を計画し、そこで用いる媒体、教材を作成し、効果的な栄養教育の実践について学習する。（実務経験有）

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じ，解決すべき栄養課題を明確にできる。			0.15		0.3		0.4	0.15	
・個人・集団に対する栄養教育をマネジメントシステムに沿って実施できる。									
・栄養教育に必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。									
・グループ内で協力し合って，作業を進めることができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス，コミュニケーション演習，対象集団の実態把握のための情報収集	事前にライフステージ・ライフスタイル別の特性について復習。
第２回　対象集団の実態把握およびアセスメント	事前に収集した情報を整理しておく。
第３回　集団栄養教育の課題の明確化と目標設定	明確化した課題を目標設定に展開。
第４回　集団栄養教育計画の立案	栄養教育計画立案の検討。
第５回　集団栄養教育の指導案および教材作成	指導案の検討、教材の適切性の確認。
第６回　集団栄養教育の予行演習，見直し	発表内容の確認。
第７回　集団栄養教育のロールプレイング，振り返り	改善案への展開。
第８回　対象者（個人）の栄養アセスメント，課題の明確化	事前に個人の課題を読み込む。
第９回　食事調査の実践	事前に食事調査方法の復習。
第10回　栄養カウンセリングの演習	事前にカウンセリングの基礎的技法を復習。
第11回　個人に対する栄養教育計画の立案	個人の優課課題が適切か確認。
第12回　個人に対する栄養教育の教材作成	指導案の内容は目標に沿っているか確認。
第13回　個人に対する栄養教育のシナリオ作成	カウンセリング等の技法の確認。
第14回　栄養カウンセリングのロールプレイング予行演習，見直し	シナリオが計画・指導案に沿っているか確認。
第15回　栄養カウンセリングのロールプレイング，振り返り	改善案への展開。

■ 履修上の注意
・「栄養教育論」，「栄養指導論」，「栄養情報処理演習」，「栄養管理論」，「応用栄養学」，「臨床栄養学」を復習のうえ，それらの科目および「公衆衛生学」，「公衆栄養学」との関連を理解しつつ臨むこと。
・グループワーク中心のため，欠席，遅刻，早退は厳に慎むこと。遅刻３回で欠席１回とみなす。授業開始後30分以上の遅刻は欠席とみなす。
・実習内容によっては，授業時間外での作業が必要となる場合もあるため，各自積極的に，かつ班内で協力のうえ，臨むこと。
・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。

■ 成績評価方法・基準
・ 課題ごとのレポート(60%)、授業態度(40%)から評価する。
・提出された課題等は確認後，後日フィードバックする。

■ 教科書
〔栄養教育論実習（第３版）〕〔講談社〕〔3300円〕
適宜資料を配布する。

■ 参考書
「栄養教育論」の教科書、「栄養情報処理演習」配布資料、「応用栄養学」の教科書

■ 備考
必修

臨床栄養学Ⅰ

(11246)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、病院および高齢者施設における管理栄養士としての実務経験を生かし、臨床栄養学に対する基礎的な知識の修得に加え、傷病者および要介護者の病態や栄養状態の特性に基づいた、適切な栄養管理ができることを目的に講義を行う。内容については、臨床栄養学の意義と目的について理解し、栄養アセスメント、計画の作成、実施、評価に関する栄養管理の考え方について指導を行う。加えて、食物と薬剤の相互関係、疾患および病態に対する栄養食事療法についても指導を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・傷病者への適切な栄養管理を実施するための、基本的な病態の知識を修得できる。	0.2		0.5		0.3				
・栄養アセスメント、栄養管理計画の作成、実施および評価の方法について理解できる。									
・個々人に適した栄養食事療法のあり方を理解できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、臨床栄養学の意義と目的	（基礎編）第1章（p12～19）を予習・復習する
第２回　医療・福祉・介護と臨床栄養	（基礎編）第2章（p20～39）を予習・復習する
第３回　栄養ケアマネジメントと栄養ケアプロセス	（基礎編）第3章（p40～51）を予習・復習する
第４回　栄養アセスメント（臨床診査）	（基礎編）第4章（p52～60）を予習・復習する
第５回　栄養アセスメント（臨床検査）	（基礎編）第4章（p60～63）を予習・復習する
第６回　栄養アセスメント（身体計測・栄養・食事摂取調査）	（基礎編）第4章（p63～69）を予習・復習する
第７回　栄養アセスメント（栄養）	（基礎編）第4章（p69～74）を予習・復習する
第８回　栄養ケア計画	（基礎編）第5章（p75～85）を予習・復習する
第９回　栄養食事療法、栄養補給法の方法	（基礎編）第6章（p86～109）を予習・復習する
第10回　薬と栄養・食事の相互関係	（基礎編）第7章（p110～121）を予習・復習する
第11回　栄養教育	（基礎編）第9章（p130～146）を予習・復習する
第12回　栄養ケア記録、モニタリングと評価	（基礎編）第8章（p122～129）・10章（p147～156）を予習・復習する
第13回　肥代謝疾患①（肥満症、メタボリックシンドローム）、栄養障害の栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第1章（p24～28・p31～39）を予習・復習する
第14回　代謝疾患②（糖尿病）の栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第1章（p15～20）を予習・復習する
第15回　症例からみる栄養ケア・マネジメント（グループディスカッション）	症例の内容をまとめておく

■ 履修上の注意

・栄養アセスメントおよび栄養補給法における栄養投与量のプランニングを行うため、電卓を持参すること。
・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

・小テスト80%および講義に対する取り組み（積極的な態度、目的意識）20%を総合的に評価し、60点以上を合格として単位を認定する。
・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題し、テスト終了後解説を行う。

■ 教科書

・臨床栄養学（基礎編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
・臨床栄養学（疾患別編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕

■ 参考書

なし（適宜プリント配布）

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学Ⅱ

(11247)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、臨床栄養学Ⅰで学修した基礎的な栄養管理の手法に加え、さらに多様な疾患に対する栄養治療を行うための実践能力を身につけることを目的に、病院栄養士としての実務経験時の事例を交えながら講義を行う。各疾患における治療ガイドラインを基に、病態、症候、治療に対応した適切な栄養食事療法の指導を行う。さらに、栄養食事療法の効果に対する客観的な観察に加え、疾患ごとの栄養食事療法の基本的な知識を基に、臨床栄養学実習および臨床栄養指導論へ実践的な応用に結びつけることを目的とする。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・各疾患における、病因・病態、臨床検査値および治療全般について説明できる。	0.2		0.5		0.3				
・各疾患および病態における栄養ケア・マネジメントについて理解できる。									
・各疾患および病態に対応した、適切な栄養食事療法の選択ができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、代謝系疾患の栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第1章（p20～30）を予習・復習する
第２回　消化管疾患の栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第2章（p40～54）を予習・復習する
第３回　肝・胆・膵疾患の栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第3章（p55～69）を予習・復習する
第４回　循環器疾患の栄養ケア・マネジメント①（高血圧・動脈硬化）	（疾患別編）第4章（p70～76）を予習・復習する
第５回　循環器疾患の栄養ケア・マネジメント②（心疾患・脳疾患）	（疾患別編）第4章（p76～82）を予習・復習する
第６回　腎臓疾患の栄養ケア・マネジメント①（慢性腎臓病・糸球体腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全）	（疾患別編）第5章（p83～94）を予習・復習する
第７回　腎臓疾患の栄養ケア・マネジメント②（糖尿病性腎症、人工透析）	（疾患別編）第5章（p94～105）を予習・復習する
第８回　内分泌系疾患、神経・精神系疾患の栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第6章（p106～118）・7章（p119～138）を予習・復習する
第９回　呼吸器疾患、血液疾患の栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第8（p139～146）・9章（p147～159）を予習・復習する
第10回　運動器系疾患、免疫・アレルギー疾患の栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第10章（p160～171）・11章（p172～187）を予習・復習する
第11回　癌、周術期の栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第13章（p198～214）・14章（p215～223）を予習・復習する
第12回　摂食・嚥下障害の栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第16章（p234～253）を予習・復習する
第13回　小児疾患、妊産婦・授乳婦の栄栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第18章（p261～279）・19章（p280～293）を予習・復習する
第14回　高齢期疾患の栄養ケア・マネジメント	（疾患別編）第20章（p294～303）を予習・復習する
第15回　症例からみる栄養ケア・マネジメント（グループディスカッション）	症例の内容をまとめておく

■ 履修上の注意

・各疾患における栄養食事療法のプランニングを行うため、電卓を持参すること。
・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

・小テスト70%、課題レポート10%および講義に対する取り組み（積極的な態度、目的意識）20%を総合的に評価し、60点以上を合格として単位を認定する。
・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題し、テスト終了後解説を行う。
・課題レポートは、評価基準表（ルーブリック）を用いて評価し、後日添削して返却する。

■ 教科書
・臨床栄養学（基礎編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
・臨床栄養学（疾患別編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕

■ 参考書
なし（適宜プリント配布）

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養指導論Ⅰ

(11248)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、実際に栄養指導に携わってきた経験を生かし、臨床現場における基本的な疾患についての栄養教育および栄養食事指導法について学修することを目的に講義を行う。臨床栄養指導は、傷病者の個人または集団を対象とするもので、必要に応じた適切な栄養食事指導が実施できるよう、疾患だけではなく年齢・性差・生活状況なども考慮し、栄養食事指導を行わなければならない。そのため、模擬栄養食事指導および媒体などを作成し、栄養食事指導をどのように進めていくのか、また、患者の立場においてはどのような指導が理解しやすいかなどの指導を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・栄養食事指導を行うための、知識および方法の基礎について理解できる。	0.1	0.15	0.15		0.45		0.15		
・傷病者が正しい知識と行動を起こすことができるための、栄養食事指導の方法および技術の修得ができる。									
・疾患および病態に応じた、栄養食事指導計画書を立案できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　医療における管理栄養士の役割	チーム医療について調べる
第２回　栄養食事指導の種類と特徴	栄養食事指導の種類についてまとめる
第３回　保険診療と栄養教育	診療報酬（栄養関連）についてまとめる
第４回　診療記録の見方・書き方	診療記録の書き方についてまとめる
第５回　自分の栄養カルテを作成する①基礎データ・問題リスト	基礎データ・問題リストをまとめる
第６回　自分の栄養カルテを作成する②食事調査・初期計画	食事調査・初期計画を作成する
第７回　栄養食事指導のための情報収集	情報収集の内容をまとめる
第８回　栄養食事指導法の紹介	栄養指導内容をまとめる
第９回　情報収集方法（グループワーク）	情報収集の方法をまとめる
第10回　食事の聞き取り調査（グループワーク）	食事調査内容をまとめる
第11回　肥満症の栄養食事指導について	肥満症について復習する
第12回　症例検討と栄養食事指導計画書の作成	症例検討内容をまとめる
第13回　模擬栄養食事指導①（媒体・資料作成）	栄養食事指導媒体を作成する
第14回　模擬栄養食事指導②（プレゼンテーション）	栄養食事指導方法についてまとめる
第15回　模擬栄養食事指導②（プレゼンテーション）	栄養食事指導方法についてまとめる

■ 履修上の注意

・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。
・疾患については臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学んでいるため、復習をしておく。また、栄養食事指導を行う際の多様な場面や背景について考えておくこと。
・課題は提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。

■ 成績評価方法・基準

・演習（ルーブリック）40%、課題30%、小テスト20%、講義に対する取り組み（積極的な態度、目的意識）10%を総合的に評価し、60点以上を合格として単位を認定する。
・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。
・課題は、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

・栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ 第3版〔奈良信雄〕〔医歯薬出版〕〔2700円+税〕
・臨床栄養学（基礎編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
・臨床栄養学（疾患別編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕

■ 参考書

なし（適宜プリント配布）

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養指導論Ⅱ

(11249)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、臨床栄養指導論Ⅰと同様、実務経験を生かした媒体作成および模擬栄養指導などを行い、症例検討における事例から、適切な栄養食事指導の方法について学修する講義を行う。疾患だけではなく年齢・性差・生活状況なども考慮した栄養食事指導を行うため、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学修したことをふまえ、栄養食事療法を必要とする患者の状態に合わせた献立を作成できるよう指導を行う。併用して学修している身体計測についても傷病者の状態を把握し、その患者に適した食事内容について説明できるよう指導を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・傷病者が正しい知識と行動を起こすことができるための、栄養食事指導の方法および技術の修得ができる。			0.15		0.45		0.15	0.1	0.15
・疾患および病態に応じた栄養指導計画書を立案できる。									
・栄養指導計画書に基づいた栄養食事指導ができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　糖尿病の栄養食事指導について	糖尿病について復習する
第２回　肥満症の栄養食事指導について	症例検討内容をまとめる
第３回　高血圧の栄養食事指導について	高血圧について復習する
第４回　高尿酸血症の栄養食事指導について	高尿酸血症について復習する
第５回　脂肪肝の栄養食事指導について	脂肪肝について復習する
第６回　鉄欠乏性貧血の栄養食事指導について	鉄欠乏性貧血について復習する
第７回　鉄欠乏性貧血の症例検討（グループディスカッション）	症例検討内容をまとめる
第８回　胃癌術後の栄養食事指導について	胃癌術後について復習する
第９回　胃癌術後の症例検討（グループディスカッション）	症例検討内容をまとめる
第10回　高齢期疾患の栄養食事指導について	高齢期疾患について復習する
第11回　三つ折りリーフレット（栄養食事指導媒体）の作成	担当する疾患の内容をまとめる
第12回　模擬集団栄養食事指導媒体の作成①（グループワーク）	栄養食事指導媒体および資料を作成する
第13回　模擬集団栄養食事指導媒体の作成②（グループワーク）	栄養食事指導媒体および資料を作成する
第14回　模擬集団栄養食事指導①（プレゼンテーション）	栄養食事指導方法についてまとめる
第15回　模擬集団栄養食事指導②（プレゼンテーション）	栄養食事指導方法についてまとめる

■ 履修上の注意

・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。
・疾患については臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学んでいるため、復習をしておく。また、栄養食事指導を行う際の多様な場面や背景について考えておくこと。
・課題は提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。

■ 成績評価方法・基準

・演習（ルーブリック）40%、課題30%、小テスト20%、講義に対する取り組み（積極的な態度、目的意識）10%を総合的に評価し、60点以上を合格として単位を認定する。
・小テストについては、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。
・課題については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

・栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ 第3版〔奈良信雄〕〔医歯薬出版〕〔2700円+税〕
・臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理3訂〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2800円+税〕
・臨床栄養学（基礎編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
・臨床栄養学（疾患別編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕

■ 参考書

なし（適宜プリント配布）

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学実習Ⅰ

(11250)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 45）
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目は、治療食の献立作成および食事提供を行ってきた経験を生かし、臨床栄養学Ⅱで学修した栄養食事療法を基に、疾患別の献立作成について指導する。一般食の食品構成および献立作成の基礎から、疾患別の治療食献立への展開方法について学び、作成した献立を調理し供食を通じて評価と検討を行う。献立作成には疾患についての知識が必須であり、調理実習ではグループで行うため、コミュニケーションが必要とされる。この一環の流れを通して、治療食の特色を学び、多様化する病態に対応できる実践能力とチームとしての役割について修得する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・治療食の種類および特徴について理解し、説明ができる。			0.2		0.1		0.4	0.1	0.2
・疾患および病態に応じた適切な治療食の献立作成ができる。									
・献立表を基に、調理、盛付、供食を行い、治療食の評価ができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、臨床栄養学と食事療法について	第1章（p2～12）を予習・復習する
第２回　食品構成と献立作成について	第1章（p13～23）を予習・復習する
第３回　一般治療食について、形態別治療食の献立作成①（常食）	第2章（p24～43）を予習・復習する
第４回　形態別治療食の献立作成②（軟食・流動食）	第2章（p24～43）を予習・復習する
第５回　特別治療食、塩分制限食について	第3章（p68～75）・4章（p104～115）を予習・復習する
第６回　エネルギーコントロール食について、糖尿病食品交換表の活用方法	第3章（p44～51）・4章（p82～97）を予習・復習する
第７回　エネルギーコントロール食の献立作成，調理実習の説明	グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第８回　調理実習（一般治療食）	調理実習の内容をまとめておく
第９回　脂質コントロール食（献立作成）について，調理実習の説明	・第3章（p60～65）・第6章（p169～177）を予習・復習する ・グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第10回　調理実習（エネルギーコントロール食）	調理実習の内容をまとめておく
第11回　たんぱく質コントロール食（献立作成）について、調理実習の説明	・第3章（p52～80）・第5章（p122～168）を予習・復習する ・グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第12回　調理実習（脂質コントロール食）	調理実習の内容をまとめておく
第13回　調理実習（たんぱく質コントロール食）、特殊治療食（低たんぱく食）の試食	調理実習の内容をまとめておく
第14回　嚥下調整食および食事介助について、調理実習の説明	第8章（p221～224）を予習・復習する
第15回　調理実習（嚥下調整食）	調理実習の内容をまとめておく

■ 履修上の注意

・調理実習の際には清潔な調理衣（白衣・調理ズボン）を着用し、身支度・衛生管理を徹底すること。
・献立作成および栄養価計算等を行うため、食品成分表、電卓を持参すること。
・実習に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。
・課題は提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。

■ 成績評価方法・基準

・課題60%、実習に対する取り組み（ルーブリック）40%を総合的に評価し、60点以上を合格として単位を認定する。
・課題提出については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

・臨床栄養学実習書 第13版〔今井佐恵子 他〕〔医歯薬出版〕〔2900円+税〕

・糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版〔日本糖尿病学会〕〔文光堂〕〔900円+税〕
・臨床栄養学（基礎編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
・臨床栄養学（疾患別編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕
・臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理3訂〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2800円+税〕
・栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ 第3版〔奈良信雄〕〔医歯薬出版〕〔2700円+税〕

■ 参考書
なし（適宜プリント配布）

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある
・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学実習Ⅱ

(11251)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (45 + 45)
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目は、今まで学修した臨床栄養学の知識を医療機関等で実践するため、疾患および病態に応じた、適切な栄養管理が実施できる実践能力を修得する実習である。身体計測の実技を中心に種々のアセスメント指標より、傷病者の病態および栄養状態の特徴を把握し、適切な栄養補給法の選択および栄養管理計画書の作成方法について、実務経験を生かした指導を行う。さらに、疾患別の症例検討を実施し、病態生理を理解したうえで、個々人に適した栄養食事療法を行うため方法よび技術を修得する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
			0.15	0.15	0.1		0.35	0.1	0.15
・身体計測の目的や意義について理解し、正確に計測ができる。									
・傷病者の病態や栄養状態に基づいた、適切な栄養補給法 の知識を修得できる。									
・症例検討を実施することにより、実践に活かすための手法を修得できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、栄養スクリーニング・栄養アセスメント	実習1（p1～6）を予習・復習する
第２回　身体計測実習の説明、栄養指標の算出	実習2（p7～14）を予習・復習する
第３回　①身体計測、②症例検討（慢性心不全、2型糖尿病、非代償性肝硬変、慢性腎不全）③ベッドサイド実習	・実習8（p46～53）を予習・復習する ・自身の測定データをまとめておく
第４回　①身体計測、②症例検討（食物アレルギー、褥瘡、クローン病、慢性閉塞性肺疾患）③ベッドサイド実習	・実習8（p54～62）を予習・復習する ・自身の測定データをまとめておく
第５回　①身体計測、②症例検討（直腸癌、進行胃癌、摂食嚥下障害、血液透析）③ベッドサイド実習	・実習8（p63～73）を予習・復習する ・自身の測定データをまとめておく
第６回　体成分分解装置を用いた測定結果および栄養パラメータの算出	自身の測定データをまとめておく
第７回　栄養必要量の算出方法、食生活状況	実習3（p15～18）を予習・復習する
第８回　栄養補給法の種類と選択・経腸栄養剤の投与および管理	実習4（p19～21）を予習・復習する
第９回　経静脈栄養剤の投与および管理	静脈栄養剤の種類等をまとめておく
第10回　栄養管理計画書の作成	実習5（p22～28）を予習・復習する
第11回　症例検討①（グループディスカッション）	各疾患の病態生理について復習する
第12回　症例検討②（グループディスカッション）	各疾患の病態生理について復習する
第13回　症例発表の準備（グループワーク）	症例発表の内容をまとめておく
第14回　症例発表と評価①	症例発表の内容をまとめておく
第15回　症例発表と評価②	症例発表の内容をまとめておく

■ 履修上の注意

・身体計測の必要性について調べておく。
・実習に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。
・課題は提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。

■ 成績評価方法・基準

・課題60%、実習に対する取り組み（ルーブリック）40%を総合的に評価し、60点以上を合格として単位を認定する。
・課題提出については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

・臨床栄養学（基礎編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
・臨床栄養学（疾患別編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕
・臨床栄養学実習書 第13版〔今井佐恵子 他〕〔医歯薬出版〕〔2900円+税〕
・臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理3訂〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2800円+税〕
・栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ 第3版〔奈良信雄〕〔医歯薬出版〕〔2700円+税〕

■ 参考書
なし（適宜プリント配布）

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

公衆栄養学

(11252)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要
公衆栄養学は、日常の生活圏である地域や市町村、都道府県、国などの住民レベル、学校や職域などの様々な集団に所属する人々を対象に、健康面や栄養面の現状を把握し、問題点の改善、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。その際、食生活や栄養面の観点から検討を行う。本講義では、以上の内容に関する事項として、地域住民や各種集団の健康・栄養に関する現状や問題点、関係する法規や政策、公衆栄養活動の流れ等について解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・公衆栄養活動に関連する法規を理解する。	0.2　0.3　0.2　0.2　0.1
・公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。	
・公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　公衆栄養の概念	予習：教科書ｐ.2～4を読んでおく。復習：公衆栄養の意義や目的、生態系やコミュニティとの関連について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第２回　公衆栄養活動	予習：教科書ｐ.4～13を読んでおく。復習：公衆栄養活動について、日本の歴史や現在の課題について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第３回　日本の栄養行政	予習：教科書ｐ.40～45を読んでおく。復習：行政の体制、保健所や市町村保健センターの役割について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第４回　公衆栄養関連法規①：　地域保健法、健康増進法	予習：教科書ｐ.46～47を読んでおく。復習：地域保健法や健康増進法の要点を確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第５回　公衆栄養関連法規②：　食育基本法、その他の関連法規	予習：教科書ｐ.47～50を読んでおく。復習：食育基本法をはじめ、授業で扱う法規の要点を確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第６回　日本の管理栄養士・栄養士制度	予習：教科書ｐ.50～54を読んでおく。復習：栄養士法が扱う内容について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第７回　国民健康・栄養調査	予習：教科書ｐ.54～58を読んでおく。復習：調査の目的、実施について、ポイントを理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第８回　ミニテスト 公衆栄養マネジメント・アセスメント	第1回～第7回の授業内容の修得状況を点検する。 予習：教科書ｐ.114～116を読んでおく。復習：公衆栄養活動の進め方について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第９回　健康・食生活の危機管理と食支援①：　災害発生時の食支援の公衆栄養活動における調査方法流れ	予習：教科書ｐ.139～142を読んでおく。復習：災害発生時の食支援の流れを確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第10回　健康・食生活の危機管理と食支援②：　震災発生時の行政栄養士の役割について	予習：教科書ｐ.139～142を読んでおく。復習：震災発生時の行政栄養士の役割を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第11回　公衆栄養活動における調査方法	予習：教科書ｐ.119～121を読んでおく。復習：調査方法の特徴を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第12回　公衆栄養活動における目標設定	予習：教科書ｐ.121～126を読んでおく。復習：目標設定、優先順位の決め方について確認する。

	（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第13回　公衆栄養活動の評価	予習：教科書ｐ.126～129を読んでおく。復習：公衆栄養活動の評価の具体例を交え、理解を深める。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第14回　栄養疫学	予習：教科書ｐ.92～99を読んでおく。疫学を復習の上、受講する。復習：個人内変動、個人間変動、総エネルギー調整栄養素摂取量について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第15回　公衆栄養プログラムの展開	予習：第8回～第14回のポイントを確認しておく。復習：これまでの授業で学習したことを交えて復習する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第16回　期末試験	第8回～第15回の授業内容の修得状況を点検する。

■ 履修上の注意
①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②都合により、授業の順序を変更する場合もある。
③自習（事前・事後学修の内容）の具体的な内容（教科書、プリントなどの資料の該当箇所など）については、授業の際に詳しく説明する。
④本科目の単位を取得できないと、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
⑤本科目は卒業必修科目である。

■ 成績評価方法・基準
・ミニテスト（40%）、期末試験（50%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中の私語や授業と関係ない行為を行うなど、受講態度に問題のある者は状況に応じて減点する。
・提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書
〔公衆栄養学〕〔荒巻礼子ほか〕〔化学同人〕〔2，600円〕

■ 参考書
なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付ける。

公衆栄養学実習

(11253)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要
本実習では、「公衆栄養学」で学習した内容をもとに、保健所や市町村保健センターの行政栄養士、地域での健康・栄養活動に携わる管理栄養士や栄養士が扱う健康や栄養に関する事業を中心に、公衆栄養活動を展開する上で必要な知識や手法を教授する。具体的には、公衆栄養活動の企画から評価までの一連の流れ、地域住民へのポピュレーションアプローチの実際などを扱う。
本実習の内容は、公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱでの実践活動に結びつくものである。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。	0.15 0.15 0.15 0.3 0.1 0.15
・ポピュレーションアプローチについて理解する。	
・公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　公衆栄養活動とは？　（１）保健所、市町村保健センターの役割	教科書ｐ.44を復習しておく。公衆栄養活動の現場の役割について、事例で扱った内用を確認する。
第２回　公衆栄養活動とは？　（２）行政栄養士の役割	教科書ｐ.42　表3.1より行政栄養士の役割を復習しておく。課題を通じて、行政栄養士の役割を理解する。
第３回　健康問題に関する状況判断の実際 ※グループ・ワーク	状況判断の際、自分の考えを発表することと同時に、他の人の考えをじっくり聴くことが大事であることを理解する。状況判断の際、さまざまなものの見方、考え方があることを理解する。
第４回　地方自治体の健康増進計画について	教科書ｐ.68～74　健康日本21（第三次）、ｐ.77　都道府県健康増進計画を復習の上、受講する。都道府県が抱える健康問題について、課題と対応を検索する。そのうえで、対策について考える。
第５回　地域住民の健康増進に関する活動　（１）課題提示、情報検索	地域住民の健康課題の対策について考える。復習として、各自が考えた活動内容が、実現可能なものであるかを確認する。
第６回　地域住民の健康増進に関する活動　（２）事例の見学	第5回の作業内容を踏まえ、事例見学を行う。見学を通じて理解した点、疑問点などを確認する。
第７回　地域住民の健康増進に関する活動　（３）発表、まとめ ※グループ・ディスカッション	第6回で学習した内容を確認する。復習として、発表で気づいたこと、他の人の発表から学んだこと、自分の考えに生かせる点などを確認する。
第８回　食生活改善に関する実習　（１）課題の提示、事業の企画 ※グループ・ワーク	教科書「第5章」を復習しておく。 実習を通じて、PDCAサイクルの「計画」について扱う内容を確認する。
第９回　食生活改善に関する実習　（２）企画書・栄養教育用リーフレットの作成 ※グループ・ワーク	第8回の作業状況を確認する。復習として、企画書とリーフレットの作成に必要な公的情報の内容を点検する。
第10回　食生活改善に関する実習　（３）企画書の説明・栄養教育の準備 ※グループ・ワーク	第9回の作業状況を確認する。復習として、企画書の内容と栄養教育の内容、リーフレットの内容に矛盾がないか振り返る。
第11回　食生活改善に関する実習　（４）企画書の説明・栄養教育、評価 ※グループ・ワーク	第10回の内容を確認する。復習として、PDCAサイクルの「実施」で必要なことの確認を行う。
第12回　食生活改善に関する実習　（５）企画書、栄養教育の見直し、修正作業 ※グループ・ワーク	第11回の内容を確認する。復習として、PDCAサイクルの「評価」について重要な点を確認する。
第13回　食生活改善に関する実習　（６）企画書、栄養教育用リーフレットの修正作業、説明・発表の準備	第12回の作業状況を確認する。復習として、企画書の内容と栄養教育の内容、リーフレットの内容

	※グループ・ワーク		に矛盾がないか振り返る。
第14回	食生活改善に関する実習目）、評価 ※グループ・ワーク	（７）企画書の説明・栄養教育（2回	第13回の内容を確認する。復習として、PDCAサイクルの「実施」で必要なことの確認を行う。
第15回	食生活改善に関する実習目）の振り返り、まとめ ※グループ・ワーク	（８）企画書の説明、栄養教育（2回	第14回の内容を確認する。復習として、2回めの「評価」で良かった点、改善すると良くなる点を確認する。

■ 履修上の注意
①遅刻は、始業時から30分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②作業内容によっては、実習時間外、集中講義期間等に行うものもある。
③感染症の流行、震災の発生、台風の接近など登校できない状況の際は、遠隔授業で行うこともある。
④本科目の単位を取得できないと、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
⑤本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許を取得できない。

■ 成績評価方法・基準
・グループワークでの作業状況（40%）、提出物（50%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②実習と関係ない行為を行うなどの問題がある場合、状況に応じて減点する。
・ルーブリック評価については、実習時に説明する。
・提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子ほか〕〔化学同人〕〔2，600円〕

■ 参考書
なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）にて受付ける。

地域栄養活動演習Ⅰ

(11254)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要

本演習では、「公衆栄養学」や「公衆衛生学」等で学習した人間の生活圏である地域、市町村、都道府県のレベルを中心に、そこで展開される「地域栄養活動」に関して、以下の点を扱う。
【１】地域における健康面や栄養面、食生活に関する事例や課題より、現状や問題点を把握する。その上で、対策や関連する政策などについて、食生活や栄養摂取、栄養改善の視点から検討する。
【２】後期の大学祭において、本演習に関する内容の展示・情報発信を行う。その企画、準備を行う。
【３】「地域栄養活動」に関連する時事問題について解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・地域が抱える健康・栄養に関する課題の対処方法、解決方法を身につける。		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4		0.1
・地域栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「食生活改善に関する実習」の振り返り ※グループワーク	「公衆栄養学実習」で扱った「食生活改善に関する実習」を振り返り、活動を展開する際に必要な社会資源などについて確認する。
第２回　地域栄養活動の企画①：大学祭での展示・情報発信について ※PBL、グループワーク 健康づくりに関する普及・啓発活動①：キャッチコピーの作成	・過去に行った活動をもとに、発信すべき情報や内容を検討する。 ・作業を通じて、健康に関する情報発信の効果的な方法について考える。
第３回　若年者への食に関する情報発信①：事例紹介	授業で扱った事例について、活動を行う上での課題、検討すべき点を考える。
第４回　地域社会における健康・栄養に関する現状と問題点の把握	教科書ｐ.66～76　健康日本21（第二次）を復習しておく。授業を通じて、日本の健康・栄養に関する現状と問題点について復習、確認する。
第５回　地域栄養活動の企画②：大学祭での展示・情報発信の内容について ※PBL、グループワーク	第４回までの授業内容を踏まえ、ポピュレーションアプローチにつながる内容を検討する。
第６回　地域栄養活動の企画③：大学祭での展示・情報発信の内容の確認 ※PBL、グループワーク	第５回授業の内容を振り返り、発信する情報の信用性、問題点などを確認する。
第７回　地域栄養活動の企画④：大学祭での展示・情報発信の準備 ※PBL、グループワーク	第６回授業の内容をもとに、発信する情報のまとめ方、発信方法の問題点を確認する。
第８回　地域栄養活動の企画⑤：大学祭での展示・情報発信の準備・確認 ※PBL、グループワーク	第７回授業で取り組んだ内容について、内容の確認、改善点の対応を行う。
第９回　公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題①：健康面、栄養面に関する最新情報の紹介	授業で扱った事例を通じて、今後の課題や対策等について検討する。
第10回　若年者への食に関する情報発信②：地域栄養活動の展開事例	教科書「第6章」を読み、公衆栄養プログラムの展開について確認する。授業での事例を通じて、地域栄養活動の展開方法について理解を深める。
第11回　健康づくりに関する普及・啓発活動②：キャッチコピーの発表、まとめ ※プレゼンテーション	発表を通じて、健康に関する情報発信のポイントを学習する。
第12回　若年者への食に関する情報発信③：地方自治体の健康課題	第１０回の内容について、地方自治体が取り組む健康課題の事例を通じて、地域栄養活動の展開方法について理解を深める。
第13回　地域栄養活動の媒体作成①：大学祭での展示物・配布物の作成 ※PBL、グループワーク	第11回授業で決まった内容をもとに、展示物・配布物の作成に取り掛かる。
第14回　地域栄養活動の媒体作成②：大学祭での展示物・配布物の作成 ※PBL、グループワーク	第13回授業のつづき。展示物・配布物の作成を継続する。
第15回　地域栄養活動の媒体作成③：大学祭での展示物・配布物の作成備	第14回授業のつづき。展示物・配布物の作業進捗

※PBL、グループワーク	状況を確認し、後期の「地域栄養活動演習Ⅱ」に継続させる。

■ 履修上の注意
①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②状況等により、授業の順序を変更する場合がある。
③内容によっては授業時間外、集中講義期間等に行うものもある。
④本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。

■ 成績評価方法・基準
・提出物（課題、ミニットペーパー等）（60%）、受講態度（40%）を総合して、成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③演習中に演習とは関係ない行為を行うなど、問題のある者は、状況に応じて減点する。
・ルーブリック評価については、授業で説明する。
・提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子ほか〕〔化学同人〕〔2，600円〕

■ 参考書
なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

地域栄養活動演習Ⅱ

(11255)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要
本演習では、「公衆栄養学」、「公衆衛生学」、「地域栄養活動演習Ⅰ」等で学習した人間の生活圏である地域、市町村、都道府県のレベルを中心に、そこで展開される「地域栄養活動」に関して、以下の点を扱う。
【１】地域における健康面や栄養面、食生活に関する事例や課題について対策を検討し、その内容を大学祭において展示・情報発信する。
【２】「地域栄養活動」に関連する時事問題について解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4		0.1
・地域が抱える健康・栄養に関する課題の対処方法、解決方法を身につける。									
・地域栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　地域栄養活動の展開①：大学祭での展示・情報発信の内容確認、準備 ※グループワーク	地域栄養活動演習Ⅰで学習した内容を踏まえ、活動の実施について確認する。具体的には、大学祭での展示・情報発信の媒体について、作業の進捗状況、ならびに完成までの流れを確認する。。
第２回　地域栄養活動の展開②：大学祭の展示物の作成 ※グループワーク	第１回授業の内容をもとに、作業を継続する。
第３回　地域栄養活動の展開③：大学祭の展示物・配布物の作成 ※グループワーク	第２回授業のつづき。展示物、配布物を完成させる。
第４回　地域栄養活動の展開④：大学祭の会場設営に関する準備作業 ※グループワーク	会場設営に関して、効果的な展示・情報発信を考える。
第５回　地域栄養活動の展開⑤：大学祭会場での展示・情報発信 ※グループワーク	来場者への対応について考える。来場者の反応より、健康や栄養に関する情報発信の効果、改善点などを把握する。
第６回　地域栄養活動の展開⑥：大学祭での活動の振り返り、評価 ※グループワーク	大学祭での活動を振り返り、活動全体の評価を行う。評価を通じて、今後対応すべき点を検討する。
第７回　日本栄養士会「全国栄養士大会」への参加①：ガイダンス	大会の開催の目的を確認し、管理栄養士・栄養士が現場で活動する際に必要な知識、情報などを把握する。
第８回　日本栄養士会「全国栄養士大会」への参加②：オンライン講演の受講	講演内容より、管理栄養士・栄養士が活動する際に必要な知識、情報などを修得する。
第９回　日本栄養士会「全国栄養士大会」への参加③：受講した講演内容のまとめ	各自が受講した講演の内容を振り返り、報告をまとめる。
第10回　各種組織・団体による地域栄養活動の展開について①： 食品関係の企業・団体	教科書.126　地域社会資源を復習しておく。授業で取り上げる事例より、食品関係の企業・団体による活動の展開について理解する。
第11回　各種組織・団体による地域栄養活動の展開について②： 健康関係の企業・団体	教科書.126　地域社会資源を復習しておく。授業で取り上げる事例より、健康関係の企業・団体による活動の展開について理解する。
第12回　日本栄養士会「全国栄養士大会」への参加④：受講した講演内容の報告・情報共有 ※グループ・ディスカッション	各自が修得した情報を共有し、管理栄養士・栄養士に必要な知識、情報などについて考える。
第13回　公衆栄養・公衆衛生に関する情報発信の事例検討①：課題提示、情報検索	課題にもとづき情報を検索し、公衆栄養・公衆衛生活動での情報発信について検討する。
第14回　公衆栄養・公衆衛生に関する情報発信の事例検討②：検索した情報の報告・情報共有 ※グループ・ディスカッション	各自が検索した情報を共有し、公衆栄養・公衆衛生活動での利用、啓発について考える。
第15回　地域栄養活動の今後について	学習した内容をもとに、地域栄養活動の今後につ

いて考える。

■ 履修上の注意
①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②内容によっては授業時間外、集中講義期間等に行うものもある。
③状況等により、授業の順序を変更する場合がある。
④本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。

■ 成績評価方法・基準
・提出物（課題、ミニットペーパー等（60%）、受講態度（40%）を総合して、成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③演習中に演習とは関係ない行為を行うなど、問題のある者は、状況に応じて減点する。
・ルーブリック評価については、授業で説明する。
・提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子ほか〕〔化学同人〕〔2，600円〕

■ 参考書
なし。授業内で紹介する。

■ 備考
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付ける。

給食管理学

(11256)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要
健康増進法に定める特定給食施設の給食管理の意義・目的及び、栄養・食事アセスメントできるよう食事計画の基礎を指導し、衛生面から総合的なマネジメントできる能力を養わせることを目的とする。特定給食施設における利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣などに基づいた食事の提供に関わる栄養・食事管理について指導し、大量調理の特性を踏まえた生産管理について教授する。小中学校・学校給食センターでの管理栄養士としての経験を生かし、給食管理・衛生管理等において、実態を踏まえた指導を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・給食施設を運営するための基礎知識を、栄養士・管理栄養士業務に応用できる知識・技術として活用できる。	0.3 0.1 0.3 0.1 0.2
・給食施設が所属する組織について運営管理方法について理解する。	
・衛生管理するたために知識を身につけ、臨地実習につなげる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス 給食の概念①：給食の概念	教科書の第1章p1～5を予習・復習する。
第２回　給食の概念②：給食システム、給食を提供する施設と関連法規	教科書の第1章p6～16を予習・復習する。
第３回　栄養・食事管理①：栄養・食事管理の概念、栄養・食事アセスメント	教科書の第3章p31～35を予習・復習する。
第４回　栄養・食事管理②：栄養・食事計画、栄養・食事計画の実施	教科書の第3章p35～55を予習・復習する。
第５回　給食の品質：給食の品質の標準化	教科書の第4章p57～68を予習・復習する。
第６回　給食の生産①：原価	教科書の第5章p71～76を予習・復習する。
第７回　給食の生産②：食材	教科書の第5章p81～93を予習・復習する。
第８回　給食の生産③：生産（調理と提供）	教科書の第5章p94～127を予習・復習する。
第９回　給食の安全・衛生①：安全・衛生管理の概要	教科書の第6章p131～138を予習・復習する。
第10回　給食の安全・衛生②：給食の安全・衛生の実際	教科書の第6章p139～148を予習・復習する。
第11回　給食の安全・衛生③：大量調理施設管理マニュアル	教科書の参考資料p253～263を予習・復習する。
第12回　給食の安全・衛生④：学校給食衛生基準	教科書の参考資料p279～288を予習・復習する。
第13回　給食の安全・衛生④：事故・災害時対策 ミニテスト	教科書の第6章p150～159を予習・復習する。
第14回　施設・設備管理：作業区域と作業動線図	教科書の第7章p161～184を予習・復習する。
第15回　施設・設備管理：食事環境の設計と設備	教科書の第7章p184～188を予習・復習する。

■ 履修上の注意
給食経営管理業務に必要なマネジメント能力等を身につけるため、講義と演習を組合せて行う。
知識・技能理解のためにミニテストと演習を必要に応じ実施する。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（授業への積極的参加状況など）50%、ミニテスト50%で評価。ミニテスト欠席の場合は評価しない。ミニテストについては後日で返却し、復習する。

■ 教科書
［給食経営管理論］［井川聡子ほか］［理工図書］[3，300円 + 税]

■ 参考書
〔給食経営管理用語辞典第3版〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕[2，750円]

■ 備考
質問等は授業終了時・オフィスアワーで受け付ける。

給食経営学

(11257)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要
特定多数人に対して栄養・食事管理に必要な知識と、給食業務を円滑に管理・経営するための基本な知識と技術（方法）について，小中学校・学校給食センターでの管理栄養士としての経験を生かし講義する。また、栄養・食事管理およびサービスを運営するために必要な資源や情報とそれをマネジメントするために必要な生産（調理）の理論や手法について説明し、活用できるように解説する。給食施設における特定多数の人々の栄養管理を，効率的かつ効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについて，経営管理の理論に基づき教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・栄養･食事管理及びサービスを運営するために必要な資源や情報とそれをマネジメントするために必要な生産（調理）の理論や手法について理解し、活用できるようにする。 ・給食経営管理業務に必要なマネジメント能力等を身につける。 ・給食を運営する上で必要な知識や技術を身につける。	0.3　0.1　0.3　0.1　0.2

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　給食の概念①　給食の意義と目的	教科書の第１章p2～p8を予習・復習する。
第２回　給食の概念②：給食施設と関連法規 ミニテスト（大量調理施設衛生管理マニュアル）	教科書の第1章p8～14を予習・復習する。
第３回　給食経営管理の概念①：給食管理の意義と目的	教科書の第2章p16～27を予習・復習する。
第４回　給食の品質①　栄養・食事管理と総合品質、標準化	教科書の第4章p52～58を予習・復習する。
第５回　給食の品質②　献立の標準化、調理の標準化、PDCAサイクル	教科書の第4章p59～63を予習・復習する。
第６回　給食の生産①：原価	教科書の第5章p66～74を予習・復習する。
第７回　給食の生産②：食材	教科書の第5章p75～86を予習・復習する。
第８回　給食の生産③：生産（調理と提供）	教科書の第5章p87～120をを予習・復習する。
第９回　給食の施設・設備①：生産（調理）施設・設備設計	教科書の第7章p152～159を予習・復習する。
第10回　給食の施設・設備②：施設・設備のレイアウト、意義と目的	教科書の第7章P160～175を予習・復習する。
第11回　給食の人事・事務①：給食業務従事者の雇用形態、教育・訓練、能力開発、能力評価	教科書の第8章p178～を予習・復習する。
第12回　給食の人事・事務②：給食業務で必要な帳票名やその役割、記入項目	教科書の第8章p187～を予習・復習する。
第13回　給食施設の特徴と管理栄養士の役割・関連法規① 特定給食施設に関わる法規	教科書の参考資料P234～245を予習・復習する。
第14回　給食施設の特徴と管理栄養士の役割・関連法規②	教科書の参考資料P246～287を予習・復習する。
第15回　まとめ　給食における評価と改善 ミニテスト	教科書の内容をまとめ復習する。

■ 履修上の注意
管理栄養士としての企画力、マネジメント能力、適切な評価などに適応できるよう積極的に学び、自ら考えながら受講すること。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（授業への積極的参加状況など）50%、ミニテスト50%で評価。ミニテスト欠席の場合は評価しない。ミニテストについては後日で返却し、復習する。

■ 教科書
［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［理工図書］[3，300円]

■ 参考書
〔給食経営管理用語辞典〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕[2，750円]

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

給食管理実習Ⅰ

(11258)

単位：１
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：必修　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要
特定給食施設の基準に基づき、学内で学んだ栄養学、調理学、衛生学などの基礎知識を活かして、学生・教職員を対象とした100食以上の給食の運営方法、計画のたて方、栄養・食事管理、作業管理、衛生管理、品質管理、事務管理、大量調理、評価までをPDCAサイクルに準じて実施し、給食に関する知識及び技能を習得することを教授する。小中学校・学校給食センターでの管理栄養士としての経験を生かし、給食管理・栄養指導・衛生管理等において、実態を踏まえた指導を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
		0.1	0.1	0.1	0.2		0.4	0.1	
・特定給食施設における給食の運営・給食経営管理能力を身につける。 ・給食運営のPDCAサイクルについて基礎的な内容を理解し、対象集団の食事の計画と提供のための技能を身につける。 ・栄養面・安全面・経済面を統合したマネジメントを理解し自ら実行できる。									

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	第１回 オリエンテーション 実習の意義・目的・内容・日程・役割分担、給食業務の流れ	［給食管理・経営管理実習の手引き］Ｐ．６～Ｐ．３０を熟読してくること
第２回	第２回 食事管理：対象集団の栄養アセスメント、給与栄養目標量、食品群別荷重平均成分表の作成 大量調理マニュアルテスト	次週まで完成品で持参すること
第３回	第３回 献立計画：栄養食事計画に基づいた献立作成	次週まで完成品で持参すること
第４回	第４回（グループワーク） 作業計画：調理行程・調理作業計画の作成 試作：実際に調理したものを評価し、実習に備える	グループごとに試作の材料を持参すること。 グループごとに試作品を検討し、献立表を完成させる。
第５回	第5回（グループワーク） 衛生管理・品質管理計画：各種書類作成 材料管理：食材料の購入計画書作成	グループごとに献立表・発注書・作業工程表を完成させ提出すること。
第６回	第6回～第13回（グループワーク） ○食事提供サービス ・栄養士班・調理師班・衛生班に役割を分担し、業務を交代で実習する。 ・栄養士班役割：検収、調理指導、味付け決定、盛り付け指導、指導媒体の作成、点検表の記録、材料費の算出、帳票整理など。掲示用献立表作成、アンケート用紙作成、アンケート集計。終了後、実際に調理作業従事した立場から、評価を行う。 ・調理師班役割：栄養士班の指示に従い、下処理、裁断、調理、供食サービス、後片付け、清掃、食器洗浄作業などを行う。終了後、実際に調理作業従事した立場から、評価を行う。 ・衛生班の役割:大量調理施設衛生管理マニュアルに従って、後片付け、清掃を行う。実際に従事した立場から、評価を行う。	・大量調理施設衛生管理マニュアル、授業時配布の資料、教科書の内容を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、シュミレーションをしてから実習に臨むこと。 ・積極的に他者とコミュニケーションをとり、スムーズな実習を行うこと。
第７回	第14回　反省、評価、まとめ 給食について（学外講師）	実習プリントのまとめをしっかり行い、実習内容の理解を深めておくこと。
第８回	第15回　期末テスト 施設・機器管理：機材の整備	大量調理施設衛生管理マニュアル及び予定献立表・作業工程表・作業動線図、その他帳票について理解を深めてくこと。

■ 履修上の注意
①食品構成表・給与栄養目標量から季節ごとの献立作成・栄養価計算ができること。

②大量調理施設衛生管理マニュアルを完全に習得していること。
③グループ内で報告、連絡、相談をしっかり行い、常にコミュニケーションを図ること。
④プリント等を事前に配布するので、各自ファイリングし、実習に活用できるようにしておくこと。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（30%）、実習に対する取り組み（ルーブリック）（40%）、実習プリント完成度（30%）
※提出物は時間厳守とし、未提出の場合は評価の対象としない。授業態度不良、期末試験欠席の場合、単位は認めない。
・実習プリントは、後日添削して返却する。・期末テストについては、解答を授業中にフィードバックする。

■ 教科書
［給食管理・経営管理実習の手引き5版］［西川貴子他］［医歯薬出版］[2，310円]
［給食経営管理論］［井川聡子ほか］［理工図書］[3，300円＋税]

■ 参考書
〔給食経営管理用語辞典〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版］[2，750円]
［調理のためのベーシックデータ第6版］［女子栄養大学出版］[2，200円]
［日本人の食事摂取基準（2025年版）］［第一出版］[2，090円]
［日本標準食品成分表八訂版］［女子栄養大学出版部］[1，650円]

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。
ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。

給食管理実習Ⅱ

(11259)

単位：１
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要
特定給食施設でのフードマネジメントに必要な管理栄養士としての知識や能力を実践することで修得することを目的とする実習である。小中学校・学校給食センターでの管理栄養士としての経験を生かし、給食管理・栄養指導・衛生管理等において、実態を踏まえた指導を行う。対象者に合った給食を１００食以上の提供をするため、グループ別に役割を分担し給食運営を行う。「栄養・食事管理」「大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理」「作業管理」「原価管理」「施設・設備管理」などを実践で学ぶ。実習の計画（Plan）から、実施（Do）、検証（Check）、改善（Act）に至るすべてを学生自身が進める。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
		0.1	0.1	0.1	0.2		0.3	0.1	0.1
・給食の運営に必要な知識・技術・資質に気づき、管理栄養士の責務としてそれらの必要性が理解できる。 ・大量調理機器の取り扱い、大量調理の方法、衛生管理の実際について理解し、食事サービスや喫食時の栄養教食事サービスや喫食時の栄養教育を実践し、評価ができる。 ・物資の購入計画から管理、原価計算等を実践し、給食経営の実際について分かる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食事計画：対象者・喫食者数の把握	教科書p６～３０を熟読してくること
第２回　食事計画：食品構成表の作成、予定献立表の作成、大量調理マニュアルテスト	次週まで完成品で持参すること
第３回　栄養教育計画：栄養教育媒体・アンケート調査内容計画の作成（グループワーク）	次週まで完成品で持参すること
第４回　作業管理・調理工程・作業計画の作成 試品の評価 品質管理計画：各種帳票作成作（グループワーク）	グループごとに作成し提出すること
第５回　食材料の発注、計画内容の確認、計画発表各班による衛生管理計画：各種帳票作成（グループワーク）	グループごとに作成し提出すること。
第６回　調理供食サービス①各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討（グループワーク）	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第７回　調理供食サービス②各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討（グループワーク）	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第８回　調理供食サービス③各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討（グループワーク）	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第９回　調理供食サービス④各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討（グループワーク）	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。

	・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第10回　調理供食サービス⑤各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討（グループワーク）	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第11回　調理供食サービス⑥各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討（グループワーク）	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第12回　調理供食サービス⑦各班による帳票の書き込み、アンケート集計仕上げ（グループワーク）	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第13回　調理供食サービス⑧各班による帳票の書き込み、アンケート集計仕上げ（グループワーク）	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第14回　反省・評価・まとめ（グループワーク） 給食について（外部講師）	実習のまとめをしっかり行い実習プリントを仕上げ、実習内容の理解を深めること。
第15回　期末テスト 施設・機器管理：機材の整備	大量調理施設衛生管理マニュアル及び予定献立表・作業工程表・作業動線図、その他帳票について理解を深めておくこと。

■ 履修上の注意

①指示されて行動するのではなく、自ら考えて行動できること。
②グループ内もしくはクラス内で報告、連絡、相談をしっかり行い、常にコミュニケーションが図れること。
③調理時は実習で定めた服装（非汚染地域・汚染地域を区別）、衛生については大量調理施設衛生管理マニュアル通りとする。体調管理には十分留意すること。実習当日、下痢・嘔吐・吐き気・手指にけが等ある場合は速やかに担当教員に申し出ること。
④分からないことは必ず確認し、勝手な行動はしないこと。

■ 成績評価方法・基準

・大量調理施設衛生管理マニュアルミニテスト（30%）、実習に対する取り組み（ルーブリック）（40%）、実習プリント完成度（30%）　授業態度不良、プリント未提出、大量調理施設衛生管理マニュアルミニテスト欠席の場合、単位は認めない。
・実習プリントは、後日添削して返却する。

■ 教科書

［給食管理・経営管理実習の手引き5版］［西川貴子他］［医歯薬出版］[2，310円]

■ 参考書

〔給食経営管理用語辞典〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版］[2，750円]
［調理のためのベーシックデータ第6版］[女子栄養大学出版］[2，200円]
［日本人の食事摂取基準（2025年版）］［第一出版］[2，090円]
［日本標準食品成分表八訂版］［女子栄養大学出版部］[1，650円]

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。
ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
食物アレルギーがある場合は担当教員まで速やかに申し出ること。

健康栄養学総合演習Ⅰ

(11260)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子　　栗　山　孝　雄　　髙　橋　　文

■ 授業の概要
・3年次における給食管理臨地実習Ⅰ・Ⅱをおこなうための事前指導の授業である。
・校外実習や臨地実習の目的・目標・実習内容・実習の心構え・事前学習等を教授する。
・実習記録の記入のしかた、適切な文章表現、社会人としての話し方、マナーについて教授する。
・実習施設の栄養士・管理栄養士の講義では、各給食施設の概要や実習に必要な知識などを説明する。
・さまざまな給食施設における栄養士・管理栄養士の職務について教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・実習に必要な知識や技術が身につくようになる。		0.15	0.15		0.15		0.4	0.15	
・給食施設の特徴を理解できるようになる。									
・給食施設の管理栄養士・栄養士の業務と役割を理解できるようになる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　実習の目的・目標・実習内容・準備・心得・態度（全教員）	授業のポイントを復習し、理解する。
第２回　実習関係の書類、日誌の記入方法について（全教員）	授業のポイントを復習し、理解する。
第３回　会話表現①：話し方・挨拶の基本、敬語の使い方、自己紹介の仕方（髙橋）	授業のポイントを復習し、理解する。
第４回　会話表現②：社会人としての話し方、栄養指導での話し方、電話のマナー（髙橋）	授業のポイントを復習し、理解する。
第５回　文章表現①：文章作成上の留意事項、基本的な書き方（栗山）	授業のポイントを復習し、理解する。
第６回　文章表現②：実習日誌の書き方、礼状の書き方、レポートの書き方、給食だよりの書き方（栗山）	授業のポイントを復習し、理解する。
第７回　施設事例①：臨地実習の実際について（学外講師）（鴫原）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第８回　施設事例②：高齢者施設の実際と栄養士の職務（学外講師）（鴫原）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第９回　施設事例③：自衛隊給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（鴫原）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第10回　施設事例④：事業所給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（鴫原）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第11回　施設事例⑤：院外給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（鴫原）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第12回　施設事例⑥：委託給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（鴫原）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第13回　施設事例⑦：学校給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（鴫原）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出す
第14回　施設事例⑧：病院の実際と栄養士の職務（学外講師）（鴫原）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出す
第15回　実習施設の概要、実習内容の確認（全教員）	施設の概要、実習に必要な知識の整理、研究課題について予習、復習を行う。

■ 履修上の注意
①本科目は、給食管理臨地実習Ⅰ・Ⅱの事前学習、事後学習の役割も担う。
②各実習の実習目的、目標と関連法規を理解してから授業に臨むこと。
③臨地実習の事前準備、事後のまとめに重要な演習であるため真剣に取り組むこと。
④遅刻・無断欠席がないよう注意する。
⑤施設事例の特別講義を欠席した場合は、病気の罹患や入院等、やむを得ない事由でない限り、実習を辞退したものとみなすなお、やむを得ない事由で欠席する際は、必ず教員または助手室に連絡を入れること。
⑥授業内容、担当者は状況によって変更する場合もある。

■ 成績評価方法・基準
・出欠状況と受講態度（遅刻や無断欠席をしない、受講中に居眠りしない等）50%、授業に対する取り組み（ルーブリック）50%などにより総合的に評価する。
・提出物については、後日フィードバックする。

■ 教科書
〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕
[管理栄養士・栄養士になるための　国語表現]〔田上貞一郎〕〔萌文書院〕〔1，944円〕

■ 参考書
なし。適時紹介する。

■ 備考
質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワーで受付ける。
ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。

健康栄養学総合演習Ⅱ

(11261)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗 山 孝 雄　川 俣 幸 一　鴫 原 美智子　髙 橋　文　島 本 和 恵

■ 授業の概要

本演習では、これまでに学習した健康の維持・増進、食生活の現状や栄養摂取状況の把握と改善などに関する内容を踏まえ、人間の健康面や栄養面の課題の把握、確認、対応について扱う。具体的には、人間の健康面や栄養面に関する課題を提示し、情報検索や意見交換などを交え、まとめる技法を教授する。本演習を通じて、管理栄養士が業務を行う上で必要な能力、技術の獲得を目指す。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・健康や栄養に関する調査、測定、教育の方法を身につける。		0.15	0.15		0.15		0.25	0.15	0.15
・栄養評価や栄養教育に関する能力、技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：演習内容の説明（全教員） 健康面・栄養面の課題①　臨床栄養学：課題提示（髙橋）	ガイダンスで、演習で扱う課題について解明すべき点を検討する。臨床栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第２回　健康面・栄養面の課題②　臨床栄養学：情報検索（髙橋）	予習：臨床栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第３回　健康面・栄養面の課題③　臨床栄養学：まとめ（髙橋）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　健康面・栄養面の課題④　応用栄養学：課題提示（川俣）	応用栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　健康面・栄養面の課題⑤　応用栄養学：情報検索（川俣）	予習：応用栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　健康面・栄養面の課題⑥　応用栄養学：まとめ（川俣）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　健康面・栄養面の課題⑦　栄養教育論：課題提示（島本）	栄養教育論に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第８回　健康面・栄養面の課題⑧　栄養教育論：情報検索（島本）	予習：栄養教育論に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　健康面・栄養面の課題⑨　栄養教育論：まとめ（島本）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第10回　健康面・栄養面の課題⑩　公衆栄養学：課題提示（栗山）	公衆栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※

	）を参照のこと。
第11回　健康面・栄養面の課題⑪　公衆栄養学：情報検索（栗山）	予習：公衆栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第12回　健康面・栄養面の課題⑫　公衆栄養学：まとめ（栗山）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第13回　健康面・栄養面の課題⑬　給食経営管理論：課題提示（鴫原）	給食経営管理論に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回　健康面・栄養面の課題⑭　給食経営管理論：情報検索（鴫原）	予習：給食経営管理論に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第15回　健康面・栄養面の課題⑮　給食経営管理論：まとめ（鴫原）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。

■ 履修上の注意

・本科目は、管理栄養士養成課程の必修科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格を取得できなくなる。
・開講時期の都合上、3年次で単位が取得できない場合、管理栄養士国家試験受験資格の取得は困難になる。
・都合により、担当教員の順序、授業内容が変更となる場合がある。
（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行う。

■ 成績評価方法・基準

・授業態度50%、提出物50%等により、総合的に評価する。
※授業態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業に関係のない行為がみられるなど、態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。
・提出物は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

なし。配布資料を準備する。

■ 参考書

授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問は担当教員の授業時間内、またはオフィスアワーで受け付ける。

健康栄養学総合演習Ⅲ

(11262)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗 山 孝 雄　川 俣 幸 一　鴫 原 美智子　髙 橋　文　島 本 和 恵

■ 授業の概要
本演習では、これまでに学習した健康の維持・増進、食生活の現状や栄養摂取状況の把握と改善などに関する内容を踏まえ、人間の健康面や栄養面の課題の把握、確認、対応について扱う。具体的には、人間の健康面や栄養面に関する課題を提示し、事例や情報検索などを交え、対応するための技法を教授する。本演習を通じて、管理栄養士が業務を行う上で必要な能力、技術の獲得を目指す。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・健康や栄養に関する調査、測定、教育の方法を身につける。		0.15	0.15		0.15		0.25	0.15	0.15
・栄養評価や栄養教育に関する能力、技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（全教員） 健康面・栄養面の課題と対応①　臨床栄養学：課題提示（髙橋）	ガイダンスで、演習で扱う課題について解明すべき点を検討する。臨床栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第２回　健康面・栄養面の課題と対応②　臨床栄養学：情報検索（髙橋）	予習：臨床栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第３回　健康面・栄養面の課題と対応③　臨床栄養学：まとめ（髙橋）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　健康面・栄養面の課題と対応④　栄養教育論：課題提示（島本）	臨床栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　健康面・栄養面の課題と対応⑤　栄養教育論：情報検索（島本）	予習：栄養教育論に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　健康面・栄養面の課題と対応⑥　栄養教育論：まとめ（島本）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　健康面・栄養面の課題と対応⑦　公衆栄養学：課題提示（栗山） ※PBL	公衆栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第８回　健康面・栄養面の課題と対応⑧　公衆栄養学：情報検索（栗山） ※PBL	予習：公衆栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　健康面・栄養面の課題と対応⑨　公衆栄養学：まとめ（栗山）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第10回　健康面・栄養面の課題と対応⑩　応用栄養学：課題提示（川俣）	応用栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※

			）を参照のこと。
第11回	健康面・栄養面の課題と対応⑪	応用栄養学：情報検索（川俣）	予習：応用栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第12回	健康面・栄養面の課題と対応⑫	応用栄養学：まとめ（川俣）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第13回	健康面・栄養面の課題と対応⑬	給食経営管理論：課題提示（鴫原）	給食経営管理論に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回	健康面・栄養面の課題と対応⑭	給食経営管理論：情報検索（鴫原）	予習：給食経営管理論に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第15回	健康面・栄養面の課題と対応⑮	給食経営管理論：まとめ（鴫原）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第16回	試験		学習した内容を確認、復習のうえ、受験する。

■ 履修上の注意
・本科目は、管理栄養士養成課程の必修科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格を取得できなくなる。
・都合により、担当教員の順序、授業内容が変更となる場合がある。
（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行う。

■ 成績評価方法・基準
・授業態度20%、試験80%により、総合的に評価する。
※授業態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業に関係のない行為がみられるなど、態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。
・試験は本試験のみ。追試験、再試験は疾病の罹患、入院、震災などの被災など、やむを得ない状況以外は行わない。
・提出物は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
なし。配布資料を準備する。

■ 参考書
授業内で適宜紹介する。

■ 備考
質問は授業時間内、またはオフィスアワーで受付ける。

給食管理臨地実習Ⅰ

(11263)

単位：１
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要
小中学校・学校給食センターでの管理栄養士としての経験を生かし、以下の点を教授する。
・事前に実習担当教員が実習施設と日程調整を行い、十分に協議し施設ごとの課題や実習内容を調整する。
・事前学習では実習に関する心構え、社会人として常識的な行動をとるように指導する。
・実習に必要な専門知識や技術の確認・助言を行う。
・受託給食会社が運営する施設で実習する場合は、委託側と受託側の関係を理解させる。
・学生が実習施設の栄養士・管理栄養士と事前に打ち合わせを行い、可能な範囲で給食経営管理に関する実習を行う。
・実習先からの課題、自主研究については、事前準備時に指導を行う。
・実習終了後のまとめを行う。

■ 授業の到達目標

・栄養士が果たす専門領域に関する基本的な能力を養う。
・知識・技能・態度及び考え方の総合的能力を身につける。
・栄養の指導や給食の運営を行うために必要な能力を養う。

学習成果との関連

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	0.1	0.1	0.1	0.1	0.05	0.1	0.1	0.35

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　第１回 ガイダンス	・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書及び臨地実習マニュアルを熟読する。
第２回　第２回 実習配属先との事前打ち合わせ	・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書及び臨地実習マニュアルを熟読する。
第３回　第３回～第１４回 事前訪問：事前に施設を訪問し実習計画を確認する。 自主研究の計画書を作成し、指導を受ける。 実習内容： ①給食全般のマネジメントの理解と特定業務を深く探求する。喫食者訪問、調理作業の分析、食材の管理、栄養士業務の分析、衛生管理、調理従事者への教育、食事のオーダーリングシステム、経営分析を通して課題を発見し、問題解決を検討する。なお具体的な内容は各施設の実習計画に沿って実施する。 ②日々のねらいや学んだこと、課題、疑問などを実習記録に記入し、考察するとともに評価表で自己評価する。	・実習施設の対象者、給食の意義・特性、関係法規を把握したうえで、実習施設の栄養士・管理栄養士の指導のもと、十分準備を行う。 ・実習先からの事前課題に取り組む。 ・実習の振り返りと報告会の準備。
第４回　第１５回 実習のまとめと報告	

■ 履修上の注意
①給食管理学、給食管理学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。
②実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることがある。
③実習の配属先ならびに実習の時期は、担当教員が実習施設の担当者と協議して決定する。
④実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして施設職員や利用者と接することになるので、態度や言葉遣い、振る舞いに十分気を付けること。
⑤実習先に通う方法について、自家用車の使用は原則認めない。無断で使用した場合、実習の即刻中止、単位取得無効とする。
⑥給食経営管理実習報告には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。

■ 成績評価方法・基準
実習態度が良好か（巡回担当者および配属先の担当者からの報告、『実習日誌』への記載内容等）50%、実習に対する取り組み（ルーブリック）50%などを総合的に評価する。

■ 教科書

［給食経営管理論］［井川聡子ほか］［理工図書］[3，300円＋税］

■ 参考書
適宜プリント配付

■ 備考
質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。
ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。

給食管理臨地実習Ⅱ

(11264)

単位：１
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要

小中学校・学校給食センターでの管理栄養士としての経験を生かし、以下の点を教授する。
・事前に実習担当教員が実習施設と日程調整を行い、十分に協議し施設ごとの課題や実習内容を調整する。
・事前学習では実習に関する心構え、社会人として常識的な行動をとるように指導する。
・実習に必要な専門知識や技術の確認・助言を行う。
・受託給食会社が運営する施設で実習する場合は、委託側と受託側の関係を理解させる。
・学生が実習施設の栄養士・管理栄養士と事前に打ち合わせを行い、可能な範囲で給食経営管理に関する実習を行う。
・実習先からの課題、自主研究については、事前準備時に指導を行う。
・実習終了後のまとめを行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・管理栄養士が果たす専門領域に関する基本的な能力を養う。		0.1	0.1	0.1	0.1	0.05	0.1	0.1	0.35
・知識・技能・態度及び考え方の総合的能力を身につける。									
・栄養の指導や給食の運営を行うために必要な能力を養う。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　第１回 ガイダンス	・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書及び臨地実習マニュアルを熟読する。
第２回　第２回 実習配属先との事前打ち合わせ	・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書及び臨地実習マニュアルを熟読する。
第３回　第３回～第１４回 事前訪問：事前に施設を訪問し実習計画を確認する。 自主研究の計画書を作成し、指導を受ける。 実習内容： ①給食全般のマネジメントの理解と特定業務を深く探求する。喫食者訪問、調理作業の分析、食材の管理、管理栄養士業務の分析、衛生管理、調理従事者への教育、食事のオーダーリングシステム、経営分析を通して課題を発見し、問題解決を検討する。なお具体的な内容は各施設の実習計画に沿って実施する。 ②日々のねらいや学んだこと、課題、疑問などを実習記録に記入し、考察するとともに評価表で自己評価する。	・実習施設の対象者、給食の意義・特性、関係法規を把握したうえで、実習施設の栄養士・管理栄養士の指導のもと、十分準備を行う。 ・実習先からの事前課題に取り組む。 ・実習の振り返りと報告会の準備。
第４回　第１５回 実習のまとめと報告	

■ 履修上の注意

①給食管理学、給食管理学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。
②実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることがある。
③実習の配属先ならびに実習の時期は、担当教員が実習施設の担当者と協議して決定する。
④実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして施設職員や利用者と接することになるので、態度や言葉遣い、振る舞いに十分気を付けること。
⑤実習先に通う方法について、自家用車の使用は原則認めない。無断で使用した場合、実習の即刻中止、単位取得無効とする。
⑥給食経営管理実習報告には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。

■ 成績評価方法・基準

実習態度が良好か（巡回担当者および配属先の担当者からの報告、『実習日誌』への記載内容等）50%、実習に対する取り組み（ルーブリック）50%、などを総合的に評価する。

■ 教科書

［給食経営管理論］［井川聡子ほか］［理工図書］[3，300円＋税］

■ 参考書
適宜プリント配付

■ 備考
質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。
ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。

臨床栄養学臨地実習Ⅰ

(11265)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、病院および高齢者施設栄養士としての実務経験を生かし、実習の計画および指導を行う。事前教育として実習に関する準備も含まれ、実習先の指導管理栄養士から説明を受け、実際の臨床における管理栄養士の仕事を把握できるよう指導する。また、実習施設に関する機能性および特色についての調査、臨地実習先との連絡調整など、充実した実習とするための具体的な事前準備について指導を行う。実習終了後には、事後教育指導として、担当教員や巡回教員への終了報告、実習のまとめ、報告会の準備および発表を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習などで学んだ知識・技術を、実際の臨床現場で実践することができる。 ・臨地実習を通して、社会で実践していくために必要な自己管理能力、社会的倫理観、および責任感を修得することができる。 ・臨地実習で得た知識や、講義を通して得たものを伝えるプレゼンテーション能力を修得することができる。	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.05	0.1	0.1	0.25

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1.ガイダンス	臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習、応用栄養学の復習をする
第２回　2.実習配属先との事前打ち合わせ	実習先の要求する提出物の準備・作成、ならびに実習先への交通手段について調べる
第３回　3.～11. 実習：病院または老人保健施設で行う ・施設における栄養食事療法、運営管理業務について ・栄養管理全般について ・傷病者の栄養指導・教育について ・チーム医療における管理栄養士の役割および活動について ・衛生管理、危機管理の実際について（PBL、グループワーク、フィールドワーク）	・医療施設について調べる ・実習施設について調べる ・栄養管理について復習する ・栄養指導について復習する ・チーム医療における管理栄養士について ・危機管理について復習する
第４回　12.実習担当教員および巡回教員への終了報告（PBL、グループワーク、フィールドワーク）	実習先の状況説明ができるようまとめておく
第５回　13.実習のまとめ、報告会の準備（PBL、グループワーク、フィールドワーク）	実習で得た知識と経験を整理する
第６回　14.臨床栄養学臨地実習報告会での発表	実習内容をまとめ、発表の準備をする
第７回　15.臨床栄養学臨地実習報告会の聴講	他施設における管理栄養士の役割について理解する

■ 履修上の注意

・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学指導論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。
・家政特別講義Ⅳを履修すること。
・定められた時間数（45時間）を実習しなければ、単位の取得は認められない。
・本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受検資格を取得できない。
・実習前の生活および学習態度に問題があり、指導後も指示に従わないなどの問題行為がみられた場合には実習を取り止めることがある。
・実習先では施設スタッフとして、施設職員や患者・入居者に接すること。
・臨地実習報告書には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。
・課題は提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。

■ 成績評価方法・基準

実習態度50%、提出物の内容30%、実習報告20%などをルーブリックを用いて総合的に評価し、60点以上を合格として単位を認定する。
※実習態度：巡回担当者および配属先の担当者からの報告など

■ 教科書
・臨床栄養学（基礎編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
・臨床栄養学（疾患別編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕
・臨床栄養学実習書 第13版〔今井佐恵子 他〕〔医歯薬出版〕〔2900円+税〕
・臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理3訂〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2800円+税〕
・栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ 第3版〔奈良信雄〕〔医歯薬出版〕〔2970円+税〕
・糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版〔日本糖尿病学会〕〔文光堂〕〔900円+税〕

■ 参考書
なし（適宜プリント配布）

■ 備考
・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける

臨床栄養学臨地実習Ⅱ

(11266)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、病院および高齢者施設栄養士としての実務経験を生かし、実習の計画および指導を行う。事前教育として実習に関する準備も含まれ、実習先の指導管理栄養士から説明を受け、実際の臨床における管理栄養士の仕事を把握できるよう指導する。また、実習施設に関する機能性および特色についての調査、臨地実習先との連絡調整など、充実した実習とするための具体的な事前準備について指導を行う。実習終了後には、事後教育指導として、担当教員や巡回教員への終了報告、実習のまとめ、報告会の準備および発表を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習などで学んだ知識・技術を、実際の臨床現場で実践することができる。 ・臨地実習を通して、社会で実践していくために必要な自己管理能力、社会的倫理観、および責任感を修得することができる。 ・臨地実習で得た知識や、講義を通して得たものを伝えるプレゼンテーション能力を修得することができる。 ・これまでに獲得した知識・技能などを総合的に活用し、新たな課題に取り組むことができる。	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.05	0.1	0.1	0.25

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1.ガイダンス	臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習、応用栄養学の復習をする
第２回　2. 実習配属先との事前打ち合わせ	・実習先の要求する提出物の準備・作成をする ・疑問点について確認をする
第３回　3.～11. 実習：病院または老人保健施設で行う ・施設における栄養食事療法、運営管理業務について ・栄養管理全般について ・傷病者の栄養指導・教育について ・チーム医療における管理栄養士の役割および活動について ・衛生管理、危機管理の実際について （PBL、グループワーク、フィールドワーク）	・実習施設について調べる ・栄養食事療法について復習する ・栄養管理について復習する ・チーム医療における管理栄養士について復習する ・実習先のチーム医療の特徴についてまとめる ・危機管理について復習する。
第４回　12. 実習担当教員および巡回教員への終了報告（PBL、グループワーク、フィールドワーク）	実習先の状況説明ができるようまとめておく
第５回　13. 実習のまとめ、報告会の準備（PBL、グループワーク、フィールドワーク）	実習で得た知識と経験を整理する
第６回　14. 臨床栄養学臨地実習報告会での発表	実習内容をまとめ、発表の準備をする
第７回　15. 臨床栄養学臨地実習報告会の聴講	他施設における管理栄養士の役割について理解する

■ 履修上の注意

・本科目は「臨床栄養学臨地実習Ⅰ」を履修した者のみ履修できる
・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学指導論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。
・家政特別講義Ⅳを履修すること。
・定められた時間数（45時間）を実習しなければ、単位の取得は認められない。
・本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受検資格を取得できない。
・実習前の生活および学習態度に問題があり、指導後も指示に従わないなどの問題行為がみられた場合には実習を取り止めることがある。
・実習先では施設スタッフとして、施設職員や患者・入居者に接すること。
・臨地実習報告書には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。
・課題は提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。

■ 成績評価方法・基準

実習態度50%、提出物の内容30%、実習報告20%などをルーブリックを用いて総合的に評価し、60点以上を合格として単位を認定する。
※実習態度：巡回担当者および配属先の担当者からの報告など

■ 教科書
・臨床栄養学（基礎編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
・臨床栄養学（疾患別編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕
・臨床栄養学実習書 第13版〔今井佐恵子 他〕〔医歯薬出版〕〔2900円+税〕
・臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理3訂〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2800円+税〕
・栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ 第3版〔奈良信雄〕〔医歯薬出版〕〔2970円+税〕
・糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版〔日本糖尿病学会〕〔文光堂〕〔900円+税〕

■ 参考書
なし（適宜プリント配布）

■ 備考
・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

公衆栄養学臨地実習Ⅰ

(11267)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要
本実習では、保健所や市町村保健センターに所属する行政栄養士の役割や業務について、保健所または市町村保健センターに赴き、学習する。具体的には、以下の内容を扱う。
【１】実習前に、本学実習担当教員が実習日程や課題の確認を行い、実習に必要な知識や技術の確認、助言を行う。
【２】実習施設の行政栄養士やスタッフが、地域住民の適正な栄養管理と健康実現を目指すための政策や手法を教授する。
【３】実習終了後に、本学実習担当教員が終了後のまとめに関する指導、助言を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
		0.1	0.1	0.1	0.1	0.05	0.1	0.1	0.35
・保健所や市町村保健センターの行政栄養士の役割を理解する。									
・地域住民への栄養や健康に関する情報発信の方法を習得する。									
・公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	「公衆栄養学」や「家政特別講義Ⅳ」で扱った栄養行政、保健所と市町村の役割、行政栄養士の業務と役割について復習しておく。
第２回　実習配属先との事前の打合せ	配属先の管理栄養士より、実習のスケジュール、持ち物、事前課題等の説明がある。教わった内容について理解する。
第３回　事前学習の確認と指導	実習先（保健所、市町村）の特徴、組織、管理栄養士の役割について調べ、実習ノートにまとめる。 事前課題に取り組む。
第４回　実習：保健所または市町村で行う ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	施設の特徴、ならびに管理栄養士の業務と役割を確認する。
第５回　【１　保健所で実習を行う場合】 ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	保健所の役割を理解する。
第６回　（１）保健所スタッフによる講話：保健所の業務・役割について、スタッフの業務・役割について ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	「家政特別講義Ⅳ」の保健所栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の組織ごとの業務・役割を確認する。
第７回　（２）保健所栄養士による講話：保健所栄養士の業務、役割について ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	「家政特別講義Ⅳ」の保健所栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の行政栄養士の業務・役割について理解を深める。
第８回　（３）保健所活動の実際：保健所栄養士が係る広域的・専門的な業務の実際 ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	保健所栄養士の実際の活動を理解する。
第９回　【２　市町村で実習を行う場合】 ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	市町村の役割を理解する。
第10回　（１）市町村スタッフによる講話：市町村の業務、役割について、スタッフの業務・役割について ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	「家政特別講義Ⅳ」の市町村栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の組織ごとの業務・役割を確認する。
第11回　（２）市町村栄養士による講話：市町村栄養士の業務、役割について ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワー	「家政特別講義Ⅳ」の市町村栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の行政栄養士の業務・役割について理解を深める。

	ク	
第12回	（３）市町村活動の実際：市町村栄養士が係る地域的・一般的な業務の実際 ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	市町村栄養士の実際の活動を理解する。
第13回	実習後のまとめ	学習した内容全体を復習する。
第14回	公衆栄養学臨地実習報告会での報告 ※プレゼンテーション	実習内容をまとめ、報告の準備をする。
第15回	公衆栄養学臨地実習報告会の聴講	公衆栄養活動の実際を理解する。

■ 履修上の注意

①公衆栄養学、公衆栄養学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。
②家政特別講義Ⅳを履修すること。
③本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。
④実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることがある。その点を十分注意すること。
⑤実習の配属先ならびに実習の時期は、他の実習の実施時期、履修者の学習状況を参考に、担当教員が実習施設の担当者と協議して決定する。
⑥実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして施設職員や地域住民と接することになる。態度や言葉遣い、振る舞いに気を付けること。。
⑦感染症の流行、震災などの自然災害の発生などにより、実習が中止となる場合がある。その場合は実習日程や実習施設の変更、オンライン（リモート）実習、学内実習等で対応する。
⑧公衆栄養学臨地実習報告会は、自分の報告がない会にも出席し、他施設の実習内容について学習する。

■ 成績評価方法・基準

・実習態度（50%）、提出物の内容（30%）、実習報告（20%）などをルーブリックを用いて、総合的に評価する。
※実習態度とは遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告などを指す。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕（※）「家政特別講義Ⅳ」で配布
〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子・今井絵理〕〔化学同人〕〔2，600円+税〕（※）「公衆栄養学」教科書として購入済み
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1，800円+税〕
（※）「健康栄養学総合演習Ⅰ」教科書として購入済み

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

・実習の事前指導、事後指導に関する質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付ける。
・実習現場での質問等については、実習配属先の管理栄養士が対応可能な時に質問する。

公衆栄養学臨地実習Ⅱ

(11268)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要

本実習は、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ」を履修した者のみが履修できる。
本実習は、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ」とは異なる施設に赴き、現場の行政栄養士の役割や業務について学習する。具体的には、以下の内容を扱う。
【１】実習前に、本学実習担当教員が実習日程や課題の確認を行い、実習に必要な知識や技術の確認、助言を行う。
【２】実習施設の行政栄養士やスタッフが、地域住民の適正な栄養管理と健康実現を目指すための政策や手法を教授する。
【３】実習終了後に、本学実習担当教員が終了後のまとめに関する指導、助言を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
		0.1	0.1	0.1	0.1	0.05	0.1	0.1	0.35
・保健所や市町村保健センターの行政栄養士の役割を理解する。									
・地域住民への栄養や健康に関する情報発信の方法を習得する。									
・公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	「公衆栄養学」や「家政特別講義Ⅳ」で扱った栄養行政、保健所と市町村の役割、行政栄養士の業務と役割について復習しておく。
第２回　実習配属先との事前の打合せ	配属先の管理栄養士より、実習のスケジュール、持ち物、事前課題等の説明がある。教わった内容について理解する。
第３回　事前学習の確認と指導	実習先（保健所、市町村）の特徴、組織、管理栄養士の役割について調べ、実習ノートにまとめる。 事前課題に取り組む。
第４回　実習：保健所または市町村で行う ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	施設の特徴、ならびに管理栄養士の業務と役割を確認する。
第５回　【１　保健所で実習を行う場合】 ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	保健所の役割を理解する。
第６回　（１）保健所スタッフによる講話：保健所の業務・役割について、スタッフの業務・役割について ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	「家政特別講義Ⅳ」の保健所栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の組織ごとの業務・役割を確認する。
第７回　（２）保健所栄養士による講話：保健所栄養士の業務、役割について ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	「家政特別講義Ⅳ」の保健所栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の行政栄養士の業務・役割について理解を深める。
第８回　（３）保健所活動の実際：保健所栄養士が係る広域的・専門的な業務の実際 ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	保健所栄養士の実際の活動を理解する。
第９回　【２　市町村で実習を行う場合】 ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	市町村の役割を理解する。
第10回　（１）市町村スタッフによる講話：市町村の業務、役割について、スタッフの業務・役割について ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	「家政特別講義Ⅳ」の市町村栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の組織ごとの業務・役割を確認する。
第11回　（２）市町村栄養士による講話：市町村栄養士の業務、役割について	「家政特別講義Ⅳ」の市町村栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の

	※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	行政栄養士の業務・役割について理解を深める。
第12回	（３）市町村活動の実際：市町村栄養士が係る地域的・一般的な業務の実施 ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	市町村栄養士の実際の活動を理解する。
第13回	実習後のまとめ	学習した内容全体を復習する。
第14回	公衆栄養学臨地実習報告会での報告 ※プレゼンテーション	実習内容をまとめ、報告の準備をする。
第15回	公衆栄養学臨地実習報告会の聴講	公衆栄養活動の実際を理解する。

■ 履修上の注意

①公衆栄養学、公衆栄養学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。
②公衆栄養学臨地実習Ⅰを履修していないと、本実習は履修できない。
③家政特別講義Ⅳを履修すること。
④本科目の履修者は、本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。
⑤実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることがある。その点を十分注意すること。
⑥実習の配属先ならびに実習の時期は、他の実習の実施時期、履修者の学習状況を参考に、担当教員が実習施設の担当者と協議して決定する。
⑦実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして施設職員や地域住民と接することになる。態度や言葉遣い、振る舞いに気を付けること。
⑧感染症の流行、震災などの自然災害の発生などにより、実習が中止となる場合がある。その場合は実習日程や実習施設の変更、オンライン（リモート）実習、学内実習等で対応する。
⑨公衆栄養学臨地実習報告会は、自分の報告がない会にも出席し、他施設の実習内容について学習する。

■ 成績評価方法・基準

・実習態度（50%）、提出物の内容（30%）、実習報告（20%）などをルーブリックを用いて、総合的に評価する。
※実習態度とは遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告などを指す。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕（※）「家政特別講義Ⅳ」で配布
〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子・今井絵理〕〔化学同人〕〔2，600円（※）「公衆栄養学」教科書として購入済み
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1，800〕
（※）「健康栄養学総合演習Ⅰ」教科書として購入済み

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

実習の事前指導、事後指導に関する質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付ける。
実習現場での質問等については、実習担当の管理栄養士が対応可能な時に質問する。

学校栄養指導論

(11269)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要
栄養に係る教育を実践するための基礎的知識および技能について指導する。すなわち、近年の社会的背景、家庭環境の急激な変化による児童生徒の食に関する課題を把握し、食に関する指導の重要性や、栄養教諭としての使命や役割についてと、児童生徒の心理や発達段階を踏まえた上での指導案の作成、教材づくりについて指導する。栄養教諭免許を有し、小中学校・学校給食センターでの学校栄養職員としての経験を生かし、最終的に、指導案作成、献立作成、模擬授業等の演習を通して、栄養教諭に求められる基本的な実践技能を教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・学校給食の目標や、栄養や衛生管理の重要ポイントについて具体的に説明することができる。	0.3	0.1		0.1	0.1		0.1	0.1	0.2
・食教育に相応しい学校給食の食事内容〔地場産物、郷土料理等〕を理解し、献立作成ができる。									
・各教科および特別活動等における授業づくり、学習指導案作成し、授業を展開することができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、栄養教諭制度・栄養教諭の職務内容	栄養教諭についてまとめておく。
第２回　学校給食の意義・役割・現状	学校給食法を読んでおく。
第３回　学校給食の食事内容・衛生管理	学校給食法を読んでおく。
第４回　学習指導案作成の基本 指導案作成の意義、書き方の基礎・基本について	既存の指導案を読む。
第５回　給食の時間の指導　指導案作成・教材研究	指導案・教材を完成させる。
第６回　給食の時間の模擬授業 ミニテスト	模擬授業の練習をする。
第７回　家庭科 栄養教諭の専門性を生かした指導の進め方について	食に関する指導の手引き　家庭科を読む
第８回　体育（保健） 心身の健康の保持増進、生涯を通して安全な生活が送れるよう食教育との関連性について	食に関する指導の手引き　体育（保健）を読む
第９回　特別活動「学級活動」 学級活動の目標と食に関する指導とを関連について、栄養教諭の支援の在り方について	食に関する指導の手引き　特別活動を読む
第10回　道徳 道徳教育の目標を基に、自己の生き方について考えを深める食育の在り方について	食に関する指導の手引き　道徳を読む
第11回　生活科 教科の目標を考慮した食に関する指導の進め方について	食に関する指導の手引き　生活を読む
第12回　指導案作成・教材研究について（各自教科領域を選択）	既存の指導案を読む
第13回　教科領域の指導案検討（ディスカッション）	指導案・教材を完成させる。
第14回　模擬授業（プレゼンテーション）	模擬授業の練習をする。
第15回　模擬授業評価・科目まとめ（ディスカッション） ミニテスト	授業評価・まとめを完成させる。

■ 履修上の注意
来年度の栄養教育実習にむけて、テキストや学習指導要領を読み、対象者に合わせた指導案を考える。教材研究や模擬授業など実践を主体とした授業とする。模擬授業に向けて各自教材の準備や練習をする。

■ 成績評価方法・基準
指導案、レポートなど提出物30%、ミニテスト20%、受講態度50%で評価。模擬授業の未実施、未提出レポートがある場合は評価しない。指導案・レポート、ミニテストは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書
〔食に関する指導の手引き（第二次改訂版）〕〔文部科学省〕〔健学社〕
〔小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説　総則編〕〔文部科学省〕〔東洋館出版社〕

■ 参考書
授業で随時紹介する。

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

学校食育概論

(11270)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要
食に関する指導計画立案への参画、他の教職員との連携協力による食に関する指導力を教授する。また、生活習慣病、食物アレルギー、スポーツ栄養等に個別に対応する能力を取得し、給食の時間における食に関する指導や家庭・地域との連携・調整方法を学び、食に関する指導の基礎および応用について修得を指導する。併せて、児童・生徒を取り巻く社会的背景、課題や問題点などを理解し、栄養教諭免許を有し、小中学校・学校給食センターでの学校栄養職員としての経験を生かし、栄養教諭として使命、役割、食に関する指導の専門性についても教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・学校における食に関する指導の全体計画や指導案作成に必要な知識と技術を身につける。 ・食に関する指導と関連している他教科についての指導方法を修得する。 ・各教科および特別活動等の目標や特質、食に関する指導の意義、および内容が理解できる。	0.3	0.1		0.1	0.1		0.1	0.1	0.2

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、栄養教諭の配置・身分・職務、学校給食の意義	栄養教諭についてまとめておく。
第２回　食育基本法・食育推進基本計画の推進	教科書を読む　P1～P25
第３回　学校・家庭・地域が連携した食育の推進	教科書を読む　P26～P34
第４回　食に関する指導に係る全体計画の作成① ・食に関する指導に係る全体計画の作成の必要性 ・全体計画作成の手順及び内容 ・具体的な全体計画のイメージ	教科書を読む　P35～P49
第５回　食に関する指導に係る全体計画の作成② ・栄養教諭の役割 ・特別支援学校における食に関する指導に係る全体計画の作成及び指導上の留意点 ・具体的な全体計画のイメージ（特別支援学校）	教科書を読む　P50～P73
第６回　各教科等における食に関する指導の展開　総論	教科書を読む　P74～P76
第７回　各教科等における食に関する指導の展開　社会・理科・生活科	教科書を読む　P77～P102
第８回　各教科等における食に関する指導の展開　家庭科	教科書を読む　P103～P119
第９回　各教科等における食に関する指導の展開　体育・保健体育	教科書を読む　P120～P130
第10回　各教科等における食に関する指導の展開　道徳	教科書を読む　P131～P143
第11回　各教科等における食に関する指導の展開　総合的な学習の時間	教科書を読む　P144～P156
第12回　各教科等における食に関する指導の展開　特別活動	教科書を読む　P157～P217
第13回　給食時間の時間における食に関する指導	教科書を読む　P218～P233
第14回　個別的な相談指導の進め方	教科書を読む　P234～P251
第15回　学校における食育の推進の評価	教科書を読む　P252～P261

■ 履修上の注意
来年度の栄養教育実習にむけて、テキストを熟読して受講する。

■ 成績評価方法・基準
受講態度50%、課題・レポートなど50%。未提出の課題・レポートがある場合は評価しない。課題・レポートは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書
〔食に関する指導の手引き（第二次改訂版）〕〔文部科学省〕〔健学社〕
〔小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説　総則編〕〔文部科学省〕〔東洋館出版社〕

■ 参考書

適宜プリント配付

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

セミナーⅠ

(11271)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 90）
対象学科：健専３年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄　　川　俣　幸　一　　健康栄養学専攻教員

■ 授業の概要
本科目は、3年次の栄養士認定試験ならびに管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握、克服を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。
①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
②出題分野（科目）ごとに出題範囲、頻出事項について解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・国家試験受験に必要な知識を身につける。	0.2　0.3　0.5

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　社会・環境と健康（伊藤）①公衆衛生学	予習：公衆衛生学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第２回　社会・環境と健康（伊藤）②健康管理概論	予習：健康管理概論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第３回　社会・環境と健康（伊藤）③まとめ	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　臨床栄養学（高橋）①臨床栄養学	予習：臨床栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　臨床栄養学（高橋）②臨床栄養指導論	予習：臨床栄養指導論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行うなお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　臨床栄養学（高橋）③まとめ	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（中尾、鈴木）①解剖生理学	予習：解剖生理学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第８回　人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（中尾、鈴木）②生化学	予習：生化学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（中尾、鈴木）③まとめ	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第10回　栄養教育論①栄養教育論（専攻教員）	予習：栄養教育論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。

第11回　栄養教育論②栄養指導論（専攻教員）	予習：栄養指導論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第12回　栄養教育論③まとめ（専攻教員）	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。
第13回　給食経営管理論（鴫原）　①給食の運営	予習：給食の運営に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回　給食経営管理論（鴫原）　②給食管理	予習：給食管理に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第15回　給食経営管理論（鴫原）　③まとめ	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第16回　模擬試験	出題科目ごとに知識の修得状況を確認する。学習が不十分な箇所を把握し、学習する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。

■ 履修上の注意
・栄養士認定試験・管理栄養士国家試験受験を希望する者は履修すること。
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席や遅刻がないように注意すること。
（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行うこと。

■ 成績評価方法・基準
・2/3以上の出席を前提に、模擬試験結果50%、栄養士認定試験結果50%で評価する。
（※）模擬試験は1月下旬ころ～2月中に実施予定。
・提出物等は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
〔栄養士実力認定試験過去問題集〕※前期「キャリア開発Ⅲ」で購入済み
〔クエスチョンバンク〕〔メディックメディア〕（7月発売予定）

■ 参考書
各授業で使用した教科書などの教材（各担当の教員が指示する）。

■ 備考
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

セミナーⅡ

(11272)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（180 + 90）
対象学科：健専４年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄　　川　俣　幸　一　　健康栄養学専攻教員

■ 授業の概要
本科目は、4年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握、克服を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。
①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
②応用問題のように、出題分野（科目）を横断する内容の問題について、特徴や要点を説明する。
□
授業担当：専攻教員（鈴木、伊藤、佐藤、中尾、栗山、川俣、鴫原、高橋、八巻、深澤）

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・国家試験受験に必要な知識を身につける。	0.2　0.3　0.5

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（栗山、川俣）	各自、学習目標を確認する。そのうえで科目ごとの進捗状況、弱点の把握と克服を行う。
第２回　模擬試験①（栗山、川俣）	出題科目ごとに知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第３回　社会・環境と健康　問題解説（伊藤）	予習：社会・環境と健康で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　人体の構造及び疾病の成り立ち　問題解説（中尾）	予習：人体の構造及び疾病の成り立ちで学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　食べ物と健康（佐藤・八巻・深澤）	予習：食べ物と健康で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　基礎栄養学　問題解説（鈴木）	予習：基礎栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　模擬試験②（栗山、川俣）	前回の模擬試験を越える成績（点数、偏差値）を目指す。出題科目ごとに知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第８回　応用栄養学　問題解説（川俣）	予習：応用栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　栄養教育論　問題解説（専攻教員）	予習：栄養教育論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第10回　臨床栄養学　問題解説（髙橋）	予習：臨床栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。

第11回　模擬試験③（栗山、川俣）	国家試験の合格ラインを越える成績（成績点数、偏差値）を目指す。出題科目ごとに知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第12回　公衆栄養学　問題解説（栗山）	予習：公衆栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第13回　給食経営管理論　問題解説（鴫原）	予習：給食経営管理論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回　応用力問題　問題解説（専攻教員）	予習：応用力試験の学修内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第15回　模擬試験④（栗山、川俣）	国家試験の合格ラインを越える成績（点数、偏差値）を目指す。出題科目ごとに知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。

■ 履修上の注意
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
・模擬試験の開催日時、問題解説の内容については、掲示で連絡する。
（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行う。

■ 成績評価方法・基準
・2/3以上の出席を前提に、4回の模擬試験の結果を100％として総合的に評価する。
・提出物や模擬試験（模試直しも含む）は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
〔管理栄養士　過去問解説集〕〔中央法規〕※4年前期に購入済み
〔クエスチョンバンク〕〔メディックメディア〕※3年次に購入済み
〔レビューブック〕〔メディックメディア〕※4年前期に購入済み

■ 参考書
各授業で使用した教科書などの教材（各担当の教員が指示する）。

■ 備考
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワーで対応する。一部の分野は外部講師による授業に置き換えることがあるので注意する（掲示板等の確認を怠らないこと）。

家政特別講義Ⅰ

(11273)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一　　鴫　原　美智子

■ 授業の概要
管理栄養士の使命及び社会における役割や活動分野について理解させる。管理栄養士としての基本的な態度を身につけさせると共に食品、調理、栄養等に関する基礎知識及び食の安全や衛生を含む食生活について学修し、日常生活においても実践できるようにする。栄養士・管理栄養士の仕事について、総合的に理解出来るよう指導する。また、付随する内容において１年次から学生生活を円滑に過ごすための作業やグループワーク等を必要に応じて行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・栄養士・管理栄養士の役割について理解できる	0.1	0.1	0.5				0.3		
・食品・調理・栄養素について理解できる									
・栄養士・管理栄養士の活動分野について理解できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	新入生ガイダンスの講話内容を復習しておく。
第２回　学生生活における心構えとマナー	5編1章（p79～85）を予習・復習する。
第３回　栄養士について	1編1章（p1～7）を予習・復習する。
第４回　管理栄養士について	1編2章（p8～12）を予習・復習する。
第５回　食生活の変化と栄養士の役割について）	2編1章（p13～23）を予習・復習する。
第６回　食文化と食習慣について	2編2章（p24～29）を予習・復習する。
第７回　食品をめぐる問題について	2編3章（p30～32）を予習・復習する。
第８回　学修状況の中間評価	学修ポートフォリオの前期中間評価を記入し、自身の学修状況を確認する。
第９回　食事の役割、栄養素の種類と働きについて	3編1章（p35～40）を予習・復習する。
第10回　食事バランスガイド、日常の献立と食品について	3編1章（p41～47）を予習・復習する。
第11回　栄養素の働き（炭水化物、脂質）	3編2章（p48～55）を予習・復習する。
第12回　栄養素の働き（たんぱく質、ビタミン）	3編2章（p56～66）を予習・復習する。
第13回　体の構造と働き（消化器系）	4編1章（p67～72）を予習・復習する。
第14回　体の構造と働き（泌尿器系）	4編1章（p73～78）を予習・復習する。
第15回　前期のまとめ	前期講義内容を振り返る。
第16回　1年次後期の学修目標の確認	学修ポートフォリオに記入する内容を通じて、自身の学修状況、学習目標を確認する。
第17回　レポートの書き方	5編3章（p113～117）を予習・復習する。
第18回　自分の食事を見直してみよう（食品栄養成分の計算）	p118～122を予習・復習する。
第19回　自分の食事を見直してみよう（食事記録の記入）	食事記録を記入する
第20回　家政特別セミナー（卒業生による講話）の聴講	講話の重要な点をまとめる。
第21回　家政特別セミナー（卒業生による講話）の聴講	講話の重要な点をまとめる。
第22回　家政特別セミナー（卒業生による講話）の聴講	講話の重要な点をまとめる。
第23回　家政特別セミナーのまとめ（深澤・髙橋）	聴講しての感想をまとめる。
第24回　学修状況の中間評価	学修ポートフォリオの後期中間評価を記入し、自身の学修状況を確認する。
第25回　課題研究発表会の聴講	抄録をよく読み、実際の発表内容についてまとめておく。
第26回　課題研究発表会の聴講	抄録をよく読み、実際の発表内容についてまとめておく。
第27回　課題研究発表会の聴講	抄録をよく読み、実際の発表内容についてまとめておく。
第28回　課題研究発表会のまとめ	質疑応答を含めた全体の概要と感想について、レポートにまとめる。
第29回　後期のまとめ	後期講義内容を振り返る。
第30回　一年間を振り返って	1年を通して学んだことや課題を振り返り、自己評価を行う。

■ 履修上の注意
・学事への参加および外部講師などによる内容の場合は、通常の講義とは異なる日時や場所での開催となるため、掲示などで情報を確認すること。
・新入生ガイダンス、前期の「スタディスキルズ」でも関連する内容扱うので、あわせて理解しておくこと。

■ 成績評価方法・基準
・受講態度（積極的な態度、目的意識、参加状況など）：50%、提出物（ミニットペーパーなど）：50%で評価する。
・提出物は期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。

■ 教科書
めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション 第3版［小野章史 編著］［第一出版］定価2，200円+税］

■ 参考書
学生便覧（令和6年度版）の他、必要に応じて紹介する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・提出物は、適宜フィードバックを行う。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

家政特別講義Ⅱ

(11274)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
伊　藤　常　久　　佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
将来、食と栄養の専門家である管理栄養士・栄養士として働くために必要な知識や情報、技術や能力の取得を目指す。具体的には、以下の内容を行う。
①学外研修として、施設見学等を行い、実際の職務内容や衛生管理等を学習する。
②臨地実習報告会を聴講し、現場で必要な知識や技術について理解する。
③家政特別セミナー、課題研究発表会を通して、管理栄養士・栄養士を目指すために必要な知識や情報及び技術を学習する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・管理栄養士・栄養士となるために必要な知識と技術・態度を身につける。	0.1	0.1	0.4		0.2		0.2		
・管理栄養士・栄養士の業務内容について理解できる。									
・自己の将来に必要な知識・情報・技術及び態度について理解できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	管理栄養士に必要な資質を考える。
第２回　学外研修（第２回～第６回まで連続して実施）	施設研修での質問を考えて臨む。研修後は見学レポートを作成し提出する。
第３回　学外研修（第２回～第６回まで連続して実施）	施設研修での質問を考えて臨む。研修後は見学レポートを作成し提出する。
第４回　学外研修（第２回～第６回まで連続して実施）	施設研修での質問を考えて臨む。研修後は見学レポートを作成し提出する。
第５回　学外研修（第２回～第６回まで連続して実施）	施設研修での質問を考えて臨む。研修後は見学レポートを作成し提出する。
第６回　学外研修（第２回～第６回まで連続して実施）	施設研修での質問を考えて臨む。研修後は見学レポートを作成し提出する。
第７回　課題研究発表会の聴講（第７回～第９回まで連続して実施）	課題研究発表会を聴講して理解したことや感想などをまとめ提出する。
第８回　課題研究発表会の聴講（第７回～第９回まで連続して実施）	課題研究発表会を聴講して理解したことや感想などをまとめ提出する。
第９回　課題研究発表会の聴講（第７回～第９回まで連続して実施）	課題研究発表会を聴講して理解したことや感想などをまとめ提出する。
第10回　家政特別セミナーの聴講	家政特別セミナーを聴講して理解したことや感想などをまとめ提出する。
第11回　臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会を聴講して理解したことや感想などをまとめ提出する。
第12回　臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会を聴講して理解したことや感想などをまとめ提出する。
第13回　臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会を聴講して理解したことや感想などをまとめ提出する。
第14回　臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会を聴講して理解したことや感想などをまとめ提出する。
第15回　まとめ、今後の学習に関する説明	これまでの授業で修得したことを確認する。

■ 履修上の注意
・学事への参加及び外部講師による内容の場合、通常の講義と異なる日時や場所での開催となるため、掲示等で情報を確認すること。
・家政特別講義Ⅰを履修していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準
・受講態度（積極的な態度、目的意識、参加状況等）：50%、提出（ミニットペーパー等）：50%で評価する。

・提出物は期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。

■ 教科書
家政特別講義Ⅰで使用したテキストを使用する。詳細はオリエンテーション時に説明する。

■ 参考書
学生便覧の他、必要に応じて紹介する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・提出物は、適宜フィードバックを行う。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

家政特別講義Ⅲ

(11275)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子　　栗　山　孝　雄　　髙　橋　　文

■ 授業の概要
給食管理臨地実習の終了後のまとめと報告、4年次の公衆栄養学臨地実習、臨床栄養学臨地実習を実践するための準備を行う。
具体的な内容は、次の通りである。
（１）給食管理臨地実習の終了後のまとめと報告を通じて、施設ごとの給食管理に関する理解をさらに深め、必要な知識や技術が確認できるよう教授する。
（２）4年次における公衆栄養学臨地実習、臨床栄養学臨地実習を実践するため、必要な知識や技術について教授する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・報告会を通じ、お互いの経験を共有できる。		0.2	0.4		0.2			0.2	
・課題に対する解決方法を立案できる。									
・管理栄養士、栄養士に必要な知識と技術を理解できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、今後の臨地実習の対応、実習報告会の準備（全教員）	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。各施設の栄養士の役割を復習する。
第２回　公衆栄養学臨地実習　ガイダンス（栗山）	保健所、市町村の管理栄養士の役割を復習する。
第３回　公衆栄養学臨地実習に必要な事柄について（栗山）	実習を行う際に必要となる知識を確認し、理解する。
第４回　臨床栄養学臨地実習に必要な事柄について（髙橋）	医療機関の管理栄養士の役割を復習する。
第５回　公衆栄養学臨地実習　報告会の聴講①：保健所（栗山）	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第６回　公衆栄養学臨地実習　報告会の聴講②：市町村（栗山）	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第７回　臨床栄養学臨地実習　報告会の聴講①：医療機関（髙橋）	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第８回　臨床栄養学臨地実習　報告会の聴講②：医療機関（髙橋）	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第９回　公衆栄養学・臨床栄養学臨地実習　報告会の聴講③：市町村、医療機関（栗山・髙橋）	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第10回　給食管理臨地実習　報告会　発表と質疑応答①：学校・給食センター（鴫原）	実習を振り返り、各施設の報告（発表）の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第11回　給食管理臨地実習　報告会　発表と質疑応答②：児童福祉施設（鴫原）	実習を振り返り、各施設の報告（発表）の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第12回　給食管理臨地実習　報告会　発表と質疑応答③：高齢者施設（鴫原）	実習を振り返り、各施設の報告（発表）の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第13回　給食管理臨地実習　報告会　発表と質疑応答④：自衛隊・病院（鴫原）	実習を振り返り、各施設の報告（発表）の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第14回　給食管理臨地実習　報告会　発表と質疑応答⑤：院外調理・委託・介護福祉施設（鴫原）	実習を振り返り、各施設の報告（発表）の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第15回　4年次の臨地実習にむけて（全教員）	今後の実習の目標を考える。

実習に必要な知識、技術を学習する。

■ 履修上の注意
①3年次の校外実習・臨地実習のまとめと報告、4年次の臨地実習の事前準備となる授業のため、積極的な姿勢で取り組むこと。
②遅刻や無断欠席がないよう注意する。
③受講態度に問題のある者（居眠り、私語など）は、状況に応じて注意、指導する。状況によっては減点、評価対象から外す（不合格）となる場合もある。
④授業内容、担当者は 状況によって変更する場合もある。

■ 成績評価方法・基準
・受講態度50%（積極的な態度（会の運営、質疑応答）、目的意識、遅刻・欠席の状況）、提出物50%（内容、提出期限の順守）
・提出物は、適時フィードバックを行う。

■ 教科書
〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1，800円+税〕

■ 参考書
なし。適時紹介する。

■ 備考
質問等については、各授業の担当教員が授業終了時あるいはオフィスアワーで受付ける。

家政特別講義Ⅳ

(11276)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄　　髙　橋　　文

■ 授業の概要

公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ、ならびに臨床栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱの実習前、ならびに実習後に必要な事項を教授する。具体的な内容は、次の通りである。

（１）実習前の授業　①実習施設の特徴、管理栄養士・栄養士の業務や役割について解説する。実際に、実習施設の管理栄養士による特別講義も行う。②実習を行うために必要な準備、注意事項などについて説明する。③事前課題に関する指導、助言を行う。

（２）実習後の授業：実習のまとめ、実習報告について、適宜指導、助言を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・実習先の施設の特徴を理解できるようになる。		0.2	0.4		0.2			0.2	
・実習先の管理栄養士の業務、役割を理解できるようになる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：実習の目的・目標の説明（栗山、高橋）	予習：公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ、ならびに臨床栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱのシラバスを熟読する。復習：実習の目的・目標を確認する。
第２回　保健所栄養士の業務と役割（栗山、保健所栄養士）	予習：栄養行政と保健所の役割について確認する。復習：保健所栄養士の業務と役割について確認し、レポートにまとめる。
第３回　市町村栄養士の業務と役割（栗山、市町村栄養士）	予習：栄養行政と市町村の役割について確認する。復習：市町村栄養士の業務と役割について確認し、レポートにまとめる。
第４回　病院栄養士の業務と役割（高橋、病院栄養士）	予習：病院栄養士に関する内容について確認する。復習：病院栄養士の業務と役割について確認し、レポートにまとめる。
第５回　老健施設栄養士の業務と役割（高橋、老健施設栄養士）	予習：老健施設栄養士に関する内容について確認する。復習：老健施設栄養士の業務と役割について確認し、レポートにまとめる。
第６回　実習施設に関する注意事項の説明（栗山、高橋）	授業内容を復習し、実習施設ごとの注意事項を理解する。そのうえで、どのような態度で実習に臨むかを考える。
第７回　実習関係の書類、日誌の記入方法について（栗山、高橋）	実習の目的・目標を確認のうえ、書類や日誌の記入に関する要点を理解する。
第８回　実習施設の特徴の把握（栗山、高橋）	実習施設の特徴を配属施設のホームページ等で調べる。調べた内容を、実習ノートにまとめる。
第９回　実習施設ごとの事前課題の確認（栗山、高橋）	実習先に事前課題の問合せを行う。事前課題の内容を理解したうえで、実習担当教員と打ち合わせを行う。
第10回　事前課題の作業・打合せ（栗山、高橋）	事前課題をまとめる。教員から指示を受けた箇所の修正を行う。
第11回　事前課題の作業状況の確認・打合せ（栗山、高橋）	事前課題の内容を見直し、実習担当教員の確認を受ける。
第12回　事前課題の発表練習（栗山、高橋）	発表条件を確認の上、練習を行う。
第13回　臨地実習のまとめ（栗山、高橋）	実習を振返り、要点をまとめる。
第14回　実習報告の内容確認・打合せ（栗山、高橋）	報告内容を検討する。
第15回　実習報告の準備（栗山、高橋）	実習報告会の準備として、スライドと配布資料の作成に取り組む。

■ 履修上の注意

・公衆栄養学と臨床栄養学の臨地実習を履修する者は、本科目を履修すること。
・臨地実習の一環として、実習配属先の管理栄養士による特別講義を行う。受講して、実習の準備を行う。

・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。
・実習課題によっては、授業時間外に作業を行うこともある。

■ 成績評価方法・基準
・受講態度50%（積極的な態度、目的意識、遅刻状況）、提出物50%（内容、提出期限の順守）※ルーブリックで評価
・提出物、事前課題は、適時フィードバックを行う。

■ 教科書
臨地実習テキスト〔大学オリジナル〕〔無料〕

■ 参考書
管理栄養士・栄養士になるための国語表現〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1800円+税〕
（※）「健康栄養学総合演習Ⅰ」履修者は購入済み

■ 備考
質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）
で受付ける。

課題研究　令和5年度入学生

(11277)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
食品学・栄養学分野でのこれまでの学習を基にして、課題発見・課題解明を行う。まず、設定した課題に関連する資料や文献の調査、課題を解明するための研究方針の立案、必要とされる実験・調査技術の習得、実験・調査の実施、実験や調査で得られたデータの解析と整理・図表化、得られた結果からの考察までを行う。さらに、それらを論文としてまとめるとともに、スライドプレゼンテーションと研究発表ポスターを作成し、ステージとポスターでの発表を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・これまでの学修を基に課題発見できる			0.1		0.1	0.05	0.1	0.05	0.6
・課題解決のための研究方法を立案し実行できる									
・研究成果を取りまとめた論文を作成し、プレゼンテーションができる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　第1～5回：テーマ選定	自身の持つ問題意識を関連の文献・資料を検索し熟読することで深め、具体的な研究課題（テーマ）を考える。
第２回　第6～37回：研究指導	・課題を解決するための研究（実験・調査）方法を、先行研究を参考にして設定する。 ・実験・調査を実施して得られたデータを整理し、図表に取りまとめ、データから考えられる事をまとめる。
第３回　第38・39回：課題研究発表プレゼンテーション作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第４回　第40回：課題研究発表	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第５回　第41～43回：課題研究論文作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第６回　第44・45回：課題研究発表ポスター作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。

■ 履修上の注意
研究テーマに関連する文献を数多く熟読して研究方針の立案、論文作成の参考にする。
（２単位分を３年次後期・４単位分を４年次通年で実施する）

■ 成績評価方法・基準
論文、プレゼンテーション、研究への取り組み・・・評価の割合等、詳細はルーブリック参照
成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。
提出物・提示案等に対するフィードバックとして、その都度、授業内で添削・コメント等を行う。

■ 教科書
無し（適宜、資料を配布する）

■ 参考書
これから研究を始める高校生と指導教員のために、酒井聡樹、共立出版、2，600円＋税

■ 備考
3年後期～4年通年、オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

課題研究　令和5年度入学生

(11278)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
3年次では、興味のある食品について関連する研究論文を検索し、食品に対する情報を収集させ、研究テーマを決定させる。また、研究しようとする食品の組織構造を見るための標本作成を行う。
4年次では、決定した研究内容について、食品の標本を作製し、光学顕微鏡による観察資料の評価を行う。研究結果を討論しながら目的・方法・結果のまとめ方および考察能力の向上を目指す。さらに、研究成果に対するプレゼンテーション力を身につけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1.研究に関連する情報の収集ができる			0.1		0.1	0.05	0.1	0.05	0.6
・2.実験計画・実施ができる									
・3.結果に対する考察力、プレゼンテーション力を身につける									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　１ガイダンス：目的など	研究目的を達成できるよう準備する
第２回　２～６ テーマの選定および情報収集	研究目的を達成できるよう準備する
第３回　７～10　基礎実験計画	研究目的を達成できるよう準備する
第４回　11～15　基礎実験	研究目的を達成できるよう準備する
第５回　16～34　研究指導	研究目的を達成できるよう準備する
第６回　35～39　論文作成	研究目的を達成できるよう準備する
第７回　40～42　プレゼンテーション準備	研究目的を達成できるよう準備する
第８回　43　研究発表	研究発表準備と自己評価を行う
第９回　44　論文提出	論文提出の準備をする
第10回　45　ポスター作成	ポスターを作成する

■ 履修上の注意
研究課題の情報収集を行う．　欠席連絡は速やかに行い特に実験に支障が無いようにする。

■ 成績評価方法・基準
受講態度50%、論文・プレゼンテーション50%
計画・実験の前後に十分な話し合いを行い、学生の理解度を確認しながら進めていく。
課題提出期限の厳守、プレゼンテーション準備、発表態度およびポスター制作の取り組みにより評価する。

■ 教科書
なし

■ 参考書
ガイダンスにて紹介する

■ 備考
3年後期～4年通年
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

課題研究　令和5年度入学生

(11279)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要
本研究では、衛生学、公衆衛生学、公衆栄養学分野に関連する研究テーマを扱う。これらの学問分野の中で、持続可能な開発目標（SDGｓ）に関連する内容を中心に、人間の健康な生き方について研究テーマを設定する。研究を行う際には、教員と履修者で意見交換の上、具体的な研究テーマを設定する。その上で、履修者が設定した研究テーマに取り組むための研究方法、論文の執筆、発表方法等について教授する。なお、研究成果は、課題研究発表会と課題研究展等で報告する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・研究テーマを設定し、研究を展開する能力を身につける。			0.1		0.1	0.05	0.1	0.05	0.6
・研究に関する情報や文献を収集し、内容を吟味する力を身につける。									
・論文をまとめ、研究発表する力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1～5　テーマの選定 ※PBL、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク	研究テーマに関する情報を収集する。 具体的な研究テーマを検討する。
第２回　6～34　研究の実施と指導 ※PBL、グループワーク、フィールドワーク	自主的に研究を進める。 研究指導を通じて、作業状況の確認、検討を行う。
第３回　35～40　発表準備：　発表原稿作成、発表の練習	発表すべきをまとめる。 所定時間内での発表する技術を習得する。
第４回　41　研究発表 ※プレゼンテーション	発表の要点、質疑応答の対応を確認する。
第５回　42～43　論文修正、提出	論文を見直し、適宜修正を行う。
第６回　44～45　ポスター作成	研究報告をポスターにまとめる。

■ 履修上の注意
・研究テーマは教員より提示される。その内容について、学生と相談のうえ、テーマを決める。
・研究テーマに関する情報や論文などを積極的に収集する意欲が必要である。
・データを集計、処理するためのパソコン操作能力が必要である。
・研究テーマの設定と研究発表、論文やポスターの作成は個人ごとに行う。
・研究の実施時間は、教員と履修者で相談のうえ、決める。そのため、時間割の時間外で行う場合もある。

■ 成績評価方法・基準
・研究態度（30%）、研究発表（20%）、論文の内容（50%）を総合して、成績評価を行う。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書
なし。

■ 参考書
適宜紹介する。

■ 備考
3年後期～4年通年

課題研究　令和5年度入学生

(11280)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
スポーツ栄養学分野または応用栄養学分野、薬と栄養（登録販売者等）などの分野において自ら学び、そこから湧き出たリサーチクエスチョンの解決を目指す。研究の充実を図るため、最初の半年は共通の特別講義として統計学の基礎を学ぶ。加えてJ-stageかcinii、pubmedなどにて文献を検索し、興味のある分野の最新論文の読み合わせ会も行う。知識が身についたところで、それぞれ個人の研究課題を実践するため、一人あたり一箇所の研究フィールドにて全国レベル（論文発表レベル・学会発表レベル）を前提とした研究活動を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・課題発見、研究計画の立案・実施、集計作業などを通じて情報処理能力を高める			0.1		0.1	0.05	0.1	0.05	0.6
・発表会でのプレゼンテーション、課題研究の論文提出を通じて総合能力を高める									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（3コマ）	事前学習として、おおまかで良いので自分のやりたい事を頭の中で整理すること。
第２回　統計学講義（10コマ）	事前学習は配布プリントの予習。事後学習としてレポート作成。
第３回　スポーツ栄養学特別講義（3コマ）	事前学習は配布プリントの予習。事後学習としてレポート作成。
第４回　文献勉強会（3コマ）	事前学習は配布プリントの予習。事後学習としてレポート作成。
第５回　研究指導（20コマ）	事前学習はそれぞれのテーマの文献整理。事後学習として結果集計・考察のドラフト作成など。
第６回　課題研究発表の準備（3コマ）	事前学習は結果集計。事後学習としてパワーポイントの原稿作成。
第７回　課題研究論文の作成（3コマ）	事前学習は結果集計。事後学習として論文作成。

■ 履修上の注意
研究活動では全員がフィールドに出て学外の第三者から学ぶことになるが、その全てが信頼関係に基づいている。研究室内では、礼儀や礼節、親や教員・先輩への感謝の気持ち、真摯に学ぶ態度を何より大切にしている。したがって1-2年次の出席状況、応用栄養学分野の成績、課題研究発表会の参加状況、教員へのこれまでの態度などを鑑みた上で、学生の履修（入門）をお断りする場合がある。第一希望の研究室に入門できるよう、真面目で礼儀正しい学生生活を過ごすことをお勧めする。

■ 成績評価方法・基準
課題研究発表会の内容・・・30%
課題研究論文の内容・・・30%
取り組み状況・・・40%
提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

■ 教科書
なし

■ 参考書
なし

■ 備考
3年後期～4年通年。
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する

課題研究　令和5年度入学生

(11281)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
本研究では、健康科学や保健学、公衆衛生といった健康・医療・福祉分野に関する研究テーマを扱う。これらの学問分野で社会的な課題や潮流となっている事柄（子ども食堂、健康・体力づくり、食品ロス、SDGs、環境問題、ヘルスプロモーション等）を中心に研究課題を検討する。研究の際には、履修学生と教員で話し合いの上、具体的な研究テーマを設定し、それに取り組むための研究方法や論文作成、発表方法等について授業を進める。なお、研究成果は、課題研究発表会と課題研究展等で報告する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・テーマを設定して、研究を展開する能力を身につける。			0.1		0.1	0.05	0.1	0.05	0.6
・研究に関する文献や資料、必要な情報を収集して内容を吟味する能力を身につける。									
・論文をまとめ、発表する力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1～6　テーマ選定	研究テーマに関する情報を収集する。 具体的な研究テーマを検討・決定する。
第２回　7～35　研究の実施	自主的に研究を進める。 研究の進捗状況の確認、及び検討を行う。
第３回　36～40　発表準備	発表内容をまとめる。 口頭で発表する技術を習得する。 質疑応答の準備をする。
第４回　41　研究発表	研究の概要と要点を発表する。 質疑応答に対応する。
第５回　42～43　論文修正、提出	論文の手直し、修正等を行う。
第６回　44～45　ポスター作成	研究内容をポスターにまとめる。

■ 履修上の注意
課題研究は1年半にわたる授業のため、取り組み方によって学びの成果が変わってくる。是非、主体的・積極的に向き合うことで専門的な知識・技術を修得する共に研究の面白さや楽しさを見出して欲しい。

■ 成績評価方法・基準
課題研究発表会の内容25%、課題研究論文の内容：35%、研究への取り組み状況：40%。
提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

■ 教科書
なし。

■ 参考書
適宜指示する。

■ 備考
3年後期～4年通年
質問については、授業時間内やオフィスアワーにて対応する。

課題研究　令和5年度入学生

(11283)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要
給食経営管理、栄養疫学に関連する研究テーマを扱う。学校給食の実務経験をいかし、給食関連、学童の食に関する問題について、栄養・食生活・生活環境を総合的に調査し、その中で自分自身の興味ある項目を取り上げ、課題を検討していく。研究方法、文献検索など、論文の執筆、発表方法に必要な内容について教授する。加えて、データの整理・統計解析の基礎、研究倫理の理解も重視する。なお、研究成果は、学会、課題研究発表会、課題研究展等で報告する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・研究テーマを設定し、研究を行うことができる。			0.1		0.1	0.05	0.1	0.05	0.6
・研究についての文献検索、内容の吟味ができる力を養う。									
・論文としてまとめ上げ、発表する能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1.ガイダンス	興味のある分野についてまとめておく。
第２回　2～5.研究課題の検討	文献検索、情報収集を行う。
第３回　6～10.調査内容検討、調査の実施	課題研究についての計画を立案する。
第４回　11～35.研究の実施、解析、まとめ	データベース作成、解析し、これらから結果を読み考察する。
第５回　36～40.発表準備	発表に向けて、要点をまとめる。
第６回　41～45.論文、ポスター作成	論文，ポスター作成の方法を学びながら、作成する。

■ 履修上の注意
・データベース作成・文献検索・データ解析にあたり、パソコンでの操作が必要である。
・積極的に研究し、データを活用できるよう自主的に取り組む。
・状況によっては、時間割の時間外で行う場合もある。

■ 成績評価方法・基準
・研究態度（50%）、研究発表（20%）論文の内容（30%）を総合して、成績評価を行う。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書
なし

■ 参考書
適宜紹介する。

■ 備考
質問等については、オフィスアワーで受付ける。
3年後期～4年通年

課題研究　令和5年度入学生

(11284)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本研究では、病院および高齢者施設における管理栄養士の実務経験を生かし、臨床栄養学分野に関連した課題研究を行う。
これまでの臨床栄養学で修得した専門知識・技能を総合的に活用しての研究テーマ設定、および研究に必要な文献などを熟読し知識の整理と理解力を深める。研究テーマを基に研究計画を立案し調査・試験などを実施する。そして、データ収集・分析より得られた結果は多角的な視点で考察を行う。最終的な成果は研究論文としてまとめるとともに発表会でのプレゼンテーションを実施する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・研究課題を設定し、研究の目的を明確にする			0.1		0.1	0.05	0.1	0.05	0.6
・研究計画に従い、データの収集、分析ができる									
・研究結果を考察し、論文としてまとめることができる									
・研究内容についてわかりやすく発表することができる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1. ガイダンス	興味のある研究テーマについて調べる
第２回　2. ～5.　研究テーマの決定・情報取集（PBL、グループワーク、フィールドワーク）	課題研究について情報収集する
第３回　6. ～10.　研究計画の検討・立案（PBL、グループワーク、フィールドワーク）	研究方法などについて計画を立案する
第４回　11. ～31.　文献検索、データ収集・分析、研究指導（PBL、グループワーク、フィールドワーク）	文献資料を収集し、課題に取り組む
第５回　32. ～38.　論文作成	研究成果を論文にまとめる
第６回　39. ～41.課題研究発表準備	パワーポイントを使用し、発表の準備をする
第７回　42.　課題研究発表	プレゼン資料を完成させる
第８回　43.　課題研究論文修正、提出	論文を完成させる
第９回　44.　課題研究展準備	ポスター作成の準備
第10回　45.　課題研究展	研究内容を確認する

■ 履修上の注意

・日頃から研究に関する情報収集を行い、積極的に研究に取り組む意欲が必要である。
・統計を使用する場合もあるため、学修しておく。
・研究および論文を作成することによって、何を学び、今後どのように活かしていくのかを考える。

■ 成績評価方法・基準

・研究に対する取り組み（積極的な態度、目的意識）40%、研究発表30%、論文の内容30%を総合的に判断して評価する。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜紹介する

■ 備考

・3年後期～4年通年
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

課題研究　令和5年度入学生

(11285)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
食品学や栄養学分野に関連する学修を基礎として研究課題についてテーマを決め、文献調査方法、研究方法、実験技術などについて指導する。研究課題達成の為にはどのような文献調査が必要で、またどのような実験方法を用いるのがベストなのかについて検討しながら進める。さらに得られた結果のデータを解析、考察し、論文作成を実施する。また、スライドプレゼンテーションの作成とよりよいプレゼンテーションについて指導し、ポスター作製（作成）を実施する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・研究に関する情報や文献を収集し、理解する能力を修得する。			0.1		0.1	0.05	0.1	0.05	0.6
・実験技術の修得 論文をまとめ、研究発表する能力を身に付ける。									
・自ら学び研究する意義を見出す。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　第1回：研究ガイダンス文献調査方法	事後：文献調査方法を理解する
第２回　第2回：文献調査方研究テーマについて	事後：テーマに関することについて調べる
第３回　第3回：研究テーマについて	事後：テーマに関することについて調べる
第４回　第4回：実験計画	事後：研究計画について自分なりに考える
第５回　第5回～第15回 基礎実験(実験技術修得)	事前、事後：実験技術を修得できるよう努力する
第６回　第16回～第37回 研究指導	事前、事後：研究について理解する
第７回　第38回～40回 論文作成、発表会準備	事前、事後：論文作成・発表会準備を行う
第８回　第41回～第42回 研究発表会準備(パワーポイント作成、プレゼンテーションの練習)、論文作成	事前、事後：論文作成・発表会準備を行う
第９回　第43回 研究発表(パワーポイントでのプレゼンテーション)	事後：発表会の反省会、論文の修正などを行う
第10回　第44回 論文修正	論文修正とポスター作成を行う
第11回　第45回 課題研究展のポスター作成	課題研究展に向けてポスターを作成する

■ 履修上の注意
自ら進んで研究に取り組む意欲が重要である。無断欠席はしない。教員等からの指導やアドバイスに従う事。状況によっては時間割の時間外で行う場合がある。Google Classroomでの連絡があるため登録が必要である。

■ 成績評価方法・基準
研究態度（50%）、研究発表（25%）、論文の内容（25%）を総合して成績評価を行う。課題等については研究中にフィードバックをする。

■ 教科書
課題研究内容に応じて指示します

■ 参考書
必要に応じて紹介します

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。3年後期～4年通年。

課題研究　令和5年度入学生

(11286)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
ブシャー　シルベ

■ 授業の概要
食品・栄養学分野において、学生はこれまでの学習を基に、主に地域の言語学や外国の言語学、または国際的な内容に関連する課題の発見と解決に取り組む。これには、課題に関連する資料や文献の調査、研究計画の立案、分野に必要な知識の習得が含まれる。学生は、自分で選んだテーマに関連する適切な情報や参考文献の探し方を学び、得た情報から重要な点を抜き出し、適切な要約を書く方法を習得するとともに、情報を分析・統合し、一貫した議論や考察をまとめる。さらに、研究で得た最も重要な点を活用し、学んだ内容を説明する短いプレゼンテーションを作成し、論文として成果をまとめ、最終的に発表会でスライドプレゼンテーションを作成する。なお、学生はこの研究テーマに対して強い関心を持ち、自己管理能力が高く、意欲的であることが求められる。研究や作業の多くは自己主導で行うため、主体的に取り組む姿勢が必要。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・これまでの学修を基に課題発見できる			0.1		0.1	0.05	0.1	0.05	0.6
・課題解決のための研究方法を立案し実行できる									
・研究成果を取りまとめた論文を作成し、プレゼンテーションができる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　第１回　第1～5回：テーマ選	自身の持つ問題意識を関連の文献・資料を検索し熟読することで深め、具体的な研究課題（テーマ）を考える。
第２回　第２回　第6～37回：研究指導	・課題を解決するための研究（実験・調査）方法を、先行研究を参考にして設定する。 ・実験・調査を実施して得られたデータを整理し、図表に取りまとめ、データから考えられる事をまとめる。
第３回　第３回　第38・39回：課題研究発表プレゼンテーション作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第４回　第４回　第40回：課題研究発表	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第５回　第５回　第41～43回：課題研究論文作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第６回　第６回　第44・45回：課題研究発表ポスター作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。

■ 履修上の注意
※本授業は、GPAが2.5以上の学生のみ履修可能である。
研究テーマに関連する文献を数多く熟読して研究方針の立案、論文作成の参考にする。
（２単位分を３年次後期・４単位分を４年次通年で実施する）

■ 成績評価方法・基準
受講態度50%、論文・プレゼンテーション50%
計画・実験の前後に十分な話し合いを行い、学生の理解度を確認しながら進めていく。
課題提出期限の厳守、プレゼンテーション準備、発表態度およびポスター制作の取り組みにより評価する。

■ 教科書
無し

■ 参考書
無し

■ 備考

3年後期～4年通年、オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

課題研究　令和5年度入学生

(11287)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
深　澤　律　子

■ 授業の概要

日本の食文化、郷土料理に関する研究テーマを設定し、文献検索を行い、先行研究を調べる。先行研究を読み込み、研究方法を考え、調査研究、アンケート調査研究、レシピ開発研究など研究内容を絞り込み、春休みから試作や予備調査、プレアンケートなどを行い、研究計画を立て、研究方法等の修正を行う。調査結果からデータの解析やデータの整理、論文執筆を行い、パワーポイント等でプレゼンテーションを作成し、研究成果は課題研究発表会と課題研究展で報告する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
			0.1		0.1	0.05	0.1	0.05	0.6
・研究テーマを設定し、研究を進める基礎知識を修得する。 ・研究に関する文献や先行研究を収集し、自分の研究では何を明らかにしたいのかを考える能力を修得する。 ・学修した情報を整理し、論文にまとめ、発表する技術を修得する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1～５回　ガイダンス、研究テーマの検討、情報収集、研究テーマ決定	パソコンを使い、Google Scholar で、調べたい”キーワード”で文献検索を行う。論文を読み、印象に残った論文や文献はエクセルの表に、著者、年、概要をまとめる。論文や文献は印刷してファイリングする。
第２回　6～10回　研究内容、方法の検討	研究テーマの先行研究・文献検索を引き続き行い、方法を考える。
第３回　11～20回　研究の試作、調査等を行い検討する。	プレ試作、プレ調査などを行い改善する。
第４回　21～30回　研究の本調査等を行い、データ・情報の分析、検討	調査などの結果を評価し、改善点を考え、研究ノートにまとめる。
第５回　31～40回　研究結果の考察、論文作成	論文のまとめ方を理解し、論文を作成する。
第６回　41回　課題研究発表会資料作成	課題研究発表会に向けて要旨をまとめ、発表の準備を行う。パワーポイントを作成する。発表練習を行う。
第７回　42回　課題研究発表会	発表の時間にあわせて内容を確認し、質疑応答の対応も考える。
第８回　43回　論文修正、提出	研究発表を振り返り、研究論文内容を確認し、適宜修正を行う。
第９回　44回　課題研究展にむけて	研究報告をポスターにまとめ作成する。
第10回　45回　課題研究展	ポスターを見ながら研究内容を確認する。 ポスターを示しながらわかりやすく説明する練習をする。

■ 履修上の注意

研究に必要なものはその都度指示する。調理や試作することも踏まえ、常に体調管理、衛生管理に気を配る。春休み期間中に調査や試作など３日間ほど集中して課題研究の時間を設ける。
自分のパソコンを使用して文献検索を行ったり、エクセルやパワーポイントで表やグラフを作成するので、パソコンは準備。資料を保管するファイルも用意。

■ 成績評価方法・基準

論文40%、研究に取り組む姿勢（文献収集、参考資料の収集、課題の取り組み、ゼミ生同士の良好なコミュニケーション等）30%、パワーポイントでのプレゼンテーション資料作成・発表30%で総合評価する。提出物については適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

なし

■ 参考書

参考資料はその都度紹介する。

■ 備考
質問については授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。

教 職 に 関 す る 科 目

教育原理

(19801)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年・美表１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
倉　品　有　佳

■ 授業の概要
教育の理念、本質を考究するため、代表的な理論や原理的な課題を学習するとともに、たがいの考えを照らし合わせながら、教育概念を検討する。また、日本と諸外国における教育の歴史、思想について探究するため、学校、子どもとその家族、教師、という各種のトピックを設けて、それぞれをめぐる制度や観念の変遷、現代的諸問題をとりあげ、検討する。ペアやグループでのワーク、レポート発表などを通じて、受講状況をつど確かめていく。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を深め、それらを説明することができる。 ・教育の歴史的変遷や現代社会における教育課題を理解し、それらについて自らの考えを持つことができる。 ・日本と諸外国の教育思想について理解し、それらをもとに自らの教育に対する考えを批判的に検討することができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　教育をどのようにとらえるか	講義をもとにして、提示された課題に取り組む（参考書第1・2章）
第２回　誰のための義務教育？	講義をもとにして、提示された課題に取り組む（参考書第3章）
第３回　知を愛すること－西洋教育思想1 古代	講義をもとにして、提示された課題に取り組む（参考書第4章）
第４回　子どもの誕生－西洋教育思想2 近代	講義をもとにして、提示された課題に取り組む（参考書第6章）
第５回　新教育の登場－西洋教育思想3 20世紀	講義をもとにして、提示された課題に取り組む（参考書第7章）
第６回　教育の実践－西洋における教育実践を例に	講義をもとにして、提示された課題に取り組む（参考書第12章）
第７回　中間まとめ・試験1	第1回から第6回までの講義の内容を復習する
第８回　近代学校の誕生と展開－学校の歴史1	講義をもとにして、提示された課題に取り組む（参考書第8章）
第９回　日本における学校の誕生と展開－学校の歴史2	講義をもとにして、提示された課題に取り組む（参考書第10章）
第10回　戦後日本の社会と学校－学校の歴史3	講義をもとにして、提示された課題に取り組む（参考書第11章）
第11回　近代と科学技術－現代教育の課題1	講義をもとにして、提示された課題に取り組む（参考書第15章）
第12回　知をめぐる問題－現代教育の課題2	講義をもとにして、提示された課題に取り組む
第13回　生まれてくることについて－現代教育の課題3	講義をもとにして、提示された課題に取り組む
第14回　教育の意味を考える－演習	これまでの講義を振り返り、グループワークを活用しながら教育の意味について考える
第15回　期末まとめ・試験2	第1回から第14回までの講義の内容を復習する

■ 履修上の注意
毎回の課題提出と2回の受験が必須です
連絡や課題提出のためにGoogleクラスルームを使用します

■ 成績評価方法・基準
講義内課題への取り組み40%、試験60%
取り組みは知識、思考・表現、主体性・協働性の程度に応じて評価する

■ 教科書

特に指定しない

■ 参考書
[アクティベート教育学01][教育原理][木村元・汐見稔幸編、2020][ミネルヴァ書房][2200円]
その他、講義の各回にて適宜参考書等を紹介する
状況に応じてJMOOC(Japan Massive Open Online Courses) https://www.jmooc.jp/等を活用する

■ 備考
質問等は講義前後やGoogle Classroomで受け付けます
必要に応じてPCを持参すること

教職概論

(19802)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年・美表１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
須　藤　由　子

■ 授業の概要
この授業では、教職の意義や教員の役割・職務内容、チームとしての学校運営のあり方の理解を目指します。そのうえで、自らが理想とする教師像について考えることをとおして、教職志望者の職業選択に資する機会とします。授業の進め方は、配布資料などの内容を講義するだけではなく、グループワークや発表等の機会を多く取り入れることによって、それぞれの受講生が能動的に授業に参加できるようにします。この授業の担当者は、中学校と高等学校における勤務経験を有する実務家教員です。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・公教育の役割や教師の存在意義を理解し、自らの理想の教師像を抱くことができる。 ・教職に関する制度について理解し、その諸課題について自らの考えを持つことができる。 ・教師に求められる資質・能力を理解し、それを自らの教職課程の指針することができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション／教職観のリフレクション	本シラバスをよく読んでオリエンテーションに臨む。
第２回　「教師」とはどんな職業か	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。 印象に残っている先生の姿を思い出す。
第３回　教師の魅力	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。 教師の魅力について事前に調査し考えをまとめておく。
第４回　教職の特徴―歴史的展開	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。
第５回　教員の服務	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。
第６回　教員の権利と身分保障	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。
第７回　教員研修	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。
第８回　教科指導という仕事	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。
第９回　生徒指導という仕事(特別支援も含む)	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。
第10回　学級経営という仕事	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。
第11回　学校経営という仕事(チーム学校への対応を含む)	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。
第12回　教職制度をめぐる諸課題	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。
第13回　保護者対応と教師	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。
第14回　演習「私の理想の教師像」を考える１（グループワーク）	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。 これまでの授業を振り返り、自ら理想とする教師像について考える。
第15回　演習「私の理想の教師像」を考える２（グループワーク）	教育に関する新聞記事を探し、自分なりの考えをレポートにまとめる。(輪番で発表する)。

	グループで、理想の教師像についてについてまとめて発表する。
第16回　演習「私の理想の教師像」を考える３(論文作成)	グループで理想の教師像についてまとめて発表する。発表のふりかえりを踏まえて最終レポートを作成する。

■ 履修上の注意
・事前に教育に関する新聞記事と記事に対する自分の考えをまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準
・レポート課題（40%）、新聞記事のメモ（30%）その他授業中のグループ活動時の態度（30%）で成績評価をします。
・授業内の課題を受領するのは課題を課した授業時のみとします。そのため欠席しないようにしてください。
・課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書
教科書は指定しません。随時プリントを配布します。

■ 参考書
〔動画教材〕〔独立行政法人教職員支援機構〕〔https://www.nits.go.jp/materials/〕
文部科学省　各種資料〔https://www.mext.go.jp〕

■ 備考
質問等については、授業の前後に受け付けます。

教育制度論

(19803)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年・服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
久保田　朋　実

■ 授業の概要
教育に関する社会的、制度的、経営的な事項について、最新の動向をふまえて考える。現代の教育を考える上で、前提としてふまえておくべき15の視座を柱にわかりやすく解説する。

■ 授業の到達目標　　学習成果との関連
①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・教育に関する制度的な基礎知識を習得する。
・社会と学校教育の結びつきを理解し、教育政策の動向を理解する。
・学校と家庭及び地域との連携および学校安全への対応に関する知識を身につける。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業内容と進め方、評価方法について説明する。	
第２回　教育制度の基本と改革動向――日本と世界の教育の動き グループワーク	教科書の第1章を読む。
第３回　学校の制度――学校はどのように発展し，今どうなっているのか グループワーク	教科書の第2章を読む。
第４回　教職員の制度――教職員の職務内容と守るべき義務 グループワーク	教科書の第3章を読む。
第５回　教員養成の制度――教員の免許と養成・採用のしくみ グループワーク	教科書の第4章を読む。
第６回　教員研修の制度――「学び続ける教員」を支えるしくみ グループワーク	教科書の第5章を読む。
第７回　教育行政の制度――教育行政の仕組みと今日的な動向 グループワーク	教科書の第6章を読む。
第８回　教員の福利厚生制度――学校の先生の待遇は恵まれているのか グループワーク	教科書の第7章を読む。
第９回　学校経営の制度――学校組織マネジメントの充実のために グループワーク	教科書の第8章を読む。
第10回　教員評価の制度――評価システムを通してみえてくるもの グループワーク	教科書の第9章を読む。
第11回　教科書の制度――その日本的特徴と教育の意思をめぐる課題 グループワーク	教科書の第11章を読む。
第12回　危機管理の制度――安全な学校づくりを目指して グループワーク	教科書の第12章を読む。
第13回　奨学金の制度――教育費負担の軽減とその課題 グループワーク	教科書の第13章を読む。
第14回　学校関係者による学校支援の制度――「地域とともにある学校」に向けた学校と地域の連携・協働 グループワーク	教科書の第14章を読む。
第15回　入試制度――学びの質を保証する選抜とは グループワーク 全体のまとめ	教科書の第15章を読む。

■ 履修上の注意
・初回のオリエンテーションに必ず出席してください。
・毎回の授業で、必ずパソコンを持参してください。

■ 成績評価方法・基準
受講態度50%（授業への参加状況：発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ等）、授業内課題への取り組み50%で評価します。

■ 教科書
〔新・教育制度論［第２版］：教育制度を考える15の論点〕〔髙妻紳二郎〕〔ミネルヴァ書房〕〔2023〕〔￥2，640〕

■ 参考書
適宜、紹介します。

■ 備考
欠席連絡等、何かあればメールにてお知らせください。
質問等は、授業終了後のみ受け付けます。

教育心理学

(19804)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年・服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
教えるとは何か、学ぶとは何かというテーマについて考える。教えるとは、学習者が既にもっている知識や過去経験と教授者や教科書からの新しい情報とを統合して、主体的、能動的に知識構造を構成する学びの活動を援助することである。その具体的事例を紹介する。何かができるようになったり、わかったりするようになる発達は、人が他者との共同の中で援助を受けながら可能性を広げることが前提となる。このような教育と発達との関係について考察する。また、学びには有意味学習と機械的暗記学習がある。私たちがもっている「学習観」は機械的暗記学習に基づいている。そのため、有意味学習の特徴を学び、従来の学習観を批判し、教育実践に役立てることができるように講義する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・教えるとは何か、学ぶとは何かという問題について考えられるようになる。 ・発達に関する理論を学び、教育と発達の関係について理解できるようになる。 ・有意味学習の特徴を学び、従来の「学習観」を批判できるようになる。 ・教育評価活動とは何かについて理解できるようになる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、授業の概要と教育目標、注意点	シラバスを熟読すること。
第２回　個別的学習とルール学習	ルール学習のすばらしさについて理解すること。配布されたテキストのプリントを熟読すること。
第３回　ルールを理解するための授業づくり	ルールと事例をどのように学べばルールの理解につながるかを考えること。配布されたテキストのプリントを熟読すること。
第４回　記憶と応用を高めるための教授法	験証法、帰納法、演繹法の違いと効果について理解すること。配布されたプリントを読み返すこと。
第５回　有意味学習と機械的暗記学習	２つの違いを理解し、従来の「学習観」を批判すること。板書された内容について理解すること。
第６回　学習者の「誤った知識」を把握し、その根拠である過去経験を理解して認めることの重要性	過去経験を理解し、認めることの重要性について理解すること。具体的な事例を自分で探したり、調べたりすること。
第７回　学習者がもつ過去経験と教科書からの情報が対立的な関係にある場合、どのような教授法が必要か	「範囲画定」とは何か、理解すること。板書された内容について理解すること。
第８回　家庭科の分野での教授事例	具体的な教材を通して「範囲画定」の有効性について理解すること。配布されたプリントを一読すること。
第９回　発達と教育との関係	ピアジェとヴィゴツキーの理論の違いについて理解すること。立場の違いをノートにまとめること。
第10回　「発達の最近接領域説」の問題点と具体的事例	ヴィゴツキーの理論の問題点を理解し、これまでの援助や指導によってどのような発達が実現したかなどを考え、レポートすること。
第11回　欲求の階層説－自己実現欲求を生み出すためには－	マズロー、ロジャース、フロイトの考えを統合して自己実現欲求を高める方法について考えること。プリント、板書の内容についてよく理解すること。
第12回　教育評価活動とは何か	誰が、何を、何のために評価するのかを理解すること。プリントを一読し、ポイントを説明できるようになること。
第13回　教育評価活動の方法	構成法、比較法、相関法について理解すること。プリント、板書の内容を理解すること。

第14回　発達障がいの事例	相手の世界にこちらから入り、理解し、認めることの重要性について理解すること。プリント、板書の内容を理解し、自分なりの考えをもてるようになること。
第15回　まとめと補足	疑問点やわからなかった点を明らかにすること。
第16回　試験	復習をしておくこと。

■ 履修上の注意

授業を休まないこと。５回以上欠席の場合は単位を認めない。どうしても休む場合は欠課届けを提出すること。
ノートに講義の内容を記録すること。プリントを配るので、それを入れるファイルを用意すること。

■ 成績評価方法・基準

レポートと試験の結果に基づいて成績を判断する。
レポート20点、試験80点の配分により最終的な成績を決める。
レポートについてはフィードバックを行う。

■ 教科書

特に使用しない。毎回、授業前にプリントを配る。

■ 参考書

授業の中で適宜、紹介する。
〔授業づくりの心理学〕〔伏見陽児・麻柄啓一著〕〔国土社〕など。

■ 備考

将来、教員採用試験を受験する者は、心理学Ⅰと心理学Ⅱの受講をすすめる。
質問、相談等は授業終了後、またはオフィスアワーで受け付ける。

特別支援教育

(19805)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（15 + 30）
対象学科：健専２年・服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
大瀬戸　美　紀

■ 授業の概要
通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の抑制及び心身の発達を理解する。 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み	当該科目の授業内容や計画について理解する。
第２回　特別支援学校の教育	テキストを読み、予習・復習をする。
第３回　介護等体験の実際	テキストを読み、予習・復習をする。
第４回　障害のある児童生徒との関わり方①（視覚障害、聴覚障害）	テキストを読み、予習・復習をする。
第５回　障害のある児童及び生徒との関わり方②（肢体不自由、病弱）	テキストを読み、予習・復習をする。
第６回　障害のある児童及び生徒との関わり方③（知的障害、発達障害）	テキストを読み、予習・復習をする。
第７回　障害のある子供の保護者に声当事者の声	テキストを読み、予習・復習をする。
第８回　障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応	テキストを読み、予習・復習をする。
第９回　期末試験（レポート課題など）	

■ 履修上の注意
授業への取り組み（受講態度や発言など）を高く評価します。また、グループワークの際に積極的に話し合いに加わるなどの態度についても評価の一助にします。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（２０％）、グループワークへの参加態度（２０％）、期末試験（６０％）で総合的に評価します。

■ 教科書
〔特別支援学校における介護等体験ガイドブック　新フィリア〕
〔全国特別支援学校長会　全国特別支援教育推進連盟　編著〕〔ジアース教育社〕〔1400円〕

■ 参考書
〔演習・保育と障害のある子ども〕〔野田敦史・林恵　編〕〔みらい〕〔2300円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時やオフィスアワーに受け付けます。

教育課程論

(19806)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年・服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
倉　品　有　佳

■ 授業の概要

各学校で編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について考える。実際にパフォーマンス課題を作成することをとおして、教育課程編成の実践的な知識・技能の目指す。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 ・教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 ・教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	本シラバスをよく読んでオリエンテーションに臨み、次回以降にむけて教科書等の準備をする。
第２回　教育課程とは何か	教科書「序章」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第３回　教育課程の編成原理(1)：生活と科学	教科書「第4章1」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第４回　教育課程の編成原理(2)：領域論	教科書「第4章2～3」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第５回　教育課程の編成原理(3)：履修原理	教科書「第4章4」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第６回　教育課程の戦後史(1) ：経験主義と系統主義	教科書「第2章1～2」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第７回　教育課程の戦後史(2)：教育の現代化と人間性重視	教科書「第2章3～4」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第８回　教育課程の戦後史(3)：「新学力」観と「生きる力」	教科書「第2章5～7」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第９回　中間テスト	中間テストに向けて、これまでの授業の内容を復習する。
第10回　教育課程の現代的課題：コンテンツからコンピテンシーへ	教科書「第2章8」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第11回　教育課程の編成(1)：教育目標	教科書「第5章1～2」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第12回　教育課程の編成(2)：教科教育（パフォーマンス課題）	教科書「第5章3」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第13回　教育課程の編成(3)：教科外教育	教科書「第5章4」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。パフォーマンス課題の作成を進める。
第14回　カリキュラム・マネジメントの進め方	教科書「第6章3」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。パフォーマンス課題の作成を進める。
第15回　パフォーマンス課題の発表	パフォーマンス課題の発表の準備をする。
第16回　パフォーマンス課題のふりかえり	発表を踏まえてパフォーマンス課題を練り直し、最終レポート課題として提出する。

■ 履修上の注意

連絡や課題提出のためにGoogleクラスルームを使用する。

■ 成績評価方法・基準

中間テスト（４０％）、最終レポート課題（４０％）、その他授業内の課題（２０％）
以上に基づいて総合的に評価する。
課題については、授業中にフィードバックする。

■ 教科書
〔新しい時代の教育課程 第5版〕〔田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵〕〔有斐閣〕〔2，200円〕□

■ 参考書
〔「逆向き設計」実践ガイドブック〕〔奥村好美・西岡加名恵　編〕〔日本標準〕〔2，420円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

道徳教育の指導法

(19807)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年・服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
長　島　慧　治

■ 授業の概要
道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行われるが、その要となるのは「特別の教科　道徳」（以下、「道徳科」と呼ぶ）である。本授業は、道徳教育の理念と歴史について学習することを通して、道徳教育の目標・内容・意義について理解し、「道徳科」の指導法・教材研究・評価のありかたについて考える。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・道徳教育の理念や歴史をふまえて、学校における道徳教育の目標と内容を理解している。 ・児童・生徒の発達に合わせた道徳科の指導方法と指導計画について理解している。 ・道徳科の特性に合わせた指導法と学習評価のあり方について理解している。 ・倫理学、心理学などの知見をふまえて、道徳や道徳性について考察することができる。 ・現代日本における道徳教育の実践的課題を見据えて、道徳科の教材研究、指導案作成ができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：授業の目標・内容・進め方について	事前：シラバスを確認しておく 事後：本時の授業の流れについて理解する。
第２回　道徳教育とは何か：学習指導要領を読む	授業資料を確認しておく 授業内容にもとづいて課題に取り組む
第３回　道徳教育の歴史①	授業資料を確認しておく 授業内容にもとづいて課題に取り組む
第４回　道徳教育の歴史②	授業資料を確認しておく 授業内容にもとづいて課題に取り組む
第５回　道徳教育のための理論的視点①	授業資料を確認しておく 授業内容にもとづいて課題に取り組む
第６回　道徳教育のための理論的視点②	授業資料を確認しておく 授業内容にもとづいて課題に取り組む
第７回　道徳教育の方法①：学習指導要領から	授業資料を確認しておく 授業内容にもとづいて課題に取り組む
第８回　道徳教育の方法②：実践授業分析（読み物教材）	授業資料を確認しておく 授業内容にもとづいて課題に取り組む
第９回　道徳教育の方法③実践授業分析（モラルジレンマ）	授業資料を確認しておく 授業内容にもとづいて課題に取り組む
第10回　道徳教育の指導案作成①：道徳科の指導計画	授業資料を確認しておく 指導案作成に使用する資料を選んでおく
第11回　道徳教育の指導案作成②：教材研究・授業設計	教材研究を進める 授業内容にもとづいて指導案作成を進める
第12回　道徳教育の指導案作成③：道徳科の特性と学習評価について	指導案作成を進める 授業内容にもとづきいて指導案を改善する
第13回　模擬授業・授業改善①：ねらいと中心発問の検討	指導案を完成させておく 授業内容にもとづきいて指導案を改善する
第14回　模擬授業・授業改善③：発問・展開の検討	授業資料を確認しておく 授業内容にもとづいて指導案を改善する
第15回　総合討論・まとめ	これまでの授業の復習をしておく 討論とまとめを通じて考えをまとめる

■ 履修上の注意
Google Classroomを使用します

授業資料や課題をClassroomから確認し、予習・復習に役立ててください

■ 成績評価方法・基準
授業内課題30%、指導案作成30%、期末課題40%

■ 教科書
授業中に適宜資料を配布します

■ 参考書
〔中学校学習指導要領(平成29年告示)解説　特別の教科　道徳編〕〔文部科学省〕〔教育出版〕〔156円＋税〕
〔道徳教育のキソ・キホン　道徳科の授業をはじめる人へ〕〔相沢伸幸・神代健彦編〕〔ナカニシヤ出版〕〔2，000＋税〕
〔悩めるあなたの道徳教育読本〕〔神代健彦・藤谷秀編著〕〔はるか書房〕〔1，800円＋税〕
〔史料　道徳教育を考える［４改訂版］〕〔波本勝年他編〕〔北樹出版〕〔1，800円＋税〕

■ 備考
質問等は授業終了時にうけつけます

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

(19808)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年・服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
須　藤　由　子

■ 授業の概要

特別活動及び総合的な学習の時間の目標，内容，教育課程における位置付けや意義，設立された歴史的背景、変遷等について，学習指導要領の解説書や講師の体験談を通して理解する。学習内容としては，実践事例から題材の見つけ方や取り上げ方を具体的に理解する。学習方法としては，集団活動，話合い活動の方法，テーマ学習，横断的な学習等の意味や生徒の実態に応じた指導・支援の在り方について実践的に理解する。学習指導案の作成と発表を行い，実践的指導力を身に付ける。

教諭として公立小学校で3年間、公立中学校で21年間、11年間の管理職、2年間の教育行政での経験を講義内容に生かす。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・１．総合的な学習の時間及び特別活動の意義や教育課程における位置付け，目標や内容について具体的に理解することができる。 ・２．総合的な学習の時間及び特別活動の具体例を題材に，生徒の実態に応じた指導・支援の在り方を考え，表現できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　特別活動の目標と内容を理解する。	解説書特別活動編 Ｐ11～Ｐ19を読んでくる。
第２回　特別活動の歴史と変遷を理解する。	解説書特別活動編 Ｐ5～Ｐ10を読んでくる。
第３回　理想の学級とは何かを考える。学級担任の仕事内容を理解する。	解説書特別活動編 Ｐ40～Ｐ44を読んでくる。
第４回　学級力シートの作成と分析方法を理解する。	事前に配布された資料を読んでくる。
第５回　学級活動の目標と内容・指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 Ｐ40～Ｐ44を読んでくる。
第６回　学校行事の目標と内容・指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 P109～Ｐ112を読んでくる。
第７回　生徒会活動と部活動の意義と指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 P74～Ｐ91を読んでくる。
第８回　話合い活動の方法を知る(ディベート、ディスカッションなど)。 特別活動の学習指導案の作成方法を理解する。	指導案を完成してくる。
第９回　少人数グループで学習指導案について発表し、評価する。 特別活動のまとめとしてDVD(合唱)	指導案を完成してくる。
第10回　総合的な学習の時間の背景と実践上の課題を理解する。 総合的な学習の時間の目標と意義、計画・実践・評価を理解する。	解説書総合的な学習の時間編(プリント) Ｐ1～Ｐ13を読んでくる。
第11回　SDGsを事例として取り上げ、総合的な時間を体験する。 SDGsの内容について、各項目から具体的に理解する。	解説書総合的な学習の時間編(プリント) Ｐ18 ～Ｐ22を読んでくる。
第12回　各自，総合的な学習の時間の課題の設定を行う。 レポート作成の計画立案、資料収集、実践などを行う。	各自の課題の設定とレポートの作成
第13回　各自のレポートの発表　1 質疑・応答・評価	レポートの作成と発表資料の作成、自己評価
第14回　各自のレポートの発表　2 質疑・応答・評価	レポートの作成と発表資料の作成、自己評価
第15回　各自のレポートの発表　3 質疑・応答・評価	レポートの作成と発表資料の作成、自己評価
第16回　特別活動と総合的な学習の時間の総括 類似点と相違点	レポートの完成

■ 履修上の注意

毎時間、教育問題に関する新聞記事を持参し、記事に対する自分の考えをまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準
・小論文（20%），期末試験（50%），講義中の議論への貢献度合い（30%）を総合して評価する。
・授業中にグループディスカッション後、発表する機会があります。発表後その場でコメントします。

■ 教科書
〔中学校学習指導要領解説　特別活動編〕〔文部科学省〕〔256円＋税〕

■ 参考書
参考資料
〔NEW学級力向上プロジェクト：小中学校のクラスが変わる　学級力プロット図誕生！〕〔今宮信吾、田中博之編著〕〔金子書房〕〔1，980円〕
理想教育財団　「学級力アンケート」金子書房　https://www.riso-ef.or.jp/classroom-competency_03.html

■ 備考
質問は授業中及び授業後も受け付けます。東北生活文化大学高等学校講師室にいます。

教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。） (19809)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年・服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
清　水　禎　文　　松　尾　　広

■ 授業の概要

教育方法および教授・学習論に関する基本的な概念や視点を確認し、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の理論と方法を理解し、実践できるようにする。
また教育を行う上での必要な情報通信技術の知識・技能を学び、情報機器活用方法を身につける。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・教授論･学習論の基本的な理論と実践を理解する。 ・教育の目的に適した教育方法・指導技術を理解し、身につける。 ・情報通信技術の活用の意義を理解し、指導法を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション 教育方法論(情報通信技術を活用した教育 の理論と方法を含む)を学ぶ意義　（担当：清水） アクティブ･ラーニング（チームビルヂングと学習概念図のワークショップ）	事前学習：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）課題はClasseoomに提出すること。
第２回　教授論から学ぶ授業の本質（その１） 大村はまの授業論　（担当：清水） アクティブ・ラーニング（ジグソー法）	事前学修：講義資料（苅谷夏子『優劣を越えて大村はま』からの抜粋資料）を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第３回　教授論から学ぶ授業の本質（その２） 平野朝久の授業論（担当：清水） アクティブ・ラーニング（ジグソー法）	事前学修：講義資料（平野朝久『はじめに子どもありき』からの抜粋資料）を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第４回　学習指導要領における教授論「資質･能力」と「主体的･対話的で深い学び」（担当：清水）	事前学修：講義資料（学習指導要領と講義資料）を読んでくること（90分） 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第５回　学習指導案に見られる授業の構成要素 （担当：清水）	事前学修：講義資料（学習指導案と講義資料）を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第６回　学習評価の理論と方法（その１） 学習評価の充実と指導と評価の一体化 （担当：清水）	事前学修：講義資料（『指導と評価の一体化』等を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第７回　学習評価の理論と方法（その２） 形成的アセスメントと自己決定 前半のまとめ（担当：清水）	事前学修：講義資料（中教審諮問とパワーポイント）を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第８回　現代社会におけるICTの役割、教育へのICT活用 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第９回　主体的・対話的、個別最適な学習へのICT活用 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第10回　ICTを活用した学習指導 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。

第11回　遠隔・オンライン教育による学び （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第12回　ICTを活用した校務の推進 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第13回　情報活用能力の育成 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第14回　情報モラル・情報セキュリティ （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第15回　学校におけるICTの在り方 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。

■ 履修上の注意

Google Classroom を使用します。

講義資料やワークシート、参考文献等は事前にアップします。各自ダウンロードして、予習、復習をしてください。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題20%、試験80%

■ 教科書

授業の中で資料（プリント）を配布する。

■ 参考書

〔中学校学習指導要領（平成29年度告示）〕〔文部科学省〕　文科省からダウンロード

〔高等学校学習指導要領（平成30年度告示）〕〔文部科学省〕　文科省からダウンロード

■ 備考

質問等については、授業終了後受け付ける。

生徒指導の理論と方法Ａ（進路指導の理論及び方法を含む。） (19810)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
須　藤　由　子

■ 授業の概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。進路指導（キャリア教育含む）の意義・理論・指導の在り方についても取り上げる。

担当教員は共に中学校・高等学校等の勤務経験を有する実務家教員であり、実際の教育現場に必要とされる、望ましい生徒指導のあり方、および方法、教育効果について解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。 ・生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。 ・学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　生徒指導の意義と課題	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第１章1.1・1.2（pp.12～23）を読む
第２回　生徒指導の方法	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第１章1.3・1.4・1.5（pp.23～38）を読む
第３回　教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第２章（pp.39～67）を読む
第４回　生徒指導と教育相談	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第３章3.3・3.4（pp.80～96）を読む
第５回　学級担任のための生徒指導方法　1 基本的な考え方	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 仙台市生徒指導ハンドブックを読む(P1～20)
第６回　学級担任のための生徒指導方法　2 具体的な指導方法	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 仙台市生徒指導ハンドブックを読む(P21～40)
第７回　生徒指導の指導体制	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第３章を読む
第８回　個別の課題を抱える児童生徒への指導 1 いじめへの対応	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第４章を読む 仙台市いじめ対策ハンドブックを読む
第９回　個別の課題を抱える児童生徒への指導 2 不登校への対応	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第４章を読む 仙台市不登校対策ハンドブックを読む
第10回　個別の課題を抱える児童生徒への指導 3 関係諸機関との連携生徒指導の方法	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 仙台市スクールソーシャルワーカー活用ハンドブ

	ックを読む
第11回　校則・懲戒・体罰などに関する法令の理解	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第３章を読む
第12回　キャリア教育 基本的な考え方	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 冊子「キャリア教育の推進に向けて」を読んでくる
第13回　進路指導 基本的な考え方 ロールプレイを含む	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 学習課題にとりくむ
第14回　多様な背景を持つ児童生徒の理解 発達障害と家庭への支援	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第13章13.1と13.4（pp.268～274とpp.280～289）を読む
第15回　まとめ：これからの生徒指導のあり方を考える（グループ・ディスカッション）	授業を振り返り、これからの生徒指導の課題を考え、グループ・ディスカッションの成果をふまえて、レポートにまとめる

■ 履修上の注意
教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んでください。

■ 成績評価方法・基準
・授業内の課題とレポート（70%）
・授業内の話し合いへの参加態度（30%）
授業内課題については、授業中にフィードバックします。
レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

■ 教科書
〔生徒指導提要〕〔文部科学省〕〔https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm〕
〔生徒指導提要―令和４年１２月―〕〔文部科学省〕〔東洋館出版〕〔990円〕

■ 参考書
〔山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志〕〔新しい時代の生活指導〕〔有斐閣〕〔1，800円〕
文部科学省冊子「キャリア教育の推進に向けて」「キャリア教育の手引き」
仙台市教育委員会「学級担任のための生徒指導ハンドブック」「いじめ対策ハンドブック」「不登校対策ハンドブック」「スクールソーシャルワーカー活用ハンドブック」

■ 備考
１）都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
２）質問等については授業終了時に受け付けます。

教育相談

(19811)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年・服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
熊　谷　　亮

■ 授業の概要
教育相談やスクールカウンセリングにおける心理的諸問題や、発達障害、心理的危機等の事柄をとりあげて、現象の理解と対応の両面から学ぶ(カウンセリングの理解を含む)。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
・教育相談やスクールカウンセリングとは、誰が誰に対して、どういったことを行うのかについて体験的に理解する。 ・教育相談に関する基本的な知識を習得し、説明ができるようにする。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　教育相談の歴史と現状	事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第２回　学級集団の理解	事前：教科書のⅡ・第10章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第３回　学校の中の人間関係	事前：教科書のⅡ・第11章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第４回　学校不適応と心理的危機	事前：教科書のⅡ・第14章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第５回　不登校の理解と対応（１）	事前：教科書のⅡ・第13章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第６回　不登校の理解と対応（２）	事前：教科書のⅡ・第6章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第７回　いじめの理解と対応（１）	事前：教科書のⅡ・第5章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第８回　いじめの理解と対応（２）	事前：教科書のⅡ・第4章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第９回　発達障害と発達支援（１）	事前：教科書のⅡ・第8章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第10回　発達障害と発達支援（２）	事前：教科書のⅠ・第11章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第11回　児童青年期と精神疾患（１）	事前：教科書のⅠ・第12章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第12回　児童青年期と精神疾患（２）	事前：教科書のⅠ・第10章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第13回　教育相談とカウンセリング（１）	事前：教科書のⅠ・第9章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第14回　教育相談とカウンセリング（２）	事前：教科書のⅡ・第12章を読み、指定されたキーワードを調べる 事後：授業後に課される復習テストに取り組む
第15回　まとめ	事前：第1回～第14回までの内容の復習をする。

■ 履修上の注意
毎回の授業の予習・復習内容は以下の通りです。

■ 成績評価方法・基準
1. 毎回の授業終了時に課す小テスト（60%）
2. 最終試験（40%）

■ 教科書
書名：教職課程コアカリキュラム対応版　キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育〔第2版〕
著者名：尾高邦生ほか
出版社：福村出版
発行年：2025年
価格：3，300円（税込）
ISBN：978-4-571-12150-0

■ 参考書
書名：生徒指導提要―令和4年12月―
著者名：文部科学省
出版社：東洋館出版社
発行年：2023年

■ 備考
質問等は授業終了時に受け付ける。

教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む。）

(19812)

単位（総授業時間数＋自習時間）：5（60 + 120）
対象学科：服専４年・美表４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
髙橋　賢　植松公威　齋藤守彦　倉品有佳

■ 授業の概要

中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の取得を目指し、3週間程度の教育実習と学内での事前・事後指導を行う。事前指導では、学校現場における実習に向けて必要な準備や心構えの確認、事前学習における課題を確認する。実習受入校では、実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。実習校においてその他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。事後指導では、実習期間中に観察・体験することのできた学校現場の様子をレポートにまとめるための、体験や実践の振り返りを行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1.実習先の指導教員等の実施する授業について、視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 ・2.学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できる。 ・3.実習校の教育課程並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。 ・4.生徒の実態等を踏まえて、学習指導要領を参酌した学習指導案を作成し、実践することができる。 ・5.学習指導に必要な諸技術を実地に即して身につけ、適切な場面で情報機器を活用することができる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　事前指導①（講義） 教育実習とは何か	（事前）これまでの教職課程での学修を振り返る。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第２回　事前指導②（講義） 教育実習の準備と心構え	（事前）実習校についての情報収集を行う。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第３回　事前指導③（講義） 実習受入校に関する事前研究	（事前）実習前に確認が必要な事項について確認しておく。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第４回　事前指導④（講義） 学校現場におけるICT活用	（事前）実習における自身の実践課題を考える。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第５回　教育実習（15日間程度）実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。その他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。	（事前）翌日の実習で必要な準備に取り組む。 （事後）1日の実習で学んだことを日誌にまとめる。
第６回　事後指導①（講義） 教育実習を終えて	（事前）実習に関する資料を整理する。 （事後）レポート作成に向けて体験したことを整理する。
第７回　事後指導②（講義） 教師を取り巻く課題	（事前）レポートの主題について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第８回　事後指導③（講義） 学校を取り巻く課題	（事前）レポートの構成について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第９回　事後指導④（講義） 教育実習の経験を綴る	（事前）レポートを読み直し、加筆修正を行う。 （事後）教育実習レポートを仕上げる。

■ 履修上の注意

教育実習Ⅰは、中学校教諭一種免許状取得に向けたものである
事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと

■ 成績評価方法・基準

事前・事後指導の受講状況と課題への取組み状況10%
実習校による評価、『教育実習日誌』への記載内容等70%
教育実習レポート20%

評価にあたり、「到達目標」に記載した各項目の達成度を基準とし尺度は授業内で周知する
課題とレポートはフィードバックを行う

■ 教科書
ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること

■ 参考書
なし

■ 備考
教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること
事前指導への取組み状況によっては実習を取りやめることがある
質問等は授業終了時、またはオフィスアワーに受け付ける

教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む。）

(19813)

単位（総授業時間数＋自習時間）：3（60 + 120）
対象学科：服専４年・美表４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
髙橋　賢　植松公威　齋藤守彦　倉品有佳

■ 授業の概要

高等学校教諭一種免許状の取得を目指し、2週間程度の教育実習と学内での事前・事後指導を行う。事前指導では、学校現場における実習に向けて必要な準備や心構えの確認、事前学習における課題を確認する。実習受入校では、実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。実習校においてその他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。事後指導では、実習期間中に観察・体験することのできた学校現場の様子をレポートにまとめるための、体験や実践の振り返りを行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1.実習先の指導教員等の実施する授業について、視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 ・2.学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できる。 ・3.実習校の教育課程並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。 ・4.生徒の実態等を踏まえて、学習指導要領を参酌した学習指導案を作成し、実践することができる。 ・5.学習指導に必要な諸技術を実地に即して身につけ、適切な場面で情報機器を活用することができる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　事前指導①（講義） 教育実習とは何か	（事前）これまでの教職課程での学修を振り返る。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第２回　事前指導②（講義） 教育実習の準備と心構え	（事前）実習校についての情報収集を行う。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第３回　事前指導③（講義） 実習受入校に関する事前研究	（事前）実習前に確認が必要な事項について確認しておく。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第４回　事前指導④（講義） 学校現場におけるICT活用	（事前）実習における自身の実践課題を考える。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第５回　教育実習（10日間程度）実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。その他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。	（事前）翌日の実習で必要な準備に取り組む。 （事後）1日の実習で学んだことを日誌にまとめる。
第６回　事後指導①（講義） 教育実習を終えて	（事前）実習に関する資料を整理する。 （事後）レポート作成に向けて体験したことを整理する。
第７回　事後指導②（講義） 教師を取り巻く課題	（事前）レポートの主題について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第８回　事後指導③（講義） 学校を取り巻く課題	（事前）レポートの構成について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第９回　事後指導④（講義） 教育実習の経験を綴る	（事前）レポートを読み直し、加筆修正を行う。 （事後）教育実習レポートを仕上げる。

■ 履修上の注意

教育実習Ⅱは、高等学校教諭一種免許状取得に向けたものである
中学校教諭一種免許状と両方の取得を目指す場合は、教育実習Ⅰを受講登録すること
事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと

■ 成績評価方法・基準

事前・事後指導の受講状況と課題への取組み状況10%
実習校による評価、『教育実習日誌』への記載内容等70%

教育実習レポート20%
評価にあたり、「到達目標」に記載した各項目の達成度を基準とし尺度は授業内で周知する
課題やレポートはフィードバックを行う

■ 教科書
ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること

■ 参考書
なし

■ 備考
教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること
事前指導への取組み状況によっては実習を取りやめることがある
質問等は授業終了時、またはオフィスアワーに受け付ける

教職実践演習（中・高）

(19814)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年・美表４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
髙　橋　　賢　　植　松　公　威　　齋　藤　守　彦　　倉　品　有　佳

■ 授業の概要

教職課程の総まとめとして、中学・高校の教科教育の教員として求められる基本的な資質・能力を育む。介護等体験、教育実習をはじめ、教職専門科目の学習成果を踏まえ、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者（ゲストスピーカー）による現在の学校教育の諸問題について幅広い指導を受ける。教育実習時の指導案の見直しなど研究授業等を再検討した上で教育実習報告会で発表する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1.教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。	
・2.生徒理解を基盤として適切な生徒指導や学級経営ができる。	
・3.学習指導の基礎的理解・基本的方法を習得する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　履修上の諸注意	既習の教職専門科目や教育実習等を振り返り、教職に関する学習課題を考える
第２回　教職課程履修科目の確認と省察等	既学習した教職専門科目を復習しておく
第３回　教職の意義、教員の使命、教員の職務等について（討議、検討）	「教職概論」の講義内容を復習すること
第４回　教育実習における教科指導の諸問題（ロールプレイングを含む）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第５回　教育実習における生徒指導の諸問題（ロールプレイングを含む）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第６回　教育経験者による講義（主として生徒指導、学級経営について）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第７回　教育経験者による講義（主として教科指導、道徳教育について）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第８回　教員間、保護者、地域の人々との連携・協力のあり方（講義）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第９回　学校をめぐるの昨今の状況（講義）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第10回　教育実習報告会の開催に向けて：目的・目標の検討	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること
第11回　教育実習報告会の開催に向けて：報告内容の検討	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること
第12回　教育実習報告会の開催に向けて：環境整備、必要機材の検討	教科指導、生徒指導に関する教育実習時の諸問題を把握しておくこと
第13回　教育実習報告会の発表資料の作成	関連資料を読んでおくこと
第14回　教育実習報告会の予行	発表資料を作成し発表リハーサルを実施すること
第15回　教育実習報告会（発表）と教員の講評	発表を振り返り、講評で指摘された点を検討すること

■ 履修上の注意

１回目に履修状の注意と授業の進め方について説明する
本科目はオムニバス形式で実施する。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（発言、発表、討議の状況）３０％
課題への取組み３０％
実習報告会の発表４０％
課題については授業で講評を行う
評価にあたり、「到達目標」に記載した各項目の達成度を基準とし尺度は授業内で周知する

■ 教科書

授業前に資料を配布する。

■ 参考書

各種学習指導要領

■ 備考
質問等は授業終了後やオフィスアワーのみ受け付ける

生徒指導の理論と方法Ｂ

(19815)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
須　藤　由　子

■ 授業の概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。

担当教員は共に中学校・高等学校等の勤務経験を有する実務家教員であり、実際の教育現場に必要とされる、望ましい生徒指導のあり方、および方法、教育効果について解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。 ・生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。 ・学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　生徒指導の意義と課題	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第１章1.1・1.2（pp.12～23）を読む
第２回　生徒指導の方法	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第１章1.3・1.4・1.5（pp.23～38）を読む
第３回　教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第２章（pp.39～67）を読む
第４回　生徒指導と教育相談	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第３章3.3・3.4（pp.80～96）を読む
第５回　学級担任のための生徒指導方法　1 基本的な考え方	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 仙台市生徒指導ハンドブックを読む(P1～20)
第６回　学級担任のための生徒指導方法　2 具体的な指導方法	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 仙台市生徒指導ハンドブックを読む(P21～40)
第７回　生徒指導の指導体制	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第３章を読む
第８回　個別の課題を抱える児童生徒への指導 1 いじめへの対応	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第４章を読む 仙台市いじめ対策ハンドブックを読む
第９回　個別の課題を抱える児童生徒への指導 2 不登校への対応	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第10章Ⅱを読む 仙台市不登校ハンドブックを読む
第10回　個別の課題を抱える児童生徒への指導 3 関係諸機関との連携	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 仙台市ソーシャルワーカーハンドブックを読む
第11回　校則・懲戒・体罰などに関する法令の理解	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考

	えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第３章を読む
第12回　食育に関する相談指導	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 食に関する指導の手引（第二次改訂版）第６章（pp.234～251）を読む
第13回　多様な背景を持つ児童生徒の理解Ⅰ 発達障害	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第13章13.1（pp.268～274）を読む
第14回　多様な背景を持つ児童生徒の理解Ⅱ 家庭への支援	生徒指導関係の新聞記事とそれに関する自分の考えを準備してくる。 生徒指導提要（改訂版）第13章13.4（pp.280～289）を読む
第15回　これからの生徒指導のあり方を考える グループ・ディスカッション	授業を振り返り、これからの生徒指導の課題を考え、グループ・ディスカッションの成果をふまえて、レポートにまとめる。

■ 履修上の注意

■ 成績評価方法・基準
・授業内の課題とレポート（70%）
・授業内の話し合いへの参加態度（30%）
授業内課題については、授業中にフィードバックします。
レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

■ 教科書
〔生徒指導提要〕〔文部科学省〕〔https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm〕
〔生徒指導提要―令和４年１２月―〕〔文部科学省〕〔東洋館出版〕〔990円〕

■ 参考書
〔山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志〕〔新しい時代の生活指導〕〔有斐閣〕〔1，980円〕
〔食に関する指導の手引（第二次改訂版）〕〔文部科学省〕〔https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm〕
仙台市教育委員会「学級担任のための生徒指導ハンドブック」「いじめ対策ハンドブック」「不登校対策ハンドブック」「スクールソーシャルワーカー活用ハンドブック」

■ 備考

栄養教育実習事前事後指導

(19816)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15 + 30）
対象学科：健専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
髙　橋　　賢　　鴫　原　美智子　　植　松　公　威

■ 授業の概要

栄養教諭一種免許状の取得を目指し、1週間程度の栄養教育実習に向けた学内での事前・事後指導を行う。事前指導では、学校現場における実習に向けて必要な準備や心構えの確認、事前学習における課題を確認する。事後指導では、実習期間中に観察・体験することのできた学校現場の様子をレポートにまとめるための、体験や実践の振り返りを行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1.栄養教諭の役割と職務内容を実地に即して理解できる。 ・2.生徒の実態等を踏まえて、栄養指導案を作成し、実践することができる。 ・3.栄養指導に必要な諸技術を実地に即して身につけ、適切な場面で情報機器を活用することができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　事前指導①（講義） 栄養教育実習とは何か	（事前）これまでの教職課程での学修を振り返る。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第２回　事前指導②（講義） 栄養教育実習の準備と心構え	（事前）実習校についての情報収集を行う。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第３回　事前指導③（講義） 実習受入校に関する事前研究	（事前）実習前に確認が必要な事項について確認しておく。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第４回　事前指導④（講義） 学校現場におけるICT活用	（事前）実習における自身の実践課題を考える。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第５回　事後指導①（講義） 栄養教育実習を終えて	（事前）実習に関する資料を整理する。 （事後）レポート作成に向けて体験したことを整理する。
第６回　事後指導②（講義） 教師を取り巻く課題	（事前）レポートの主題について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第７回　事後指導③（講義） 学校を取り巻く課題	（事前）レポートの構成について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第８回　事後指導④（講義） 栄養教育実習の経験を綴る	（事前）レポートを読み直し、加筆修正を行う。 （事後）教育実習レポートを仕上げる。

■ 履修上の注意

事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと。

■ 成績評価方法・基準

事前・事後指導の受講状況と課題への取組み状況30%
栄養教育実習レポート70%
課題とレポートの講評は授業内で行う
評価にあたり、「到達目標」に記載した各項目の達成度を基準とし尺度は授業内で周知する。

■ 教科書

ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること。

■ 参考書

なし

■ 備考

栄養教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること。

事前指導への取組み状況によっては実習を取りやめることがある。
質問等は授業終了時またはオフィスアワーに受け付ける。

栄養教育実習

(19817)

単位：１
対象学科：健専４年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
髙　橋　　賢　　鴫　原　美智子　　植　松　公　威

■ 授業の概要

栄養教諭一種免許状の取得を目指し、1週間程度の教育実習を行う。実習受入校では、実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。実習校においてその他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1.実習を通して、学校教育全般に関する理解と教職としての専門性の認識を深める。 ・2.授業参観や実践授業を行うことにより、教材研究や指導技術の具体的方法を理解する。 ・3.各種活動を通して児童・生徒と直接触れ合うことにより、栄養教諭に求められる役割を理解する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　教育実習（5日間程度）実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。その他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。	（事前）翌日の実習で必要な準備に取り組む。 （事後）1日の実習で学んだことを日誌にまとめる。

■ 履修上の注意

栄養教育実習は、栄養教諭一種免許状取得に向けたものである。
事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと。

■ 成績評価方法・基準

実習校による評価、『教育実習日誌』への記載内容等80%
教育実習レポート20%
いずれもフィードバックをおこなう。

■ 教科書

ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること。

■ 参考書

なし

■ 備考

教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること。
事前指導への取組み状況によっては実習を取りやめることがある。
質問等は授業終了時、またはオフィスアワーに受け付ける。

教職実践演習（栄養教諭）

(19818)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
髙　橋　　賢　　鴫　原　美智子　　植　松　公　威

■ 授業の概要

教職課程の総まとめとして、学校給食をはじめとする食育に関する講義と討議から栄養教諭として求められる基本的な資質・能力を育む。栄養教育実習をはじめ、教職専門科目の学習成果を踏まえて、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者（ゲストスピーカー）による現在の学校教育の諸問題について幅広い指導を受ける。栄養教育実習時の指導案や研究授業等を再検討した上で栄養教育実習報告会で発表する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1.教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。 ・2.学校給食をはじめ食育に必要な基本的知識・技術を指導できる。 ・3.学校という教育機関の一員として他の教職員と協力して職務を遂行できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　履修上の諸注意	既習の教職専門科目や教育実習等を振り返り、教職に関する学習課題を考える。
第２回　教職課程履修科目の確認と省察等	既学習の教職専門科目を復習しておく。
第３回　栄養教諭の意義、教員の使命、教員の職務等について（講義）	「教職概論」の授業内容を復習すること。
第４回　食育に関する諸問題（学校給食を中心に）について（講義）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第５回　学校給食の歴史と実情、給食指導について（講義）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第６回　教育経験者による講義（主として生徒指導、学級経営について）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第７回　教育経験者による講義（主として教科指導、道徳教育について）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること。
第８回　教員間、保護者、地域の人々との連携・協力のあり方（講義）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第９回　学校をめぐる昨今の状況（講義）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第10回　栄養教育実習報告会の開催に向けて：目的・目標の開催	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。
第11回　栄養教育実習報告会の開催に向けて：報告内容の検討	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。
第12回　栄養教育実習報告会の開催に向けて：環境整備、必要機材の検討	教科指導、生徒指導に関する教育実習時の諸問題を把握しておくこと。
第13回　栄養教育実習報告会の発表資料の作成	資料を読んでおくこと。
第14回　栄養教育実習報告会の予行	発表資料を作成すること、発表リハーサルを実施すること。
第15回　栄養教育実習報告会（発表）と教員の講評	発表を振り返り、講評で指摘された点を検討すること。

■ 履修上の注意

１回目に履修上の注意と授業の進め方について説明する。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（発言、発表、討議の状況）３０％
課題への取り組み３０％
実習報告会の発表４０％
課題については授業で講評を行う。

■ 教科書
授業前に資料を配布する。

■ 参考書
食に関する指導の手引－第二次改訂版－

■ 備考
質問等は授業終了後やオフィスアワーにのみ受けつける受け付ける。

家庭科教育法Ⅰ

(19819)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 120）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
小野寺　泰　子

■ 授業の概要
家庭科教育の意義、中学校技術・家庭科（家庭分野）及び高等学校家庭科の特質、目標・内容について背景学問と関連させて理解を深め、各学校段階における系統性を踏まえた授業設計と実践に向けた力の育成を目指す。教科内容の学習方法・教材研究方法・教科評価等を学ぶことで、受講生が指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業をとおして授業実践に向けた指導の在り方について理解できるようにする。これらについて、学校現場における教員・管理職等の実務経験や家庭科教員養成の経験を生かし、実践的・体験的な授業を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・家庭科学習指導要領における中学校・高等学校家庭科の学習意義や目標及び内容を理解し、学習指導計画や指導案の作成・評価といった家庭科授業を行うための基礎的・基本的な力を身に付ける。 ・模擬授業の構想・実践をとおして、目標の設定、教材の選定、授業を進めるための指示や発問等の指導技術を身に付ける。 ・自ら考える家庭科授業で取り上げる教材について分析したり作成したりしながら、目的に合う選択ができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（シラバス、評価等についての説明） 家庭科教育の意義	学習指導要領の基本方針を読む
第２回　家庭科教育の歴史的変遷と展望	家庭科教育の変遷について調べる
第３回　家庭科教育における教師	家庭科の教師としての資質についてまとめる
第４回　小・中・高等学校の教育課程 小学校家庭科の目標と内容、学習指導方法	小学校家庭科の教材について調べ、まとめる
第５回　中学校技術・家庭科（家庭分野）の目標と内容、学習指導方法	中学校技術・家庭科（家庭分野）の教材について調べ、まとめる
第６回　高等学校家庭科の目標と内容、学習指導方法	高等学校学校家庭科の内容Ｄについて調べ、まとめる
第７回　家庭科教育の学習指導、他教科等との関連 情報機器の活用、SDGsとの関わり	学習指導要領、教科書の関連部分を読み、まとめる
第８回　中学校技術・家庭科（家庭分野）年間指導計画作成①（作成の意義、手順等）	学習指導要領、教科書の関連部分を読む
第９回　中学校技術・家庭科（家庭分野）年間指導計画作成②	学習指導要領、教科書の関連部分を読む
第10回　中学校技術・家庭科（家庭分野）の教材研究① （教材の製作）	・教材の製作 ・製作に関するレポートの作成
第11回　中学校技術・家庭科（家庭分野）の教材研究② （教材の製作）	・教材の製作 ・製作に関するレポートの作成
第12回　中学校技術・家庭科（家庭分野）学習指導案作成について（形式、留意点等）	これまでの家庭科授業の学びのまとめをする
第13回　中学校技術・家庭科（家庭分野）学習指導案の作成①	第8回・第9回で各自が作成した年間指導計画に則った学習指導案の作成
第14回　中学校技術・家庭科（家庭分野）学習指導案の作成②　（提出）	第8回・第9回で各自が作成した年間指導計画に則った学習指導案の作成
第15回　作成した中学校技術・家庭科（家庭分野）学習指導案の発表	学習指導案の発表、加除修正等
第16回　家庭科教育の評価（目的と対象、手順、具体例）	学習指導要領、教科書の関連部分を読み、評価についてまとめる
第17回　模擬授業①　複数名（導入～まとめ）板書含む ビデオ撮影（模擬授業者の振り返り用として）	模擬授業の準備（発問・指示、板書等の確認、教材の準備）
第18回　模擬授業②　複数名（導入～まとめ）板書含む ビデオ撮影（模擬授業者の振り返り用として）	模擬授業の準備（発問・指示、板書等の確認、教材の準備）
第19回　模擬授業③　複数名（導入～まとめ）板書含む ビデオ撮影（模擬授業者の振り返り用として）	模擬授業の準備（発問・指示、板書等の確認、教材の準備）

第20回	模擬授業④　複数名（導入～まとめ）板書含む ビデオ撮影（模擬授業者の振り返り用として）	模擬授業の準備（発問・指示、板書等の確認、教材の準備）
第21回	模擬授業の振り返り、学習指導案の見直し	模擬授業後の感想、指導案の加除修正等についてまとめる
第22回	高等学校家庭科の教材研究①（内容Ａ） 教材作成上の留意点等	内容Ａの教材調査（アクティブラーニング）
第23回	高等学校家庭科の教材研究②（内容Ｂ） 教材作成上の留意点等	内容Ｂの教材調査（アクティブラーニング）
第24回	高等学校家庭科の教材研究③（内容Ｃ） 教材作成上の留意点等	内容Ｃの教材調査（アクティブラーニング）
第25回	高等学校家庭科教材調査の発表	教材調査の発表プレゼンテーション準備
第26回	高等学校家庭科（家庭基礎）学習指導案の作成①	題材を決め、指導計画・評価計画を立て、本時の指導を構想する
第27回	高等学校家庭科（家庭基礎）学習指導案の作成②	ICT活用、ワークシート、板書を考える
第28回	作成した高等学校家庭科（家庭基礎）学習指導案の発表	学習指導案の発表準備
第29回	家庭科教育の課題と展望	家庭科教育の変遷、今後の課題等についてまとめる
第30回	これまでの学習のまとめと試験	これまでの学びのまとめをする

■ 履修上の注意

・自らが家庭科の授業を行うことを想定し指導力を身に付けるため、小・中・高等学校の家庭科教科書及び指導要領の精読を心がけること。

・自身がなりたい教員の姿を思い描きながら意欲的に受講し、指示された提出物は期限を守ること。

■ 成績評価方法・基準

・授業への真摯な取組を重視する。

・平常点、受講態度（遅刻や無断欠席をしない、授業への積極的参加、ミニットペーパーへの記入等）３０％、レポート提出・試験　３０％、学習指導案提出及び模擬授業　４０％　で評価する。

・課題については、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

・〔新家庭科教育法〕〔池﨑喜美恵・仙波圭子・青木幸子・小林陽子・野上遊夏・室雅子　共著〕〔学文社〕〔２，９７０円〕

・〔中学校 教科書『技術・家庭（家庭分野）』〕〔開隆堂〕〔７２９円〕

・〔高等学校 教科書『家庭基礎』令和８年度版〕（東京書籍）〔６３０円〕

※授業ごとに適宜必要なプリントを配布する。

■ 参考書

・〔小学校学習指導要領解説 家庭編〕〔文部科学省〕〔東洋館出版社〕〔１５６円〕

・〔中学校学習指導要領解説 技術・家庭編〕〔文部科学省〕〔開隆堂〕〔１４３円〕

・〔高等学校学習指導要領解説 家庭編〕〔文部科学省〕〔教育図書〕〔４６２円〕

・〔「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭〕〔文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター〕〔東洋館出版社〕〔１，６５０円〕

・〔「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭〕〔文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 〕〔東洋館出版社〕〔２，２００円〕

■ 備考

・都合により、授業計画の順番を変更することがある。

・毎回の授業時に教科書『新家庭科教育法』とパソコンを持参すること。Google Classroom上で資料　や課題の提示、課題提出受付等を行う。

・質問等については授業終了後に受け付ける。

家庭科教育法Ⅱ

(19820)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（60 + 120）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
石　川　り　か

■ 授業の概要
家庭科教育法Ⅰで学んだ内容をさらに深めながら、学校教育において家庭科を学ぶ意義と学校段階間のつながりを踏まえた中学校「技術・家庭」の家庭分野及び高等学校家庭科の授業実践力の修得を目指す。そのための学習計画・指導法・学習評価・教材研究の進め方・教材教具の作成等演習を重視して、総合的・実践的な学習能力と態度を育成する。また現代を生きる力を養成するための家庭科教育の望ましい指導の在り方について理解を深める。高等学校家庭科教員・管理職等の実務経験を生かして、アクティブラーニング形式で授業を進めていく。□

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・中学（高等学校）家庭科学習指導要領を理解した上で指導案を計画し、それに基づいた模擬授業を実践できる知識・技能を持って、実践し学習評価することができる。 ・中学（高等学校）家庭科学習指導要領を理解した上で教材研究・教材教具を作成し、充実した授業内容にするよう努力できる。 ・家庭科教育の歴史的背景を踏まえながら、今後の教科の方向性についても真摯に学び、取り組むことができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：年間予定□ 教育実習確認　模擬授業実践計画	シラバスの確認　中学・高等学校学習指導要領の示す家庭科教育についてまとめる
第２回　教育実習：教育実習事前指導　①シラバス	中学・高校それぞれの授業の『年間計画』について調べてまとめる
第３回　教育実習：教育実習事前指導　②教材研究・指導案	教育実習で行う学校の（中・高）の教材研究・指導案を調べてまとめる
第４回　教員採用試験にむけて①・指導細案作成方法	前回の教材研究・指導案をさらに深める
第５回　模擬授業実践に向けて（教材研究の要点）	教材研究についての資料を集めて、具体的に教材を作成し、提出
第６回　情報機器の操作と活用法	情報機器についての操作と活用方法について、また生成AI活用など具体的な方法を調べまとめる
第７回　模擬授業Ⅰ：模擬授業実践①（導入の工夫・展開の山場）	模擬授業内容のタイムテーブルを作成
第８回　模擬授業Ⅰ：模擬授業実践②（まとめと板書の工夫）	模擬授業内容のポイントをまとめ、板書や提示すべきことをまとめる
第９回　模擬授業Ⅰ：模擬授業実践③（評価の工夫）	学習評価についてまとめる
第10回　模擬授業Ⅰ：模擬授業実践④（教材教具の工夫と掲示）	模擬授業内容の教材教具について作成し、次回□ □ 発表できるように準備
第11回　教育実習のまとめ：教育実習の反省・評価・まとめ	模擬授業内容についてアンケート用紙を作成
第12回　教育実習研究授業実践発表会・評価（中学校）	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する①
第13回　教育実習研究授業実践発表会・評価（高等学校）	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する②
第14回　模擬授業実践の反省・評価　教員採用試験に向けて②	教員採用試験に向けての準備・集団面接練習
第15回　指導案・授業構成　まとめ　試験	前半のまとめ　　夏季休業中の『課題』説明
第16回　学習指導計画：体験・実習・実験学習指導法	学習指導計画表の作成 課題確認
第17回　実践学習指導(1)：実践学習の進め方（保育・福祉分野）	体験学習授業時の注意・進め方・工夫
第18回　実験・実習学習指導の進め方①：食物分野	食物分野の実習・実験の例をレポートにまとめる
第19回　実験・実習学習指導の進め方②：衣生活分野	衣生活分野の実習・実験の例をレポートにまとめる
第20回　模擬授業の計画：模擬授業指導案作成（食物・衣生活分野）	模擬授業指導案作成（食物・衣生活分野）
第21回　模擬授業Ⅱ：実験学習指導①	授業内容のタイムテーブルを作成・導入
第22回　実験・実習学習指導まとめ（展開の工夫・山場・板書）	学習プリントの作成　実習教材作成・試作・レポ

	ートを作成し提出する
第23回　実践学習指導（2）（食物・食文化）	日本の食文化　『マイ箸』製作　感想レポートを提出
第24回　実践学習指導（3）（被服　基礎）	被服製作
第25回　実践学習指導（4）（被服　応用）	被服製作
第26回　実践・実験学習指導（実習・学習プリント）	中学・高校それぞれに対応する学習プリントの作成、提出
第27回　ホームプロジェクト・家庭クラブ・技術検定	課題研究の指導法と具体的評価法をまとめる
第28回　模擬授業Ⅲ（各種パンフレットの活用）	各種パンフレットを使用した授業実践
第29回　家庭科教育の変遷と歴史	家庭科教育の変遷について確認
第30回　これまでのまとめ　今後の家庭科教育の方向性	模擬授業Ⅱ・Ⅲの感想をレポートにまとめる

■ 履修上の注意

・受講は、自分が授業を行うことを想定し指導する実践的指導を身につけるためにも、教科書（小学・中学・高校）・学習指導要領の精読を心掛ける。

・家庭科の内容は多岐にわたり、日々変化している内容もあります。生きること、生活すること、社会の動きに常に敏感で好奇心を持つ。さらに、日常生活を楽しみながら理論的に考え実践する態度や意欲が重要である。

■ 成績評価方法・基準

講義への取り組み状況40%（出席状況、レポートの提出、態度等）
試験30%　模擬授業の実践30%（学習指導計画案、指導技術、態度等）

■ 教科書

〔新家庭科教育法〕〔池崎喜美恵・仙波圭子・青木幸子・小林陽子・野上遊夏・室雅子　共著〕〔学文社〕〔2，970円〕
〔中学校　教科書　技術・家庭（家庭分野）（令和３年度版）〕〔開隆堂〕〔680円〕
〔高等学校　教科書　家庭総合（令和５年度版）　自立・共生・創造〕〔東京書籍〕〔806円〕
※授業ごとに適宜必要なプリントを配布する。

■ 参考書

家庭科教育法Ⅰで使用したものを継続使用する
〔小学校学習指導要領解説　家庭編〕　〔東洋館〕　〔95円〕
〔中学校学習指導要領解説　技術・家庭編〕　〔文部科学省／編　教育図書〕〔82円〕
〔高等学校学習指導要領解説　家庭編〕〔文部科学省（著）〕〔288円〕
〔高等学校　教科書　家庭基礎（令和４年度版）　〕〔開隆堂〕〔535円〕

■ 備考

・やむを得ない事由により、欠席することが事前にわかっている場合は必ず申告すること。
・授業終了時に質問を受け付ける。
・レポートの提出は次回提出を原則とするが、都合により当日の提出となることもある。
　提出されたレポートは、後日添削して返却する。
・都合により、授業計画の順番を変更することがある。
・実験実習を行う場合、それに伴う諸経費を徴収することもある。

美術科教育法Ⅰ

(19821)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 120）
対象学科：美表３年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
齋　藤　守　彦

■ 授業の概要

中学校美術科・高等学校美術科の教員が身に付けるべき教育理念についての理解を図る。学習指導要領における美術科の目標と内容及び指導計画の作成と内容の取扱いについて理解を図る。授業を展開するための基礎的な指導理論や、表現及び鑑賞の幅広い活動における創造的な技能を育成する指導方法の修得を図る。また、教育課程全体を見渡しながら、その中での美術の意義についての理解を図る。教員としての実務経験を生かし、より具体的な教材研究や模擬授業に関する指導を行い，４年次での教育実習に向けての準備としていきたい。

■ 授業の到達目標

・中学校美術科・高等学校美術科の教員が身に付けるべき教育理念について理解する。
・学習指導要領について理解を深めるとともに、生徒に魅力的な授業を提供するために、授業づくりのためのソースを充実させることができる。
・学習指導要領に基づいた教育課程全体の中で「美術」を俯瞰的に捉えることで、美術科の必要性を明確にし、目標、内容及び指導計画、内容の取扱い等を理解することができる。
・美術科の目標を具現化できるように題材を設定し、特に「発想」の場面等、生徒の悩みを想定した具体的な手立てを取り入れながら学習指導案を作成することができる。また学習指導案について、模擬授業を通して実践検証し、授業改善の視点を明らかにする。
・４年次での教育実習における基本的・実践的な学習指導法の基礎を養い、造形的視点を意識した授業が展開できる力を身に付ける。

学習成果との関連
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

■ 授業計画

		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	オリエンテーション（年間の学修計画について知り、「子どもたちが図工・美術に夢中になるきっかけ」をテーマとして考える。）	（事前）「子どもたちが図工・美術に夢中になるきっかけ」について考えておく。 （事後）講義の感想をまとめる。
第２回	「A表現の指導」について（「よい先生とは」「よい美術の指導とは」等）	（事前）自分が思う「よい先生」について考えておく。 （事後）講義の感想をまとめる。
第３回	「B鑑賞の指導」について（「様々な鑑賞の指導」「共通事項について」等）	（事前）これまでに自分が習った鑑賞の授業について思い出しておく。 （事後）講義の感想をまとめる。
第４回	美術の頭で考える教育課程論①（教育課程をイメージする等）	（事前）教育課程とは何かについて調べておく。 （事後）教育課程の中で美術を生かせる機会・場面を考えてみる。
第５回	美術の頭で考える教育課程論②（教科等横断的な学習の実践等）	（事前）教科等横断的な学習とは何かについて調べておく。 （事後）美術の授業での教科等横断的な学習の例を考えてみる。
第６回	「想像クロッキー」をやってみよう（「イメージを育む意義」・「答えのないこと（一人ひとりに答えがあること）を考える意義」について）	（事前）「想像してみる」という行為がもたらす効果について考えておく。 （事後）「想像クロッキー」の問題をつくってみる。
第７回	発想を生み出す実験①（トリミング、視点の変化、物語や言葉等から）	（事後）学修したことを自分でも意識して行ってみる。課題を完成させて提出する。
第８回	発想を生み出す実験②（直接形を捉える、反転させる等の行為から）	（事後）学修したことを自分でも意識して行ってみる。課題を完成させて提出する。
第９回	発想を生み出す実験③（風景、図形、幾何学、音楽等から）	（事後）学修したことを自分でも意識して行ってみる。課題を完成させて提出する。
第10回	発想を生み出す実験④（美術作品、レオナルド・ダ・ビンチ、教	（事後）学修したことを自分でも意識して行って

	科書等から）	みる。課題を完成させて提出する。
第11回	中学校学習指導要領 美術について①（中学校学習指導要領解説総則の概要と同美術編の構成、美術科の目標・内容等）	（事後）講義で聴いたことを復習してみる。
第12回	中学校学習指導要領 美術について②（造形的な視点、造形的な見方・考え方、共通事項、内容の取扱い、言語活動、評価等）	（事後）講義で聴いたことを復習してみる。
第13回	学習指導案の分析①（パターンを一般化しよう…アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	（事後）授業中に指示したところまで、パターンの一般化を行う。
第14回	学習指導案の分析②（パターンを一般化しよう…アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	（事前）残りの部分のパターンの一般化について考えてみる。 （事後）指導案の最後までパターンの一般化を行う。
第15回	現行の教科書の内容の確認（紙面の構成・題材の配列・使い方や美術用語等の確認）	（事前）教科書がどのような構成になっているか目を通しておく。 （事後）教科書の中で、自分が授業を行ってみたい表現題材と鑑賞題材を１つずつ決めておく。
第16回	教科書を見ながら「表現」の授業を考えよう①（オープンな教育リソースとして教科書会社のホームページを活用し、指導案を一般化したパターンに言葉を乗せていく。）	（事前）自分がパターンを一般化した資料を確認しておき、当日持参する。 （事後）授業で行ったワークシートの続きを完成させる。
第17回	教科書を見ながら「鑑賞」の授業を考えよう②（オープンな教育リソースとして教科書会社のホームページを活用し、一般化したパターンに乗せていく。）	（事前）自分がパターンを一般化した資料を確認しておき、当日持参する。 （事後）授業で行ったワークシートの続きを完成させる。また、正式な学習指導案にするのはどちらの題材なのかを決めておく。
第18回	「夢中にさせる授業をつくる」学習指導案を書こう① 視点…「題材のねらい⇒指導内容（指導計画）⇒評価」の串刺し	（事前）パターンを一般化した資料に書いた内容や文言を確認しておく。 （事後）学習指導案を書き進めておく。また効果的なワークシートの案も考えておく。
第19回	「夢中にさせる授業をつくる」学習指導案を書こう② 視点…「本時のねらい⇒学習過程の工夫・効果的な手立て・配慮事項⇒生徒の学習意欲向上⇒主体的な学び」の串刺し	（事前）学習指導案を書き進めておく。また効果的なワークシートの案も考えておく。 （事後）更に生徒を夢中にさせる授業ができないかを洗い直す。
第20回	「夢中にさせる授業をつくる」学習指導案を書こう③ 視点…「更に生徒を夢中にさせる手立て」	（事前）学習指導案を書き進めておく。また効果的なワークシートの案も考えておく。 （事後）リハーサルの準備。
第21回	「夢中にさせる授業をつくる」模擬授業の各自のリハーサル 視点…「まずは仲間を夢中にできるか」	（事前）自分が選んだ題材のワークシートを確認しておく。 （事後）授業リメイク後、できた指導案とワークシートを配布する人数分印刷しておく。
第22回	「夢中にさせる授業をつくる」模擬授業① （グループ内で、互いの授業を見合う。アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行い、課題を発見する。）	（事前）指導案に沿って、模擬授業の流れを考え、リハーサルしておく。指導案の配布と準備物の用意。 （事後）発見された課題に対してどのように改善するかをまとめる。他の人の指導案を読んでおく。
第23回	「夢中にさせる授業をつくる」模擬授業② （グループ内で、互いの授業を見合う。アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行い、課題を発見する。）	（事前）指導案に沿って、模擬授業の流れを考え、リハーサルしておく。指導案の配布と準備物の用意。 （事後）発見された課題に対してどのように改善するかをまとめる。他の人の指導案を読んでおく。
第24回	「夢中にさせる授業をつくる」模擬授業③ （グループ内で、互いの授業を見合う。アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行い、課題を発見する。）	（事前）指導案に沿って、模擬授業の流れを考え、リハーサルしておく。指導案の配布と準備物の用意。 （事後）発見された課題に対してどのように改善するかをまとめる。他の人の指導案を読んでおく。
第25回	「夢中にさせる授業をつくる」課題を意識した学習指導案の修正 （指導案の完成）	（事前）課題の改善。 （事後）指導案の提出。

第26回　美術科の教員になるために①	（事前）美術科の教員になるために必要だと思うことをまとめておく。 （事後）資料を確認しながら今後の見通しを立てる。
第27回　美術科の教員になるために②	（事前）美術科の教員になるために必要だと思うことをまとめておく。 （事後）資料を確認しながら今後の見通しを立てる。
第28回　高等学校の学習指導要領について（芸術科「美術」の目標や内容等）	（事前）高等学校の学習指導要領　芸術科「美術」について目を通しておく。 （事後）高等学校 芸術科（美術）の授業について題材を考える。
第29回　高等学校 芸術科（美術）の指導案と実際の授業について	（事前）考案した授業の指導案を指導案パターンを一般化したシートに書き込んでみる。 （事後）高等学校 芸術科（美術）の授業の指導案を考えてみる。
第30回　１年間の授業のまとめと教育実習に向けて	（事後）教育実習に向けて思いを膨らませ、準備を進める。

■ 履修上の注意

・講義時に適宜配布する資料を順次ファイリングしていき，受講の際は必ず持参すること。
・自主的，意欲的に受講し，講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め，提出物は期限厳守で提出すること。
・本科目は中一種免（美術）、高一種免（美術）取得のための必修科目である。

■ 成績評価方法・基準

・ミニットペーパーの内容・提出物（作品・学習指導案等）（25%）、模擬授業（25%）、受講態度（25%）、試験（25%）
・試験は３１週目に実施します。
・課題等については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説 美術編〕〔平成29年告示 文部科学省〕〔126円〕 〔高等学校学習指導要領解説 芸術編〕〔平成30年告示 文部科学省〕〔544円〕 その他、授業毎に適宜，資料を配布します。

■ 参考書

〔中学校美術科教科書　中学校美術1、中学校美術2･3上、中学校美術2･3下〕〔日本文教出版〕〔３冊で1，107円〕，〔中学校美術資料「宮城の美」〔秀学社編〕〔820円〕

■ 備考

質問等については，授業終了時に受け付けます。

美術科教育法Ⅱ

(19822)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 120）
対象学科：美表４年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
齋　藤　守　彦

■ 授業の概要

美術科教育法Ⅰの学修を踏まえ、美術科教員としての実践力を高めることをねらいとする。指導案の作成においてはより具体的かつ実践的に、教材の分析や指導法の工夫を行い、現場に即した内容となるよう指導していく。模擬授業の展開にあたっては、グループの中で互いに授業を見合い、意見を交換し合うなどして、授業の内容をより深めていけるように指導する。教員としての実務経験を生かし、美術指導における「指導と評価」のあり方や美術教育の意義やねらいについて、自己の考えをしっかりと持つことができるように指導していきたい。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
・美術科における指導力の向上に向け、学習指導要領解説総則及び美術編の概要の理解を通して、学習指導要領の全体構造を把握することができる。 ・中学校３年間で身に付けさせたい美術の資質・能力を理解し、生徒の発達課題を考慮しながら、学習指導案や年間指導計画を作成することができる。 ・美術科の教科性に即した題材を通して、生徒に魅力的な授業を提供するために、授業づくりに必要なソースを充実させることができる。 ・実際の授業の中で見られる生徒の悩みを解消する手立てを体験を通して理解することで、学習指導案の作成や模擬授業・教育実習等の教育実践を充実させることができる。 ・美術科における学習の評価の在り方について理解し、特に難しい「思考力・判断力・表現力等」の評価でのICTの活用等、具体的な評価の方法を習得するとともに、指導と評価の一体化の意識を常に持つことができる。 ・実際の教育課程全体を俯瞰的に見ることで明確になる美術の役割や美術教育の意義や目標を理解することで、学校現場における実践感覚を高め、指導力の向上に努めることができる。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション（年間の学修計画について知り、「子どもたちが図工・美術に夢中になるきっかけ」をテーマとして考える。）	（事前）「子どもたちが図工・美術に夢中になるきっかけ」について考えておく。 （事後）講義の感想をまとめる。
第２回　教育実習に向けて①　教育実習の確認をする（各々の教育実習校や実習期間等の情報を確認する。また、実習校に打合せで来校する際の留意点を確認する。）	（事前）自分の教育実習の情報を持って参加する。 （事後）来校のイメージを持つ。
第３回　教育実習に向けて②　教育実習の構想を練る（実習校の概要、美術科の年間指導計画を知り、研究授業の内容について考える。）	（事前）実習校のHPなどから、学校の概要について調べておく。
第４回　教育実習に向けて③（既存の学習指導案の分析と、パターンの一般化）	（事後）学習指導案のパターンの一般化を示した資料を活用し、今後の指導案作成に役立てる。実習校でのオリエンテーションでわかったことを整理しておく。
第５回　教育実習に向けて④　指導案作成（指示された研究授業に関する指導案を作成する。）	（事前）授業で使う資料や参考作品などの教材研究を進める。
第６回　教育実習に向けて⑤　ロールプレイング（学校現場の状況と教育実習の概要、節度ある実習生の姿について例を挙げて伝え、いくつかの場面を設定して役割演技を行う。）	（事前）着任のあいさつを考えてくる。 美術の授業の導入を考えてくる。 （事後）ロールプレイングの振り返りをする。
第７回　実習報告①　受講生全員からの報告 （実習全般の様子と美術の研究授業の内容の報告。アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	（事前）報告に備えての準備を行う。 他の受講者の指導案を熟読しておく。
第８回　実習報告②　受講生全員からの報告 （実習全般の様子と美術の研究授業の内容の報告。アクティブラ	（事前）報告に備えての準備を行う。 他の受講者の指導案を熟読しておく。

	ーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	
第９回	実習報告③　受講生全員からの報告 （実習全般の様子と美術の研究授業の内容の報告。アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	（事前）報告に備えての準備を行う。 他の受講者の指導案を熟読しておく。
第10回	美術科の教員になるために①	（事前）美術科の教員になるために必要だと思うことをまとめておく。 （事後）資料を確認しながら今後の見通しを立てる。
第11回	美術科の教員になるために②	（事前）美術科の教員になるために必要だと思うことをまとめておく。 （事後）資料を確認しながら今後の見通しを立てる。
第12回	「A表現の指導」について（「よい先生とは」「よい美術の指導とは」等）	（事前）自分が思う「よい先生」について考えておく。 （事後）講義の感想をまとめる。
第13回	「B鑑賞の指導」について（「様々な鑑賞の指導」「共通事項について」等）	（事前）これまでに自分が習った鑑賞の授業について思い出しておく。 （事後）講義の感想をまとめる。
第14回	美術の頭で考える教育課程論①（教育課程をイメージする等）	（事前）教育課程とは何かについて調べておく。 （事後）教育課程の中で美術を生かせる機会・場面を考えてみる。
第15回	美術の頭で考える教育課程論②（教科等横断的な学習の実践等）	（事前）教科等横断的な学習とは何かについて調べておく。 （事後）美術の授業での教科等横断的な学習の例を考えてみる。
第16回	「想像クロッキーをやってみよう」（「イメージを育む意義」・「答えのないこと（一人ひとりに答えがあること）を考える意義」について）	（事前）「想像してみる」という行為がもたらす効果について考えておく。 （事後）「想像クロッキー」の問題をつくってみる。
第17回	発想を生み出す実験①（トリミング、視点の変化、物語や言葉等から）	（事後）学修したことを自分でも意識して行ってみる。課題を行って提出する。
第18回	発想を生み出す実験②（直接形を捉える、反転させる等の行為から）	（事後）学修したことを自分でも意識して行ってみる。課題を行って提出する。
第19回	発想を生み出す実験③（風景、図形、フラクタル幾何学、音楽等から）	（事後）学修したことを自分でも意識して行ってみる。課題を行って提出する。
第20回	発想を生み出す実験④（美術作品、レオナルド・ダ・ビンチ、教科書等から）	（事後）学修したことを自分でも意識して行ってみる。課題を行って提出する。
第21回	授業を行う上で意識したいこと （ねらいでの串刺しの論理、イメージ、共通事項、夢中にさせる手立て、認め方、支援の仕方、注意の仕方、発想に困る生徒への指導、ICTの指導の場面や評価の場面での使用、道徳との関連、SDGsなど現代的課題等）	（事後）これまでつくってきた学習指導案の中で本時の内容を生かせる場面がないか考える。
第22回	「授業中のある場面で…どう指導する？」（ロールプレイ）	（事前）自分が中学生の時に、作品を制作する中で困った場面を思い出しておく。 （事後）本時に行ったロールプレイングを振り返り、指導の場面で生かせるようにまとめる。
第23回	「夢中にさせる授業をつくる」学習指導案を書こう① 視点…「題材のねらい⇒指導内容（指導計画）⇒評価」の串刺	（事前）パターンを一般化した資料に書いた内容や文言を確認しておく。 （事後）学習指導案を書き進めておく。また効果的なワークシートの案も考えておく。
第24回	「夢中にさせる授業をつくる」学習指導案を書こう② 視点…「本時のねらい⇒学習過程の工夫・効果的な手立て・配慮事項⇒生徒の学習意欲向上⇒主体的な学び」の串刺	（事前）学習指導案を書き進めておく。また効果的なワークシートの案も考えておく。 （事後）更に生徒を夢中にさせる授業ができないかを洗い直す。
第25回	「夢中にさせる授業をつくる」学習指導案を書こう③ 視点…「更に生徒を夢中にさせる手立て」「制作に困ったときに自ら試行錯誤したくなるようにさせる手立て」	（事前）学習指導案を書き進めておく。また効果的なワークシートの案も考えておく。 （事後）リハーサルの準備。
第26回	「夢中にさせる授業をつくる」模擬授業の各自のリハーサル 視点…「まずは仲間を夢中にできるか」（各グループ内で発表。	（事前）自分が選んだ題材のワークシートを確認しておく。

	内容のよかった人を次回の代表者とする。）	（事後）授業リメイク後、できた指導案とワークシートを配布する人数分印刷しておく。
第27回	「夢中にさせる授業をつくる」模擬授業・授業検討会 （代表者の授業を全員で受ける。司会や記録等の役割も決め学生で運営する）	（事前）課題の改善。 （事後）指導案の提出。
第28回	年間指導計画の作成について①（学習指導要領から、教科書から）	（事前）学習指導要領における年間指導計画作成に関する記述と教科書会社の資料における年間指導計画に関する記述に目を通しておく。
第29回	年間指導計画の作成について②（学習指導要領、教科書会社の資料を参考に中学校美術科の全学年の年間指導計画を作成する。）	（事前）自校独自のものとなる要素（地域性や行事との関連。教科等横断的な学習等との関連）について考えておく。
第30回	１年間の振り返りと美術科教員としての心構えについて	（事後）ファイリングした資料を再度確認しながら１年の学修を振り返る。

■ 履修上の注意

・講義時に適宜配布する資料を順次ファイリングしていき，受講の際は必ず持参すること。
・自主的，意欲的に受講し，講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め，提出物は期限厳守で提出すること。
・本科目は中一種免（美術）、高一種免（美術）取得のための必修科目である。

■ 成績評価方法・基準

・ミニットペーパーの内容・提出物（学習指導案等）（25%）、模擬授業（25%）、受講態度（25%）、試験（25%）
・試験は３１週目に実施します。
・課題等については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説 美術編〕〔平成29年告示 文部科学省〕〔126円〕 〔高等学校学習指導要領解説 芸術編〕〔平成30年告示 文部科学省〕〔544円〕その他、授業毎に適宜，資料を配布します。
＊上記2点は３年次に購入のものを継続使用。

■ 参考書

〔中学校美術科教科書　中学校美術1、中学校美術2･3上、中学校美術2･3下〕〔日本文教出版〕〔３冊で1，107円〕，〔中学校美術資料「宮城の美」〔秀学社編〕〔820円〕

■ 備考

質問については，授業終了時に受け付けます。

工芸科教育法

(19823)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 120）
対象学科：美表３年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
木　村　健　一

■ 授業の概要
高等学校の工芸科教員として必要な教育理論、学習指導要領を理解し、具体的な教材研究、授業デザイン、学習環境デザインに取り組める実践的指導力を育成する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・実務経験を生かした学習指導要領に準拠する実践的な学習指導案を作成でき、授業実践をできる能力を身につける。 ・「工芸」の社会における位置づけと、その目的と役割、特長について理解できる。 ・工芸科教員として必要な教育理論と教育史を理解し、身につける。 ・工芸科におけるデザイン思考を理解し、授業実践の中で活用できる能力を身につける。 ・工芸科における教材開発能力を身につける。 ・工芸科におけるアクティブラーニングやリューブリック、ポートフォリオ等の理論と実施方法を理解し、実践できる能力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション／工芸科の学習過程ポートフォリオの作成プロセスを通じた省察	授業内容の復習、ポートフォリオの作成とプレゼン準備
第２回　学習過程ポートフォリオを用いた省察活動①　＃レトロスペクティブレポートによる 鑑賞行動の観察	授業内容の復習、ポートフォリオの作成とプレゼン準備
第３回　学習過程ポートフォリオを用いた省察活動②　＃プロトコル分析　＃UIデザイン　＃UXデザイン	授業内容の復習、ポートフォリオの作成とプレゼン準備
第４回　学習過程ポートフォリオを用いた省察活動③　＃写真日記法を援用した構成的体験記述	ポートフォリオのプレゼンをピアレビューした結果をまとめる
第５回　「工芸」ジャンルの形成①｜＃産業革命　＃マスプロダクション　＃設計と施工の分離	予習：＃キーワードの調査、復習： 演習課題をポートフォリオ化する
第６回　「工芸」ジャンルの形成②｜＃万国博覧会と工芸　＃「伝統工芸」の成立　＃重要無形文化財　＃伝統的工芸品	予習：＃キーワードの調査、復習： 演習課題をポートフォリオ化する
第７回　工芸科の表現（ものづくり）を触発するインタラクション①　＃スケッチ　＃ブレーンストーミング　＃プロトタイピング	予習：＃キーワードの調査、復習： 演習課題をポートフォリオ化する
第８回　工芸科の表現（ものづくり）を触発するインタラクション②　＃工芸のかたち／大きさと機能　＃身体尺度　＃ヒューマンスケール　＃用の美 ＃ 工芸に用いる道具	予習：＃キーワードの調査、復習： 演習課題をポートフォリオ化する
第９回　工芸科の表現（ものづくり）を触発するインタラクション③　身近な生活道具を観察する　＃フィールドワーク　＃考現学	予習：＃キーワードの調査、復習： 演習課題をポートフォリオ化する
第10回　工芸科の表現（ものづくり）を触発するインタラクション④　＃コンセプト　＃ワークフロー　＃ムードボード　＃クロニクル	予習：＃キーワードの調査、復習： 演習課題をポートフォリオ化する
第11回　工芸におけるデザイン思考①　＃ゲシュタルト心理学　＃インフォメーショングラフィックス　＃ガントチャート　＃クリティカルパス	予習：＃キーワードの調査、復習： 演習課題をポートフォリオ化する
第12回　工芸におけるデザイン思考②　＃編集工学　＃グリットシステム　＃タイポグラフィ　＃図像学	予習：＃キーワードの調査、復習： 演習課題をポートフォリオ化する
第13回　工芸におけるデザイン思考③　＃ ワークショップのデザイン　＃ 学習環境・展覧会のデザイン　＃レファレンスの検索	予習：＃キーワードの調査、復習： 演習課題をポートフォリオ化する
第14回　14週間分の学習過程をポートフォリオにまとめ、ピアレビューを通して省察する	予習として14週分の学習過程をポートフォリオにまとめる
第15回　工芸科の学習指導計画①　学習指導要領における工芸I・工芸II・工芸Ⅲの位置づけ・概要　＃単元指導案作成の基礎と指導技術　＃目標、活動、評価の整合性　＃効果的な発問と導入と展開	＃キーワードによる予習、宿題：単元指導案草稿の作成
第16回　工芸科の学習指導計画②　学習指導要領解説（工芸）における単	宿題：単元指導案草稿のピアレビューを受けて推

	元指導案の作成①	敲する
第17回	工芸科の学習指導計画③　学習指導要領解説（工芸）における単元指導案の作成②／模擬授業の実践（情報機器等の効果的活用方法を含む）と省察	予習：年間指導案草稿を作成する
第18回	工芸科の学習指導計画④　学習指導要領解説（工芸）における年間指導案の作成	年間指導案のピアレビューの内容をもとにポートフォリオ化する
第19回	工芸教育の歴史と社会的役割①　＃自由主義教育における工芸教育　＃徒弟制度と教育制度　＃工芸における周辺的参加論	予習：＃キーワードによる調査、復習：講義内容のポートフォリオ化
第20回	工芸教育の歴史と社会的役割②　＃バウハウスの工芸教育　＃民藝　＃アート＆クラフト運動	予習：＃キーワードによる調査、復習：講義内容のポートフォリオ化
第21回	工芸教育の歴史と社会的役割③　＃生活と工芸　＃居　＃食　＃住　＃工芸の総合芸術としての茶華道	予習：＃キーワードによる調査、復習：講義内容のポートフォリオ化
第22回	工芸教育の歴史と社会的役割④　＃工業デザインと工芸デザイン	予習：＃キーワードによる調査、復習：講義内容のポートフォリオ化
第23回	工芸の技法①　＃道具と手仕事　＃刃物と教育　＃大工道具　＃方法と技	予習：＃キーワードによる調査、復習：講義内容のポートフォリオ化
第24回	工芸の技法②　＃工芸科授業の題材開発　＃木工　＃陶芸　＃金工　＃テキスタイル　＃ガラス　＃編組素材	予習：＃キーワードによる調査、復習：講義内容のポートフォリオ化
第25回	工芸の技法③　各分野（陶芸、木工、金工など）の　＃安全指導マニュアル作成と危機管理　＃ 安全チェックリストの作成。	復習：演習で作成した安全指導マニュアルとチェックリストを推敲する
第26回	工芸科「鑑賞」の指導方法①　＃工芸デザイン史　＃学習指導要領 工芸Ⅰ、工芸Ⅱ、工芸Ⅲ／工芸Ⅱにおける「近代デザインの変遷」	予習：＃キーワードによる調査、復習：講義内容のポートフォリオ化
第27回	工芸科「鑑賞」の指導方法②　＃行動としての鑑賞　＃鑑賞行動の日常性　＃対話型鑑賞　＃手芸　＃伝統工芸	予習：＃キーワードによる調査、復習：講義内容のポートフォリオ化
第28回	工芸科「鑑賞」の指導方法③　＃高等学校芸術（工芸）の「指導と評価の一体化」のための学習評価	予習：＃キーワードによる調査、復習：講義内容のポートフォリオ化
第29回	工芸科の学習指導計画⑤　＃学校施設整備指針　＃普通科高等学校の工芸教室　＃教材整備指針　#キット教材	予習：＃キーワードによる調査、復習：講義内容のポートフォリオ化
第30回	30週間の学習過程の省察。工芸科教員としての抱負と専門性に関する展望をまとめポートフォリオに追加して提出	全週分のポートフォリオを推敲し、まとめて提出する

■ 履修上の注意
授業は毎回演習を伴うため、スマートフォンやクロッキーブック等の筆記具が必携。
ポートフォリオ作成にあたっては、デジタル化を推奨する。
遅刻・欠席の扱いについては、初回授業時に確認する。

■ 成績評価方法・基準
ポートフォリオの評価：50%
年間指導計画、単元指導案の作成：30%
授業への参加度（発言、ディスカッション、ピアレビュー）：20%
・提出されたポートフォリオや課題はピアレビューを行うとともに、授業中にフィードバックします。

■ 教科書
高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽　美術　工芸　書道）編　音楽編　美術編 https://www.mext.go.jp/content/1407073_08_2.pdf

■ 参考書
〔工芸I〕〔工芸II〕〔日本文京出版株式会社〕

■ 備考
授業終了後に質問を受け付ける

博 物 館 に 関 す る 科 目

生涯学習概論

(19901)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年・美表１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
博物館に関する科目
又　木　　潤

■ 授業の概要
社会教育の歴史を辿りながら、生涯学習の全体像を明らかにする。また、「生涯教育論」やリカレント教育の思潮、生涯学習の多様な内容や方法、学習プランニング、プログラムの様々なあり方を解説することにより、生涯学習の基礎的理論を示す。その上で、生涯学習を推進する多様な主体の役割を示すとともに、社会教育施設の社会的位置付けを明らかにする。学習成果の活用支援・学習情報の提供・生涯各期の教育課題を通して、生涯学習の現代的な課題と今後の展望を示す。（社会教育施設実務者が担当）

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1. 生涯学習に関する歴史・方法・計画・課題等の基礎的知識を習得する。 ・2. 「生涯学習社会」における社会教育施設の役割を検討する思考を身につける。 ・3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。 ・4. 社会で活動するために必要なコミュニケーション能力を身に付ける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：講義の進め方・生涯学習のあり方	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認しておく
第２回　生涯学習と社会教育の歴史①（近代から現代）	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認しておく
第３回　生涯学習と社会教育の歴史②（現代）	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認し、プレゼンを作成しておく
第４回　「生涯教育論」	生涯教育論の概要を調べる。社会教育施設を確認し、プレゼンを作成しておく
第５回　リカレント教育 調べ学習による施設のプレゼン	リカレント教育の概要を調べる
第６回　生涯学習と学校教育 調べ学習による施設のプレゼン	生涯学習と学校教育の相違を調べる
第７回　生涯学習の方法と内容 調べ学習による施設のプレゼン	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第８回　生涯学習と社会教育の計画 調べ学習による施設のプレゼン	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第９回　学習プログラムの編成	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第10回　生涯学習関連行政の仕組み	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第11回　生涯学習と社会教育施設	博物館等の役割と機能を調べる
第12回　生涯各期の教育課題	少子高齢化社会の課題を調べる
第13回　学習成果の活用支援	学習成果の活用の意義を調べる
第14回　学習情報提供と学習相談	学習情報の事例を調べる
第15回　講義のまとめ　「生涯学習社会」の課題 試験 ※授業の中でのグループ・ディスカッションに意欲的に参加し、課題の発見・解決に努める。	これまでの学修内容を復習する

■ 履修上の注意
意欲的な学修姿勢を重視する。生涯学習に関する情報に日常的に留意すること。

■ 成績評価方法・基準
ディスカッションへの参加態度を含む受講態度、授業ごとの振り返りシート（30%）、調べ学習による施設のプレゼン（20

%）、試験（50%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書
なし

■ 参考書
必要に応じて講義中に資料を配布する

■ 備考
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館概論

(19902)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年・美表１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
博物館に関する科目
佐　藤　雅　也

■ 授業の概要

博物館の定義、設置目的、機能と役割などについて考える。また近代日本の博物館の歴史と現代日本の博物館の特徴と課題について概要を示す。さらに歴史民俗系博物館などを中心に事業内容として、（１）資料の収集・整理・保管、（２）展示、（３）調査研究、（４）教育普及、（５）施設管理などについてその理解を深める。これらの応用として「仙台の祭礼」や「戦前の仙台・宮城」などの映像記録を参考に、博物館事業の企画を構想するプラクティス（練習）を3回ほど実施する。（歴史系博物館学芸員が担当）

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1. 日本の博物館の歴史、目的、定義、機能と役割などに関する基礎的知識を習得する。 ・2. 博物館における各種の事業内容について理解する。 ・3. 博物館事業にかかわる企画立案方法について学ぶ。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに（授業の進め方、授業概要、到達目標、授業計画、評価方法）	事業概要を理解する
第２回　１　博物館とは （１）博物館法と博物館 （２）独立行政法人国立博物館法等と博物館 （３）国立大学法人法と博物館 （４）地方公共団体の条例と博物館	博物館について調べる
第３回　２　近代日本の博物館 （１）古器物保存と博物館、博覧会、殖産興業 （２）帝室博物館の設置 （３）教育博物館・東京科学博物館の設置 （４）その他の博物館	博物館の歴史を調べる
第４回　３　現代日本の博物館 （１）戦後の社会教育法、文化財保護法、博物館法と博物館 （２）種類別博物館、博物館の区分と現状 （３）日本博物館協会と博物館 （４）宮城県博物館等連絡協議会、ＳＭＭＡ、歴ネット等と博物館	現代の博物館を調べる
第５回　４　地域の歴史系博物館・資料館 （１）博物館・資料館の概要、条例、条例施行細則	地域の博物館・資料館を調べる
第６回　（２）博物館・資料館の事業 ①資料の収集・整理・保管、②展示、③調査研究、④普及啓発（教育普及）	博物館・資料館の機能を調べる
第７回　⑤施設管理、⑥入館者状況等、⑦自主事業、⑧寄贈・寄託・購入資料、⑨刊行物一覧（調査報告書、図録、目録、資料集、年報、ミュージアムグッズ、映像記録等のビデオテープなど）	博物館・資料館の機能を調べる
第８回　（３）博物館・資料館の常設展示 ①立地と建物（仙台市榴岡公園と宮城県有形文化財） ②仙台地方の農具と農家のくらし	常設展示を調べる
第９回　③季節展示 ④仙台の町場のくらし（旧城下町） ⑤戦争と庶民のくらし（旧歩兵第四連隊コーナー）	常設展示を調べる
第10回　（４）民俗学とフィールドワークの方法論	調査研究を考える
第11回　５　博物館事業を企画してみよう （１）ＤＶＤ『仙台の祭礼』を見て博物館事業を企画 ①『仙台の祭礼』（2003年制作、30分）上映 ②仙台の祭礼に関する博物館事業を企画、プラクティス（練習）	祭礼に関する映像を見て博物館事業を考える

	1回目	
第12回	（２）ＤＶＤ『戦前の仙台・宮城』を見て博物館事業を企画 ①『戦前の仙台・宮城』（20世紀アーカイブ仙台、35分）上映 ②戦前の映像を見て博物館事業を企画、プラクティス2回目	戦前の映像を見て博物館事業を考える
第13回	（３）旧陸軍第二師団凱旋映像を見て博物館事業を企画 ①『多門師団輝く凱旋実況』（20世紀アーカイブ仙台、1933年1月、21分）上映 ②仙台・宮城の戦時関連映像を見て博物館事業を企画、プラクティス3回目	戦時関連の映像を見て博物館事業を考える
第14回	６　補足とまとめ、レポート提出日	授業内容を振り返り、要点をまとめる
第15回	補論「博物館と戦争展示・平和展示」、「博物館とオールドグラフィック」、「博物館と写真・映像展示」、「博物館と職人、工芸展示」など レポート提出予備日	さまざまな博物館の意義と可能性について展望する

■ 履修上の注意
予習、復習に努め、積極的に授業に取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準
授業内容をどの程度理解しているか確認するために、感想や意見を記入するプラクティス（練習）を3回ほど行い（1回10点の合計30点）、授業の中でフィードバックする。レポート課題「授業の内容を参照して博物館の機能と役割について論述してください」の提出が70点で合計100点で採点、評価する。レポートは1～2枚程度で第14回～第15回までに提出すること。

■ 教科書
なし

■ 参考書
授業内にプリント配布する。

■ 備考
授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時間中に随時受け付ける。

博物館経営論

(19903)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
博物館に関する科目
笠　原　信　男

■ 授業の概要
博物館は学校の生徒・学生だけでなく、一般の成人をも対象にした教育活動を行う、社会教育施設である。講義では社会教育施設としてのあるべき姿を見定めながら、設立の使命や目的をどのように実現し、博物館を運営するか、について教員の博物館勤務経験に基づいて解説する。具体的には、博物館の設置者・学芸員・利用者などの視点から、博物館経営についての考え方・知識・動向を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。また、博物館を訪れて、経営論の観点から実地の学習も行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・１．博物館経営についての基本的な考え方・知識を学ぶことができる。 ・２．博物館を多角的に観覧・考察する姿勢を身に付けることができる。 ・３．社会教育施設としての博物館の地域社会への役割を学ぶことができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　博物館と博物館学及び博物館経営論	博物館を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第２回　博物館における感染症対策	新型コロナ感染症対策を新聞等で学習し、配布資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第３回　博物館の設置と使命	設置と使命を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第４回　博物館経営の考え方	経営論的思考を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第５回　博物館の経営手法	経営手法を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第６回　博物館の運営方針	運営方針を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第７回　博物館の組織	組織を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第８回　博物館の予算	中長期計画等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第９回　博物館の危機管理	危機管理を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第10回　博物館の展示活動	展示活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第11回　博物館の教育活動①― 一般的な活動―	博物館の一般的な教育活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第12回　博物館の教育活動②―2000年代教育観に基づく活動―	2000年代教育観に基づく活動を参考書で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第13回　博物館の広報活動	広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第14回　博物館の市民参画と地域社会との連携	地域との連携を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第15回　博物館の資料収集、調査研究活動	資料管理等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

■ 履修上の注意
欠席のないよう望む。

■ 成績評価方法・基準
・受講態度（２０％）（学ぼうとする意欲〔発言・質問・メモ〕等で総合的に判断します）とレポート（８０％）で評価します。

・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジュメを用いて、フィードバックします。

■ 教科書
なし。授業前にプリントを配付します。

■ 参考書
〔新時代の博物館学〕〔全国大学博物館学講座協議会西日本部会〕〔芙蓉書房出版〕〔2，090円〕

■ 備考
・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。
・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館資料論

(19904)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
博物館に関する科目
菊　地　逸　夫

■ 授業の概要
本科目は、学芸員資格取得における文部科学省令の定める博物館に関する科目「博物館資料論」である。
授業では、担当者が長年東北歴史博物館の学芸職員であった実務経験を踏まえて、文化財と博物館の関わりや博物館資料の意義と資料の活用方法について解説するもので、学芸員に必要な博物館資料に関する基礎知識(博物館資料の収集・整理・保存などに関する知識や技術、調査研究の意義や内容)について講座を通して理解・習得する。
また博物館資料の理解を深めるため、実物資料(浮世絵や絵画資料)から歴史を読み取る演習を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・博物館資料の基礎的な知識を身に着ける。	
・博物館資料の整理・保存・活用や文化財について理解できる。	
・博物館資料の基本的な取り扱いを理解できるようになる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　授業の概要説明	これまで見学した博物館の特徴を理解する
第２回　博物館資料とは	配布資料から資料の意義や種類を復習する
第３回　博物館資料の収集	資料収集の意義や目的についてまとめる
第４回　文化財と博物館	文化財と博物館の関係についてまとめる
第５回　文化財の種類と身近な文化財	県内の指定文化財について調べておく
第６回　埋蔵文化財について	県内の遺跡や貝塚・古墳について調べておく
第７回　博物館とコレクション資料	博物館とコレクション資料の関係をまとめる
第８回　博物館資料の管理	博物館資料の管理用法についてまとめる
第９回　資料の公開・展示	資料の展示や公開の意義についてまとめる
第10回　博物館資料の保存と修復について	資料の保存・修復についてまとめる
第11回　博物館におけるレプリカについて	レプリカの意義についてまとめる
第12回　博物館資料の取り扱いや資料の輸送	博物館資料の取り扱いについてまとめる
第13回　鏡の資料化(拓本と資料カードの作成)	拓本から資料カードを作成する(レポート)
第14回　美術資料の見方①(絵巻や絵画から歴史を読む)	資料から読み取れる内容をまとめる(レポート)
第15回　美術資料の見方②(浮世絵から歴史を読む) まとめの筆記試験を実施	資料から読み取れる内容をまとめる(レポート) 筆記試験を実施

■ 履修上の注意
授業では毎時間資料を配布し、パワーポイントにより解説を加える。
各自資料保存用のファイルを準備する事。

■ 成績評価方法・基準
筆記試験(60%)と平常点・受講態度(授業への参加状況？10%、ミニットペーパー？10%、課題レポート？20%)などから判断します。

■ 教科書
授業の際に資料を配布する。

■ 参考書
授業の際に資料を配布する。

■ 備考
質問等は授業終了時（オフィスアワー）で受け付ける。

博物館資料保存論

(19905)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
博物館に関する科目
及　川　　規

■ 授業の概要
文化財は貴重な“国民的財産”であり，それを後世に伝えることは，博物館の重要な責務である。本授業では，文化財が現在に守り伝えられてきた歴史を振り返りながら，博物館資料を将来にわたって保存し，活用できるようにするための，温度・湿度，光，空気，生物などの保存環境管理や考古資料をはじめとする博物館資料の保存処理の方法についての基礎的知識・技術を学修する。
それらについて，担当者が長年歴史博物館で当該業務に従事した経験を生かして，実際の資料保存活動を例示しながら，現状の課題や問題点も含めて解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
・①博物館における資料保存について基礎的知識を獲得できる。 ・②資料の保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉えることができる。 ・③またそれらに基づいて，実際に資料を良好な状態で保存していけるなどの基礎的なスキルを身につける。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　博物館における資料保存の意義	後:意義について自分で考えをまとめる
第２回　資料保存の歴史・体系	前:文化財保護法の概要を調べる
第３回　資料劣化の要因と対策1ａ （温・湿度:基礎・影響・測定）	後:温度湿度の基本と測定法を復習する
第４回　資料劣化の要因と対策1ｂ（温・湿度:管理と制御）	後:温湿度の管理・制御法を復習する
第５回　資料劣化の要因と対策2（光）	後:光の影響とその管理について復習する
第６回　資料劣化の要因と対策3ａ （生物:生物被害の概要と調査）	後:加害生物例と調査法について復習する
第７回　資料劣化の要因と対策3ｂ（生物:生物被害の対策）	後:IPMと生物被害の対処法について復習する
第８回　資料劣化の要因と対策4ａ（空気質:影響と調査）	後:汚染因子の種類と影響について復習する
第９回　資料劣化の要因と対策４ｂ（空気質:管理と対策）	後:空気汚染の対策について復習する
第10回　資料の輸送	後:輸送における影響とその対策を復習する
第11回　資料の防災	後:災害･防犯対策について復習する
第12回　資料の科学的調査	後:科学的調査の特性･方法について復習する
第13回　資料の保存処理	後:出土遺産の保存処理法について復習する
第14回　資料保存の総合演習	前:これまでの学修事項を項目ごとに整理しておく
第15回　本講義のまとめと博物館資料保存における最近の話題	後:資料の保存と活用について各自の考えをまとめる

■ 履修上の注意
要点をまとめた資料を配布するが，ポイントだけでなく，疑問に思ったこと，さらに詳しく知りたいこと，自分のアイディア等をメモするなど，より主体的な取り組みに努めること。

■ 成績評価方法・基準
授業期間中に実施する課題[テスト･レポート](60%)，取組み状況[学習意欲，質問，ミニットペーパー等](40%)等から読み取れる授業目標の達成度について総合的に評価する(課題については観点ごとの配点を授業時に明示する)。ミニットペーパーについては授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書
使用しない。講義前にプリントを配布する。

■ 参考書
［博物館資料保存論］［石﨑武志］［講談社］［2，200円］

■ 備考

・配布された資料はファイルして以降の授業にも携帯すること。
・都合により，授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については授業前あるいは終了時に受け付けます。

博物館展示論

(19906)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
博物館に関する科目
笠　原　信　男

■ 授業の概要
展示は博物館が行う事業の中で中核に位置づけられ、博物館の社会的な評価にも多大な影響を与える。そのため、展示には多面的な知識や多角的な技術が求められる。博物館展示論では、制作者の観点でアプローチするのに必要な視点に留意しながら、展示の企画・運営に必要な事項を教員の博物館勤務経験に基づいて各講義で説明する。大きくは、展示の理論、展示の技術、展示の装置の３つに分けて進め、展示の役割・歴史等、展示の企画の立て方、展示の道具等の概要を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・展示を通して博物館の基本的な考え方・知識を学ぶことができる。 ・展示を通して博物館を多角的に観覧する姿勢を身に付けることができる。 ・展示を通して社会教育施設としての博物館の役割を学ぶことができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　展示の理論１ー博物館における展示の役割	展示の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第２回　展示の理論２ー展示の歴史	展示の歴史を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第３回　展示の理論３ー展示の諸類型、視点と運用	展示の諸類型等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第４回　展示の理論４ー生涯学習・学校教育と展示	生涯学習・学校教育と展示を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第５回　展示の理論５ーユニバーサルミュージアムと展示	ユニバーサルミュージアムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第６回　展示の理論６ー展示の評価	展示の評価を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第７回　展示の技術１ー展示技術総論(東北生活文化大学顕彰館の展示技術)	展示施設の実際を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第８回　展示の技術２ー展示のプロセス(企画から撤収)	展示のプロセスを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第９回　展示の技術３－動線計画	展示の動線計画を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第10回　展示の技術４－展示環境(リスクマネージメント等)	展示環境を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第11回　展示の技術５－照明	展示の照明を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第12回　展示の技術６ー解説システム	展示の解説システムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第13回　展示の技術７－展示グラフィック	展示のグラフィックを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第14回　展示の装置１－展示ケース	展示ケースを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第15回　展示の装置２ーレプリカとジオラマ	レプリカ等の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

■ 履修上の注意
欠席のないよう望む。

■ 成績評価方法・基準
・受講態度（２０％）（学ぼうとする意欲〔発言・質問・メモ〕等で総合的に判断します）とレポート（８０％）で評価しま

す。
・レポートは必ず提出してください。
・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジュメを用いて、フィードバックします。

■ 教科書
なし。授業前にプリントを配布します。

■ 参考書
［博物館展示論］［黒澤 浩］［講談社］［2，640円］

■ 備考
・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。
・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館情報・メディア論

(19907)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
博物館に関する科目
清　水　　有

■ 授業の概要
博物館における情報・メディアの活用は、コンピュータ等の進展に伴う情報技術革新により、その意義はますます重要となっている。博物館の生涯教育・学習に占める意義が、社会的に評価されるにつれ、博物館には教育施設として、また情報を発信する基地としての役割が期待されている。一方学芸員には、情報やメディアに関する専門的な知識のみならず、それに関わる基礎的な能力を身につけることが必要といえる。本科目では、博物館学芸員としての経験を基礎とし、情報・メディアの意義と活用方法、その目的について学習する。□

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・博物館における情報・メディアの意義と目的について深く理解し論じること。 ・現在の博物館・美術館を実践的に体験理解し、研究を行う素地を作ること。 ・メディアを通じてその使用方法を正しく理解し正確で道徳的な利用ができること。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　イントロダクション１ 美術館・博物館とは何か。	自身の興味のある美術館・博物館について、様々な角度からリサーチをおこなっておく
第２回　イントロダクション２　現代の多様な館（せんだいメディアテークの場合）	当該の館の意義についてリサーチをおこなっておく
第３回　メディア概論（正しい情報発信等）	普段の生活の中から、情報やメディアがどのように活用されているかを観察し、情報メディアとは何かを考える
第４回　メディア論史（マーシャル・マクルーハンとそれ以降のメディア論）	事後は自身の興味のあるメディア論についてのリサーチをする
第５回　メディアの諸相　新聞/雑誌	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第６回　メディアの諸相　インターネット/テレビ・ラジオ	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第７回　メディアの諸相　写真/映画	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第８回　メディアの確認考査と振返り（用語）	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第９回　博物館概論	事後は自身の興味のある美術館・博物館についてリサーチをする
第10回　博物館の歴史　（第４世代型ミュージアムについて）	事後は自身の興味のある時代に建設された美術館・博物館についてリサーチをする
第11回　国内の博物館の現状１　展示とメディア　広報計画	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第12回　国内の博物館の現状２　展示とメディア　動員計画	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第13回　国内の博物館の現状３　展示とメディア　教育普及	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第14回　国内の博物館の現状４　展示とメディア　アーカイブ	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第15回　博物館情報・メディア論全体の確認考査	振返りの中から、理解を深める為に、よく復習を行う

■ 履修上の注意
各自、博物館や美術館での見学とレポート提出が必要です。

■ 成績評価方法・基準
学習意欲を含む授業態度40%、課題レポート30%、論文テスト30%

■ 教科書
講義の中でそのつど資料を配布します。

■ 参考書
講義の中でそのつど資料を配布します。

■ 備考
質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館教育論

(19908)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年・美表１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
博物館に関する科目
阿　部　陽　子

■ 授業の概要
今日の美術館・博物館に求められている新たな社会的役割を様々な事例をもとに検証し、そのために博物館教育をどのように実践するか、これからの美術館・博物館はどうあるべきかについて考察する。博物館教育の意義と機能を学び、その場、その施設、その地域のニーズに配慮しながら実践するための知識を身につける。展覧会開催を想定し、その展覧会の内容に即したワークショップを考えるグループワークを行うことにより、教育活動の意図を理解し組み立て、実施する力を身につける。（美術系学芸員が担当）

■ 授業の到達目標　　学習成果との関連
①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・1. 学芸員に必要な博物館教育の基礎的知識を習得する。
・2. 博物館教育の多様な課題を知り、その解決方策を検討する思考を身に
　　つける。
・3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：講義の進め方・博物館教育の概要	この講義で学びたいことをまとめておく
第２回　博物館教育の歴史	博物館教育の歴史を調べる
第３回　博物館教育の諸形態①（展示を中心とした教育プログラム）	展示関連の教育プログラムを調べる
第４回　博物館教育の諸形態②（展示以外の教育プログラム）	展示以外の教育プログラムを調べる
第５回　博物館教育を担う学芸員の役割と活動	博物館教育への学芸員の関わり方について調べる
第６回　博物館教育と学校教育	博物館と学校との連携事例を調べる
第７回　鑑賞ガイドとワークシート	鑑賞ガイドやワークシートの活用例を調べる
第８回　地域とミュージアム	地域にあるミュージアムを調べる
第９回　ミュージアムとコミュニティ（地域性と共同性）	ミュージアムに関連するコミュニティを調べる
第10回　社会教育施設としてのミュージアム（ボランティア・市民学芸員）	ミュージアムボランティアについて調べる
第11回　鑑賞教育とファシリテーター①（対話型鑑賞）	対話型鑑賞について調べる
第12回　鑑賞教育とファシリテーター②（対話以外の鑑賞）	ファシリテーターの役割について調べる
第13回　ワークショップの企画・立案（グループワーク）	ワークショップの事例について調べる
第14回　ワークショップの企画・立案の発表（グループワーク）	ワークショップの組み立て方について調べる
第15回　講義のまとめ　博物館教育の課題とこれから	この講義で学んだことをまとめておく

■ 履修上の注意
積極的に様々な美術館・博物館の教育プログラムに参加すること。
自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。
博物館教育に関するグループワークを実施する。

■ 成績評価方法・基準
事前事後学修を含む受講態度(50%)、レポート提出(50%)で総合的に評価する。
毎回、授業の振り返りと感想を提出してもらう。

■ 教科書
必要に応じて講義中に資料を配布する。

■ 参考書
必要に応じて講義中に提示する。

■ 備考
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時間内に受付ける。

博物館実習Ⅰ

(19909)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (30 + 15)
対象学科：服専３年・美表３年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
博物館に関する科目
菊　地　逸　夫

■ 授業の概要
担当者が、長年東北歴史博物館で学芸業務に従事した経験をもとに、学芸員として必要な幅広い知識と基礎的な技術を身に着けさせる。
具体的には、「資料の取り扱いに対する心構えや基本的な取り扱い方法(梱包や修復も含む)を身に着けるための講義や実習」「展示のできるまでを学び、模擬的な展示を企画する学習」「博物館で行われている教育普及活動(教育プログラム)を実践や講義を通して学び、自らプログラムを企画する学習」の以上３点で、これらの一連の学習を通して学芸員としての基本的知識・技術を習得する。

■ 授業の到達目標　学習成果との関連
①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・資料の取り扱いの基礎的な技術を身に着ける。
・模擬的な展示を企画する力を身に着ける。
・博物館での教育普及活動(教育プログラム)を企画できるようになる。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　授業の概要説明	
第２回　博物館資料の取り扱いについて(考古資料の梱包)	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第３回　災害から展示物を守る(地震への対応)	県内の地震災害の歴史を調べておく
第４回　刀剣の見方と取り扱い(手入れ方法)	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第５回　資料の撮影について(資料写真の撮り方)	カメラの基本的な取り扱いを予習する
第６回　特別展について(特別展の紹介)	配布資料で特別展示ができるまでを復習する
第７回　シナリオ作成、資料選択の方法、展示プランについて	自分が関心のある展示を考えておく(事後)
第８回　展示のプラン作成、企画書作成	展示のシナリオをまとめておく(事後)
第９回　博物館の教育普及活動の紹介	博物館の教育普及活動について調べておく
第10回　教育プログラム実践① 「土器作り」という活動の概説(意味・目標) 縄文土器についての概説	博物館の教育普及活動にはどのようなものがあるか調べておく。 縄文土器とは何か調べておく。
第11回　教育プログラム実践② 縄文土器の製作	実践した内容をまとめる(レポート)
第12回　博物館の教育普及活動の計画(企画書作成)	活動プログラムを企画(企画書)
第13回　レプリカの製作 アンモナイトの型取りと石膏模型の製作	レプリカの活用の意義について調べておく 石膏模型への彩色を行う
第14回　文化財の修復(考古資料の復元) 土器、陶磁器の復元	授業後修復資料を完成させる。
第15回　文化財の修復(破損紙資料の修復)	古文書などの修復方法について調べておく

■ 履修上の注意
授業では講義と実技を行うが、実技後のレポート及び企画書の提出は必須。
受業で実物資料を扱う事もあるので、作業に適した服装で臨むこと。

■ 成績評価方法・基準
平常点・受講態度(ミニットペーパーなど50%)、レポート(展示・教育普及活動の企画書)50%

■ 教科書
授業の際に資料を配布する。

■ 参考書
授業の際に資料を配布する。

■ 備考
資料の手配等の都合により、授業順は変更する場合がある。
質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館実習Ⅱ（見学実習を含む。）

(19910)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専３年・美表３年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
博物館に関する科目
落　合　里　麻

■ 授業の概要

本授業では学内実習と見学実習を行う。学内実習では、学芸員課程で学んだ理論や知識を踏まえ、作品・資料を扱う際に必要となる知識や技術を実習形式で修得させる。博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、資料の扱い、展示などの基本事項を教授した上で、一人一人に実践させる。見学実習では、博物館の展示室とバックヤードの見学を行い、利用者と学芸員（企画、管理する側）の双方の立場から博物館の活動を理解させる。現職の学芸員の話を聞き、博物館の現状と問題点について考察させる。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、4年次の館園実習に関する説明	学生便覧の学芸員資格の頁をよく読んでおく
第２回　顕彰館と短大資料室の見学、額装の吊り方	希望する実習先について調べる 額装の展示位置の計算方法について復習する
第３回　額装の扱いと吊り方（グループワーク）	展示方法と手順について復習する
第４回　古美術品と箱の扱い①、紐の掛け方・結び方	紐の掛け方を復習し、習得する
第５回　古美術品と箱の扱い②（陶磁器、漆器、金工品）	素材ごとの扱いの基本を復習する
第６回　古美術品と箱の扱い③（茶道具、仕覆、御物袋） 着物の扱い	袋の扱い、緒の結び方、着物の畳み方を復習する
第７回　装こう①（表具の種類、歴史、掛軸の構造）	掛軸の構造、各部の名称について復習する
第８回　装こう②（掛軸の扱い、掛け方、しまい方）	掛軸の扱い、掛け方、しまい方について復習する
第９回　作品・資料の調査と整理①（調査、法量）（グループワーク） 日本画の基礎知識	調査時の心得について復習する
第10回　作品・資料の調査と整理②（撮影、画像処理、調査）	作品・資料カードに記載する内容をまとめる
第11回　作品・資料の調査と整理③（データ入力）	作品・資料カードに記載する内容をまとめる
第12回　作品・資料の調査と整理④（作品・資料カード完成）	作品・資料カードを完成させる
第13回　掛軸の箱を制作する①（説明、掛軸の採寸、計算）	制作手順について復習する
第14回　掛軸の箱を制作する②（切り取り、組み立て）	箱の正面の穴位置や寸法を確認する
第15回　掛軸の箱を制作する②（仕上げ）	箱に番号と写真を貼って完成させる
第16回　掛軸を箱に入れて顕彰館に収蔵し、16回の授業のまとめを行う	16回の授業を振り返り、館園実習に活かす

■ 履修上の注意

県外の博物館・美術館等で見学実習を実施する。日時については授業内で指示する。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、見学実習レポート（30%）、実習内容の修得（30%）で評価する。

■ 教科書

特に定めない。各単元でプリントを配布する。

■ 参考書

〔博物館資料取扱いガイドブック〕〔日本博物館協会〕〔ぎょうせい〕〔2，750円＋税〕
〔日本画用語事典〕〔東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室〕〔東京美術〕〔3，500円＋税〕
〔ＭＡＵ（武蔵野美術大学）造形ファイル〕http://zokeifile.musabi.ac.jp/

■ 備考

授業計画の順番を変更する場合がある。質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

博物館実習Ⅲ（館園実習）（事前・事後指導を含む。）

(19911)

単位：１
対象学科：服専４年・美表４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
博物館に関する科目
落　合　里　麻　　水　谷　　浩

■ 授業の概要

本授業では、学芸員資格の取得を目指し、学外の博物館園での実務体験を行う。実習期間は5日間以上とする。実習先の博物館・美術館・資料館等では、学芸員から指導を受け、館の活動内容、学芸員の職務内容を理解する。実習前と実習後に事前・事後指導を行う。事前指導では、実習にあたっての心構え（学芸員の倫理、社会人としてのルール・マナー）、文章表現・レポート作成のきまり等について指導する。事後指導では、実習を体験しての反省・自己評価等をもとに、課題解決のための指導を行う。

■ 授業の到達目標	学習成果との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・博物館資料の収集、保管、展示、整理、調査研究、教育普及等の学芸員の業務と博物館運営の実態を理解する。 ・博物館園での実務体験によって、大学で学んだ博物館像を確認する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（館園実習の流れについての説明、「博物館実習日誌」に必要事項を記入）	実習を申し込む館の特徴や過去の実習内容、最近開催された展覧会について調べる。展覧会を観る。
第２回　事前指導（実習にあたっての心構え、準備物、レポート作成要領について）	実習に必要な物を揃える。

■ 履修上の注意

3年次までの博物館に関する科目（必修／11科目／18単位）を履修し、単位を修得していること。また、3年次の学内選考を通過した者のみ履修可能である。
実習費を期限内に支払う必要がある。
実習先は基本的に自分で探すこと。
館によって実習日程及びカリキュラムが組まれる。実習先の候補を決める際に実習内容をよく調べること。
学芸員の仕事は対人関係が多く、信頼性やコミュニケーション能力が求められる。知識・技術の習得のみならず、優れた識見と人格を有する全人的な向上に努める必要がある。
実習先によって実習内容が異なるため、事後指導は個別に実施する。

■ 成績評価方法・基準

「博物館実習日誌」への記載内容、実習館による評価：50％
館園実習レポート：50％

■ 教科書

特に定めない。実習先で配布される資料等を使用する。

■ 参考書

特に定めない。実習先で配布される資料等を使用する。

■ 備考

事前指導の取り組み状況によっては実習を取りやめる場合がある。
質問等はオフィスアワーに受け付ける。